

高松東道路建設に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告 第9冊

# 鴨部・川田遺跡Ⅱ

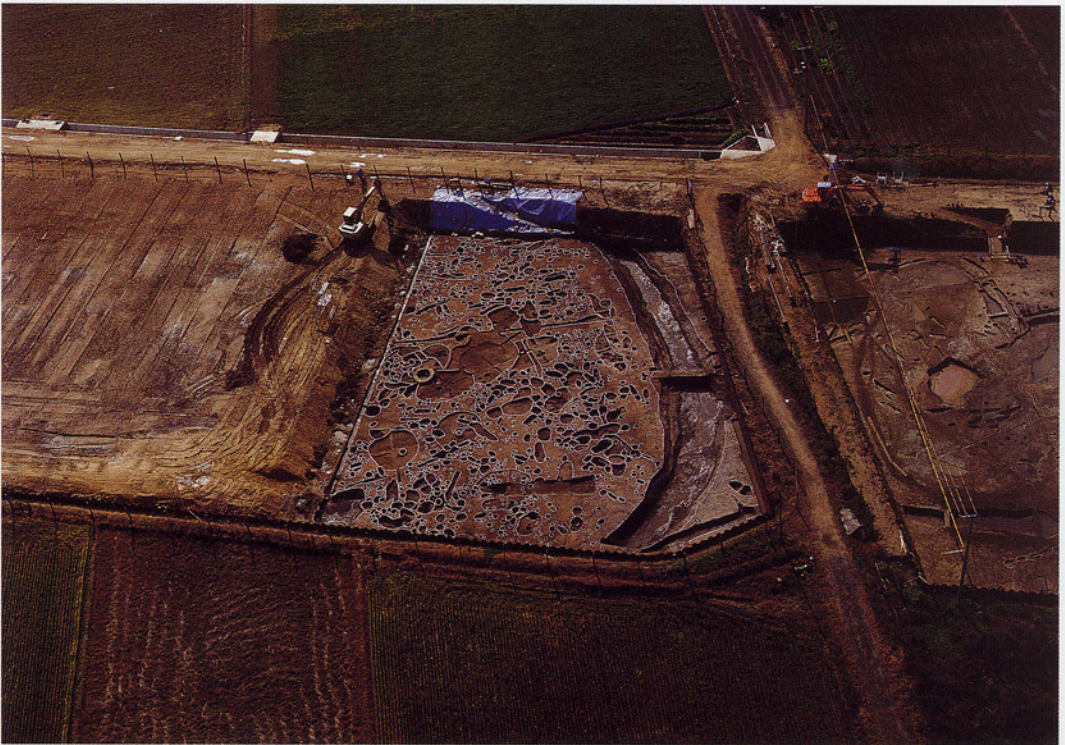
第1分冊

2000.10

香川県教育委員会  
(財)香川県埋蔵文化財調査センター  
建設省四国地方建設局



鴨部・川田遺跡全景 西から



鴨部・川田遺跡2区 北から





鴨部・川田遺跡 3区 北から



鴨部・川田遺跡出土土器

## 序 文

香川県教育委員会では、四国横断自動車道や高松東道路の建設、高松空港跡地の整備など、大規模開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査と出土文化財の整理研究・報告書刊行の業務を、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターに委託して実施いたしております。

このたび、「高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第9冊 鴨部・川田遺跡Ⅱ」として刊行いたしますのは、平成3年度に調査を実施しました大川郡志度町の鴨部・川田遺跡についてであります。

この遺跡の調査では、弥生時代から平安時代にかけての多くの遺構・遺物が出土いたしております。なかでも、大規模な環濠が取り囲む弥生時代前期の集落跡が確認でき、また日常生活に欠くことができない土器や木製品などが大量に出土したことにより、当時の生活・文化を解明することができました。

本報告書が本県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土文化財の整理・報告にいたるまでの間、建設省四国地方建設局及び関係諸機関並びに地元関係各位には多大の御協力と御指導をいただきました。ここに深く感謝の意を表しますとともに、今後ともよろしく御支援賜りますようお願い申し上げます。

平成12年10月

香川県教育委員会  
教育長 折原 守



# 例 言

1. 本報告書は、高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第9冊であり、香川県大川郡志度町鴨部に所在する鴨部・川田遺跡（かべ・かわたいせき）の報告のうち、平成3年度の発掘調査で検出された遺構・土器・木製品について収録した。
2. 発掘調査は、香川県教育委員会が建設省四国地方建設局から委託され、香川県教育委員会が調査主体、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として実施した。
3. 発掘調査は、試掘調査を香川県教育委員会文化行政課が平成元年10月23日から10月26日と平成2年7月3日から7月5日に実施し、本調査を平成3年4月18日から平成4年1月20日まで財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが実施した。発掘調査の担当は、以下のとおりである。

試掘調査 香川県教育委員会文化行政課 岩橋 孝・北山健一郎

本 調 査 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

平成2年度 森 格也・古野美穂子・多田政弘

平成3年度 大久保徹也・土佐修治・満岡博隆

4. 報告書の作成は、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが実施した。第2章第3節の執筆は大久保徹也が担当し、第1章・第2章第1・2節の執筆及び編集は森下友子が担当した。
5. 報告書の作成にあたっては、下記の方々のご教示を得た。記して謝意を表したい。(順不同、敬称略)

清水芳裕・富岡直人・金関 恕・渡辺昌宏・宮崎泰史・森井貞雄・奥田 尚

6. 本報告書で用いる方位の北は、国土座標系第4系の北であり、標高はT.P.を基準としている。

また、遺構は下記の略号により表示している。

S B 掘立柱建物      S D 溝              S E 井戸      S H 竪穴住居      S K 土坑  
S P 柱穴              S R 自然河川      S X 落ち込み・不明遺構

7. 本遺跡の報告にあたっては、下記の方々に鑑定、分析を依頼し、また玉稿をいただいた。(敬称略)

第3章第1節 岡山理科大学講師 富岡直人 岡山理科大学大学院理学研究科大学院  
生 沖田絵麻

第3章第2・3・4節 パリノ・サーヴェイ株式会社

第3章第5節 京都大学大学院文学研究科助教授 清水芳裕

8. 挿図の一部に国土地理院地形図「高松南部」(1:50,000)を使用した。



# 第1分冊 本文目次

卷頭図版

序 文

例 言

## 第1章 調査の経緯

第1節 調査の経緯..... 1

第2節 整理作業及び報告書作成作業..... 4

## 第2章 調査の成果

第1節 調査の方法と各調査区の概要..... 7

第2節 遺構・土器・土製品..... 12

第3節 木製品..... 373

## 插图目次

第 1 图 遺跡位置图 …………… 2	第 27 图 S P 1063～S P 1075 出土土器 (1/4) …… 37
第 2 图 高松東道路 (三木～津田) 路線图・ 埋藏文化財包藏地 (1/100,000) …… 3	第 28 图 S P 1074～S P 1091 出土土器 (1/4) …… 39
第 3 图 調査区割图 (1/2,000) …………… 7	第 29 图 S P 1093～S P 1104 出土土器 (1/4) …… 41
第 4 图 土層堆積图 (左右 1/200, 天地 1/40), 遺構配置图 (1/1,000) …………… 9・10	第 30 图 S P 1105～S P 1120 出土土器 (1/4) …… 43
第 5 图 S B 1001 平・断面图 (1/80) …………… 12	第 31 图 S P 1124～S P 1134 出土土器 (1/4) …… 46
第 6 图 S B 1002 平面图 (1/100), 断面图 (1/40) …… 13・14	第 32 图 S P 1135～S P 1149 出土土器 (1/4) …… 47
第 7 图 S D 1001 出土土器 (1/4) …………… 16	第 33 图 S P 1150～S P 1162 出土土器 (1/4) …… 50
第 8 图 S D 1002 出土土器 (1/4) …………… 16	第 34 图 S K 1001 平・断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) …………… 51
第 9 图 S D 1003 出土土器 (1/4) …………… 16	第 35 图 S K 1002 平・断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) …………… 51
第 10 图 S D 1004 出土土器 (1/4) …………… 16	第 36 图 S K 1003 平・断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) …………… 53
第 11 图 S D 1005 出土土器 (1/4) …………… 17	第 37 图 S K 1004 平・断面图 (1/50) …………… 53
第 12 图 S D 1006 出土土器 (1/4) …………… 17	第 38 图 S K 1005 平・断面图 (1/50) …………… 53
第 13 图 S D 1007 出土土器 (1/4) …………… 17	第 39 图 S K 1005 出土土器 (1/4) …………… 53
第 14 图 S B 1002 平・断面图 (1/80), 出土土器 (1/4) …………… 18	第 40 图 S K 1006 平・断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) …………… 54
第 15 图 S B 1003 平面图 (1/100), 断面图 (1/40) …… 19・20	第 41 图 S K 1007 平・断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) …………… 54
第 16 图 S D 1009 西部出土土器 (1/4) …………… 21	第 42 图 S K 1008 平・断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) …………… 54
第 17 图 S D 1009 東部出土土器 1 (1/4) …………… 21	第 43 图 S K 1009 平・断面图 (1/50) …………… 54
第 18 图 S D 1009 東部出土土器 2 (1/4) …………… 22	第 44 图 S K 1010 平・断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) …………… 54
第 19 图 S B 1003 出土土器 (1/4) …………… 22	第 45 图 S K 1011 平・断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) …………… 55
第 20 图 S B 1003 平・断面图 (1/80) …………… 23	第 46 图 S K 1012 平・断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) …………… 55
第 21 图 S P 1002～S P 1009 出土土器 (1/4) …… 25	
第 22 图 S P 1010～S P 1021 出土土器 (1/4) …… 27	
第 23 图 S P 1023～S P 1035 出土土器 (1/4) …… 29	
第 24 图 S P 1036～S P 1043 出土土器 (1/4) …… 31	
第 25 图 S P 1045～S P 1057 出土土器 (1/4) …… 33	
第 26 图 S P 1058～S P 1062 出土土器 (1/4) …… 35	



第 47 图	S K 1013 平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	出土土器 (1/4) ……………	64
第 48 图	S K 1014 平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	出土土器 (1/4) ……………	56
第 49 图	S K 1015 · S K 1016 平 · 断面图 (1/50) ……		58
第 50 图	S K 1015 出土土器 (1/4) ……………		58
第 51 图	S K 1016 出土土器 (1/4) ……………		58
第 52 图	S K 1017 平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	出土土器 (1/4) ……………	58
第 53 图	S K 1018 平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	出土土器 (1/4) ……………	59
第 54 图	S K 1019 平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	出土土器 (1/4) ……………	60
第 55 图	S K 1020 平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	出土土器 (1/4) ……………	60
第 56 图	S K 1021 平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4, 1/2) ……………	出土土器 (1/4, 1/2) ……………	61
第 57 图	S K 1022 平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	出土土器 (1/4) ……………	63
第 58 图	S K 1023 平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	出土土器 (1/4) ……………	63
第 59 图	S K 1024 平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	出土土器 (1/4) ……………	63
第 60 图	S K 1025 平 · 断面图 (1/50) ……………		63
第 61 图	S K 1026 平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	出土土器 (1/4) ……………	64
第 62 图	S K 1027 平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	出土土器 (1/4) ……………	64
第 63 图	S K 1028 平 · 断面图 (1/50),		
第 64 图	S K 1029 平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	出土土器 (1/4) ……………	66
第 65 图	S K 1030 平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	出土土器 (1/4) ……………	66
第 66 图	S K 1031 平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	出土土器 (1/4) ……………	66
第 67 图	S K 1032 平 · 断面图 (1/50) ……………		66
第 68 图	S K 1033 平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	出土土器 (1/4) ……………	67
第 69 图	S K 1034 平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	出土土器 (1/4) ……………	67
第 70 图	S K 1035 · S K 1036 平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	出土土器 (1/4) ……………	68
第 71 图	S K 1037 平 · 断面图 (1/50) ……………		71
第 72 图	S K 1037 出土土器 (1/4) ……………		71
第 73 图	S K 1038 平 · 断面图 (1/50) ……………		71
第 74 图	S K 1039 · S K 1040 平 · 断面图 (1/50) ……		72
第 75 图	S K 1039 出土土器 (1/4) ……………		72
第 76 图	S K 1040 出土土器 1 (1/4) ……………		72
第 77 图	S K 1040 出土土器 2 (1/4) ……………		73
第 78 图	S K 1041 · S K 1042 平 · 断面图 (1/50), 出土土器 1 (1/4) ……………	出土土器 1 (1/4) ……………	74
第 79 图	S K 1041 · S K 1042 出土土器 2 (1/4) ……		75
第 80 图	S K 1042 出土土器 (1/4) ……………		75
第 81 图	S K 1043 平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	出土土器 (1/4) ……………	75
第 82 图	S K 1044 平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	出土土器 (1/4) ……………	76

第 83 图	S K1045平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) .....	76	第 98 图	S K1060平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) .....	86
第 84 图	S K1046平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) .....	76	第 99 图	S K1061平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) .....	88
第 85 图	S K1047平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) .....	77	第100 图	S K1062平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) .....	88
第 86 图	S K1048平 · 断面图 (1/20), 出土土器 1 (1/4) .....	78	第101 图	S K1063平 · 断面图 (1/50) .....	88
第 87 图	S K1048出土土器 2 (1/4) .....	79	第102 图	S K1064平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) .....	90
第 88 图	S K1049平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) .....	80	第103 图	S K1065平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) .....	90
第 89 图	S K1050平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) .....	80	第104 图	S K1066平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) .....	90
第 90 图	S K1051平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) .....	80	第105 图	S K1067平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) .....	90
第 91 图	S K1052平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) .....	81	第106 图	S K1068平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) .....	91
第 92 图	S K1053 · S K1054 · S K1055平 · 断面图(1/50), 出土土器 1 (1/4) ...	82	第107 图	S K1069平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) .....	91
第 93 图	S K1053 · S K1054 · S K1055出土土器 2 (1/4) .....	83	第108 图	S K1070平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) .....	91
第 94 图	S K1056平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) .....	84	第109 图	S K1071平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) .....	93
第 95 图	S K1057平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) .....	84	第110 图	S K1072平 · 断面图 (1/50) .....	93
第 96 图	S K1058平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) .....	84	第111 图	S K1073平 · 断面图 (1/50) .....	93
第 97 图	S K1059平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) .....	85	第112 图	S K1074平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) .....	93
			第113 图	S K1075平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) .....	93



第114图	S K1076平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	95	第129图	S K1091平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	103
第115图	S K1077平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	96	第130图	S K1092平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	103
第116图	S K1078平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	98	第131图	S K1093平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	104
第117图	S K1079平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	98	第132图	S K1094平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	104
第118图	S K1080平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	98	第133图	S K1095平·断面图 (1/50) ……………	106
第119图	S K1081平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	98	第134图	S K1096平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	106
第120图	S K1082平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	99	第135图	S K1097·S K1098平·断面图(1/50) ……	106
第121图	S K1083平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	100	第136图	S K1097出土土器 (1/4) ……………	106
第122图	S K1084平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	100	第137图	S K1099平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	106
第123图	S K1085平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	100	第138图	S K1100平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	108
第124图	S K1086平·断面图 (1/50) ……………	101	第139图	S K1101平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	108
第125图	S K1087平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	102	第140图	S K1102平·断面图 (1/50) ……………	108
第126图	S K1088平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	102	第141图	S K1103平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	108
第127图	S K1089平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	102	第142图	S K1104平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	109
第128图	S K1090平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	103	第143图	S K1105平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	109
			第144图	S K1106平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	109
			第145图	S K1107平·断面图 (1/50),	

	出土土器 (1/4) ……………	110	第160图	S K 1122平・断面图 (1/50) ……………	119
第146图	S K 1108平・断面图 (1/50),		第161图	S K 1123・S K 1124平・断面图(1/50) ……	119
	出土土器 (1/4) ……………	110	第162图	S K 1123出土土器 (1/4) ……………	119
第147图	S K 1109平・断面图 (1/50),		第163图	S K 1124出土土器 (1/4) ……………	119
	出土土器 (1/4) ……………	110	第164图	S K 1125平・断面图 (1/50),	
第148图	S K 1110平・断面图 (1/50),			出土土器 (1/4) ……………	119
	出土土器 (1/4) ……………	111	第165图	S K 1126平・断面图 (1/50),	
第149图	S K 1111平・断面图 (1/50),			出土土器 (1/4) ……………	120
	出土土器 (1/4) ……………	112	第166图	S K 1127平・断面图 (1/50) ……………	120
第150图	S K 1112平・断面图 (1/50),		第167图	S K 1128平・断面图 (1/50),	
	出土土器 (1/4) ……………	112		出土土器 (1/4) ……………	121
第151图	S K 1113平・断面图 (1/50),		第168图	S K 1129平・断面图 (1/50),	
	出土土器 (1/4) ……………	114		出土土器 (1/4) ……………	123
第152图	S K 1114平・断面图 (1/50),		第169图	S K 1130平・断面图 (1/50),	
	出土土器 (1/4) ……………	115		出土土器 (1/4) ……………	123
第153图	S K 1115平・断面图 (1/50),		第170图	S K 1131平・断面图 (1/50),	
	出土土器 (1/4) ……………	116		出土土器 (1/4) ……………	123
第154图	S K 1116平・断面图 (1/50),		第171图	S K 1132平・断面图 (1/50),	
	出土土器 (1/4) ……………	116		出土土器 (1/4) ……………	123
第155图	S K 1117平・断面图 (1/50),		第172图	S K 1133平・断面图 (1/50),	
	出土土器 (1/4) ……………	116		出土土器 (1/4) ……………	124
第156图	S K 1118平・断面图 (1/50),		第173图	S K 1134平・断面图 (1/50),	
	出土土器 (1/4) ……………	117		出土土器 (1/4) ……………	124
第157图	S K 1119平・断面图 (1/50),		第174图	S K 1135平・断面图 (1/50),	
	出土土器 (1/4) ……………	117		出土土器 (1/4) ……………	124
第158图	S K 1120平・断面图 (1/50),		第175图	S K 1136平・断面图 (1/50),	
	出土土器 (1/4) ……………	117		出土土器 (1/4) ……………	124
第159图	S K 1121平・断面图 (1/50),		第176图	S K 1137平・断面图 (1/50),	
	出土土器 (1/4) ……………	118		出土土器 (1/4) ……………	125

第177图	S K1138平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	125	出土土器 (1/4) ……………	131	
第178图	S K1139平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	125	出土土器 (1/4) ……………	131	
第179图	S K1140平·断面图 (1/50) ……………	125	出土土器 (1/4) ……………	133	
第180图	S K1140出土土器 (1/4) ……………	125	第196图	S K1156平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	133
第181图	S K1141平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	127	第197图	S K1157平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	134
第182图	S K1142平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	128	第198图	S K1158平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	134
第183图	S K1143平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	128	第199图	S K1159平·断面图 (1/50) ……………	135
第184图	S K1144平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	128	第200图	S K1160平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	135
第185图	S K1145平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	130	第201图	S K1161平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	135
第186图	S K1146平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	130	第202图	S K1162平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	135
第187图	S K1147平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	130	第203图	S K1163平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	136
第188图	S K1148平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	130	第204图	S K1164平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	136
第189图	S K1149平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	131	第205图	S K1165平·断面图 (1/50) ……………	136
第190图	S K1150平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	131	第206图	S K1166平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	136
第191图	S K1151平·断面图 (1/50) ……………	131	第207图	S K1167平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	136
第192图	S K1152平·断面图 (1/50) ……………	131	第208图	S K1168平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	138
第193图	S K1153平·断面图 (1/50),				

第209图	S K1169平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	140	第226图	S K1184出土土器 (1/4) ……………	147
第210图	S K1170平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	140	第227图	S K1185出土土器 (1/4) ……………	147
第211图	S K1171平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	141	第228图	S K1186平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	149
第212图	S K1172平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	141	第229图	S K1187平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	149
第213图	S K1173平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	142	第230图	S K1188平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	149
第214图	S K1174平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	142	第231图	S K1189平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	149
第215图	S K1175平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	142	第232图	S K1190平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	151
第216图	S K1176平·断面图 (1/50) ……………	142	第233图	S K1191平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	151
第217图	S K1177平·断面图 (1/50) ……………	142	第234图	S K1192平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	151
第218图	S K1178平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	142	第235图	S K1193平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	151
第219图	S K1179平·断面图 (1/50) ……………	144	第236图	S K1194平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	153
第220图	S K1180平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	144	第237图	S K1195平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	153
第221图	S K1181平·断面图 (1/50), 出土土器 1 (1/4) ……………	145	第238图	S K1196平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	153
第222图	S K1181出土土器 2 (1/4) ……………	146	第239图	S K1197平·断面图 (1/20), 出土土器 1 (1/4) ……………	154
第223图	S K1182平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	146	第240图	S K1197出土土器 2 (1/4) ……………	155
第224图	S K1183·S K1184· S K1185平·断面图 (1/50) ……	147	第241图	S K1198平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	157
第225图	S K1183出土土器 (1/4) ……………	147			





	出土土器 (1/4) ……………	172	第288图	S K1245平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	179
第274图	S K1231平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	172	第289图	S K1246平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	180
第275图	S K1232平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	174	第290图	S K1247平·断面图 (1/50) ……………	181
第276图	S K1233平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	174	第291图	S K1248平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	181
第277图	S K1234平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	174	第292图	S K1249平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	182
第278图	S K1235平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	174	第293图	S K1250平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	183
第279图	S K1236平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	175	第294图	S K1251平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	185
第280图	S K1237平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	175	第295图	S K1252平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	185
第281图	S K1238平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	175	第296图	S K1253平·断面图 (1/50) ……………	186
第282图	S K1239平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	177	第297图	S K1254平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	186
第283图	S K1240平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	177	第298图	S K1255平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	186
第284图	S K1241平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	178	第299图	S K1256平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	188
第285图	S K1242平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	178	第300图	S K1257平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	188
第286图	S K1243平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	179	第301图	S K1259平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	188
第287图	S K1244平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	179	第302图	S K1258平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	189
			第303图	S K1260平·断面图 (1/50),	

	出土土器 (1/4) ……………	189	第319图	S K 1275平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	200
第304图	S K 1261平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	191	第320图	S K 1276平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	200
第305图	S K 1262平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	191	第321图	S K 1277平·断面图 (1/50) ……………	201
第306图	S K 1263平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	191	第322图	S K 1278平·断面图 (1/50) ……………	201
第307图	S K 1264平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	192	第323图	S K 1279平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	201
第308图	S K 1265平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	192	第324图	S K 1280平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	202
第309图	S K 1266平·断面图 (1/50), 出土土器 1 (1/4) ……………	193	第325图	S K 1281·S K 1282·S K 1283平· 断面图(1/50),出土土器(1/4) ……	203
第310图	S K 1266出土土器 2 (1/4) ……………	194	第326图	S K 1284平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	205
第311图	S K 1267平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	194	第327图	S K 1285平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	205
第312图	S K 1268平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	194	第328图	S K 1286平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	205
第313图	S K 1269平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	196	第329图	S K 1287平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	206
第314图	S K 1270平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	197	第330图	S K 1288平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	207
第315图	S K 1271平·断面图 (1/50) ……………	197	第331图	S K 1289平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4, 1/2) ……………	208
第316图	S K 1272平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	198	第332图	S K 1290平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	209
第317图	S K 1274平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	198	第333图	S K 1291平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	211
第318图	S K 1273平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	200	第334图	S K 1292平·断面图 (1/50),	

	出土土器 (1/4) ……………	211	第349图	S K1307平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	220
第335图	S K1293平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	212	第350图	S K1308平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	220
第336图	S K1294平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	213	第351图	S K1309平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	222
第337图	S K1295平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	214	第352图	S K1310平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	224
第338图	S K1296平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	214	第353图	S K1311平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	224
第339图	S K1297平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	216	第354图	S K1312平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	224
第340图	S K1298平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	216	第355图	S K1313平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	225
第341图	S K1299平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	216	第356图	S K1314平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	225
第342图	S K1300平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	218	第357图	S K1315平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	227
第343图	S K1301平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	218	第358图	S K1316·S K1317平·断面图 (1/50), S K1317出土土器 (1/4) ……………	227
第344图	S K1302平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	218	第359图	S K1318·S K1319·S K1320平· 断面图(1/50),出土土器(1/4) ……	228
第345图	S K1303平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	218	第360图	S K1321平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	228
第346图	S K1304平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	219	第361图	S K1322平·断面图 (1/50) ……………	229
第347图	S K1305平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	219	第362图	S K1323平·断面图 (1/50) ……………	229
第348图	S K1306平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	219	第363图	S K1323出土土器 (1/4) ……………	229
			第364图	S K1324平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4, 1/2) ……………	229

第365图	S K 1325平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	229	第381图	S K 1339平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	244
第366图	S K 1326平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	229	第382图	S K 1340平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	244
第367图	S K 1327平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	231	第383图	S K 1341平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	245
第368图	S K 1328平·断面图 (1/50) ……………	231	第384图	S K 1342平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	245
第369图	S K 1329平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	231	第385图	S D 1011断面图(1/40),出土土器(1/4) …	246
第370图	S K 1330平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	233	第386图	S D 1012断面图 (1/40) ……………	246
第371图	S K 1331平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	235	第387图	S D 1013断面图 (1/40) ……………	246
第372图	S K 1332平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	236	第388图	S D 1014断面图(1/40),出土土器(1/4) …	246
第373图	S K 1333平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	237	第389图	S D 1015断面图 (1/40), 出土土器 1 (1/4) ……………	248
第374图	S K 1334平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	237	第390图	S D 1015出土土器 2 (1/4) ……………	249
第375图	S K 1335平·断面图 (1/50), 出土土器 1 (1/4) ……………	238	第391图	S D 1015出土土器 3 (1/4) ……………	250
第376图	S K 1335出土土器 2 (1/4) ……………	239	第392图	S D 1015出土土器 4 (1/4) ……………	251
第377图	S K 1336平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	240	第393图	S D 1015出土土器 5 (1/4) ……………	252
第378图	S K 1337平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	241	第394图	S D 1015出土土器 6 (1/4) ……………	253
第379图	S K 1338平·断面图 (1/50), 出土土器 1 (1/4) ……………	242	第395图	S D 1016断面图(1/40),出土土器(1/4) …	254
第380图	S K 1338出土土器 2 (1/4) ……………	244	第396图	S D 1017断面图(1/40),出土土器(1/4) …	254
			第397图	S D 1018断面图(1/40),出土土器(1/4) …	254
			第398图	S D 1019断面图(1/40),出土土器(1/4) …	255
			第399图	S D 1020断面图(1/40),出土土器(1/4) …	255
			第400图	S D 1021断面图(1/40),出土土器(1/4) …	257
			第401图	S D 1022断面图(1/40),出土土器(1/4) …	257
			第402图	S D 1023断面图(1/40),出土土器(1/4) …	257
			第403图	S D 1024断面图 (1/40), 出土土器 1 (1/4) ……………	258

第404图	S D 1024出土土器 2 (1/4) ……………	259	第433图	S D 1053断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	271
第405图	S D 1025断面图 (1/40) ……………	259	第434图	S D 1054断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	272
第406图	S D 1026断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	260	第435图	S D 1055断面图 (1/40) ……………	272
第407图	S D 1027断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	260	第436图	S D 1056断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	272
第408图	S D 1028断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	261	第437图	S D 1057断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	272
第409图	S D 1029断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	261	第438图	S D 1058断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	273
第410图	S D 1030断面图 (1/40) ……………	262	第439图	S D 1059断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	273
第411图	S D 1031断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	262	第440图	S D 1060断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	273
第412图	S D 1032断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	262	第441图	S D 1061断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	275
第413图	S D 1033断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	262	第442图	S D 1062断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	275
第414图	S D 1034断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	262	第443图	S D 1063断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	276
第415图	S D 1035断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	262	第444图	S D 1064断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	276
第416图	S D 1036断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	264	第445图	S D 1065断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	276
第417图	S D 1037断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	264	第446图	S D 1066断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	276
第418图	S D 1038断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	264	第447图	S D 1067 · S D 01 ( 2 区部分) 断面图 (1/50) ……………	278
第419图	S D 1039断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	264	第448图	S D 01 ( 3 区部分) 断面图 (1/50) ……	279
第420图	S D 1040断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	265	第449图	S D 1067 · S D 01 ( 2 区部分) 遺物出土状况 (1/100) ……	281 · 282
第421图	S D 1041断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	265	第450图	S D 01 ( 3 区部分) 遺物出土状况 (1/100) ……………	283 · 284
第422图	S D 1042断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	265	第451图	S D 01 ( 3 区) 杭検出状况 (1/80) ……	285
第423图	S D 1043断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	265	第452图	S D 1067出土土器 1 (1/4) ……………	286
第424图	S D 1044 · S D 1045断面图 (1/40) ……	267	第453图	S D 1067出土土器 2 (1/6) ……………	287
第425图	S D 1044出土土器 (1/4) ……………	267	第454图	S D 1067出土土器 3 (1/4) ……………	288
第426图	S D 1046断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	267	第455图	S D 1067出土土器 4 (1/4) ……………	289
第427图	S D 1047断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	267	第456图	S D 1067出土土器 5 (1/4) ……………	290
第428图	S D 1048断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	269	第457图	S X 1001平 · 断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	293
第429图	S D 1049断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	269			
第430图	S D 1050断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	269			
第431图	S D 1051断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	269			
第432图	S D 1052断面图 (1/40), 出土土器 (1/4) …	271			



第458图	S X1002平·断面图 (1/50), 出土土器 1 (1/4) ……………	294	出土土器 (1/4) ……………	314	
第459图	S X1002出土土器 2 (1/4) ……………	295	出土土器 (1/4) ……………	315	
第460图	S X1003·S X1004平·断面图(1/50) ……	296	出土土器 (1/4) ……………	316	
第461图	S X1003出土土器 (1/4) ……………	296	S X1024平·断面图 (1/50), 出土土器 1 (1/4) ……………	317	
第462图	S X1004出土土器 (1/4) ……………	296	第483图	S X1024出土土器 2 (1/4) ……………	318
第463图	S X1004·S X1005·S X1006平· 断面图 (1/50) ……………	297·298	第484图	S X1025平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	318
第464图	S X1005出土土器 (1/4) ……………	299	第485图	S X1026平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	319
第465图	S X1006出土土器 (1/4) ……………	300	第486图	S X1027平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	320
第466图	S X1007平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	301	第487图	S X1028平·断面图 (1/50) ……………	321
第467图	S X1008平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	302	第488图	S X1028出土土器 (1/4) ……………	322
第468图	S X1009平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	304	第489图	S X1029平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	323
第469图	S X1010平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	305	第490图	S X1030平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	324
第470图	S X1011平·断面图 (1/50) ……………	306	第491图	S X1031·S X1032平·断面图 (1/50) ……	325
第471图	S X1012平·断面图 (1/50) ……………	307	第492图	S X1031出土土器 (1/4) ……………	325
第472图	S X1016平·断面图 (1/50) ……………	308	第493图	S X1032出土土器 (1/4) ……………	326
第473图	S X1013~S X1015·S X1019平· 断面图 (1/80) ……………	309·310	第494图	S X1033·S X1034平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4) ……………	327
第474图	S X1019出土土器 (1/4) ……………	311	第495图	S X1033出土土器 1 (1/4) ……………	327
第475图	S X1017·S X1018平·断面图(1/50) ……	312	第496图	S X1033出土土器 2 (1/4) ……………	328
第476图	S X1017出土土器 (1/4) ……………	312	第497图	S X1034出土土器 1 (1/4) ……………	328
第477图	S X1018出土土器 (1/4) ……………	312	第498图	S X1034出土土器 2 (1/4) ……………	329
第478图	S X1020平·断面图 (1/50) ……………	313			
第479图	S X1021平·断面图 (1/50),				

第543図	S E 1002平・断面図 (1/20) ……………	370	第570図	S D01出土木製品25 (1/6) ……………	424
第544図	S D1069断面図 (1/40), 出土土器 (1/4) ……………	371	第571図	S D01出土木製品26 (1/5) ……………	425
第545図	S D1070断面図 (1/40), 出土土器 (1/4) ……………	372	第572図	S D01出土木製品27 (1/8) ……………	426
第546図	S D01出土木製品 1 (1/3) ……………	400	第573図	S D01出土木製品28 (1/8) ……………	427
第547図	S D01出土木製品 2 (1/3) ……………	401	第574図	S D01出土木製品29 (1/3) ……………	428
第548図	S D01出土木製品 3 (1/3) ……………	402	第575図	S D01出土木製品30 (1/3) ……………	429
第549図	S D01出土木製品 4 (1/3) ……………	403	第576図	S D01出土木製品31 (1/3, 1/4) ………	430
第550図	S D01出土木製品 5 (1/3, 1/4) ………	404	第577図	S D01出土木製品32 (1/3) ……………	431
第551図	S D01出土木製品 6 (1/3, 1/4) ………	405	第578図	S D01出土木製品33 (1/3) ……………	432
第552図	S D01出土木製品 7 (1/3) ……………	406	第579図	S D01出土木製品34 (1/3) ……………	433
第553図	S D01出土木製品 8 (1/3) ……………	407	第580図	S D01出土木製品34 (1/3) ……………	434
第554図	S D01出土木製品 9 (1/3) ……………	408	第581図	S D01出土木製品36 (1/3) ……………	435
第555図	S D01出土木製品10 (1/3) ……………	409	第582図	S D01出土木製品37 (1/3) ……………	436
第556図	S D01出土木製品11 (1/3) ……………	410	第583図	S D01出土木製品38 (1/4) ……………	437
第557図	S D01出土木製品12 (1/3) ……………	411	第584図	S D01出土木製品39 (1/3) ……………	438
第558図	S D01出土木製品13 (1/3, 1/4) ………	412	第585図	S D01出土木製品40 (1/3) ……………	439
第559図	S D01出土木製品14 (1/6) ……………	413	第586図	S D01出土木製品41 (1/3) ……………	440
第560図	S D01出土木製品15 (1/6) ……………	414	第587図	S D01出土木製品42 (1/3, 1/4) ………	441
第561図	S D01出土木製品16 (1/6) ……………	415	第588図	S D01出土木製品43 (1/3) ……………	442
第562図	S D01出土木製品17 (1/4) ……………	416	第589図	S D01出土木製品44 (1/3) ……………	443
第563図	S D01出土木製品18 (1/4) ……………	417	第590図	S D01出土木製品45 (1/3) ……………	444
第564図	S D01出土木製品19 (1/3) ……………	418	第591図	S D01出土木製品46 (1/3, 1/4) ………	445
第565図	S D01出土木製品20 (1/3) ……………	419	第592図	S D01出土木製品47 (1/3) ……………	446
第566図	S D01出土木製品21 (1/3) ……………	420	第593図	S D01出土木製品48 (1/3) ……………	447
第567図	S D01出土木製品22 (1/3) ……………	421	第594図	S D01出土木製品49 (1/3) ……………	448
第568図	S D01出土木製品23 (1/3) ……………	422	第595図	S D01出土木製品50 (1/3) ……………	449
第569図	S D01出土木製品24 (1/3) ……………	423	第596図	S D01出土木製品51 (1/6) ……………	450
			第597図	S D01出土木製品52 (1/3) ……………	451
			第598図	S D01出土木製品53 (1/3) ……………	452

第599図	S D01出土木製品54 (1/3) ……………	453	第613図	S D01出土木製品68 (1/3) ……………	467
第600図	S D01出土木製品55 (1/3) ……………	454	第614図	S D01出土木製品69 (1/6) ……………	468
第601図	S D01出土木製品56 (1/3, 1/4) ………	455	第615図	S D01出土木製品70 (1/3) ……………	469
第602図	S D01出土木製品57 (1/3) ……………	456	第616図	S D01出土木製品71 (1/10, 1/12) ……	470
第603図	S D01出土木製品58 (1/3) ……………	457	第617図	S D01出土木製品72 (1/3) ……………	471
第604図	S D01出土木製品59 (1/3) ……………	458	第618図	S D01出土木製品73 (1/3) ……………	472
第605図	S D01出土木製品60 (1/4) ……………	459	第619図	S D01出土木製品74 (1/3) ……………	473
第606図	S D01出土木製品61 (1/3) ……………	460	第620図	S B1001出土木製品 (1/3) ……………	474
第607図	S D01出土木製品62 (1/3) ……………	461	第621図	S X1055出土木製品 (1/3) ……………	474
第608図	S D01出土木製品63 (1/3) ……………	462	第622図	S X1056出土木製品 1 (1/4) ………	475
第609図	S D01出土木製品64 (1/3) ……………	463	第623図	S X1056出土木製品 2 (1/3) ………	476
第610図	S D01出土木製品65 (1/3) ……………	464	第624図	S X1056出土木製品 3 (1/3) ………	477
第611図	S D01出土木製品66 (1/3) ……………	465	第625図	S E1001出土木製品 (1/3) ……………	478
第612図	S D01出土木製品67 (1/3) ……………	466	第626図	S D1069出土木製品 (1/3) ……………	478

## 付図目次

- 付図1 鴨部・川田遺跡1区遺構配置図(1/100)  
付図2 鴨部・川田遺跡2・3区遺構配置図(1/100)  
付図3 鴨部・川田遺跡4区遺構配置図(1/100)  
付図4 鴨部・川田遺跡遺構全体図(1/300)

## 表目次

- 第1表 整理作業及び報告書作成作業の工程  
第2表 S D01 2区出土木製品  
第3表 S D01 3区出土木製品

## 巻頭図版目次

- 巻頭図版1 鴨部・川田遺跡全景 西から  
巻頭図版1 鴨部・川田遺跡2区 北から  
巻頭図版2 鴨部・川田遺跡3区 北から  
巻頭図版2 鴨部・川田遺跡出土土器

# 第1章 調査の経緯

## 第1節 調査の経緯

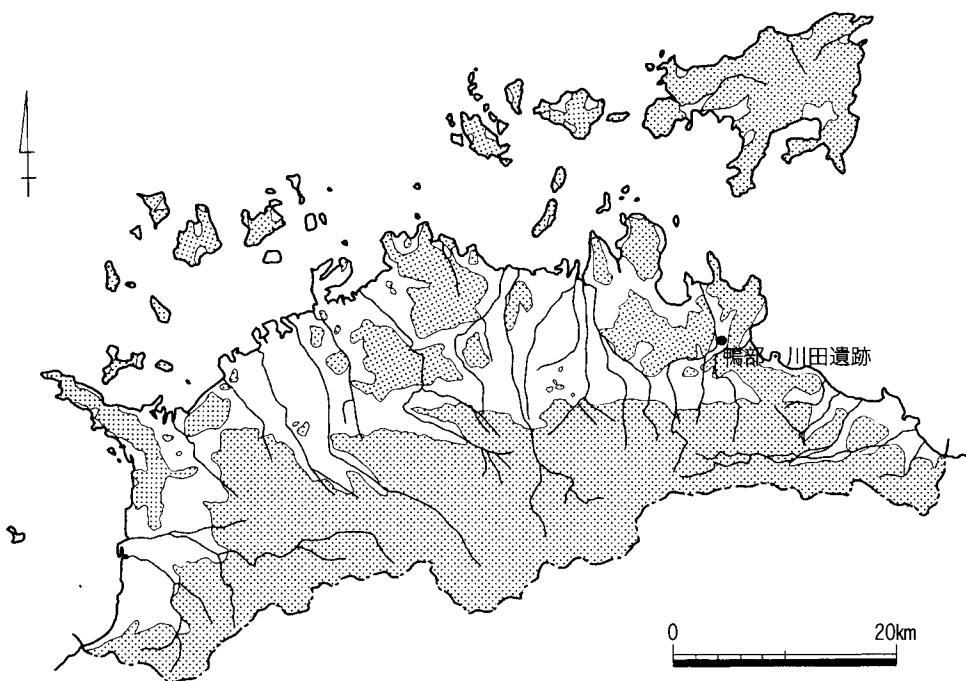
高松平野を東西に走る高松東道路（一般国道高松東バイパス）の建設は、昭和53年に都市計画決定された。高松市上天神町から前田東町の区間は昭和63年に工事を開始しているが、高松市前田東町以東の木田郡三木町池戸から大川郡津田町鶴羽にかけての区間は平成元年に路線決定された。これに伴い、香川県教育委員会と建設省四国地方建設局との間で、建設予定地に所在する埋蔵文化財の取り扱いについて協議が行われた。香川県教育委員会ではこうした経緯を受けて、平成元年10月23～26日に試掘調査を行った結果、埋蔵文化財を発見し、鴨部・川田遺跡と命名し、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターに委託して発掘調査を実施することとなった。なお、この間の経緯については『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第7冊 鴨部・川田遺跡Ⅰ』<sup>(1)</sup>に詳述されているため本書では省略する。

平成2年度は調査対象面積12,000m<sup>2</sup>のうち5,000m<sup>2</sup>について調査を行った。この間の調査経過については前掲書に詳述されている。

平成3年度は残りの7,000m<sup>2</sup>について調査を行った。前年度同様、発掘調査には工事請負方式を導入し、鋼矢板を打設して調査を行った。平成3年4月18日に調査を着手し、平成4年1月20日に調査を終了した。

本年度の調査区においても平成2年度同様弥生時代前期を中心とする集落が検出された。また、平成2年度に一部検出された環濠のほぼ全容が検出され、環濠は径60m前後を測ることが確認できた。環濠内からは多量の遺物が出土したが、なかでも木製農具の製作工程が復元できる資料や、土偶はマスコミを賑わし、全国的にも注目を集めた。





第1図 遺跡位置図

本報告書に係わる発掘調査の調査体制は以下のとおりである。

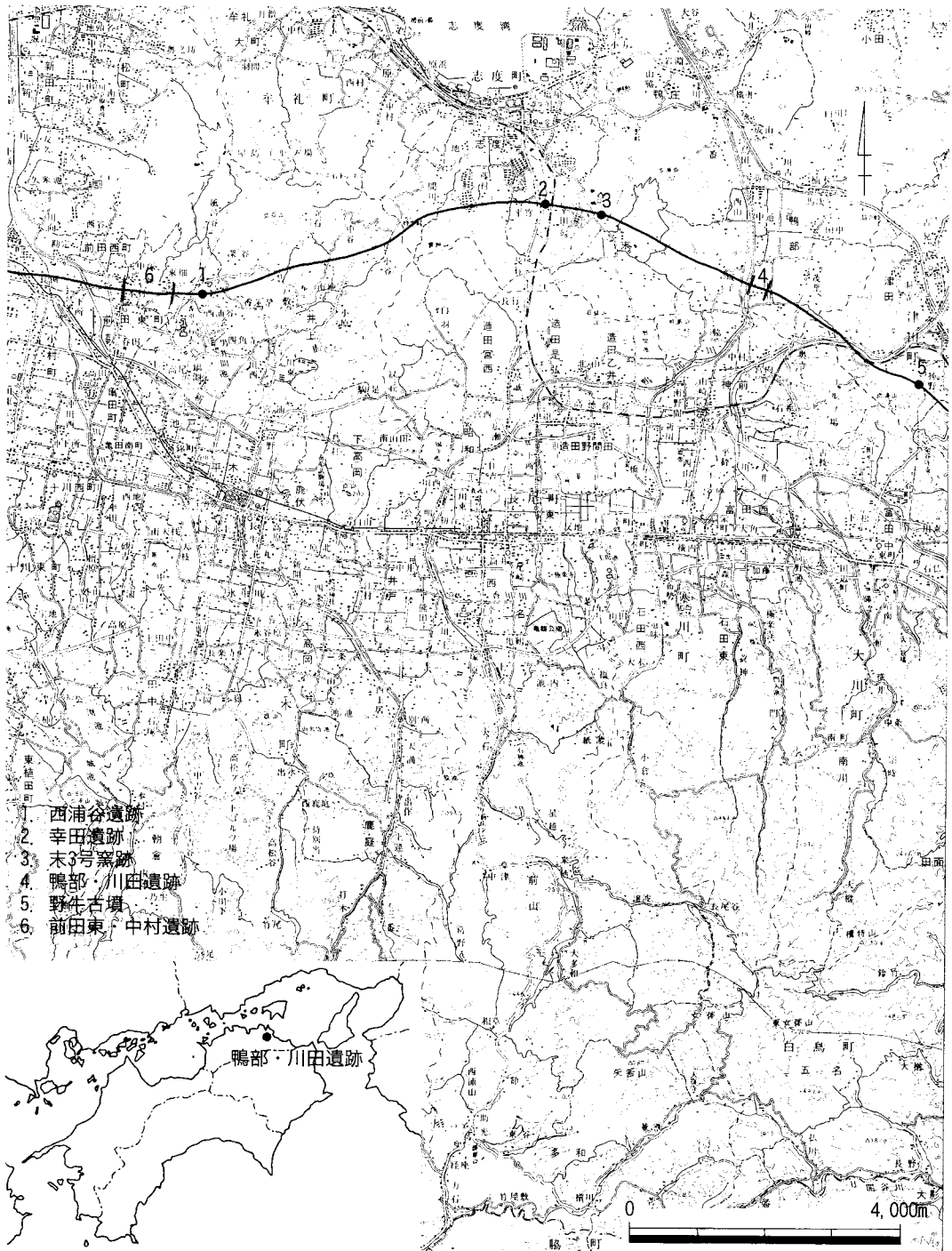
平成3年度

香川県教育委員会文化行政課

課長 中村 仁  
 主幹 菅原 良弘  
 課長補佐 小原 克己  
 係長 宮内 憲生  
 主事 櫻木 新士  
 主事 石川恵三子  
 係長 藤好 史郎

(財)香川県埋蔵文化財調査センター

所長 松本 豊胤  
 次長 安藤 道雄  
 係長 加藤 正司 (～5.31)  
 係長 土井 茂樹 (6.1～)  
 主査 山地 修 (～5.31)  
 係長 今田 修 (6.1～)  
 主任主事 黒田 晃郎  
 参事 篠丸 博  
 係長 大山 眞充  
 主任技師 土佐 修治  
 主任技師 大久保徹也  
 調査技術員 満岡 博隆



第2図 高松東道路（三木～津田）路線図・埋蔵文化財包蔵地（1/100,000）

## 第2節 整理作業及び報告書作成作業

本遺跡南西部の平成2年度調査区は平成7・8年度に整理作業を行い、平成9年度に報告書を刊行した。

本書に掲載する平成3年度調査区の整理作業は平成9年度から開始された。28リットル入コンテナ1600箱の遺物が出土したが、平成9年度においては遺物の分類・注記・接合、一部の遺物の写真撮影、土製品・木製品の図化を行った。平成10年度においては土器の接合・

第1表 整理作業及び報告書作成作業の工程

	基礎整理・遺物注記等	遺物接合・復元	木製品実測	土器実測	木製品図面割付・浄書	土器図面割付・浄書	遺溝図面整理	遺溝図面割付・浄書	木製品観察表作成	土器観察表作成	原稿執筆	台張作成・収納	報告書編集	
平成9年	4													
	5													
	6													
	7													
	8													
	9													
	10													
	11													
	12													
	平成10年	1												
		2												
		3												
4														
5														
6														
7														
8														
9														
10														
11														
12														
平成11年	1													
	2													
	3													

図化・写真撮影，木製品・土製品の図化，検出遺構の図面整理・浄書を行った。

本報告書では平成10年度までに整理を終えた遺構・遺物の報告を行う。なお，平成2年度に調査を行った『鴨部・川田遺跡Ⅰ』においては検出遺構と出土遺物をセットして報告したが，平成3年度調査においては遺構・遺物を別々に報告することとして，遺物種類によって分冊化を行ったため，本書においては検出遺構と木製品・土製品，環濠（SD01）出土以外の土器の報告を行う。石器の図化，環濠（SD01）出土土器の接合・図化は平成11年度以降に行う予定である。なお，環濠を中心に木製品が多量に出土したが，木製品については腐食が予想されるので，一部保存処理を行い，レプリカを作成した。

整理作業及び報告書作成作業の工程は第1表，体制は以下のとおりである。

#### 平成9年度

香川県教育委員会文化行政課

課長 菅原 良弘

課長補佐 北原 和利

副主幹 渡部 明夫

(財)香川県埋蔵文化財調査センター

所長 大森 忠彦

次長 小野 善範

係長 前田 和也（～5.31）

副主幹兼係長 田中 秀文（6.1～）

主事 佐々木隆司

主事 細川 信哉（6.1～）

主任文化財専門員 廣瀬 常雄

文化財専門員 大久保徹也

整理員 西桶 右子

整理員 山下登志子

整理補助員 小畑三千代

整理補助員 岩井 弘恵

整理作業員 水谷 葉子

整理作業員 青屋 真理

整理作業員 松尾 優子

#### 平成10年度

香川県教育委員会文化行政課

課長 小原 克己

課長補佐 北原 和利

副主幹 渡部 明夫

係長 西村 尋文

(財)香川県埋蔵文化財調査センター

所長 菅原 良弘

次長 小野 善範

主事 細川 信哉

主任文化財専門員 廣瀬 常雄

文化財専門員 森下 友子

整理員 山下登志子

整理補助員 矢野ゆかり

整理補助員 山地真理子

整理補助員 秋山 容子

整理作業員 青屋 真理

整理作業員 松尾 優子

整理作業員 池内 妙子

整理作業員 安岡 真実

整理作業員 北濱 敦子

整理作業員 池内 妙子

註

- (1) 森 格也『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第7冊 鴨部・川田遺跡Ⅰ』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・建設省四国地方建設局(1997)

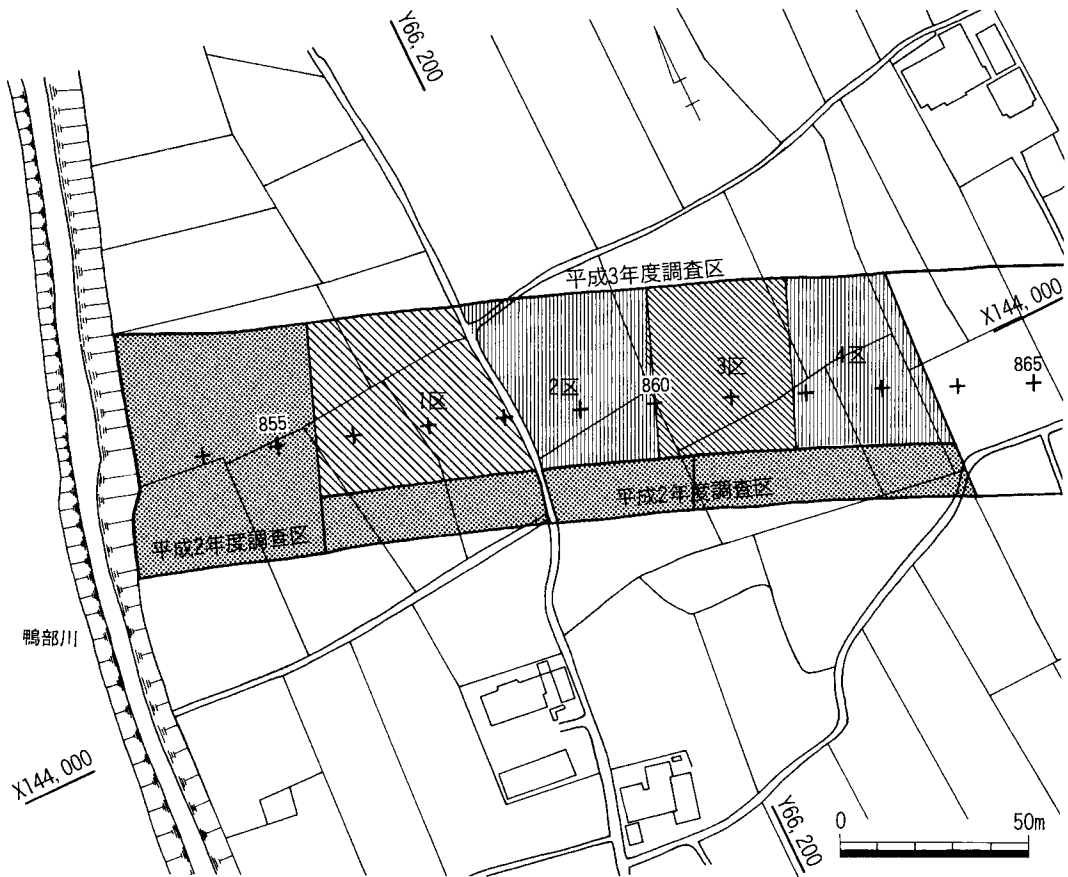


## 第2章 調査の成果

### 第1節 調査の方法と各調査区の概要

#### 1. 調査の方法

平成2年度調査の報告書<sup>(1)</sup>でも記したように遺跡の調査は2年度に及び、工事着手時期に併せて調査を実施したため、調査区の設定は第3図のとおりとなった。平成2年度調査区はL字状を呈し、西からA・B・C区と小調査区を設定した。本報告書で報告する平成3年度の調査区は平成2年度調査区の北東側に隣接し、西から1～4区と小調査区を設定



第3図 調査区割図 (1/2,000)

した。また、道路予定地のセンターライン上に20m間隔の基準杭を打設して、各調査区に共通する基準線を設定した。この基準線をもとにして20m間隔の小区画を設定した。調査は仮設道の都合上、4区、3区、2区、1区の順に調査を行った。

遺構の測量はヘリコプターによる航空測量で行い、国土座標と対応させた。なお、発掘調査は平成2年度同様工事請負方式で行い、周囲に鋼矢板を打設して調査を行った。

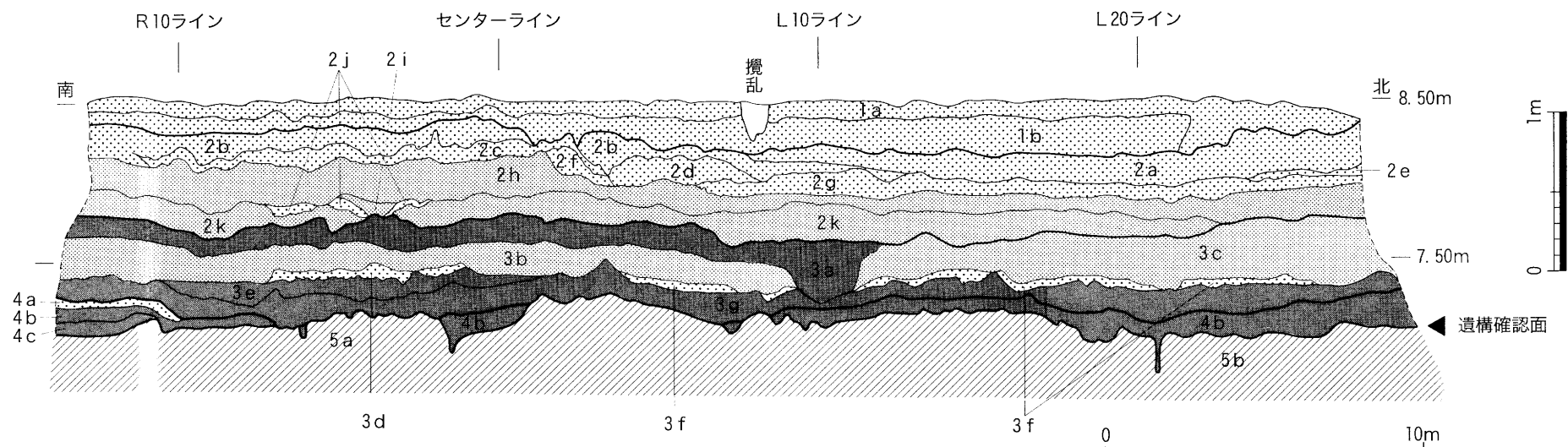
## 2. 各地区の概要

平成3年度の調査区は遺跡北東部に位置し、東西約160m、南北約45m、面積7,000㎡を測り、東西に細長い長方形を呈する。西から1～4区と呼称する。平成2年度の調査区と同様、いずれの調査区からも弥生時代前期から中期初頭の遺構・遺物が多量に検出された。このほか、古墳時代前期・平安時代の遺構・遺物も僅かながら検出された。

2区西部、3区東部においては平成2年度の調査区の北部で検出された弧状に走る大溝(S D01)の続きが検出され、S D01は環状に巡る弥生時代の環濠であることが判明した。S D01は内側で東西径53～60mを測る。南北径はS D01の北部が調査区外に連続するため不明であるが、48m以上を測る。環濠(S D01)内部ではおびただしい数の柱穴・土坑をはじめとする遺構が密集し、重複していた。柱穴は建物遺構を構成するものと考えられるが、著しく密集しているため、復元は不可能であった。環濠(S D01)の外側は内部とは遺構の密集状況は異なり、柱穴は希薄であった。環濠(S D01)西側に当たる1区では、方形ないし楕円形に巡る溝に囲まれた平面形六ないし八角形、または平面形楕円形の建物が2棟検出された。これらの建物は南北に長軸をもち、東西に平行に並ぶ。環濠の東側に当たる3区東部から4区にかけては柱穴は僅かで、自然形成された落ち込みが確認された程度である。

なお、平成3年度の調査区においてはおびただしい数の柱穴を検出したが、竪穴住居は検出できなかった。

また、環濠(S D01)からは整理用コンテナで1000箱程度の遺物が出土したが、土器・石器以外に木製品が多量に出土した。木製品は農具類が多いが、工具類や容器類も認められた。農具類は未製品を含んでおり、製作段階の異なる未製品の鍬が多数出土したことにより、鴨部・川田遺跡では木製品を製作していたことが確認された。なお、本報告書には掲載していないが、環濠内外から石鍬・石包丁・石斧・石鏃等の多量の石器が出土した。石包丁は多数の未製品が出土していることから、鴨部・川田遺跡において製作されていた



第1層 1a 黒灰色細砂 (現耕作土)  
1b 褐色～淡灰色細砂 (旧耕作土)

第2層 2a 淡黄褐色砂  
2b 褐色～淡灰色粗砂  
2c 淡灰褐色細砂  
2d 淡灰色細砂  
2e 淡黄褐色細砂  
2f 淡灰褐色細砂・粗砂  
2g 暗灰色～灰褐色シルト・細砂  
2h 淡灰褐色～灰黄色シルト  
2i 暗灰色シルト  
2j 淡灰色細砂  
2k 淡灰～灰褐色シルト (鉄分・マンガン斑が顕著)

第3層 古墳時代から平安時代遺物包含層

3a 粘土 (グライ化)  
3b 粗砂混じりシルト (グライ化)  
3c シルト  
3d 粘土混じり粗砂 (グライ化)  
3e 粗砂混じり粘土 (グライ化)  
3f 粘土混じり粗砂 (グライ化)  
3g 暗灰色～暗灰緑色粘土

第4層 弥生時代前・中期包含層

4a 黒灰色粘土混じり粗砂  
4b 黒灰色粗砂混じり粘土  
4c 暗灰色粘土

第5層 5a 暗青灰色シルト・砂  
5b 粘土混じり粗砂

凡例



第4図 土層堆積図 (左右1/200, 天地1/40), 遺構配置図 (1/1,000)

ものと推定される。

### 3. 土層の堆積状況

鴨部・川田遺跡は鴨部川の東側に隣接する。発掘調査以前は周囲を低丘陵に囲まれた水田地帯であった。現地表は標高8～9mを測る。鴨部川は周囲を取り巻く山裾に沿って北流するが、天井川で、幾度かの氾濫を繰り返していた。

第4図は4区の西壁の土層断面図である。他の調査区の土層堆積も4区西壁の堆積と類似することから、本報告書では4区西壁の土層堆積を中心に詳述する。4区西壁の土層堆積は次のように第1～5層に大別される。遺構確認面（第4層ないし第5層上面）の上には鴨部川の厚い洪水堆積層がみられ、現地表下から1.2～1.6mで弥生時代の遺構を確認した。

第1層 標高8.1～8.5mに位置する。現耕作土と床土からなる。有機質を多く含み、黒色化する。細砂主体であるが、粗砂も含む。

第2層 標高7.6～8.4mに位置する。粗砂・細砂・シルト土層である。鉄分酸化のため黄褐色を呈する。第2層の上面と下面には鉄分・マンガンの集積が認められる。特に下面が顕著である。また、センターラインからL10ライン間の第2層中位に局所的な鉄分沈着層がある。第2層下部はグライ化が認められる。平安時代末以降の堆積である。

第3層 標高7.1～7.8mに位置する。粘土・シルト層である。粘土・シルトを主体とするが、中位に粗砂の薄層が僅かに認められる。水分を多く含み、グライ化が顕著である。第3層下位には弥生土器小片や6世紀代の須恵器片を包含する。平成2年度調査区からは第3層上面で検出された溝から12世紀後半の遺物が出土している<sup>(1)</sup>。したがって、第3層は6世紀代以降から平安時代末に堆積したものと考えられる。

第4層 標高7.0～7.3mに位置する。粘土・粗砂混じり粘土層である。弥生時代前期から中期の遺物包含層である。粘性が強いが、多量の粗砂を含む。部分的には粗砂のみからなる。均質的な土質ではなく、局所的な変化が著しい。第3層・第5層に比して、グライ化は顕著でない。炭化物などの有機分を多量に含み、黒色化する。古墳時代前期土器とナスビ形膝柄又鍬が出土した4区の落ち込みSX1056は第4層上面で形成されている。

第5層 標高7.3m以下に位置する。粗砂及び粘土混じり粗砂層である。弥生時代前期以前の堆積層で、無遺物層である。上位は粘土混じりの堅緻な粗砂層で、下位には堅緻なシルト層が堆積する。グライ化が顕著で、地下水の浸出が認められる。

## 第2節 遺構・土器・土製品

### 1. 弥生時代前期から中期

#### (1) 掘立柱建物と周辺の溝

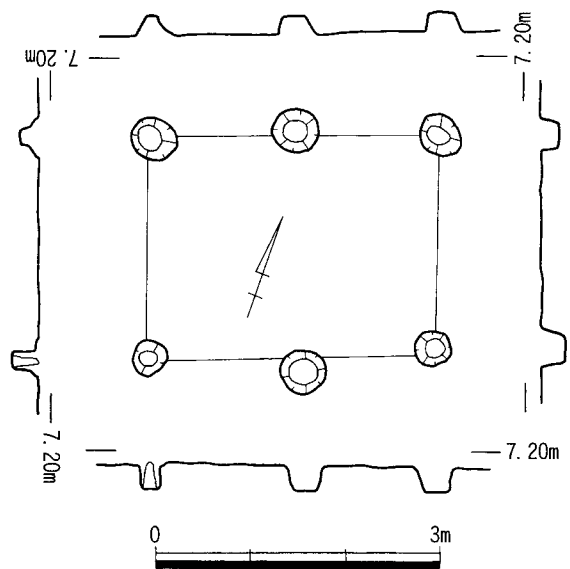
環濠（S D01）内外から約3000個の柱穴が検出された。特に環濠（S D01）内部の密集度が高い。柱穴は建物を構成するものが多いと推定されるが、極めて密集度が高いため、建物を構成する柱穴の単位が明確なものはほとんどなかった。報告する3棟の建物以外にも4区南端の落ち込みS X1051の西側に位置する柱穴群の柱穴の中には円形に巡るものが見られる（図版12）ことから、径4m前後の円形の建物を構成する可能性も考えられるが、不確証なためここでは建物として報告しなかった。

#### S B1001（第5図，図版12・13）

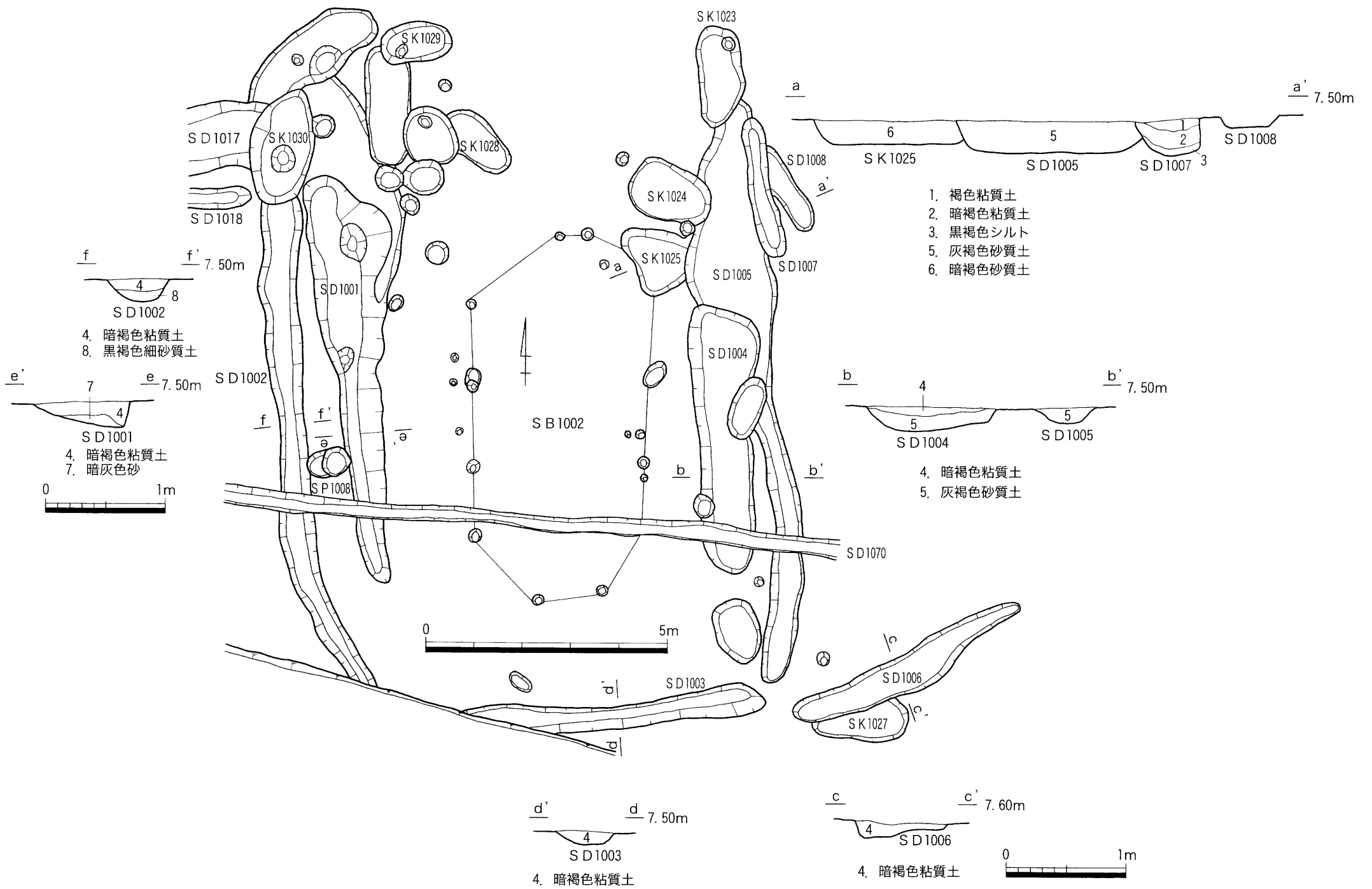
4区北西部，環濠外側に位置する掘立柱建物である。建物の規模は桁行2間（3.0m），梁間1間（2.3m），棟方向はN70°Eを測る。桁行の柱間は1.5～1.6mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し，径0.3～0.5m，深さ0.3m前後を測る。南西隅の柱穴からは柱基部の一部が検出された。柱穴からは少量の土器片が出土した。

#### S B1002（第6・14図，図版7）

1区南東部，環濠外側に位置する掘立柱建物である。建物は推定12個の柱穴で構成され，平面形長八角形を呈し，長辺7.5m，短辺3.5～3.6mを測る。建



第5図 S B1001平・断面図（1/80）



第6図 SB1002平面図 (1/100), 断面図 (1/40)

物の周囲、北側を除く三方には隅丸長方形に溝が巡る。周囲の溝（S D1001～S D1008）は幅0.5～1.9m、深さ0.1～0.3mを測る。柱穴からは少量の土器片が出土しただけで、図化できるものは甕（30）1点であった。

#### S D1001（第6・7図）

1区南部、S D1002と平行し、南北に走る溝である。検出長10.5m、幅0.5～2.0m、深さ0.2mを走る。溝の断面が部分的に二股状を呈することから、本来は2条の溝であったものと推定される。出土した遺物は少量で、壺・甕・甑・蓋、石包丁未製品・石鍬等がみられる。1・2は壺頸部である。1は摩滅が顕著であるが、内面には波状の突帯が剥落した痕跡がみられる。2も摩滅が顕著であるが、刻目突帯を5条以上貼り付けている。3は逆L字口縁の甕である。外面には4条のヘラ描沈線文を施す。

#### S D1002（第6・8図）

1区南部、溝S D1001と平行し、南から北にやや湾曲して走る溝である。検出長15m、幅0.5～0.9m、深さ0.5mを測る。溝の南部は排水用の側溝によって削平されているため不明であるが、東側を東西に走る溝S D1003と連続する可能性が高い。出土遺物のごく少量で、甕片、刃器がみられる。8・9は逆L字口縁の甕である。外面にはヘラ描沈線を施すが、条数は不明である。

#### S D1003（第6・9図）

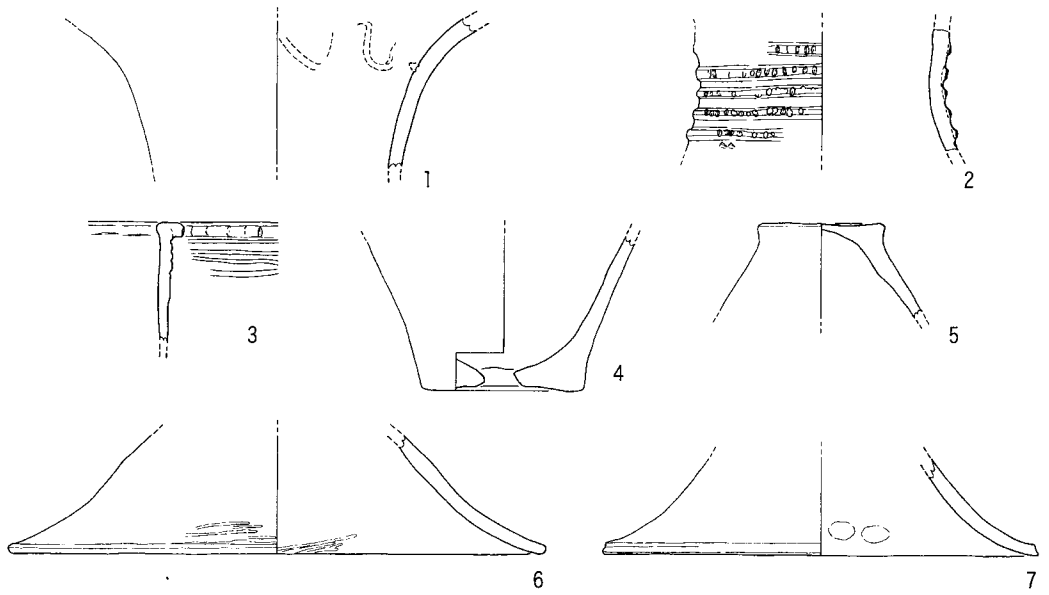
1区南端を東西に走る溝である。検出長6.5m、幅0.5～0.8m、深さ0.1～0.2mを測る。西部は排水用の側溝によって削平を受けるため、明確ではないが、北側を南北に走る溝S D1002と連続する可能性が高い。出土遺物のごく少量で、甕・蓋片が出土した。

#### S D1004（第6・10図）

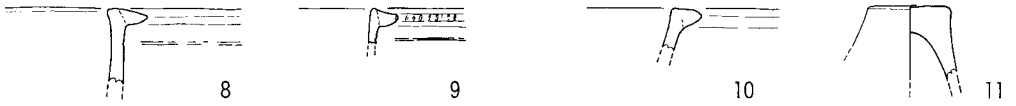
1区南東部を南北に走る溝である。溝S D1005と重複し、一部を削平する。検出長6m、幅1.0～1.4mを測る。断面形は皿状を呈し、深さ0.2mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕片、刃器がみられる。12は大型壺である。内外面には一部赤彩が残る。外面にはヘラ描沈線文、内面には貼付突帯を施す。15も壺で外面にはヘラ描沈線文を施す。14・16・17・18はいずれも逆L字口縁の甕である。16は現存7条、17は6条、18は現存12条のヘラ描沈線文を施す。

#### S D1005（第6・11図）

1区南東部、南北に走る溝である。溝S D1004と重複し、一部が削平されている。検出長12.3m、幅0.4～1.8m、深さ0.1～0.2mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕、石錐がみられる。19・20は壺で、19は内面に3条の貼付突帯をもつ。20は外面に13条以上のヘラ描沈

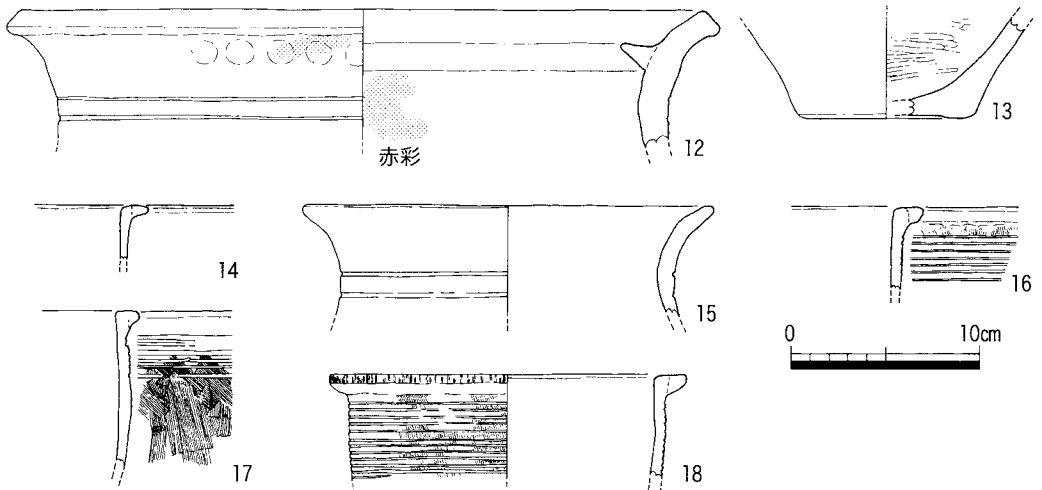


第7图 SD1001出土土器 (1/4)



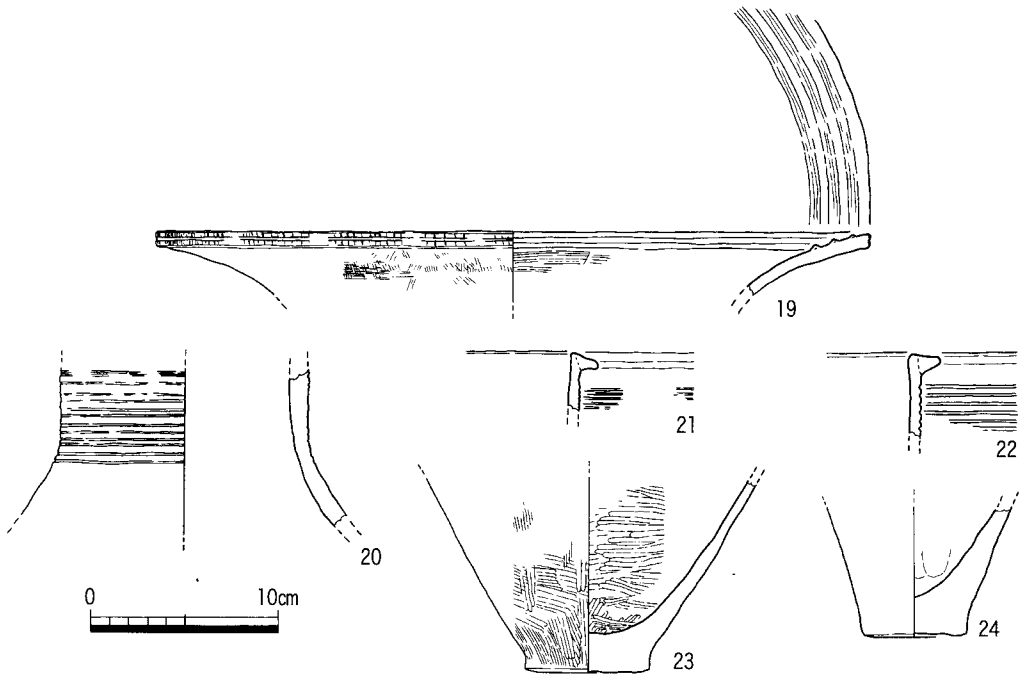
第8图 SD1002出土土器 (1/4)

第9图 SD1003出土土器 (1/4)

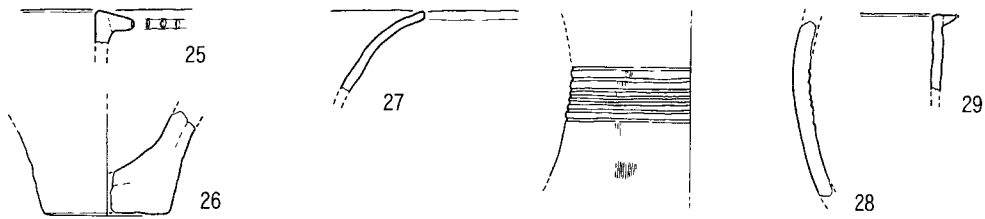


第10图 SD1004出土土器 (1/4)





第11図 S D 1005出土土器 (1/4)



第12図 S D 1006  
出土土器 (1/4)

第13図 S D 1007出土土器 (1/4)

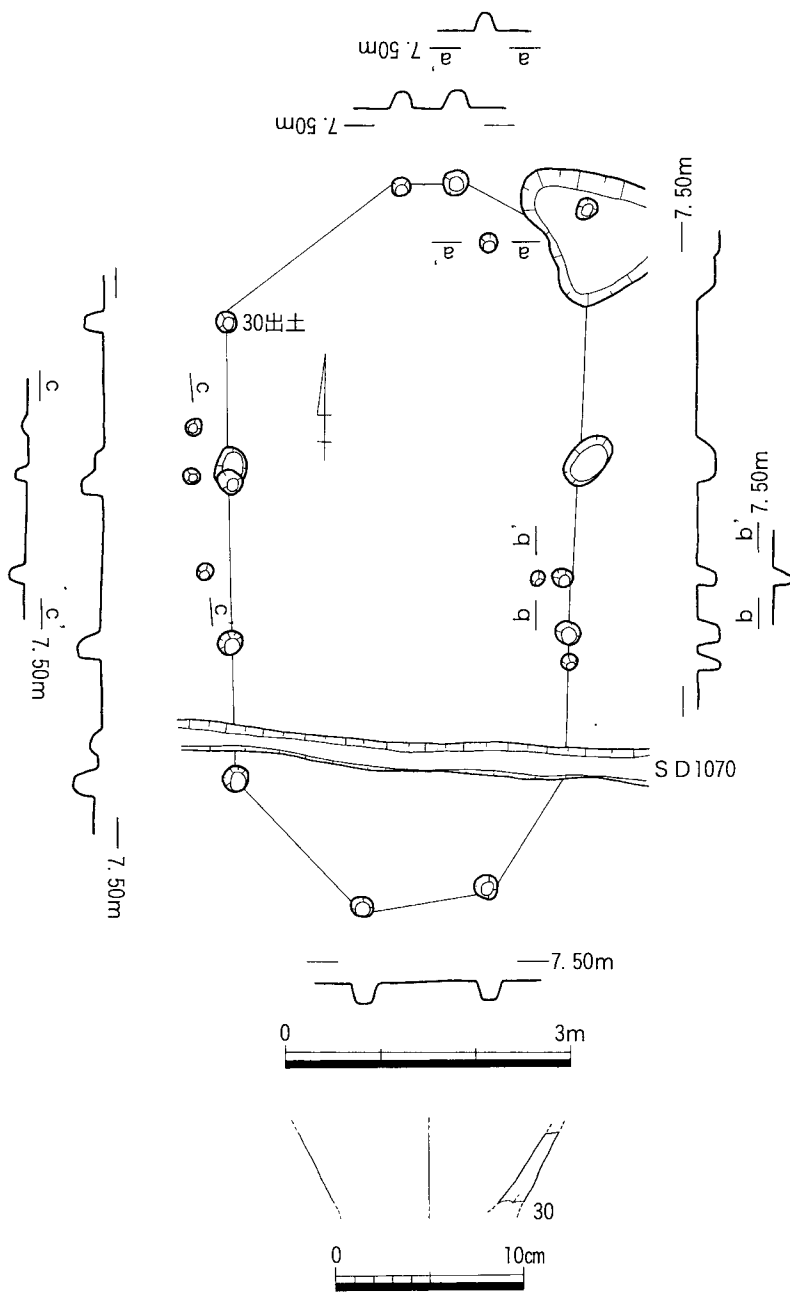
線文を施す。21・22は逆L字口縁の甕で、ヘラ描沈線文を施す。

S D 1006 (第6・12図)

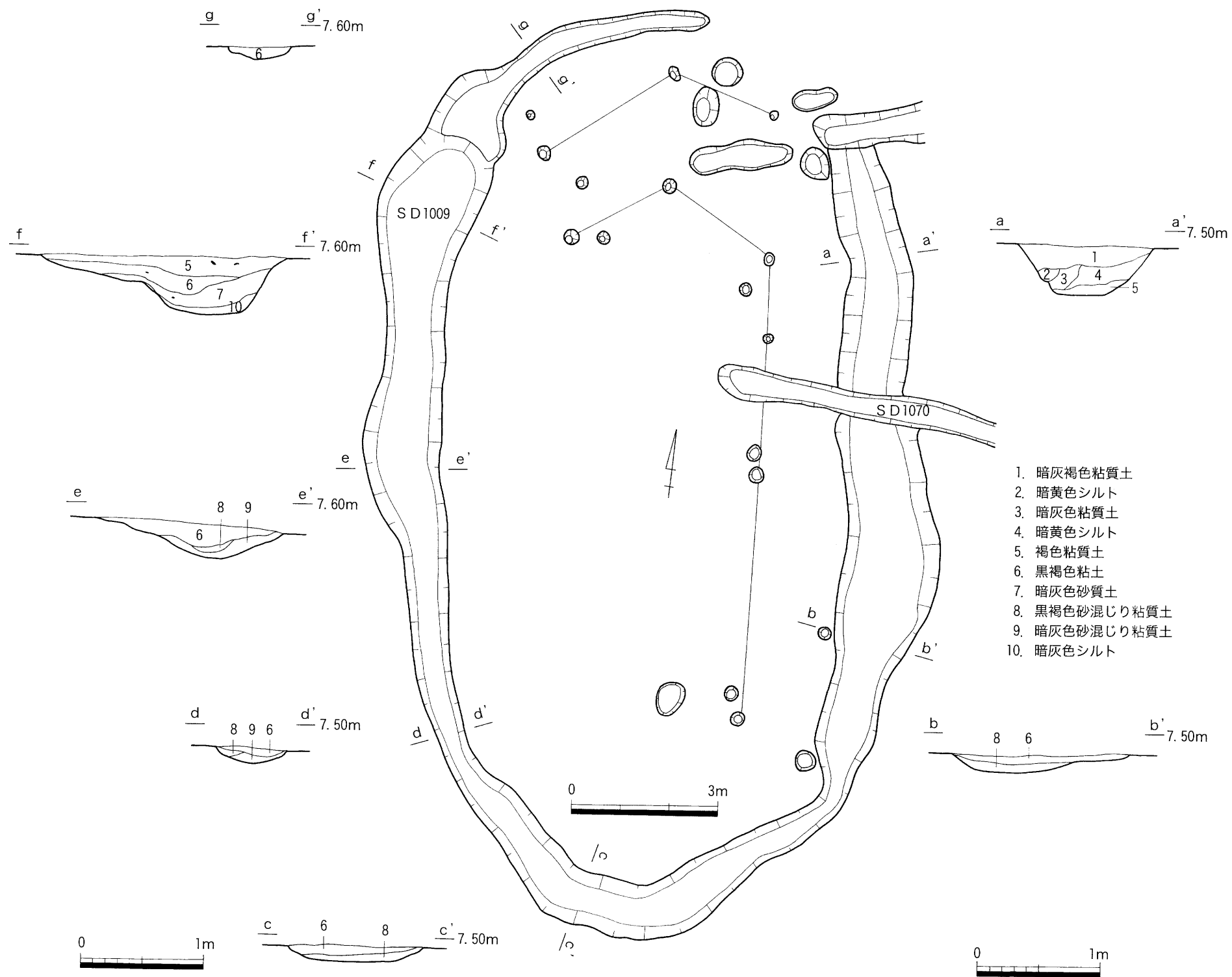
1区南東部、東西に走る溝である。検出長5.2m、幅0.4~0.8mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.1~0.2mを測る。出土遺物はごく少量で、甕片が出土した。25は逆L字口縁の甕である。

S D 1007 (第6・13図)

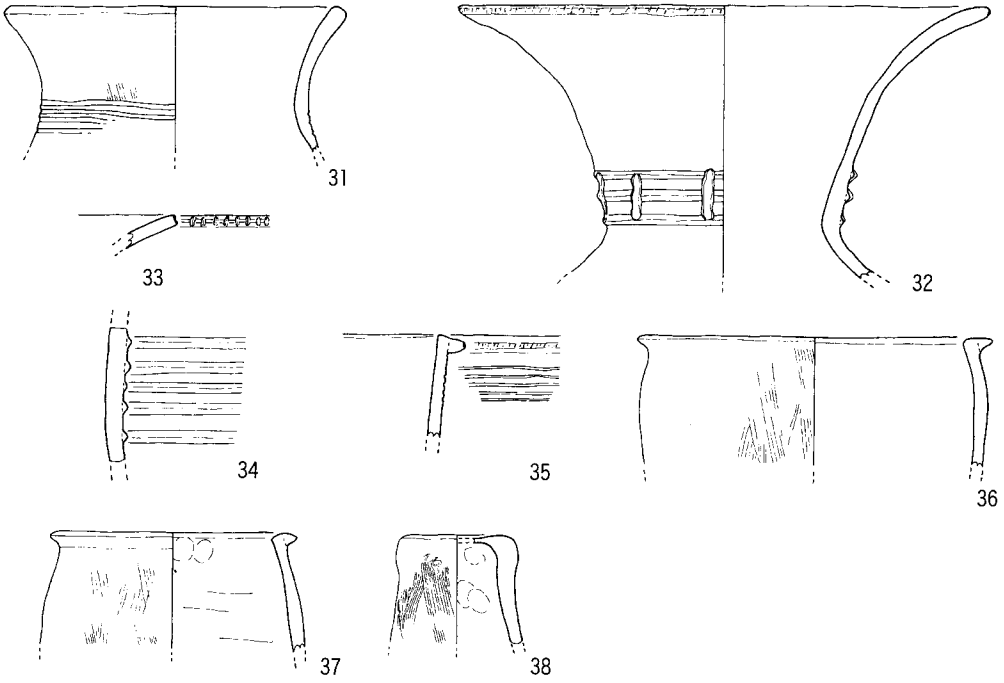
1区南東部、南北に走る溝である。溝S D 1005と重複し、一部を削平している。検出長3m、幅0.4~0.6mを測る。断面形はU字形を呈し、深さ0.3mを測る。出土遺物はごく少量で、壺・甕がみられる。28は頸部に現存7条のヘラ描沈線文を施す壺である。29は逆L



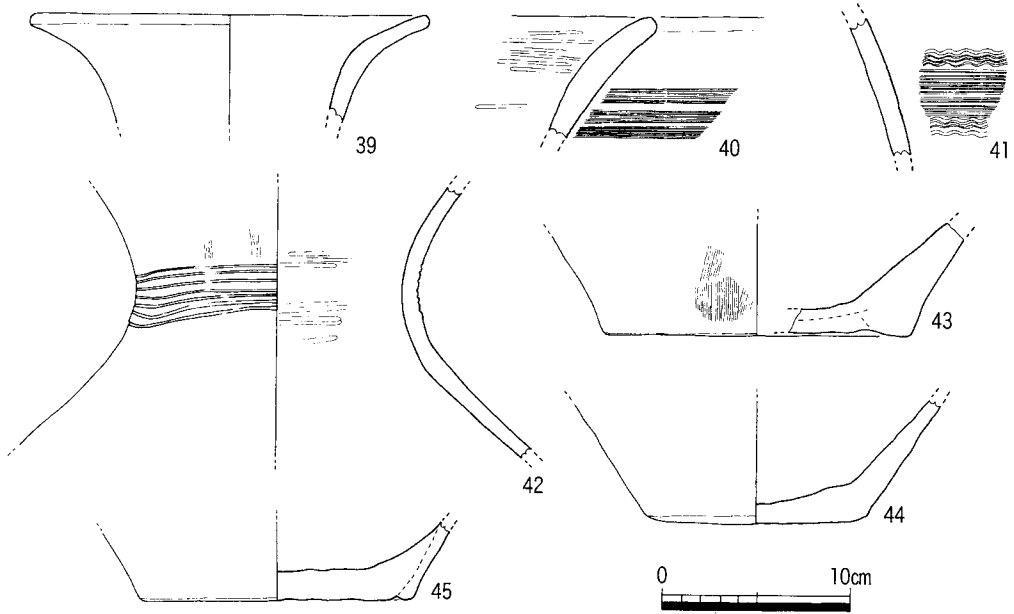
第14图 SB1002平·断面图 (1/80), 出土土器 (1/4)



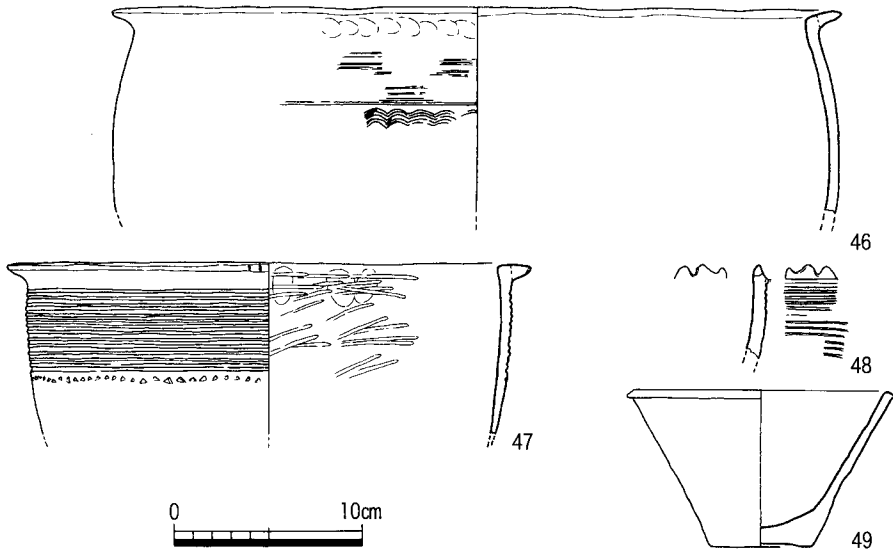
第15図 SB1003平面図 (1/100)、断面図 (1/40)



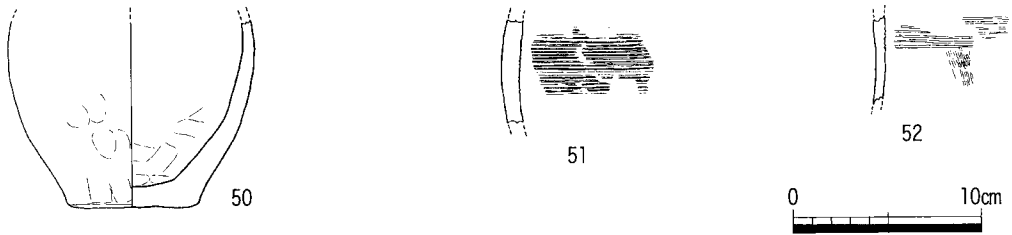
第16图 S D 1009西部出土土器 (1 / 4)



第17图 S D 1009东部出土土器 1 (1 / 4)



第18図 S D 1009東部出土土器 2 (1/4)



第19図 S B 1003出土土器 (1/4)

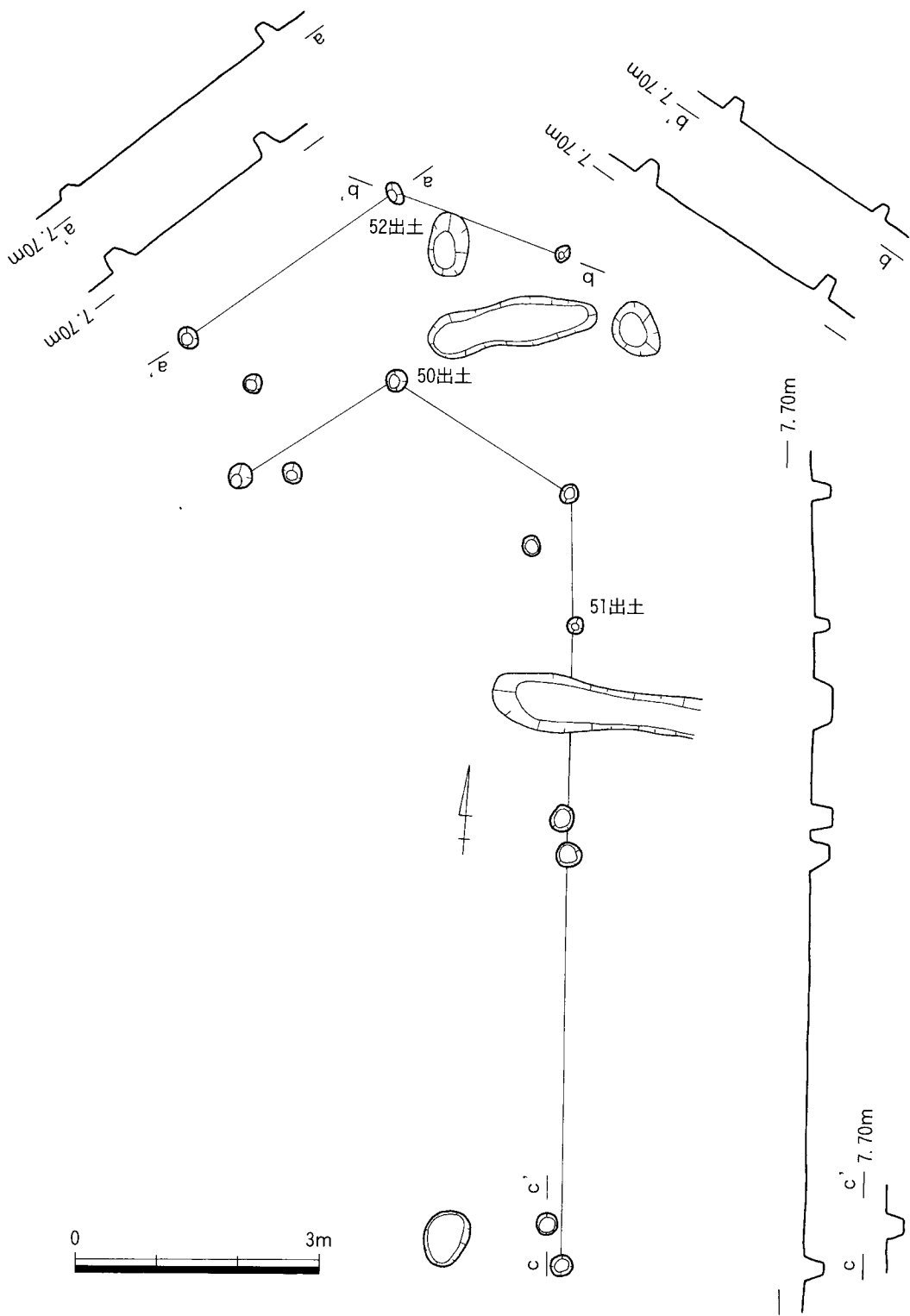
字口縁の甕である。

S D 1008 (第6図)

1区南東部、環濠外側を走る溝である。南北に走る。溝S D 1007と重複し、一部を削平している。検出長2m、幅0.5~0.6m、深さ0.1~0.2mを測る。出土遺物はごく少量の小破片で、図化できるものはみられなかった。

S B 1003 (第15・19・20図)

溝S D 1009に囲まれた掘立柱建物である。建物の南西部は検出できなかったが、溝S D 1009が楕円形に巡ることや北東部の柱穴の検出状況から、長辺12~13m、短辺4.2m前後を測るものと推定される。柱穴から出土した遺物は少量で、壺・甕片がみられる。51は頸部に櫛描直線文を19条以上施す壺である。52はヘラ描沈線文を7条以上施す甕である。



第20图 SB1003平·断面图 (1/80)

## S D 1009 (第16~18図, 図版25)

1区南西部を走る溝である。鴨部・川田遺跡Iで報告された溝B区S D02と連続する。これらの溝の平面形は楕円形を呈し、北部で溝が途切れる。溝で囲まれた内部は長軸18m、短軸8mを測る。溝幅は0.4~2.0m、深さ0.2~0.45mを測る。出土遺物は整理用コンテナ2箱程度出土した。溝S D1009の西部からは壺・甕・蓋、石包丁が出土した。31は頸部にヘラ描沈線文を4条施す。32・34は頸部に貼付突帯を施す。35~37は逆L字口縁の甕である。また、S D1009東部からは壺・甕・鉢、太型蛤刃石斧・石包丁・石包丁未製品・石鍬が出土した。40・41は櫛描直線文・波状文を施す壺である。46は櫛描直線文・波状文を施す。47はヘラ描沈線文を13条施す甕である。48は口縁部が山形を呈し、貼付突帯下にヘラ描沈線文を現存12条施す。

## (2) 柱穴

### S P 1001

1区北東部、環濠外側に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、石包丁未製品がみられる。

### S P 1002 (第21図)

1区北東部、環濠外側に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、甕がみられる。53は逆L字口縁の甕で、外面にヘラ描沈線文を現存で7条施す。

### S P 1003 (第21図)

1区北東部、環濠外側に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、甕がみられる。54は逆L字口縁の甕である。

### S P 1004 (第21図)

1区北東部、環濠外側に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺・甕・高杯、石包丁未製品がみられる。55は壺で、頸部に貼付突帯を現存で2条施す。

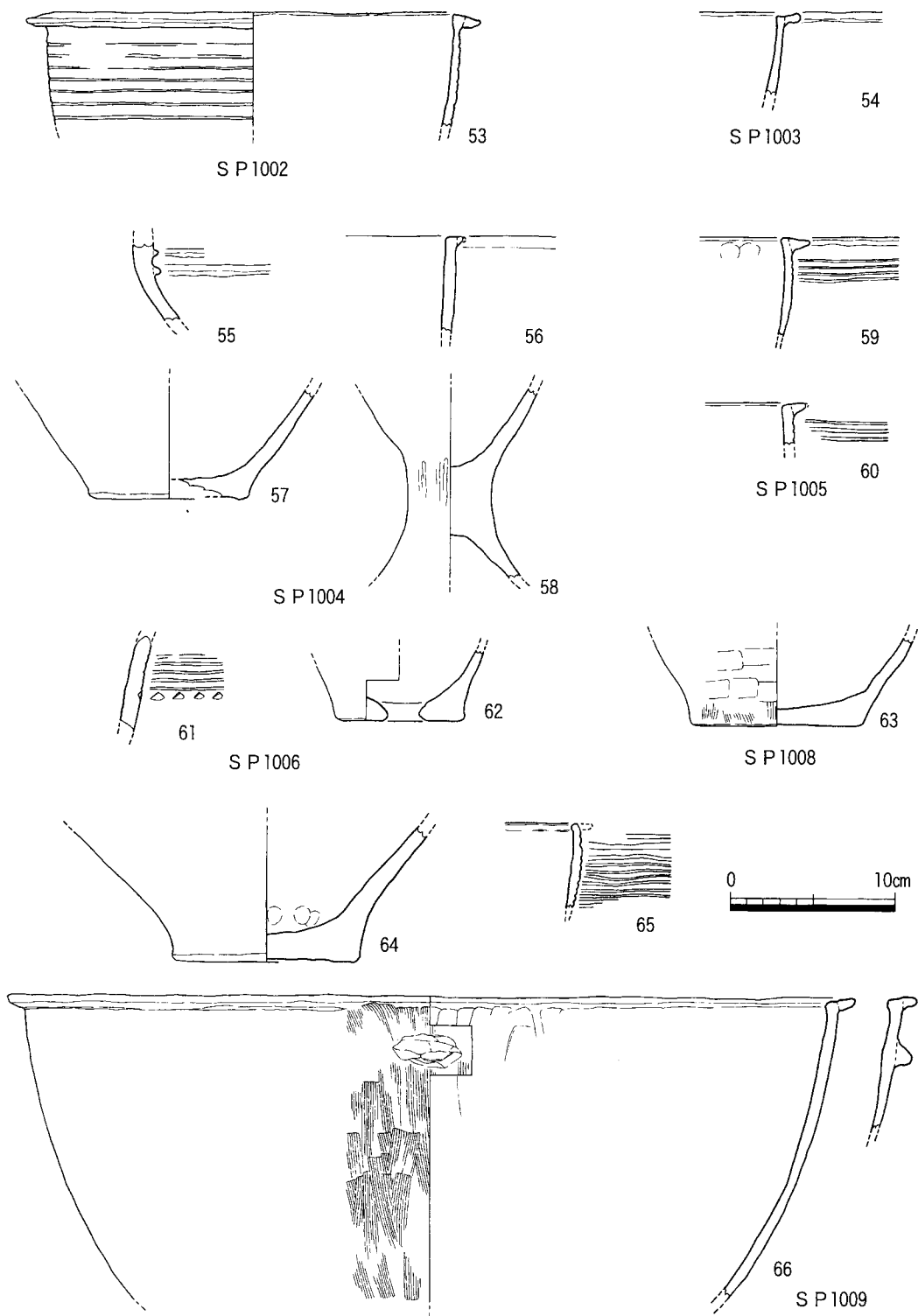
### S P 1005 (第21図)

1区中央部やや北東寄り、環濠外側に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、甕がみられる。59・60は逆L字口縁の甕で、外面にヘラ描沈線文を施す。

### S P 1006 (第21図)

1区中央部やや北東寄り、環濠外側に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、甕・甗がみられる。61は外面にヘラ描沈線文が現存で5条みられ、三角形刺突文を施す。

### S P 1007



第21図 S P 1002～S P 1009出土土器 (1/4)



1区東部で、環濠外側に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片がみられる。

S P 1008 (第21図)

1区南部、S D 1002の東、環濠外側に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器底部片がみられる。

S P 1009 (第21図)

1区中央部やや南寄り、環濠外側に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺・甕・鉢がみられる。65は甕で、外面にヘラ描沈線文を現存で10条施す。

S P 1010 (第22図, 図版13)

1区南西部、環濠外側に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺・甕、不明安山岩製品片がみられる。67は壺で、貼付刻目突帯を現存で2条施す。68・69は逆L字口縁の甕・鉢である。

S P 1011 (第22図)

1区南西部、環濠外側に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、甕がみられる。70は外面にヘラ描沈線文を17条施す。

S P 1012 (第22図)

1区南西部、環濠外側に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺底部がみられる。

S P 1013 (第22図)

1区南西部、環濠外側に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺底部がみられる。

S P 1014

1区南西部、環濠外側に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、土器片、打製石斧がみられる。

S P 1015 (第22図)

1区中央部、環濠外側に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺・蓋がみられる。

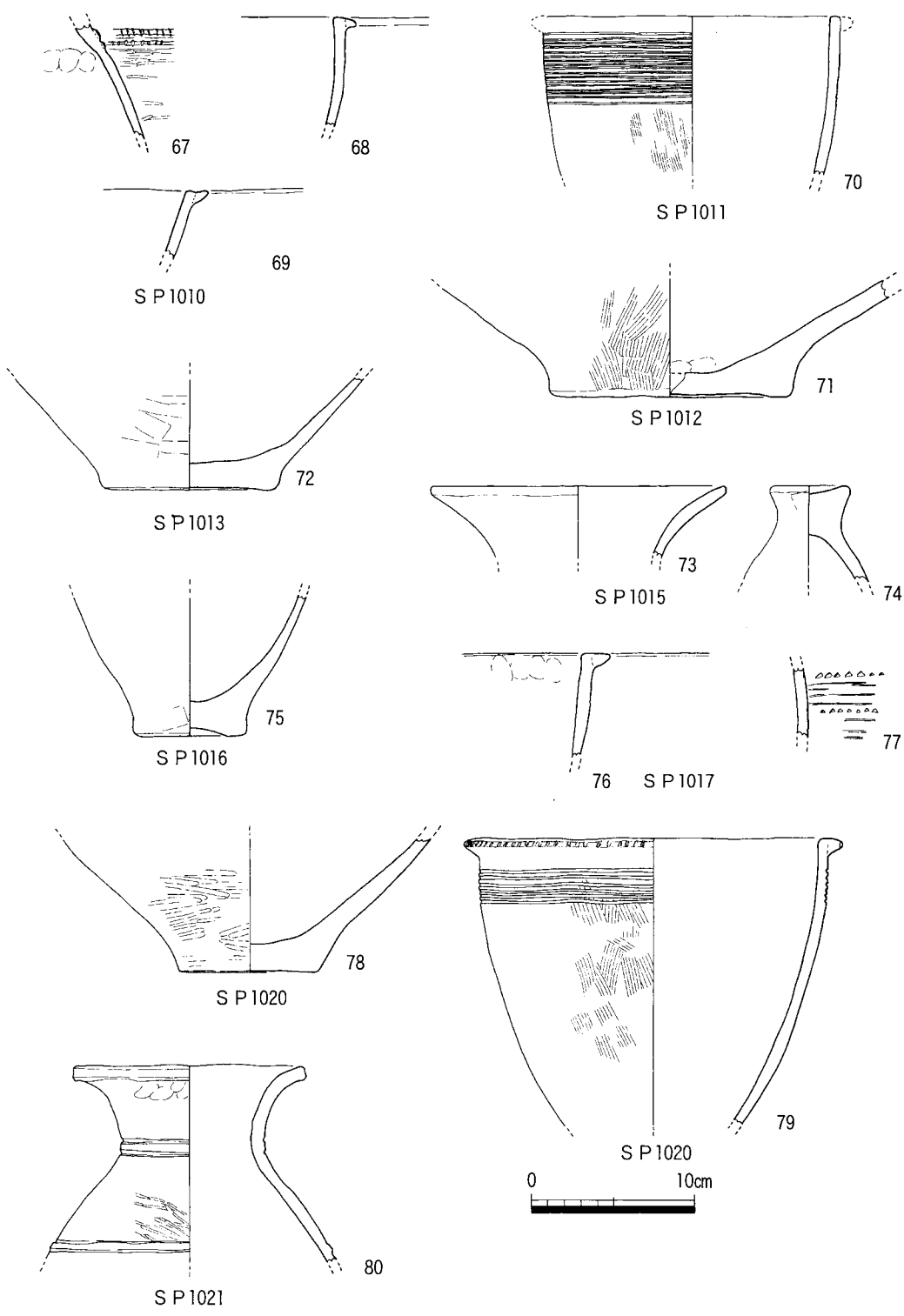
S P 1016 (第22図)

1区東端、環濠外側に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、甕がみられる。

S P 1017 (第22図)

1区東部、環濠外側に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、甕がみられる。76は逆L字口縁の甕である。77は器種不明の体部片であるが、三角形刺突文とヘラ描沈線文を施す。

S P 1018



第22図 SP1010~SP1021出土土器(1/4)

1区北西端，環濠外側に位置する柱穴である。出土遺物は微量で，土器片，石包丁がみられる。

S P 1019

2区南端，環濠内側に位置する柱穴である。出土遺物は微量で，土器片，打製石斧がみられる。

S P 1020 (第22図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で，壺・甕がみられる。79は甕で，逆L字口縁を呈し，外面にヘラ描沈線文を6条施す。

S P 1021 (第22図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で，壺がみられる。80は壺で，頸部・体部に削出突帯を施す。

S P 1022

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で，不明安山岩系製品片がみられる。

S P 1023 (第23図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で，蓋がみられる。

S P 1024

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で，土器片，石鋤がみられる。

S P 1025

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で，土器片，盤状剥片の分割材がみられる。

S P 1026 (第23図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で，壺・甕がみられる。82は壺で，頸部に貼付突帯を現存で1条巡らす。

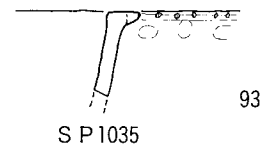
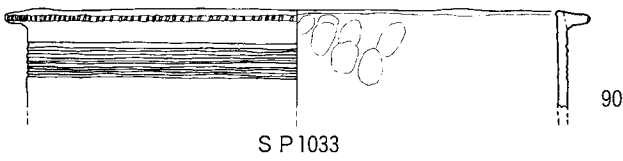
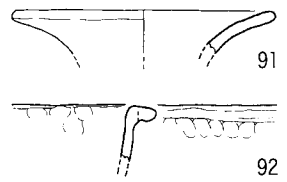
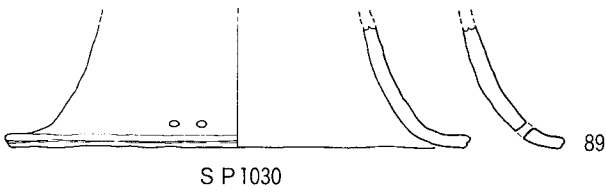
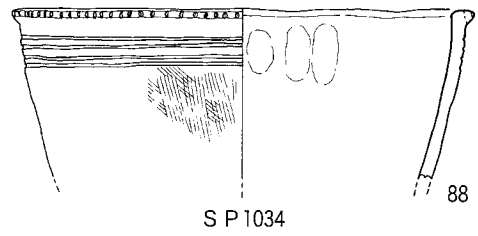
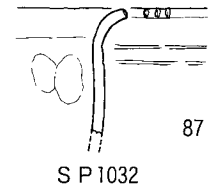
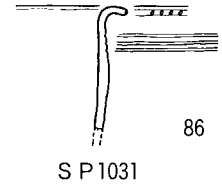
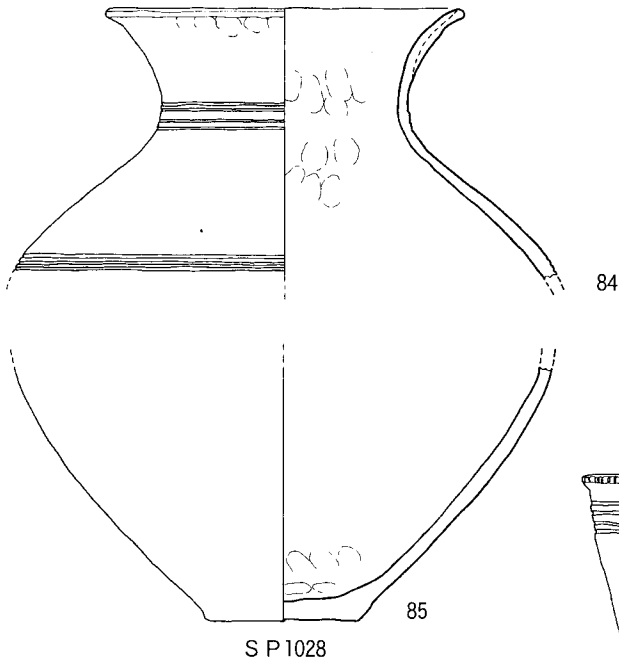
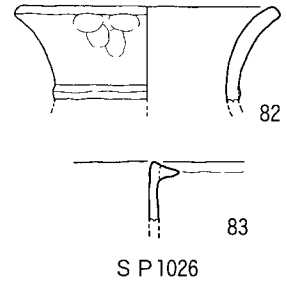
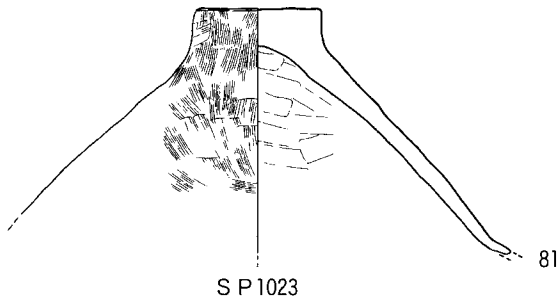
S P 1027

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で，土器片，盤状剥片の分割材または石核がみられる。

S P 1028 (第23図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で，壺がみられる。84・85はいずれも壺である。同一個体の可能性もあるが，土器片の接点がないため，確証がつかめない。84は頸部に4条，体部に現存で3条のヘラ描沈線文を巡らす。

S P 1029



第23図 SP1023~SP1035出土土器(1/4)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、土器片、石鍬がみられる。

S P 1030 (第23図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、蓋、石包丁がみられる。

S P 1031 (第23図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、甕がみられる。86は甕で、口縁部を折り曲げ、外面にヘラ描沈線文を3条施す。

S P 1032 (第23図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、甕がみられる。87は甕で、如意状を呈し、外面にヘラ描沈線文を2条施す。

S P 1033 (第23図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、甕がみられる。90は逆L字口縁の甕である。外面にヘラ描沈線文を6条施す。

S P 1034 (第23図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、甕がみられる。88は甕で、外面にヘラ描沈線文を4条施す。

S P 1035 (第23図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。92・93は逆L字口縁の甕である。

S P 1036 (第24図)

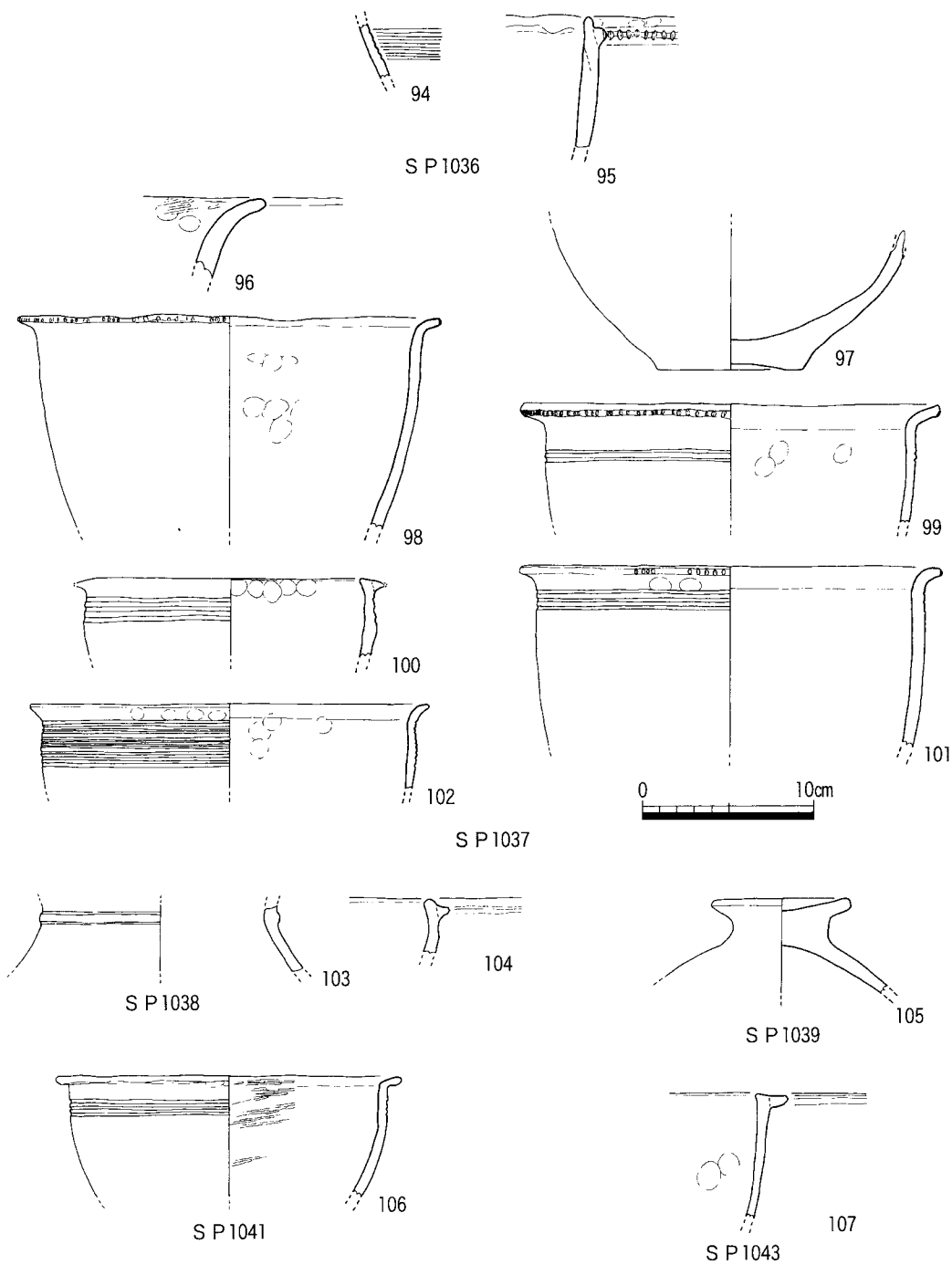
2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。94は壺体部破片で、ヘラ描沈線文を5条程度施す。95は甕で、口縁部付近が歪む。口縁部端部より少し下がった位置に貼付刻目突帯を1条施す。

S P 1037 (第24図, 図版14)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は整理用コンテナ約半分程度の量で、壺・甕、大型蛤刃石斧等がみられる。99~102は甕である。99は外面にヘラ描沈線文を2条施す。100は逆L字口縁を呈し、外面にヘラ描沈線文を3条施す。101はヘラ描沈線文を3条、102は9条施す。

S P 1038 (第24図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。103は壺で、頸部に削出突帯第I種を施す。104は甕で、口縁端部より少し下がった位置に突帯を貼り付ける。



第24図 SP1036~SP1043出土土器 (1/4)

S P 1039 (第24図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、鉢、刃器等がみられる。

S P 1040

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、石鍬がみられる。

S P 1041 (第24図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、甕がみられる。106は外面にヘラ描沈線文を3条施す。

S P 1042

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、不明片岩製品片がみられる。

S P 1043 (第24図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、甕がみられる。107は逆L字口縁の甕である。

S P 1044

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、不明流紋岩製品片がみられる。

S P 1045 (第25図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、壺底部がみられる。

S P 1046

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、土器片、不明石製品がみられる。

S P 1047

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、土器片がみられる。

S P 1048 (第25図)

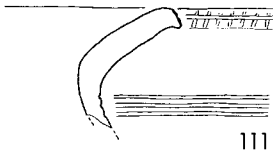
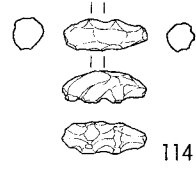
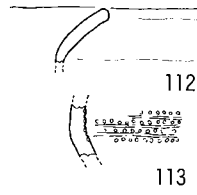
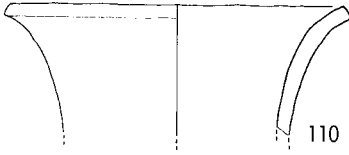
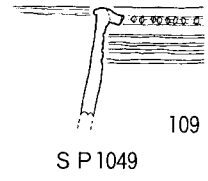
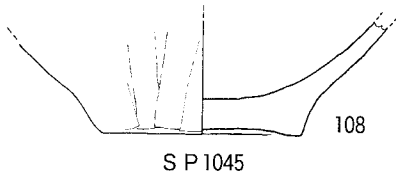
2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺・土製品がある。111～113は壺である。111は頸部にヘラ描沈線文を3条施す。113は頸部に刺突文とヘラ描沈線文を施す。114は不明土製品である。手捏ね成形で、突起が2個みられ、動物の足のような形態であるが、顔の表現はみられない。何かの詰め物かもしれない。

S P 1049 (第25図)

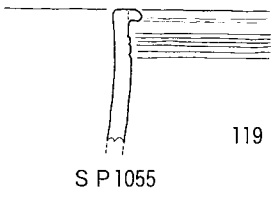
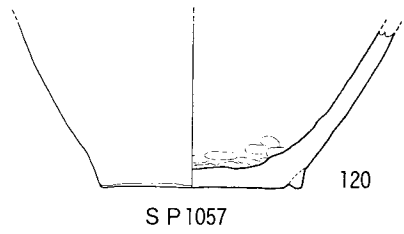
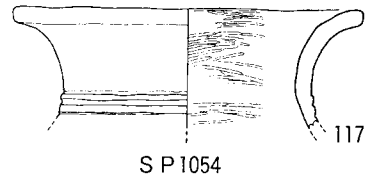
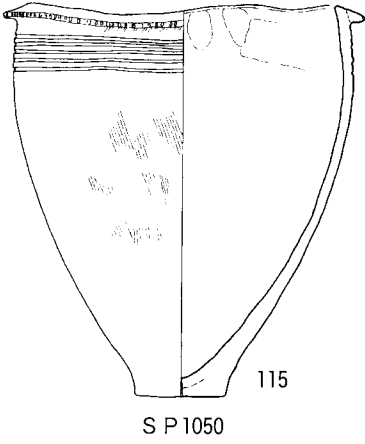
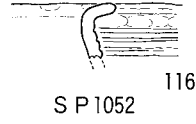
2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、甕がみられる。

S P 1050 (第25図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、甕がみられる。115は甕で、逆L字口縁を呈し、ヘラ描沈線文を5条施す。



S P 1048



第25図 S P 1045～S P 1057出土土器 (1/4)



S P 1051

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、石錐がみられる。

S P 1052 (第25図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、甕がみられる。116は外面にヘラ描沈線文を現存で4条施す。

S P 1053

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、盤状剥片の分割材がみられる。

S P 1054 (第25図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、壺がみられる。

S P 1055 (第25図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺・甕、不明安山岩系製品片がみられる。119は逆L字口縁の甕である。かなり摩滅しており、ヘラ描沈線文が3条みられる。

S P 1056

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、非サヌカイト石製品片がみられる。

S P 1057 (第25図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺底部片がみられる。

S P 1058 (第26図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺底部片がみられる。

S P 1059 (第26図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、甕、石皿または砥石・石包丁がみられる。122は甕で、全体が摩滅しているため、沈線等の有無は不明である。

S P 1060

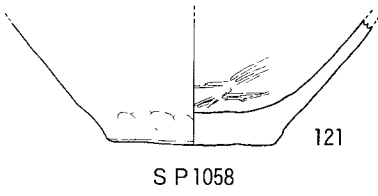
2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、土器片、石鍬・石包丁がみられる。

S P 1061 (第26図)

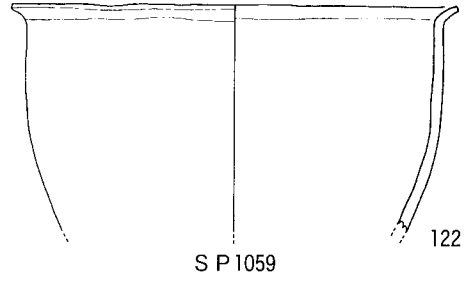
2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺・蓋・鉢がみられる。123は壺の口頸部で、内面に1条の貼付突帯を施す。125は大型の鉢である。

S P 1062 (第26図)

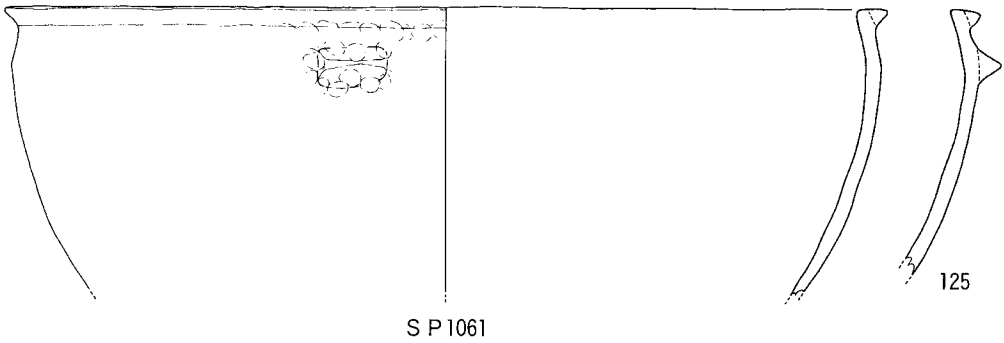
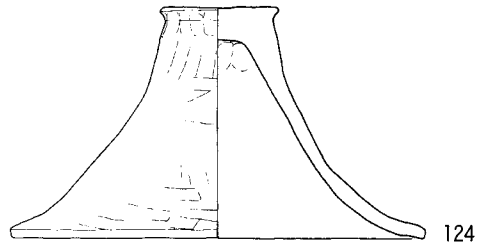
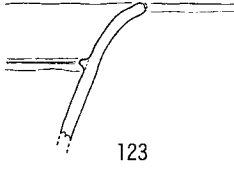
2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。126は口縁部は欠損するが、体部と頸部の境に削出突帯第I種を施す。127・128は甕である。128は外面にヘラ



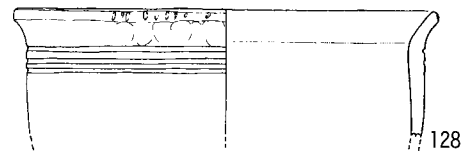
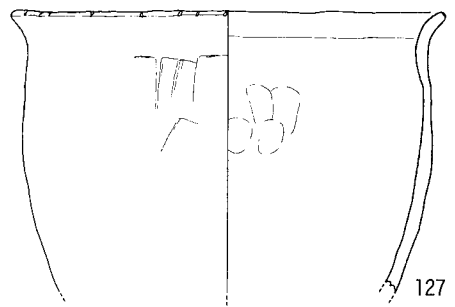
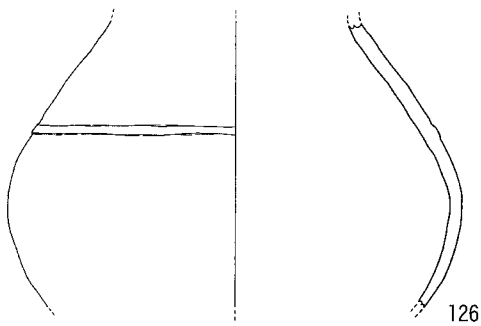
121



122



125



128

第26図 S P 1058～S P 1062出土土器 (1 / 4)

描沈線文を3条施す。

S P 1063 (第27図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、甕がみられる。129は外面にヘラ描沈線文を4条施す。

S P 1064

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量である。

S P 1065

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、非サヌカイト製品がみられる。

S P 1066

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、柱状片刃石斧がみられる。

S P 1067 (第27図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、甕底部片がみられる。

S P 1068

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、土器片、柱状片刃石斧がみられる。

S P 1069 (第27図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。133は壺の口縁部片で、内面に刻目突帯を巡らす。134は壺の体部片で、ヘラ描沈線文を現存で4条施す。135は甕片で、口縁部は如意状を呈する。摩滅が著しいが、現状ではヘラ描沈線文が3条認められる。

S P 1070 (第27図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。

S P 1071

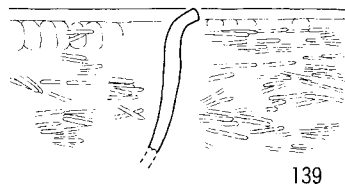
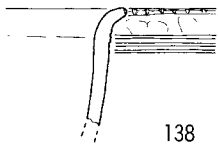
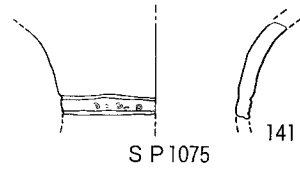
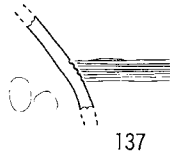
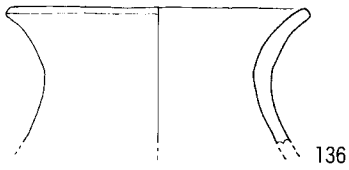
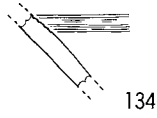
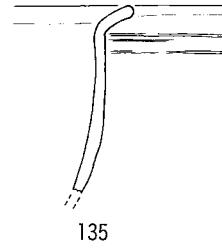
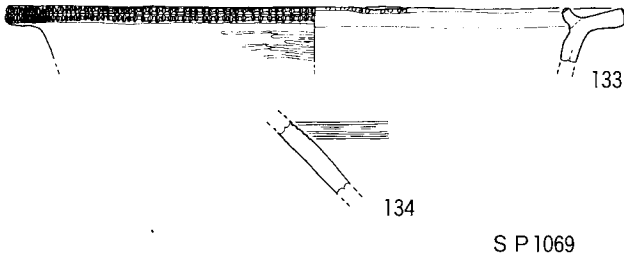
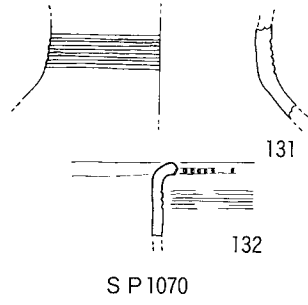
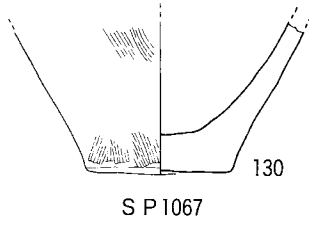
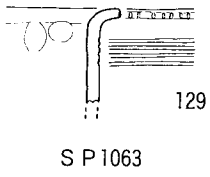
2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、土器片、石包丁未製品がみられる。

S P 1072 (第27図)

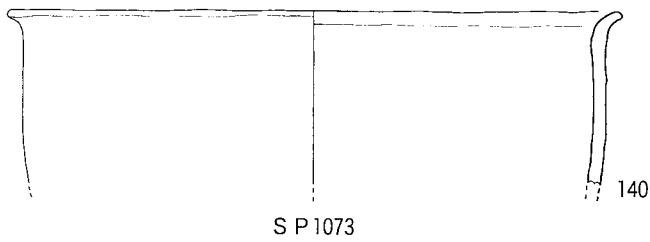
2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺・甕・鉢がみられる。136・137は壺である。137は体部破片で、ヘラ描沈線文を4条施す。138は甕で、ヘラ描沈線文を3条施す。

S P 1073 (第27図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、甕がみられる。140は甕である。摩滅しているため文様の有無は不明である。



S P 1072



第27図 S P 1063~S P 1075出土土器 (1/4)

S P 1074 (第28図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、鉢がみられる。

S P 1075 (第27図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺がみられる。

S P 1076 (第28図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、甕、柱状片刃石斧がみられる。143はヘラ描沈線文を3条施す。

S P 1077 (第28図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量である。

S P 1078

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、盤状剥片の分割材がみられる。

S P 1079 (第28図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。146は甕であるが、摩滅のため文様の有無は不明である。

S P 1080 (第28図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、甕がみられる。147は甕で、逆L字口縁を呈し、外面に櫛描直線文を18条以上施す。

S P 1081 (第28図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、円盤状土製品がみられる。148は円盤状土製品で、土器片を再利用したものである。

S P 1082

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、刃器がみられる。

S P 1083 (第28図)

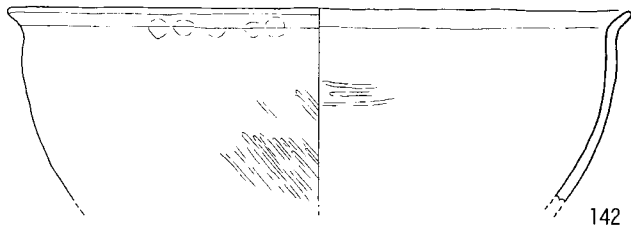
2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺の底部片、片刃石斧片がみられる。

S P 1084 (第28図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、甕がみられる。150は甕の口縁部片である。如意状を呈し、ヘラ描沈線文を現存で2条施す。

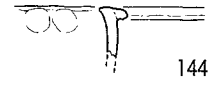
S P 1085 (第28図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、甕がみられる。152は甕で、外面にはヘラ描沈線文4条を巡らした後、縦方向に刻目を4条1組にし、数箇所施す。



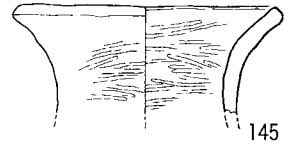
S P 1074

142

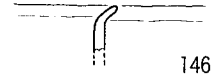


S P 1077

144

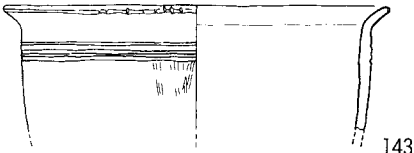


145



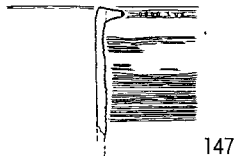
146

S P 1079



143

S P 1076



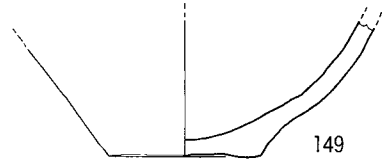
147

S P 1080



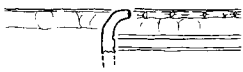
148

S P 1081



149

S P 1083



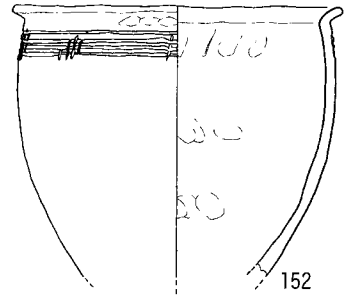
150

S P 1084



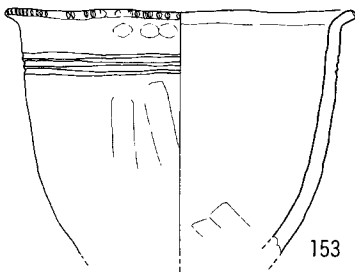
151

S P 1086



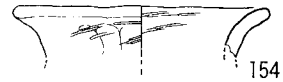
152

S P 1085

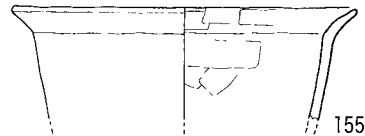


153

S P 1090

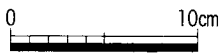


154



155

S P 1091



第28図 S P 1074~S P 1091出土土器 (1 / 4)

S P 1086 (第28図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、壺がみられる。151は壺の口縁部である。器壁の厚さから、かなり大型の壺の口縁部と思われる。粘土紐接合による段をもつ。

S P 1087

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、石錐がみられる。

S P 1088

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、非サヌカイト製品がみられる。

S P 1089

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、石匙がみられる。

S P 1090 (第28図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、甕がみられる。153は甕で、口縁部は如意状を呈し、ヘラ描沈線文を3条施す。

S P 1091 (第28図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺、鉢または甕の口縁部片がみられる。

S P 1092

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、石匙がみられる。

S P 1093 (第29図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、甗がみられる。

S P 1094

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、柱状片刃石斧がみられる。

S P 1095

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、刃器がみられる。

S P 1096 (第29図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺がみられる。

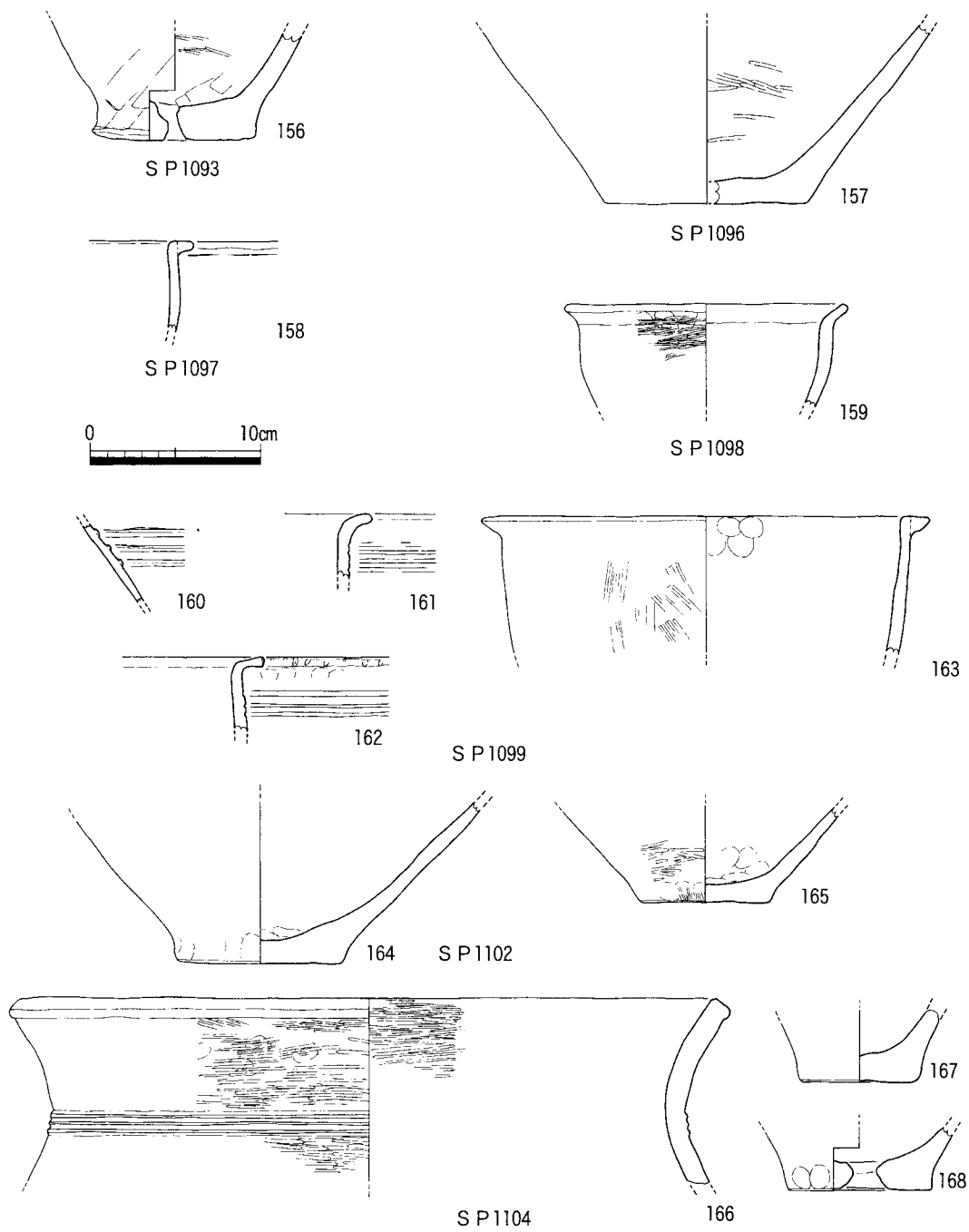
S P 1097 (第29図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、甕がみられる。158は逆L字口縁を呈し、外面は無文である。

S P 1098 (第29図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、鉢がみられる。

S P 1099 (第29図)



第29図 SP1093~SP1104出土土器(1/4)



2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺・甕、石包丁未製品がみられる。160は壺の体部片で、貼付突帯が現存で3条施す。161～163は甕である。161はヘラ描沈線文を現存で4条、162はヘラ描沈線文を3条施す。163は逆L字口縁を呈し、外面は無文である。

S P 1100

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、石皿または砥石がみられる。

S P 1101

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片がみられる。

S P 1102 (第29図)

2区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺の底部片がみられる。

S P 1103

2区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、石皿または砥石がみられる。

S P 1104 (第29図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺・甕・甗がみられる。166は大型の壺で、口縁部下に削出突帯第Ⅱ種、削出突帯間に2条のヘラ描沈線文を施す。

S P 1105 (第30図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、甕がみられる。169は甕で、逆L字口縁を呈する。19条のヘラ描沈線文と三角形刺突文がみられる。

S P 1106 (第30図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、蓋または高杯の脚台部がみられる。

S P 1107 (第30図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、甕がみられる。171は甕で、2条のヘラ描沈線文の下方には、下方向に板状工具で削ることにより段を形成する。

S P 1108 (第30図)

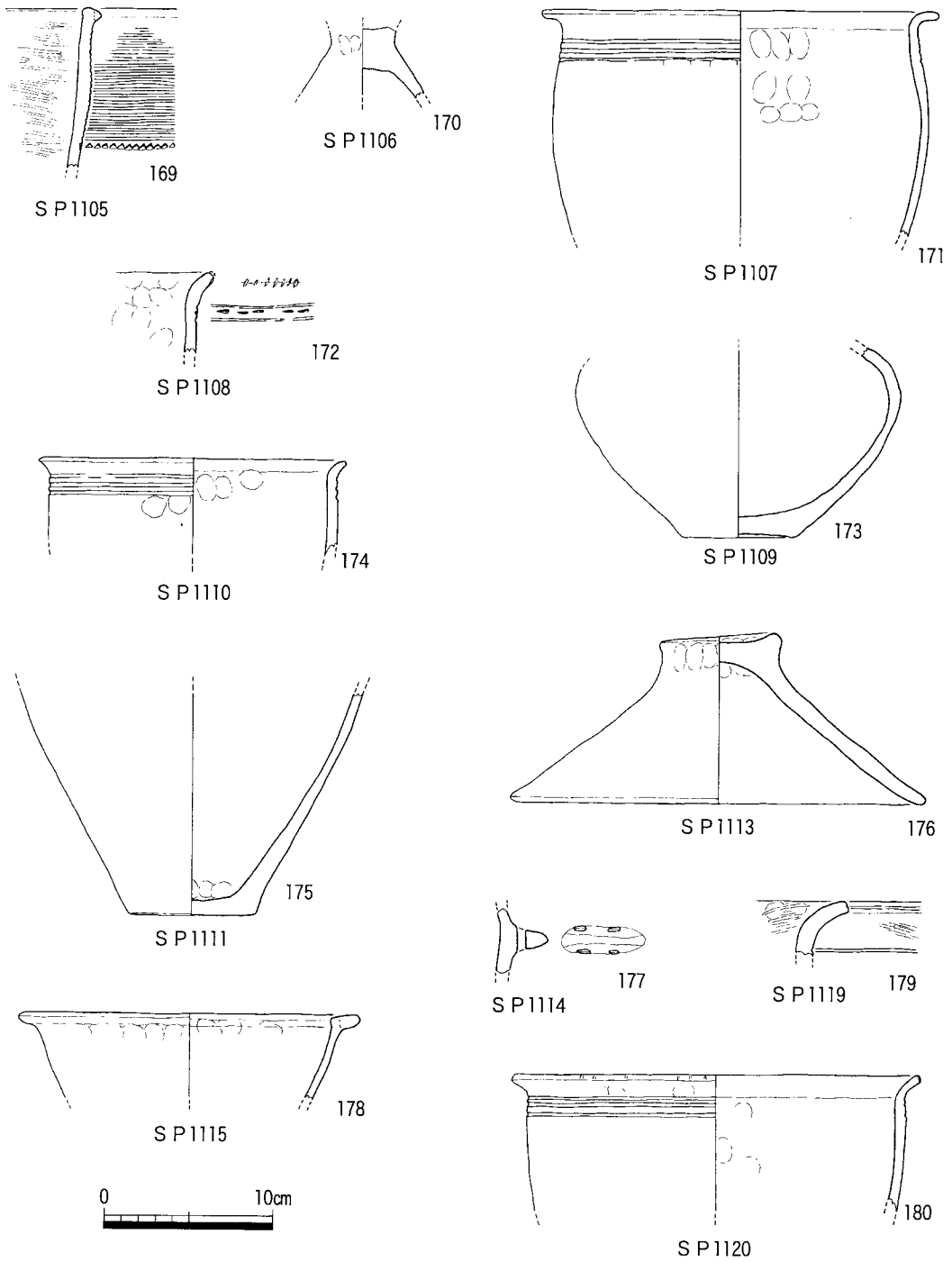
3区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、甕がみられる。172はヘラ描沈線文2条間にヘラ先による刺突文が巡る。

S P 1109 (第30図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺がみられる。

S P 1110 (第30図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、甕がみられる。174はヘラ描沈線文を3



第30図 SP 1105~SP 1120出土土器 (1/4)

条施す。

S P 1111 (第30図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、甕がみられる。

S P 1112

3区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、石包丁がみられる。

S P 1113 (第30図, 図版13)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、蓋がみられる。

S P 1114 (第30図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、鉢の把手がみられる。

S P 1115 (第30図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、鉢がみられる。

S P 1116

3区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、石鍬がみられる。

S P 1117

3区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、石包丁がみられる。

S P 1118

3区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、土器片、刃器がみられる。

S P 1119 (第30図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、壺がみられる。179は壺で、口縁端部と外面にヘラ描沈線文を施す。

S P 1120 (第30図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、甕がみられる。180は外面にヘラ描沈線文を3条施す。

S P 1121

3区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、石鍬がみられる。

S P 1122

3区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、石鍬がみられる。

S P 1123

3区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、刃器がみられる。

S P 1124 (第31図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺・甕、石包丁がみられる。183は壺の頸部片である。ヘラ描沈線文と段または削出突帯第Ⅰ種を施すが、削出突帯の可能性が高い。184は甕である。摩滅が著しく、外面にはヘラ描沈線文1条しか観察できない。

S P 1125 (第31図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。181は大型の壺の口縁部片である。口縁部下に現存2条のヘラ描沈線文を施す。182は甕で、ヘラ描沈線文を1条施す。

S P 1126 (第31図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、甕がみられる。185は甕で、外面には3条のヘラ描沈線文を施す。

S P 1127

3区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、石包丁がみられる。

S P 1128 (第31図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、蓋がみられる。

S P 1129 (第31図, 図版14)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、甕がみられる。187はヘラ描沈線文を4条、188はヘラ描沈線文を3条施す。

S P 1130 (第31図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、甕がみられる。189はヘラ描沈線文を6条施す。

S P 1131 (第31図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、甕がみられる。190は逆L字口縁を呈し、ヘラ描沈線文9条、三角形刺突文を施す。

S P 1132 (第31図)

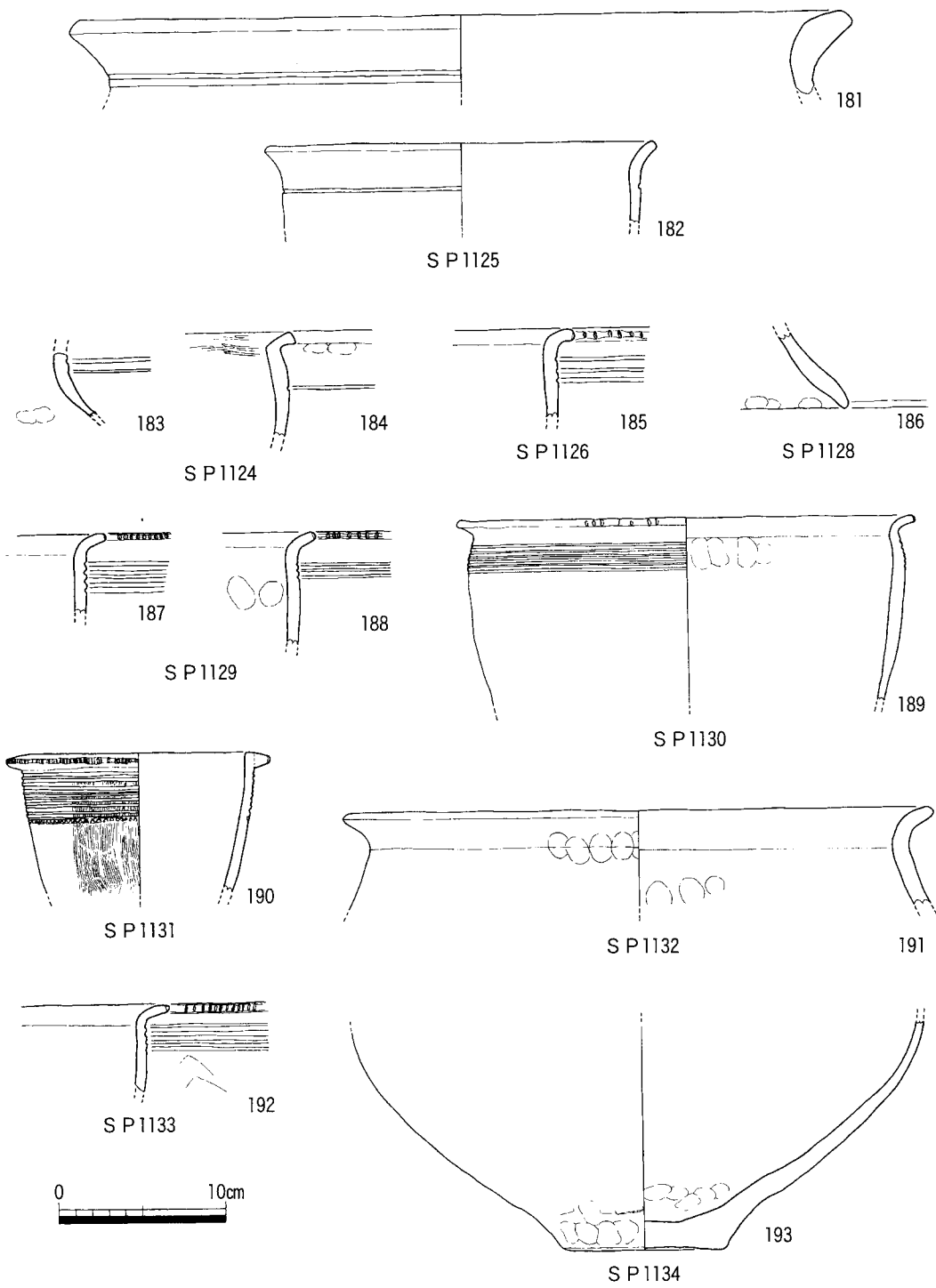
3区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺がみられる。191は大型の壺である。

S P 1133 (第31図)

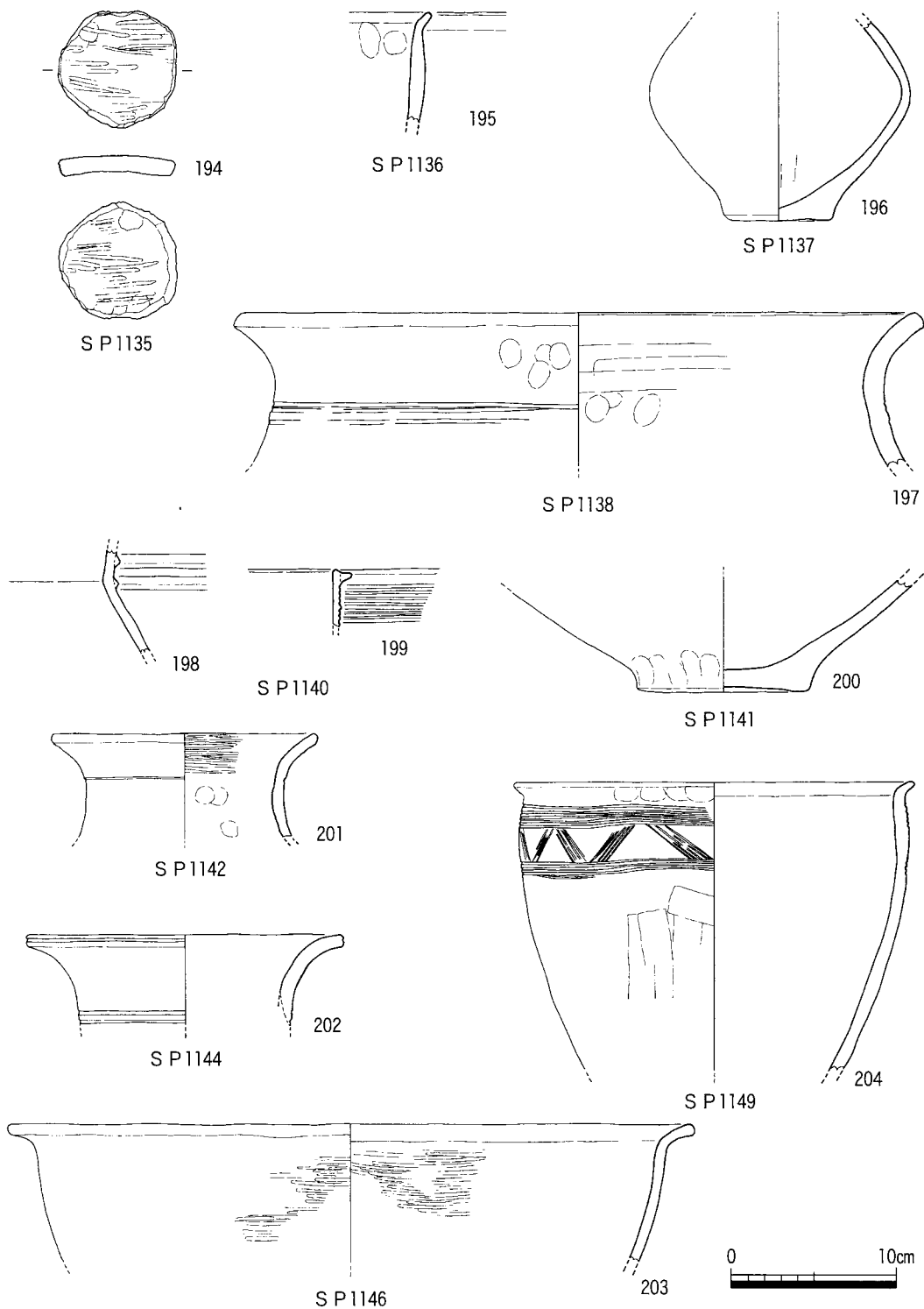
3区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、甕がみられる。192は外面にヘラ描沈線文を4条施す。

S P 1134 (第31図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺の底部がみられる。



第31图 SP1124~SP1134出土土器(1/4)



第32図 SP1135~SP1149出土土器(1/4)

S P 1135 (第32図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、円盤状土製品がみられる。

S P 1136 (第32図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、甕がみられる。

S P 1137 (第32図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺がみられる。

S P 1138 (第32図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺がみられる。197は大型の壺で、口縁部下にはヘラ描沈線文を3条施す。

S P 1139

3区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、不明片岩製品片がみられる。

S P 1140 (第32図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。198は壺の頸部片で、頸部に貼付突帯を2条以上施す。199は甕で、逆L字口縁を呈し、ヘラ描沈線文を現存で7条施す。

S P 1141 (第32図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺の底部がみられる。

S P 1142 (第32図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺がみられる。201は口縁部下にヘラ描沈線文による際取りを行った後、段を形成する。

S P 1143

3区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片がみられる。

S P 1144 (第32図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺がみられる。202は口縁端部と頸部にヘラ描沈線文を施す。

S P 1145

3区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、石鋏がみられる。

S P 1146 (第32図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、鉢がみられる。203は大型の鉢である。

S P 1147

3区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、片刃石斧がみられる。

S P 1148

3区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、不明片岩製品片がみられる。

S P 1149 (第32図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、甕がみられる。204はヘラ描沈線文間に複線山形文を施す。

S P 1150 (第33図)

3区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、甕がみられる。205は口縁部が内傾し、外面にヘラ描沈線文を7条施す。

S P 1151

4区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片がみられる。

S P 1152

4区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、石包丁がみられる。

S P 1153

4区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、石皿または砥石がみられる。

S P 1154 (第33図)

4区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、甕がみられる。206は逆L字口縁を呈し、ヘラ描沈線文を5条施す。

S P 1155 (第33図, 図版14)

4区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、壺がみられる。207は頸部に貼付刻目突帯を2条施す。

S P 1156

4区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片、不明片岩製品片がみられる。

S P 1157 (第33図, 図版15)

4区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、甕がみられる。

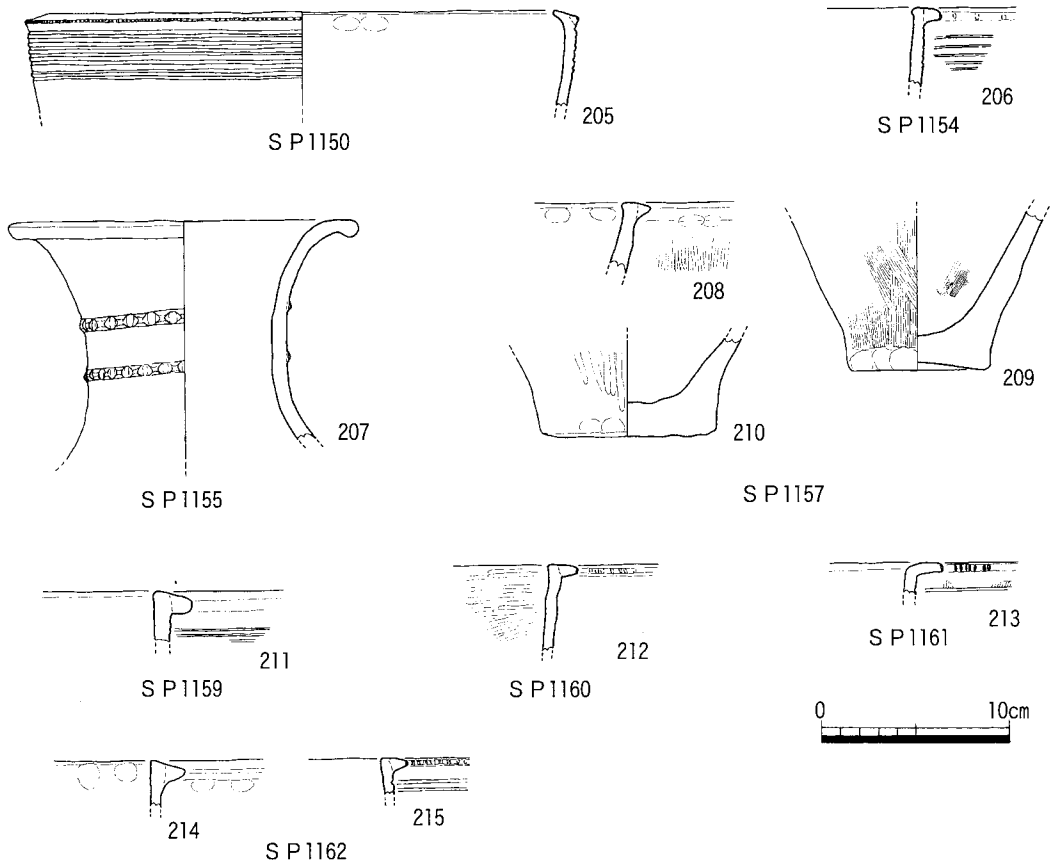
S P 1158

4区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、土器片、石錐がみられる。

S P 1159 (第33図)

4区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、甕がみられる。211は逆L字口縁を呈し、ヘラ描沈線文を3条以上施す。





第33図 S P 1150～S P 1162出土土器（1 / 4）

S P 1160（第33図）

4区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、土器片がみられる。

S P 1161（第33図）

4区に位置する柱穴である。出土遺物は微量で、甕がみられる。213は折り曲げ口縁で、ヘラ描沈線文を施す。

S P 1162（第33図）

4区に位置する柱穴である。出土遺物は少量で、甕がみられる。214・215は逆L字口縁を呈する。

（3）土坑

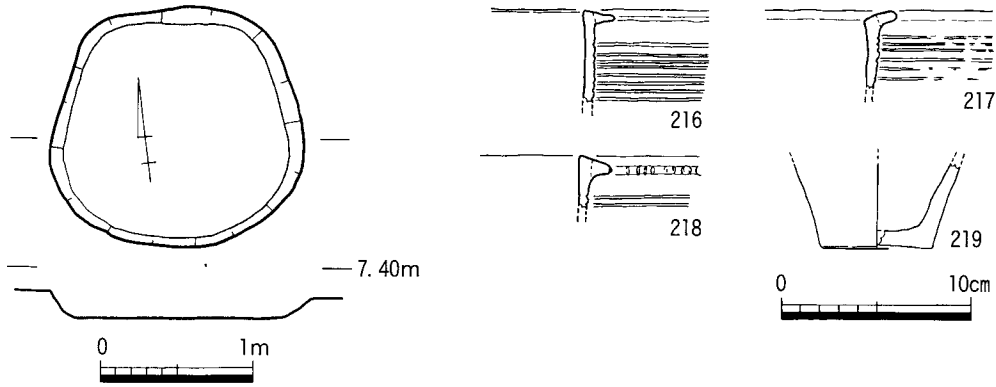
S K 1001（第34図）

1区中央部北西寄り，環濠外側に位置する土坑である。平面形はややいびつな隅丸方形を呈し，長軸1.7m，短軸1.6m，深さ0.15mを測る。出土遺物は少量で，甕がみられる。216

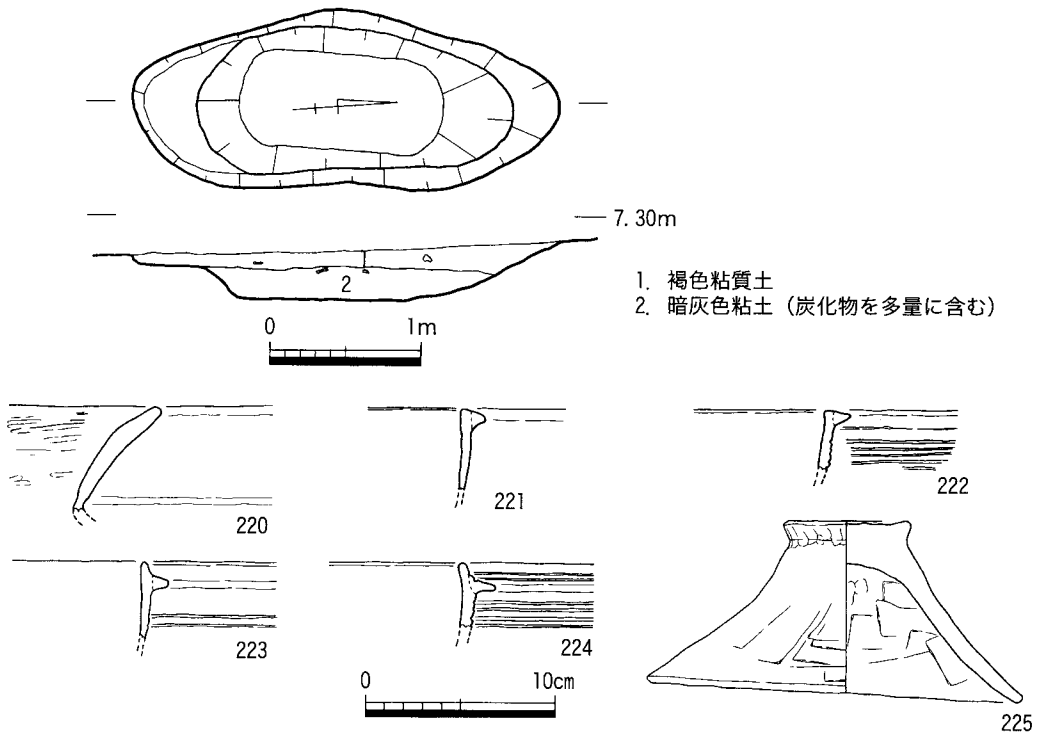
~218は甕の口縁部片である。いずれも逆L字口縁である。216はヘラ描沈線文を現存で8条, 217は現存で6条施す。

S K 1002 (第35図)

1区中央部北寄り, 環濠外側に位置する土坑である。平面形は長楕円形を呈し, 長軸2.8m, 短軸1.2mを測る。短辺は壁の立ち上がりが極めて緩やかである。底面は平坦で, 深さ0.4mを測る。出土遺物は少量で, 壺・甕・蓋がみられる。221・222は逆L字口縁の甕であ



第34図 S K 1001平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第35図 S K 1002平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

る。223・224は口縁部下に突帯を巡らし、223は突帯下にヘラ描沈線文、224は突帯の上下にヘラ描沈線文を巡らす。

#### S K 1003 (第36図)

1区北端、環濠外側に位置する土坑である。北部は調査区外に連続するため、全体は不明である。残存部分から平面形はほぼ楕円形を呈し、長軸2.8m以上、短軸3.0m、深さ0.05mを測る。底面からは4個の小穴(径0.2~0.6m、深さ0.15~0.3m)が検出されたが、S K 1003に伴うものかどうかは不明である。出土遺物は少量で、底部片や甕、石包丁・石鋏・石錐がみられる。227・228は甕である。いずれも口縁部は如意状を呈し、228はヘラ描沈線文を3条施す。

#### S K 1004 (第37図)

1区北端、環濠外側に位置する土坑である。北部は調査区外に連続するため、全体は不明である。また、柱穴と重複し、一部が削平されている。平面形は楕円形を呈し、長軸は1.5m以上、短軸0.55m以上、深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で、土器片、石錐がみられる。

#### S K 1005 (第38・39図)

1区北端、環濠外側に位置する土坑である。北部は調査区外に連続するため、全体は不明である。残存部分から平面形はほぼ円形を呈し、径1.4m前後、深さ0.1mを測ると推定される。出土遺物は少量で、甕がみられる。229は逆L字口縁で、ヘラ描沈線文6条程度施す。230は口縁部が直口するが、貼付口縁が剥離した可能性も残る。

#### S K 1006 (第40図)

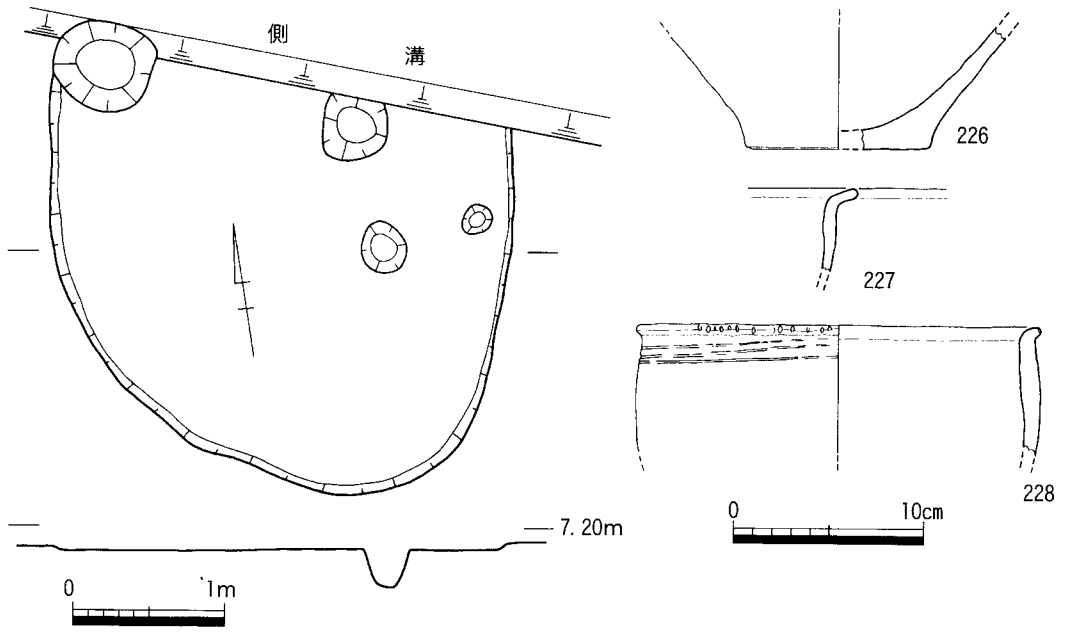
1区北部、環濠外側に位置する土坑である。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸1.5m、短軸0.7m、深さ0.15mを測る。出土遺物は少量で、甕がみられる。231は口縁部が剥離しているが、逆L字口縁の甕であろう。

#### S K 1007 (第41図)

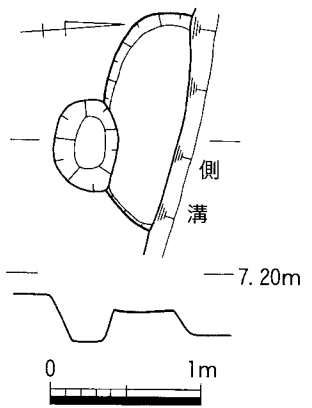
1区北東部、環濠外側に位置する土坑である。柱穴S P 1001と重複し、一部が削平されている。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸1.2m、短軸0.55mを測る。底面からは小穴が検出されたが、S K 1007に伴うものかどうかは不明である。小穴を除く深さは0.05mを測る。出土遺物は少量で、石包丁がみられる。

#### S K 1008 (第42図)

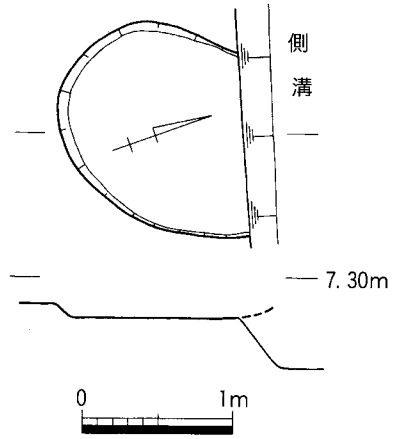
1区北東部、環濠外側に位置する土坑である。土坑S K 1007と重複し、一部が削平され



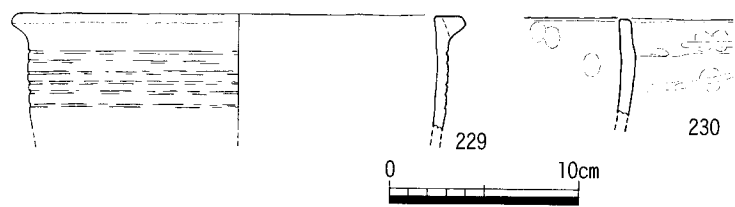
第36図 S K 1003平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/40)



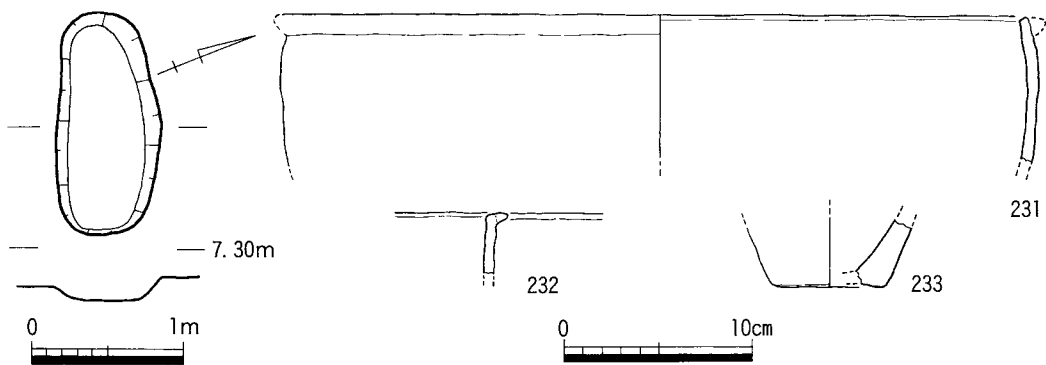
第37図 S K 1004平・断面図 (1/50)



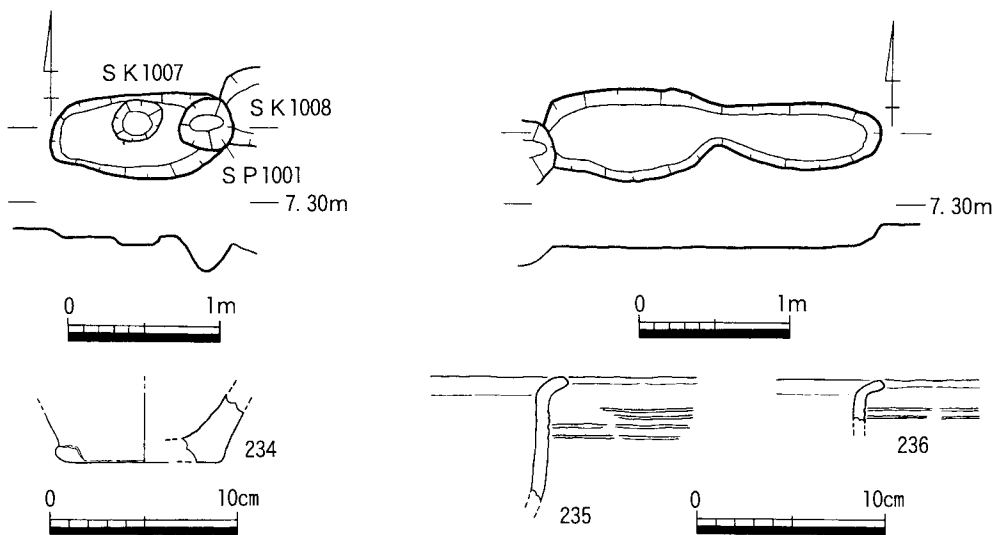
第38図 S K 1005平・断面図 (1/50)



第39図 S K 1005出土土器 (1/4)

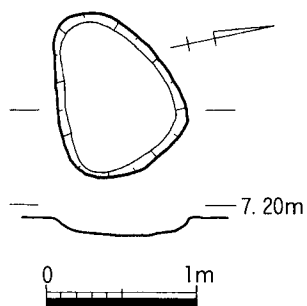


第40图 SK 1006平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)

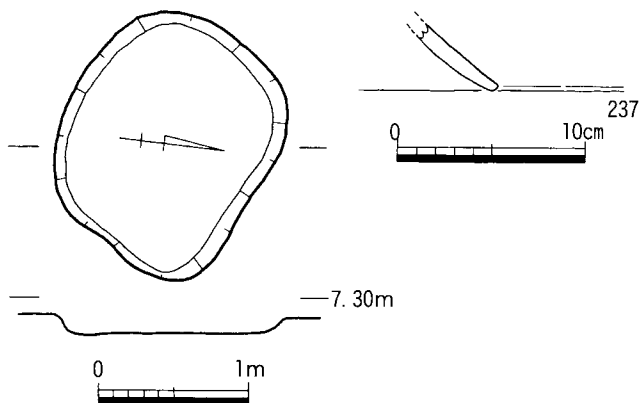


第41图 SK 1007平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)

第42图 SK 1008平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)



第43图 SK 1009 平·断面图 (1/50),



第44图 SK 1010平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)

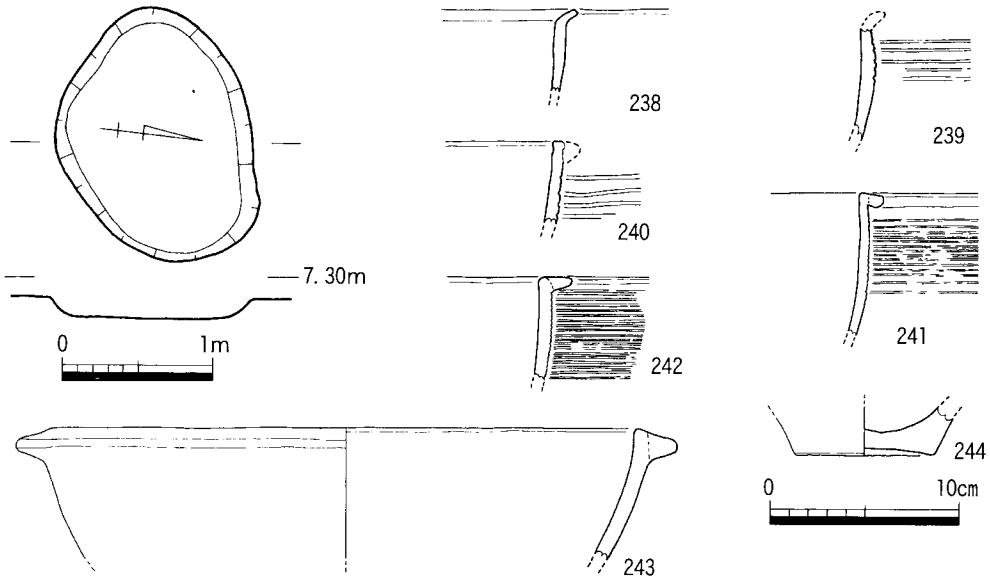
ている。平面形は瓢箪形を呈し、長軸2.25m前後、短軸0.3~0.6m、深さ0.15mを測る。出土遺物は少量で、甕がみられる。235・236の口縁部は如意状を呈す。235はヘラ描沈線文を4条、236は現存で2条施す。

S K 1009 (第43図)

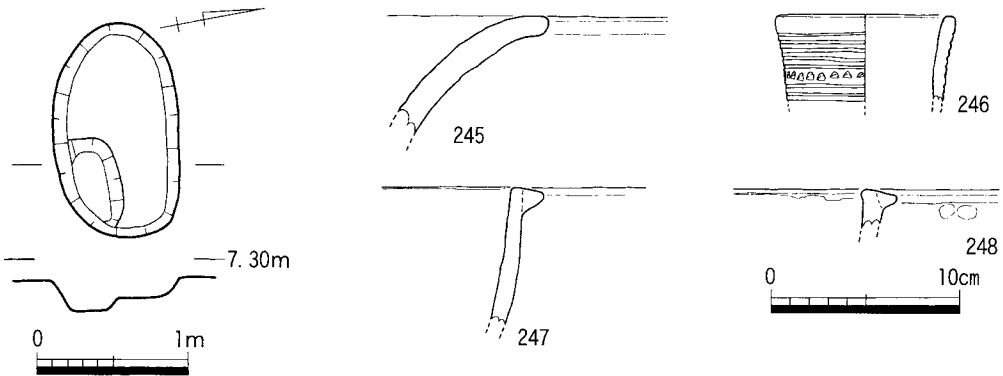
1区北東部、環濠外側に位置する土坑である。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸1.1m、短軸0.8m、深さ0.1mを測る。出土遺物は微量で、土器片がみられる。

S K 1010 (第44図)

1区北部、環濠外側に位置する土坑である。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸1.8m、短軸1.4m、深さ0.1mを測る。出土遺物は微量で、蓋片がみられる。



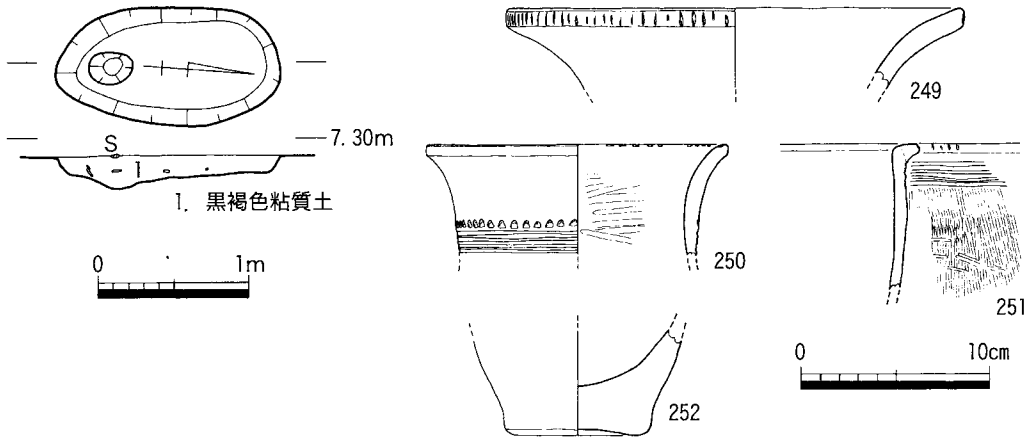
第45図 S K 1011平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



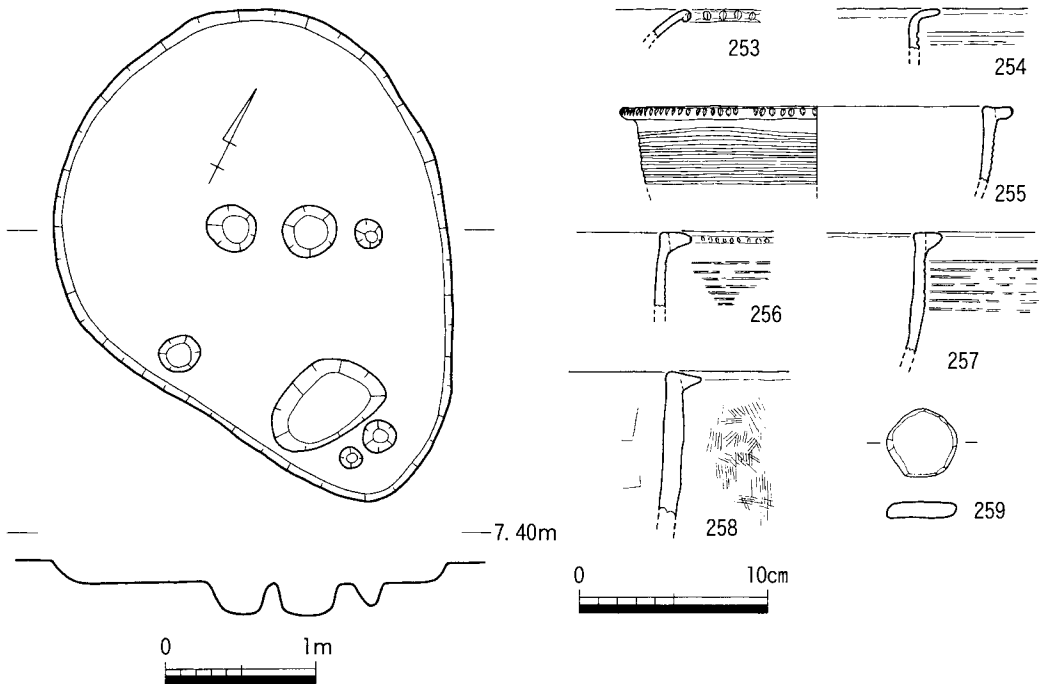
第46図 S K 1012平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

S K 1011 (第45図)

1区北部，環濠外側に位置する土坑である。平面形はややいびつな楕円形を呈し，長軸1.7m，短軸1.3m，深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で，甕・鉢，石鋤がみられる。238の口縁部は如意状を呈する。239はヘラ描沈線文5条施す。240～242は逆L字口縁を呈し，240はヘラ描沈線文を現存で4条，241は14条，242は現存で18条施す。



第47図 S K 1013平・断面図 (1/50)，出土土器 (1/4)



第48図 S K 1014平・断面図 (1/50)，出土土器 (1/4)

#### S K 1012 (第46図)

1区中央部やや北寄り、環濠外側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し、長軸1.45m、短軸0.8mを測る。底面に小穴が検出されているが、S K 1012に伴うかどうかは不明である。小穴を除く深さは0.1mを測る。出土遺物は少量で、壺・鉢・甕がみられる。246は鉢で、ヘラ描沈線文と三角形刺突文を巡らす。247・248は逆L字口縁の甕である。いずれも摩滅しているため文様の有無は不明である。

#### S K 1013 (第47図)

1区中央部やや北寄り、環濠外側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し、長軸1.5m、短軸0.8mを測る。底面南部には円形の窪みがみられる。最深部で深さ0.2mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕、刃器がみられる。250は壺である。口縁部の外反はあまり大きくないが、口縁部内面に三角形刺突文を巡らし、頸部外面には三角形刺突文、ヘラ描沈線文を4条以上施す。251はヘラ描沈線文を4条施す。

#### S K 1014 (第48図)

1区北東部、環濠外側に位置する土坑である。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸3.5m、短軸2.6mを測る。底面には7個の小穴(径0.15~0.75m、深さ0.1~0.2m)が検出されたが、S K 1014に伴うかどうかは不明である。小穴を除く深さは0.15mを測る。出土遺物は少量で、甕・円盤状土製品等がみられる。254は折り曲げ口縁で、ヘラ描沈線文を現存で2条施す。255~258は甕で、いずれも逆L字口縁である。255はヘラ描沈線文を9条、256は現存で7条、257は7条施す。259は土器片を再利用した円盤状土製品である。

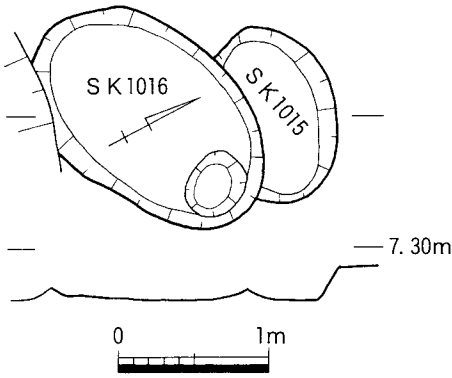
#### S K 1015 (第49・50図)

1区中央部やや東寄り、環濠外側に位置する土坑である。土坑S K 1016と重複し、一部が削平されている。平面形はほぼ楕円形を呈すると推定され、長軸1.2m、短軸0.5m以上、深さ0.2mを測る。出土遺物は微量で、甕がみられる。

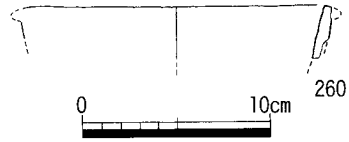
#### S K 1016 (第49・51図)

1区中央部やや東寄り、環濠外側に位置する土坑である。土坑S K 1015と重複し、一部を削平している。平面形はほぼ楕円形を呈し、長軸1.8m、短軸1.1mを測る。底面からは小穴(径0.3~0.4m、深さ0.2m)が検出されたが、S K 1016に伴うかどうかは不明である。小穴を除く深さは0.2mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕、蓋または高杯の脚台部、打製石斧がみられる。263は口縁部を欠損する。半截竹管ヘラ描沈線文を6条、一部では8条施す。

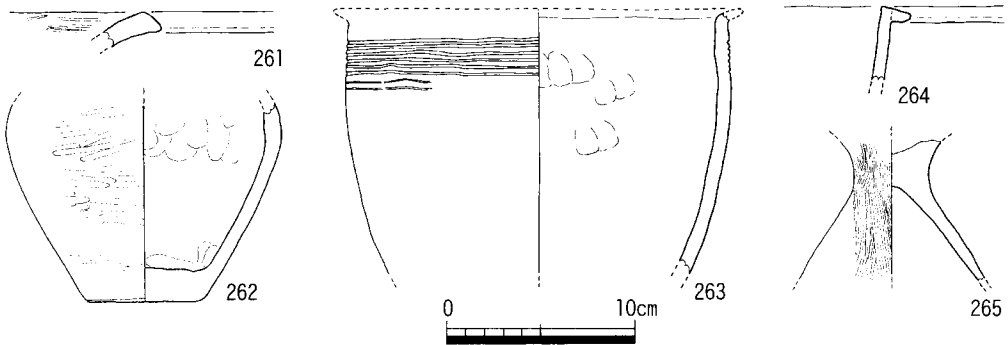




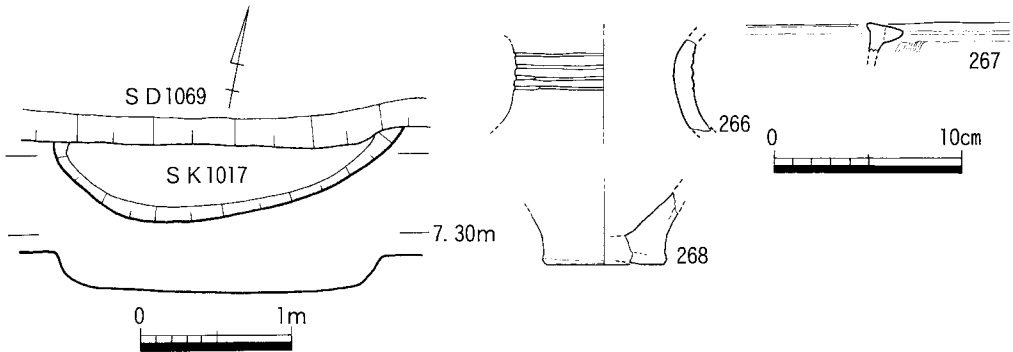
第49図 S K 1015・S K 1016  
平・断面図 (1/50)



第50図 S K 1015出土土器 (1/4)



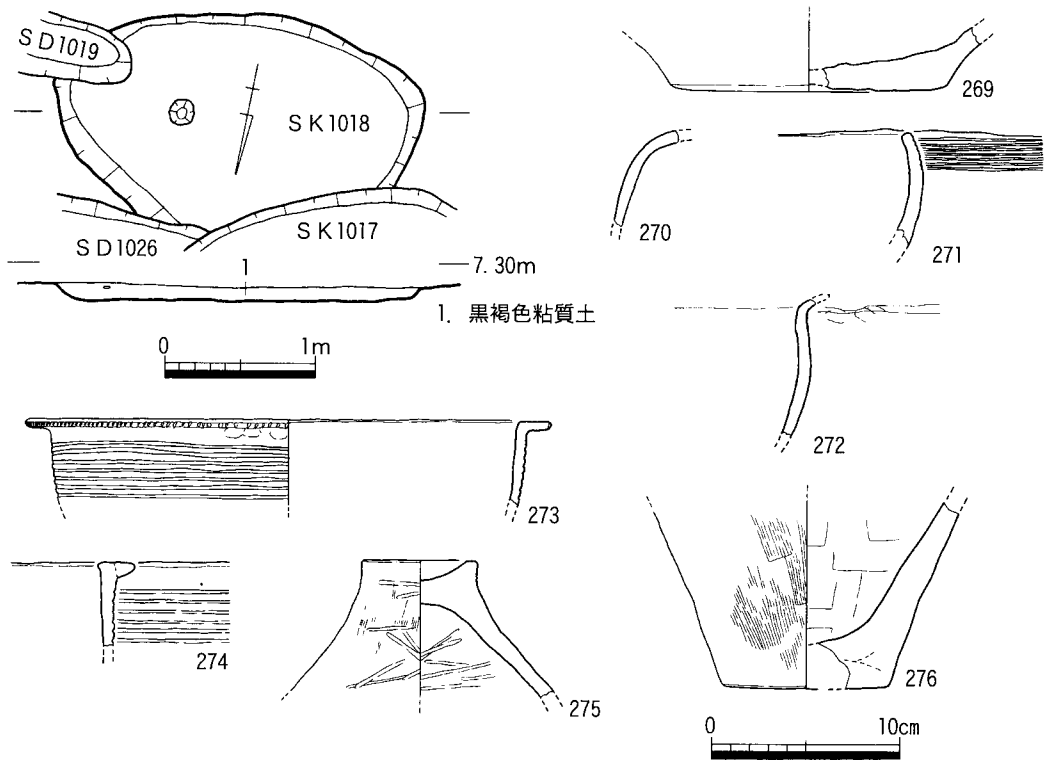
第51図 S K 1016出土土器 (1/4)



第52図 S K 1017平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

S K 1017 (第52図)

1区中央部やや東寄り，環濠外側に位置する土坑である。溝S D 1069と重複し，一部が削平されている。残存部分から推定すると平面形はほぼ楕円形を呈し，長軸2.3m，短軸0.5m以上，深さ0.25mを測る。出土遺物は少量で，壺・甕がみられる。266は壺の頸部で，ヘラ描沈線文を現存で4条施す。267は逆L字口縁の甕である。



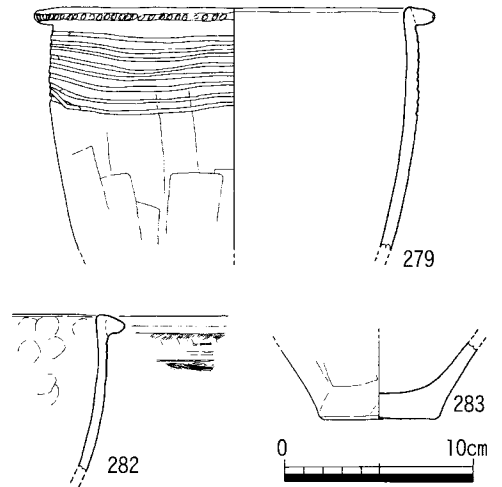
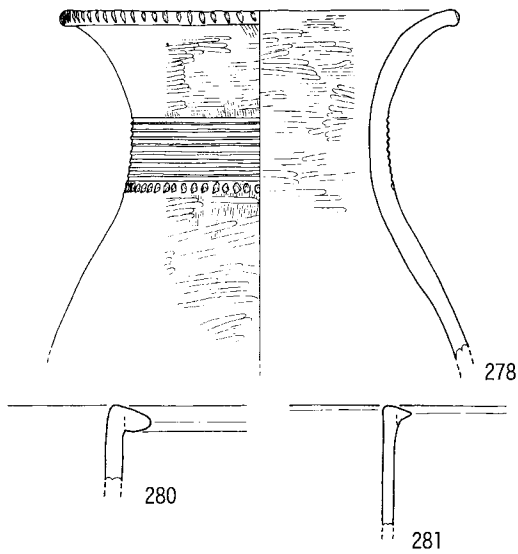
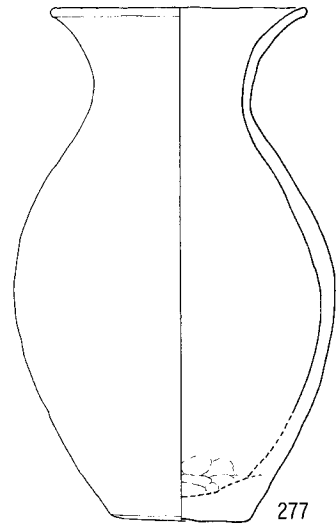
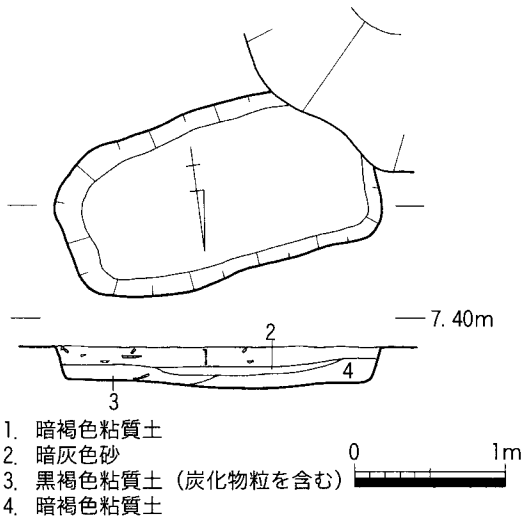
第53図 S K 1018平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

S K 1018 (第53図)

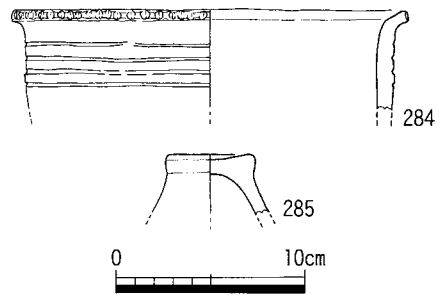
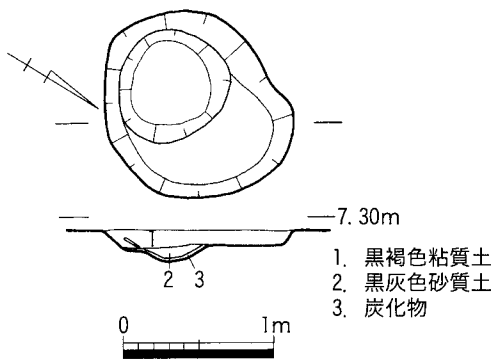
1区中央部やや東寄り、環濠外側に位置する土坑である。土坑S K 1017と重複し、一部が削平されている。残存部分から推定すると平面形はほぼ楕円形を呈し、長軸2.4m、短軸1.45m以上を測る。底面からは小穴(径0.15m、深さ0.1m)が検出されたが、S K 1018に伴うかどうか明確ではない。小穴を除く深さは0.1mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕・蓋、柱状片刃石斧がみられる。271は無頸壺で、ヘラ描沈線文を7条巡らす。272・273は折り曲げ口縁である。273はヘラ描沈線文を現存で7条施す。274は逆L字口縁で、ヘラ描沈線文を現存で6条施す。

S K 1019 (第54図)

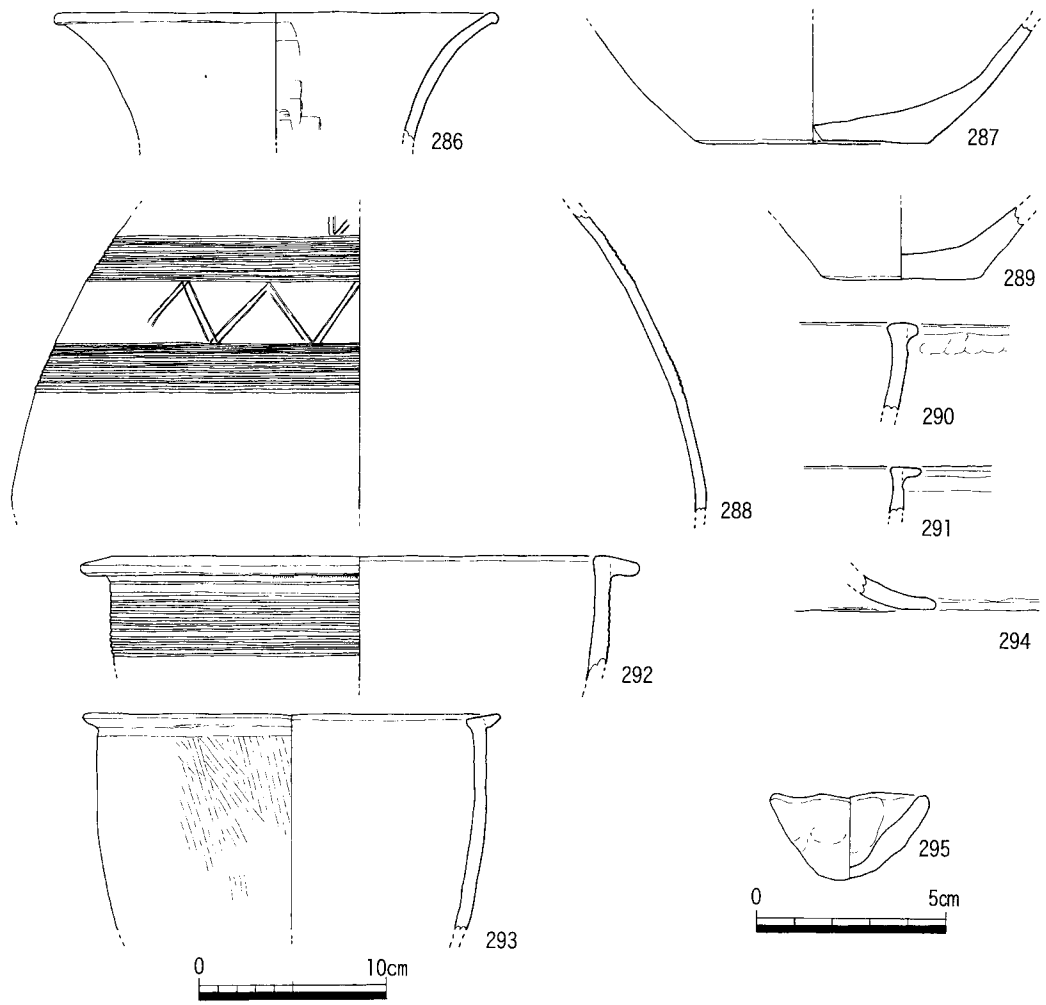
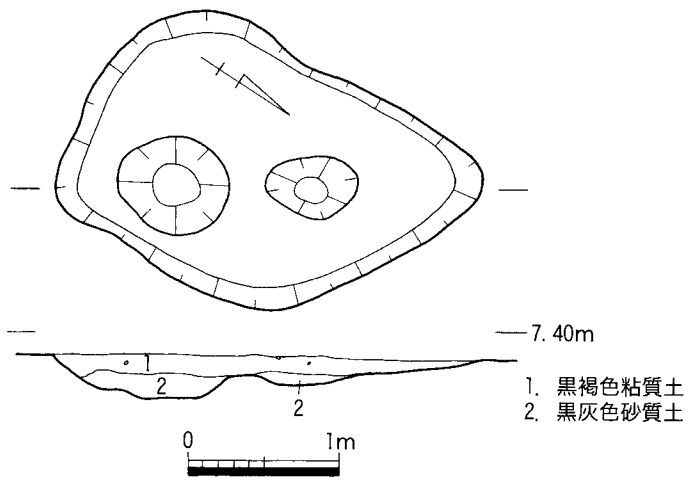
1区中央部東寄り、環濠外側に位置する土坑である。南西部の一部は平安時代以前に形成された沼状遺構に削平されている。平面形はほぼ隅丸長方形を呈し、長軸2.1m、短軸1.1mを測る。断面形は箱形を呈し、底面は平坦である。深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕、石鋤がみられる。277は体部が細長く、無文である。278も277とほぼ同様の器形になると推定されるが、頸部にヘラ描沈線文9条と方形刺突文を巡らす。279~282は逆L字



第54図 S K 1019平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第55図 S K 1020平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第56図 S K1021平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4, 1/2)

口縁の甕である。279は歪んだヘラ描沈線文を8条施す。

S K 1020 (第55図)

1区東部、環濠外側に位置する。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸1.3m、短軸1.2mを測る。西部には平面形円形の窪みがみられる。土層堆積状況から先行する重複土坑であると考えられる。径0.8m前後、深さ0.2mを測る。出土遺物は少量で、甕・蓋、柱状片刃石斧がみられる。284はヘラ描沈線文を4条施す。

S K 1021 (第56図)

1区東部、環濠外側に位置する土坑である。平面形はいびつな楕円形で、長軸2.8m、短軸2.0mを測る。底面には2箇所の窪みがある。最深部で深さ0.3mを測る。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、壺・甕・蓋・ミニチュア土器鉢がみられる。288は壺の体部で、半截竹管山形文とヘラ描沈線文11条を2単位を施す。290～293は逆L字口縁の甕である。295はミニチュア土器鉢で、手捏ね成形である。

S K 1022 (第57図)

1区東端、環濠外側に位置する土坑である。東部は調査区外に連続する。また、溝S D 1021と重複し、一部が削平されている。平面形は不明であるが、長軸2.5m以上、短軸1.5m以上、深さ0.15mを測る。出土遺物は少量で、鉢、底部片がみられる。296はヘラ描沈線文を7条施す。

S K 1023 (第58図)

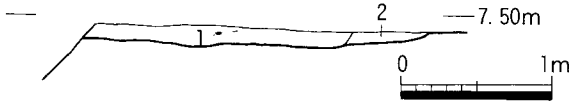
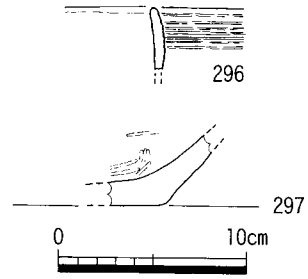
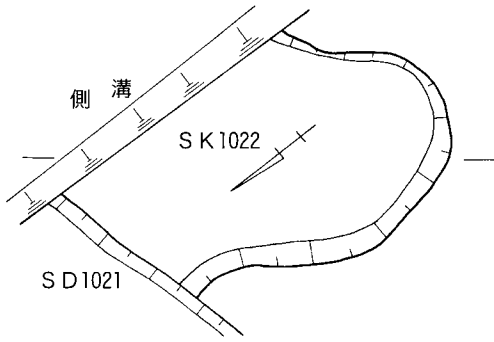
1区東部、環濠外側に位置する土坑である。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸2.15m、短軸0.95mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.25mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕、柱状片刃石斧がみられる。299は口縁部が剥落しているが、口縁部貼付の逆L字口縁を呈するものと考えられる。外面にヘラ描沈線文を6条施す。

S K 1024 (第59図)

1区東部、環濠外側に位置する土坑である。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸1.8m、短軸1.2mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、埋土は黒褐色砂混じり粘土である。深さ0.1mを測る。遺物は少量で、壺がみられる。301は壺で、大きく開く口縁部の内面には3条の貼付突帯を施す。

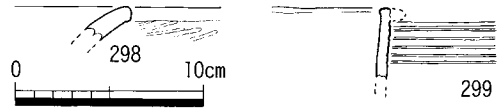
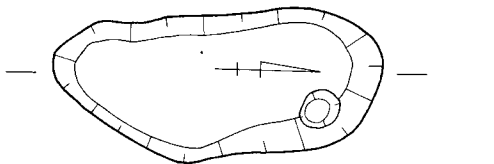
S K 1025 (第60図)

1区南東部、環濠外側に位置する土坑である。溝S D 1005と重複し、一部が削平されている。平面形はハート形を呈し、長軸1.5m、短軸1.25mを測る。底面からは小穴(径0.2m、

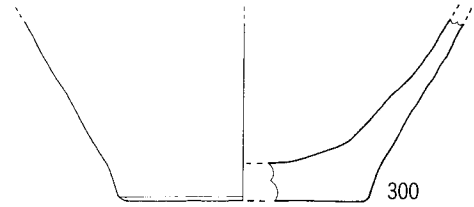


- 1. 黒褐色粘質土
- 2. 褐色粘質土

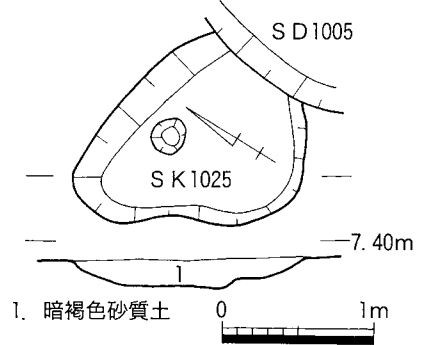
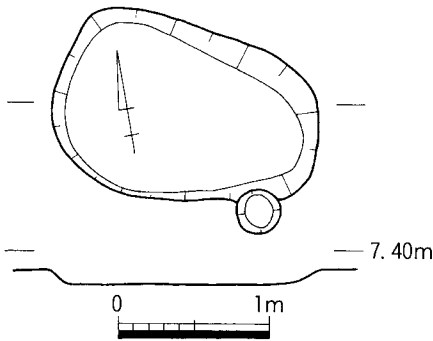
第57図 SK 1022平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



- 1. 暗褐色粘質土
- 2. 褐色粘質土
- 3. 灰色粗砂
- 4. 黒褐色粘質土

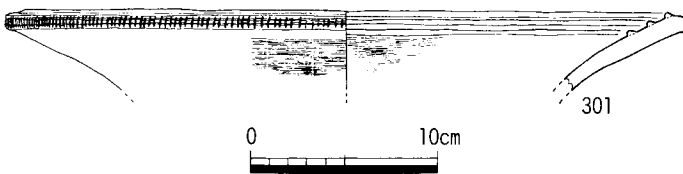


第58図 SK 1023平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

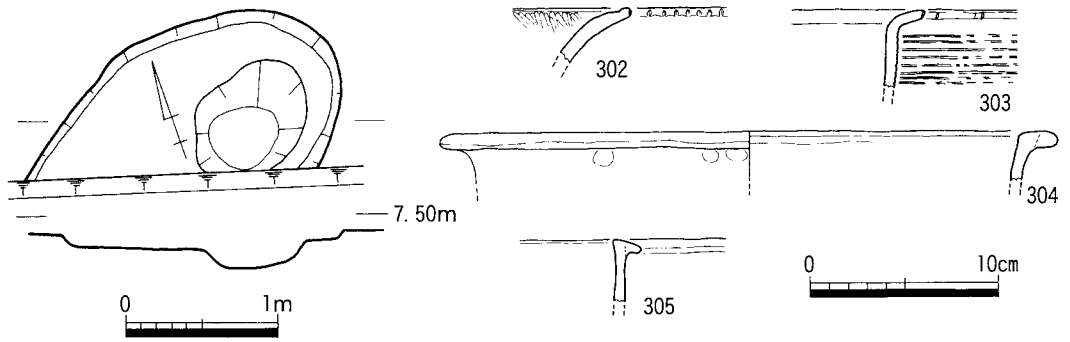


- 1. 暗褐色砂質土

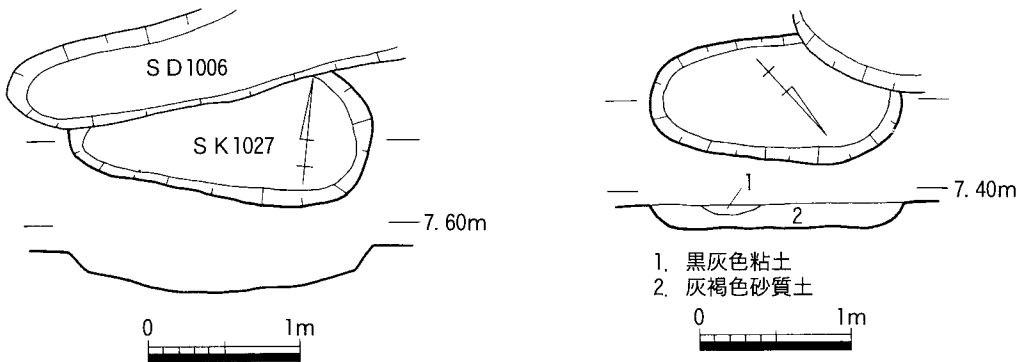
第60図 SK 1025  
平・断面図 (1/50)



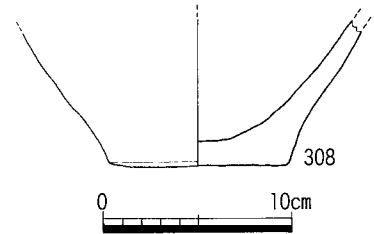
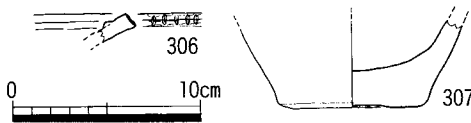
第59図 SK 1024平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第61図 S K 1026平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第62図 S K 1027平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第63図 S K 1028平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

深さ0.05m)が検出されているが、S K 1025に伴うかどうかは不明である。小穴を除く、最深部で深さ0.2mを測る。出土遺物は少量で、土器片、不明片岩製品片がみられる。

#### S K 1026 (第61図)

1区南端、環濠外側に位置する土坑である。南部は調査区外に連続するため全体は不明である。残存部分から平面形は楕円形を呈すると推定され、長軸2.0m、短軸1.5mを測る。底面には窪みがみられ、最深部で深さ0.25mを測る。窪みを除く深さは0.1mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕、太型蛤刃石斧がみられる。303は折り曲げ口縁の甕で、ヘラ描沈線文を現存で8条施す。304・305は逆L字口縁の甕である。

S K 1027 (第62図)

1区南東部、環濠外側に位置する土坑である。溝S D 1006と重複し、一部が削平を受けている。残存部分から平面形は楕円形を呈すると推定され、長軸2.0m、短軸1.9m、深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で、壺、石鋤がみられる。306は壺の口縁部片である。内面には貼付突帯が巡る。

S K 1028 (第63図)

1区南東部、環濠外側に位置する土坑である。西部は土坑と重複し、一部が削平を受けている。平面形は楕円形を呈し、長軸1.65m、短軸0.8mを測る。底面は平坦で、深さ0.2mを測る。出土遺物は少量で、底部片がみられる。

S K 1029 (第64図)

1区南東部、環濠外側に位置する土坑である。平面形は長楕円形を呈し、長軸1.5m、短軸0.85mを測る。断面形は箱形を呈し、深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。312~314は逆L字口縁の甕で、312はヘラ描沈線文5条以上、313は7条以上、314は6条施す。

S K 1030 (第65図, 図版15)

1区南部、環濠外側に位置する土坑である。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸2.5m、短軸1.35mを測る。底面中央部に窪みがみられ、最深部で深さ0.35mを測る。窪みを除く深さは0.15mを測る。出土遺物は少量で、壺、棒状石斧がみられる。

S K 1031 (第66図)

1区中央部、環濠外側に位置する土坑である。平面形は瓢箪形を呈し、長軸1.9m、短軸0.6m、深さ0.2mを測る。出土遺物は少量で、甕がみられる。316は逆L字口縁の甕である。

S K 1032 (第67図)

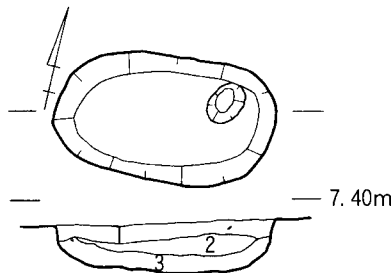
1区南部、環濠外側に位置する土坑である。平面形はややいびつな円形を呈し、径1.8~1.9m、深さ0.2mを測る。

S K 1033 (第68図)

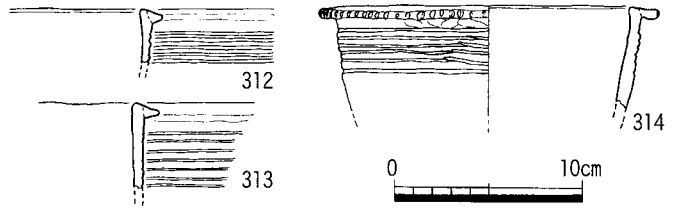
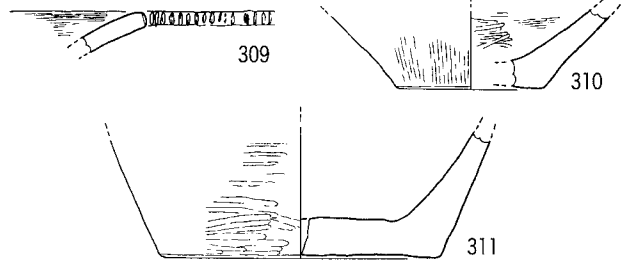
1区南西部、環濠外側に位置する。平面形はややいびつな長楕円形を呈し、長軸2.3m、短軸0.65m、深さ0.15mを測る。ここでは土坑として報告するが、小規模溝の可能性も残る。出土遺物は少量で、壺・甕・蓋、石鋤がみられる。317は壺の口縁部片である。口縁端部にはヘラ描沈線文と刻目を施す。318は逆L字口縁の甕で、ヘラ描沈線文を10条施す。

S K 1034 (第69図)

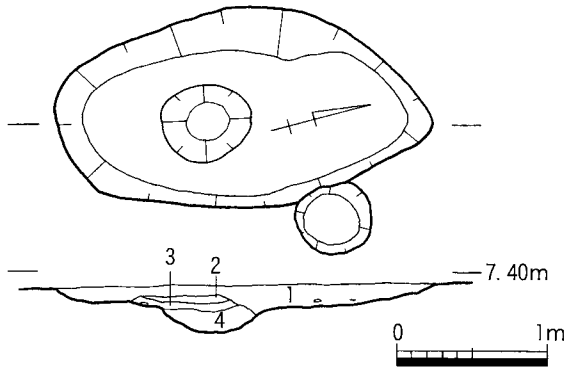




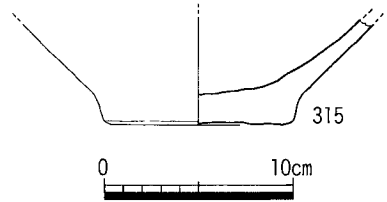
- 1. 暗褐色粘質土  
(暗黄色土ブロックあり)
- 2. 暗灰色粗砂
- 3. 黒灰色粘質土



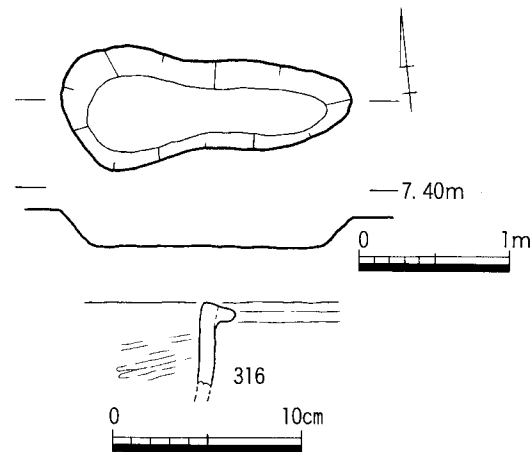
第64図 S K 1029平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



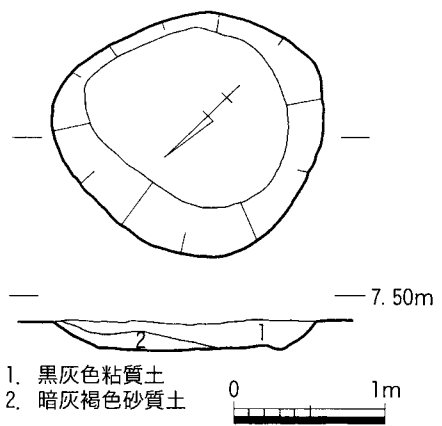
- 1. 褐色粘質土
- 2. 暗黄色粘質土
- 3. 暗灰色粘質土
- 4. 褐色粘質土



第65図 S K 1030平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



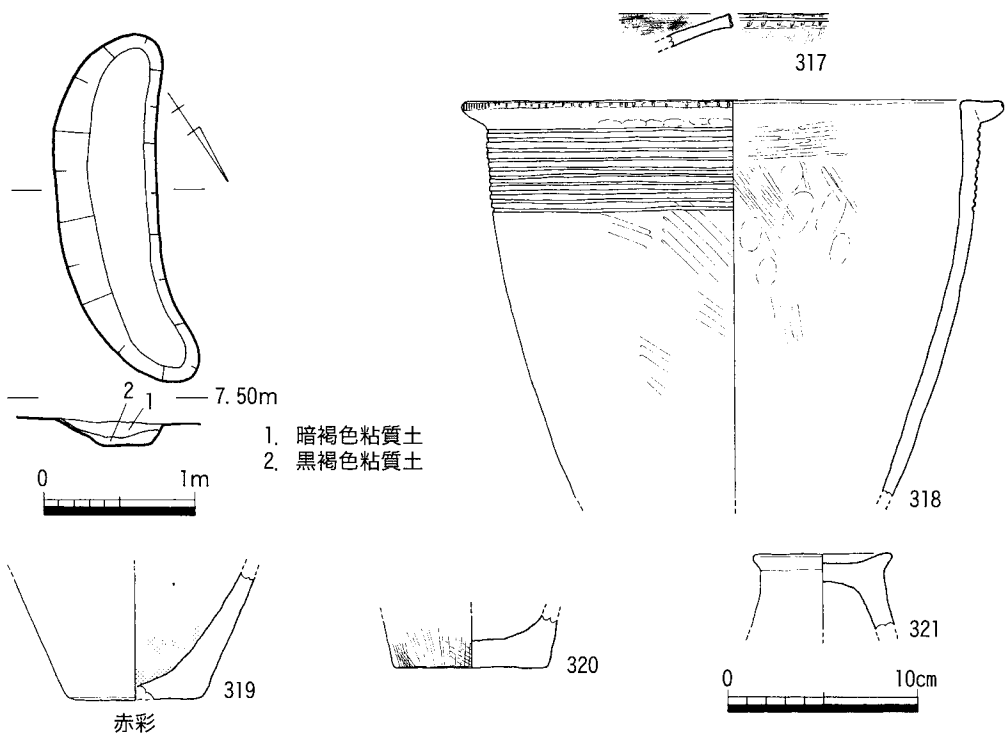
第66図 S K 1031平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)



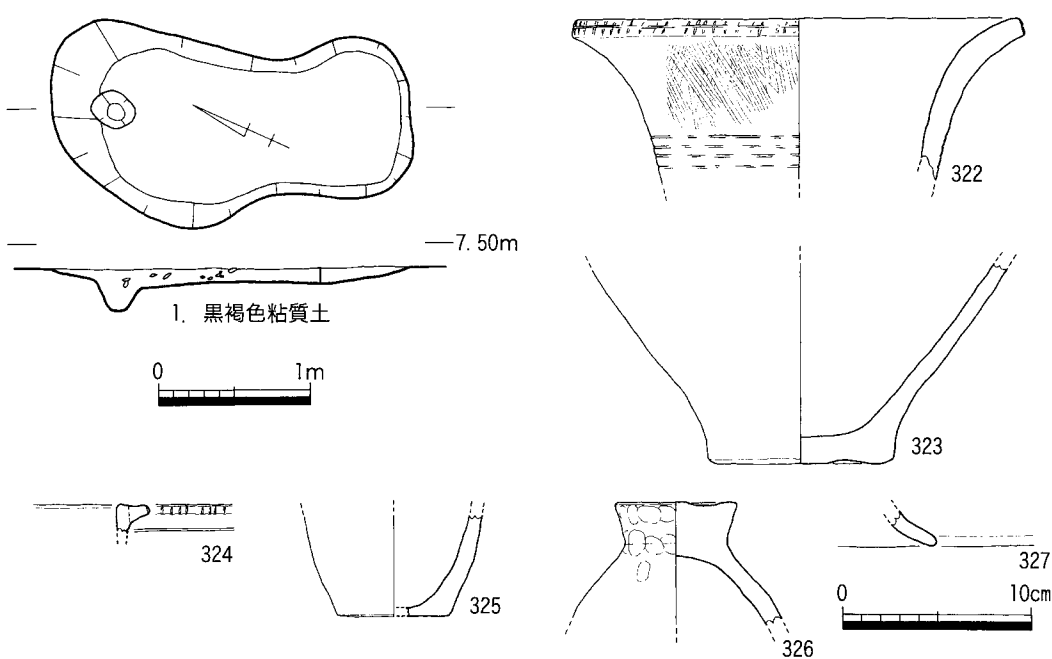
- 1. 黒灰色粘質土
- 2. 暗灰褐色砂質土



第67図 S K 1032平・断面図 (1/50)



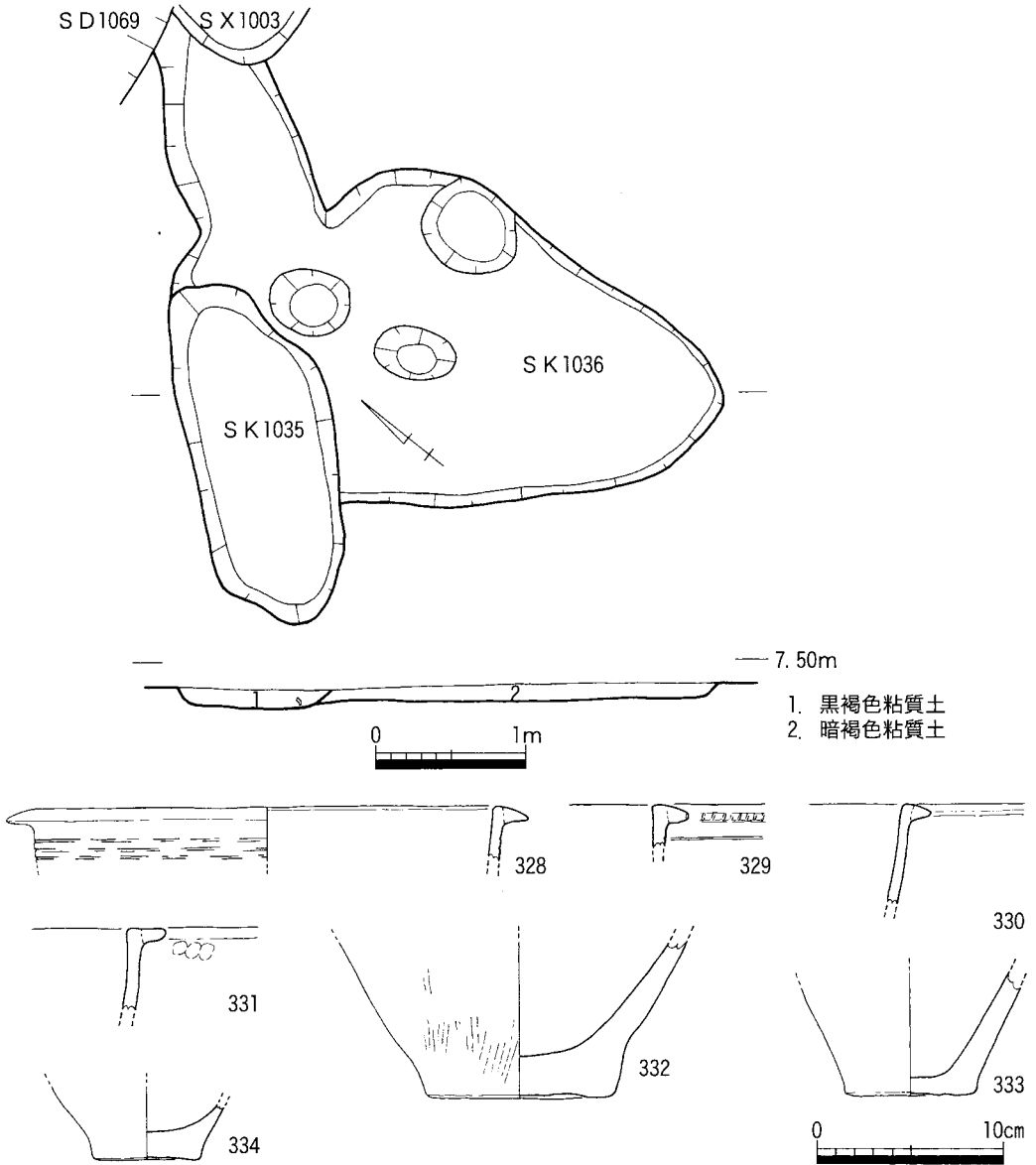
第68図 S K 1033平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第69図 S K 1034平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

1区南西部，環濠外側に位置する土坑である。平面形は瓢箪形を呈し，長軸2.35m，短軸0.95～1.3m，深さ0.1mを測る。底面北部には小穴が検出されているが，S K1034に伴うかどうかは不明である。出土遺物は少量で，壺・甕・蓋がみられる。322は壺で，口縁端部にはヘラ描沈線文と刻目，頸部にはヘラ描沈線文を4条以上施す。324は逆L字口縁の甕で，条数は不明であるが，ヘラ描沈線文を施す。

S K1035・S K1036（第70図）



第70図 S K1035・S K1036平・断面図（1/50），出土土器（1/4）

S K 1035は1区南西部、環濠外側に位置する土坑である。土坑S K 1036と重複する。平面形はややいびつな隅丸長方形を呈する。長軸2.4m、短軸0.95m、深さ0.2mを測る。S K 1036は1区南西部、環濠外側に位置する土坑である。東部は落ち込みS X 1003や平安時代の溝S D 1069が重複し、一部が削平されている。平面形はいびつである。北東部の突出部は別の土坑が重複する可能性が高い。長軸3.7m、短軸2.25m、深さ0.1mを測る。底面には3個の小穴(径0.35~0.6m、深さ0.15~0.25m)が検出されたが、先行する柱穴の可能性が高い。同一遺構として調査していたために個々の土坑の遺物は不明であるが、両土坑からは少量の遺物が出土した。甕、石鍬がみられる。328~331は逆L字口縁の甕である。328・329はヘラ描沈線文を施す。330は摩滅しているため文様の有無は不明である。

#### S K 1037 (第71・72図)

1区西部、環濠外側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し、長軸2.3m、短軸1.7mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.2mを測る。中央部には大形土器片が若干まとまって出土した。出土遺物は少量で、壺・甕・円盤状土製品がみられる。335は壺の口縁部で、大きくラップ状に開く。339~343は逆L字口縁の甕で、339はヘラ描沈線文を現存で8条、340は6条、342は現存で4条施す。344は土器片を再利用した円盤状土製品である。

#### S K 1038 (第73図)

1区中央部西寄り、環濠外側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し、長軸2.1m、短軸1.7mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で、土器片、石包丁がみられる。

#### S K 1039 (第74・75図)

1区中央部西寄り、環濠外側に位置する土坑である。土坑S K 1040と重複し、一部が削平されている。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸2.9m、短軸1.7mを測る。底面からは浅い窪み(径0.6~0.8m、深さ0.05~0.1m)が検出された。窪みを除く深さは0.1mを測る。出土遺物は少量で、甕がみられる。345は折り曲げ口縁、346は逆L字口縁の甕である。346は摩滅しているが、現状ではヘラ描沈線文が5条認められる。

#### S K 1040 (第74・76・77図)

1区中央部西寄り、環濠外側に位置する土坑である。土坑S K 1043や溝S D 1011と重複し、一部が削平されている。平面形はいびつで、長軸3.7m、短軸3.3m、深さ0.2mを測る。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、壺・甕・蓋、石鍬がみられる。348・349は壺の口縁部で、大きくラップ状に開く口縁部をもつ。348は口縁部外面に粘土の接合痕による段が

認められる。口縁端部にはヘラ描沈線文と刻目を施す。349は摩滅しているが、内面には三角形刺突文を施す。350～353は壺の頸部である。350～352は頸部外面には多条のヘラ描沈線文と三角形刺突文を施す。353は貼付突帯を現存で4条施す。354は壺の体部片である。貼付刻目突帯を現存で4条施す。355～366は甕である。口縁部が残存するものはいずれも逆L字口縁である。355は摩滅のため文様の有無は不明であるが、356はヘラ描沈線文4条と三角形刺突文を施す。358は沈線文を現存で10条施す。沈線文は半截竹管による可能性が高い。359はヘラ描沈線文11条と三角形刺突文施す。360はヘラ描沈線文8条と三角形刺突文を施す。361はヘラ描沈線文を現存で16条、362・363は13条施す。

#### S K 1041・S K 1042 (第78～80図)

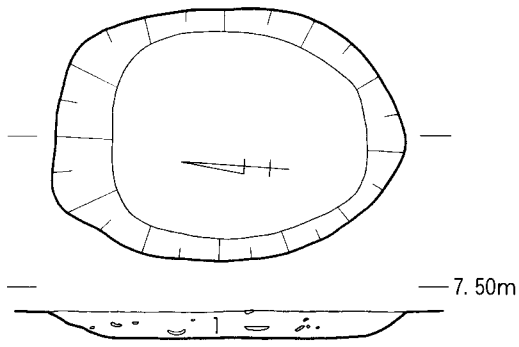
S K 1041は1区ほぼ中央部、環濠外側に位置する土坑である。土坑S K 1040・S K 1043と重複し、一部が削平されている。平面形はややいびつな隅丸方形を呈すると推定され、長軸2.25m以上、短軸1.7m、深さ0.2mを測る。S K 1042は1区ほぼ中央部、環濠外側に位置する土坑である。溝S D 1024と重複し、一部が削平されている。平面形はいびつで、長軸3.5m、短軸2.7m、深さ0.2mを測る。当初両土坑を同一遺構と考えて発掘したことから、出土遺物はどちらの土坑から出土したものか不明のものが多い。出土遺物は少量で、壺・甕、打製石斧・不明片岩製品がみられる。370は壺の口頸部で、頸部にはヘラ描沈線文を現存で6条施す。372～381・383は甕である。372・373・383は口縁部は如意状を呈する。372はヘラ描沈線文を3条施す。375～379は逆L字口縁を呈する。376はかなり摩滅しているがヘラ描沈線文を10条程度と刺突文を施す。377は折り曲げ口縁の可能性が高い。ヘラ描沈線文を現存で5条施す。379は摩滅しているが、現状では4条のヘラ描沈線文が認められる。S K 1042出土と限定できる遺物は少量で、壺・甕がみられる。386は甕の口縁部である。逆L字口縁を呈し、ヘラ描沈線文を現存で2条施す。

#### S K 1043 (第81図)

1区ほぼ中央部、環濠外側に位置する土坑である。平面形はややいびつな隅丸方形を呈し、長軸2.35m、短軸0.8m、深さ0.15mを測る。出土遺物は少量で、鉢・甕がみられる。389は直口する口縁部をもち、外面には櫛描直線文を15条施す。390～392は逆L字口縁の甕である。

#### S K 1044 (第82図)

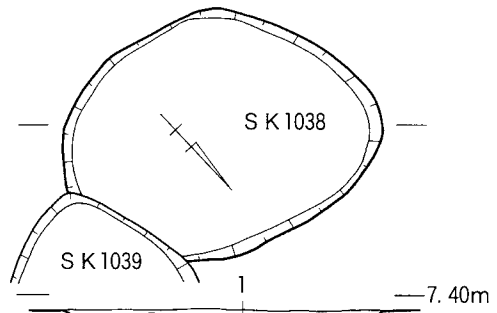
1区ほぼ中央部、環濠外側に位置する土坑である。土坑S K 1042、柱穴と重複し、一部が削平されている。平面形はややいびつな円形を呈するものと推定され、径2.0m前後、深



1. 黒褐色粘質土



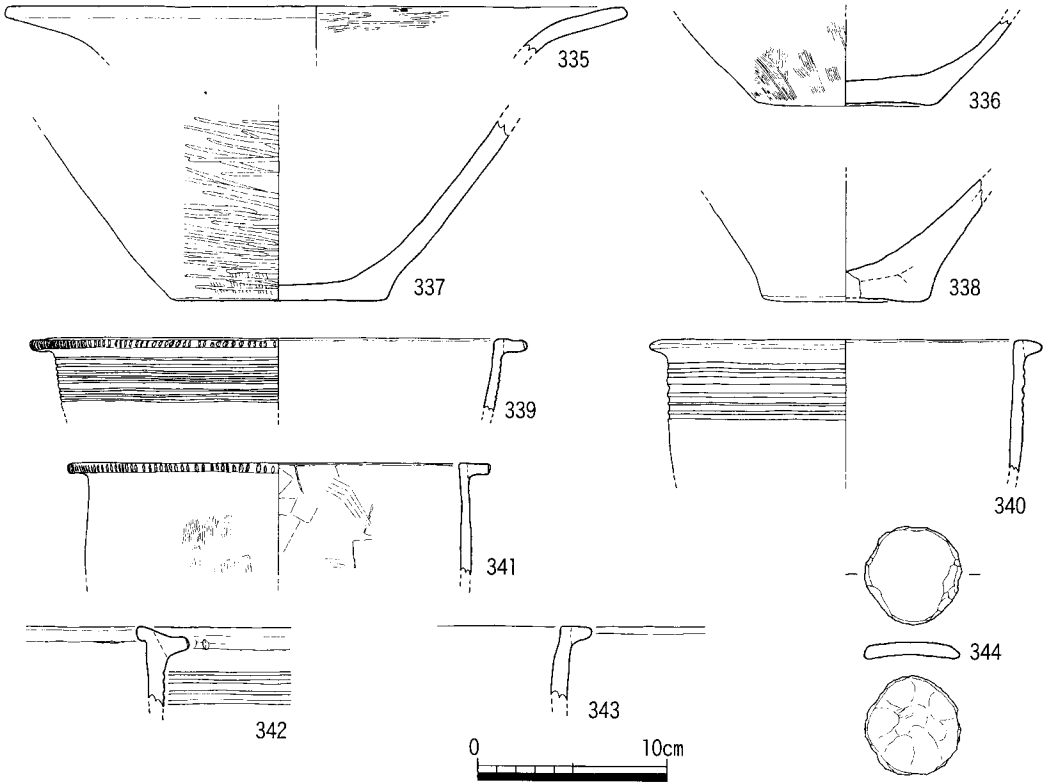
第71図 S K 1037平・断面図 (1/50)



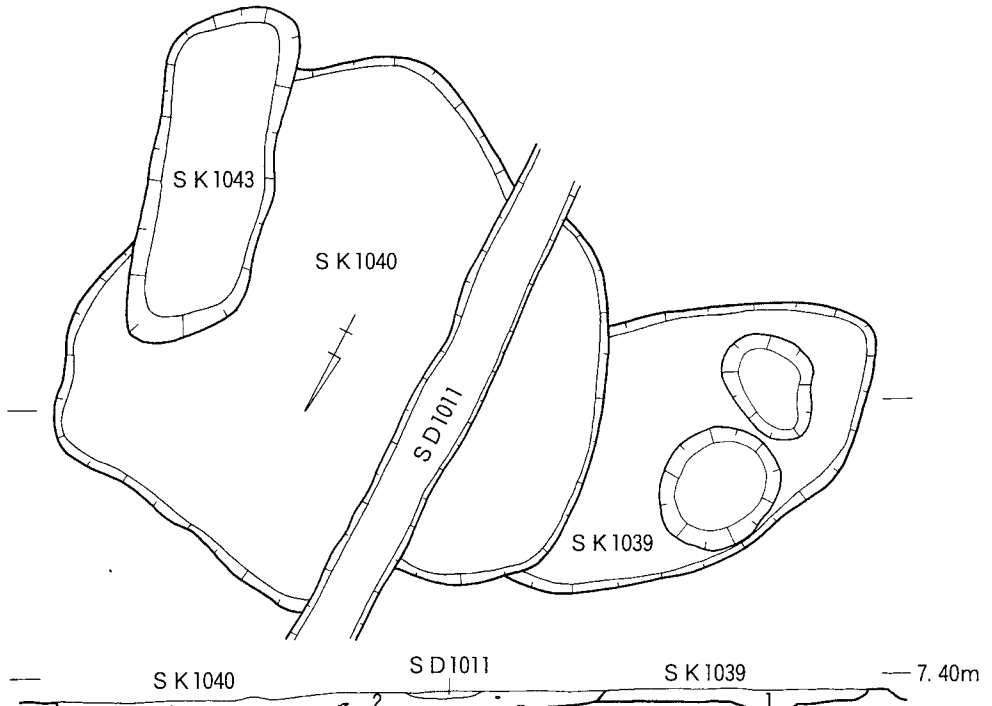
1. 暗褐色粘質土



第73図 S K 1038平・断面図 (1/50)



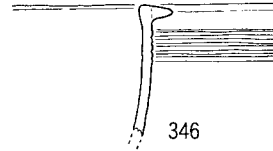
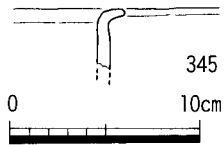
第72図 S K 1037出土土器 (1/4)



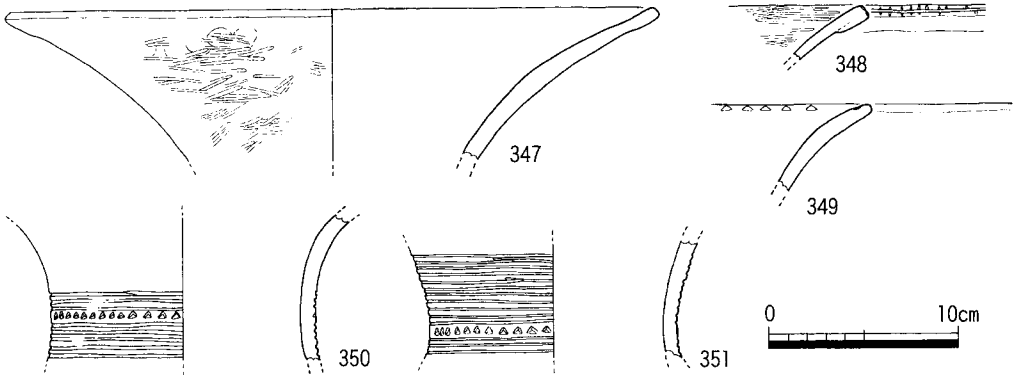
1. 黒褐色粘質土 (わずかに黄色土ブロックあり)
2. 黒褐色粘質土



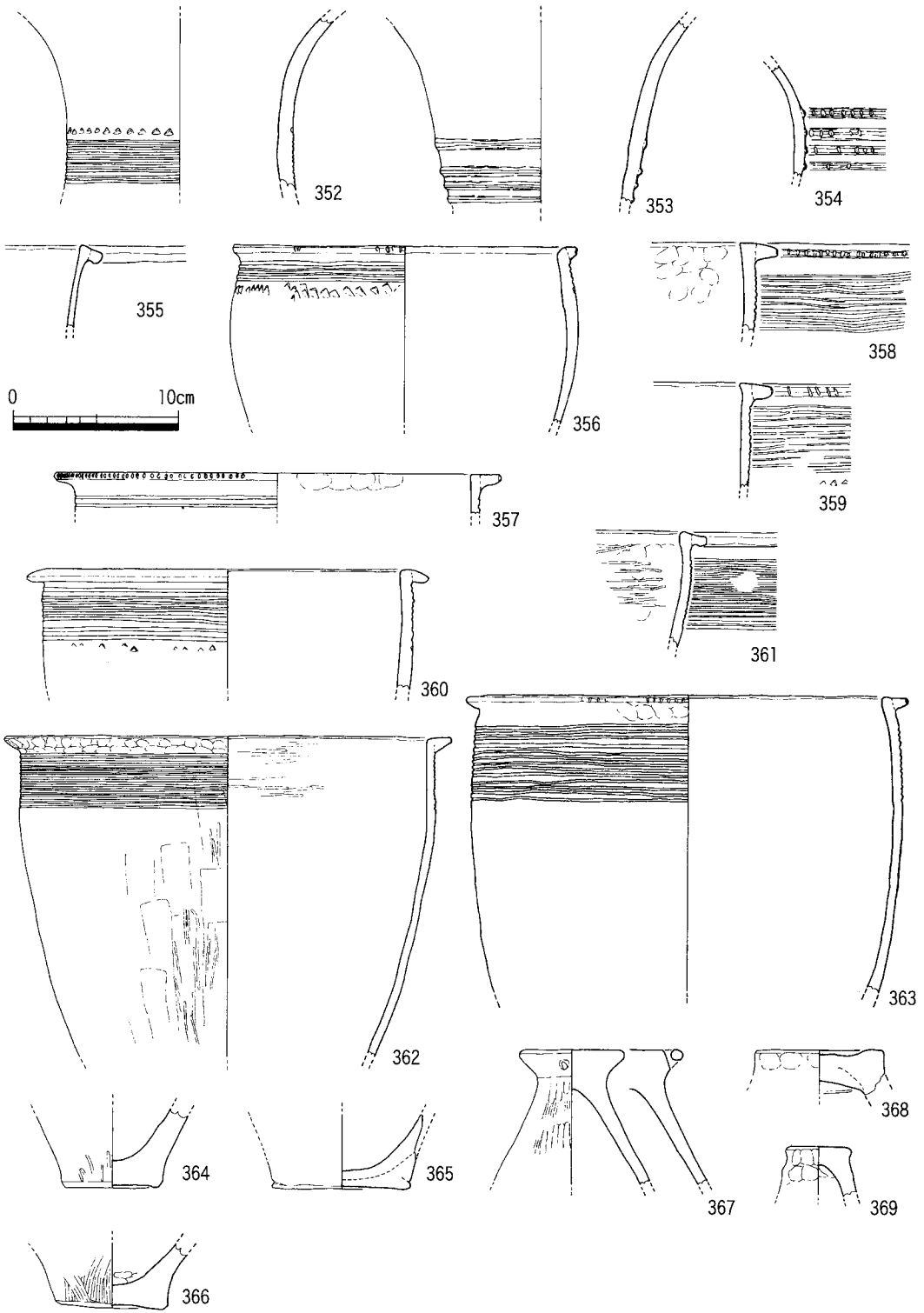
第74図 SK1039・SK1040平・断面図 (1/50)



第75図 SK1039出土土器 (1/4)

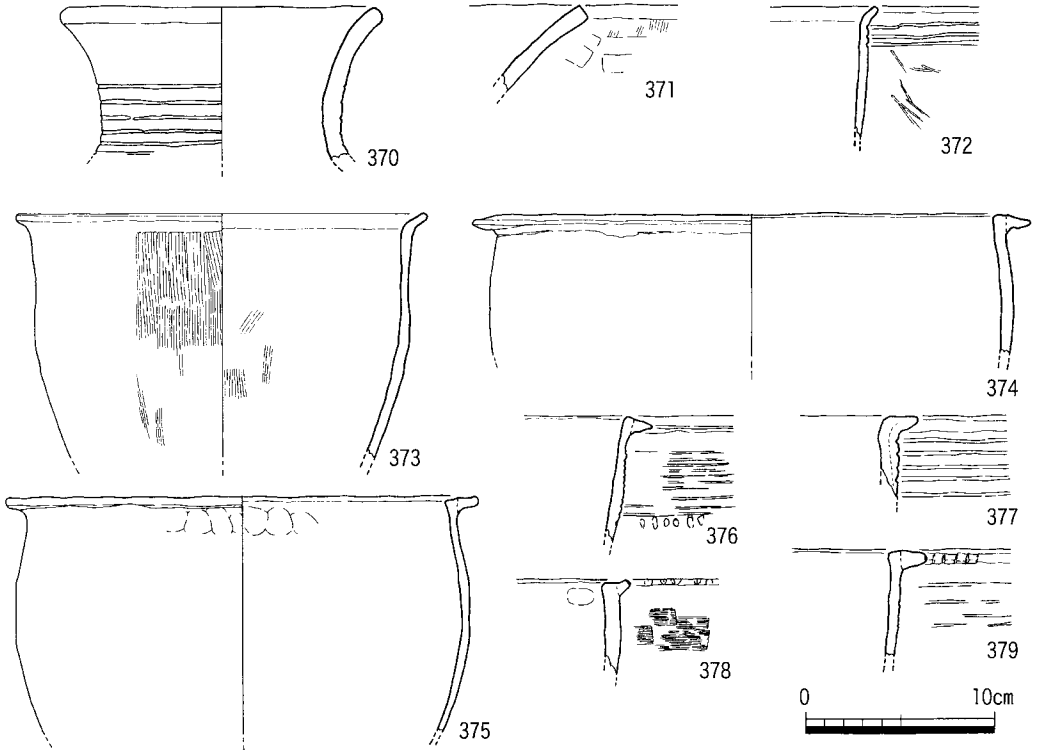
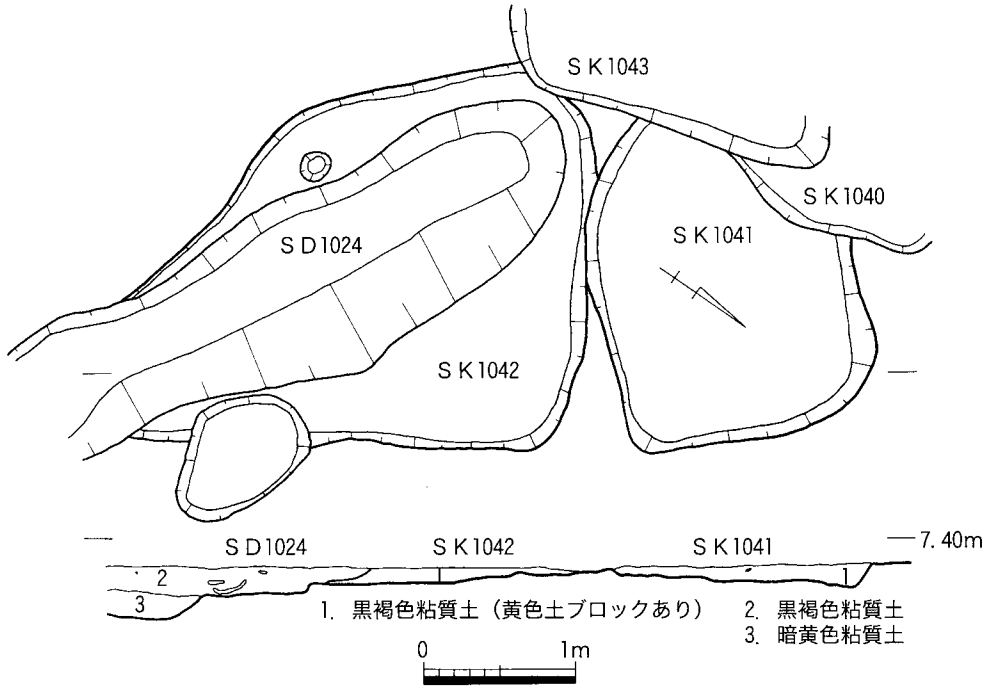


第76図 SK1040出土土器 1 (1/4)

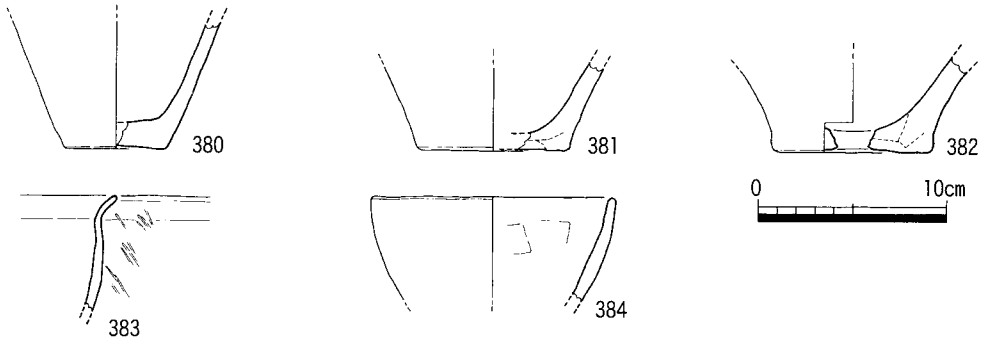


第77图 S K1040出土土器 2 (1/4)

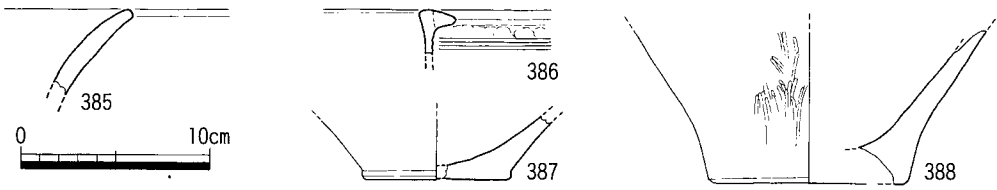




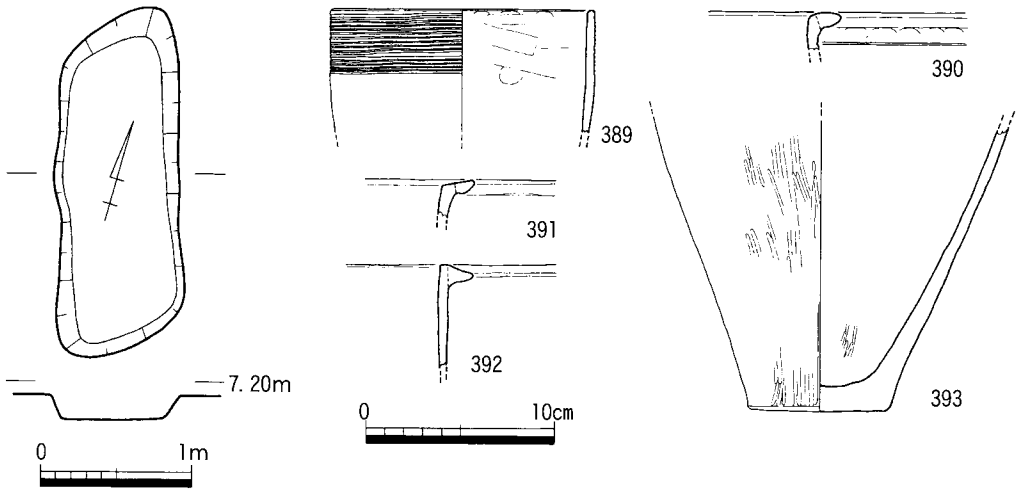
第78図 SK1041・SK1042平・断面図(1/50), 出土土器(1/4)



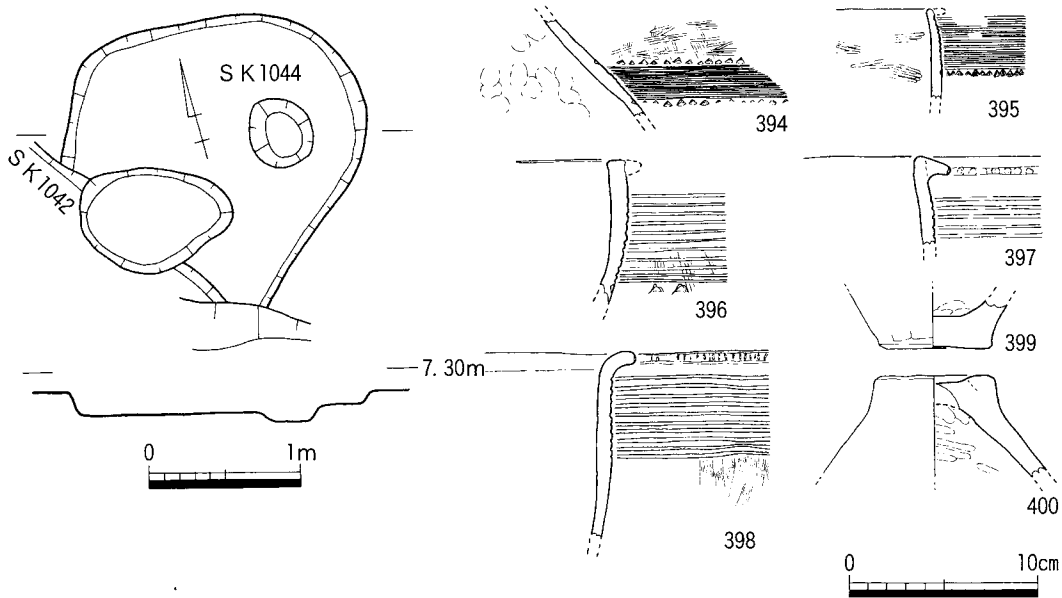
第79図 S K 1041・S K 1042出土土器 2 (1/4)



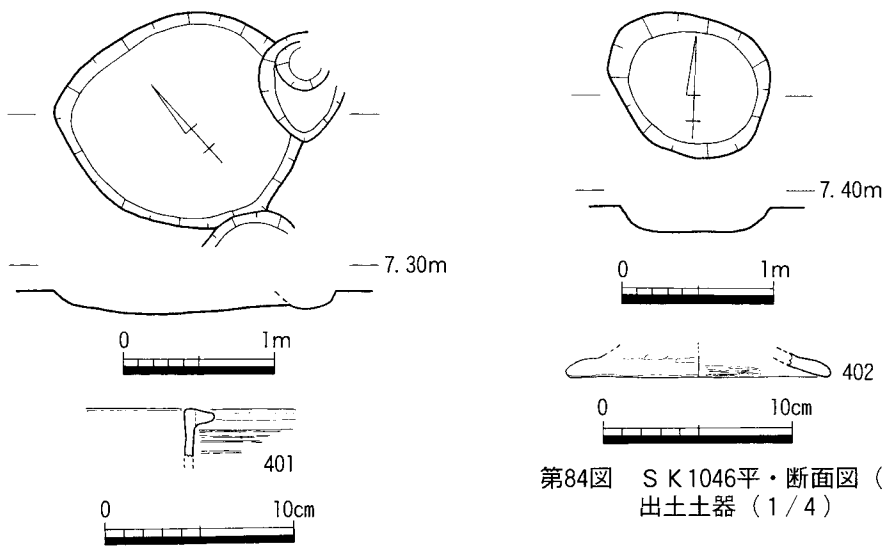
第80図 S K 1042出土土器 (1/4)



第81図 S K 1043平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

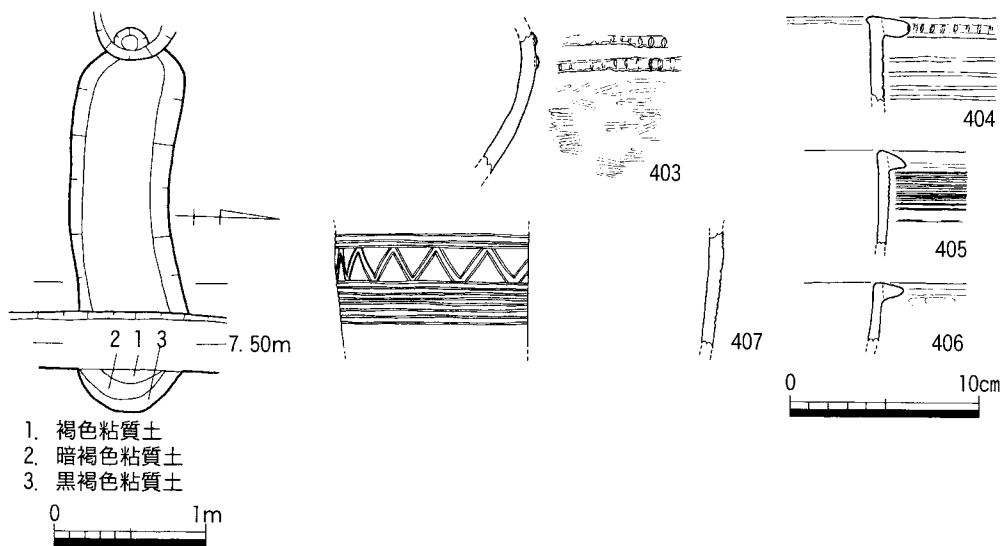


第82图 S K 1044平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)



第84图 S K 1046平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)

第83图 S K 1045平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)



第85図 S K 1047平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

さ0.15mを測る。底面からは2個の小穴(径0.45~0.95m, 深さ0.1m)が検出されたが, S K 1044に伴うものかどうかは不明である。出土遺物は少量で, 壺, 甕, 蓋がみられる。394は壺の体部である。三角形刺突文とヘラ描沈線文9条を施す。395・396は貼付口縁部が剥落しているが, 逆L字口縁を呈すると考えられる。395はヘラ描沈線文か櫛描直線文のいずれかは不明であるが, 12条と三角形刺突文を施す。396はヘラ描沈線文11条と三角形刺突文を施す。397も逆L字口縁で, ヘラ描沈線文を現存で5条施す。398は口縁部は如意状を呈し, ヘラ描沈線文10条を施す。

#### S K 1045 (第83図)

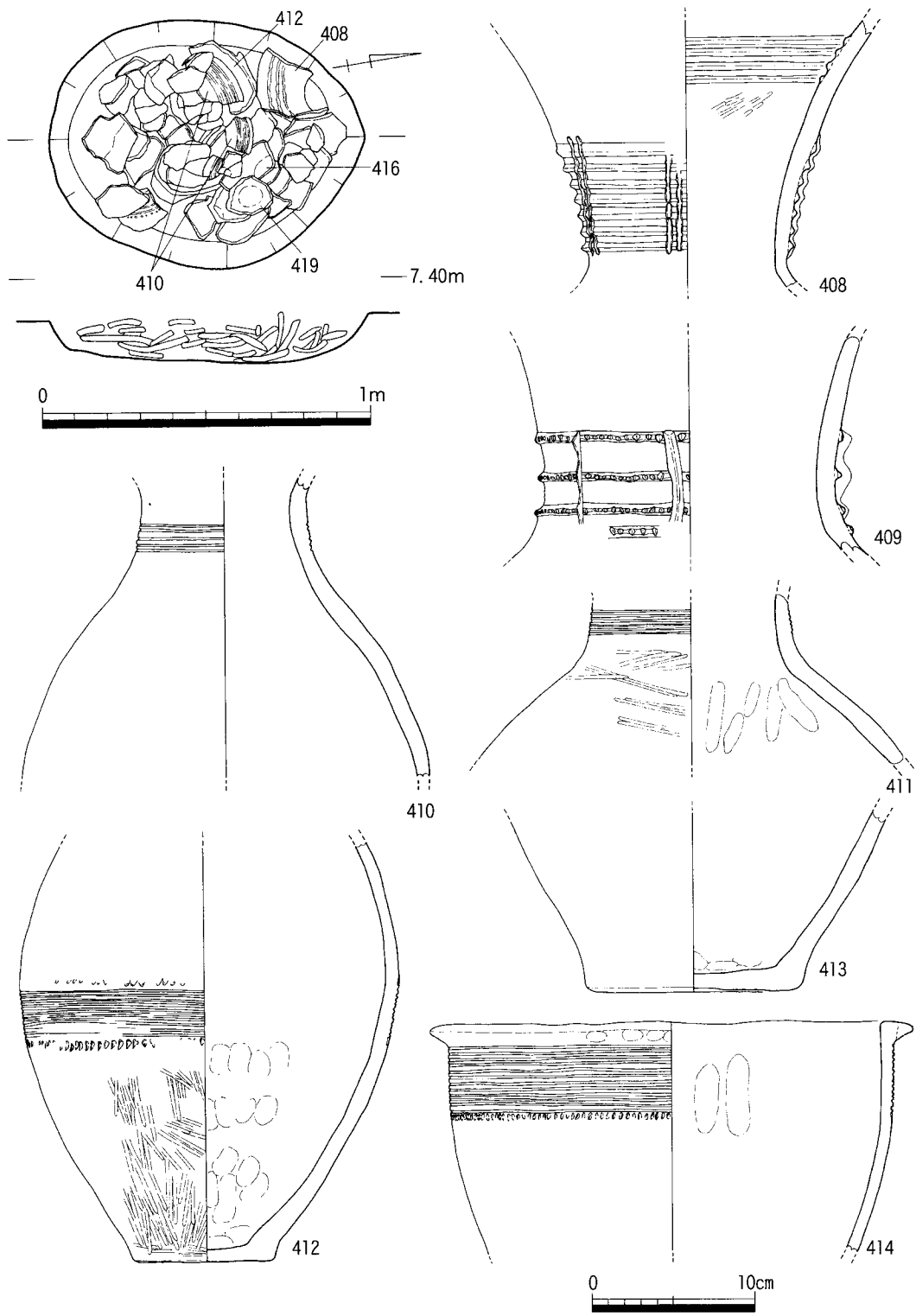
1区はほぼ中央部, 環濠外側に位置する土坑である。柱穴と重複し, 一部が削平されている。平面形はほぼ円形を呈し, 径1.4~1.5m, 深さ0.15mを測る。出土遺物は微量で, 甕, 石包丁がみられる。401は逆L字口縁の甕で, ヘラ描沈線文を現存で4条施す。

#### S K 1046 (第84図)

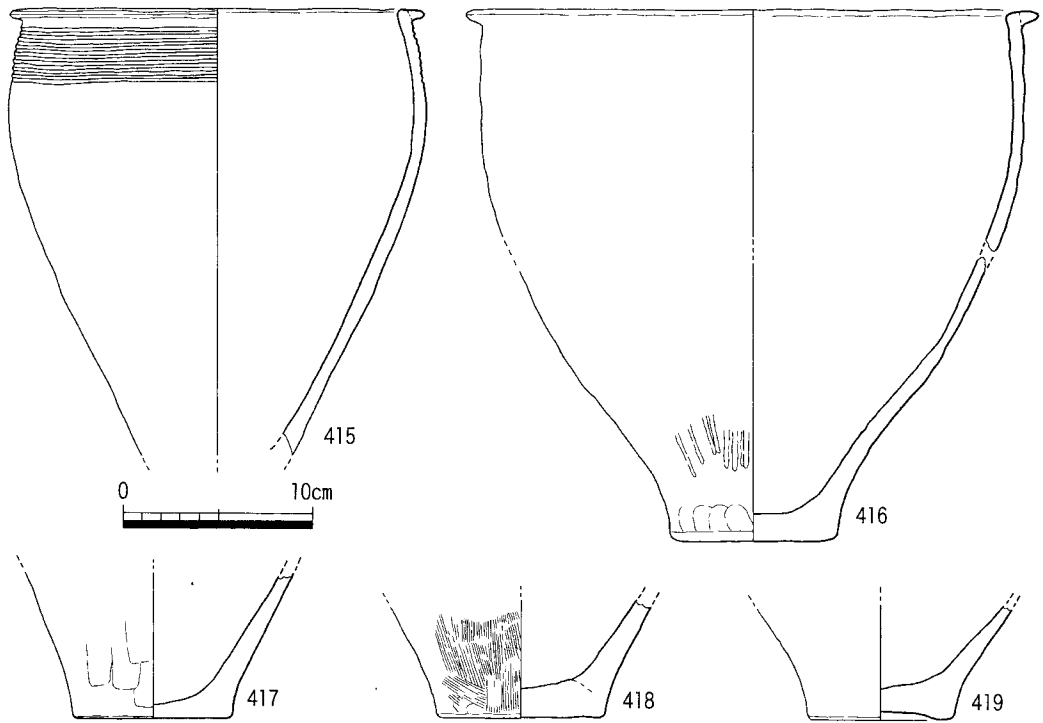
1区はほぼ南西部, 環濠外側に位置する土坑である。平面形はほぼ円形を呈し, 径0.95~1.2m, 深さ0.2mを測る。出土遺物は微量で, 蓋がみられる。

#### S K 1047 (第85図)

1区中央部, 環濠外側に位置する。ここでは土坑として報告するが, 溝の可能性も考えられる。S D 1011と重複し, 一部が削平されている。長軸1.8m, 短軸0.7~0.9m, 深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で, 壺・甕, 石鍬・石包丁がみられる。403は壺の体部片である。



第86图 SK 1048平·断面图 (1/20), 出土土器 (1/4)



第87図 S K 1048出土土器 2 ( 1 / 4 )

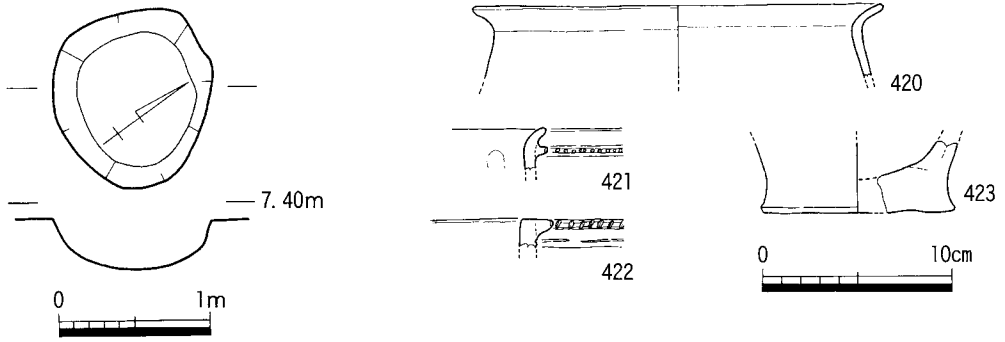
貼付刻目突帯を現存で2条施す。404～407は甕である。404～406は逆L字口縁を呈する。404は摩滅しているが、現状ではヘラ描沈線文が4条認められる。405も摩滅しているが、櫛描直線文が13条認められる。407は口縁部を欠損するが、おそらく甕の体部であろう。ヘラ描沈線文と複線山形文を施すが、半截竹管による施文の可能性が強い。

S K 1048 (第86・87図, 図版15)

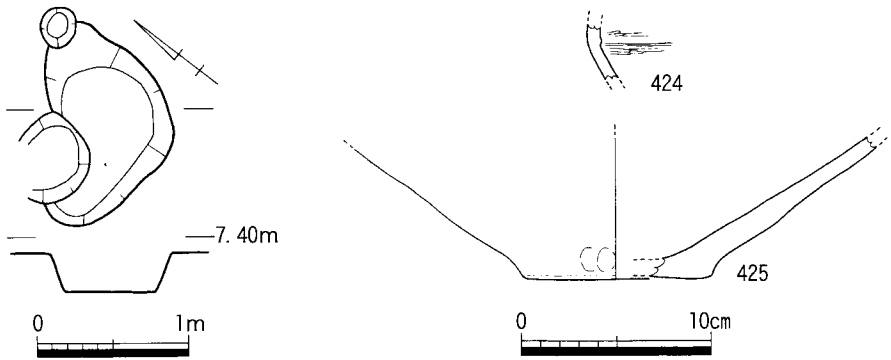
1区東部に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し、長軸1.0m、短軸0.8mを測る。断面形は箱形を呈し、深さ0.15mを測る。遺構内には土器片がぎっしりと詰まっていた。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、壺・甕がみられる。408～411は壺の頸部である。408は外面に貼付突帯7条、棒状浮文が2個1組で施される。内面には貼付突帯を4条施す。409も外面には貼付刻目突帯3条と棒状浮文を施す。410はヘラ描沈線文が5条、411は6条施す。412・414～419は甕である。412は口縁部を欠損するが、体部中位に最大径をもち、体部中位に三角形刺突文とヘラ描沈線文10条を施す。414～416は逆L字口縁を呈する。414はヘラ描沈線文12条と刺突文、415はヘラ描沈線文8条施す。416は無文である。

S K 1049 (第88図)

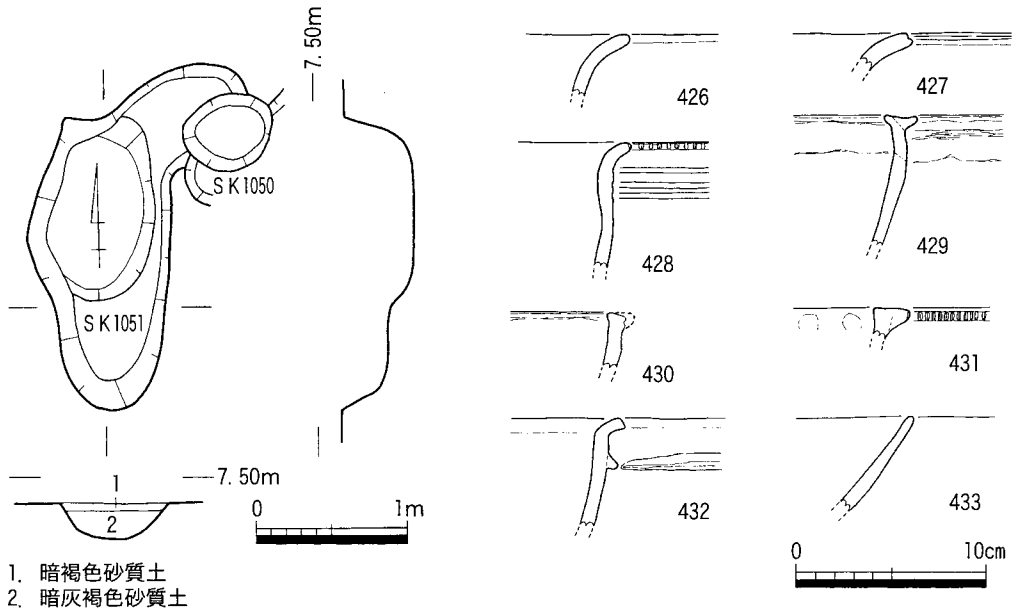
2区北東部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はほぼ円形を呈し、径1.0～1.1mを



第88図 S K 1049平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

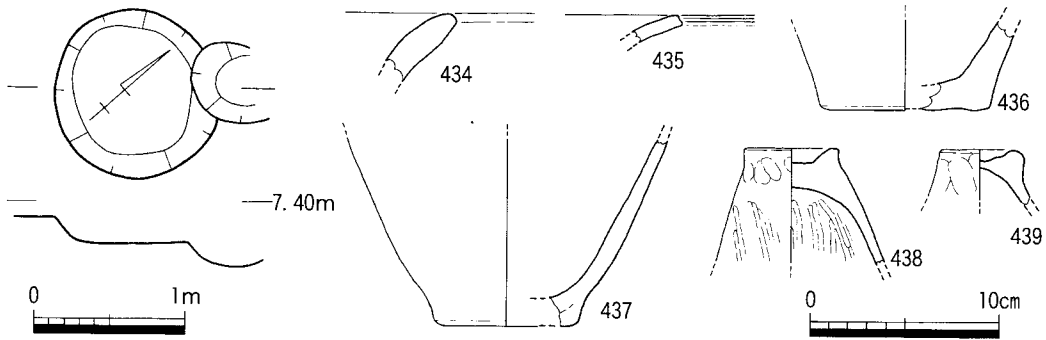


第89図 S K 1050平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



- 1. 暗褐色砂質土
- 2. 暗灰褐色砂質土

第90図 S K 1051平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第91図 S K 1052平・断面図（1/50）、出土土器（1/4）

測る。断面形はボウル状を呈し、深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で、甕がみられる。421は外反する口縁部をもち、口縁端部から少し下がった位置に刻目突帯を巡らす。422は逆L字口縁を呈し、ヘラ描沈線文を現存で2条施す。

#### S K 1050（第89図）

2区北東部、環濠内側に位置する土坑である。柱穴が重複し、一部が削平されている。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸1.4m、短軸0.8m、深さ0.25mを測る。出土遺物は少量で、壺がみられる。424は壺の頸部である。段の下にはヘラミガキが顕著に残る。

#### S K 1051（第90図）

2区北東部、環濠内側に位置する土坑である。柱穴が重複し、一部が削平されている。平面形はいびつな瓢箪形を呈し、長軸2.4m、短軸0.9mを測る。中央部が一段窪んでおり、平面形は楕円形を呈する。長軸1.2m、短軸0.8m、深さ0.4mを測る。中央部以外の深さは0.2mを測る。2基の土坑が重複する可能性が高い。出土遺物は少量で、壺・甕・鉢がみられる。428～431は甕である。428は口縁部は如意状を呈し、ヘラ描沈線文を3条施す。429～431は逆L字口縁の甕である。432・433は鉢で、432には把手が付く。

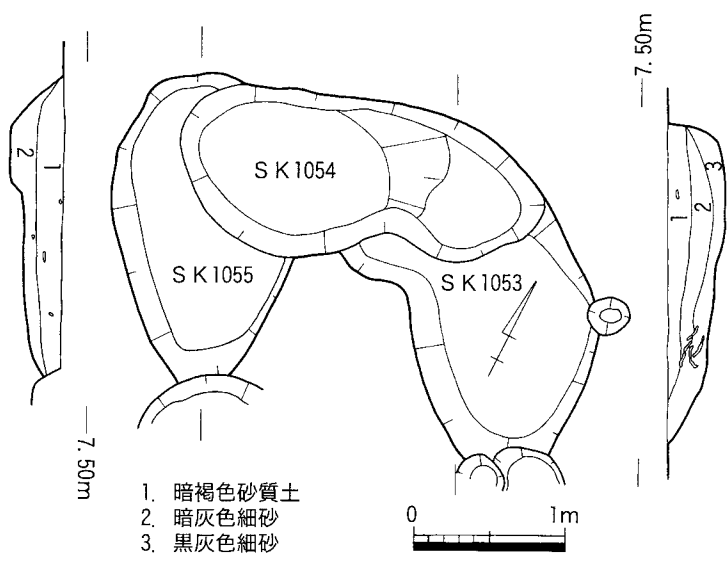
#### S K 1052（第91図）

2区北東部、環濠内側に位置する土坑である。柱穴が重複し、一部が削平されている。平面形はほぼ円形を呈し、径1.1mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.15mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕・蓋、石包丁がみられる。

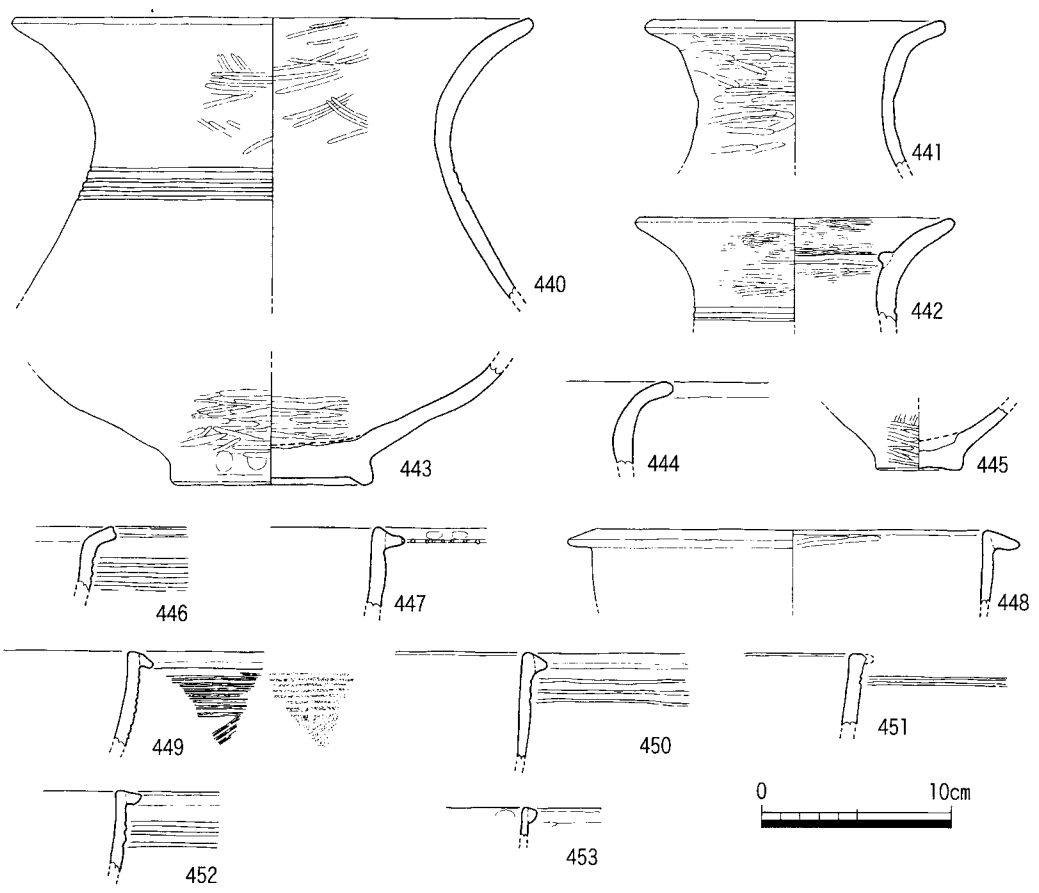
#### S K 1053・S K 1054・S K 1055（第92・93図、図版16）

2区北東部、環濠内側に位置する。馬蹄形に複数の土坑が連なる。3基以上の土坑が重複するものと考えられる。S K 1053はS K 1054と重複し、一部が削平されている。残存する平面形は楕円形を呈し、長軸1.4m以上、短軸1.2m、深さ0.3mを測る。埋土下部南端か

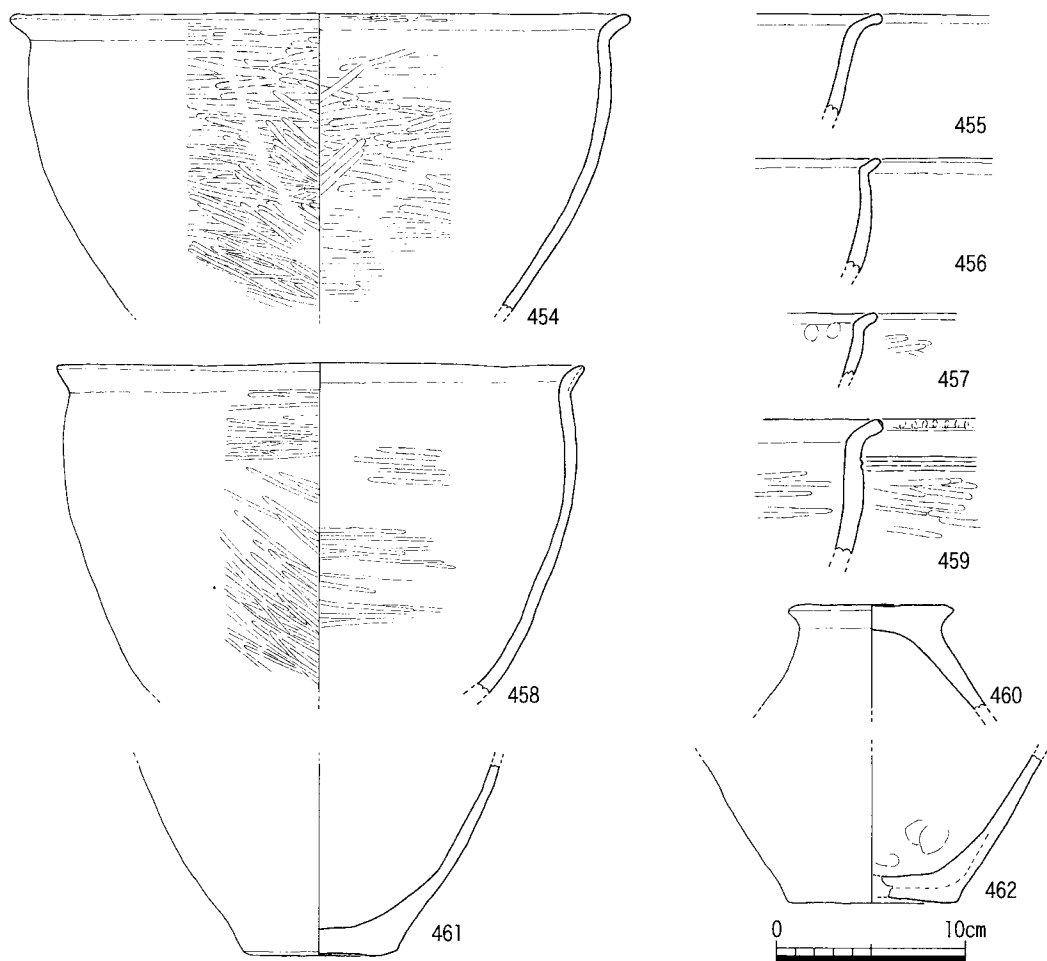




1. 暗褐色砂質土
2. 暗灰色細砂
3. 黒灰色細砂

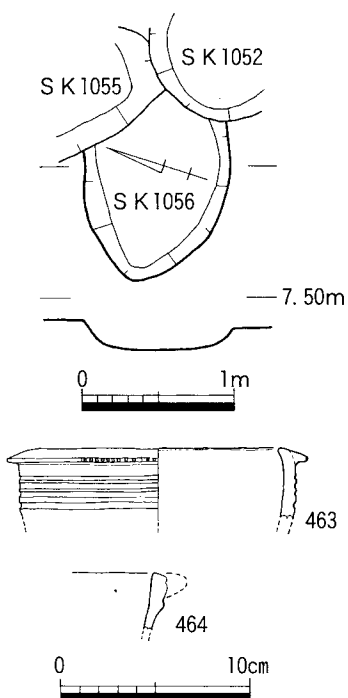


第92図 S K 1053・S K 1054・S K 1055平・断面図 (1/50), 出土土器1 (1/4)

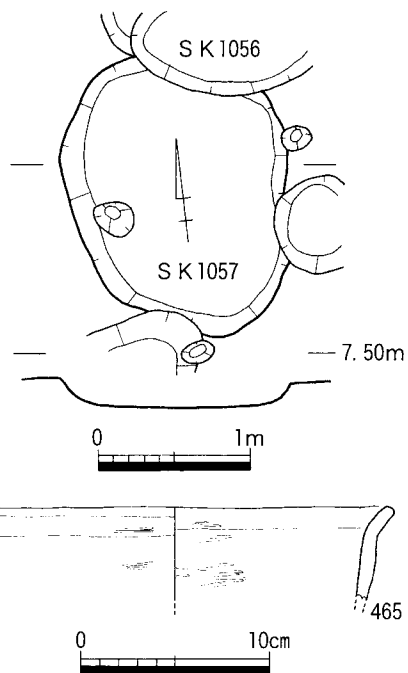


第93図 S K 1053・S K 1054・S K 1055出土土器 2 (1/4)

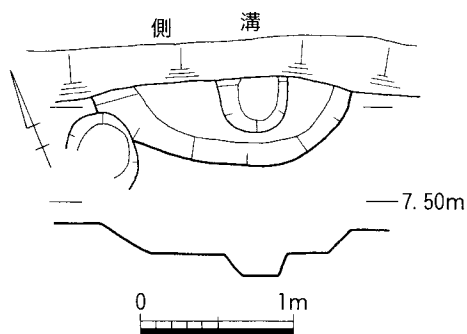
らは大形土器片が集中して出土した。S K 1054は平面形楕円形を呈し、長軸2.4m、短軸0.9mを測る。西部が一段低くなり、最深部で深さ0.4mを測る。S K 1054の埋土上部から下部まで大形土器片が含まれていた。S K 1055はS K 1054と重複し、一部が削平されている。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸2.1m前後、短軸1.15m、深さ0.25mを測る。当初同一遺構として調査していたため、遺物を出土地点ごとに分離することは不可能であった。3基の土坑からは整理用コンテナ1箱程度の遺物が出土しており、壺・甕・鉢・蓋、石包丁未製品・打製石斧がみられる。440～444は壺である。440は大型の壺で、頸部にヘラ描沈線文を4条施す。442は頸部外面にヘラ描沈線文2条以上、内面に貼付突帯1条を施す。446～453は甕である。446は口縁端部にヘラ描沈線文を1条施し、外面にはヘラ描沈線文を現存で4条施す。451の口縁部は剥落しているが、447～453は逆L字口縁である。449はヘ



第94図 S K 1056平・断面図 (1/50),  
出土土器



第95図 S K 1057平・断面図 (1/50),  
出土土器

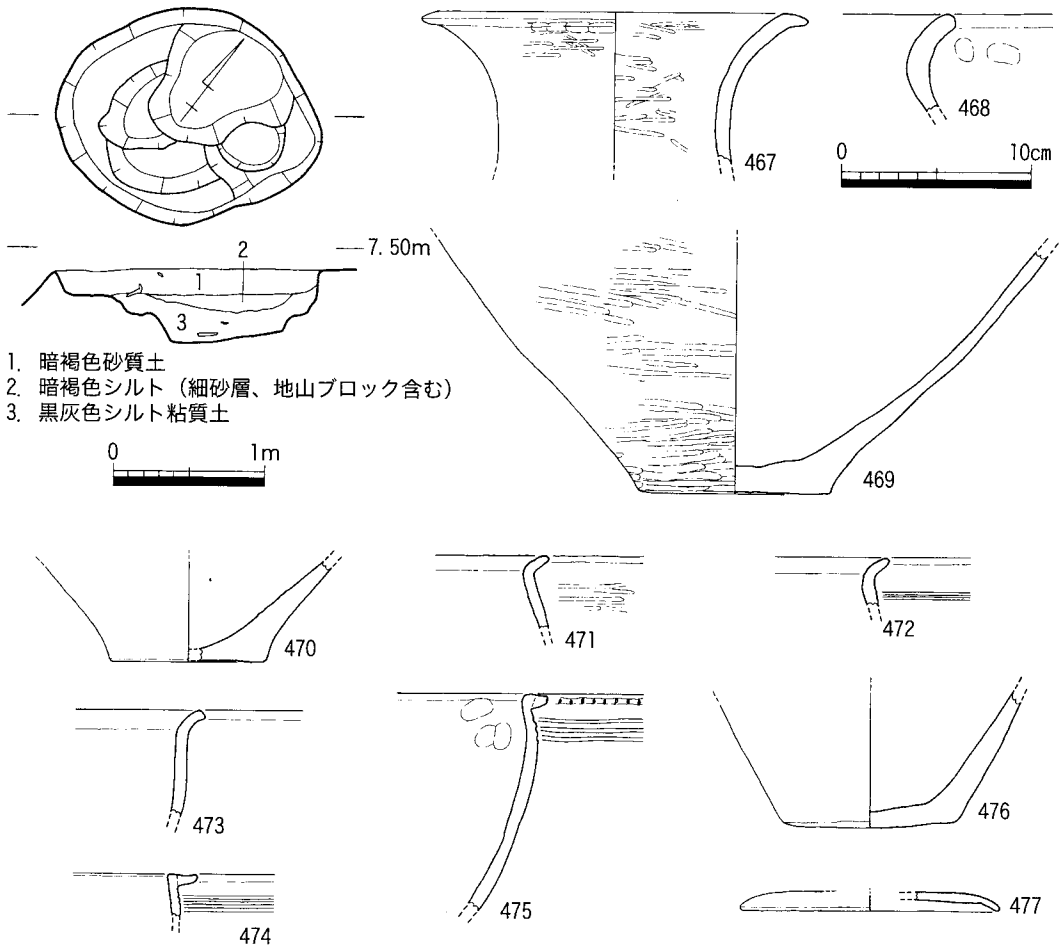


第96図 S K 1058平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

ラ描沈線文を7条とヘラ描斜線文を3条施す。450は3条, 451は2条, 452は3条のヘラ描沈線文を施す。

#### S K 1056 (第94図)

2区北東部, 環濠内側に位置する土坑である。土坑 S K 1055・S K 1052と重複し, 一部が削平されている。平面形は楕円形を呈するものと推定される。長軸1.3m以上, 短軸0.95mを測る。断面形は浅い皿状を呈し, 深さ0.2mを測る。出土遺物は少量で, 甕, 柱状片刃石斧がみられる。464は口縁部が剥離しているが, 463・464ともに逆L字口縁であろう。



1. 暗褐色砂質土
2. 暗褐色シルト（細砂層、地山ブロック含む）
3. 黒灰色シルト粘質土

第97図 S K 1059平・断面図（1/50），出土土器（1/4）

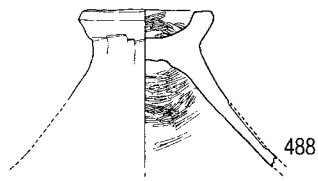
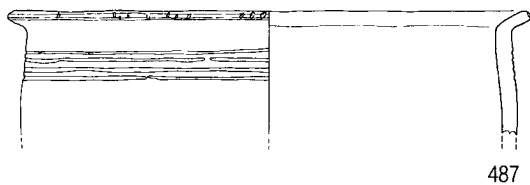
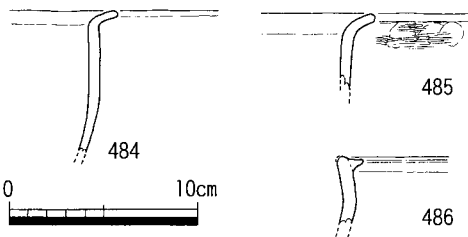
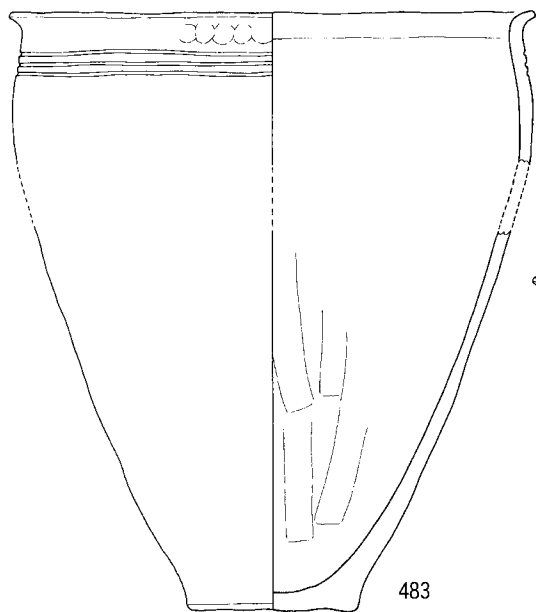
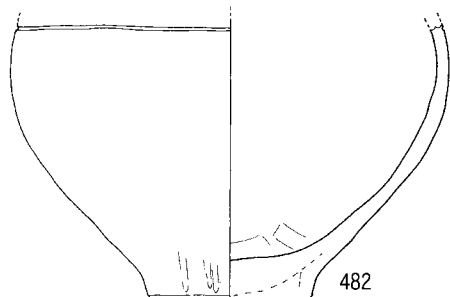
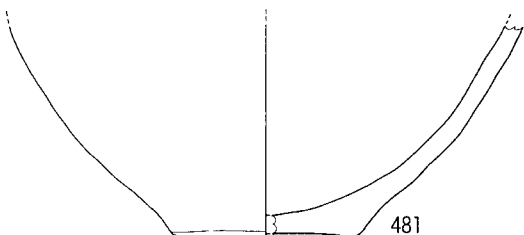
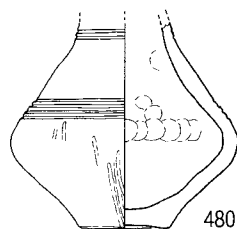
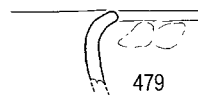
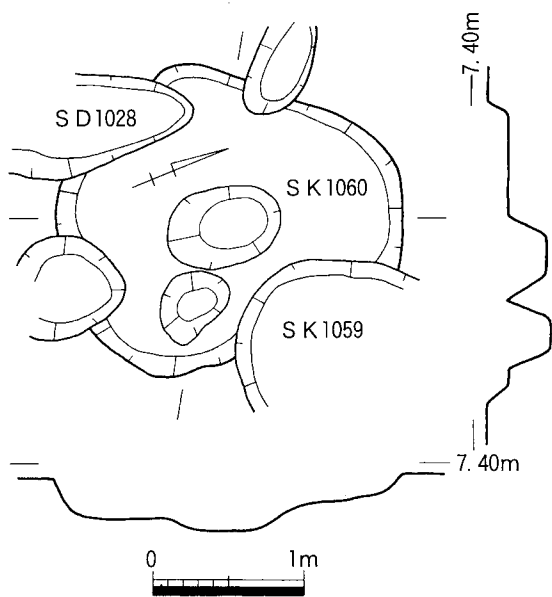
463はヘラ描沈線文を4条施す。

S K 1057（第95図）

2区北東部，環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1056と重複し，一部が削平されている。平面形はややいびつな楕円形を呈し，長軸1.9m，短軸1.5m，深さ0.15mを測る。出土遺物は微量で，甕または鉢の口縁部片がみられる。

S K 1058（第96図）

2区北端，環濠内側に位置する土坑である。北部は調査区外に連続するため，全体は不明である。平面形は不明であるが，現状では長軸1.7m，深さ0.2mを測る。底面には小穴が検出されたが，S K 1058に伴うものかどうかは不明である。出土遺物は微量で，甕の口縁部片がみられる。466の口縁部は如意状を呈し，ヘラ描沈線文を施す。



第98图 S K 1060平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)

### S K 1059 (第97図)

2区北部,環濠内側に位置する土坑である。平面形はほぼ円形を呈し,径1.5~1.7mを測る。底面は窪みが重複するが,他柱穴が重複したためと推定される。最深部で0.5mを測る。断面形からS K 1059は本来断面箱形を呈し,深さ0.3m程度を測るものと推定される。埋土の堆積状況から,柱穴が先行する可能性が高い。出土遺物は少量で,壺・甕・蓋,石鍬・不明片岩製品・石包丁がみられる。471~476は甕である。471・472は外反する口縁部をもつ。472はヘラ描沈線文を現存で2条施す。473の口縁部は如意状を呈する。474・475は逆L字口縁を呈し,474はヘラ描沈線文を現存で3条,475は3条施す。

### S K 1060 (第98図)

2区北部,環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1060,溝S D 1028や柱穴と重複し,一部が削平されている。平面形はややいびつな円形を呈し,径2.1~2.3mを測る。底面には小穴(径0.4~0.8m,深さ0.1~0.2m)が検出されているが,S K 1060に伴うかどうかは不明である。小穴を除く深さは0.3mを測る。出土遺物は少量で,壺・甕・蓋がみられる。480は小型の壺である。口縁部を欠損するが,頸部にヘラ描沈線文を現存で2条,体部に4条施す。483~487は甕である。483~485・487は口縁部は如意状を呈し,483はヘラ描沈線文を3条,487は4条施す。486は逆L字口縁である。摩滅しているため文様の有無は不明である。

### S K 1061 (第99図)

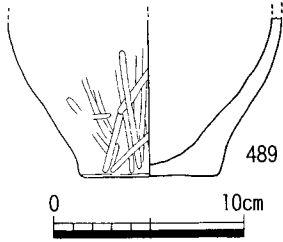
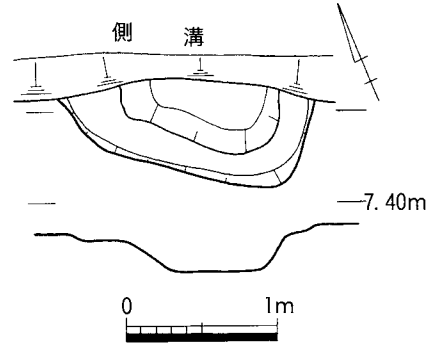
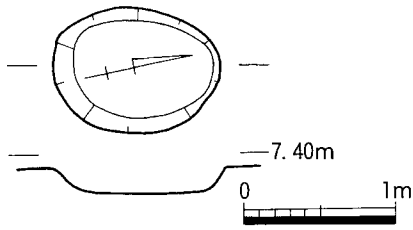
2区北部,環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し,長軸1.1m,短軸0.8mを測る。断面形は浅い皿状を呈し,深さ0.15mを測る。出土遺物は微量で,壺または甕の底部片がみられる。

### S K 1062 (第100図)

2区北端,環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し,長軸1.3m,短軸0.9mを測る。断面形はボウル状を呈し,最深部で深さ0.4mを測る。出土遺物は少量で,壺・甕がみられる。490~494は壺である。494は頸部で,押圧貼付突帯を現存で2条巡らす。497~503は甕である。497~499の口縁部は如意状を呈する。497は摩滅しており,ヘラ描沈線文2条が認められる。498は5条,499は3条以上のヘラ描沈線文を施す。500・501は逆L字口縁を呈し,500は3条以上のヘラ描沈線文を施す。

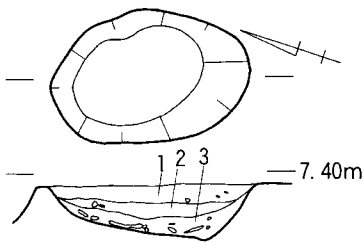
### S K 1063 (第101図)

2区北端,環濠内側に位置する土坑である。北部は調査区外に連続するため全体は不明

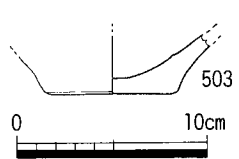
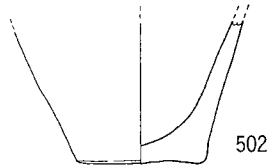
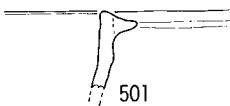
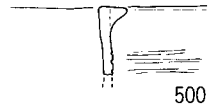
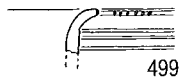
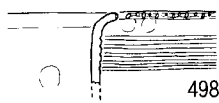
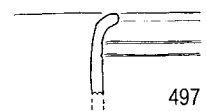
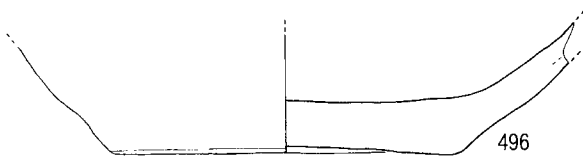
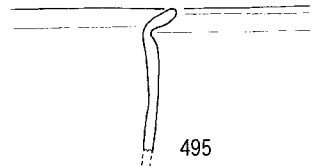
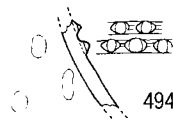
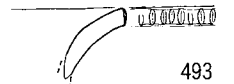
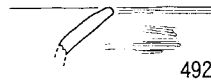
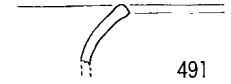


第101図 S K 1063平・断面図 (1/50)

第99図 S K 1061平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)



1. 暗褐色砂質土
2. 暗褐色砂質土 (砂粒小さい)
3. 黒灰色細砂・シルト



第100図 S K 1062平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

である。現状では長軸1.7m、短軸0.7m以上を測る。2段掘りとなり、最深部で深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で、土器片、刃器がみられる。

#### S K 1064 (第102図)

2区北東部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈する。長軸1.3m、短軸0.5m、深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で、鉢・甕がみられる。504は口縁部が直口する鉢で、外面には櫛描直線文9条を施す。505は甕である。口縁部は剥落しているが、逆L字口縁を呈すると考えられる。櫛描直線文23条と三角形刺突文を施す。

#### S K 1065 (第103図)

2区北東部、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1067・S K 1057や柱穴と重複し、一部が削平されている。平面形は卵形を呈し、長軸5.8m前後、短軸1.2m前後を測る。底面は平坦ではなく、中央部に向かって窪む。最深部で深さ0.3mを測る。埋土下層上位から大形土器片が出土した。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。508は甕で、口縁部は如意状を呈し、ヘラ描沈線文を3条施す。

#### S K 1066 (第104図)

2区北東部、環濠内側に位置する土坑である。S K 1065と重複し、一部が削平されている。平面形は楕円形を呈し、長軸1.3m前後、短軸1.0mを測る。底面からは小穴が検出されたが、S K 1066に伴うものかどうかは不明である。小穴を除く土坑の深さは0.2mを測る。出土遺物は少量で、甕・ミニチュア土器がみられる。509は折り曲げ口縁の甕である。510は逆L字口縁を呈する。

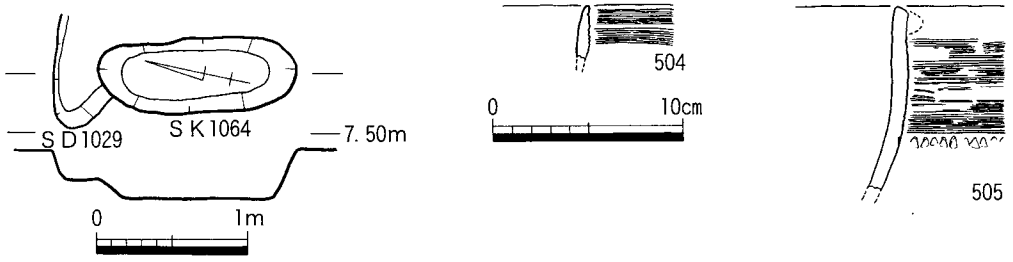
#### S K 1067 (第105図)

2区北東部、環濠内側に位置する土坑である。柱穴と重複し、一部が削平されている。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸1.4m前後、短軸0.95mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.15mを測る。底面から3個の小穴が検出されたが、S K 1067に伴うものかどうかは不明である。出土遺物は少量で、甕・鉢がみられる。513・514は甕である。513の口縁部は如意状を呈する。514は逆L字口縁で、ヘラ描沈線文を現存で2条施す。

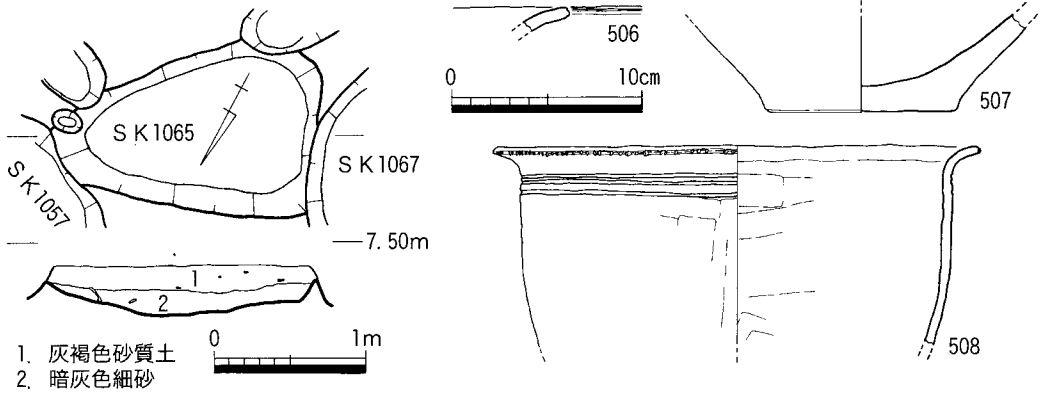
#### S K 1068 (第106図)

2区北部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はややいびつな円形を呈し、径0.95～1.05mを測る。壁の立ち上がりは急で、断面形は箱形を呈し、深さ0.25mを測る。出土遺物は微量で、甕片、石鋏がみられる。

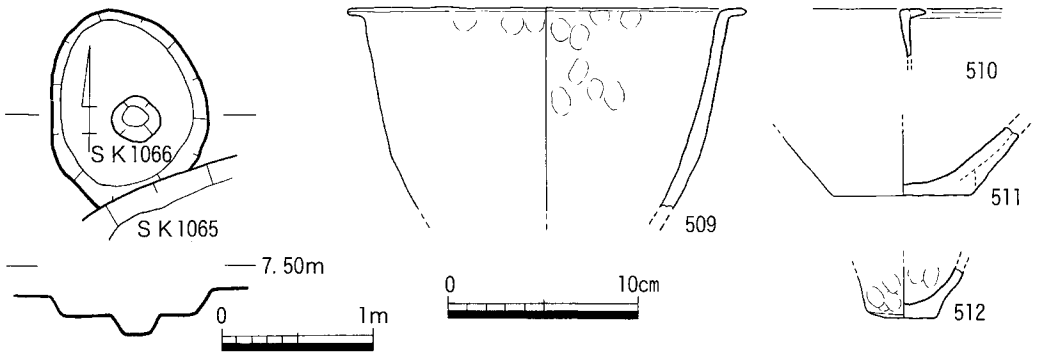




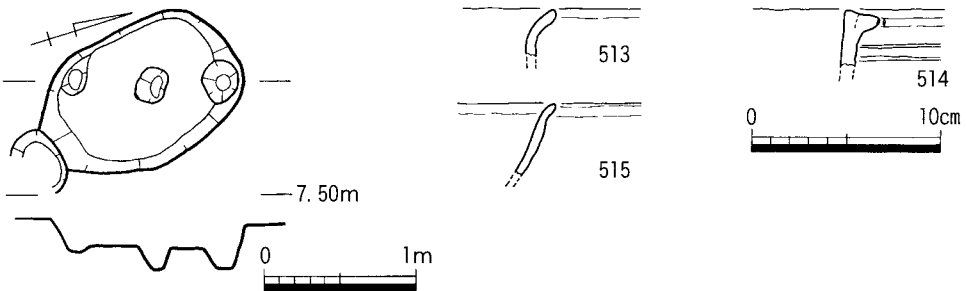
第102图 S K 1064平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)



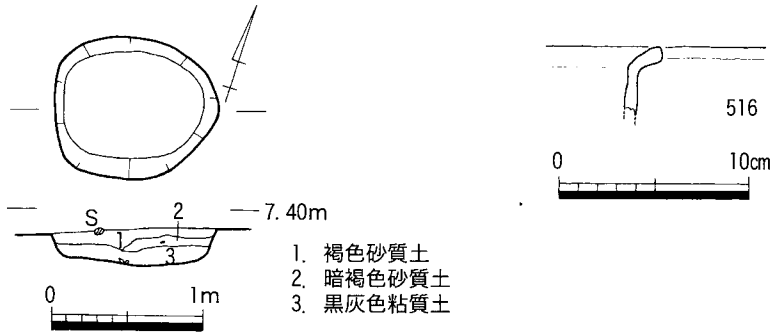
第103图 S K 1065平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)



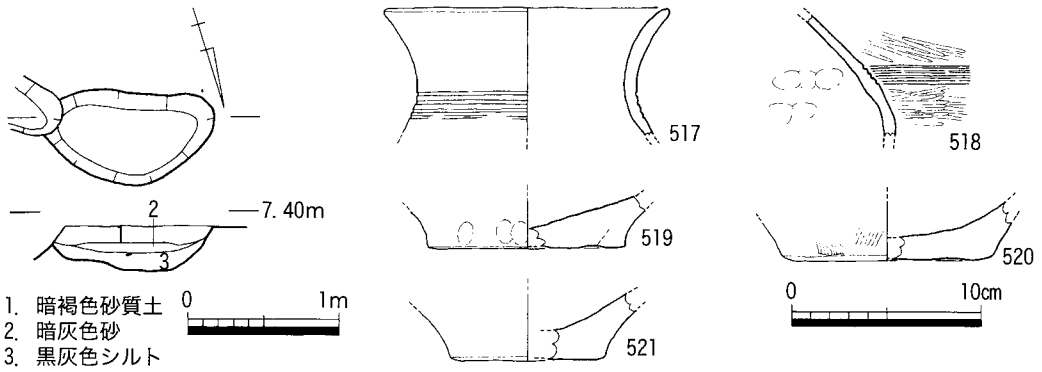
第104图 S K 1066平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)



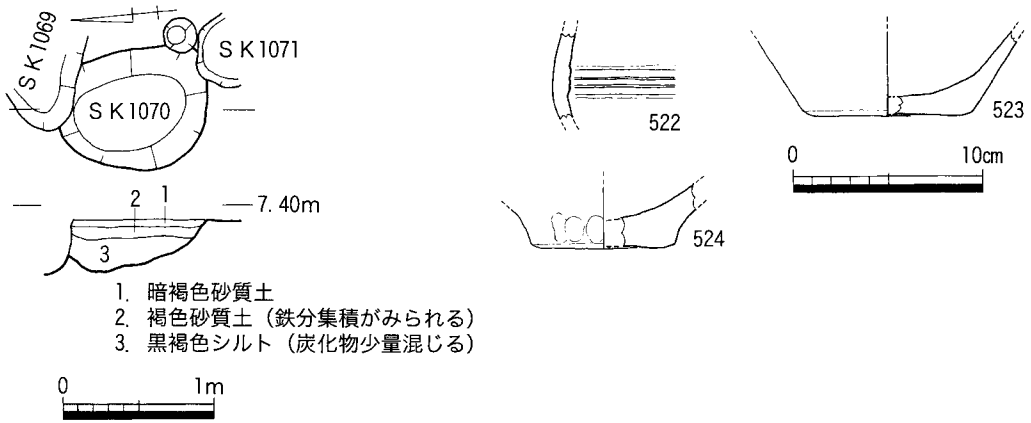
第105图 S K 1067平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)



第106図 S K 1068平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第107図 S K 1069平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第108図 S K 1070平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

### S K 1069 (第107図)

2区北部，環濠内側に位置する土坑である。柱穴と重複し，一部が削平されている。平面形はややいびつな楕円形を呈し，長軸1.15m，短軸0.6mを測る。壁の立ち上がりは急で，断面形は箱形に近い。深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で，壺，石包丁がみられる。517は壺の口頸部である。頸部にヘラ描沈線文を4条施す。518は壺の体部片である。体部にはヘラ描沈線文を4条施す。

### S K 1070 (第108図)

2区北部，環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1069・S K 1071と重複し，一部が削平されている。平面形はややいびつな楕円形で長軸1.0m，短軸0.8mを測る。断面形はボウル状を呈し，最深部で深さ0.35mを測る。出土遺物は少量で，壺，柱状片刃石斧がみられる。522は壺の頸部片である。頸部に削出突帯第Ⅱ種を施し，突帯間に2条のヘラ描沈線文を巡らす。

### S K 1071 (第109図)

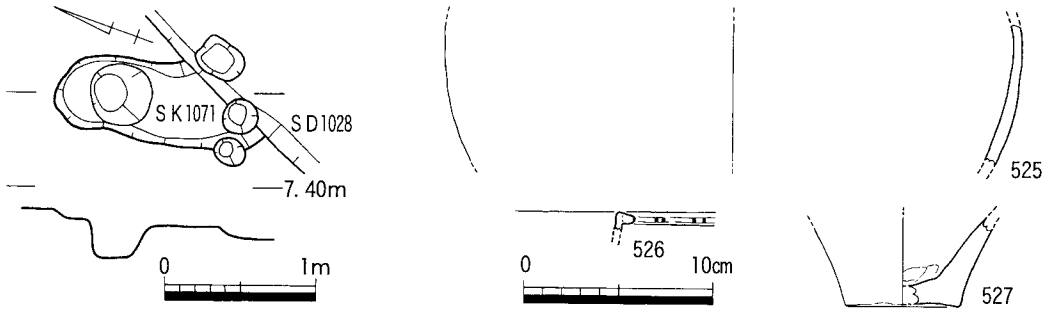
2区北部，環濠内側に位置する土坑である。溝S D 1028と重複し，一部が削平されている。平面形は楕円形を呈すると推定され，残存長軸1.3m，短軸0.55m，深さ0.1mを測る。底面には小穴が検出されたが，S K 1071に伴うものかどうかは不明である。出土遺物は少量で，甕がみられる。526は甕の口縁部片で，逆L字口縁を呈する。

### S K 1072・S K 1073 (第110・111図)

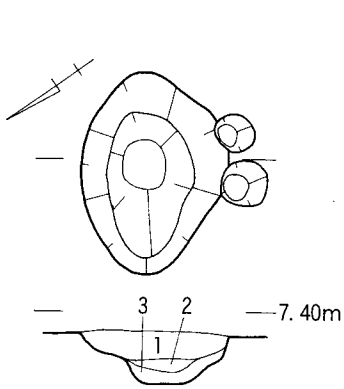
S K 1072は2区北部，環濠内側に位置する土坑である。柱穴と重複し，一部が削平されている。平面形はややいびつな卵形を呈する。長軸1.35m，短軸1.0m，深さ0.35mを測る。S K 1073はS K 1072の南側に位置する土坑である。当初S K 1072と同一遺構として掘り進めた。柱穴と重複し，一部が削平されている。平面形はほぼ円形を呈する。径1.75～1.85mを測る。断面形は浅い皿状を呈する。底面中央部には3個の小穴（径0.3～0.6m，深さ0.1～0.5m）が検出されたが，S K 1073に伴うものかどうか不明である。小穴を除く深さは0.1mを測る。両土坑からの出土遺物は微量で，土器片がみられる。

### S K 1074 (第112図)

2区北部，環濠内側に位置する土坑である。柱穴と重複し，一部が削平されている。平面形はほぼ楕円形を呈する。長軸1.8m，短軸1.2mを測る。中央部に窪みがあり，最深部で0.2mを測る。埋土は黒灰色粘土混じり砂で，中央部の窪み部分の埋土は特に黒色みが強い。ここからは土器片がまとまって出土した。出土遺物は少量で，壺がみられる。



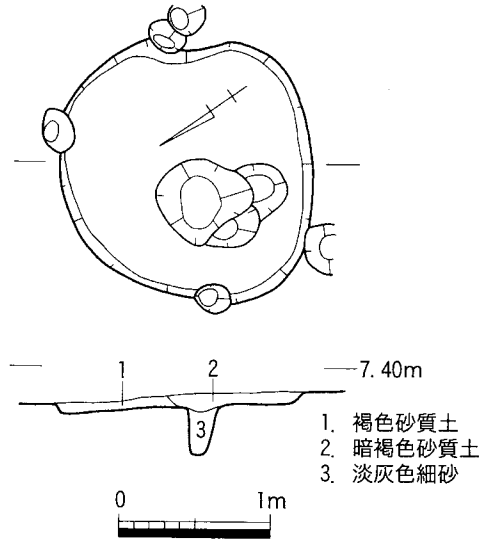
第109図 S K 1071平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



1. 暗灰褐色砂質土
2. 暗灰色砂
3. 黒灰色砂 (炭化物を少量含む)

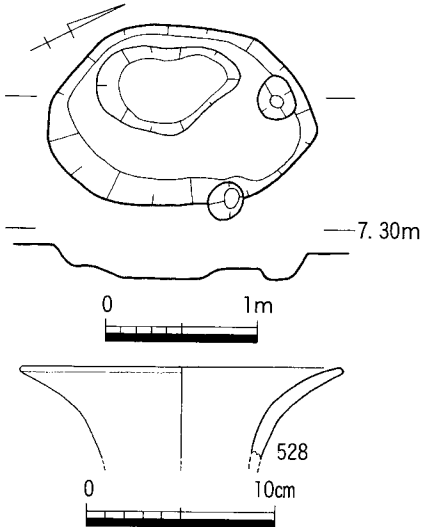


第110図 S K 1072平・断面図 (1/50)

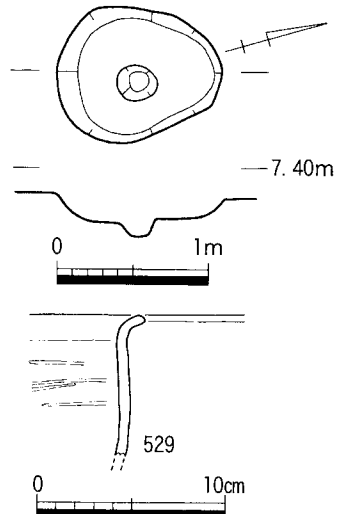


1. 褐色砂質土
2. 暗褐色砂質土
3. 淡灰色細砂

第111図 S K 1073平・断面図 (1/50)



第112図 S K 1074平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第113図 S K 1075平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

### S K 1075 (第113図)

2区北部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は卵形を呈する。長軸1.1m, 短軸0.9m, 深さ0.15mを測る。底面からは小穴が検出されたが、S K 1075に伴うものかどうか不明である。出土遺物は微量で、甕がみられる。529の口縁部は如意状を呈する。

### S K 1076 (第114図)

2区北部、環濠内側に位置する土坑である。柱穴と重複し、一部が削平されている。平面形は隅丸長方形を呈する。長軸2.7m, 短軸1.3mを測る。断面形は舟形を呈し、東部の壁の立ち上がりは急で、西部の壁の立ち上がりは緩やかである。底面は平坦で、深さ0.4mを測る。埋土下層に大形土器片を包含する。出土遺物は少量で、壺・甕・鉢、石包丁がみられる。530は壺の口縁部片で、口縁端部にヘラ描沈線文と刻目を施す。533～535の口縁部は如意状を呈し、533・534は4条のヘラ描沈線文を施す。

### S K 1077 (第115図, 図版16)

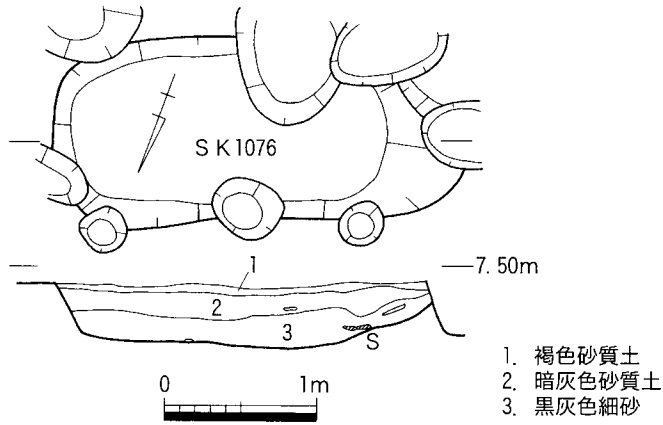
2区北部、環濠内側に位置する。平面形はややいびつな長楕円形を呈する。長軸3.8m, 短軸1.0m, 深さ0.2mを測る。平面形からは溝または土坑のいずれかと考えられるが、短辺の壁の立ち上がりが急であることから、ここでは土坑として報告する。埋土からは遺物が多量に出土した。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、壺・甕・蓋、石皿または砥石・不明安山岩系片がみられる。537～545は壺である。541は頸部にヘラ描沈線文4条施す。542は頸部に貼付突帯が施される。現存するのは1条である。下部の突帯は剥がれ落ちたものと考えられる。543は壺の体部で、ヘラ描流水文を2帯施す。544は壺の口縁部片で、内面に貼付突帯を施し、その上部に円孔がみられる。546～550は甕である。546・547・550の口縁部は如意状を呈し、546・547はヘラ描沈線文を4条施す。

### S K 1078 (第116図)

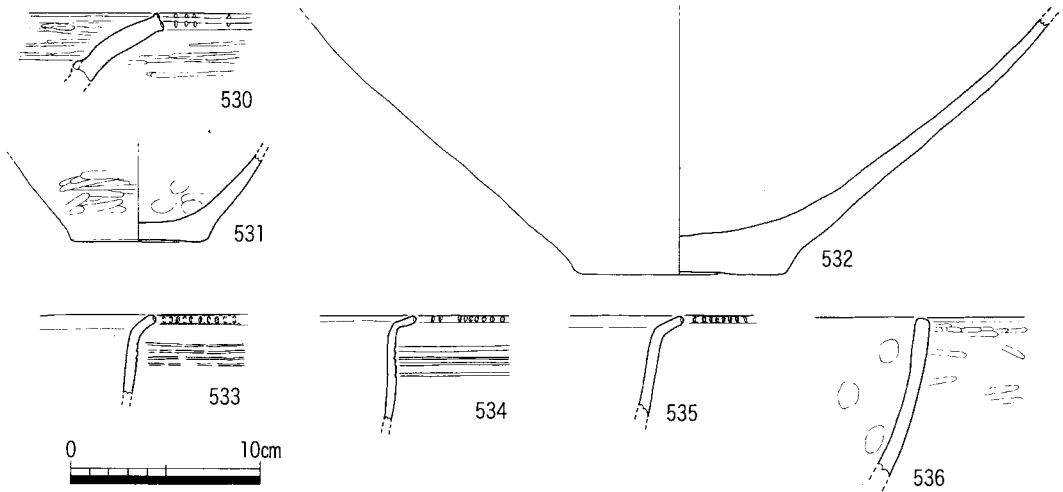
2区北東部、環濠内側に位置する。平面形はいびつな卵形を呈する。長軸2.0m, 短軸1.5mを呈する。西部は浅く、張り出し状となり、東部に楕円形の窪みがあり、長軸1.6m, 短軸1.1mを測る。断面形はボウル状を呈する。最深部で深さ0.3mを測る。先行する土坑であろう。出土遺物は少量で、壺・甕・蓋または鉢がみられる。553は壺である。553は頸部に削出突帯第Ⅱ種で、突帯間にヘラ描沈線文を1条施す。555の口縁部は如意状を呈し、ヘラ描沈線文を2条施す。556は逆し字口縁の甕で、口縁部上端にはヘラ描沈線文を2条施す。

### S K 1079 (第117図)

2区東端、環濠内側に位置する。平面形はいびつな円形を呈し、径0.85～1.1m, 深さ0.5



- 1. 褐色砂質土
- 2. 暗灰色砂質土
- 3. 黒灰色細砂



第114図 SK 1076平・断面図（1/50）、出土土器（1/4）

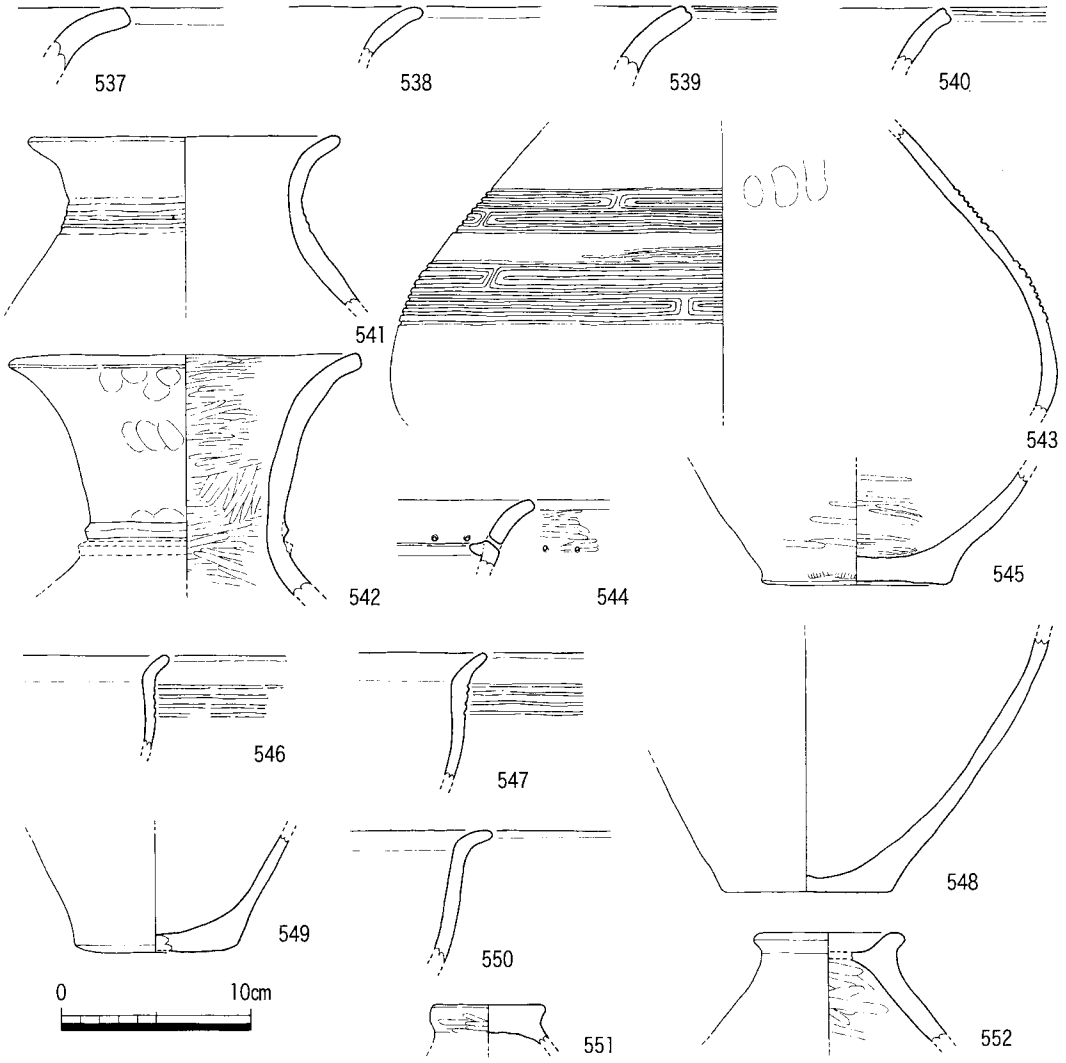
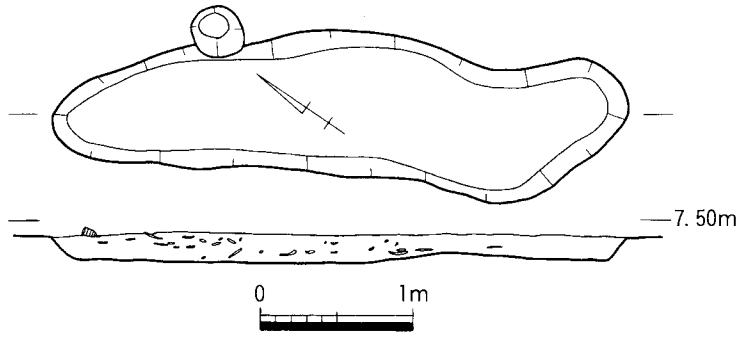
mを測る。出土遺物は微量で、蓋がみられる。

SK 1080（第118図）

2区北東部、環濠内側に位置する。土坑SK 1081と重複し、一部が削平されている。平面形はほぼ円形を呈し、径1.0m前後を測る。断面形はボウル状を呈し、深さ0.25mを測る。出土遺物は少量で、甕がみられる。559・560は甕で、口縁部は如意状を呈する。559はヘラ描沈線文を現存で2条施す。

SK 1081（第119図）

2区北東部、環濠内側に位置する。柱穴と重複し、一部が削平されている。平面形はほぼ円形を呈し、径1.0~1.2mを測る。断面形はボウル状を呈し、深さ0.25mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕または鉢、石鍬・石錐がみられる。563は壺の頸部で、際取り沈線によ



第115图 S K 1077平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)

る段がみられる。564は甕または鉢で、ヘラ描沈線文を2条施す。

#### S K 1082 (第120図, 図版16)

2区東端, 環濠内側に位置する土坑である。東部は排水用の側溝によって削平されている。平面形はほぼ円形を呈し, 径1.5m前後を測る。断面形は台形を呈し, 深さ0.7mを測る。埋土は最上層に包含層に類似する暗褐色砂質土が堆積する。以下は, 暗灰色系統の細砂・シルト・粘土が互層堆積する。また, 埋土下部には薄い炭化物層が堆積する。底面は平坦で, 湧水層に達していることから, 井戸の可能性が高いものと考えられる。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で, 壺・甕・蓋, 石包丁・太型蛤刃石斧・石鍬・刃器がみられる。565~567は壺である。565は頸部に削出突帯第I種を施す。568~574は甕である。568は粘土紐接合部分に段をもつ。569の口縁部は如意状を呈する。569はヘラ描沈線文を2条, 570は6条施す。571・572は逆L字口縁を呈する。571はヘラ描沈線文を5条, 572はヘラ描沈線文を現存で2条施す。

#### S K 1083 (第121図)

2区東端, 環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈する。長軸1.35m, 短軸1.05mを測る。2段掘りになり, 中央部が窪む。最深部で深さ0.4mを測る。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で, 壺・甕・蓋, 柱状片刃石斧がみられる。579は壺の頸部片であるが, 格子状貼付突帯を施す。583~585は甕である。583の口縁部は如意状を呈し, 584・585は逆L字口縁を呈する。

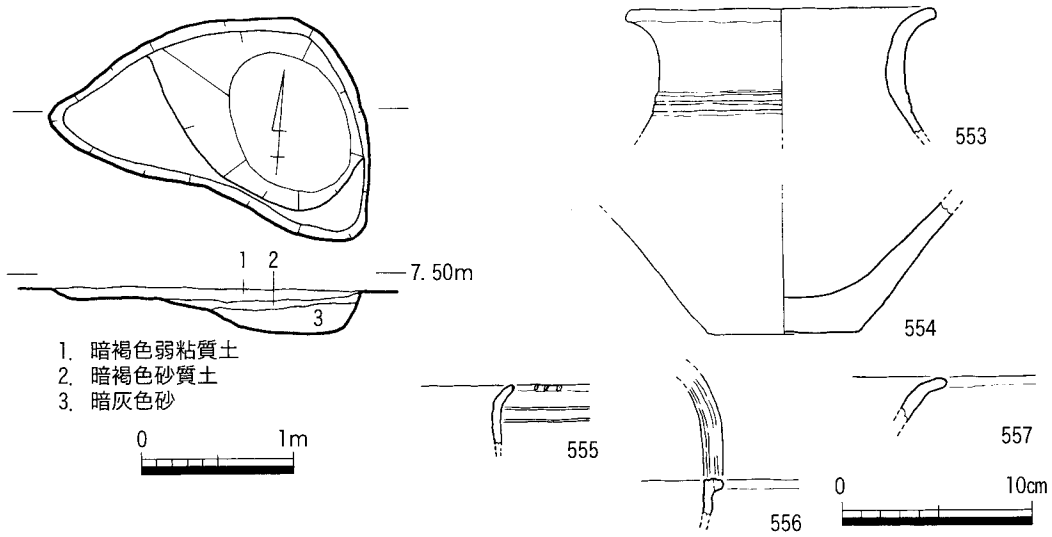
#### S K 1084 (第122図)

2区東端, 環濠内側に位置する土坑である。東部は排水用の側溝によって削平されている。柱穴が重複し, 一部が削平されている。平面形は隅丸長方形を呈し, 長軸3.1m, 短軸0.8m以上, 深さ0.15mを測る。底面には小穴(径0.3m前後, 深さ0.2m)が検出されたが, S K 1084に伴うものかどうか不明である。出土遺物は微量で, 壺または蓋の口縁部片がみられる。

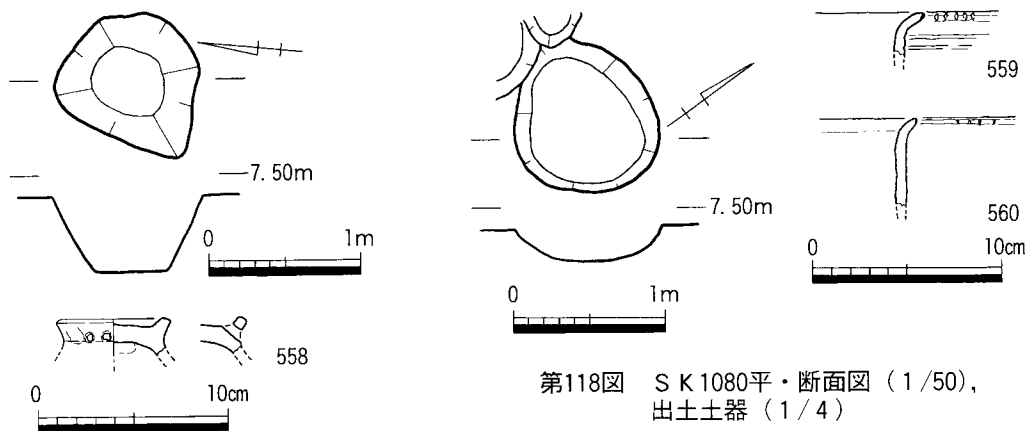
#### S K 1085 (第123図)

2区東部, 環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1083・S K 1087と重複し, 一部が削平されている。平面形は楕円形を呈し, 長軸1.9m以上, 短軸1.0mを測る。南部は浅い張り出し状となり, 北東部は平面楕円形の窪みがある。この窪みは先行する土坑と考えられるが, 長軸1.2m, 短軸0.6mを測る。断面形はボウル状で, 最深部で深さ0.45mを測る。出土遺物は少量で, 壺・甕・鉢・紡錘車がみられる。592は口縁部が直口する鉢で, 外面には



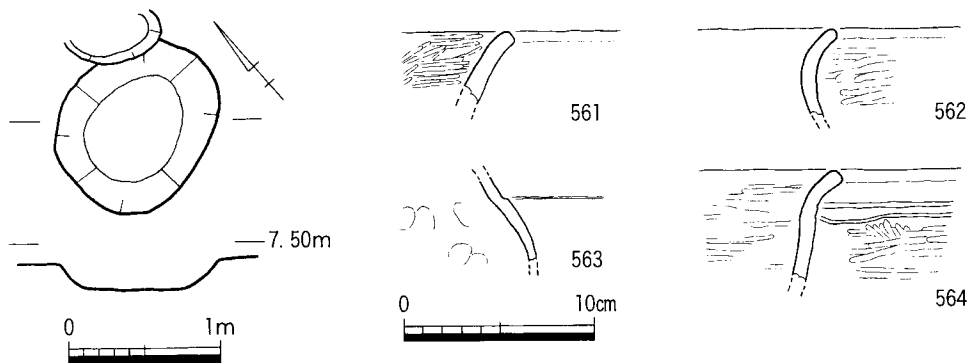


第116图 S K 1078平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)

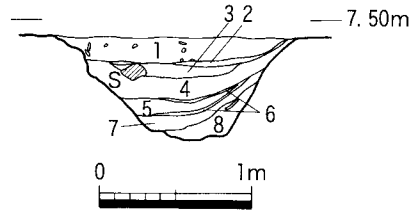
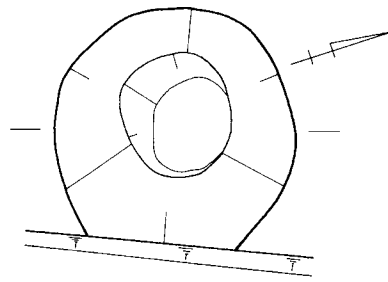


第118图 S K 1080平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)

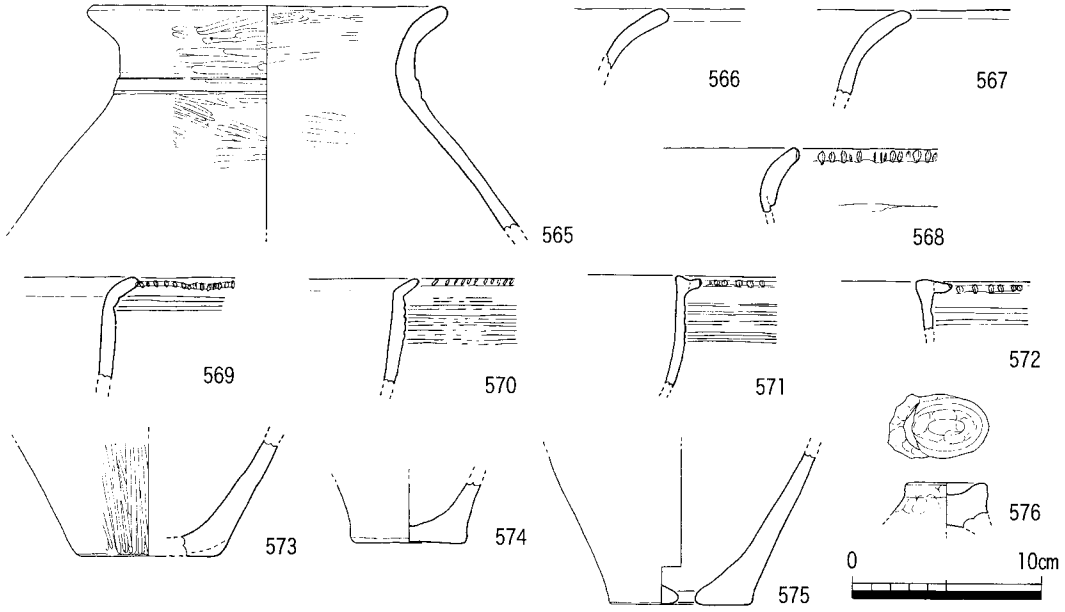
第117图 S K 1079平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)



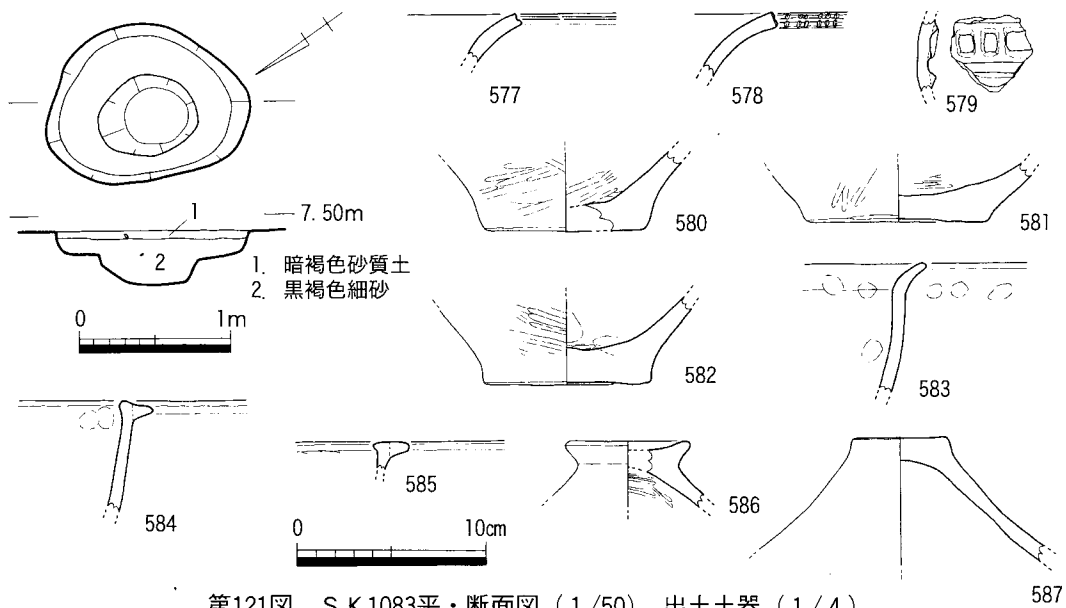
第119图 S K 1081平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)



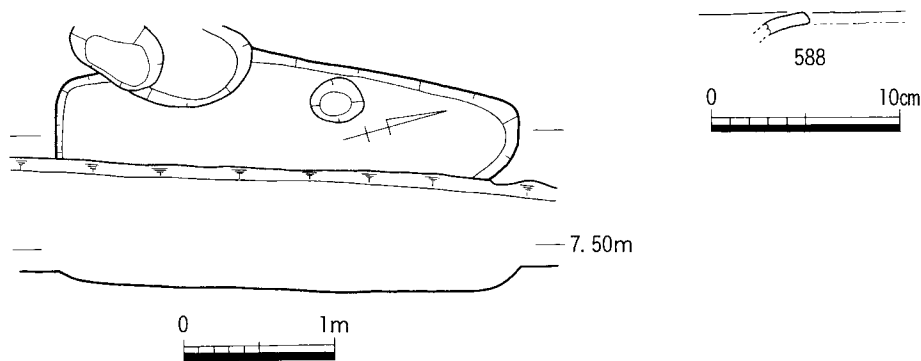
- 1. 暗褐色砂質土
- 2. 暗黄色砂質土
- 3. 黒灰色細砂
- 4. 淡灰褐色粗砂
- 5. 暗灰シルト
- 6. 炭化物
- 7. 暗黄灰色シルト
- 8. 暗灰粘質土



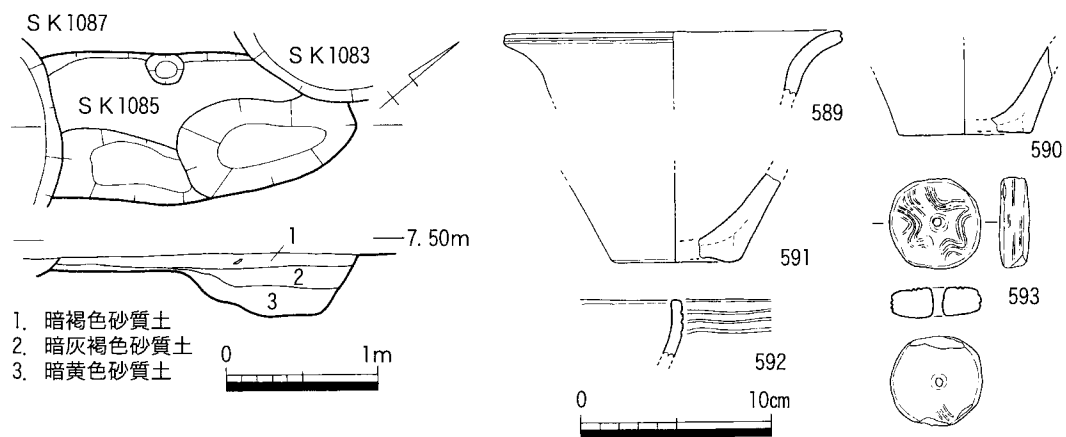
第120図 S K 1082平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第121図 S K 1083平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第122図 S K 1084平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

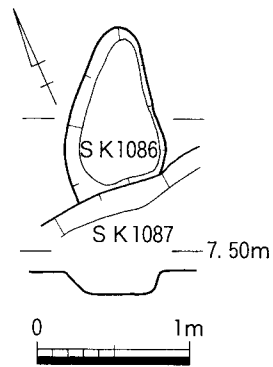


第123図 S K 1085平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

ヘラ描沈線文3条を施す。593は紡錘車で、焼成前に穿孔し、櫛描波状文を施す。

#### S K 1086 (第124図)

2区東部、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1087と重複し、一部が削平されている。平面形はいびつな隅丸三角形を呈し、長軸1.1m以上、短軸0.7mを測ると推定される。深さ0.15mを測る。遺物は石包丁が出土しただけである。



第124図 S K 1086平・断面図  
(1/50)

#### S K 1087 (第125図)

2区東部、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1088と重複し、一部が削平されている。平面形はいびつな長楕円形を呈し、長軸3.0m以上、短軸0.8mを測る。西部に向かって落ち込んでおり、深さ0.15mを測る。底面東部から小穴(径0.3~0.5m、深さ0.1m)が検出されたが、S K 1087に伴うものかどうかは不明である。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。594は壺の口頸部で、ヘラ描沈線文を2条を施す。595・596は壺の体部片である。595はヘラ描沈線文3条2帯、596は際取り沈線による段を施し、その下にヘラ描沈線文を3条施す。597~599は甕で、597は頸部にヘラ描沈線文を5条施す。598は折り曲げ口縁で、ヘラ描沈線文を2条施す。599は貼付口縁で、口縁部が少し下がり気味になる。

#### S K 1088 (第126図)

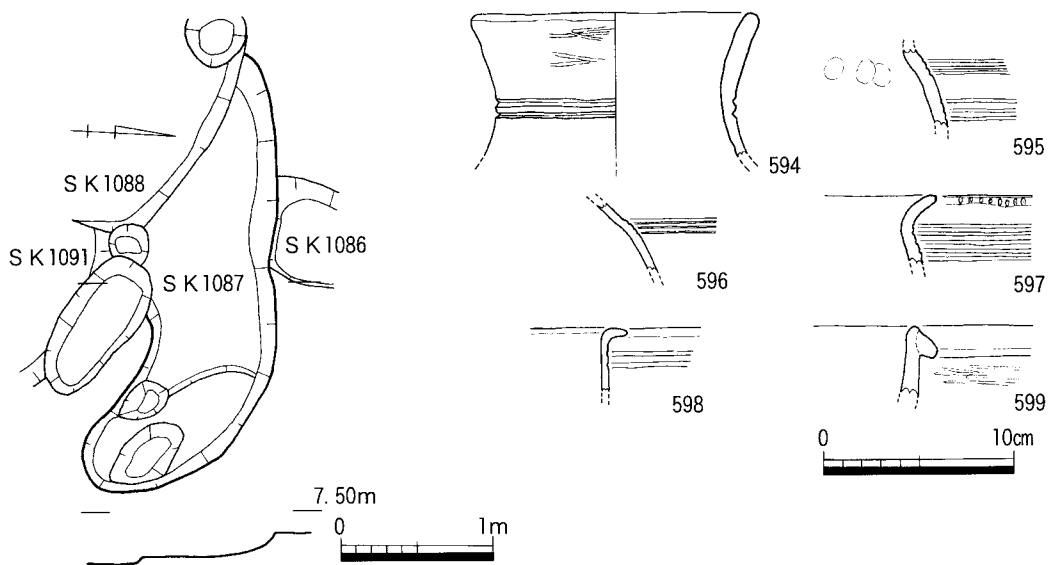
2区東部、環濠内側に位置する土坑である。柱穴や平安時代の井戸S E 1001と重複し、一部が削平されている。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸1.9m、短軸1.6m、深さ0.25mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕、柱状片刃石斧がみられる。600・601は壺である。600は壺の体部で、貼付刻目突帯を施す。602~604は甕である。604は逆L字口縁を呈する。

#### S K 1089 (第127図)

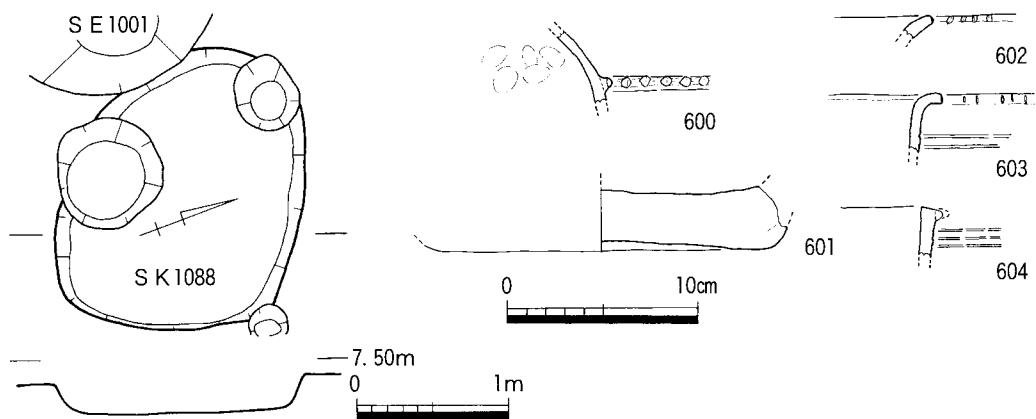
2区東部、環濠内側に位置する土坑である。柱穴と重複し、一部が削平されている。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸2.1m、短軸0.7~1.0m、深さ0.1mを測る。出土遺物は微量で、壺の口縁部片、太型蛤刃石斧・石包丁がみられる。

#### S K 1090 (第128図)

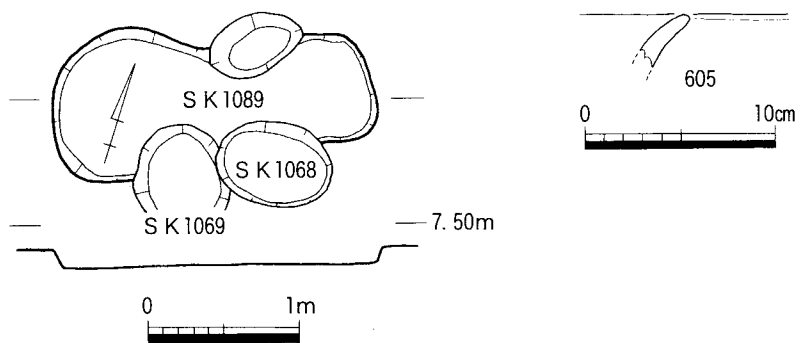
2区東部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はほぼ円形を呈し、径0.7m、深さ0.2mを測る。出土遺物は微量で、壺の底部片がみられる。



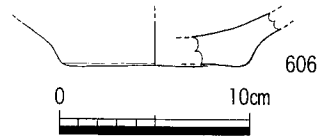
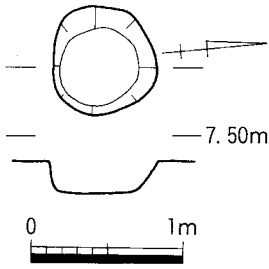
第125图 S K 1087平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)



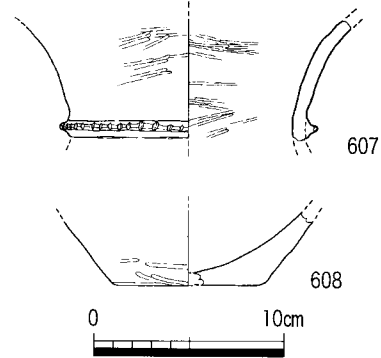
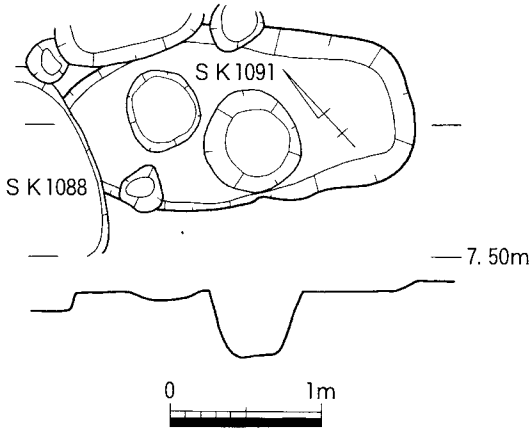
第126图 S K 1088平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)



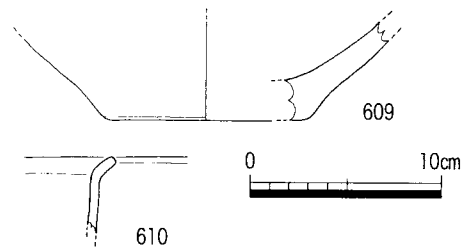
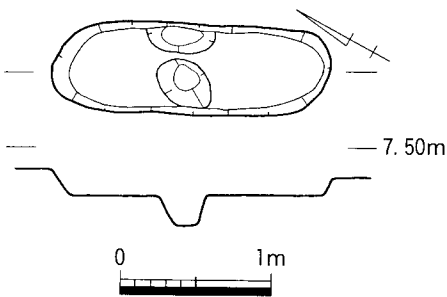
第127图 S K 1089平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)



第128図 S K 1090平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



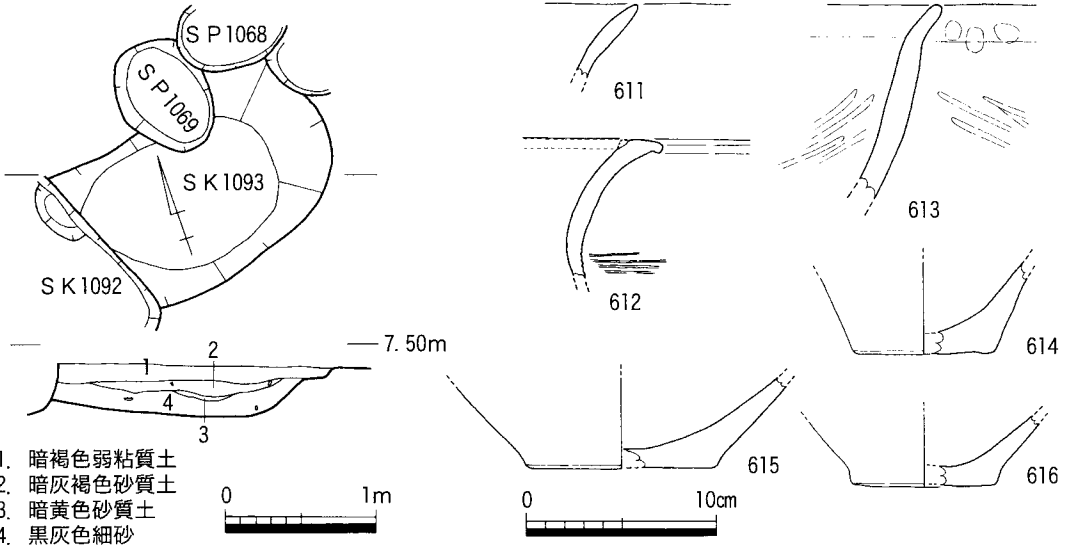
第129図 S K 1091平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



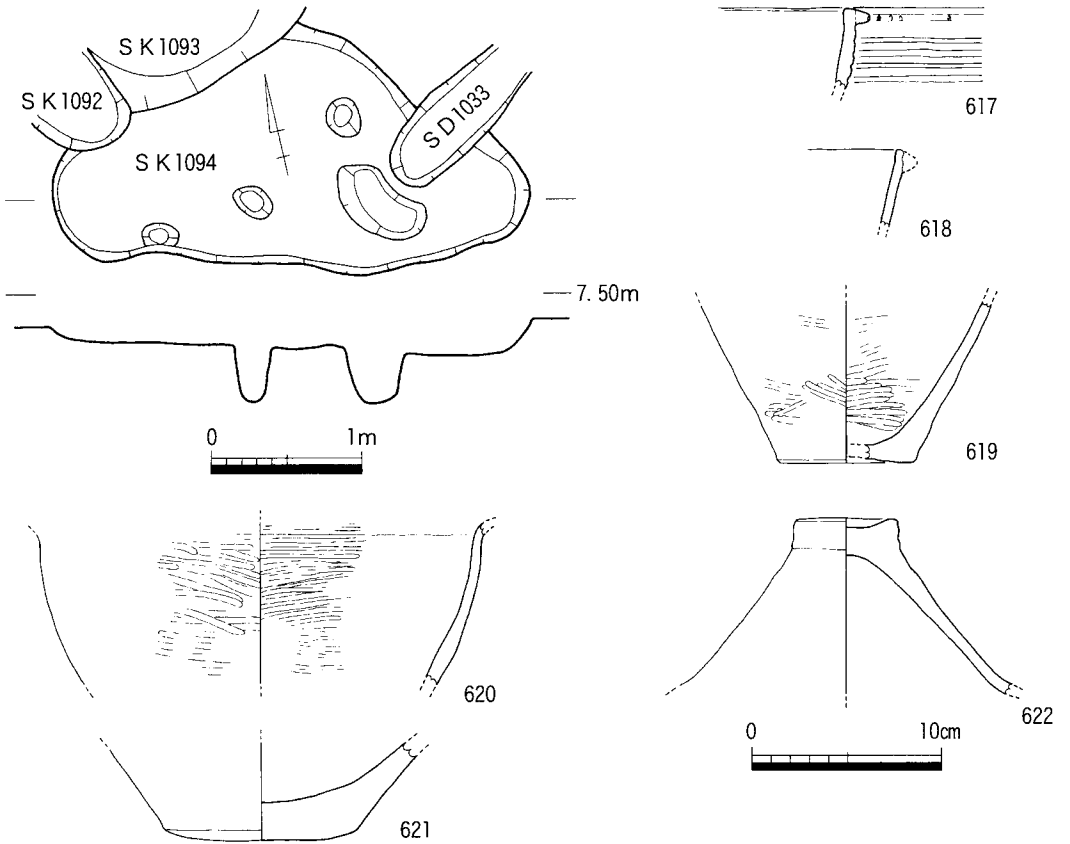
第130図 S K 1092平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

### S K 1091 (第129図)

2区東部, 環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1088, 柱穴と重複し, 一部が削平されている。平面形はややいびつな隅丸長方形を呈し, 長軸2.2m以上, 短軸1.2m前後を測る。底面からは小穴(径0.3~0.7m, 深さ0.1~0.5m)が検出されたが, S K 1091に伴うかどうかは不明である。小穴を除く深さは0.1mを測る。出土遺物は少量で, 壺, 打製石斧がみられる。607は頸部に貼付刻目突帯を施す。



第131図 S K 1093平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第132図 S K 1094平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

#### S K 1092 (第130図)

2区東部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は長楕円形を呈し、長軸1.85m、短軸0.6m、深さ0.1mを測る。底面から小穴(径0.15~0.4m、深さ0.2m)が検出されたが、S K 1092に伴うものかどうかは不明である。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。

#### S K 1093 (第131図)

2区東部、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1092、柱穴が重複し、一部が削平されている。平面形は隅丸長方形を呈すると推定される。長軸1.6m以上、短軸1.1m、深さ0.35mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕・鉢がみられる。612は壺の口縁部である。剥離しているが、内面に1条の貼付突帯が施されていたと考えられる。

#### S K 1094 (第132図)

2区東部、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1092・S K 1093や溝S D 1033と重複し、一部が削平されている。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸3.1m、短軸1.6m、深さ0.2mを測る。底面には3個の小穴(径0.2~0.7m、深さ0.1~0.4m)が検出されたが、S K 1094に伴うかどうかは不明である。出土遺物は少量で、甕・鉢・蓋、石包丁がみられる。618は口縁部が剥落しているが、617と同様に逆L字口縁を呈すると考えられる。

#### S K 1095 (第133図)

2区北部、環濠内側に位置する土坑である。北部は攪乱坑により削平されている。残存部分から推定すると平面形は長楕円形を呈するものと思われる。長軸2.25m以上、短軸1.6m、深さ0.1mを測る。底面には小穴(径0.2~0.8m、深さ0.1~0.2m)が検出されたが、S K 1095に伴うかどうかは不明である。出土遺物は少量で、土器片、石包丁が出土しただけである。

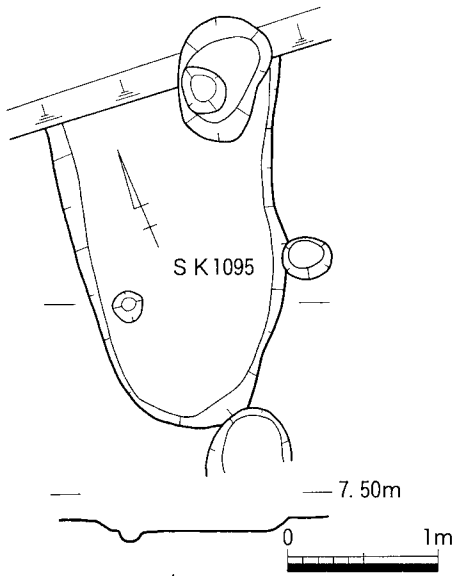
#### S K 1096 (第134図)

2区北西部、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1167や柱穴と重複し、一部が削平されている。平面形はほぼ楕円形を呈するものと推定される。長軸2.0m以上、短軸1.1mを測る。西部、南部はテラス状の張り出しとなり、北部はもう一段窪む。最深部で深さ0.4mを測る。先行する土坑であろう。出土遺物は微量で、甕の口縁部片がみられる。623は甕で、口縁端部には1条のヘラ描沈線文、外面には現存で3条のヘラ描沈線文を施す。

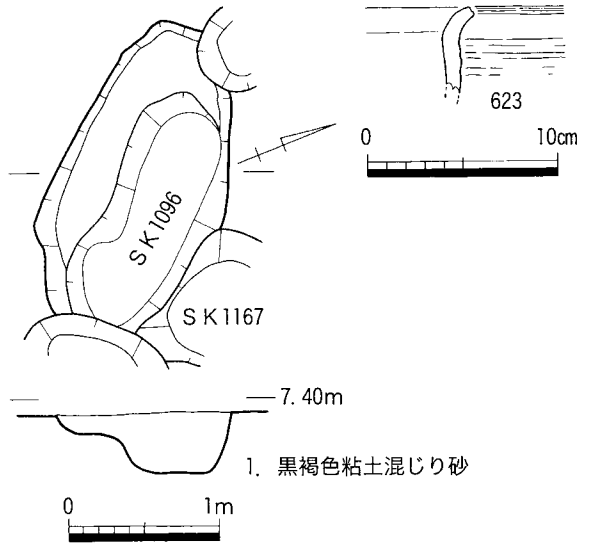
#### S K 1097 (第135・136図)

2区北西部、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1098と重複し、一部が削平されている。平面形はややいびつな楕円形を呈するものと推定され、長軸2.0m以上、短軸1.5m



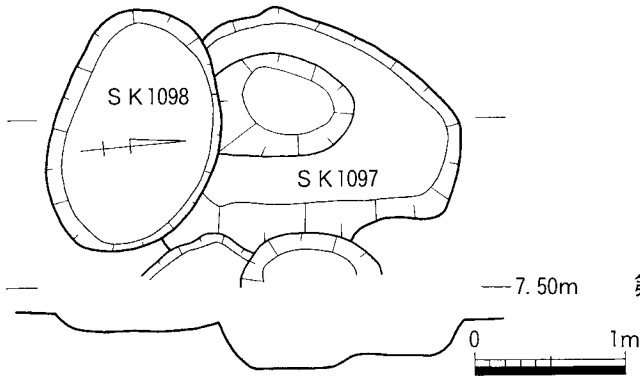


第133図 S K 1095平・断面図 (1/50)

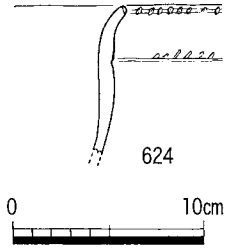


第134図 S K 1096平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)

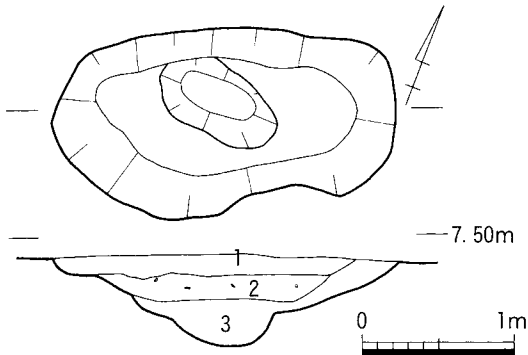
1. 黒褐色粘土混じり砂



第135図 S K 1097・S K 1098平・断面図 (1/50)

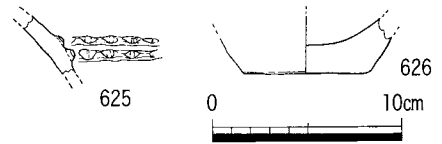


第136図 S K 1097出土土器 (1/4)



第137図 S K 1099平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

1. 暗褐色粗砂
2. 黒灰色砂
3. 黒灰色砂質土 (やや粘性あり)



前後を測る。中央部には平面形楕円形の窪みがみられ、長軸1.6m、短軸0.7m、最深部で深さ0.35mを測る。埋土は灰色粘土混じり褐色粗砂礫である。出土遺物は少量で、甕がみられる。624は甕で、体部に段をもち、段の上部には刻目を施す。

S K 1098 (第135図)

2区北西部、環濠内側に位置する土坑である。S K 1097と重複し、一部を削平している。平面形はほぼ楕円形を呈し、長軸1.65m、短軸1.1m、深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で、土器片、石皿または砥石が出土しただけである。

S K 1099 (第137図)

2区北西部、環濠内側に位置する。土層堆積から2基の土坑が重複すると考えられる。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸2.3m、短軸1.1~1.3mを測る。中央部には先行する土坑に伴う落ち込みがあり、断面形はボウル状を呈する。最深部で深さ0.6mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕、片刃石斧片、石錐がみられる。625は壺の体部片で、押圧貼付刻目突帯を現存で2条施す。

S K 1100 (第138図)

2区北西部、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1101と重複し、一部が削平されている。平面形は楕円形を呈するものと推定され、長軸1.5m以上、短軸1.4mを測る。断面形はボウル状を呈する。最深部で深さ0.45mを測る。出土遺物は微量で、甕片、石錐・石匙がみられる。627は口縁部を剥落するが、628同様逆L字口縁を呈すると推定される。

S K 1101 (第139図)

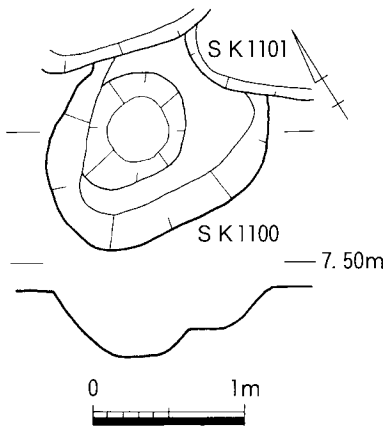
2区北西部、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1102と重複し、一部が削平されている。平面形はややいびつな楕円形を呈するものと推定され、長軸1.1m以上、短軸0.6~0.75m、深さ0.15mを測る。出土遺物は少量で、甕片がみられる。629・630の口縁部は如意状を呈する。629は摩滅が顕著であるが、ヘラ描沈線文が現存で3条観察できる。630はヘラ描沈線文を現存で12条施す。

S K 1102 (第140図)

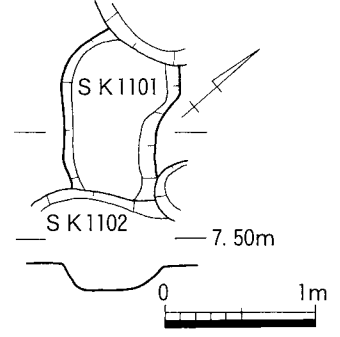
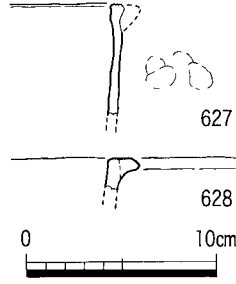
2区北西部、環濠内側に位置する土坑である。柱穴と重複し、一部が削平されている。平面形は長楕円形を呈し、長軸1.6m、短軸0.65mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.2mを測る。出土遺物は微量で、土器片がみられる。

S K 1103 (第141図)

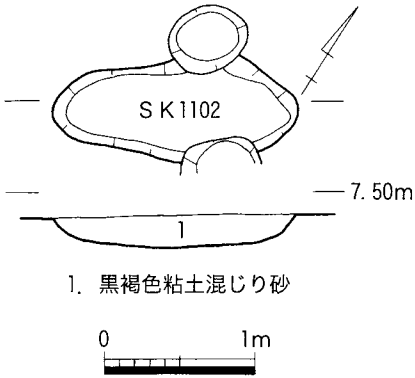
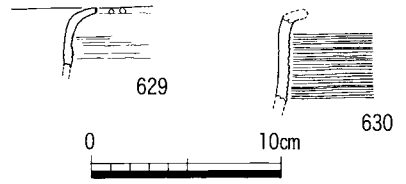
2区北部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は長楕円形を呈し、長軸2.75m、短



第138図 SK1100平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

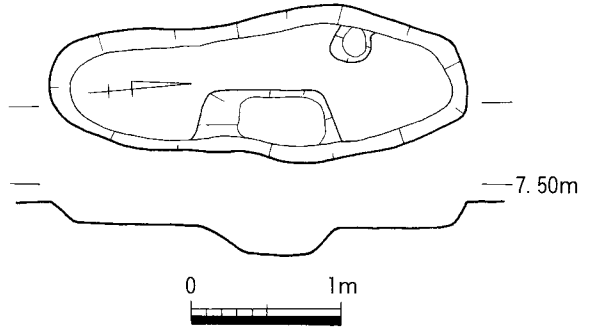


第139図 SK1101平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

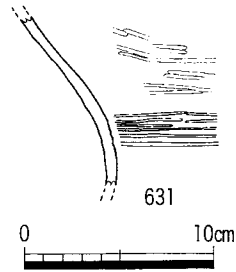


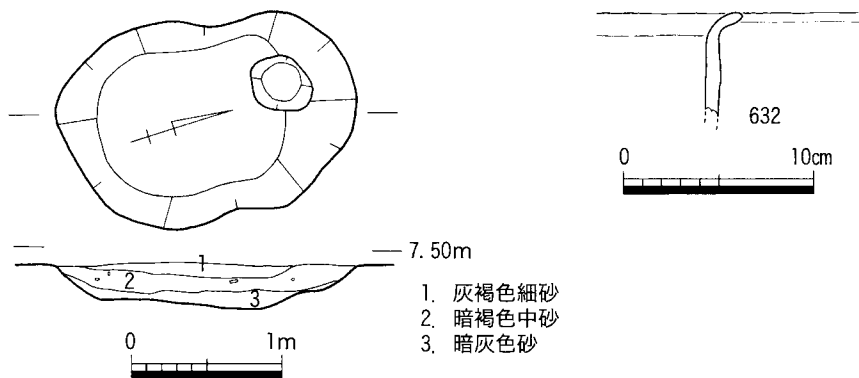
第140図 SK1102平・断面図 (1/50)

1. 黒褐色粘土混じり砂



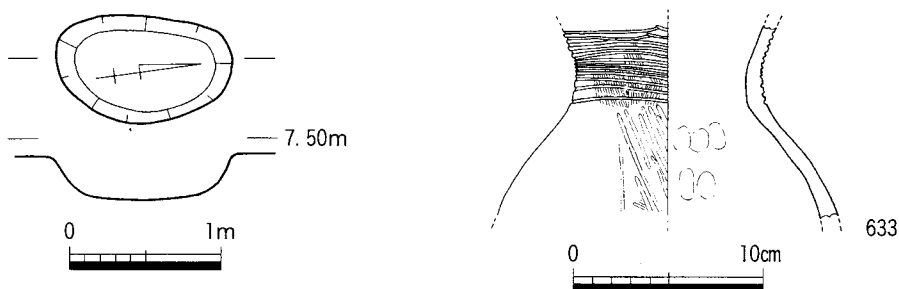
第141図 SK1103平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



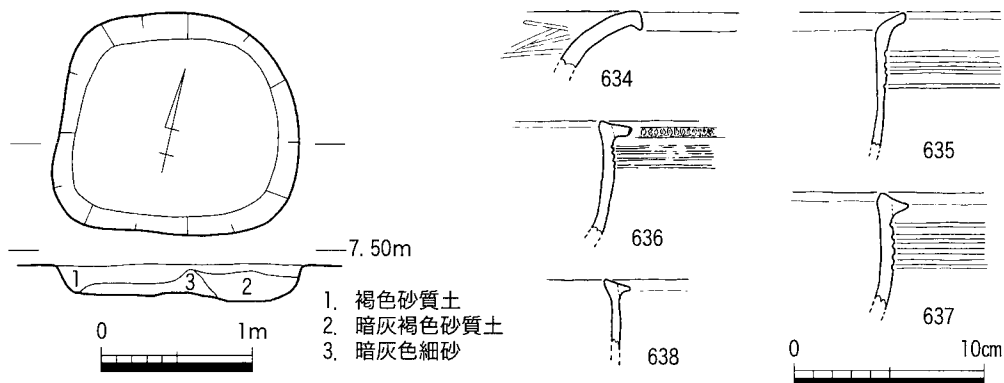


1. 灰褐色細砂
2. 暗褐色中砂
3. 暗灰色砂

第142図 S K 1104平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



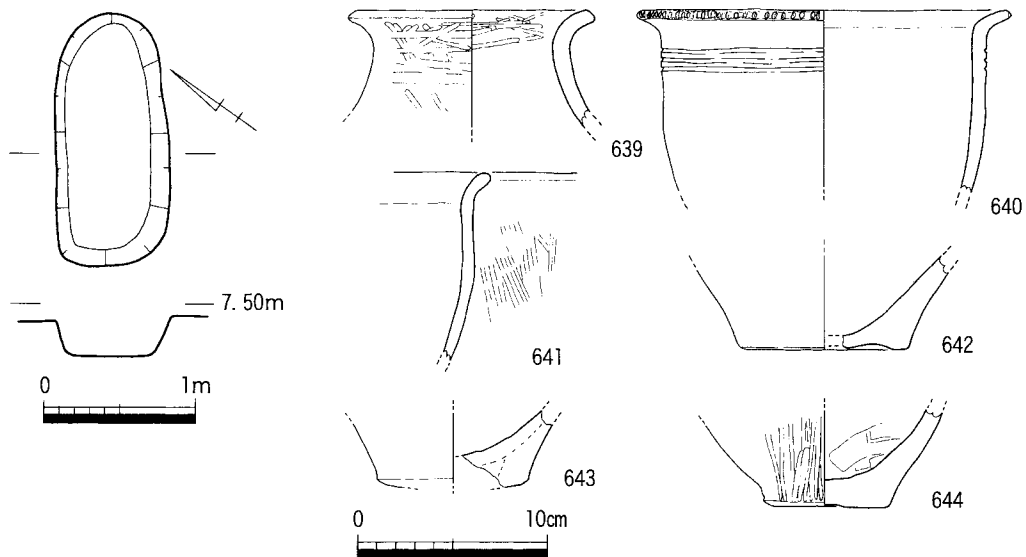
第143図 S K 1105平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



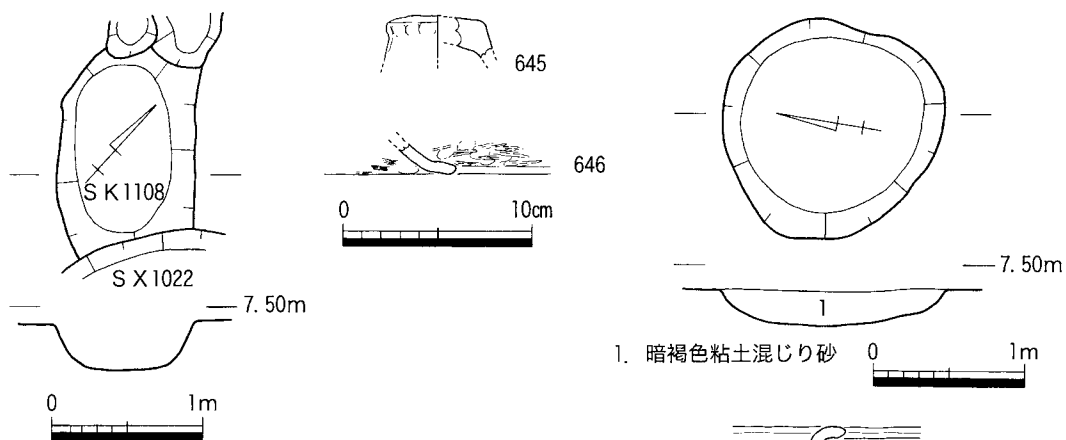
1. 褐色砂質土
2. 暗灰褐色砂質土
3. 暗灰色細砂

第144図 S K 1106平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

軸0.8~1.0mを測る。底面には2個の小穴(径0.2~0.8m, 深さ0.2m)が検出されたが, S K 1103に伴うものかどうか明確ではない。小穴を除く深さは0.2mを測る。出土遺物は少量で, 壺, 石皿または砥石がみられる。631は壺の体部で, 体部にヘラ描沈線文を6条施す。



第145図 SK 1107平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第146図 SK 1108平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)

第147図 SK 1109平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)

S K 1104 (第142図)

2区北部, 環濠内側に位置する土坑である。平面形は瓢箪形を呈し, 長軸1.9m, 短軸1.25~1.4mを測る。北壁の立ち上がりは緩く, 断面形は舟形を呈する。底面には小穴 (径0.4m, 深さ0.1m) が検出されたが, S K 1104に伴うものかどうか明確ではない。小穴を除く深さは0.3mを測る。出土遺物は微量で, 甕がみられる。632の口縁部は如意状を呈する。

S K 1105 (第143図)

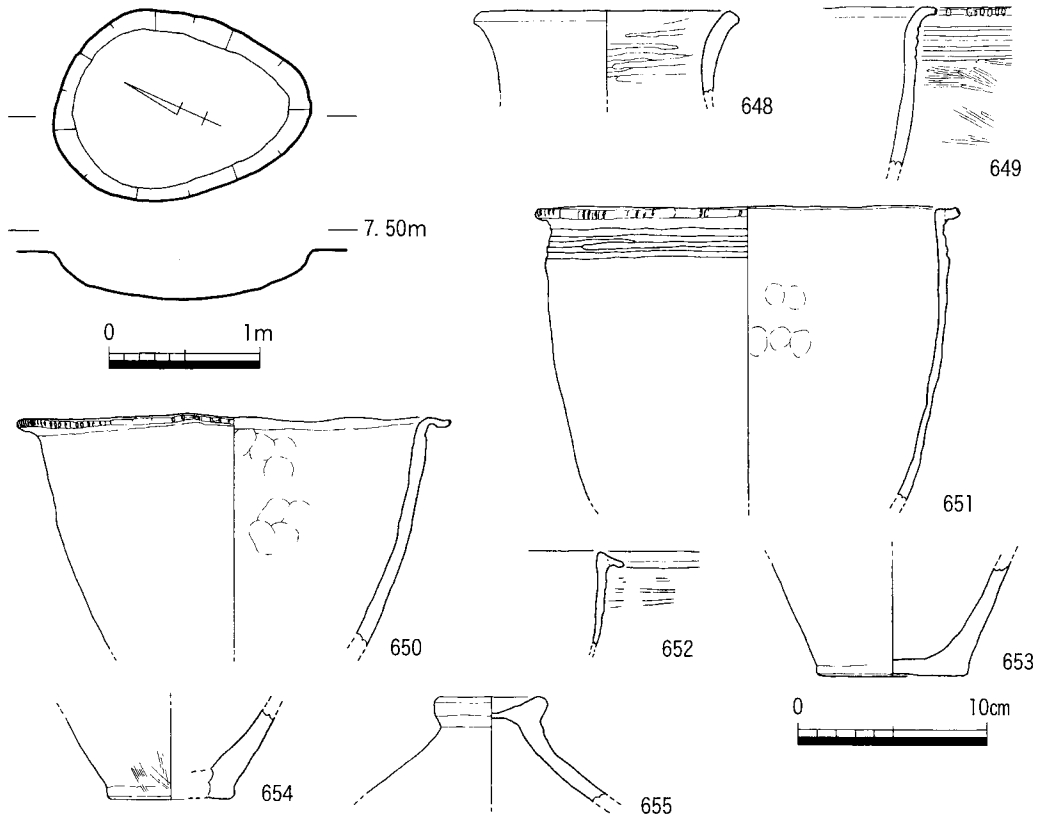
2区北部，環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し，長軸1.15m，短軸0.75m，深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で，壺がみられる。633は頸部にヘラ描沈線文を現存で12条施す。

S K 1106 (第144図)

2区中央部やや北寄り，環濠内側に位置する土坑である。平面形は隅丸方形を呈し，長軸1.6m，短軸1.5mを測る。断面形は箱形を呈し，底面はほぼ平坦で，深さ0.2mを測る。埋土は暗灰褐色砂を基調として局部的に顕著な鉄分集積凝固層がみられる。出土遺物は少量で，壺・甕，不明片岩製品がみられる。635～638は甕である。635の口縁部は如意状を呈す。摩滅が顕著であるが，ヘラ描沈線文が4条観察できる。636～638は逆L字口縁を呈し，636はヘラ描沈線文を4条，637は5条施す。638は摩滅のため文様の有無は不明である。

S K 1107 (第145図)

2区北部，環濠内側に位置する土坑である。平面形は長楕円形を呈し，長軸1.7m，短軸0.75m，深さ0.25mを測る。出土遺物は少量で，壺・甕がみられる。640・641は甕である。

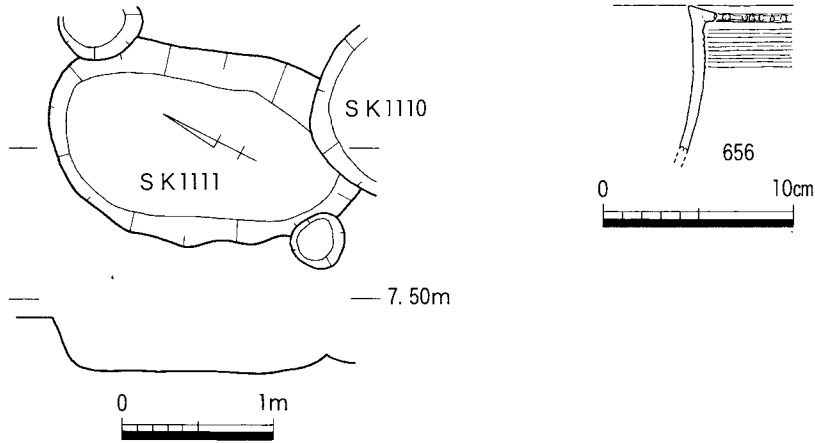


第148図 S K 1110平・断面図 (1/50)，出土土器 (1/4)

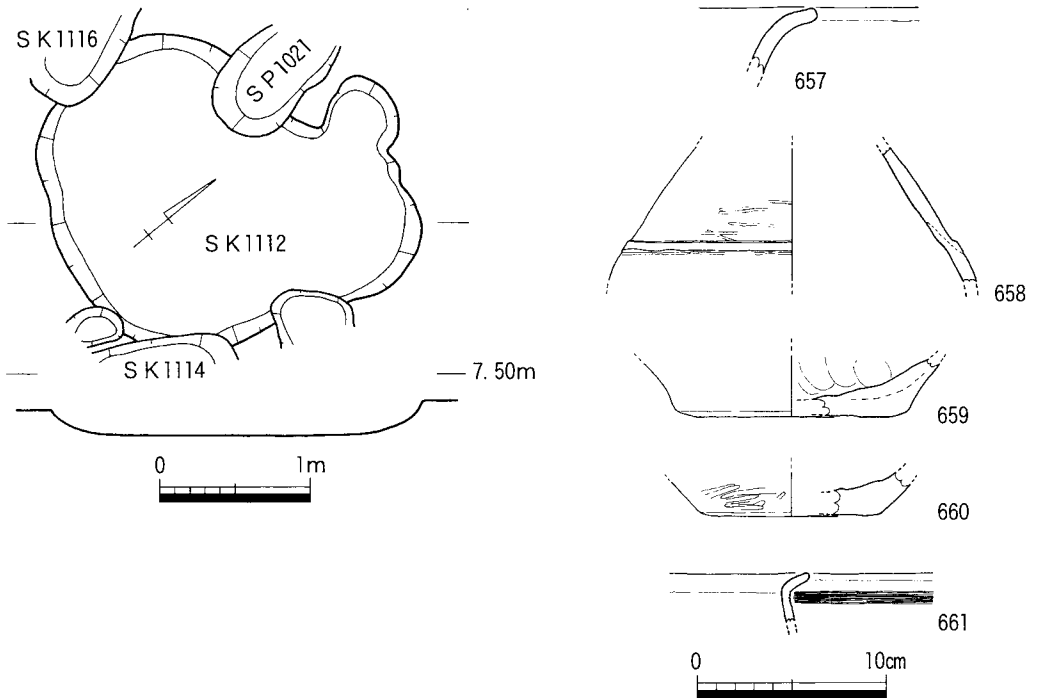
640・641の口縁部は如意状を呈し、640・641はへら描沈線文を3条施す。

S K 1108 (第146図)

2区中央部やや北寄り、環濠内側に位置する土坑である。落ち込みS X 1022と重複し、削平されている。平面形はほぼ楕円形を呈するものと推定される。長軸1.3m以上、短軸0.9m、深さ0.3mを測る。出土遺物は微量で、蓋がみられる。



第149図 S K 1111平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第150図 S K 1112平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

S K 1109 (第147図)

2区中央部やや北寄り、環濠内側に位置する土坑である。平面形はほぼ円形を呈し、径1.5mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.2mを測る。出土遺物は微量で、甕がみられる。647は折り曲げ口縁で、ヘラ描沈線文を現存で10条施す。

S K 1110 (第148図)

2区中央部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は卵形を呈し、長軸1.7m、短軸1.3mを測る。断面形はボウル状を呈し、深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕・蓋、石包丁がみられる。649は折り曲げ口縁で、ヘラ描沈線文を4条施し、ヘラミガキにより沈線下方を若干押さえ付ける。651～652は逆L字口縁を呈する。651はヘラ描沈線文を3条施す。652は摩滅しているためヘラ描沈線文の条数は不明であるが、現状では3条程度認められる。

S K 1111 (第149図)

2区中央部、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1110と重複し、一部が削平されている。平面形は楕円形を呈し、長軸2.1m、短軸1.3m、深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で、甕がみられる。656は逆L字口縁の甕で、ヘラ描沈線文を5条施す。

S K 1112 (第150図)

2区中央部、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1114や柱穴と重複し、一部が削平されている。平面形は不定形で、長軸2.4m、短軸2.1mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.2mを測る。出土遺物は少量で、壺または蓋の口縁部・壺・甕がみられる。658は壺の体部で、削出突帯第I種を施す。661は甕の口縁部で、外面に櫛描直線文を5条施す。

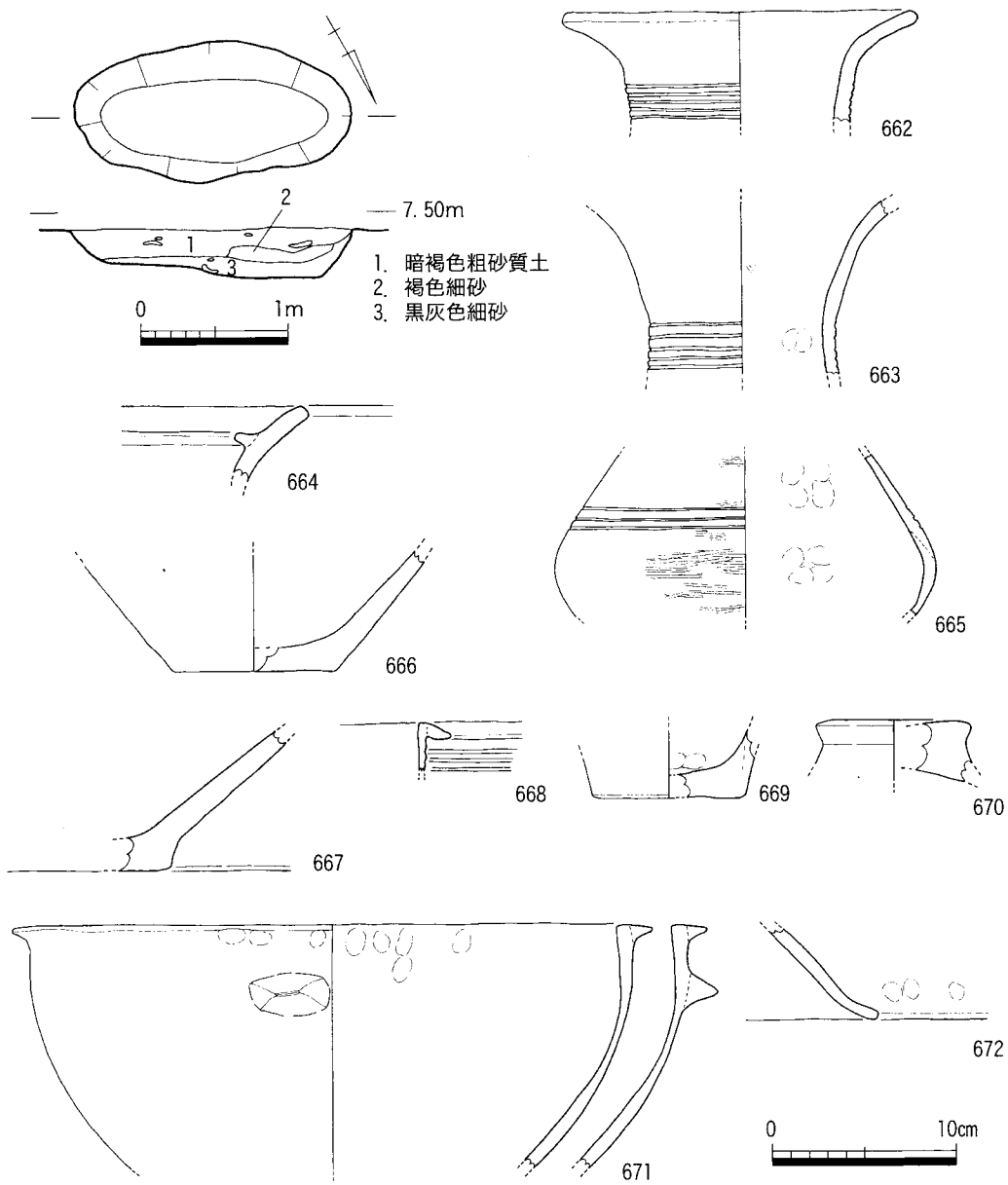
S K 1113 (第151図)

2区中央部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し、長軸1.9m、短軸0.95mを測る。東壁の立ち上がりはやや緩やかで、断面形は舟形である。最深部で深さ0.35mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕・蓋・鉢、石包丁がみられる。662～667は壺である。662・664は壺の口頸部である。662・663は頸部にヘラ描沈線文を現存では5条施す。664は内面に貼付突帯が巡る。665は壺の体部である。体部にはヘラ描沈線文3条を施す。668・669は甕である。668は逆L字口縁を呈し、ヘラ描沈線文を現存で3条施す。671は大型の鉢で、把手がみられる。

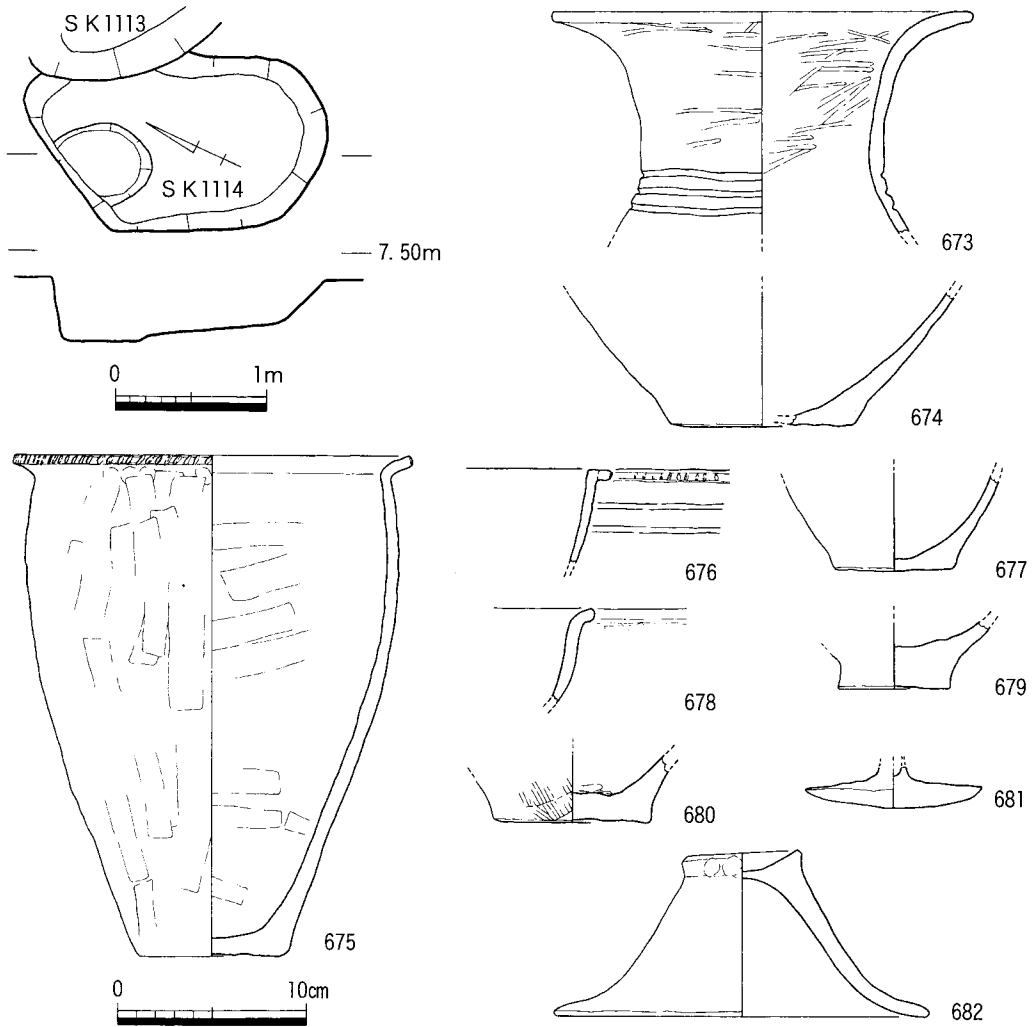
S K 1114 (第152図)

2区中央部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸2.0





第151図 SK1113平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

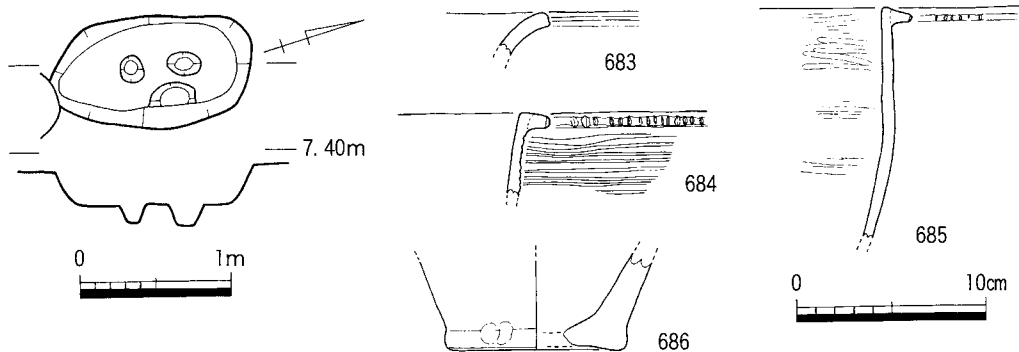


第152図 SK1114平・断面図（1/50），出土土器（1/4）

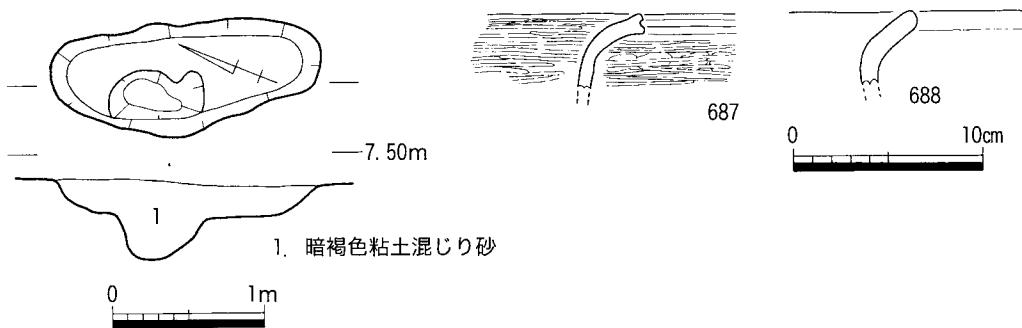
m，短軸1.15mを測る。北西部が円形に窪み，深さ0.4mを測る。北西部の窪みを除く深さは0.4mを測る。出土遺物は少量で，壺・甕・甕または鉢・蓋がみられる。673・674は壺である。673は頸部にヘラ描沈線文を3条施す。675～678は甕である。675は外反する口縁部を呈する。無文である。676は逆L字口縁を呈する。内外面ともに摩滅が顕著であるが，ヘラ描沈線文が現存で2条みられる。

#### SK1115（第153図）

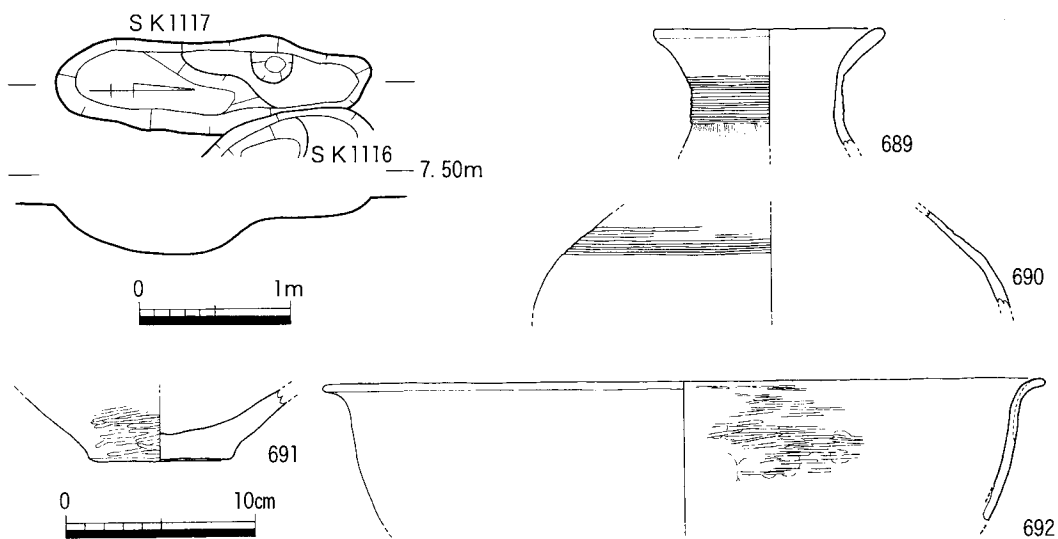
2区中央部やや西寄り，環濠内側に位置する土坑である。柱穴と重複し，一部が削平されている。平面形は楕円形を呈し，長軸1.3m，短軸0.8m，深さ0.3mを測る。底面からは3個の小穴（径0.15～0.3m，深さ0.1m）が検出されたが，SK1115に伴うものかどうかは



第153図 S K 1115平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第154図 S K 1116平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

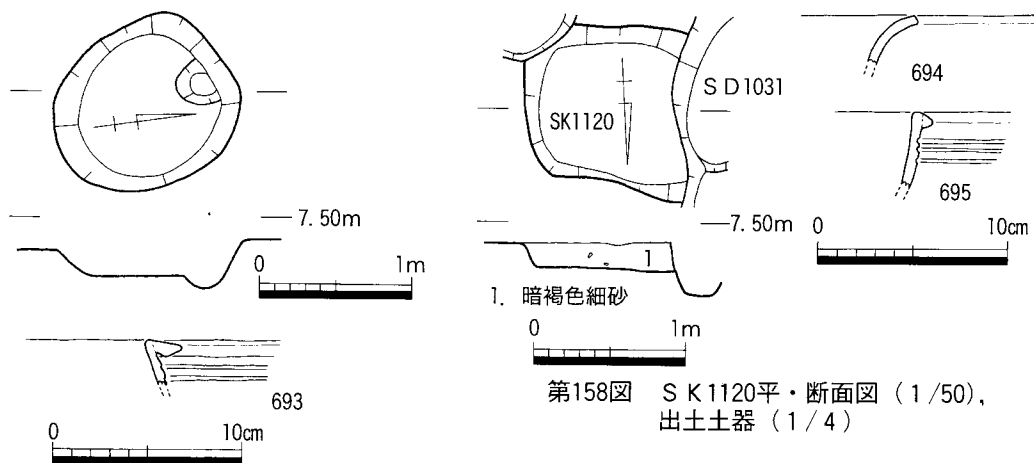


第155図 S K 1117平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

不明である。出土遺物は少量で、壺・甕、石包丁がみられる。685～686は甕である。684・685は逆L字口縁を呈し、684はヘラ描沈線文を現存で8条施す。685は摩滅しているため文様の有無は不明である。

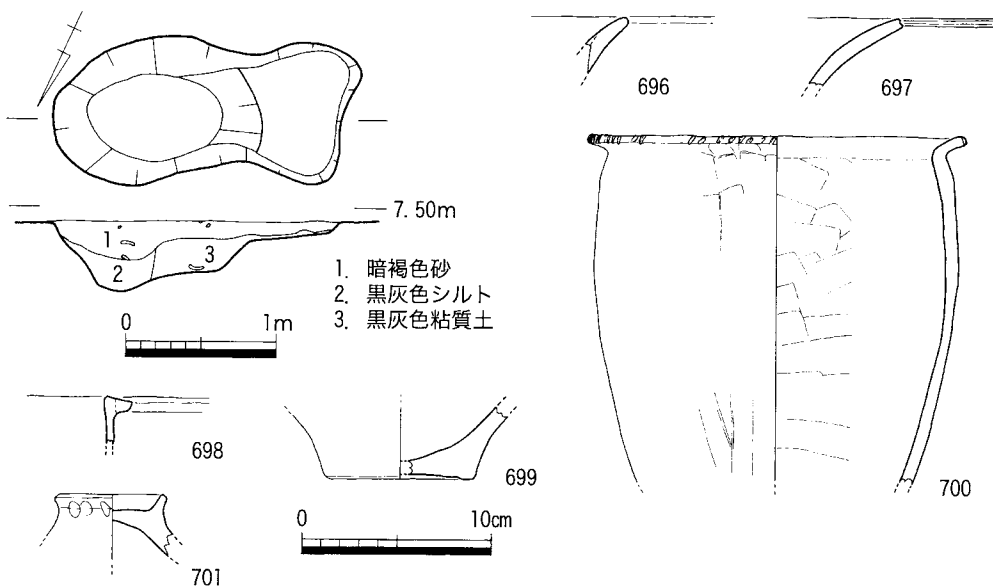
S K 1116 (第154図)

2区中央部やや西寄り、環濠内側に位置する土坑である。平面形は長楕円形を呈し、長軸1.8m、短軸0.8mを測る。中央部に小穴がみられるが、S K 1116に伴うものかどうかは不明である。小穴を除く深さは0.2mを測る。出土遺物は少量で、壺がみられる。



第158図 S K 1120平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

第156図 S K 1118平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第157図 S K 1119平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

S K 1117 (第155図)

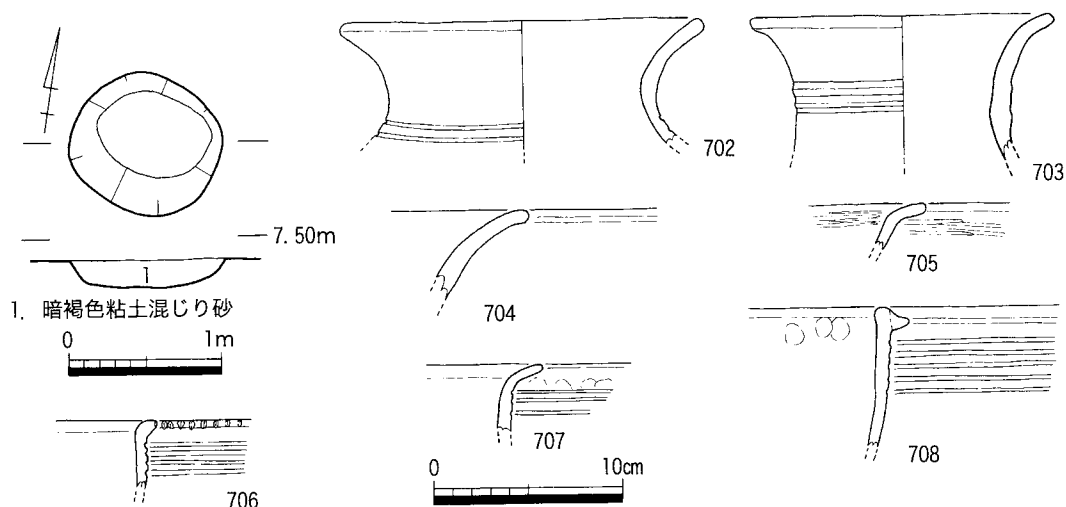
2区中央部やや西寄り、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1116と重複し、一部が削平されている。平面形は長楕円形を呈し、長軸2.1m、短軸0.6mを測る。南が一段窪んでおり、最深部で深さ0.35mを測る。2基の土坑が重複する可能性も高い。北部底面からは小穴(径0.2m、深さ0.2m)が検出されたが、S K 1117に伴うものかどうかは不明である。出土遺物は少量で、壺・鉢、打製石斧がみられる。689~691は壺である。689は頸部に削出突帯第Ⅱ種で、突帯間に7条のヘラ描沈線文を巡らす。690は壺の体部で、ヘラ描沈線文を5条施す。

S K 1118 (第156図)

2区中央部やや西寄り、環濠内側に位置する土坑である。平面形はほぼ円形を呈し、径1.2~1.3mを測り、断面形は浅い皿状を呈する。北部に小穴(径0.3m、深さ0.1m)が検出されたが、S K 1118に伴うものかどうかは不明である。小穴を除く深さは0.25mを測る。出土遺物は微量で、甕の口縁部片がみられる。693は逆L字口縁で、ヘラ描沈線文を現存で2条施す。

S K 1119 (第157図)

2区中央部やや西寄り、環濠内側に位置する土坑である。平面形はいびつな瓢箪形を呈し、長軸2.1m、短軸0.75~0.95mを測る。西部にテラス状の張り出しがあり、東部が円形に窪む。別遺構が重複している可能性が高い。東部の土坑の平面形は楕円形を呈し、長軸1.4m、短軸1.0m、最深部で深さ0.45mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕・蓋がみられる。

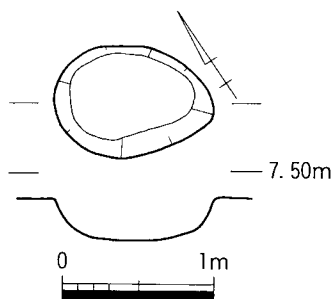


第159図 S K 1121平・断面図(1/50)、出土土器(1/4)

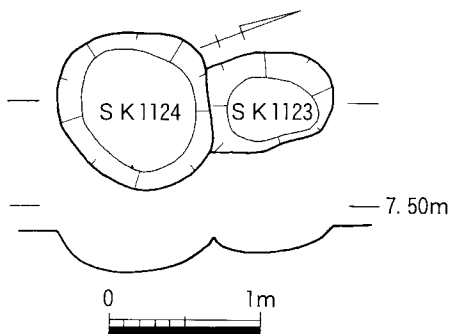
698~700は甕で、698は逆L字口縁を呈し、700は外反する口縁部をもつ。

S K 1120 (第158図)

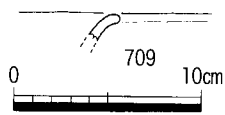
2区中央部やや西寄り、環濠内側に位置する土坑である。溝S D1031や柱穴と重複し、一部が破壊されている。平面形は隅丸方形を呈するものと推定され、長軸1.0~1.2 m、短軸1.0m以上、深さ0.15mを測る。出土遺物は少量



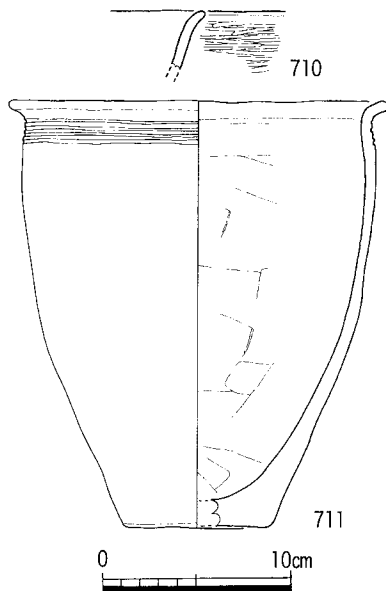
第160図 S K 1122平・断面図(1/50)



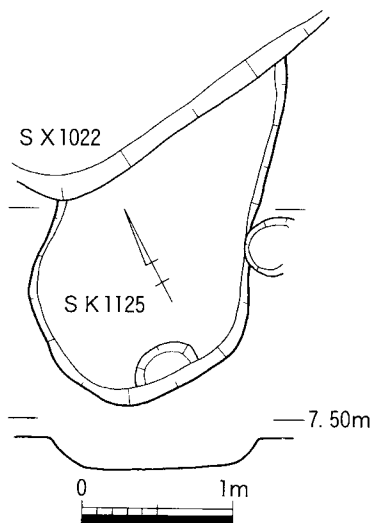
第161図 S K 1123・S K 1124平・断面図(1/50)



第162図 S K 1123出土土器(1/4)



第163図 S K 1124出土土器(1/4)



第164図 S K 1125平・断面図(1/50), 出土土器(1/4)

で、壺・甕、石鍬がみられる。695は逆L字口縁の甕で、ヘラ描沈線文を3条施す。

#### S K 1121 (第159図)

2区北西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はほぼ円形を呈し、径0.9~1.0mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.2mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。702~705は壺の口頸部である。702はヘラ描沈線文を現存で2条、703はヘラ描沈線文を3条施す。706~708は甕である。706はヘラ描沈線文を4条、707は3条施す。708は逆L字口縁を呈し、ヘラ描沈線文を5条施す。

#### S K 1122 (第160図)

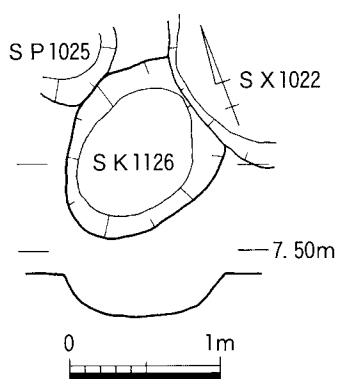
2区北西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸1.0m、短軸0.75m、深さ0.3mを測る。出土遺物は微量で、土器片がみられる。

#### S K 1123 (第161・162図)

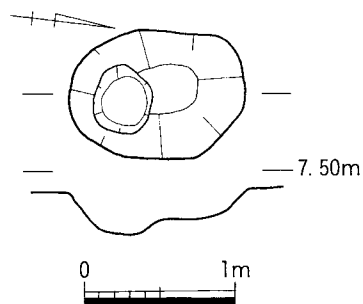
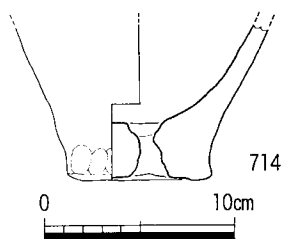
2区西部、環濠内側に位置する土坑である。S K 1124と重複し、一部が削平されている。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸0.8m以上、短軸0.65mを測る。断面形はボウル状を呈し、深さ0.15mを測る。出土遺物は微量で、器種不明の口縁部片がみられる。

#### S K 1124 (第161・163図)

2区西部、環濠内側に位置する土坑である。S K 1123と重複し、一部を削平している。平面形はほぼ円形を呈し、径1.0~1.1m、深さ0.3mを測る。埋土は暗褐色粘土混じり砂である。出土遺物は少量で、甕、石包丁等がみられる。711は如意状の口縁部をもつ甕で、ヘラ描沈線文4条を施す。



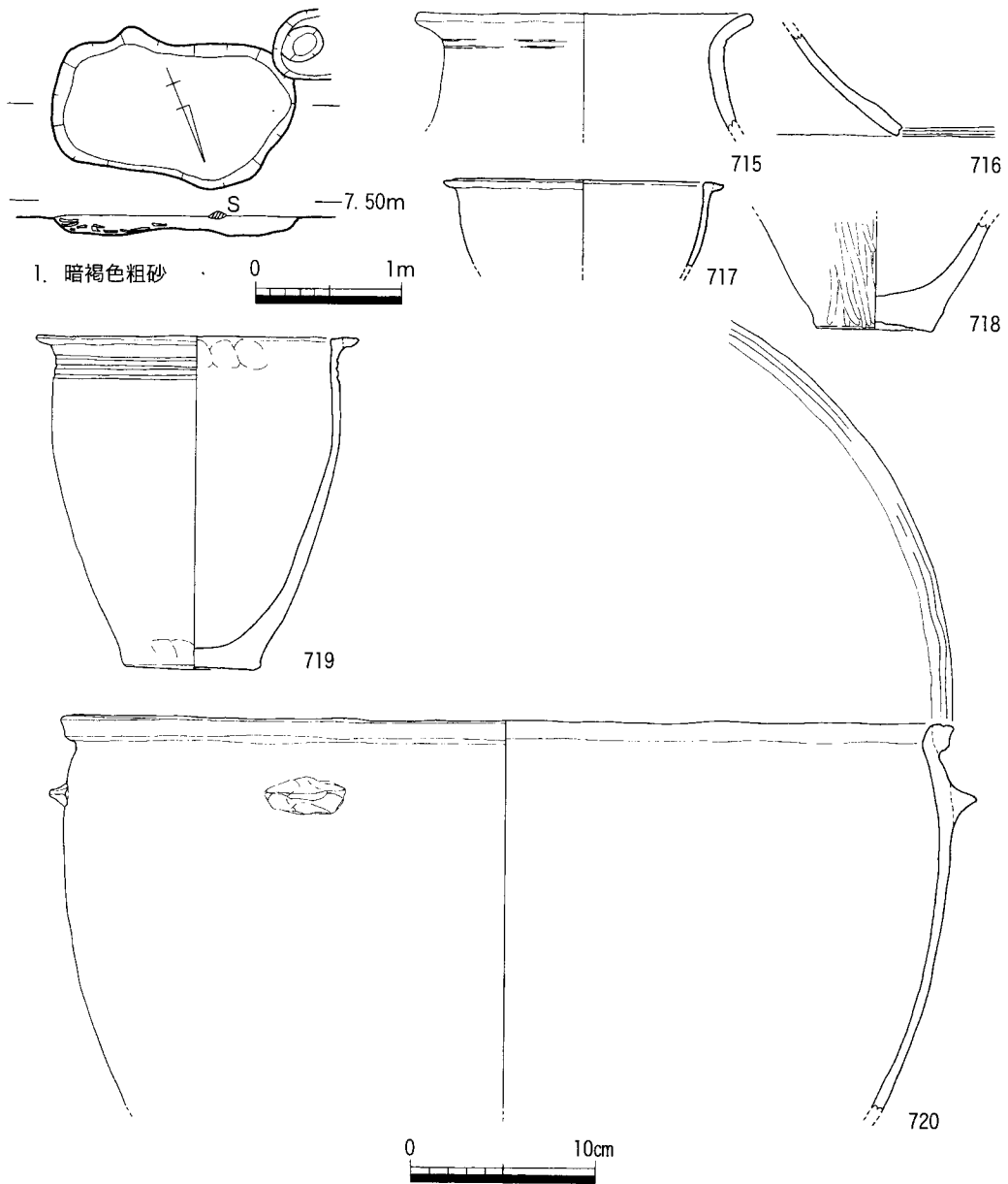
第165図 S K 1126平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)



第166図 S K 1127  
平・断面図 (1/50)

S K 1125 (第164図)

2区中央部、環濠内側に位置する土坑である。落ち込みS X 1022と重複し、一部が削平されている。平面形は長楕円形を呈するものと推定される。長軸2.4m、短軸1.3m、深さ0.2mを測る。底面南部で小穴(径0.2~0.4m、深さ0.1m)は検出されているが、S K 1125に伴うものかどうかは不明である。出土遺物は少量で、甕がみられる。712は逆L字口縁を



第167図 S K 1128平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



呈し、ヘラ描太細併用沈線文を8条施す。713は逆L字口縁の甕で、ヘラ描沈線文を2条以上施す。

S K 1126 (第165図)

2区中央部、環濠内側に位置する土坑である。落ち込みS X 1022と重複し、一部が削平されている。平面形はややいびつな楕円形を呈するものと推定される。長軸1.3m以上、短軸1.0m、深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で、甌がみられる。

S K 1127 (第166図)

2区中央部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はほぼ楕円形を呈し、長軸1.15m、短軸0.85mを測る。南部底面には小穴(径0.4m、深さ0.1m)がみられるが、S K 1127に伴うものかどうか不明である。小穴を除く深さは0.2mを測る。出土遺物は微量で、土器片がみられる。

S K 1128 (第167図, 図版17)

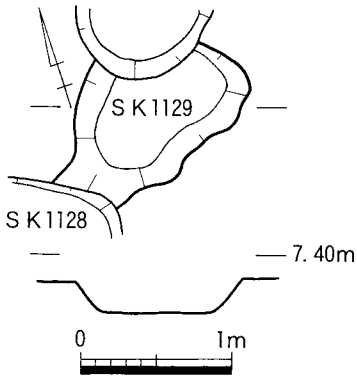
2区中央部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はややいびつな隅丸方形を呈し、長軸1.7m、短軸0.9~1.0mを測る。断面形は皿状を呈し、深さ0.1~0.15mを測る。埋土東部底面付近からは大形土器片がまとまって出土した。出土遺物は少量で、壺・甕・鉢・蓋がみられる。717~719は甕で、717・719は逆L字口縁を呈する。719はヘラ描沈線文を3条施す。720は大型の鉢で、口縁部は粘土帯を貼付け、断面形は四角形を呈する。また、口縁部上端にはヘラ描沈線文を施す。

S K 1129 (第168図)

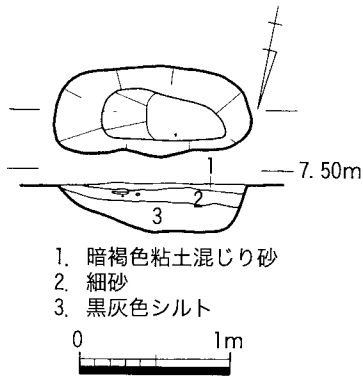
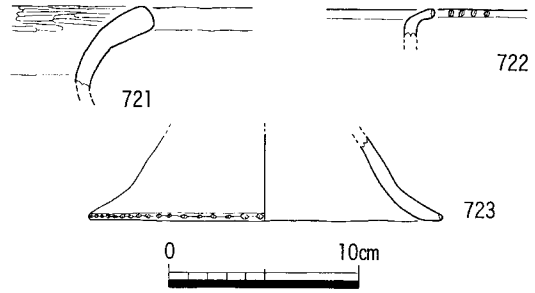
2区中央部、環濠内側に位置する土坑である。柱穴と重複し、一部が削平されている。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸1.2m以上、短軸0.9m、深さ0.2mを測る。出土遺物は壺・甕・蓋、扁平片刃石斧がみられる。722は甕の口縁部片である。口縁部は如意状を呈する。723は蓋で、口縁端部に刻目を施す。

S K 1130 (第169図)

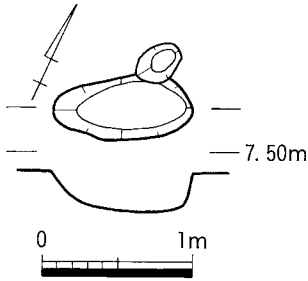
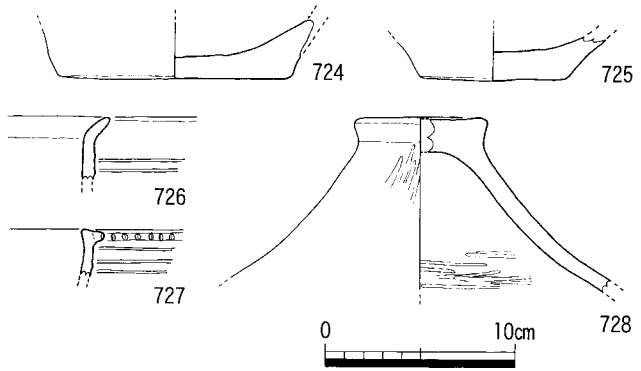
2区北東端、環濠内側に位置する土坑である。平面形はややいびつな隅丸方形を呈し、長軸1.5m、短軸0.55mを測る。東壁は緩やかに立ち上がり、断面形は舟形を呈する。底面は平坦で、深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕・蓋、石鍬がみられる。726・727は甕である。726は如意状の口縁部をもち、ヘラ描沈線文を現存で2条施す。727は逆L字口縁を呈し、ヘラ描沈線文を現存で3条施す。



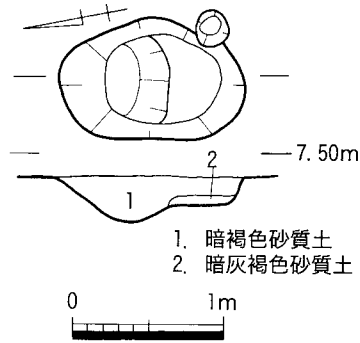
第168図 S K 1129平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



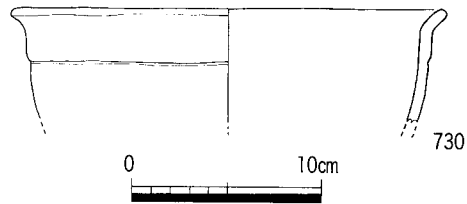
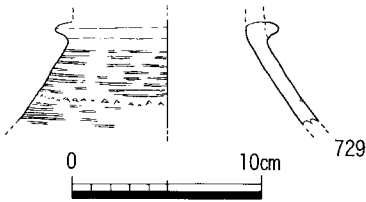
第169図 S K 1130平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

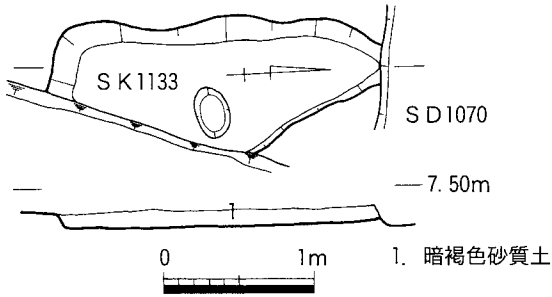


第170図 S K 1131平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

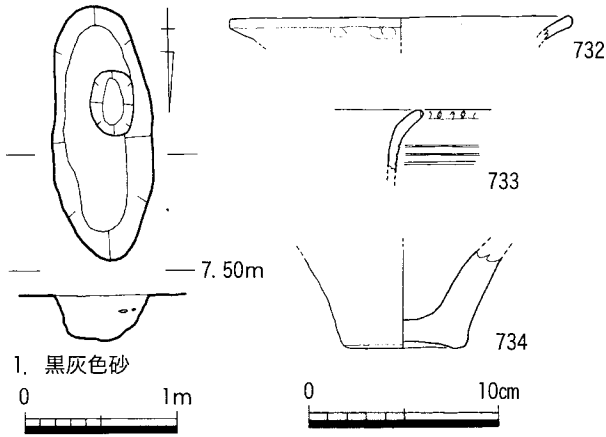
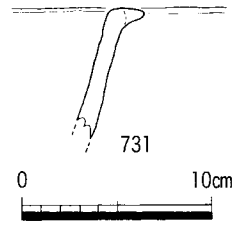


第171図 S K 1132平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

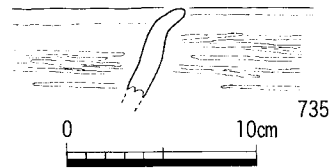
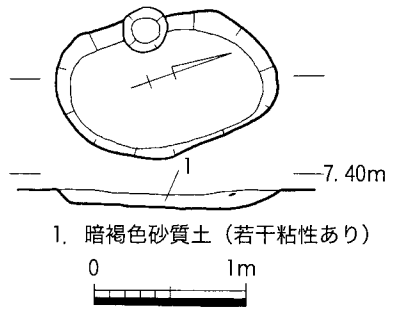




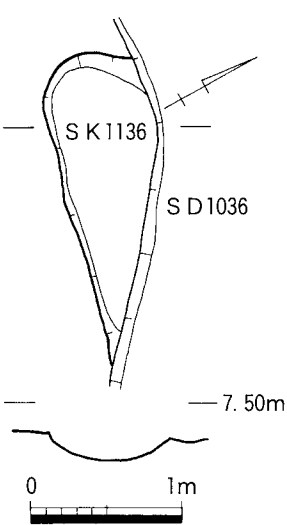
第172図 SK1133平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



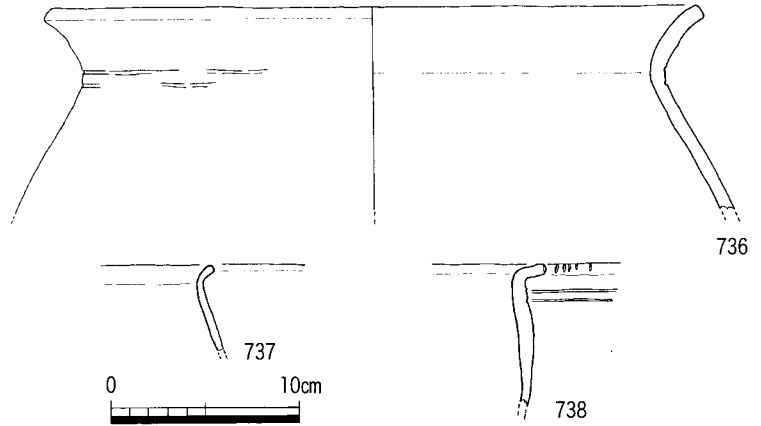
第173図 SK1134平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

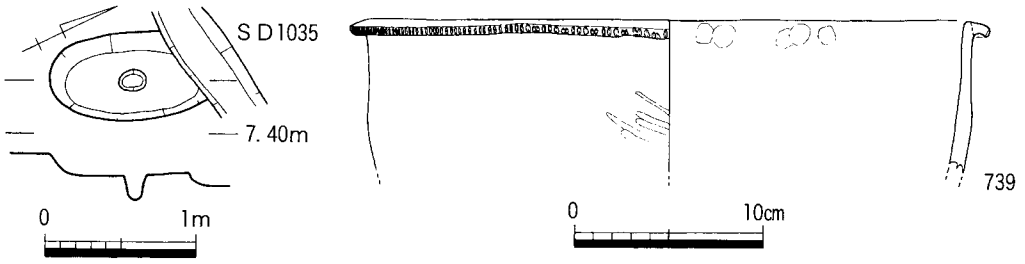


第174図 SK1135平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

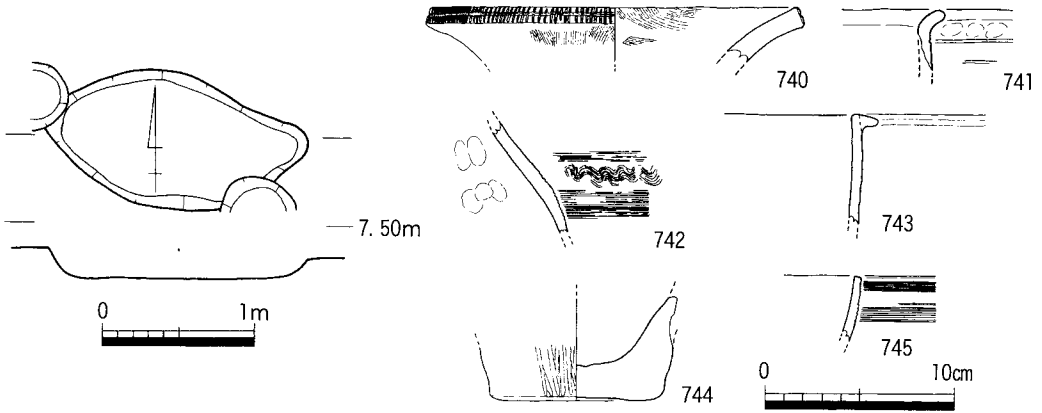


第175図 SK1136平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

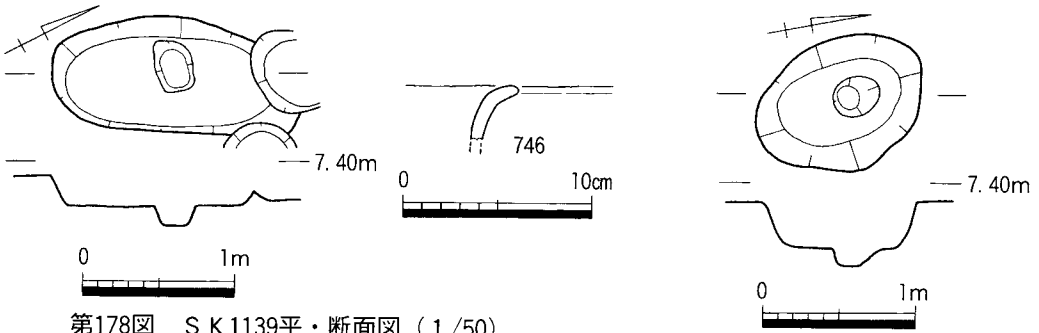




第176图 S K 1137平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)

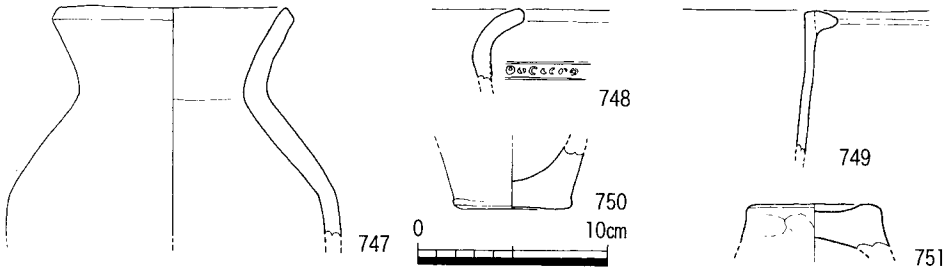


第177图 S K 1138平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)



第178图 S K 1139平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)

第179图 S K 1140平·断面图 (1/50)



第180图 S K 1140出土土器 (1/4)

#### S K 1131 (第170図)

2区北東端、環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し、長軸0.8m、短軸0.4m、深さ0.25mを測る。出土遺物は少量で、壺がみられる。729は貼付突帯とヘラ描沈線文現存13条、三角形刺突文を施す。

#### S K 1132 (第171図)

2区中央部東端、環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し、長軸1.2m、短軸0.8mを測る。底面北部は窪んでおり、最深部で深さ0.3mを測る。730は甕で、体部上半に際取り沈線による段をもつ。

#### S K 1133 (第172図)

2区中央部東端、環濠内側に位置する土坑である。東部は排水用の側溝によって削平されている。平面形はややいびつな三角形を呈し、長軸2.2m前後、短軸0.9m以上を測るものと推定される。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.1mを測る。底面には小穴(径0.2~0.4m、深さ0.05m)が検出されたが、S K 1133に伴うものかどうかは不明である。出土遺物は微量で、鉢または甕の口縁部片がみられる。

#### S K 1134 (第173図)

2区東部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は長楕円形を呈し、長軸1.7m、短軸0.65mを測る。断面形は箱形を呈し、深さ0.3mを測る。底面には小穴(径0.3~0.4m、深さ0.2m)が検出されたが、S K 1134に伴うものかどうかは不明である。出土遺物は少量で、甕、石包丁等がみられる。733は甕で、口縁部は如意状を呈し、ヘラ描沈線文を現存で3条施す。

#### S K 1135 (第174図)

2区南東部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し、長軸1.4m、短軸0.9mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.2mを測る。出土遺物は微量で、鉢がみられる。

#### S K 1136 (第175図)

2区南東部、環濠内側に位置する土坑である。溝S D 1036と重複し、一部が削平されている。平面形は不明であるが、楕円形を呈するものと推定される。長軸2.0m以上、短軸0.7m以上、深さ0.2mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕、石包丁・不明片岩製品片・石匙がみられる。736は大型の広口壺で頸部にヘラ描沈線文を2条施す。737・738は甕で、いずれも外反する口縁部をもつ。738は摩滅しているが、ヘラ描沈線文が2条認められる。

S K 1137 (第176図)

2区南東部、環濠内側に位置する土坑である。S D 1035と重複し、一部が削平されている。平面形は楕円形を呈し、長軸1.0m以上、短軸0.6m、深さ0.1mを測るものと推定される。底面からは小穴(径0.1m、深さ0.15m)が検出されたが、S K 1137に伴うものかどうか明確ではない。出土遺物は少量で、甕、盤状剥片の分割材または石核がみられる。739は逆L字口縁を呈する。

S K 1138 (第177図)

2区南東部、環濠内側に位置する土坑である。柱穴と重複し、一部が削平されている。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸1.6m、短軸0.9m、深さ0.15mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕・鉢がみられる。740は壺の口縁部で、口縁端部にはヘラ描沈線文と刻目が施される。742は壺の体部片で、櫛描直線文と櫛描波状文を施す。741・743は甕の口縁部である。741は外反する口縁部をもつ。摩滅しており、ヘラ描沈線文が2条残る。743は逆L字口縁を呈する。摩滅のため文様の有無は不明である。745は鉢で、直口する口縁部をもつ。外面には現存で櫛描直線文が10条認められる。

S K 1139 (第178図)

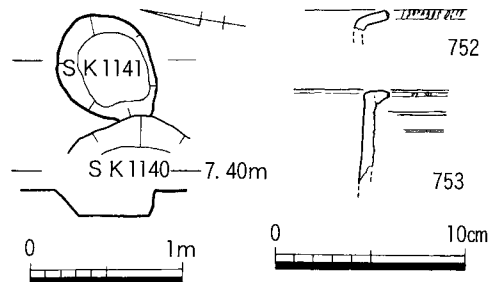
2区南東部、環濠内側に位置する土坑である。柱穴と重複し、一部が削平されている。平面形は楕円形を呈し、長軸1.3m以上、短軸0.8m、深さ0.2mを測る。底面からは小穴が検出されたが、S K 1139に伴うものかどうかは不明である。出土遺物は微量で、壺の口縁部片がみられる。

S K 1140 (第179・180図)

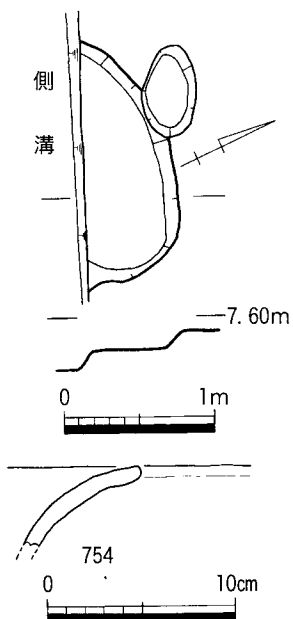
2区南東部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し、長軸1.2m、短軸0.9mを測る。底面には小穴が検出されたが、S K 1140に伴うものかどうかは不明である。小穴を除く深さは0.3mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕・蓋、石包丁がみられる。748は壺の口縁部でヘラ描沈線文と竹管文を施す。749は逆L字口縁の甕である。摩滅のため文様の有無は不明である。

S K 1141 (第181図)

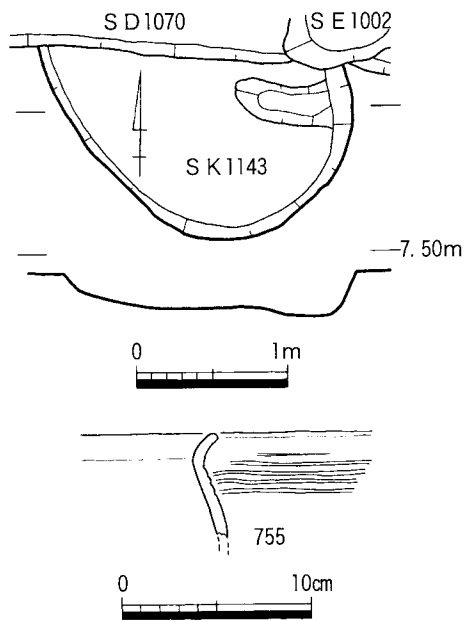
2区南東部、環濠内側に位置する土坑である。S K 1141と重複し、一部が削平され



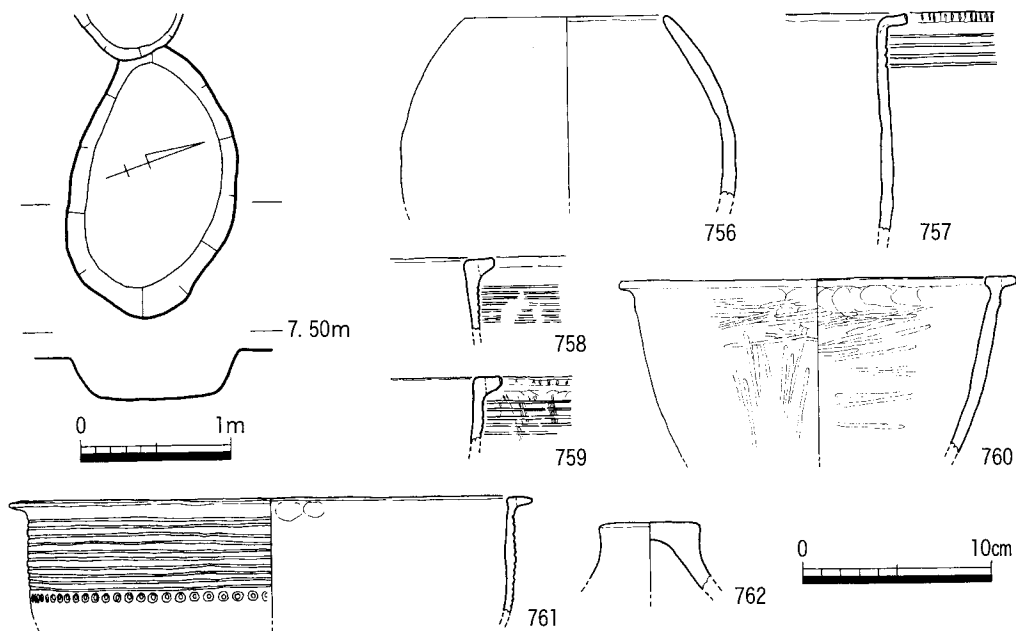
第181図 S K 1141平・断面図(1/50)、  
出土土器(1/4)



第182図 S K 1142平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)



第183図 S K 1143平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)



第184図 S K 1144平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

ている。平面形は楕円形を呈し、長軸0.8m、短軸0.6m、深さ0.15mを測る。出土遺物は微量で、甕片がみられる。752の口縁部は外反し、753は逆L字口縁を呈する。753は摩滅が顕著であるため、ヘラ描沈線文の条数は不明である。

#### S K 1142 (第182図)

2区南東端、環濠内側に位置する土坑である。南部は調査区外に連続するため、全体は不明である。平面形は楕円形を呈すると推定され、長軸1.6m以上、短軸0.6m以上、深さ0.15m前後を測る。出土遺物は微量で、壺がみられる。

#### S K 1143 (第183図)

2区中央部南東寄り、環濠内側に位置する土坑である。北部はS E 1002や平安時代の溝S D 1070と重複し、一部が削平されている。平面形はほぼ円形を呈し、径1.8~2.0m前後を測るものと推定される。東部には細長い落ち込みがみられるが、S K 1143に伴うものかどうか不明である。落ち込みを除く深さは0.25mを測る。出土遺物は少量で、甕がみられる。755はヘラ描沈線文を5条施す。

#### S K 1144 (第184図)

2区中央部南東寄り、環濠内側に位置する土坑である。柱穴と重複し、一部が削平されている。平面形はほぼ楕円形を呈し、長軸1.8m、短軸1.1m、深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で、無頸壺・甕・蓋がみられる。757は折り曲げ口縁の甕で、ヘラ描沈線文を4条施す。758~761は逆L字口縁の甕で、758はヘラ描沈線文を7条、759は5条以上施す。761はヘラ描沈線文10条と竹管文を施す。

#### S K 1145 (第185図)

2区中央部南東寄り、環濠内側に位置する土坑である。柱穴と重複し、一部が削平されている。平面形は長楕円形を呈し、長軸1.9m、短軸0.6m、深さ0.2mを測る。

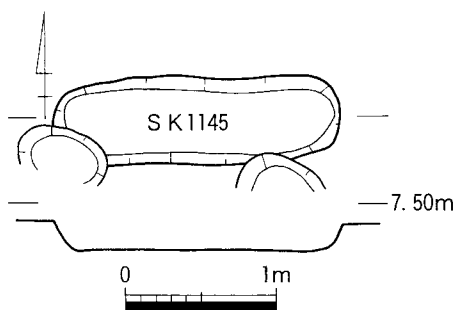
#### S K 1146 (第186図)

2区中央部南寄り、環濠内側に位置する土坑である。溝S D 1042、柱穴と重複し、一部が削平されている。平面形はほぼ円形を呈し、径1.2m前後、深さ0.2mを測るものと推定される。

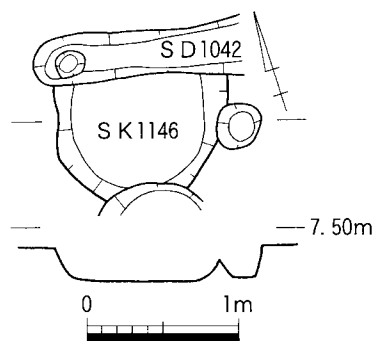
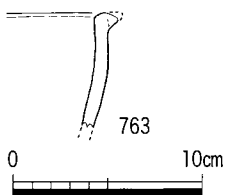
#### S K 1147 (第187図)

2区中央部南寄り、環濠内側に位置する土坑である。柱穴と重複し、一部が削平されている。平面形は楕円形を呈し、長軸1.25m、短軸0.8mを測る。底面からは2個の小穴(径0.2~0.3m、深さ0.15m)が検出されたが、S K 1147に伴うものかどうか不明である。小穴

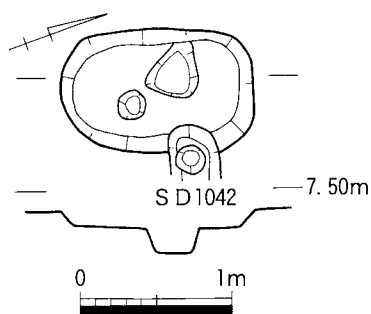
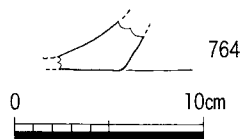




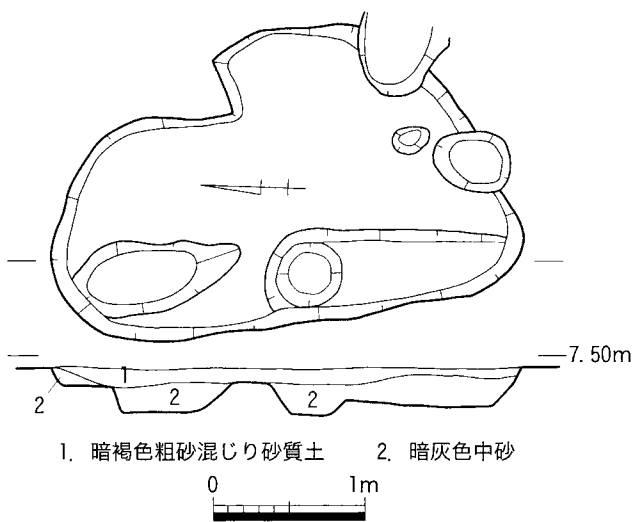
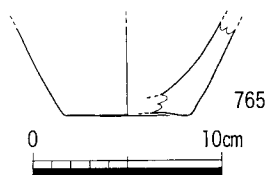
第185図 S.K1145平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)



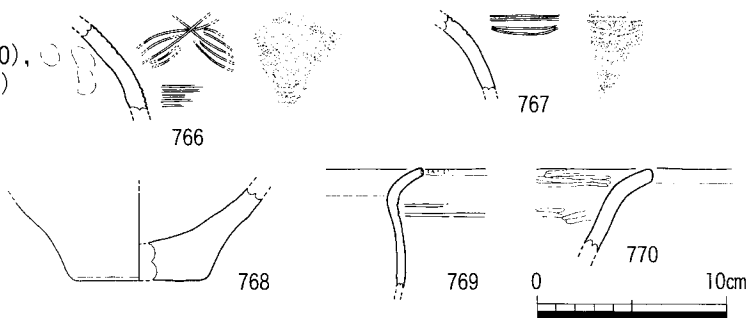
第186図 S.K1146平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)

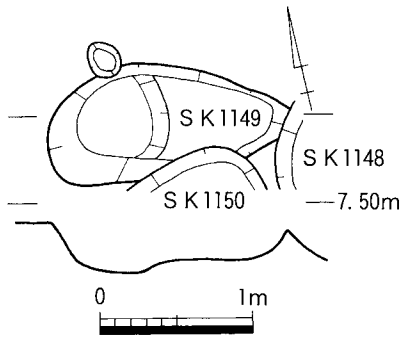


第187図 S.K1147  
平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)

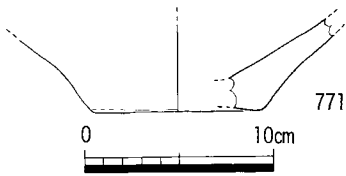


第188図 S.K1148平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

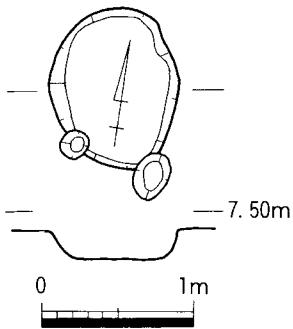




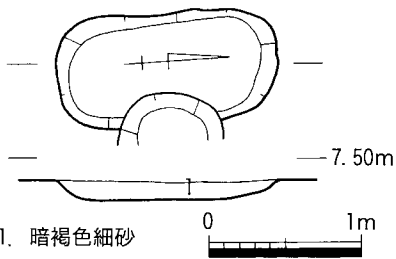
第189図 SK 1149平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)



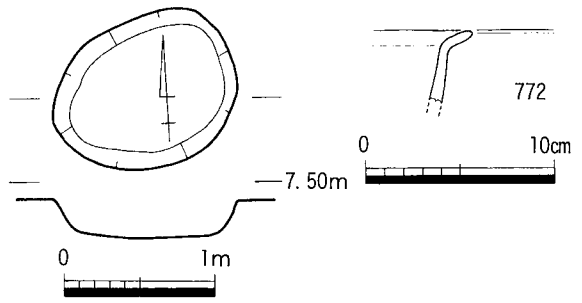
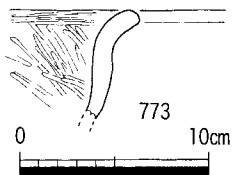
第189図 SK 1149平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)



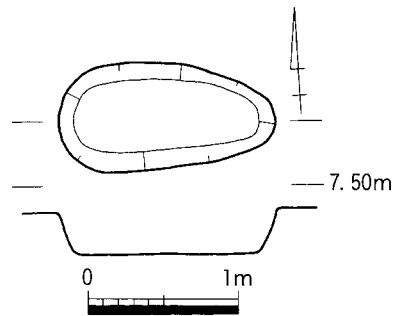
第191図 SK 1151平・断面図 (1/50)



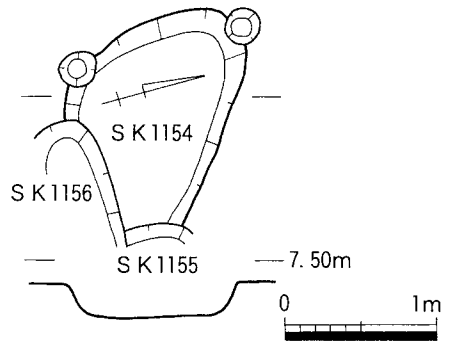
第193図 SK 1153平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)



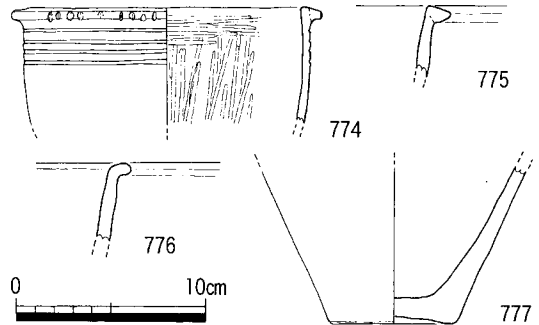
第190図 SK 1150平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)



第192図 SK 1152平・断面図 (1/50)



第194図 SK 1154平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)



を除く深さは0.15mを測る。

#### S K 1148 (第188図)

2区中央部南寄り、環濠内側に位置する。柱穴と重複し、一部が削平されている。平面形はいびつなハート形を呈し、長軸3.1m、短軸2.0mを測る。西部底面からは窪みが2箇所検出されている。窪みを除く深さは0.1mを測る。これらの窪みは先行する土坑の可能性が高く、北部土坑は平面形楕円形を呈し、長軸1.1m、短軸0.5m、深さ0.3mを測る。南部土坑は北端に柱穴が重複するが、長軸1.6m、短軸0.6m、深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕・鉢、石鍬がみられる。766・767は壺の体部である。766は小破片であるが、ヘラ描沈線で有軸木葉文を描く。769は甕で、口縁部は如意状を呈し、ヘラ描沈線文2条を施す。

#### S K 1149 (第189図)

2区中央部南寄り、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1148・S K 1150と重複し、一部が削平されている。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸1.6m、短軸0.8mを測る。底面は西部が窪み、最深部で深さ0.35mを測る。出土遺物は少量で、壺の底部片がみられる。

#### S K 1150 (第190図)

2区中央部南寄り、環濠内側に位置する土坑である。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸1.2m、短軸1.0m、深さ0.25mを測る。出土遺物は微量で、甕の口縁部片等がみられる。

#### S K 1151 (第191図)

2区中央部南寄り、環濠内側に位置する土坑である。平面形はややいびつな楕円形を呈する。長軸1.05m、短軸0.8m、深さ0.2mを測る。遺物は石剣が出土しただけである。

#### S K 1152 (第192図)

2区中央部南寄り、環濠内側に位置する土坑である。平面形はほぼ楕円形を呈し、長軸1.4m、短軸0.75m、深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で、土器片、石錐がみられる。

#### S K 1153 (第193図)

2区中央部南寄り、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1152と重複し、一部が削平されている。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸1.5m、短軸0.75mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.15mを測る。出土遺物は微量で、鉢の口縁部片がみられる。

#### S K 1154 (第194図)

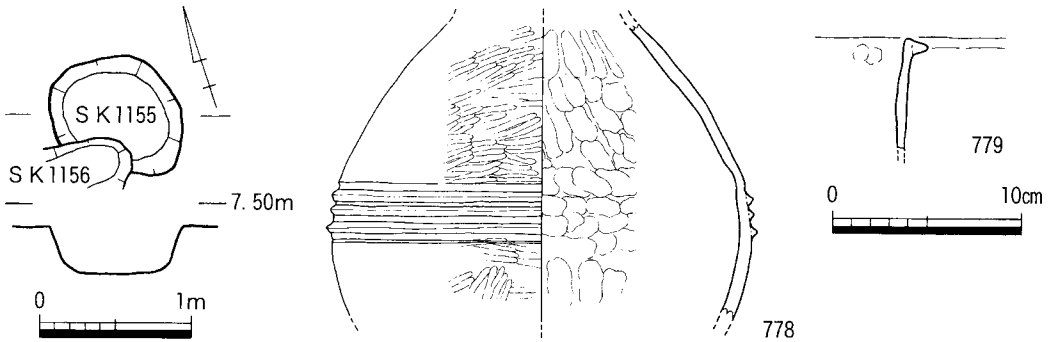
2区中央部南寄り、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1155・S K 1156や柱穴と重複し、一部が削平されている。平面形は残存部分から、いびつな楕円形を呈し、長軸1.5m以上、短軸1.05m、深さ0.2mを測るものと推定される。出土遺物は少量で、甕がみられる。774~776は甕の口縁部片である。いずれも逆L字口縁である。774はヘラ描沈線文4条を施す。775・776は文様の有無は不明である。

S K 1155 (第195図)

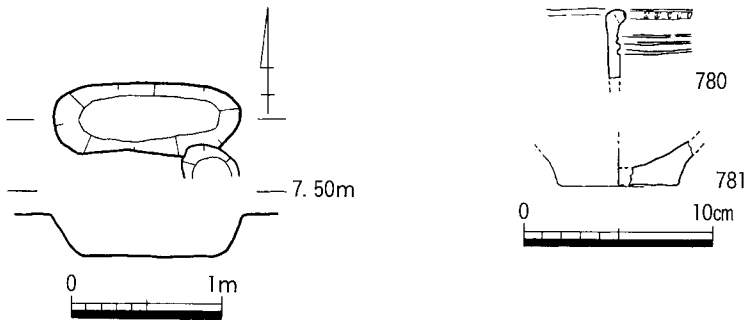
2区中央部南寄り、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1156と重複し、一部が削平されている。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸0.95m、短軸0.7m前後、深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。778は壺の体部片である。体部中位に貼付突帯を3条施す。779は甕の口縁部片である。逆L字口縁を呈する。摩滅のため文様の有無は不明である。

S K 1156 (第196図)

2区中央部南寄り、環濠内側に位置する土坑である。柱穴と重複し、一部が削平されている。平面形は長楕円形を呈し、長軸1.25m、短軸0.45m、深さ0.3mを測る。出土遺物は



第195図 S K 1155平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

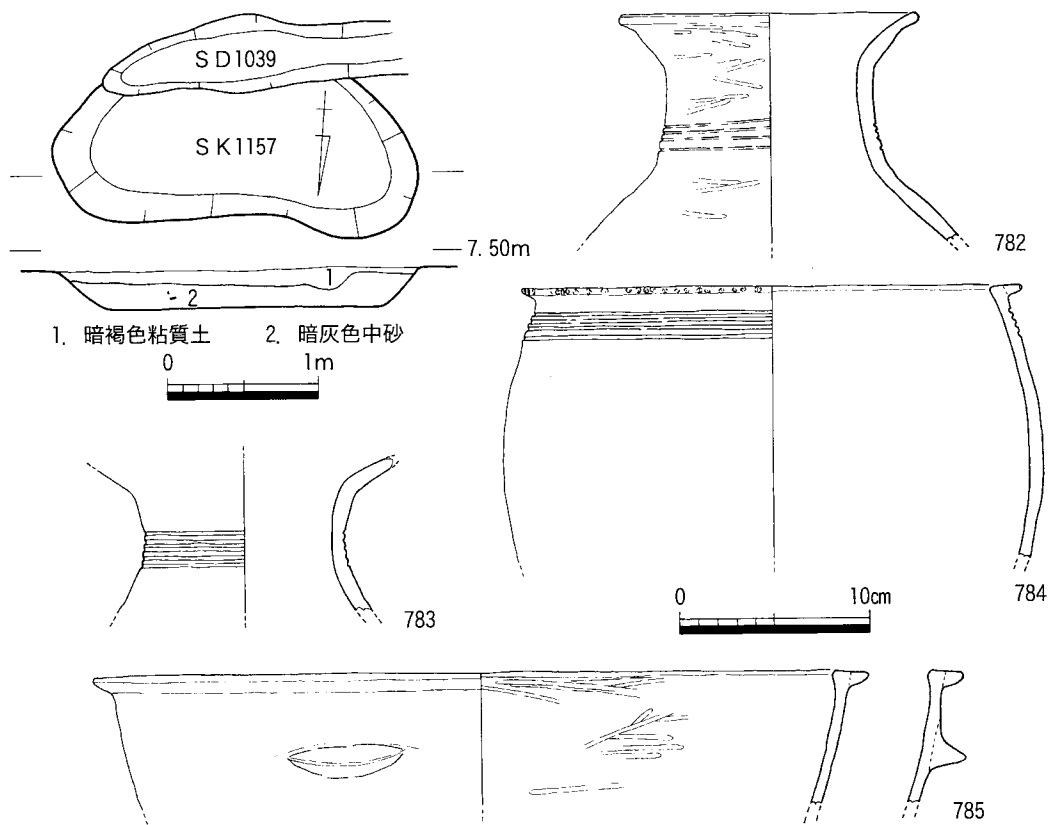


第196図 S K 1156平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

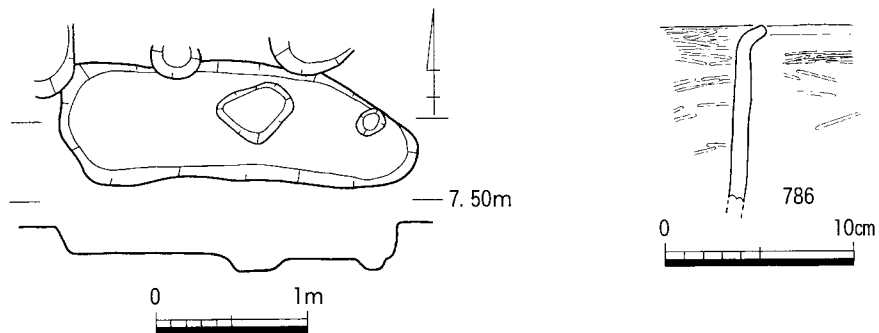
少量で、甕、石包丁がみられる。780は逆L字口縁の甕で、ヘラ描沈線文を3条施す。

S K 1157 (第197図)

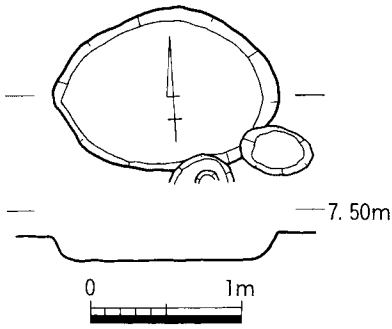
2区中央部南寄り、環濠内側に位置する土坑である。溝S D 1039と重複し、一部が削平されている。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸2.4m、短軸0.8m以上を測る。断面形は逆台形を呈し、底面は平坦である。深さ0.25mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕・



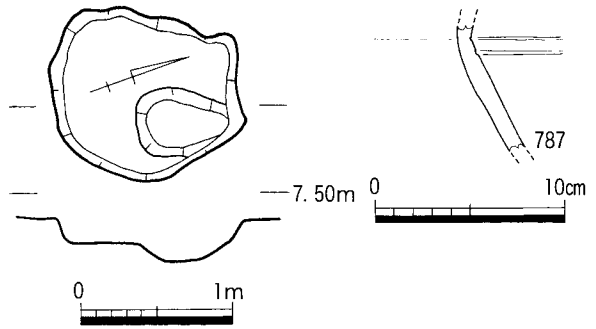
第197図 S K 1157平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



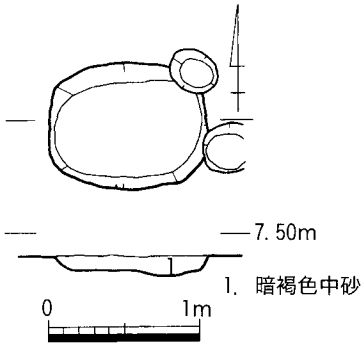
第198図 S K 1158平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



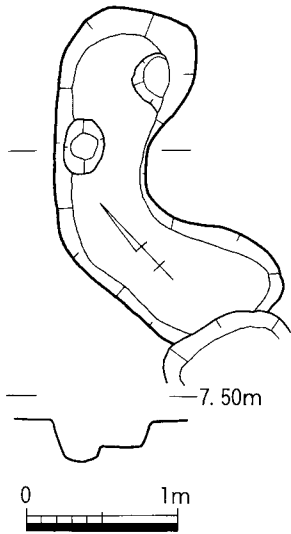
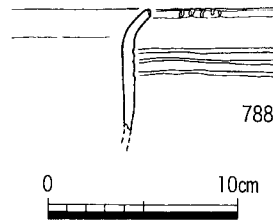
第199図 S K 1159平・断面図 (1/50)



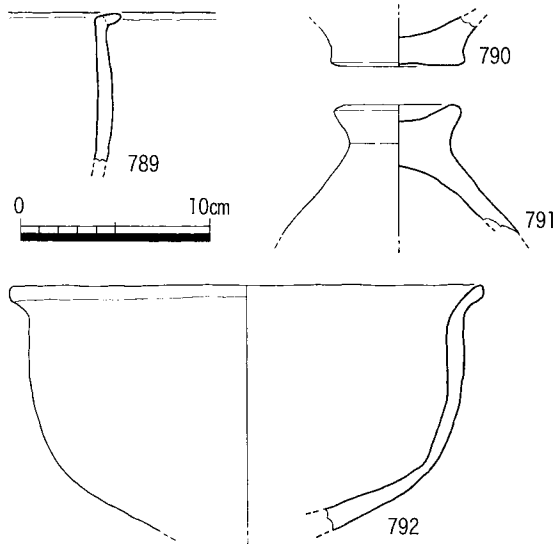
第200図 S K 1160平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)

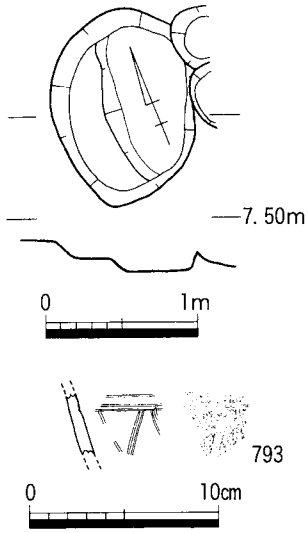


第201図 S K 1161平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

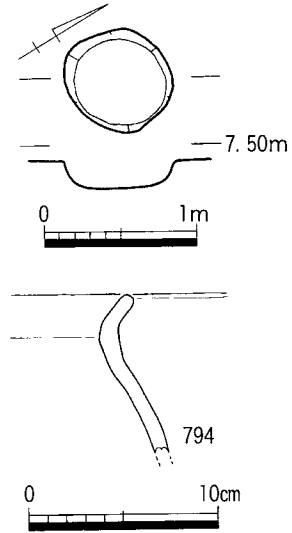


第202図 S K 1162平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

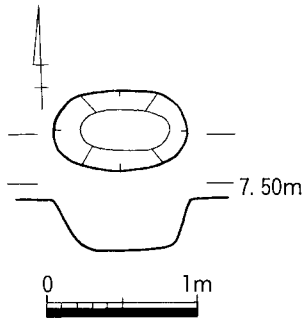




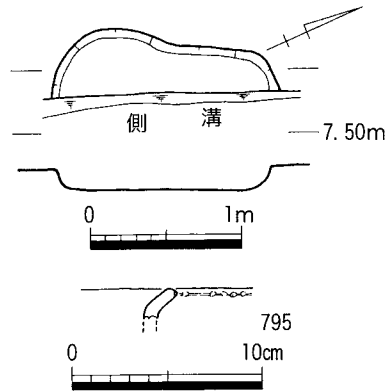
第203図 S K 1163平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)



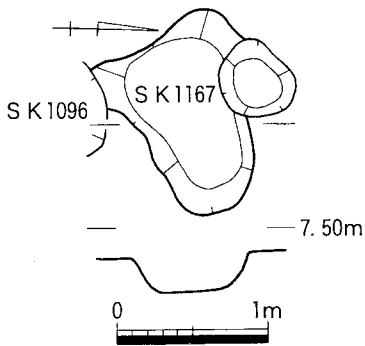
第204図 S K 1164平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)



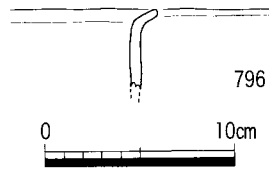
第205図 S K 1165平・断面図 (1/50)



第206図 S K 1166平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)



第207図 S K 1167平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



鉢，不明片岩製品片がみられる。782・783は壺で，782は頸部にヘラ描沈線文を4条，783は5条施す。784は甕で，逆L字口縁を呈し，ヘラ描沈線文4条を施す。

S K 1158 (第198図)

2区中央部南寄り，環濠内側に位置する土坑である。柱穴と重複し，一部が削平されている。平面形はややいびつな長楕円形を呈し，長軸2.35m，短軸0.8m，深さ0.2mを測る。底面からは2個の小穴が検出されたが，S K 1158に伴うかどうか不明である。出土遺物は少量で，甕，石鍬がみられる。

S K 1159 (第199図)

2区南部，環濠内側に位置する土坑である。柱穴と重複し，一部が削平されている。平面形は楕円形を呈し，長軸1.5m，短軸1.1m，深さ0.15mを測る。出土遺物は微量で，土器片，柱状片刃石斧がみられる。

S K 1160 (第200図)

2区南部，環濠内側に位置する土坑である。平面形はいびつな隅丸五角形を呈し，長軸1.3m，短軸1.1mを測る。底面からは小穴が検出されているが，S K 1160に伴うかどうかは不明である。小穴を除く深さは0.15mを測る。出土遺物は微量で，壺がみられる。787は壺の頸部片で，現存ではヘラ描沈線文2条を施す。

S K 1161 (第201図)

2区南部，環濠内側に位置する土坑である。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸1.05m，短軸0.85mを測る。底面は東部がやや低く，深さ0.15mを測る。出土遺物は微量で，甕がみられる。788は如意状の口縁部を呈する甕の口縁部片である。ヘラ描沈線文3条を施す。

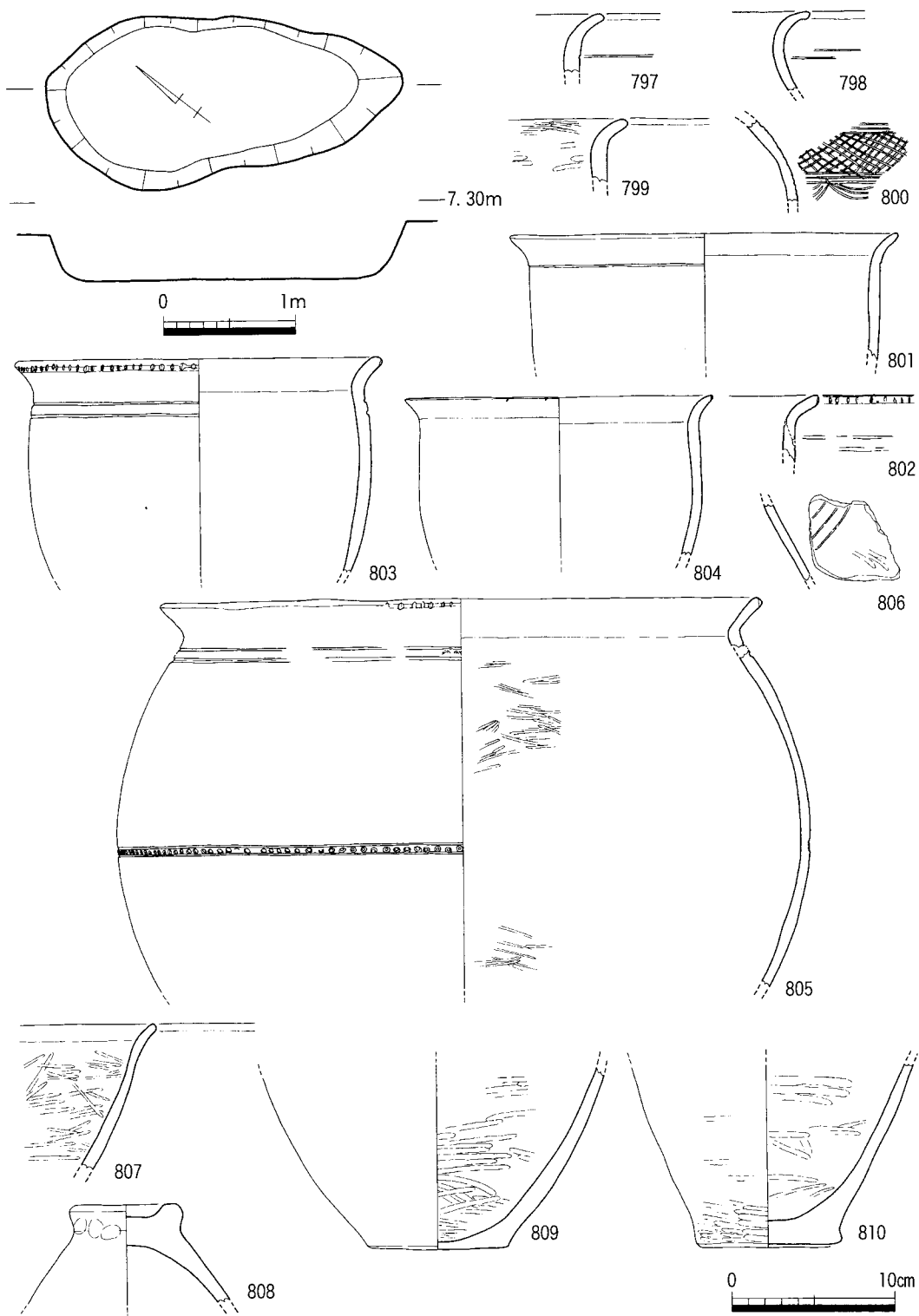
S K 1162 (第202図)

2区南部，環濠内側に位置する土坑である。柱穴と重複し，一部が削平されている。平面形は湾曲する隅丸長方形を呈し，長軸2.3m，短軸0.6m，深さ0.15mを測る。底面からは2個の小穴（径0.3～0.4m，深さ0.1m）が検出されているが，S K 1162に伴うかどうかは不明である。出土遺物は少量で，甕・蓋・鉢がみられる。789は逆L字口縁の甕で，摩滅のため文様の有無は不明である。

S K 1163 (第203図)

2区南部，環濠内側に位置する土坑である。柱穴と重複し，一部が削平されている。平面形はややいびつな楕円形を呈し，長軸1.2m，短軸1.0mを測る。底面は東部が低く，最深部で深さ0.2mを測る。出土遺物は微量である。793は甕または壺の体部片である。半截竹





第208图 S K 1168平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)

管直線文と半截竹管山形文を施す。

S K 1164 (第204図)

2区中央部南寄り、環濠内側に位置する土坑である。平面形はほぼ円形を呈し、径0.7m、深さ0.2mを測る。出土遺物は微量で、壺の口縁部片が出土した。

S K 1165 (第205図)

2区東部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し、長軸0.9m、短軸0.5mを測る。断面形は箱形を呈し、深さ0.4mを測る。埋土は上層灰褐色粘土混じり砂、下層暗灰褐色砂が堆積する。上層からは土器小片が出土した。出土遺物は微量で、甕の口縁部片が出土した。

S K 1166 (第206図)

2区南東端、環濠内側に位置する土坑である。東部は排水用側溝に削平されているため、全体は不明である。残存部分では平面形は瓢箪形を呈し、長軸1.5m、短軸0.45m以上、深さ0.15mを測る。出土遺物は微量で、甕の口縁部片が出土した。796は口縁部は如意状を呈する。摩滅のため文様の有無は不明である。

S K 1167 (第207図)

2区北部、環濠内側に位置する土坑である。柱穴と重複し、一部が削平されている。平面形はいびつな隅丸長方形を呈し、長軸1.2m、短軸0.7m、深さ0.25mを測る。

S K 1168 (第208図)

2区北西部、環濠外側に位置する土坑である。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸2.7m、短軸1.35m、深さ0.45mを測る。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、壺・甕・鉢・蓋等がみられる。798～800は壺である。798～799は壺の口縁部である。797は現存ではヘラ描沈線文を1条、798は2条施す。800は壺の体部片である。ヘラ描沈線文とヘラ描斜格子文、ヘラ描逆重弧文がみられる。801～804は甕の口縁部である。801は摩滅しているが、口縁部下に際取り沈線による段がみられる。802～804は口縁部は如意状を呈する。802は現存ではヘラ描沈線文が2条みられる。803もヘラ描沈線文2条を施す。804は摩滅のため文様の有無は不明である。805は大型の鉢で、頸部と体部中央付近にヘラ描沈線文を2条施し、その間に竹管文を施す。806は壺の頸部片で、ヘラ描縦線文を施す。

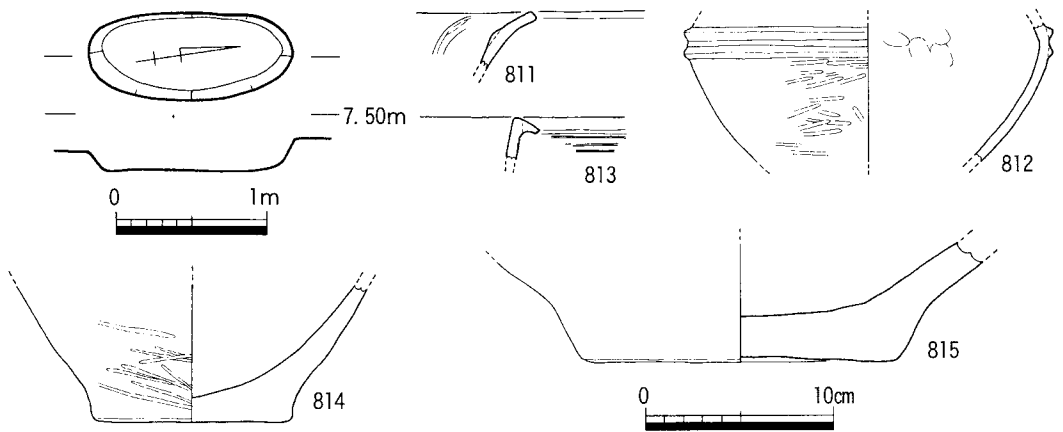
S K 1169 (第209図)

2区西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は長楕円形を呈し、長軸1.6m、短軸0.6m、深さ0.15mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。811・812は壺である。

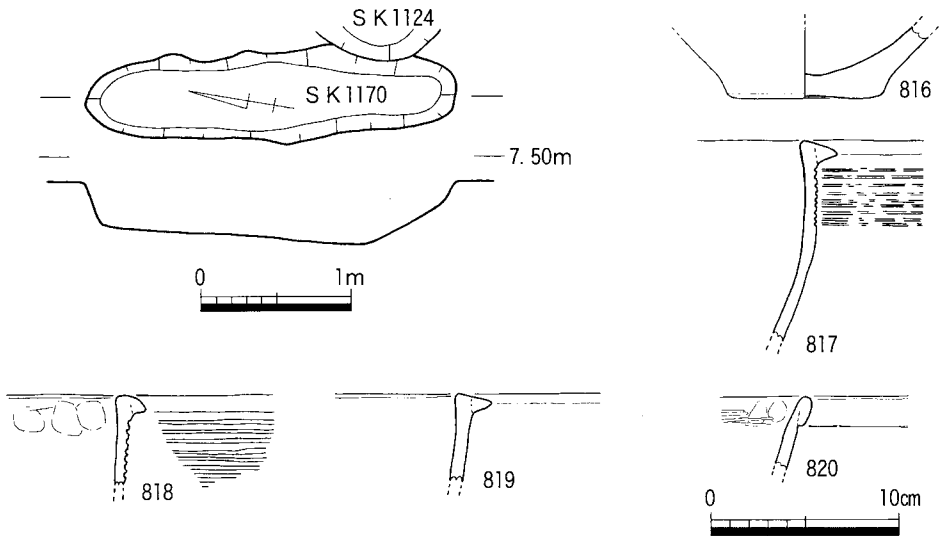
811は全体が摩滅しているが、口縁部片で、内面に貼付突帯がみられる。812は体部片で、最大径付近に貼付突帯が巡る。813は甕の口縁部で、逆L字口縁を呈する。ヘラ描沈線文が現存で3条みられる。

S K 1170 (第210図)

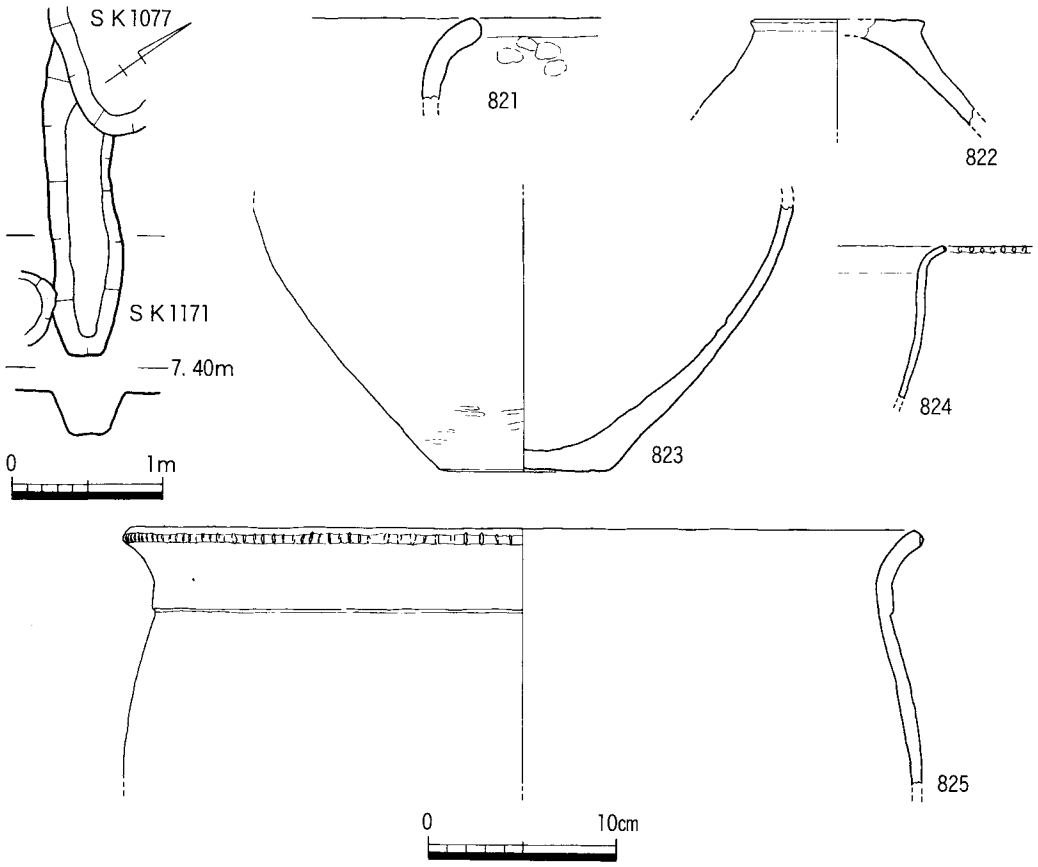
2区西部，環濠内側に位置する土坑である。土坑 S K 1124 と重複し，一部が削平されている。平面形は長楕円形を呈し，長軸2.4m，短軸0.6mを測る。底面は南部が低くなっており，最深部で深さ0.4mを測る。出土遺物は少量で，甕がみられる。817～819は甕の口縁部片で，いずれも逆L字口縁を呈する。817はヘラ描沈線文を9条，818はヘラ描沈線文を現



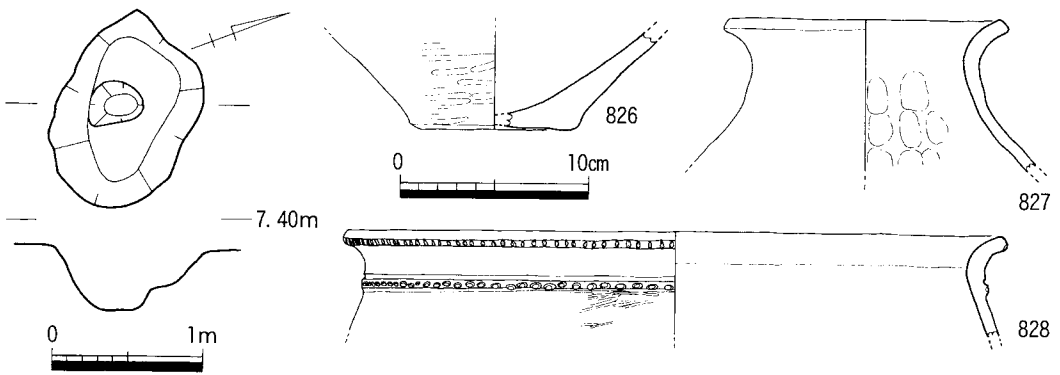
第209図 S K 1169平・断面図 (1/50)，出土土器 (1/4)



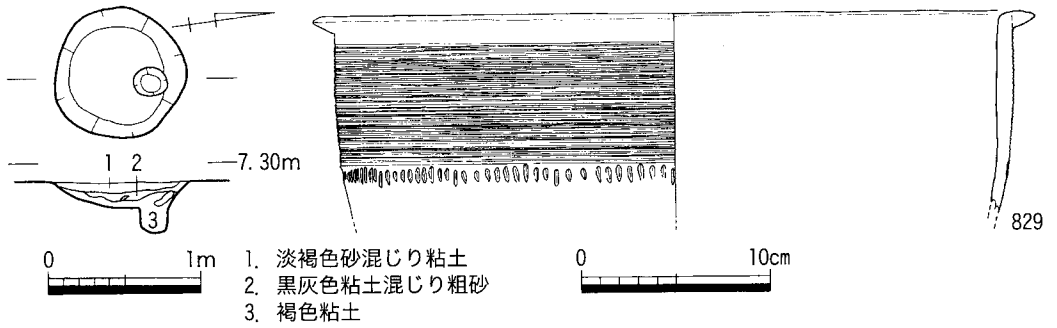
第210図 S K 1170平・断面図 (1/50)，出土土器 (1/4)



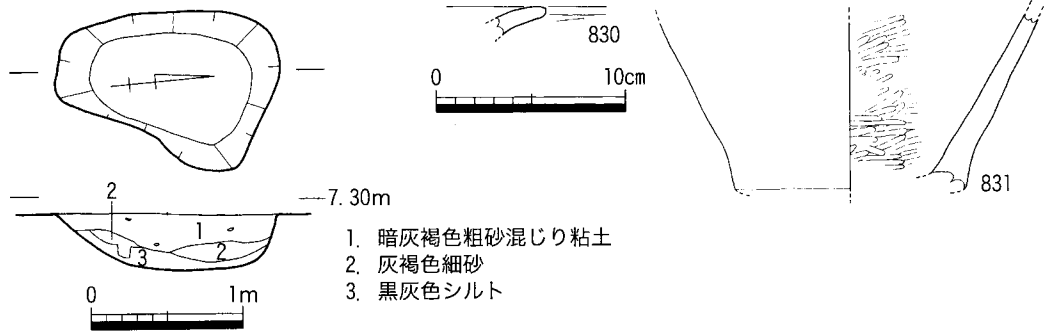
第211图 SK 1171平・断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)



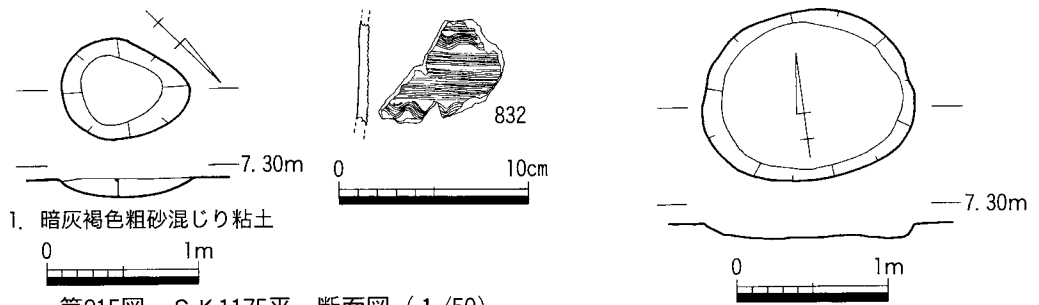
第212图 SK 1172平・断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)



第213図 SK 1173平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

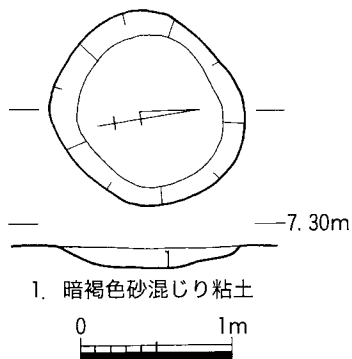


第214図 SK 1174平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

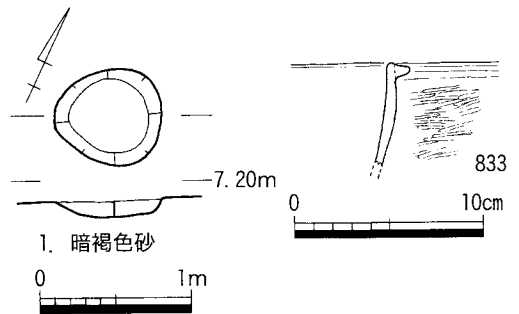


第215図 SK 1175平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

第217図 SK 1177平・断面図 (1/50)



第216図 SK 1176平・断面図 (1/50)



第218図 SK 1178平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

存で8条施す。819は摩滅しているため文様の有無は不明である。

#### S K 1171 (第211図)

2区中央部やや北寄り、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1077と重複し、一部は削平されている。平面形は長楕円形を呈し、長軸2.1m以上、短軸0.45m、深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で、壺・蓋・甕がみられる。821は壺の口縁部である。824・825は甕である。口縁部は如意状を呈し、825は口縁部下に段がみられる。

#### S K 1172 (第212図)

2区中央部やや北東寄り、環濠内側に位置する土坑である。落ち込みS X 1012と重複する。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸1.3m、短軸0.85mを測る。底面からは小穴が検出されたが、S K 1172に伴うかどうかは不明である。小穴を除く深さは0.35mである。出土遺物は少量で、壺・甕、石皿または砥石がみられる。828は甕の口縁部片である。口縁部外面にはヘラ描沈線文1条と刺突文を施し、際取り沈線を施すことにより段を形成する。

#### S K 1173 (第213図)

3区北東部、環濠外側に位置する土坑である。平面形はほぼ円形を呈し、径0.9m、深さ0.15mを測る。底面北部には径0.15m、深さ0.15mの小穴が検出された。土坑の底面に堆積する埋土と類似することからS K 1173埋没後に掘削されたものではないことがうかがわれる。土坑内西肩の埋土下部からは土器大形片が出土した。出土遺物は少量で、甕がみられる。829は逆L字口縁を呈し、櫛描直線文34条と刺突文を施す。

#### S K 1174 (第214図)

3区北東部、環濠外側に位置する土坑である。平面形はいびつな楕円形を呈する。長軸1.5m、短軸1.05m、深さ0.4mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。

#### S K 1175 (第215図)

3区北東部、環濠外側に位置する土坑である。平面形はほぼ円形を呈し、径0.7~0.85m、深さ0.1mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.1mを呈する。遺物は上面付近で少量出土した。自然形成された落ち込みの可能性も高い。出土遺物は微量で、土器片、石錐がみられる。832は甕または壺の体部片である。櫛描直線文と櫛描波状文を多条施す。

#### S K 1176 (第216図)

3区東部、環濠外側に位置する土坑である。平面形はほぼ円形を呈し、径1.2~1.3mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.15mを測る。自然形成された落ち込みの可能性も高い。

S K 1177 (第217図)

3区東部,環濠外側に位置する土坑である。平面形はほぼ円形を呈し,径1.15~1.4mを測る。断面形は浅い皿状を呈し,深さ0.1mを測る。自然形成された落ち込みの可能性も高い。

S K 1178 (第218図)

3区東部,環濠外側に位置する土坑である。平面形はほぼ円形を呈し,径0.6~0.7mを測る。断面形は浅い皿状を呈し,深さ0.1mを測る。自然形成された落ち込みの可能性も高い。出土遺物は微量で,甕(833)がみられる。833は逆L字口縁を呈する。

S K 1179 (第219図)

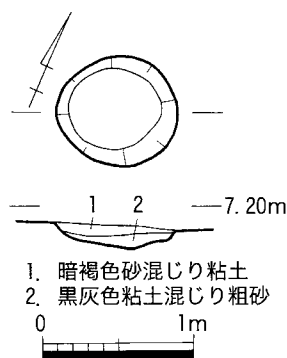
3区東部,環濠外側に位置する土坑である。平面形はほぼ円形を呈し,径0.7~0.8mを測る。断面形は浅い皿状を呈し,深さ0.15mを測る。埋土は明確に2層に分離できる。

S K 1180 (第220図)

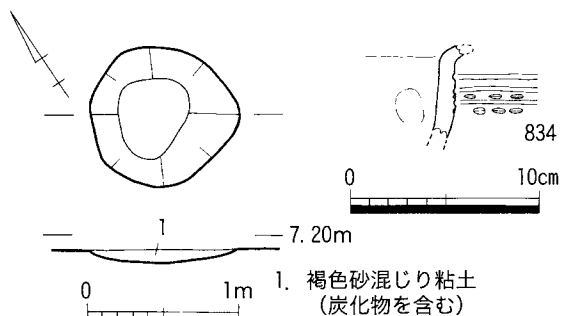
3区東部,環濠外側に位置する土坑である。平面形はほぼ円形を呈し,径0.9~1.0mを測る。断面形は浅い皿状を呈し,深さ0.1mを測る。自然形成された落ち込みの可能性も高い。出土遺物は微量で,甕(834)がみられる。834の口縁部は如意状を呈し,ヘラ描沈線文と刺突文を交互に施す。

S K 1181 (第221・222図, 図版17)

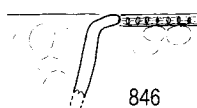
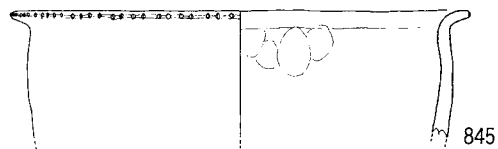
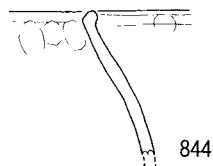
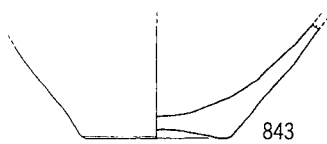
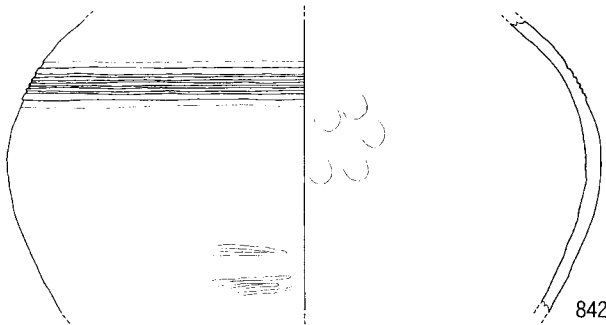
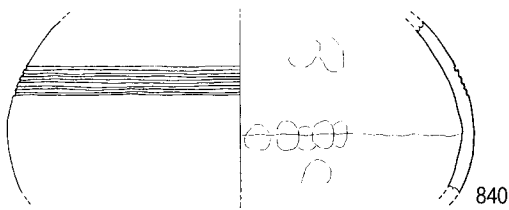
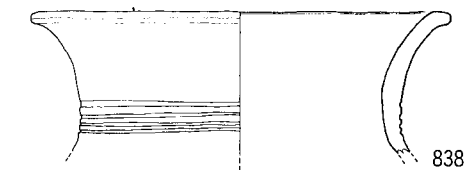
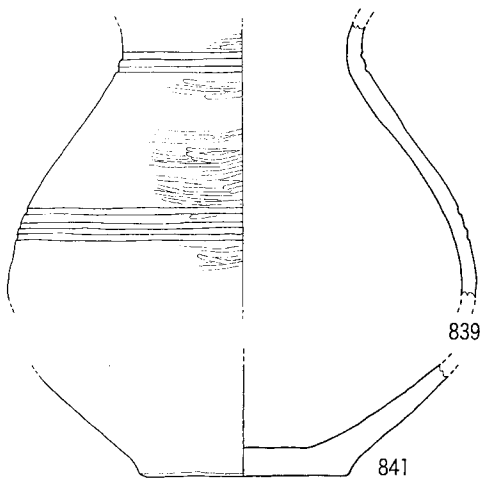
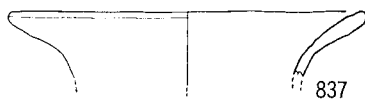
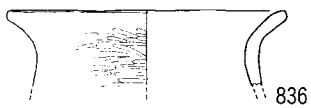
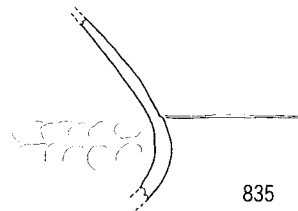
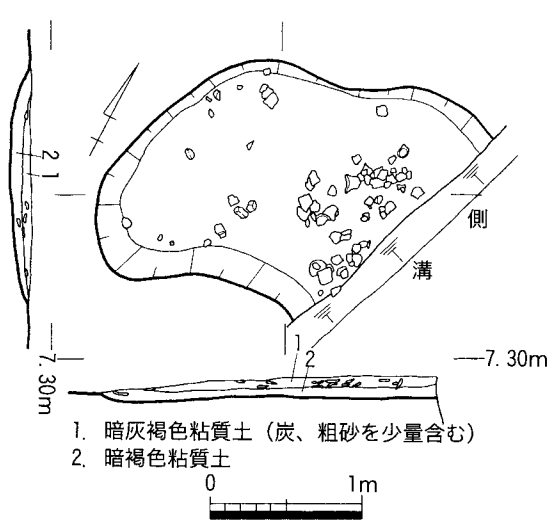
3区東部,環濠外側に位置する土坑である。東部は排水用側溝の掘削のため,削平され,全体形状は不明である。平面形はいびつな楕円形を呈し,長軸推定2.0~2.5m,短軸1.5~1.8mを測る。断面形は逆台形を呈し,深さ0.15mを測る。東部埋土中位からは土器片がまともに出てきた。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で,壺・甕,石鍬,盤状剥片の分割



第219図 S K 1179平・断面図(1/50)

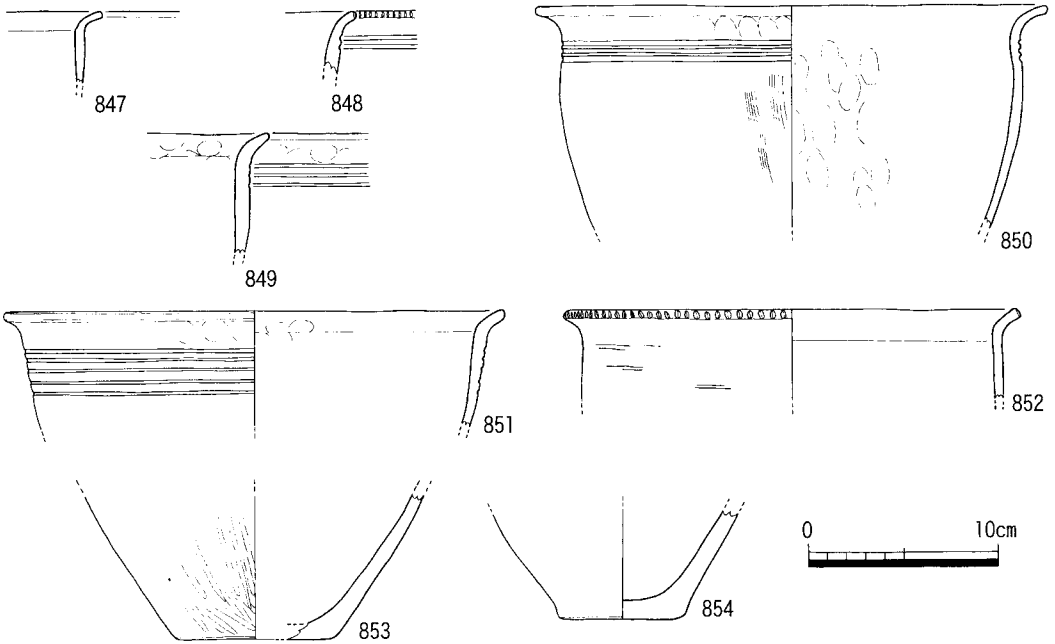


第220図 S K 1180平・断面図(1/50),  
出土土器(1/4)

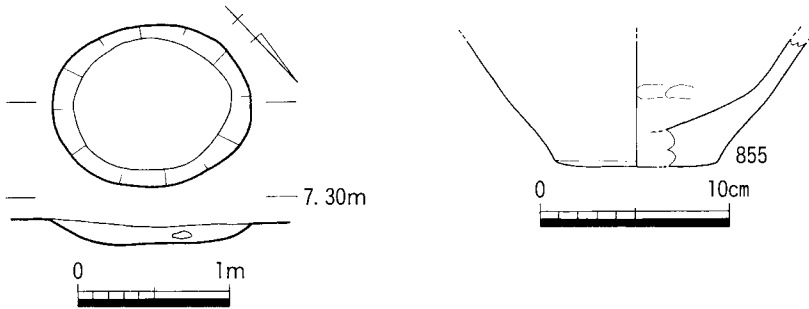


第221図 S K 1181平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



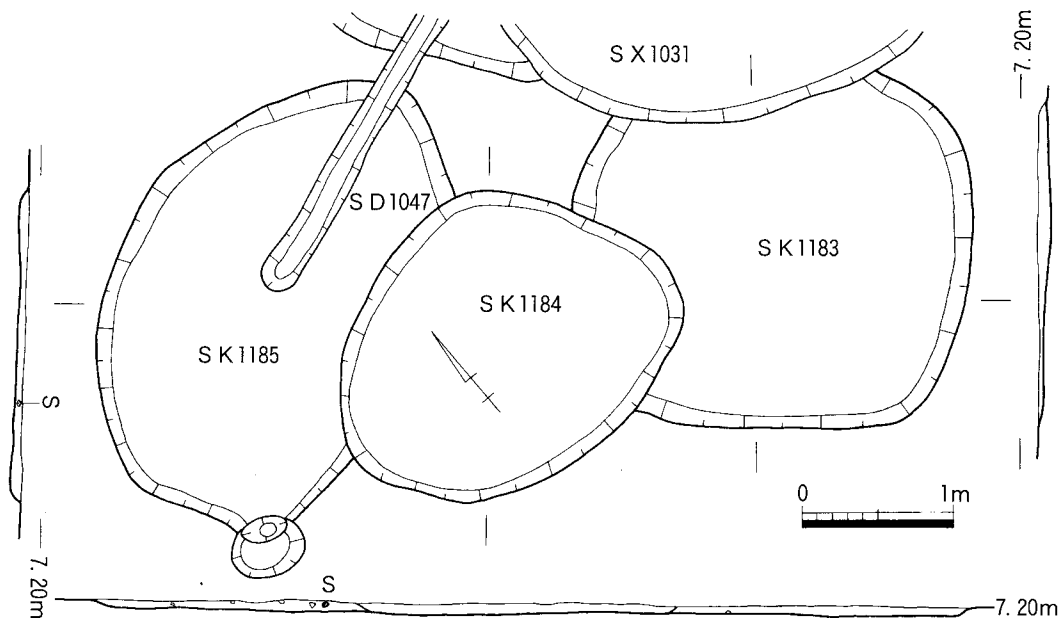


第222図 S K 1181出土土器 2 (1/4)

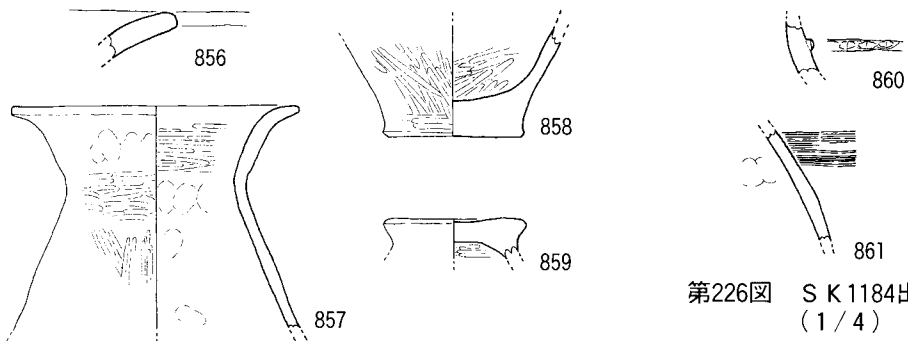


第223図 S K 1182平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

材または石核等がみられる。835～842は壺である。835は体部片である。頸部と体部の境には段を施す。838は口縁部片で、頸部にヘラ描沈線文を現存で5条施す。839は体部片である。頸部にヘラ描沈線文を2条、体部にヘラ描沈線文を3条施す。840・842も体部片で、840はヘラ描沈線文を5条施す。842は削出突帯第Ⅱ種で、削出突帯間に沈線を4条施す。845～852は甕の口縁部片である。いずれも口縁部は如意状を呈する。845・846は外面に文様はみられず、847は摩滅しているため文様の有無は不明である。848はヘラ描沈線文2条、849・850はヘラ描沈線文を3条、851はヘラ描沈線文を5条施す。852は摩滅しているため条数は不明であるが、3条のヘラ描沈線文がみられる。

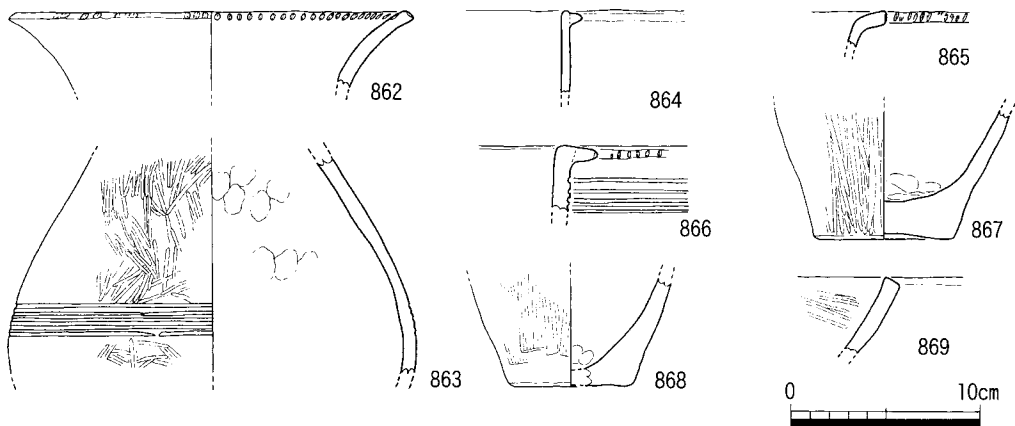


第224図 SK1183・SK1184・SK1185平・断面図 (1/50)



第225図 SK1183出土土器 (1/4)

第226図 SK1184出土土器 (1/4)



第227図 SK1185出土土器 (1/4)

### S K 1182 (第223図)

3区東南部、環濠外側に位置する土坑である。平面形はほぼ円形を呈し、径1.05~1.3mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.15mを測る。出土遺物は少量で、底部片がみられる。

### S K 1183 (第224・225図)

3区南部、環濠外側に位置する土坑である。土坑S K 1183・S K 1184・S K 1185が重複した状態で検出された。土層の堆積状況から、S K 1184がS K 1183・S K 1185よりも後出することが明確である。S K 1183は北東部でS X 1031と重複し、削平されているため、全体形状は不明であるが、平面形はいびつな円形を呈し、径2.5~2.6mを測ると推定される。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕・蓋、石包丁がみられる。

### S K 1184 (第224・226図)

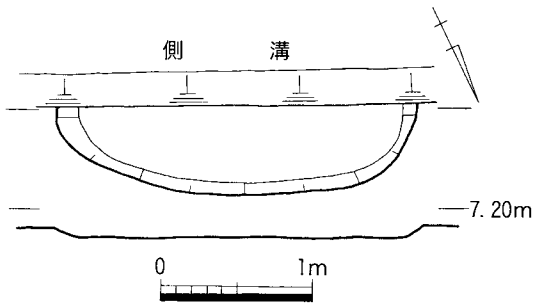
3区南部、環濠外側に位置する土坑である。土坑S K 1183・S K 1185と重複した状態で検出された。土層の堆積状況から、S K 1183・S K 1185よりもS K 1184が後出することが明確である。平面形はいびつな円形を呈し、径1.8~2.4mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で、壺片がみられる。860は壺の頸部片で、貼付刻目突帯を施す。861は壺の頸部片で、櫛描直線文を現存で8条施す。

### S K 1185 (第224・227図)

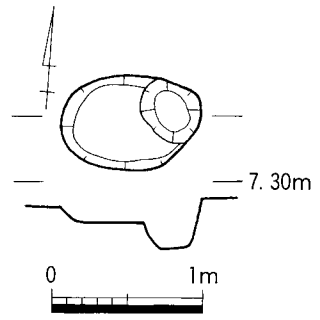
3区南部、環濠外側に位置する土坑である。土坑S K 1184と重複した状態で検出された。土層の堆積状況から、S K 1185はS K 1184より先行することが明確である。平面形はいびつな円形を呈し、径2.0~3.1mを測ると推定される。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕・鉢、石包丁がみられる。862・863は壺である。862は口縁端部に刻目、口縁部内面に刺突文を施す。863は体部片で、最大径付近にヘラ描沈線文5条施す。864~866は甕の口縁部である。864・866は逆L字口縁である。864は摩滅のため文様の有無は不明である。866はヘラ描沈線文を現存で5条施す。

### S K 1186 (第228図)

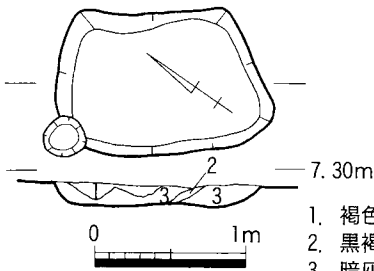
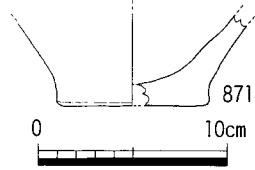
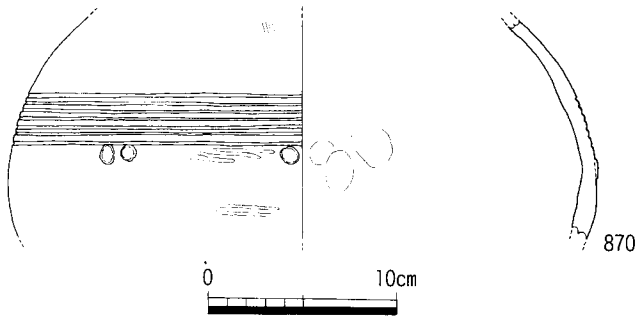
3区南端、環濠外側に位置する土坑である。南部は調査区外に連続するため、遺構の全体形状は不明である。平面形は楕円形と推定される。現存長軸は2.4mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で、壺(870)がみられる。870は体部片である。ヘラ描沈線文7条と円形浮文を施す。



第228図 S K 1186平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)

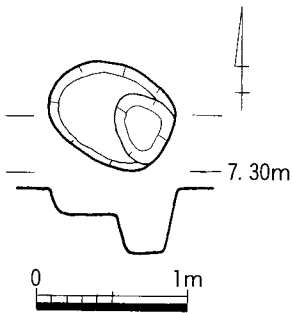
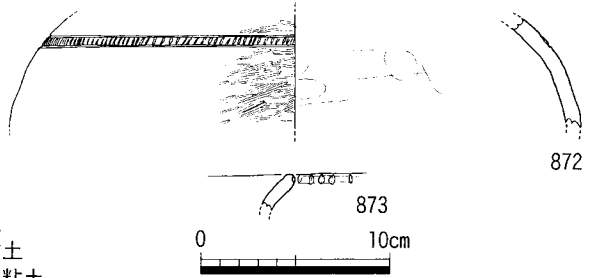


第229図 S K 1187平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)

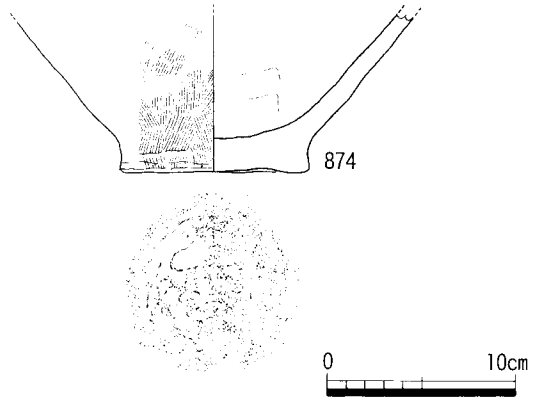


第230図 S K 1188平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

1. 褐色粘土
2. 黒褐色粘土
3. 暗灰褐色粘土



第231図 S K 1189平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



### S K 1187 (第229図)

3区南部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈する。長軸0.9m、短軸0.6mを測る。遺構内東部には底面に小穴(径0.4m、深さ0.2m)が検出されたが、周囲にも柱穴が多数存在するため、S K 1187に伴うものかどうか不明である。柱穴を除く深さは0.15mを測る。出土遺物は微量で、甕の底部片が出土した。

### S K 1188 (第230図)

3区南西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はほぼ方形を呈する。長軸1.4m、短軸0.95m、断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕、刃器が出土した。872は壺の体部片で、ヘラ描沈線文2条間にヘラ描縦線文を施す。873は甕の口縁部片である。口縁部は如意状を呈する。

### S K 1189 (第231図)

3区南西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はほぼ楕円形を呈する。長軸0.85m、短軸0.65m、深さ0.15mを測る。底面からは小穴(径0.4~0.5m、深さ0.3m)が検出されたが、周囲にも柱穴が多数存在するため、S K 1189に伴うものかどうかは不明である。出土遺物は少量で、底部片(874)がみられる。874の底部外面には靱の圧痕がみられる。

### S K 1190 (第232図)

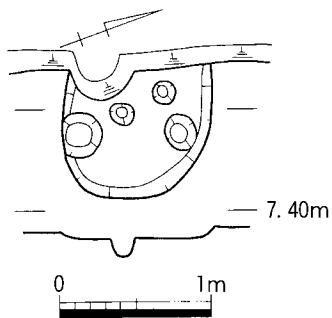
3区南西端、環濠内側に位置する土坑である。遺構の西部は排水用側溝によって削平されているため、全体形状は不明である。平面形はほぼ円形を呈し、径1.0m前後を測ると推定される。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.1mを測る。底面からは小穴(径0.1~0.2m、深さ0.1~0.2m)が検出されたが、S K 1190に伴うものかどうかは不明である。出土遺物は少量で、壺の口縁部片が出土した。

### S K 1191 (第233図)

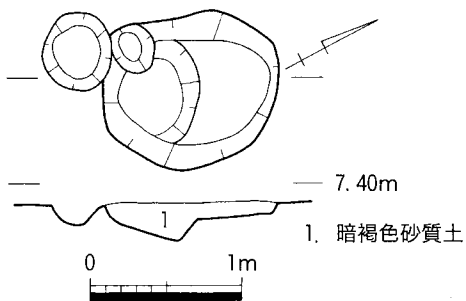
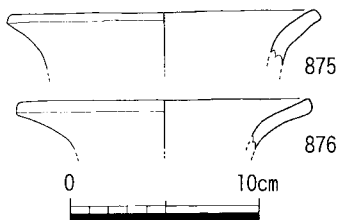
3区南西端、環濠内側に位置する土坑である。南西部は柱穴と重複し、一部が削平されている。平面形はほぼ楕円形を呈し、長軸1.2m、短軸1.0mを測る。2段掘りで、南部が低くなっており、最深部で0.25mを測る。出土遺物は少量で、鉢と壺が出土した。877は縄文系浅鉢の口縁部片で、波状口縁を呈する。878は壺の体部片で、ヘラ描重弧文を施す。

### S K 1192 (第234図)

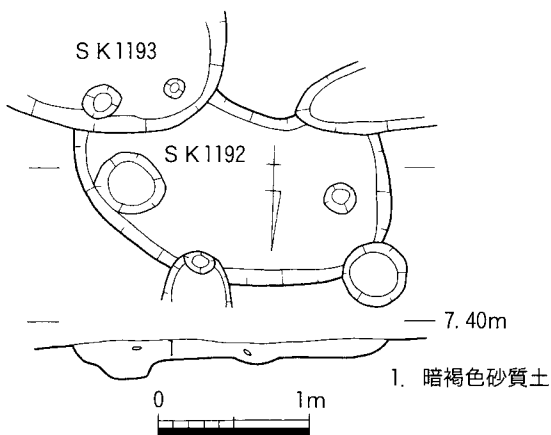
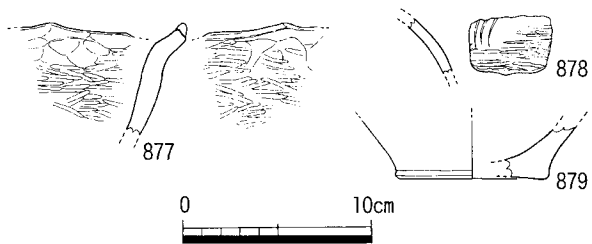
3区南西部、環濠内側に位置する土坑である。南部は土坑S K 1193と重複し、一部が削平されている。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸2.2m、短軸1.1m、深さ0.1mを測るものと推定される。底面からは2個の小穴(径0.2~0.4m、深さ0.1~0.2m)が検出された



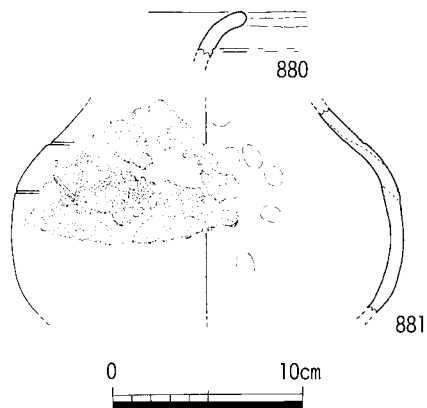
第232图 SK 1190平・断面图 (1/50),  
出土土器 (1/4)



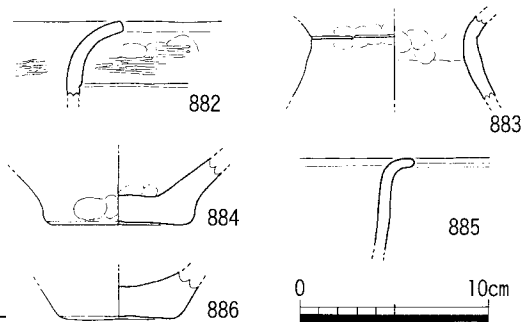
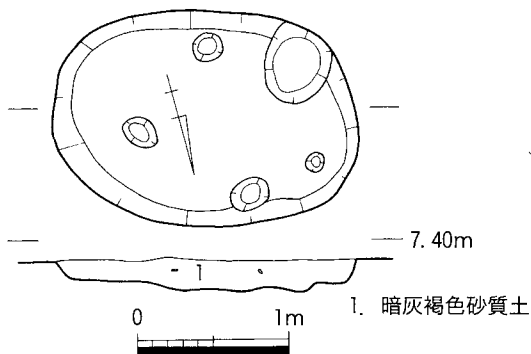
第233图 SK 1191平・断面图 (1/50),  
出土土器 (1/4)



第234图 SK 1192平・断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)



第235图 SK 1193平・断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)



が、S K 1192に伴うものかどうか不明である。出土遺物は少量で、壺が出土した。881は壺の体部片である。頸部下に段を施し、ヘラ描有軸木葉文を施す。

#### S K 1193 (第235図)

3区南西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はほぼ楕円形を呈し、長軸2.0m、短軸1.4m、深さ0.2mを測る。床面からは5個の小穴(径0.1~0.5m、深さ0.1m)が検出されたが、S K 1193に伴うものかどうか不明である。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。882は壺の口縁部片で、口縁部下に段を施す。883は壺の頸部片で、口縁部と頸部の境にヘラ描沈線文を1条施す。885は甕の口縁部片である。口縁部は如意状を呈するが、摩滅しているため文様の有無は不明である。

#### S K 1194 (第236図)

3区南西部、環濠内側に位置する土坑である。西部は排水用側溝に削平されるため、全体形状は不明である。また、北部も柱穴(径0.3~0.5m、深さ0.25m)と重複し、一部が削平されている。平面形は楕円形を呈し、長軸1.2m、短軸0.8m、深さ0.15mを測ると推定される。底面からは2個の小穴(径0.15~0.35m、深さ0.1~0.2m)が検出されたが、S K 1194に伴うものかどうか不明である。出土遺物は少量で、壺・底部片がみられる。887は壺の頸部片で、ヘラ描沈線文を3条施す。889も壺の頸部片で、現存ではヘラ描沈線文を1条施す。

#### S K 1195 (第237図)

3区南西部、環濠内側に位置する土坑である。北部は柱穴が重複するため、一部が削平されている。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸1.4m、短軸1.0m、深さ0.15mを測る。出土遺物は少量で、無頸壺・甕、石鍬がみられる。891・892は甕の口縁部片で、如意状を呈し、891はヘラ描沈線文を4条、892は現存で3条施す。893は逆L字口縁である。外面は摩滅しているため文様の有無は不明である。

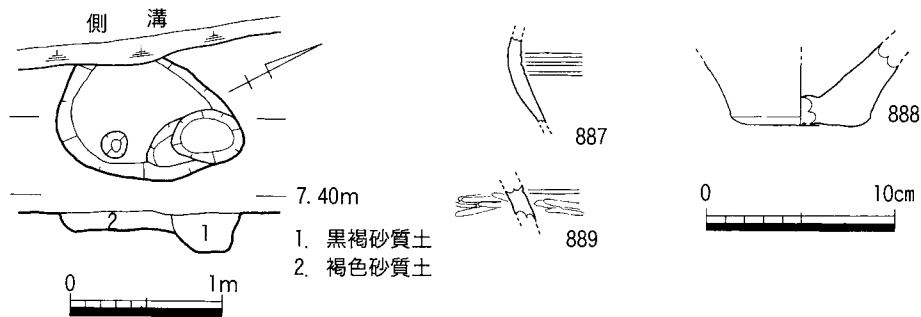
#### S K 1196 (第238図)

3区南西部、環濠内側に位置する土坑である。東部は土坑S K 1197と重複し、一部が削平されるため、全体形状は不明である。平面形はほぼ円形を呈するものと推定される。残存部分で長軸1.15m、断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.05mを測る。出土遺物は少量で、壺片が出土した。895は壺の体部片で、ヘラ描沈線文5条とヘラ描重弧文を施す。

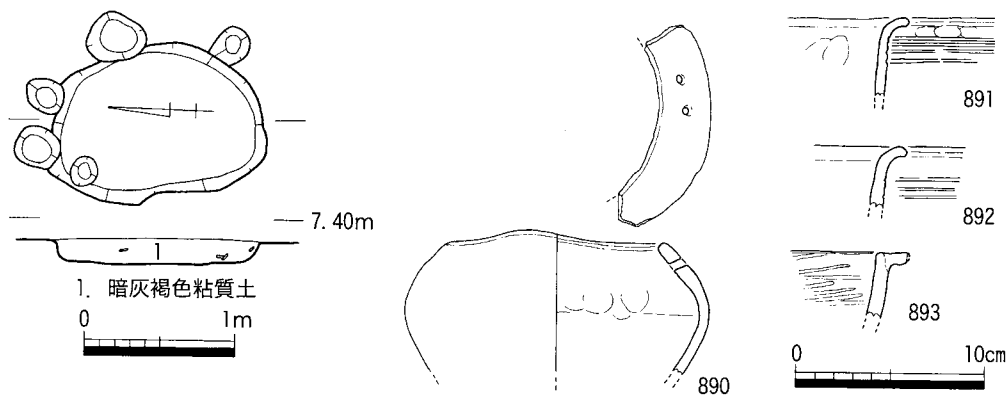
#### S K 1197 (第239・240図、図版18)

3区南西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸1.55m、短軸0.6mを測る。東西壁の立ち上がりは急で、断面形は箱形を呈する。底面は平坦ではな

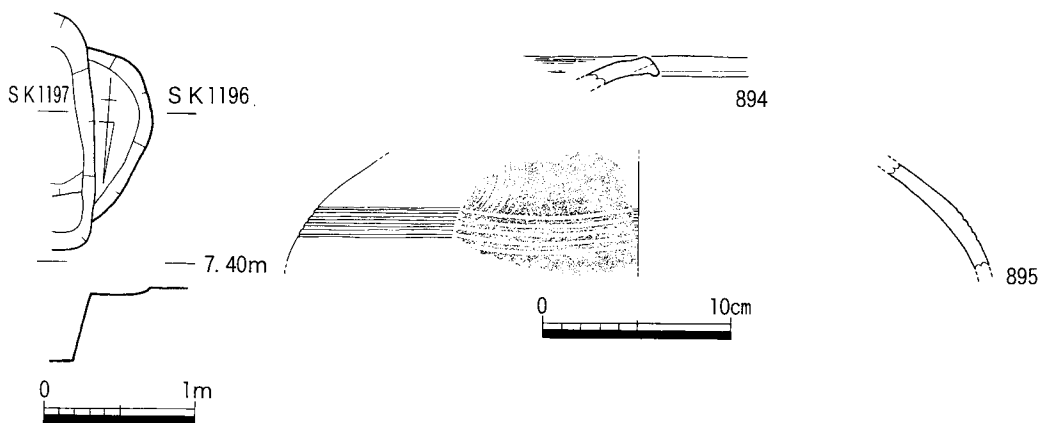
く、南部は一段落ち込む。最深部で深さ0.4mを測る。底面直上には敷き詰められたように大形土器片が堆積する。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、壺・甕・蓋・鉢、石包丁・石鍬がみられる。896~903・905・906は壺である。896は頸部に貼付突帯を1条、体部に貼付突帯を施す。体部の貼付突帯は1条しか残存しないが、貼付突帯の剥離した痕跡と考えられる細い沈線状の筋が2条巡るため本来は体部にもう1条貼付突帯が施されていたもの



第236図 SK 1194平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

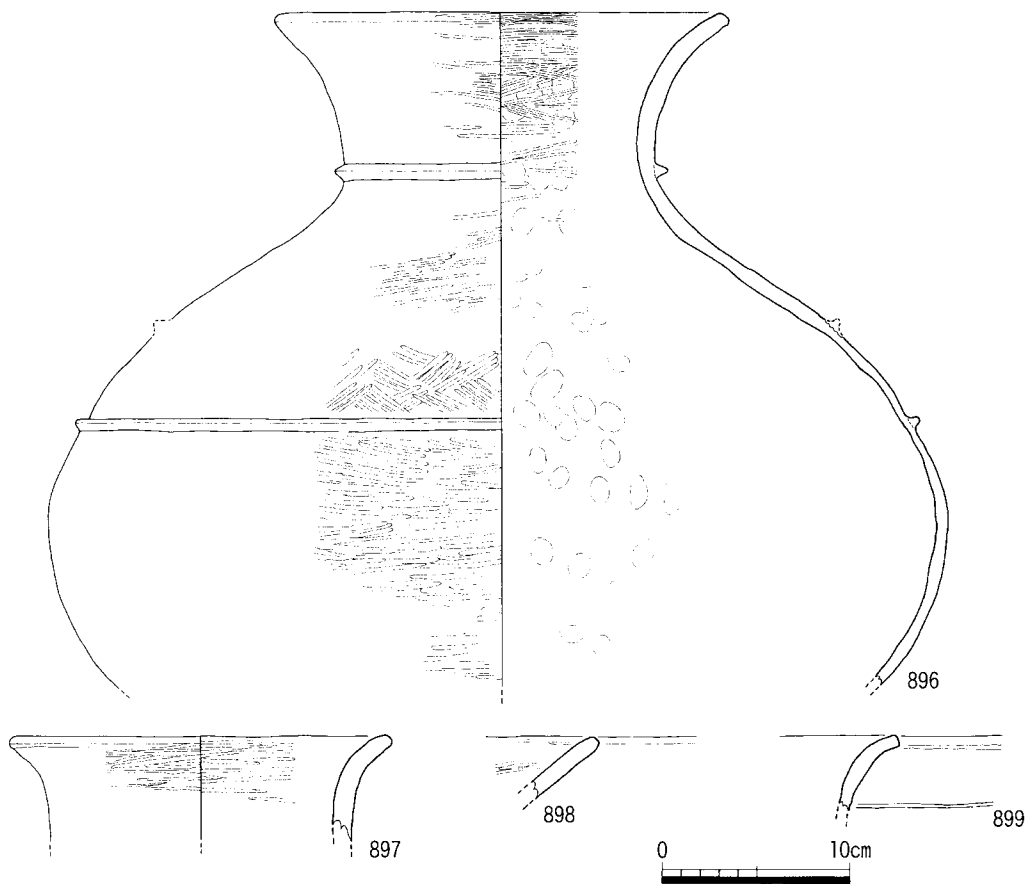
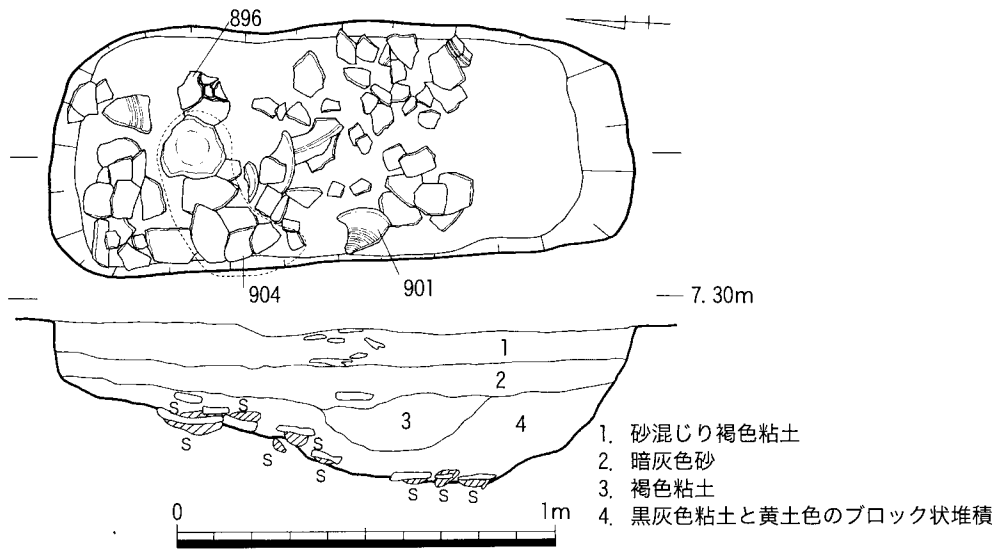


第237図 SK 1195平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

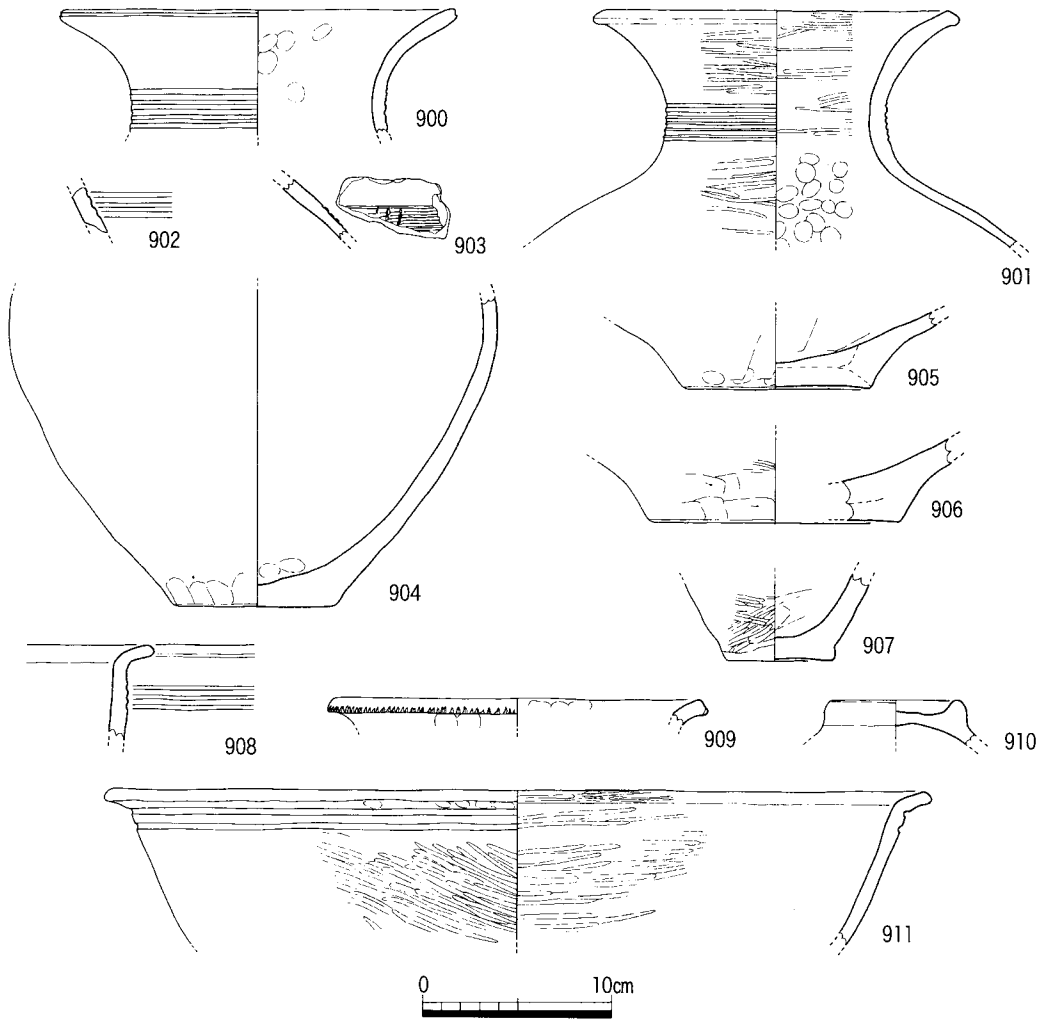


第238図 SK 1196平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)





第239図 S K1197平・断面図（1/20），出土土器（1/4）



第240図 S K 1197出土土器 2 (1/4)

と考えられる。900・901は壺の口縁部である。900は頸部にヘラ描沈線文を現存で4条、901は6条施す。908・909は甕の口縁部片で、如意状を呈する。908はヘラ描沈線文を3条施す。911は大型の鉢で、口縁部は外反し、ヘラ描沈線文2条を施す。

S K 1198 (第241図)

3区南西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はほぼ楕円形を呈し、長軸1.2m、短軸0.8mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.1mを測る。底面からは小穴（径0.4m、深さ0.1m）が検出されたが、S K 1198に伴うものかどうか不明である。出土遺物は少量で、壺・甕・蓋片、石鋤がみられる。

### S K 1199 (第242図, 図版18)

3区南西部, 環濠内側に位置する土坑である。北部は溝S D 1053と重複し, 削平されているため, 全体形状は不明である。平面形はいびつな隅丸長方形を呈するものと考えられる。残存長軸1.0m, 短軸0.7mを測る。床面は平坦ではなく, 2段掘りになって北部が低く, 南部の壁の立ち上がりは緩やかである。最深部で深さ0.3mを測る。埋土下部からは土器片がまとまって出土した。出土遺物は少量で, 壺・甕, 石鍬がみられる。917~919・921は甕である。いずれも口縁部は如意状を呈する。917は摩滅しているが, ヘラ描沈線文が1条残存する。918も摩滅しているため文様の有無は不明である。919・921はヘラ描沈線文を3条施す。

### S K 1200 (第243図)

3区南西部, 環濠内側に位置する土坑である。南部は柱穴と重複し, 一部が削平されている。平面形はほぼ楕円形を呈し, 長軸1.0m, 短軸0.4mを測る。底面は平坦ではなく, 北部がやや低い。最深部で深さ0.2mを測る。出土遺物は微量で, 土器片がみられる。

### S K 1201 (第244図)

3区西端, 環濠内側に位置する土坑である。西部は排水用側溝に削平されるため, 全体形状は不明である。平面形はほぼ楕円形を呈するものと推定され, 長軸0.7m以上, 短軸0.6m, 深さ0.25mを測る。出土遺物は微量で, 土器片, 刃器がみられる。

### S K 1202 (第245図)

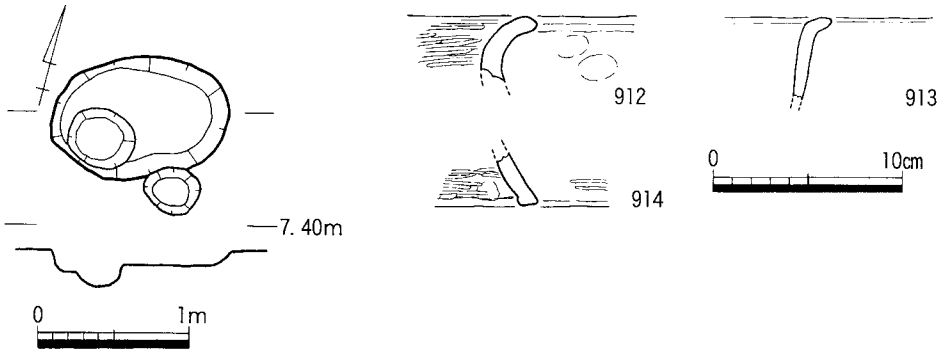
3区西部, 環濠内側に位置する土坑である。南部は柱穴(径0.5~0.7m, 深さ0.5m)と重複する。土層堆積から, S K 1202が古いことが明確である。平面形はいびつな長楕円形を呈するものと推定され, 長軸1.5m以上, 短軸0.8m, 深さ0.15mを測る。出土遺物は少量で, 壺・甕・蓋, 石剣がみられる。923は壺の体部片で, 櫛描直線文・波状文を施す。924・925は甕で, 逆L字口縁を呈する。926は甕で, 口縁部は外反する。摩滅のため文様の有無は不明である。

### S K 1203 (第246図)

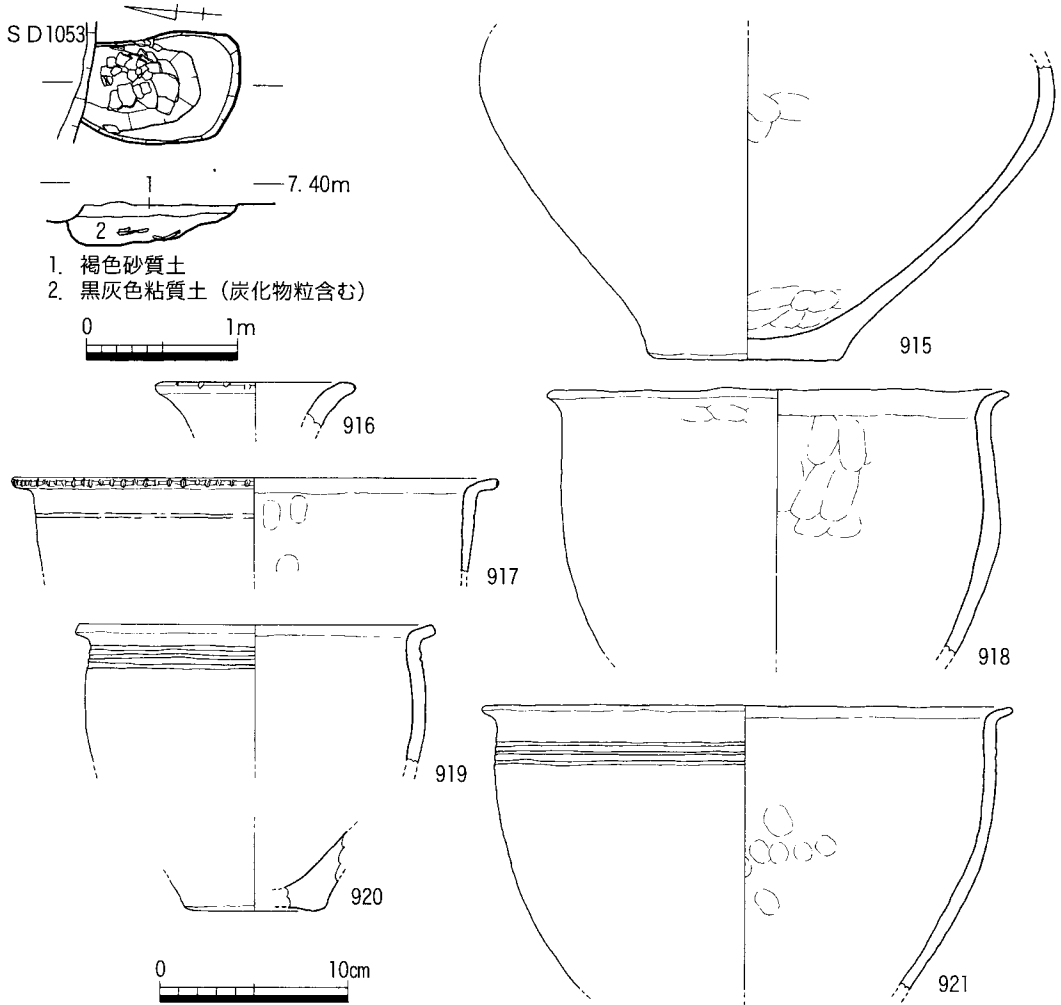
3区西部, 環濠内側に位置する土坑である。平面形はいびつな円形を呈し, 径0.8~0.9m, 深さ0.2mを測る。出土遺物は微量で, 土器片がみられる。

### S K 1204 (第247図)

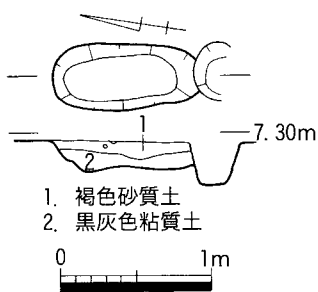
3区西部, 環濠内側に位置する土坑である。平面形はいびつな隅丸方形を呈し, 1辺0.9m前後を測る。断面形は逆台形を呈し, 深さ0.3mを測る。第2層上部から遺物がまとまっ



第241図 SK1198平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

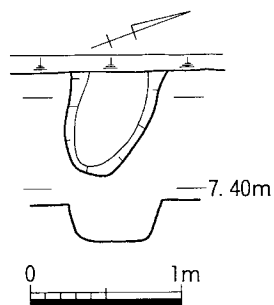


第242図 SK1199平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

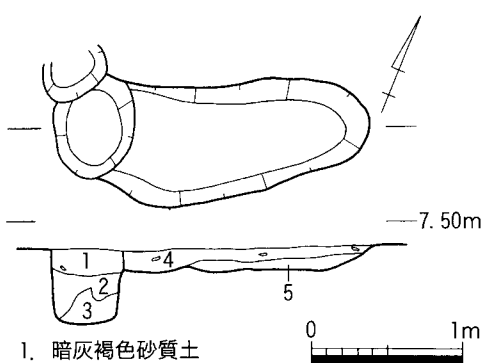


1. 褐色砂質土
2. 黒灰色粘質土

第243図 S K 1200平・断面図 (1/50)

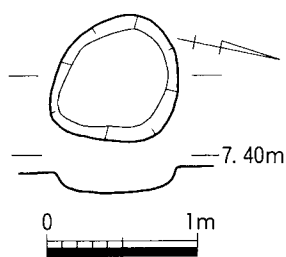
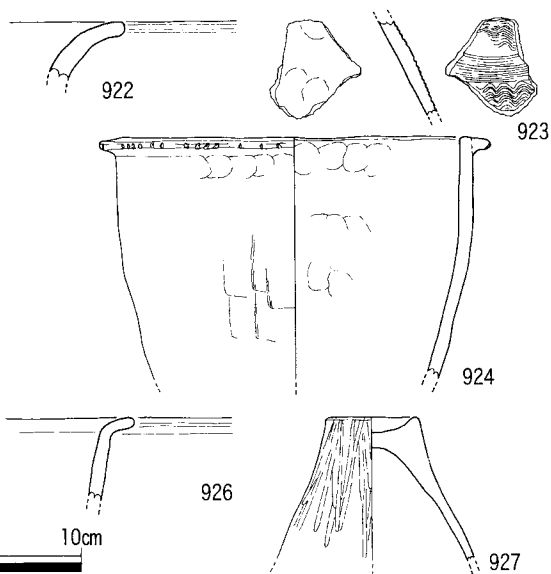


第244図 S K 1201平・断面図 (1/50)

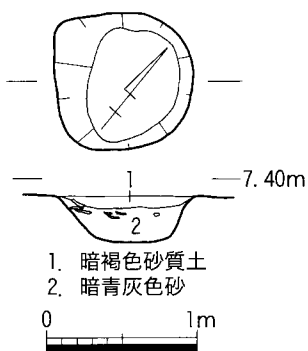


1. 暗灰褐色砂質土
2. 黒灰色砂質土  
(炭化物を少量含む)
3. 暗青灰色粘質土
4. 暗褐色砂質土
5. 暗灰色砂

第245図 S K 1202平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

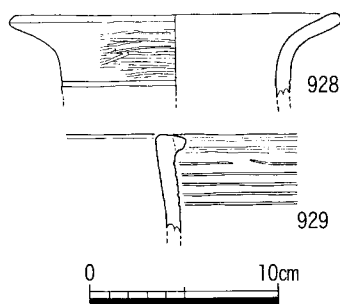


第246図 S K 1203平・断面図  
(1/50)



1. 暗褐色砂質土
2. 暗青灰色砂

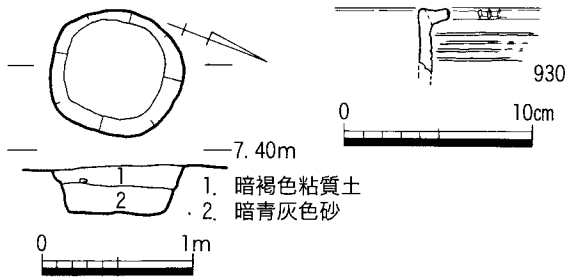
第247図 S K 1204平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)



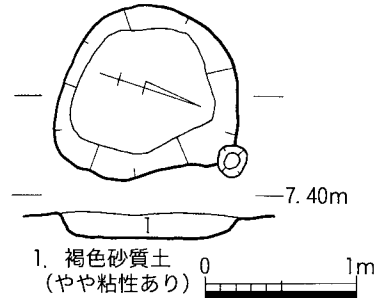
て出土した。出土遺物は少量で、壺・甕、太型蛤刃石斧・大型盤状剥片がみられる。928は壺の口頸部片で、ヘラ描沈線文を現存で1条施す。929は甕の口縁部片で、逆L字口縁を呈する。ヘラ描沈線文5条施す。

S K 1205 (第248図)

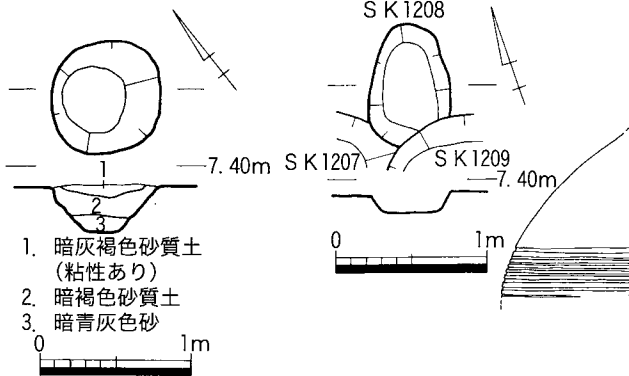
3区西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はいびつな円形を呈し、径0.8~0.9m、深さ0.4mを測る。出土遺物は微量で、甕の口縁部片(930)が出土した。930は逆L字口縁



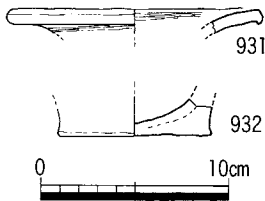
第248図 S K 1205平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



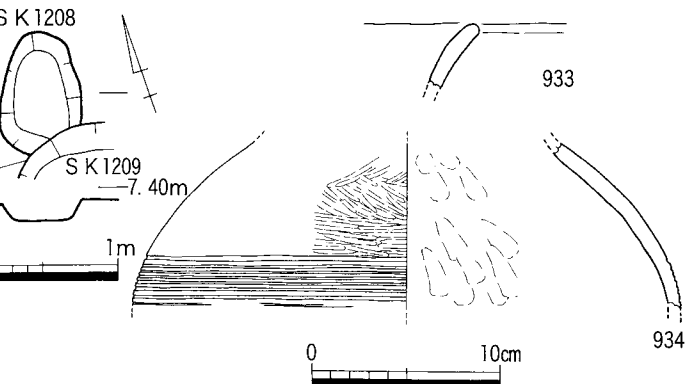
第249図 S K 1206平・断面図 (1/50)



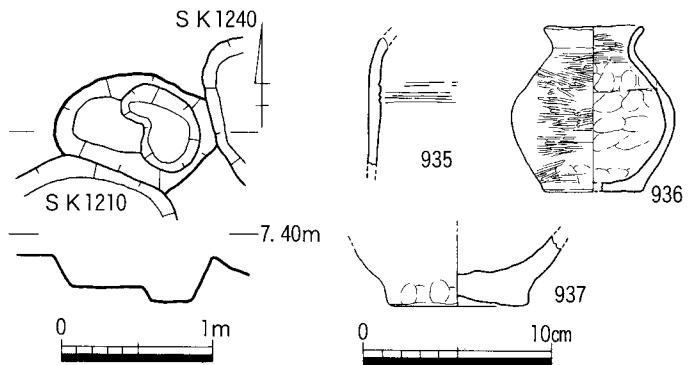
第251図 S K 1208平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第250図 S K 1207平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第251図 S K 1208平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第252図 S K 1209平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

を呈し、ヘラ描沈線文を4条施す。

S K 1206 (第249図)

3区西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はいびつな円形を呈し、径1.1~1.2m、深さ0.15mを測る。出土遺物は微量で、土器片がみられる。

S K 1207 (第250図)

3区西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はいびつな円形を呈し、径0.7~0.8m、深さ0.35mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕片が出土した。

S K 1208 (第251図)

3区西部、環濠内側に位置する土坑である。南部は土坑S K 1209と重複し、一部が削平されている。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸0.8m、短軸0.5m、深さ0.15mを測る。出土遺物は少量で、壺片が出土した。934は壺の体部片である。ヘラ描沈線文を現存で8条施す。

S K 1209 (第252図)

3区西部、環濠内側に位置する土坑である。東部は土坑S K 1240、南部は土坑S K 1210と重複するため、一部が削平されている。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸1.0m、短軸0.7mを測る。2段掘りになっており、東部が低い。最深部で、深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で、甕・ミニチュア土器壺がみられる。935は甕の体部片で、口縁部は如意状を呈するものと考えられる。ヘラ描沈線文を3条施す。

S K 1210 (第253図)

3区西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸1.55m、短軸1.05mを測る。底面はほぼ平坦で、深さ0.2mを測る。床面からは小穴(径0.1m、深さ0.1m)が検出された。S K 1210に伴うものかどうか不明である。出土遺物は少量で、壺・甕が出土した。938・939は壺の口縁部片である。940は甕で、逆L字口縁を呈する。摩滅のため文様の有無は不明である。

S K 1211 (第254図)

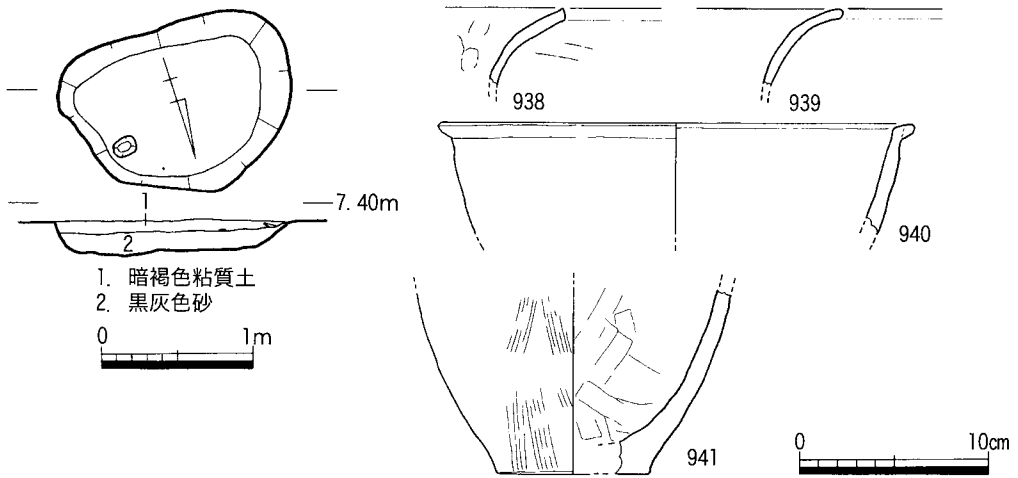
3区西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し、長軸0.7m、短軸0.6mを測る。2段掘りになっており、南部が低い。最深部で深さ0.15mを測る。出土遺物は微量で、甕の口縁部片(942)がみられる。942の口縁部は如意状を呈し、ヘラ描沈線文を現存で2条施す。

S K 1212 (第255図, 図版18)

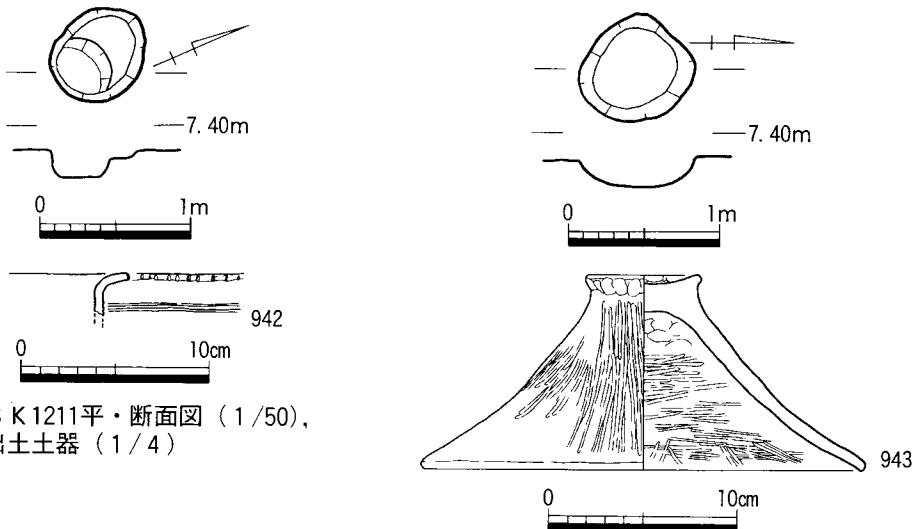
3区西部, 環濠内側に位置する土坑である。平面形はほぼ円形を呈し, 径0.7mを測る。断面形はボウル状で, 深さ0.2mを測る。底面付近から蓋の大形破片(943)が出土した。

S K 1213 (第256図)

3区南西部, 環濠内側に位置する土坑である。遺構北西部には柱穴が重複するため, 一部が削平されている。平面形はややいびつな隅丸方形を呈し, 長軸1.15m, 短軸0.9m, 深



第253図 S K 1210平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第254図 S K 1211平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

第255図 S K 1212平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



さ0.05mを測る。床面からは3個の小穴（径0.2～0.5m、深さ0.1～0.2m）が検出された。S K 1213に伴うものかどうか不明である。出土遺物は少量で、壺・甕が出土した。944～946は壺である。944は口縁部・底部を欠損する。頸部には深めのヘラ描沈線文を現存で4条施す。体部上半には段がみられ、その下部にはヘラ描沈線文4条と間欠刻目を施す。947・948は口縁部は如意状を呈し、ヘラ描沈線文を2条施す。

#### S K 1214（第257図）

3区南西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はほぼ楕円形を呈し、長軸1.05m、短軸0.55m、深さ0.1mを測る。床面からは小穴（径0.15m、深さ0.15m）が検出された。S K 1214に伴うものかどうか不明である。出土遺物は微量で、壺の口縁部片（949）が出土した。

#### S K 1215（第258図）

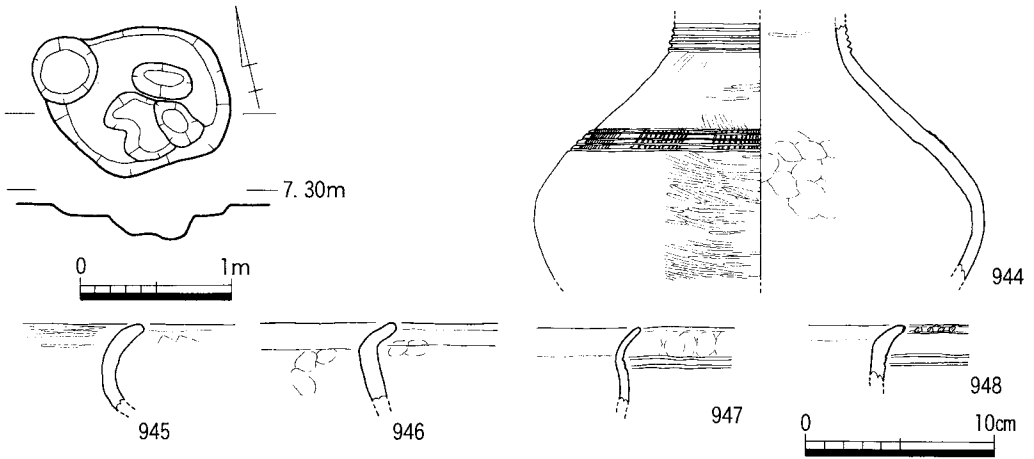
3区南西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はややいびつな円形を呈し、径1.2～1.3m、深さ0.1mを測る。床面からは小穴（径0.15m、深さ0.1m）が検出された。S K 1215に伴うものかどうか不明である。出土遺物は少量で、壺・甕が出土した。952の口縁部は如意状を呈する。外面に文様は認められない。

#### S K 1216（第259図、図版19）

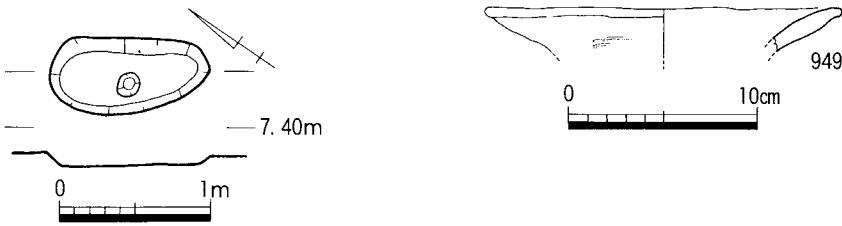
3区南西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸1.0m、短軸0.6m、深さ0.1mを測る。遺構内東部からは遺構検出面に突き出した状態で大形壺口頸部破片が出土したことから、遺構の掘り込みは検出面よりも上位であることがうかがわれる。出土遺物は少量で、壺・甕が出土した。953は壺の口頸部である。頸部にヘラ描沈線文を8条施す。956は逆L字口縁の甕で、ヘラ描沈線文を12条施す。

#### S K 1217（第260図）

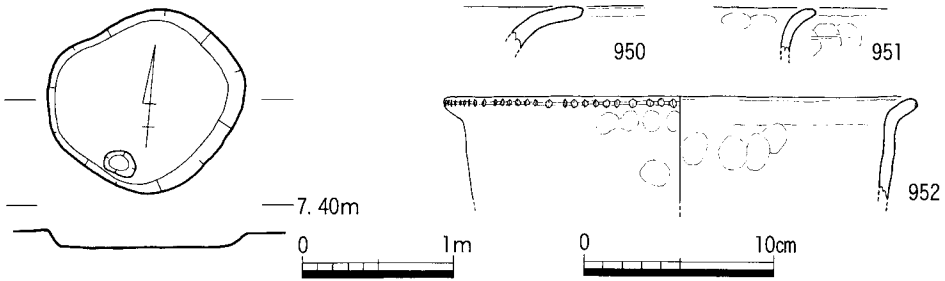
3区南西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はいびつな隅丸長方形を呈し、長軸1.6m、短軸1.0mを測る。断面形舟形を呈し、西部の壁の立ち上がりはほぼ垂直に近いが、東部の壁の立ち上がりは緩やかである。最深部で深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕・鉢・蓋、石包丁・石鋏・石錐・刃器、種実がみられる。957・959～961は壺の口縁部片である。960はヘラ描沈線文3条、961は頸部に削出突帯第Ⅱ種がみられる。削出突帯間に3条以上のヘラ描沈線文を施す。962は壺の頸部片である。頸部に削出突帯第Ⅱ種がみられる。削出突帯間には1条のヘラ描沈線文を施す。963は壺の体部片である。削出突帯第Ⅱ種で、現存で沈線を4条施す。964は壺の頸部である。貼付突帯とヘラ描沈線文3条を施



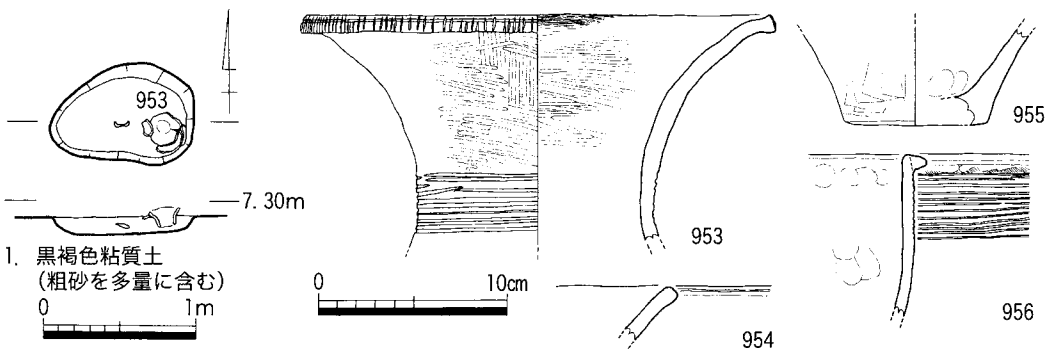
第256図 S K 1213平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



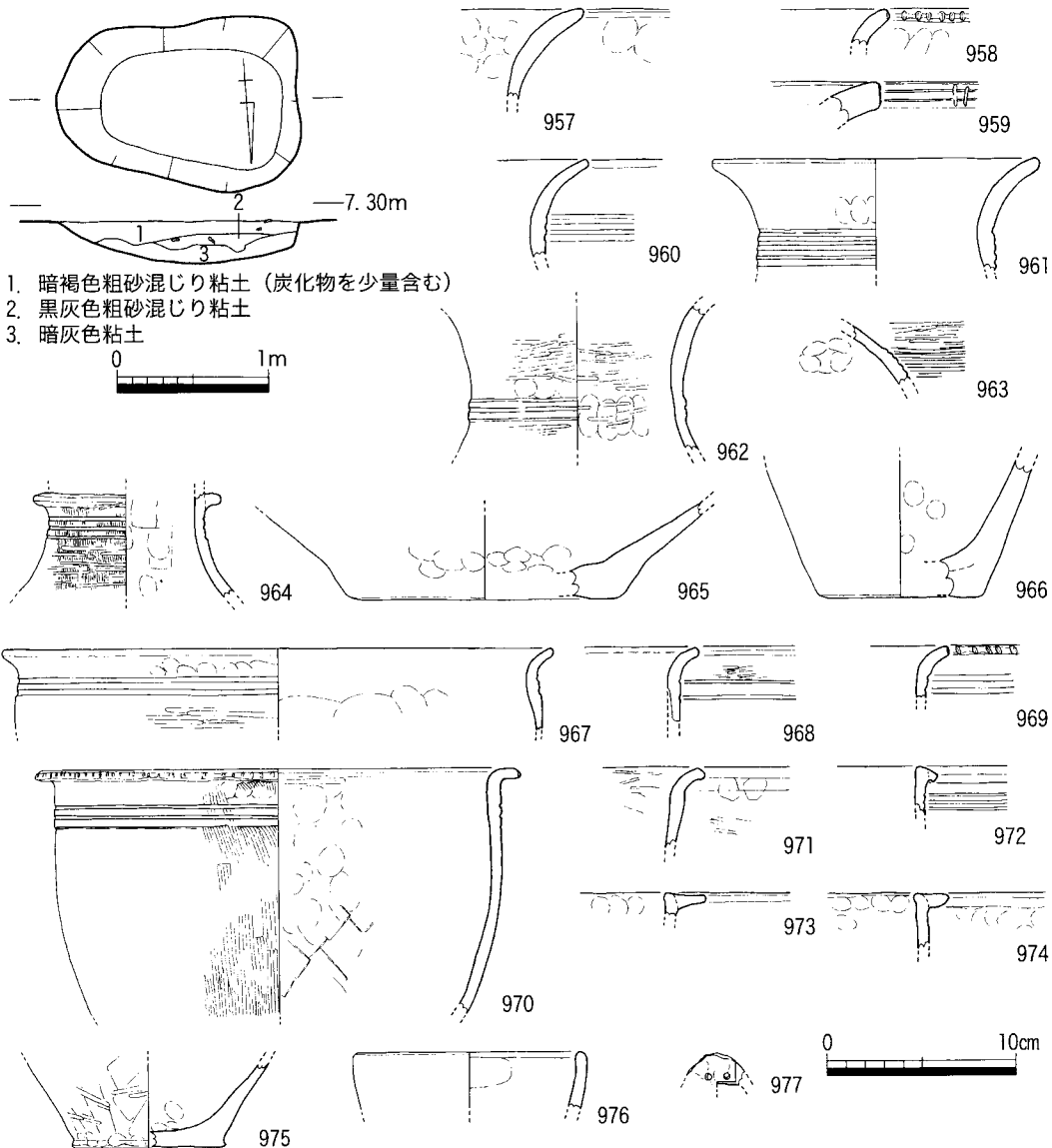
第257図 S K 1214平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第258図 S K 1215平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第259図 S K 1216平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第260図 S K 1217平・断面図（1/50），出土土器（1/4）

す。967～975は甕である。967～969・971の口縁部は如意状を呈する。970は折り曲げ口縁で、外面にはハケ目を施した後、ヘラ描沈線文を2条施し、その下にもヘラ描沈線文を施した後、ハケ目で下方に削り出し、段を形成する。968はヘラ描沈線文2条，969は2条以上施す。972・973は逆L字口縁で，972はヘラ描沈線文が現存で3条みられる。

S K 1218（第261図）

3区南西部，環濠内側に位置する土坑である。平面形は隅丸方形を呈し，長軸1.35m，

短軸0.85mを測る。土坑S K 1217同様、断面形は舟形を呈し、西部の壁の立ち上がりはほぼ垂直に近いが、東部の壁の立ち上がりは緩やかである。最深部で深さ0.25mを測る。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、壺・甕がみられる。978～982は壺である。979は頸部に削出突帯第I種を施す。983～985・987は甕である。983～985の口縁部は如意状を呈する。983・984は3条、985はヘラ描沈線文を現存で2条施す。987は逆L字口縁を呈する。

#### S K 1219 (第262図)

3区南西部、環濠内側に位置する土坑である。遺構西部には柱穴が重複する。土層堆積から、S K 1219が古いことが明確である。平面形はややいびつな長楕円形を呈し、長軸2.4m、短軸0.65～0.75m、深さ0.1～0.2mを測る。底面からは2個の小穴(0.3～0.4m、深さ0.5～1.0m)が検出されたが、S K 1219に伴うものかどうか不明である。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。

#### S K 1220 (第263図)

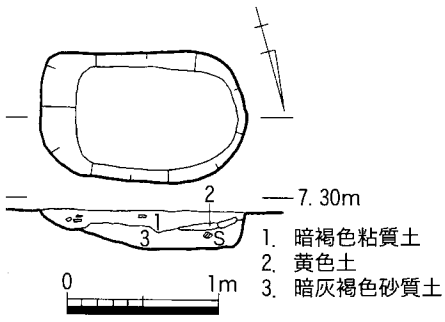
3区南西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はややいびつな卵形を呈し、長軸1.05m、短軸0.6mを測る。2段掘りになっており、中央部が窪む。最深部で0.25mを測る。北西部の底面からは小穴(径0.2m、深さ0.05m)が検出されたが、S K 1220に伴うものかどうか不明である。埋土上部からは少量の土器片が出土した。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。994は甕の口縁部で、如意状を呈する。ヘラ描沈線文を現存で2条施す。

#### S K 1221 (第264図)

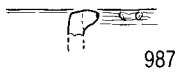
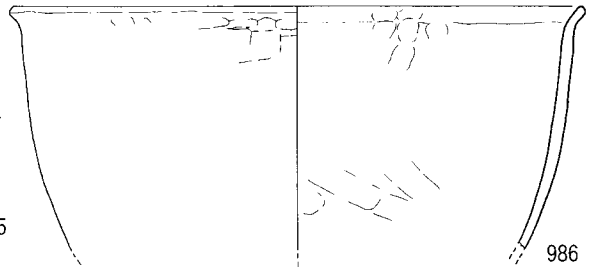
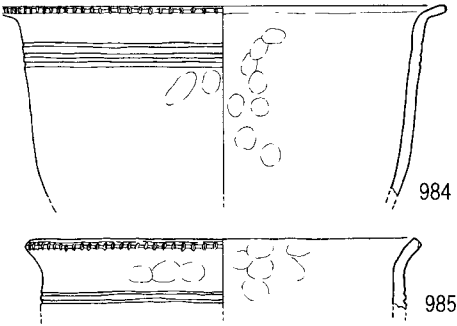
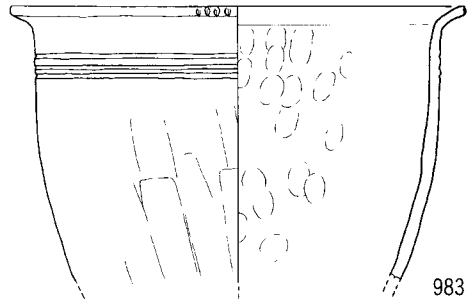
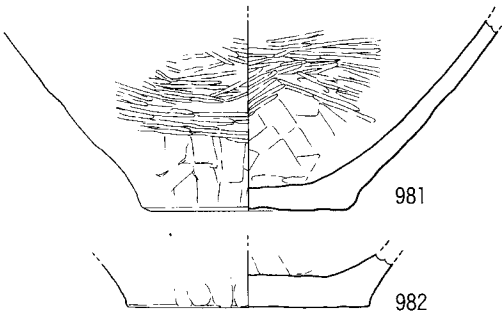
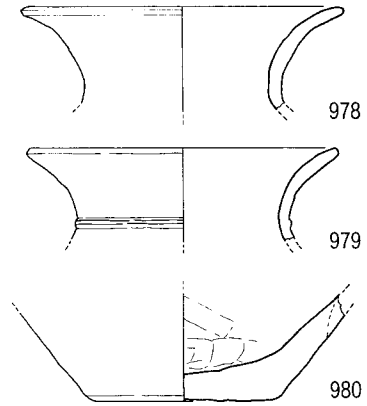
3区南西部、環濠内側に位置する土坑である。遺構内には柱穴が重複する。土層堆積から、S K 1221が先行することが明確である。平面形は長楕円形を呈し、長軸1.3m、短軸0.55m、深さ0.05mを測る。出土遺物は微量で、土器片がみられる。

#### S K 1222 (第265図)

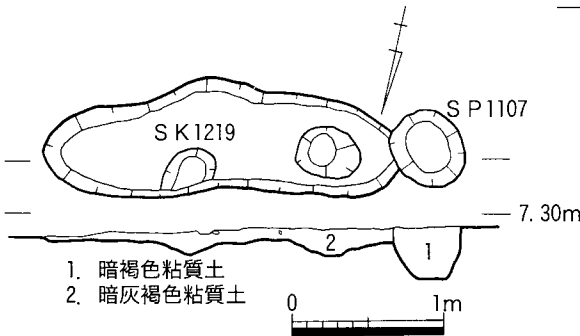
3区南部、環濠内側に位置する土坑である。北西部には溝S D 1048が重複し、一部が削平されている。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸1.15m、短軸1.0mを測る。断面形は箱形を呈し、床面はほぼ平坦で、深さ0.25mを測る。床面からは2個の小穴(径0.1～0.15m、深さ0.1m)が検出されたが、S K 1222に伴うものかどうか不明である。出土遺物は微量で、壺・甕、石錐が出土した。997～1001は壺である。997は体部片で、際取り沈線を施して、段を形成し、その下に横方向にヘラ描沈線文とヘラ描木葉文がみられる。木葉文は有軸で、軸の外側には弧線が1条ずつ施され、縦方向の区画線が2条みられる。998は頸部から体部片で、際取り沈線を施した後、段を形成する。999・1000は頸部から体部片で



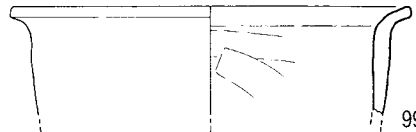
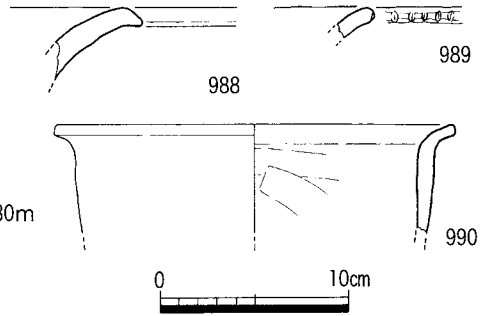
- 1. 暗褐色粘質土
- 2. 黄色土
- 3. 暗灰褐色砂質土



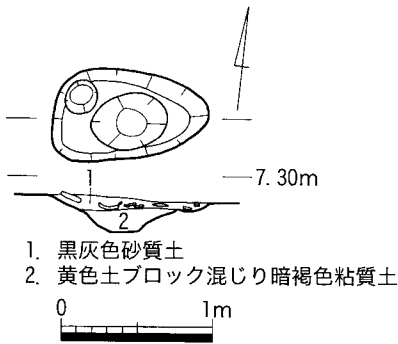
第261图 SK 1218平・断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)



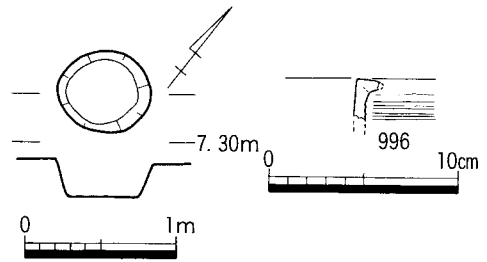
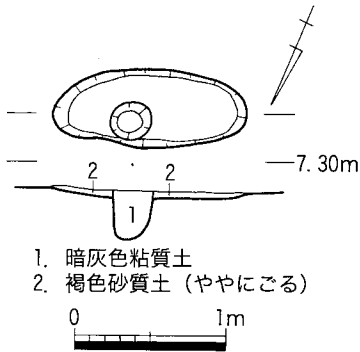
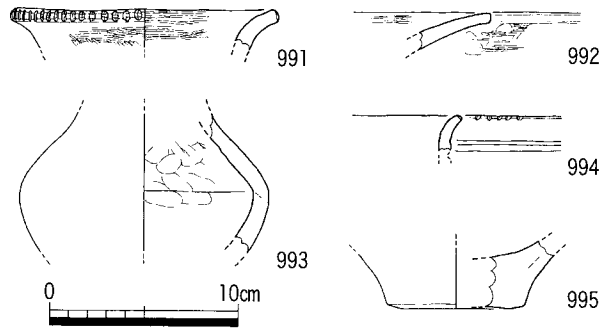
- 1. 暗褐色粘質土
- 2. 暗灰褐色粘質土



第262图 SK 1219平・断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)

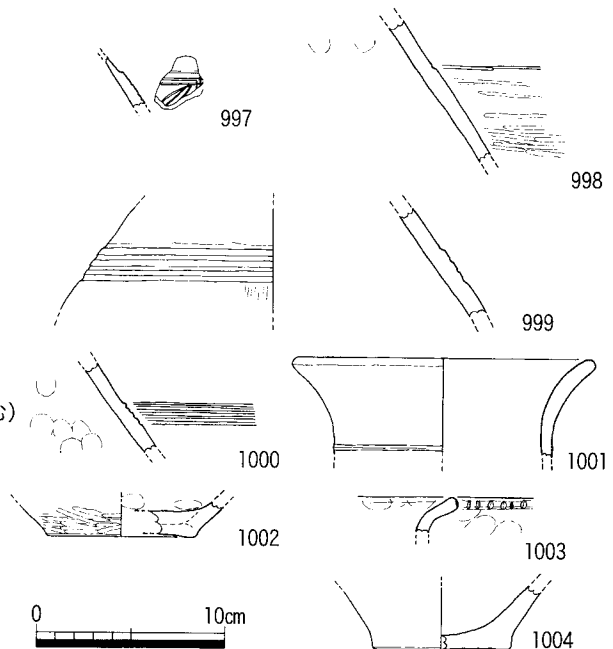
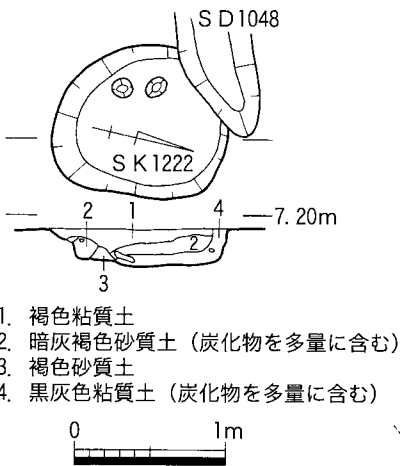


第263図 S K 1220平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第266図 S K 1223平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

第264図 S K 1221平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第265図 S K 1222平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

ある。いずれも削出突帯第Ⅱ種で、999は削出突帯間にヘラ描沈線文を2条、1000は4条施す。1001は頸部に貼付突帯を現存で1条施す。

S K 1223 (第266図)

3区南部、環濠内側に位置する。ここでは土坑として報告するが、柱穴の可能性も考えられる。平面形は円形を呈する。径0.55~0.6m、深さ0.2mを測る。出土遺物は微量で、甕の口縁部片(996)が出土した。996は逆L字口縁を呈し、ヘラ描沈線文が現存では3条施される。

S K 1224 (第267図)

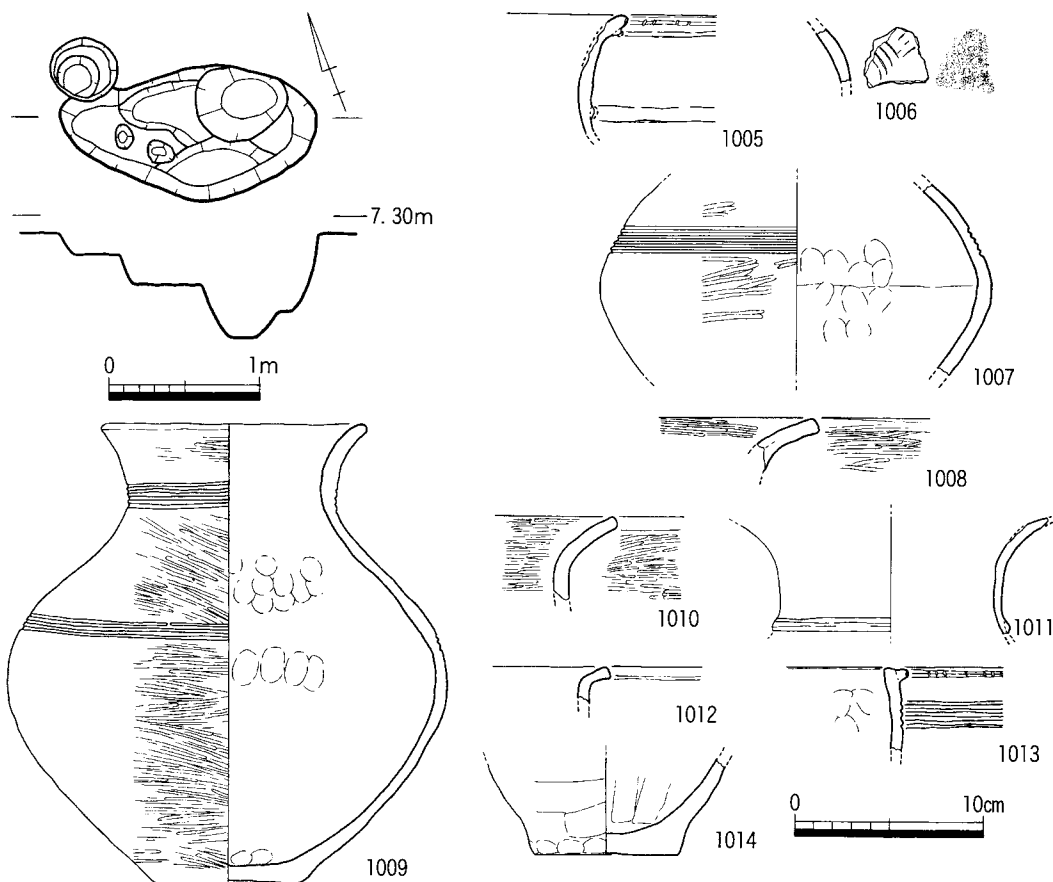
3区南部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はいびつな楕円形を呈する。長軸1.7m、短軸0.7m、最深部で深さ0.7mを測る。遺構内は小穴が重複しており、床面は凸凹である。S K 1224に伴うものではなく、数個の柱穴が重複している可能性が高く、S K 1224本来の形状は不明である。出土遺物は少量で、縄文土器深鉢・弥生土器壺・甕、石包丁が出土した。1005は縄文土器深鉢である。口縁部から少し下がった位置と頸部に突帯を貼り付け、口縁端部に刻目を施す。1006・1007は壺の体部片で、1006はヘラ描重弧文、1007はヘラ描沈線文を5条施す。1009は頸部に4条、体部上半に3条のヘラ描沈線文を施す。1011は壺の口頸部片で、摩滅が顕著である。頸部に突帯を現存1条施すが、貼付か削出かは不明である。1013は逆L字口縁の甕で、ヘラ描沈線文を4条施す。

S K 1225 (第268図)

3区南部、環濠内側に位置する土坑である。北部は溝S D 1049が重複し、一部が削平されている。平面形はややいびつな卵形を呈し、長軸1.8m、短軸1.0m、深さ0.05mを測る。出土遺物は微量で、土器片がみられる。

S K 1226 (第269図、図版19)

3区南部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸1.4m、短軸0.75mを測る。断面形は箱形を呈し、深さ0.2mを測る。底面西部からは小穴(径0.2m、深さ0.15m)が検出されたが、S K 1226に伴うものかどうかは不明である。埋土中位に土器片を多く包含する。出土遺物は少量で、壺・甕、石鋤、動物遺存体、種実がみられる。1015~1019は壺である。1015は頸部にヘラ描沈線文を5条施す。1017も頸部片である。段または削出突帯第Ⅱ種で、現存でヘラ描沈線文2条がみられる。1019も口頸部片で、頸部に貼付刻目突帯が現存で1条みられる。1021~1024は甕である。1021は如意状口縁を呈し、ヘラ描沈線文を1条施す。1022は口縁端部から少し下がった位置に貼付刻目突帯を施し、



第267図 SK 1224平・断面図（1/50），出土土器（1/4）

その下にヘラ描沈線文を5条施す。1023・1024も如意状を呈し、それぞれヘラ描沈線文を現存で3条施す。

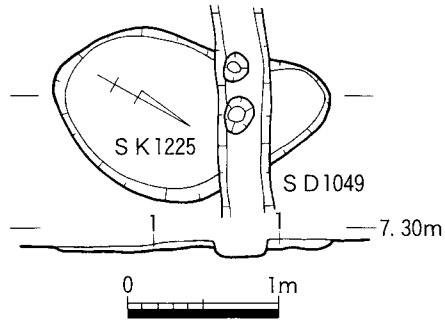
S K 1227（第270図）

3区南部，環濠内側に位置する。ここでは土坑として報告するが，柱穴の可能性も考えられる。平面形は円形を呈し，径0.5mを測る。底面からは小穴（径0.2m，深さ0.15m）が検出されたが，S K 1227に伴うものかどうか不明である。小穴を含めた最深部で深さ0.3mを測る。出土遺物は微量で，甕の底部片，石鍬がみられる。

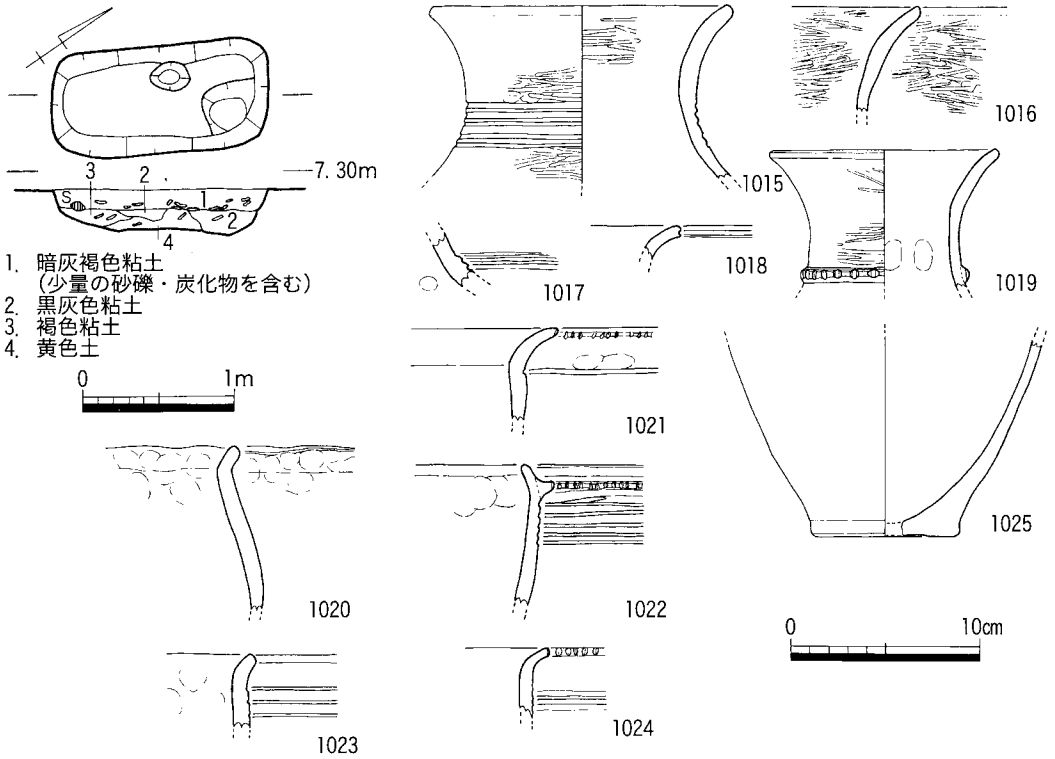
S K 1228（第271図）

3区中央部やや南寄り，環濠内側に位置する土坑である。北部は柱穴が重複し，一部が削平されている。平面形はややいびつな隅丸三角形を呈し，長軸1.3m，短軸1.15m，深さ0.1mを測る。底面からは小穴（径0.1m，深さ0.2m）が検出されたが，S K 1228に伴うも

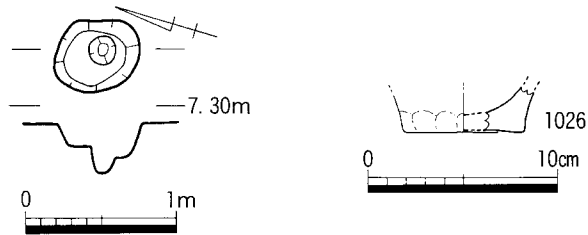




第268図 S K 1225平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第269図 S K 1226平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第270図 S K 1227平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

のかどうか不明である。出土遺物は少量で、壺・甕が出土した。1027は摩滅しているが、頸部に削出突帯または貼付突帯を施す。1030・1031は甕片で、いずれも如意状の口縁部を呈し、1031はヘラ描沈線文を3条施す。

S K 1229 (第272図)

3区中央部やや南寄り、環濠内側に位置する土坑である。遺構東部には溝S D 1049が重複し、一部が削平されている。平面形はややいびつな隅丸長方形を呈し、長軸2.6m、短軸1.3m、深さ0.15mを測る。遺構内には落ち込みや小穴(深さ0.1~0.2m)がみられるが、S K 1229に伴わない可能性が高く、S K 1229の本来の床面は平坦であったものと推定される。埋土中位からは土器片が少量出土した。出土遺物は少量で、壺・甕、不明片岩製品片がみられる。1034~1036は甕である。1034は折り曲げ口縁である。1036はヘラ描沈線文を3条施す。

S K 1230 (第273図)

3区中央部やや南寄り、環濠内側に位置する土坑である。北部には溝S D 1050が重複し、一部が削平されている。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸1.3m、短軸0.8m程度を測る。床面は平坦で、深さ0.15mを測る。出土遺物は微量で、土器片がみられる。

S K 1231 (第274図)

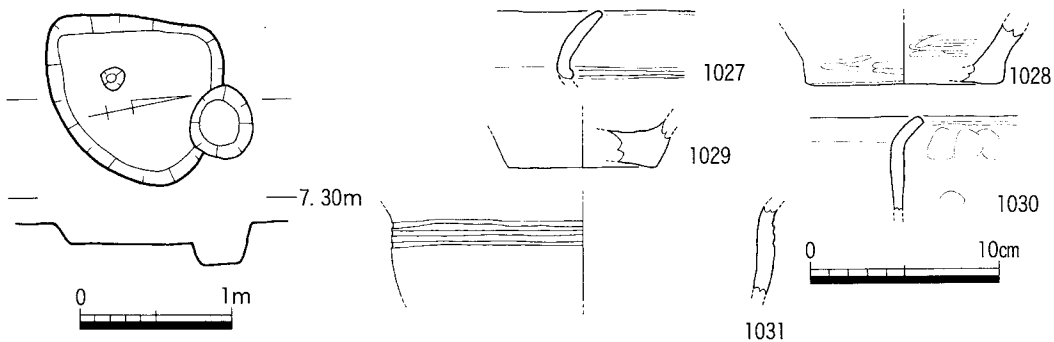
3区ほぼ中央部、環濠内側に位置する土坑である。北部には溝S D 1050が重複し、一部が削平されている。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸は現存で0.8m、短軸は0.7m、深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で、壺・蓋または甕の底部片がみられる。

S K 1232 (第275図, 図版19)

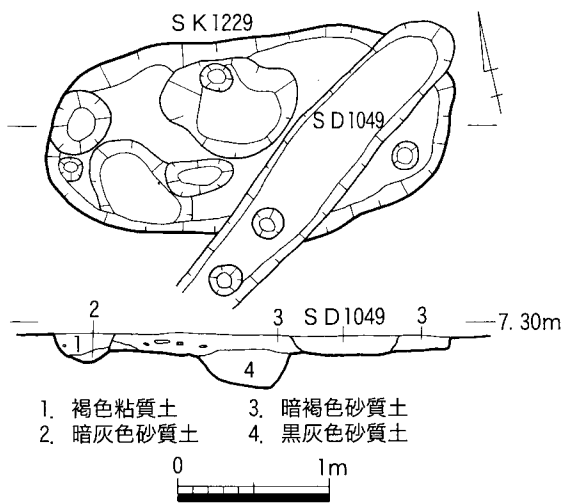
3区ほぼ中央部、環濠内側に位置する土坑である。南部に長さ0.65m、深さ0.1mの浅い張り出しをもつが、北部は一段深くなっている。北部の窪みの平面形はややいびつな隅丸長方形で、長軸1.3m、短軸0.9m、深さ0.4mを測る。断面形は舟形で、北東側の壁の立ち上がりは緩やかである。出土遺物は少量で、壺・甕・鉢・蓋がみられる。1039~1042は壺である。1039は体部片で、ヘラ描沈線文4条施す。1041は壺の口縁部で、内面に2条の細い沈線が巡る。貼付突帯が剥離した痕跡と考えられる。1042は壺の体部片で、刺突文とヘラ描木葉文を施す。1043は甕で、口縁部は如意状を呈し、ヘラ描沈線文を2条施す。

S K 1233 (第276図)

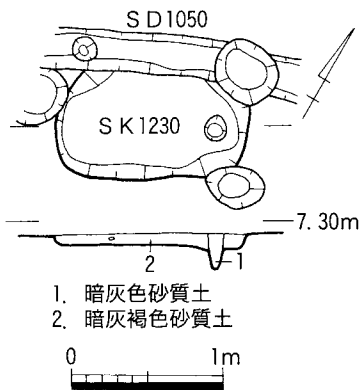
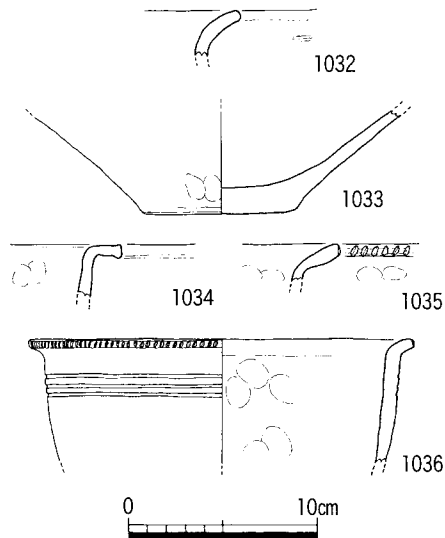
3区ほぼ中央部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈する。西部に柱穴が重複し、一部が削平されている。長軸0.8m、短軸0.65mを測る。断面形はボウル状を



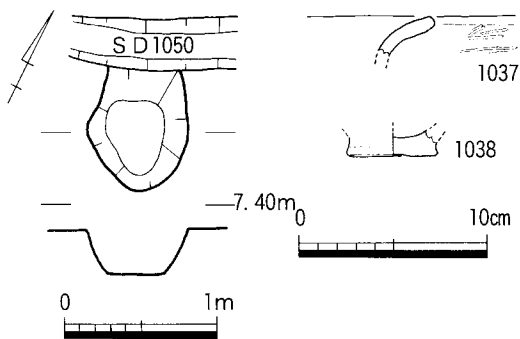
第271图 SK1228平·断面图(1/50), 出土土器(1/4)



第272图 SK1229平·断面图(1/50), 出土土器(1/4)



第273图 SK1230平·断面图(1/50), 出土土器(1/4)



第274图 SK1231平·断面图(1/50), 出土土器(1/4)

呈し、深さ0.35mを測る。出土遺物は少量で、甕の口縁部片がみられる。1049は逆L字口縁を呈し、ヘラ描沈線文を4条施す。

S K 1234 (第277図)

3区ほぼ中央部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はハート形を呈する。長軸0.95m、短軸0.6mを測る。内部に小穴(径0.15~0.35m、深さ0.2~0.25m)が検出されたが、S K 1234に伴うものかどうか不明である。柱穴を除く深さは0.15mを測る。出土遺物は微量で、壺の底部片が出土した。

S K 1235 (第278図)

3区ほぼ中央部、環濠内側に位置する土坑である。東部と西部には柱穴が重複し、一部が削平されている。平面形は楕円形を呈し、長軸1.5m、短軸0.9m、深さ0.2mを測ると推定される。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。1051は壺の口縁部片で、頸部にヘラ描沈線文を現存で4条施す。1052は甕で、ヘラ描沈線文を4条施す。

S K 1236 (第279図、図版19)

3区ほぼ中央部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は瓢箪形を呈し、長軸1.1m、短軸0.6m、深さ0.15mを測る。埋土上部から土器片が出土した。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。1054は壺の頸部片である。貼付突帯は現存で2条巡る。1055・1056は甕で、逆L字口縁を呈する。1056はヘラ描沈線文を5条施す。

S K 1237 (第280図)

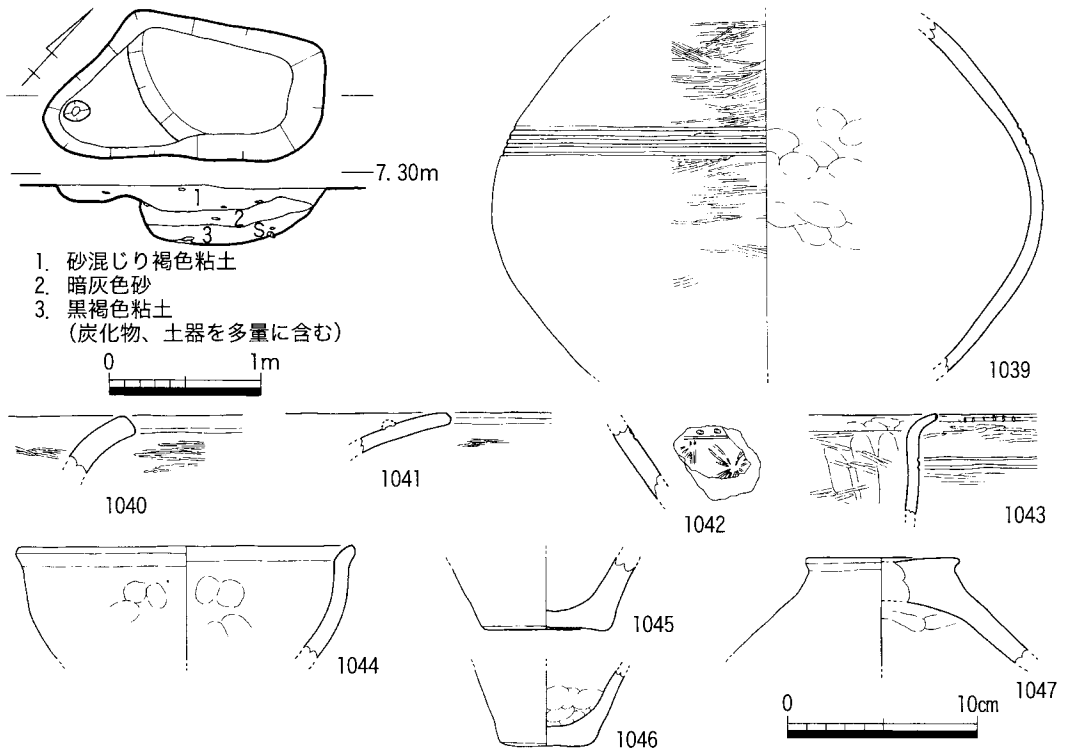
3区ほぼ中央部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸1.0m、短軸0.5mを測る。北部は一段低くなるが、柱穴が重複すると考えられる。最深部で深さ0.25mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。1059は壺の体部片で、ヘラ描沈線文を現存で4条施す。1060は甕で、ヘラ描沈線文を4条施す。

S K 1238 (第281図)

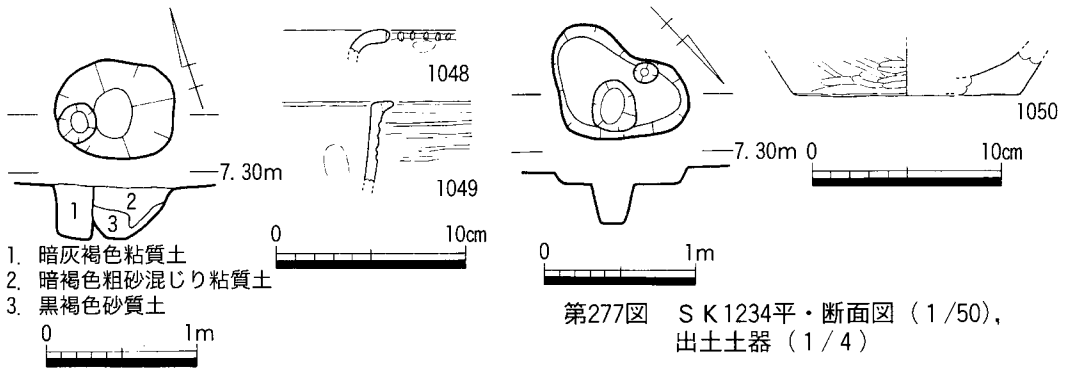
3区中央部やや南寄り、環濠内側に位置する土坑である。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸0.8m、短軸0.6mを測る。南部が一段低くなっており、深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で、底部片が出土した。

S K 1239 (第282図、図版20)

3区中央部やや西寄り、環濠内側に位置する土坑である。平面形はいびつな隅丸方形を呈し、1辺1.7m前後を測る。底面は凸凹が顕著で、最深部で深さ0.4mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕・鉢・ミニチュア土器壺、非サヌカイト製品等が出土した。1063~1065・

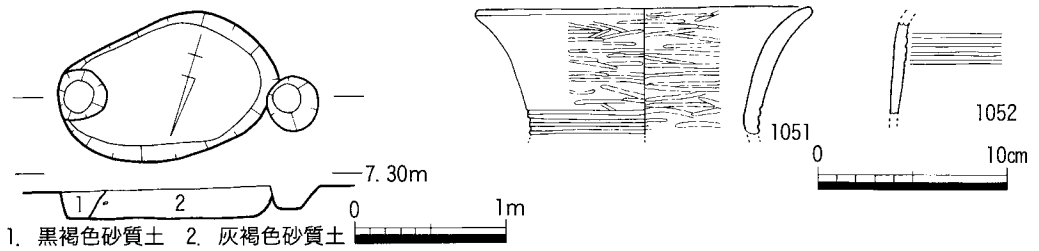


第275図 S K 1232平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

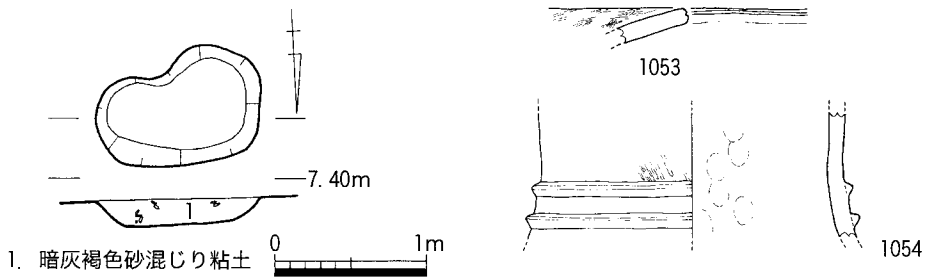


第277図 S K 1234平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

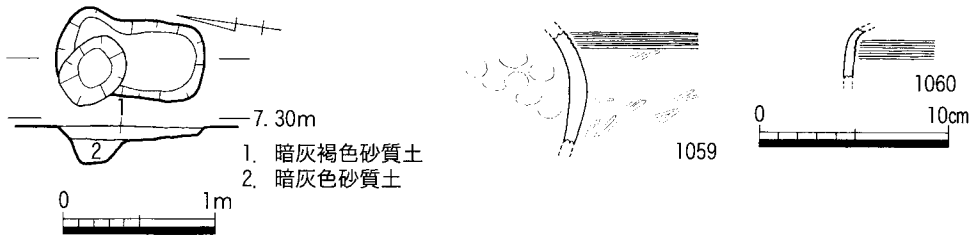
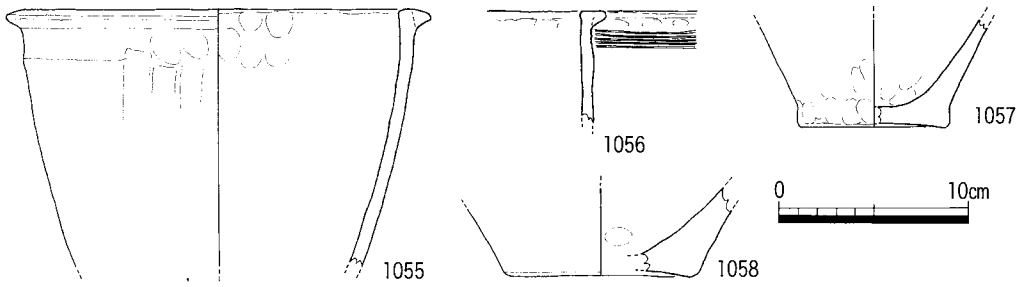
第276図 S K 1233平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



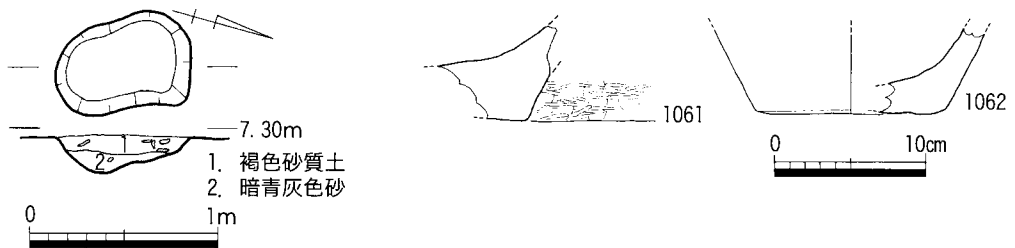
第278図 S K 1235平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第279図 S K 1236平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第280図 S K 1237平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第281図 S K 1238平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

1067は壺の口頸部で、1065は頸部にヘラ描沈線文を4条施す。1066は口縁部外面に円孔が2個みられる。1067は頸部にヘラ描沈線文を3条施す。1070～1073は甕である。1068・1069はいずれもヘラ描沈線文を現存で1条施す。1070は逆L字口縁で、ヘラ描沈線文を4条施す。1071・1072は4条のヘラ描沈線文を施す。1076はミニチュア土器壺である。体部に貼付突帯を1条施す。

#### S K 1240 (第283図)

3区中央部やや西寄り、環濠内側に位置する土坑である。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸1.15m、短軸0.9mを測る。断面形は箱形を呈し、南壁の立ち上がりは北壁に比べてやや緩やかである。深さ0.2mを測る。出土遺物は少量で、壺の口頸部が出土した。

#### S K 1241 (第284図)

3区中央部やや西寄り、環濠内側に位置する土坑である。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸1.3m、短軸1.1m、深さ0.2mを呈する。出土遺物は少量で、壺・甕が出土した。1080は壺の体部片で、ヘラ描沈線文とヘラ描逆重弧文を施す。1082は壺の頸部片で、ヘラ描沈線文間に竹管文を施す。1086は甕で、如意状の口縁部を呈し、ヘラ描沈線文を現存で2条施す。

#### S K 1242 (第285図)

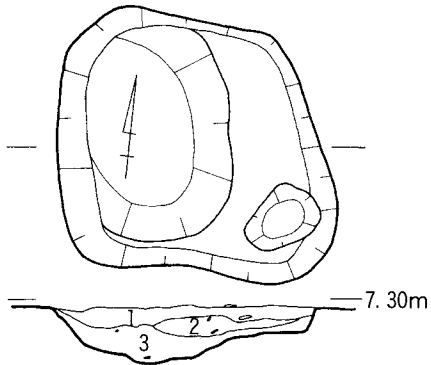
3区中央部やや西寄り、環濠内側に位置する土坑である。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸0.7m、短軸0.45mを測る。断面形はボウル状を呈し、中央部に窪みがみられる。最深部で深さ0.35mを測る。出土遺物は少量で、甕・蓋がみられる。1089は外面が摩滅しているが、ヘラ描沈線文6条がみられる。

#### S K 1243 (第286図)

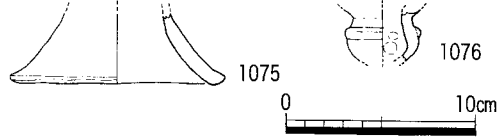
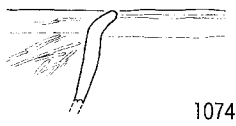
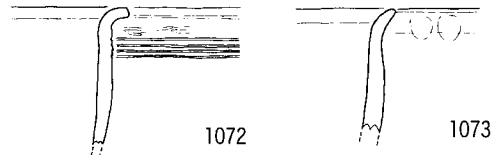
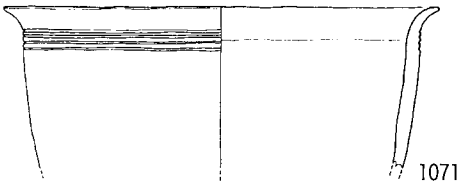
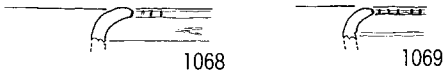
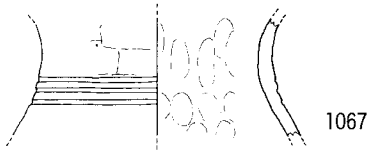
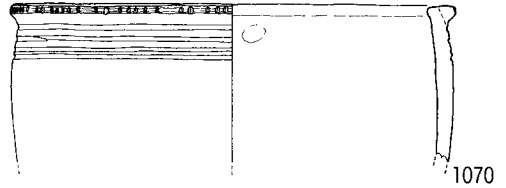
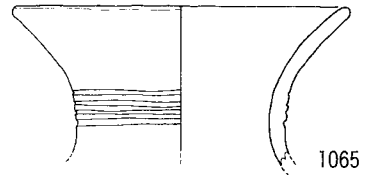
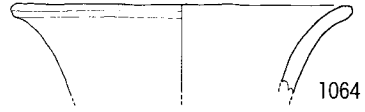
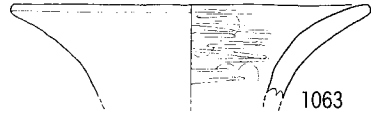
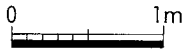
3区中央部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸0.8m、短軸0.55mを測る。北東部が一段低くなっており、最深部で深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。1096は甕で、如意状の口縁部を呈し、ヘラ描沈線文を5条施す。

#### S K 1244 (第287図)

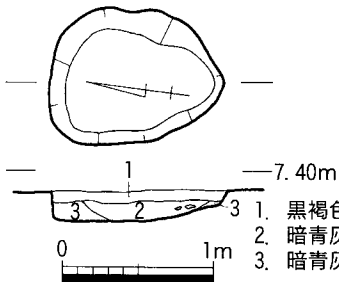
3区中央部やや南寄り、環濠内側に位置する土坑である。東部は環濠S D01と重複し、西部は柱穴と重複する。東西端が削平されているため、平面形は不明である。現存長軸0.65m、短軸0.5m、深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で、甕がみられる。1097は甕で、逆L字口縁を呈し、外面に単なる工具痕またはヘラ状工具による線刻がみられる。



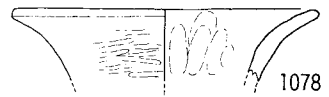
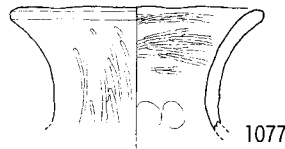
1. 暗褐色砂混じり粘土
2. 灰色砂
3. 黒灰色砂（炭化物・土器片を少量含む）



第282図 S K 1239平・断面図（1/50），出土土器（1/4）

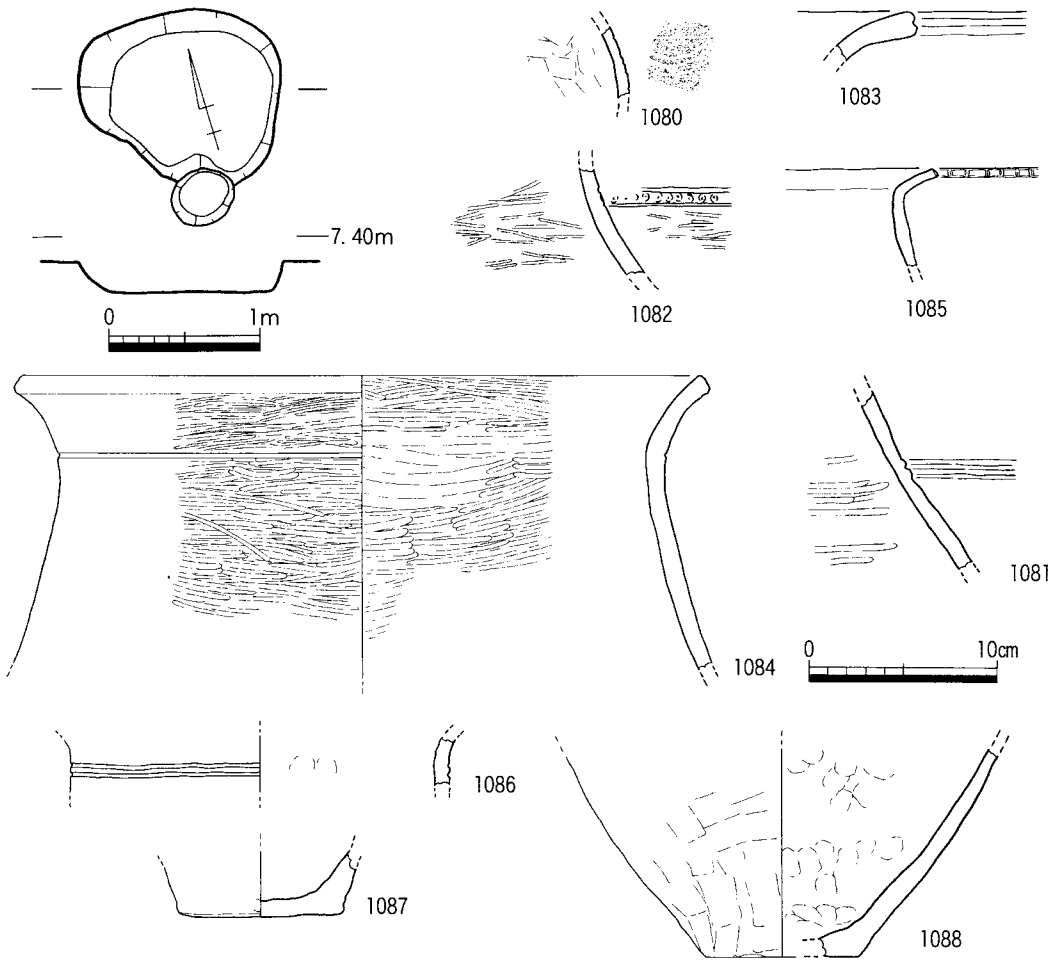


1. 黒褐色砂質土
2. 暗青灰色質土（やや褐色粒あり）
3. 暗青灰色砂

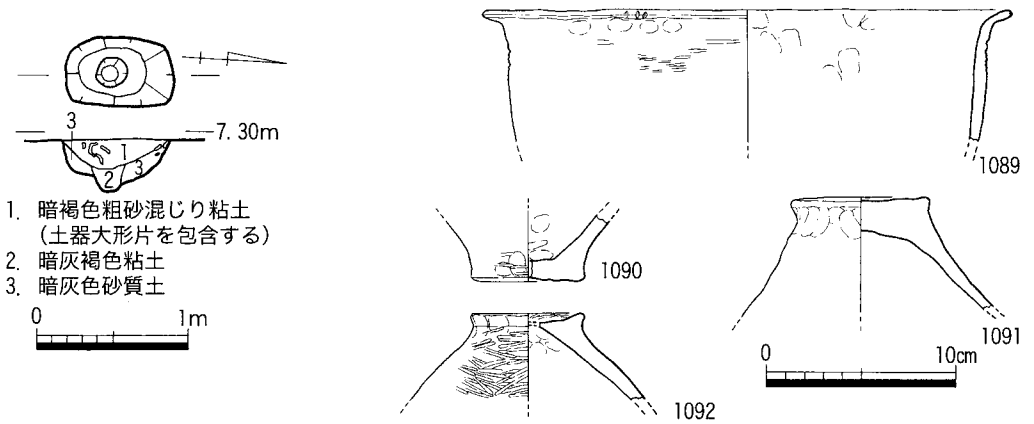


第283図 S K 1240平・断面図（1/50），出土土器（1/4）



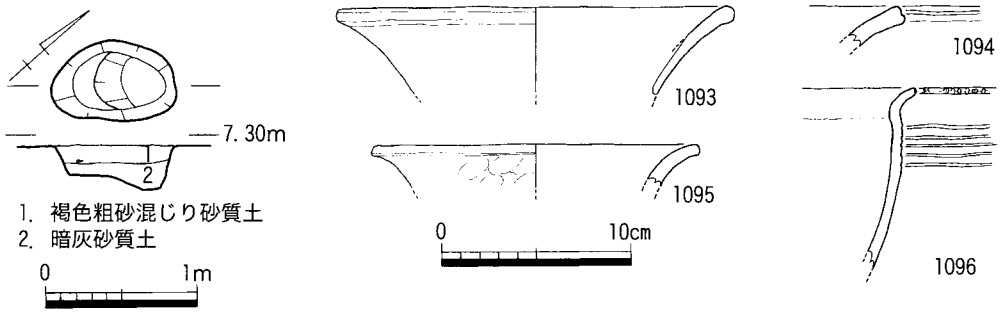


第284図 S K 1241平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

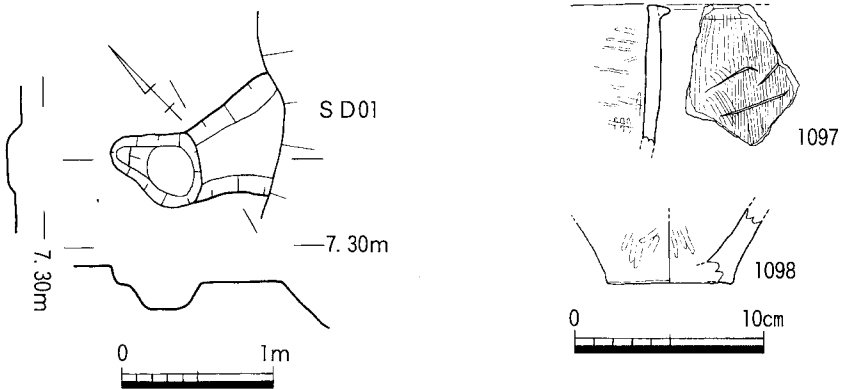


1. 暗褐色粗砂混じり粘土  
(土器大形片を包含する)
2. 暗灰褐色粘土
3. 暗灰色砂質土

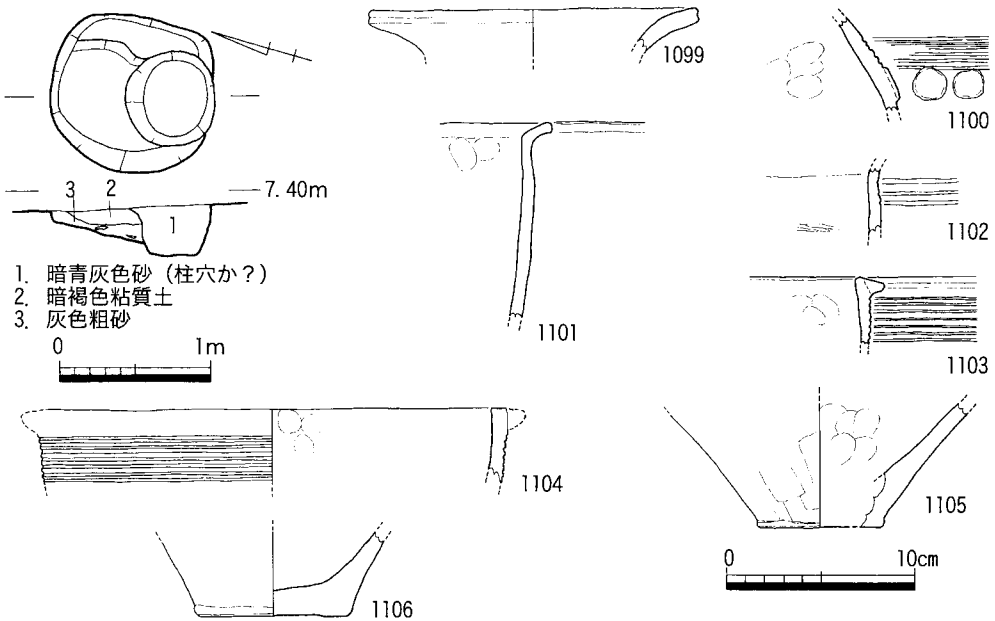
第285図 S K 1242平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第286図 S K 1243平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第287図 S K 1244平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第288図 S K 1245平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

S K 1245 (第288図)

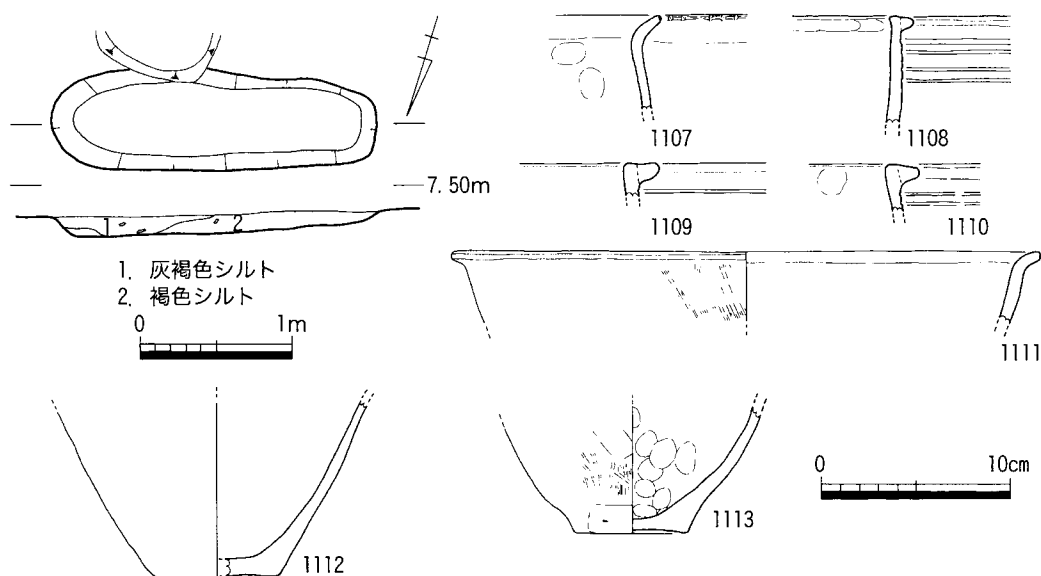
3区中央部西寄り、環濠内側に位置する土坑である。内部に柱穴が重複し、一部が削平されている。平面形は隅丸方形を呈し、長軸1.1m、短軸1.0m、深さ0.25mを測る。埋土下部から土器片が出土した。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。1100は壺の体部片で、ヘラ描沈線文6条と円形浮文を施す。1102は口縁端部を欠損するが、如意状口縁を呈すると思われる。外面にはヘラ描沈線文3条を呈する。1104は口縁部が剥離しているが、1103と同様逆L字口縁を呈すると思われる。1103・1104はヘラ描沈線文を現存で7条施す。

S K 1246 (第289図)

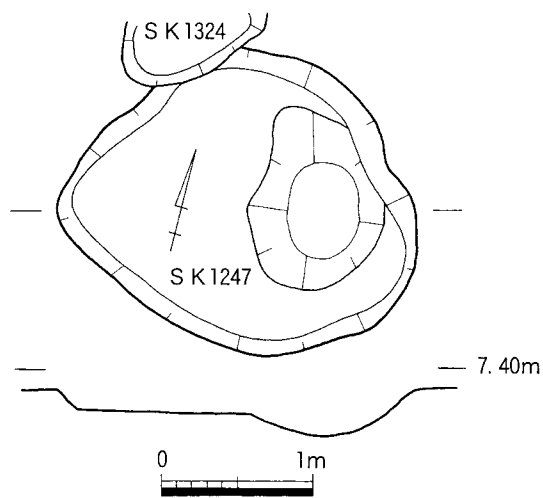
3区中央部西寄り、環濠内側に位置する土坑である。南部は攪乱坑と重複し、一部が削平されている。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸2.1m、短軸0.65m、深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で、甕・鉢、石鍬がみられる。1107~1110は甕で、1108~1110は逆L字口縁を呈する。1108は4条、1109は現存で1条、1110は現存で2条のヘラ描沈線文を施す。

S K 1247 (第290図)

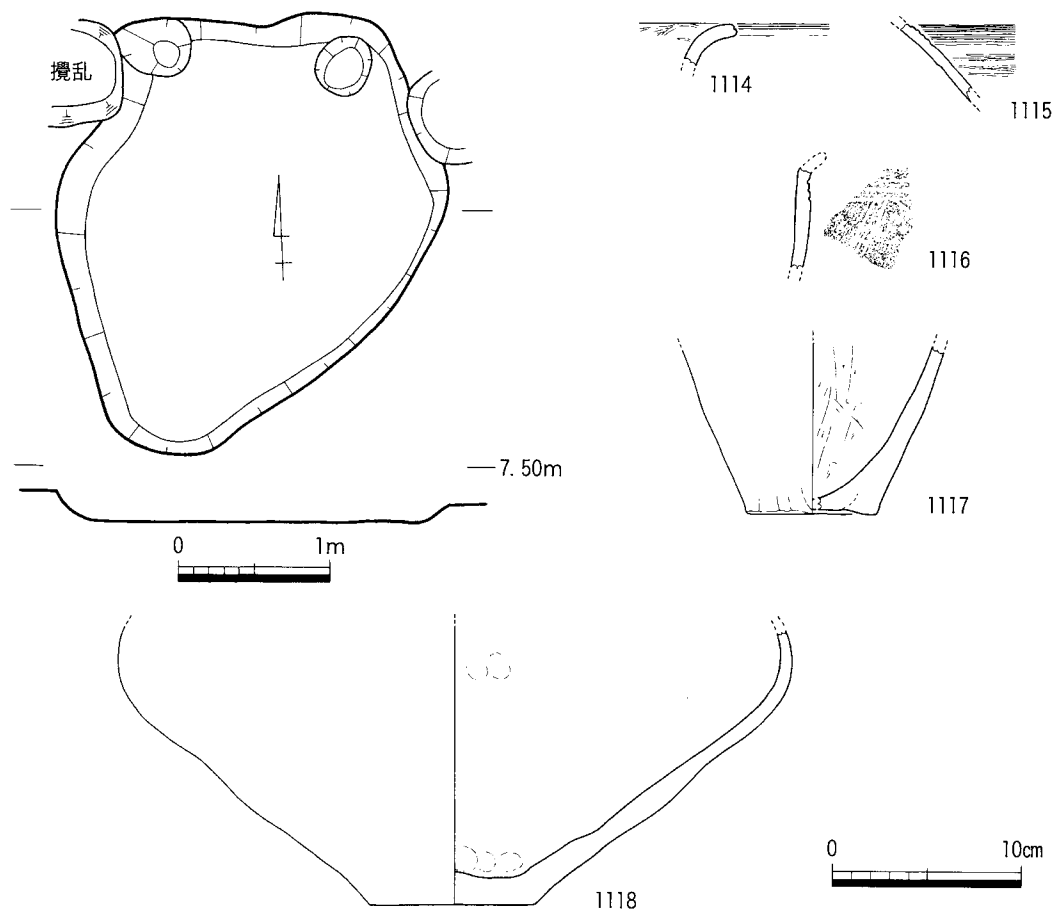
3区中央部西寄り、環濠内側に位置する土坑である。北西部に土坑が重複し、一部が削平されている。平面形はいびつな楕円形で、長軸2.4m、短軸1.9mを測る。東部が一段低くなっており、最深部で深さ0.3mを測る。遺物は石包丁が出土しただけである。



第289図 S K 1246平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第290图 S K 1247平·断面图 (1/50)



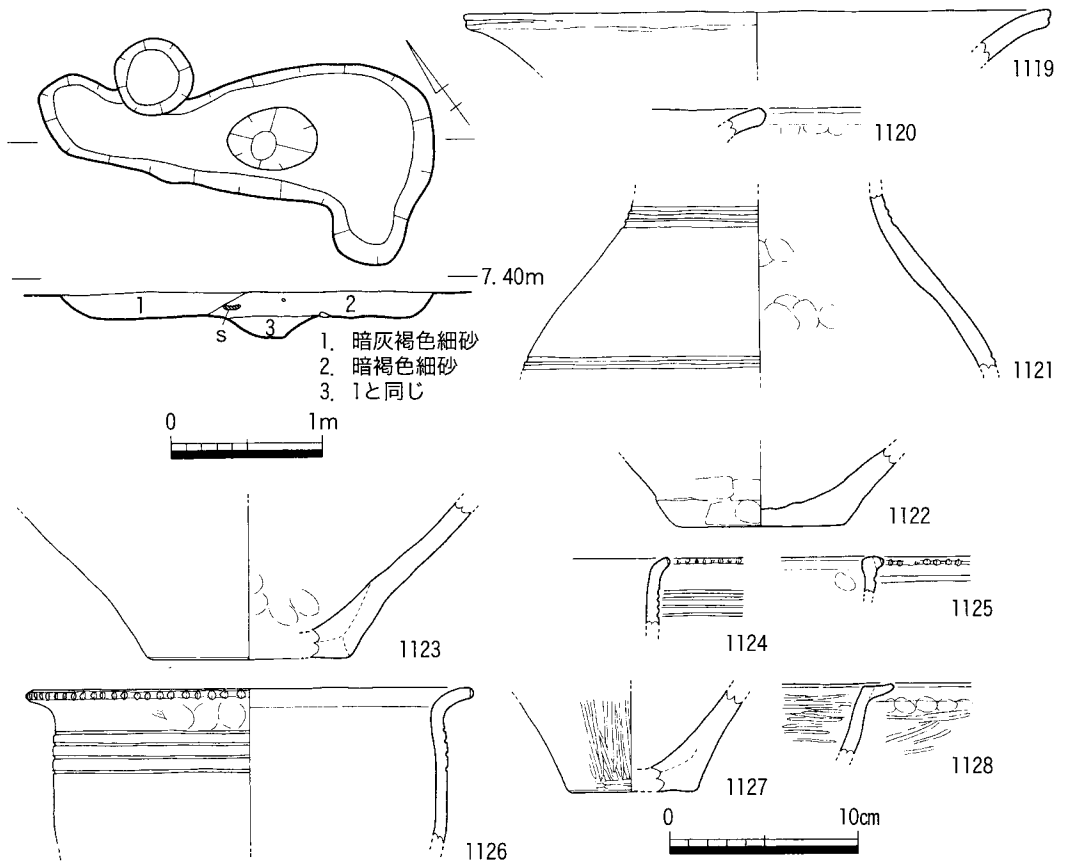
第291图 S K 1248平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)

S K 1248 (第291図)

3区中央部やや西寄り，環濠内側に位置する土坑である。北部に柱穴が重複し，一部が削平されている。平面形はいびつな楕円形で，長軸3.2m，短軸2.3m，深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で，甕・壺，刃器がみられる。1115は壺の体部片である。削出突帯第Ⅱ種で，突帯間に沈線3条を施す。1116は甕の体部片である。ヘラ描沈線文3条と複線山形文を施す。

S K 1249 (第292図)

3区中央部，環濠内側に位置する土坑である。北部には柱穴が重複し，一部が削平されている。平面形はいびつな長楕円形で，南部に張り出しをもつ。長軸2.6m，短軸0.6mを測る。中央部が一段低くなっており，最深部で深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で，壺・甕・鉢，石鋏がみられる。1121は壺で，頸部に3条，体部に現存で2条のヘラ描沈線文を施す。1124～1127は甕で，1124は現存で4条，1126は4条のヘラ描沈線文を施す。1125は

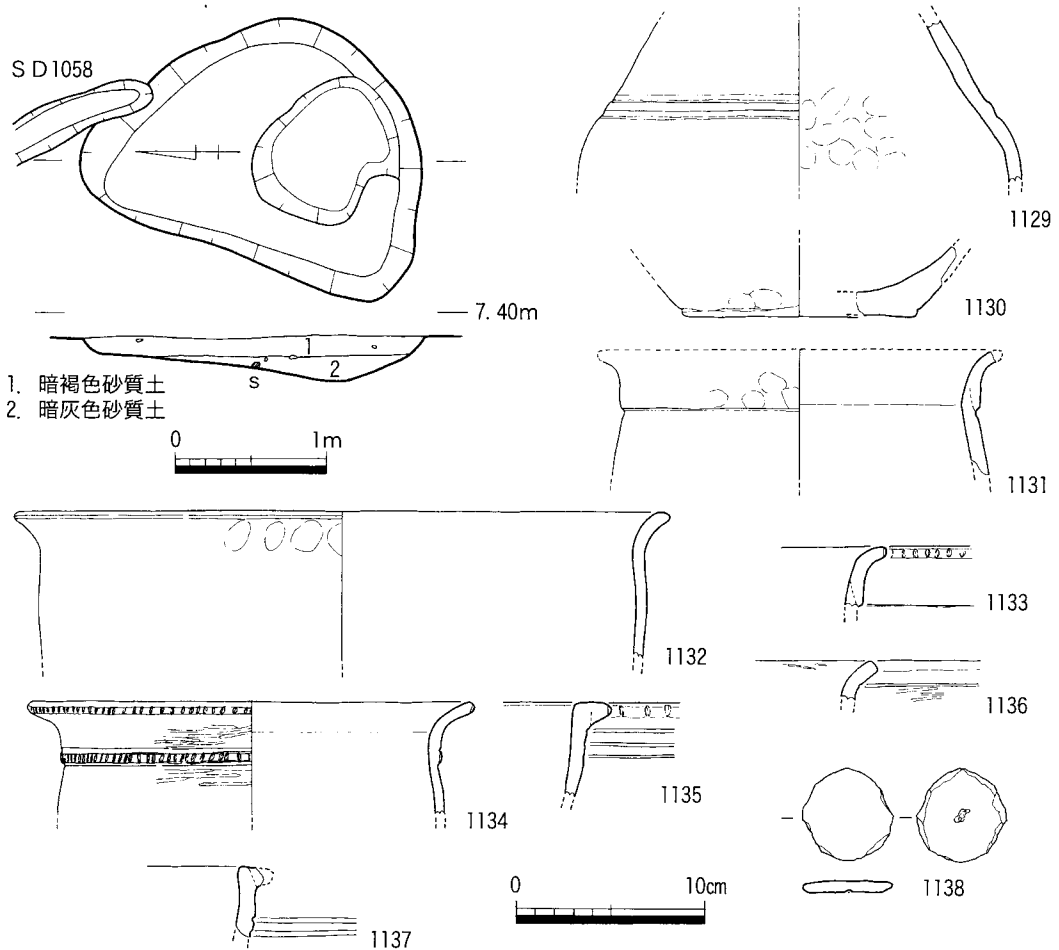


第292図 S K 1249平・断面図 (1/50)，出土土器 (1/4)

逆L字口縁を呈し、現存で1条のヘラ描沈線文を施す。

S K 1250 (第293図)

3区中央部、環濠内側に位置する土坑である。北部には溝が重複し、一部が削平されている。平面形はいびつな隅丸三角形を呈し、長軸2.3m、短軸2.0mを測る。南部が一段低くなっており、最深部で深さ0.35mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕・円盤状土製品がみられる。1129は壺の頸部から体部片である。外面は摩滅しているが、頸部と体部の境に削出突帯第I種がみられる。1131~1135・1137は甕である。1131・1133は口縁部下に接合段をもつ。1134はヘラミガキによって段を形成し、段の上部にヘラ描沈線文1条施し、その間に刻目を施す。1135・1137は逆L字口縁を呈し、1135は3条、1137は現存で2条のヘラ描沈線文を施す。1136は鉢である。内外面にヘラミガキを施す。1138は土器片を再利用



第293図 S K 1250平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

した円盤状土製品である。中央には未貫通の窪みがみられる。焼成前に突孔されたものか焼成後か不明である。

#### S K 1251 (第294図)

3区中央部、環濠内側に位置する土坑である。北部には溝S D 1065が重複し、一部が削平されているが、平面形は隅丸長方形を呈し、長軸2.3m前後、短軸0.9mを測ると推定される。断面形は箱形を呈し、深さ0.5mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕・鉢、石鍬がみられる。1142は大型の鉢で、ヘラ描沈線文を3条施す。

#### S K 1252 (第295図)

3区中央部、環濠内側に位置する土坑である。北部には溝S D 1055が重複し、一部が削平されている。平面形はいびつな三角形を呈し、長軸2.9m、短軸1.6m、深さ0.15mを測る。底面には数個の小穴(径0.2~0.4m、深さ0.1~0.5m)が検出されたが、いずれもS K 1252に伴うものではなく、柱穴が重複した可能性が高い。出土遺物は少量で、甕がみられる。1143・1144は甕の口縁部で、如意状を呈する。

#### S K 1253 (第296図)

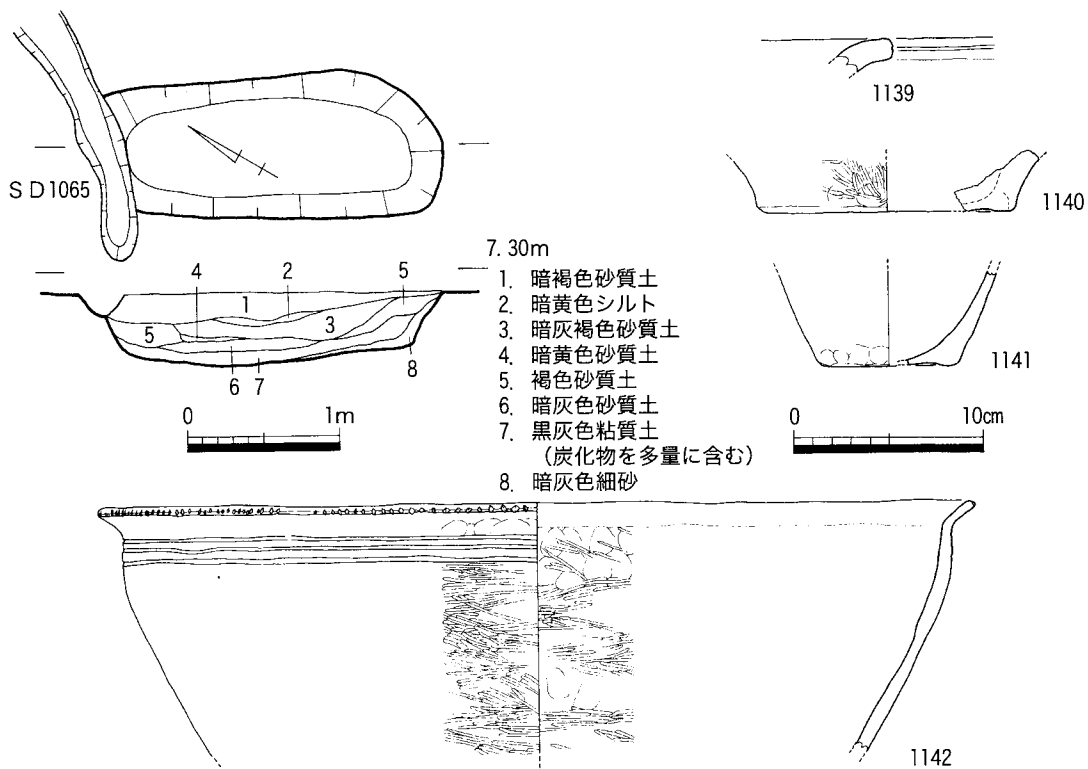
3区中央部、環濠内側に位置する土坑である。南部には溝S D 1055が重複し、一部が削平されている。平面形は楕円形を呈し、長軸1.1m前後、短軸0.6mを測るものと推定される。南東部は一段低くなっており、最深部で深さ0.4mを測る。出土遺物は微量で、土器片がみられる。

#### S K 1254 (第297図)

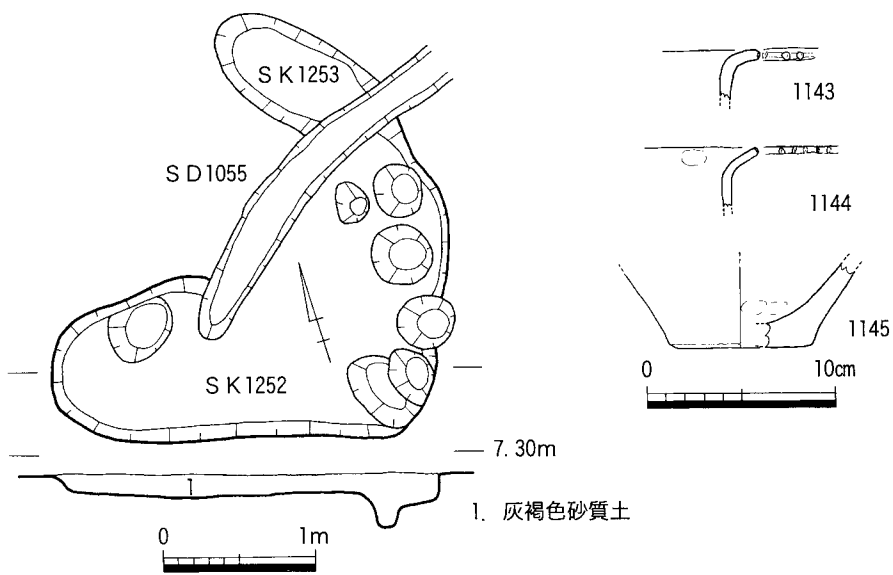
3区中央部、環濠内側に位置する。北部には柱穴が重複し、一部が削平されている。長軸2.5m、短軸1.5mを測る。東部は一段低くなっており、土層の堆積からも本来は東西に2基の土坑が重複したものと考えられる。おそらく東部は東西に長軸をもつ土坑で、東西の断面形は舟形を呈し、最深部で深さ0.45mを測る。西部は形状の復元は困難であるが、深さ0.35mを測る。西部の底面からは数個の小穴(径0.2~0.3m、深さ0.1~0.3m)が検出されたが、S K 1254に伴うものではなく、先行する柱穴の可能性が高い。出土遺物は少量で、壺・甕・蓋・円盤状土製品、扁平片刃石斧・石包丁がみられる。1149は甕の口縁部で、ヘラ描沈線文を現存で3条施す。1155は円盤状土製品で、土器片を再利用したものである。

#### S K 1255 (第298図)

3区中央部、環濠内側に位置する土坑である。北部、東部には柱穴が重複し、一部が削

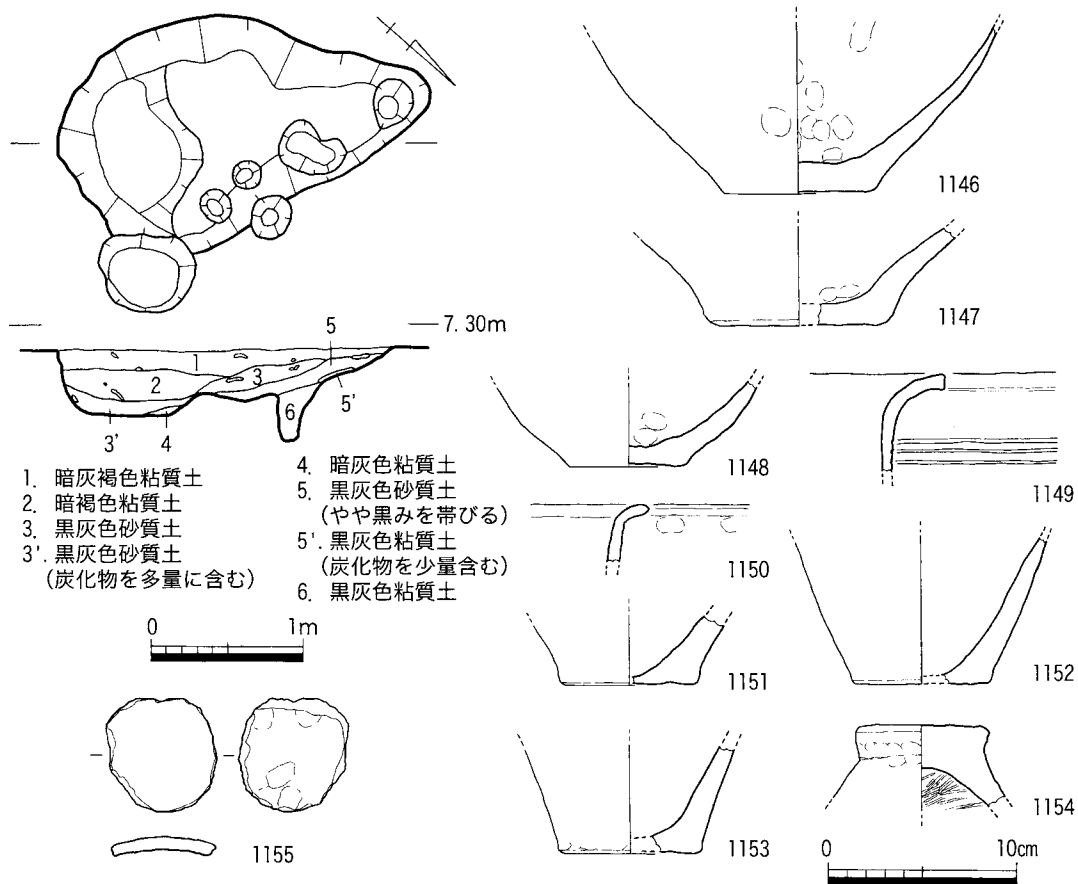


第294図 S K 1251平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

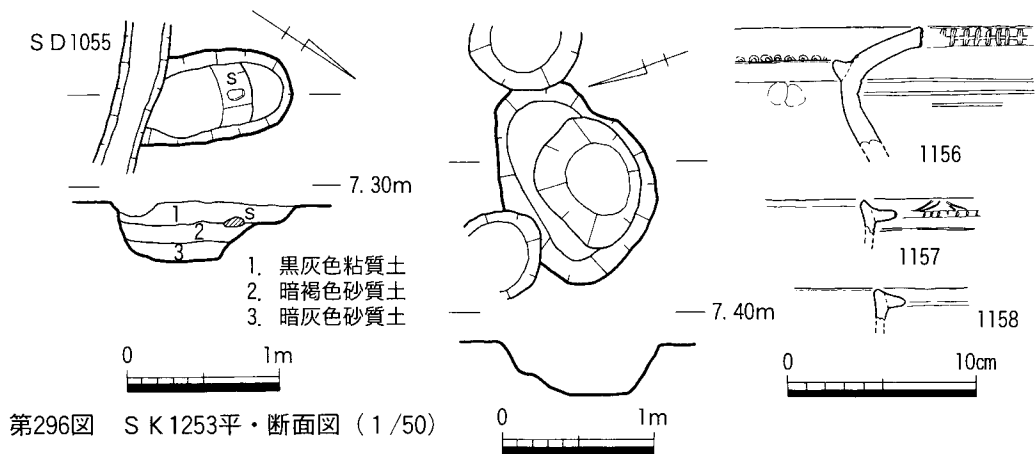


第295図 S K 1252平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)





第297図 S K 1254平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第296図 S K 1253平・断面図 (1/50)

第298図 S K 1255平・断面図 (1/50),  
 出土土器 (1/4)

平されている。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸1.3m、短軸1.0mを測る。南は一段低くなっており、深さ0.35mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。1156は壺の口頸部片で、内面には貼付突帯を巡らし、その上部に竹管文を施す。外面は摩滅しているが、ヘラ描沈線文3条が残る。1157・1158は甕である。1157は口縁端部より少し下がった位置に突帯を貼り付ける。その上部には半截竹管山形文を施す。突帯の下にはヘラ描沈線文を現存で1条施す。1158は逆L字口縁の甕である。

#### S K 1256 (第299図)

3区中央部やや北寄り、環濠内側に位置する土坑である。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸1.1m、短軸0.7mを測る。南東部は一段低くなっており、深さ0.2mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕、盤状剥片の分割材及び石核等がみられる。1159は壺の体部片で、削出突帯第Ⅱ種、突帯間に沈線を3条施す。1160・1161は甕である。いずれもヘラ描沈線文3条を施す。

#### S K 1257 (第300図)

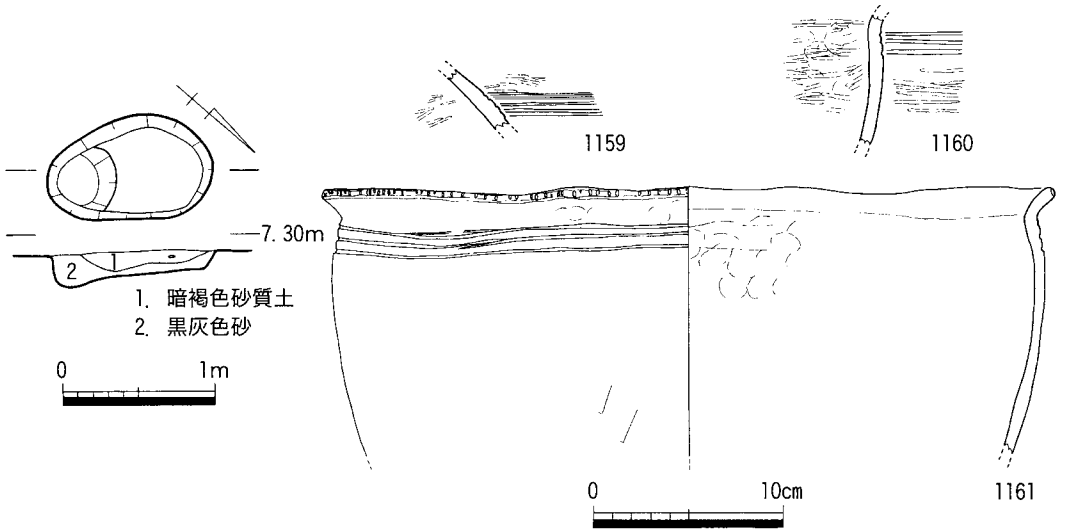
3区中央部やや北寄り、環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し、長軸1.35m、短軸0.65m、深さ0.1mを測る。底面中央からは径0.3m、深さ0.1mの小穴が検出されたが、S K 1257に伴うものかどうか不明である。出土遺物は少量で、壺がみられる。1162は頸部にヘラ描沈線文が現存で2条みられる。

#### S K 1258 (第302図)

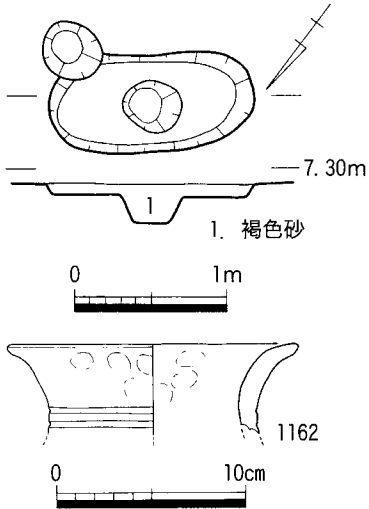
3区中央部やや北寄り、環濠内側に位置する土坑である。平面形は瓢箪形に近い形状を呈し、長軸2.0m、短軸0.9mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.1mを測る。西部底面で小穴(径0.15m、深さ0.2m)が検出されたが、S K 1258に先行する柱穴の可能性が高い。出土遺物は少量で、壺・甕・鉢がみられる。1167・1168は壺の頸部から体部片である。1167は頸部に櫛描直線文を現存で8条、1168は現存で14条施す。1169～1172は甕である。1170～1172は逆L字口縁で、1171はヘラ描沈線文4条を施す。1172は摩滅しているため、文様は不明瞭であるが、外面には櫛描直線文と刺突文を施す。

#### S K 1259 (第301図)

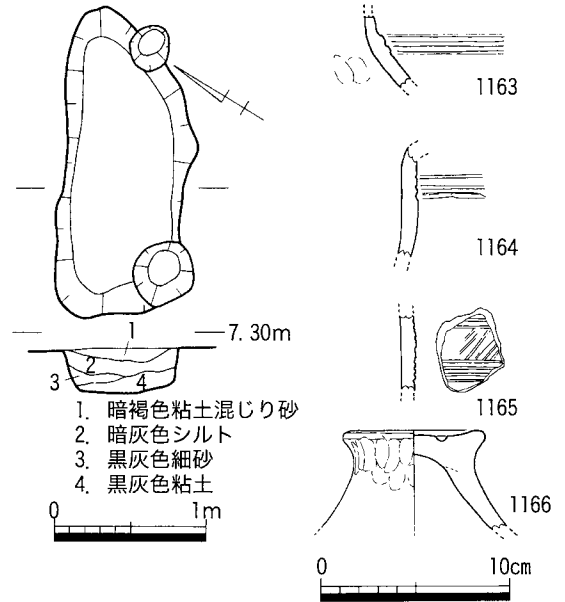
3区中央部北寄り、環濠内側に位置する土坑である。東部と南西部に柱穴が重複し、一部が削平されている。平面形は隅丸長方形を呈する。長軸2.1m、短軸0.8mを測る。断面形は箱形を呈し、北西壁・南東壁の立ち上がりは急である。底面はほぼ平坦で、深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕・蓋がみられる。1163は壺の頸部片である。削出突帯第



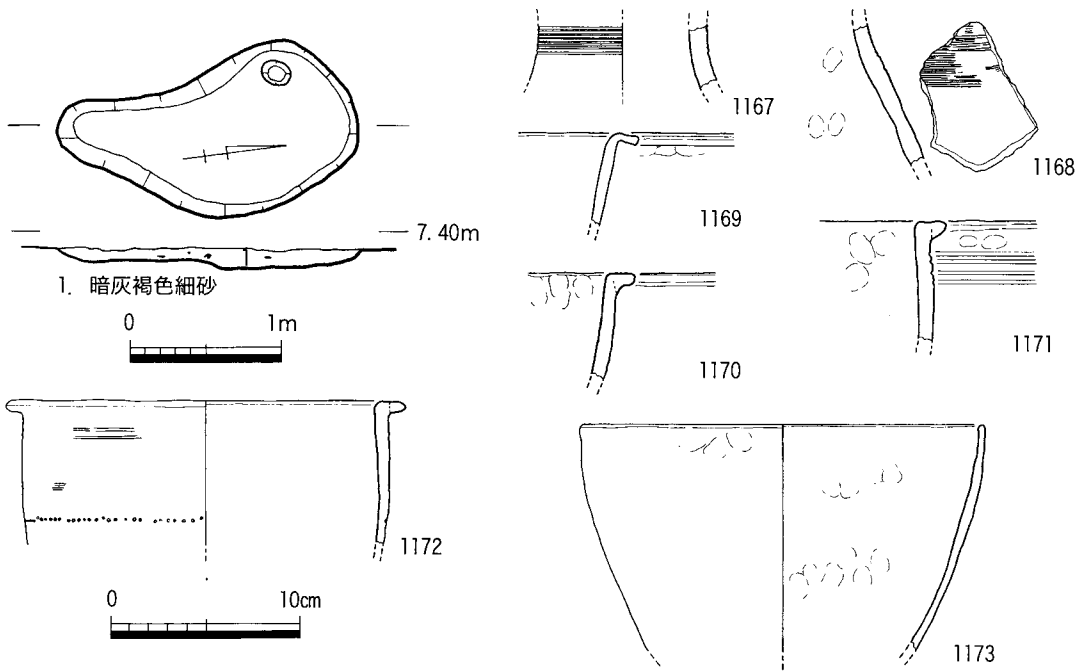
第299図 S K 1256平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



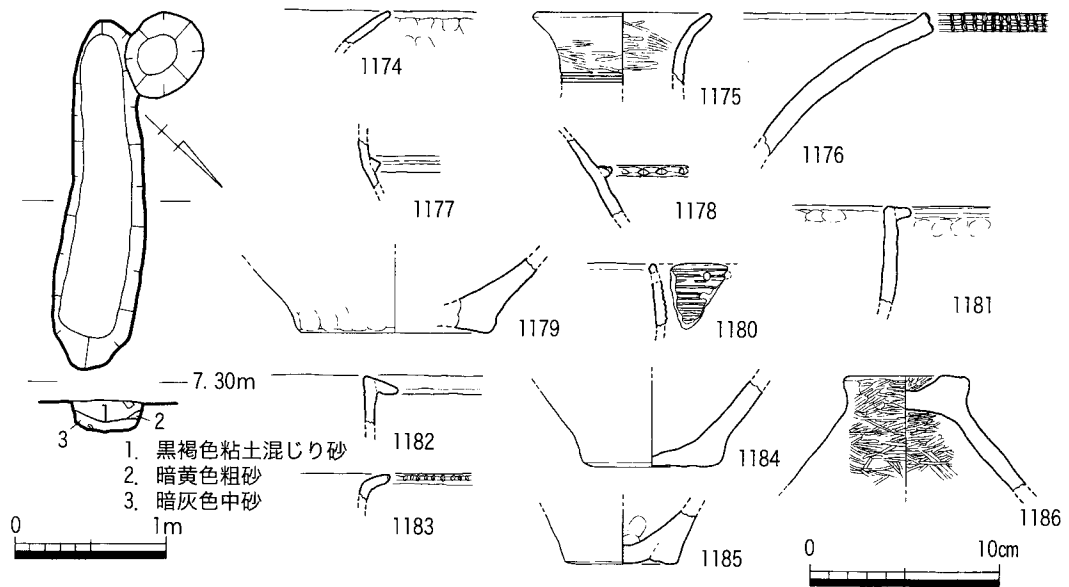
第300図 S K 1257平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第301図 S K 1259平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第302図 S K 1258平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第303図 S K 1260平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

Ⅱ種で、突帯間に沈線が1条みられる。1164・1165は甕である。1164はヘラ描沈線文3条を施す。1165はヘラ描沈線文間にヘラ描斜線文を施す。1166は天井部に焼成後の穿孔を施すが、未貫通である。

#### S K 1260 (第303図)

3区中央部北寄り、環濠内側に位置する土坑である。南西部に柱穴が重複し、一部が削平されている。平面形は隅丸長方形を呈する。長軸2.3m、短軸0.5mと細長く、溝か土坑か不明確である。だが、周囲に位置する溝はいずれも断面形皿状を呈するが、S K 1260は壁の立ち上がり之急で、断面形箱形を呈することから、ここでは土坑として報告する。深さは0.25mを測る。出土遺物は少量で、壺・無頸壺・甕・蓋がみられる。1175は口頸部片で、頸部にヘラ描沈線文を現存で2条施す。1178も壺の頸部片で、貼付突帯を1条施す。1178は壺の体部片である。摩滅しているが、貼付刻目突帯がみられる。1180は無頸壺の口縁部片である。ヘラ描沈線文を現存で10条施し、2個の円孔がみられる。1181～1183は甕の口縁部片である。1181・1182は逆L字口縁を呈する。

#### S K 1261 (第304図)

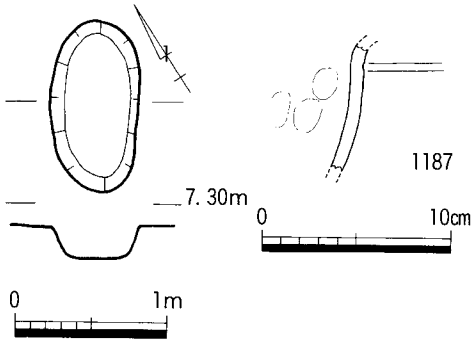
3区中央部北寄り、環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し、長軸1.1m、短軸0.55m、深さ0.25mを測る。出土遺物は少量で、甕がみられる。1187は甕の体部片である。口縁部は如意状を呈すると推定される。ヘラ描沈線文を現存で1条施す。

#### S K 1262 (第305図)

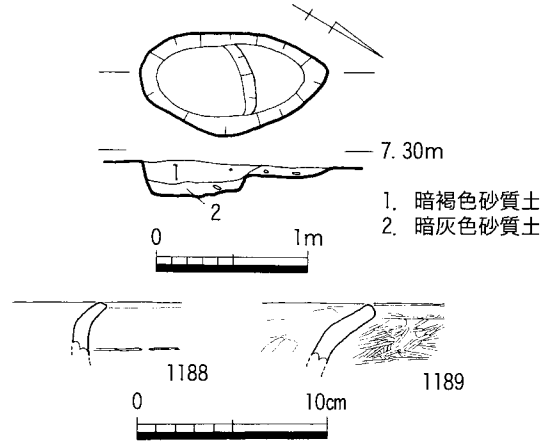
3区中央部北寄り、環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し、長軸1.2m、短軸0.7mを測る。北西部は一段低くなっており、箱形の断面形を呈し、底面は平坦である。最深部で深さ0.25mを測る。出土遺物は少量で、壺がみられる。1188・1189は壺の口縁部片である。1188は頸部にヘラ描沈線文を現存で1条施す。

#### S K 1263 (第306図)

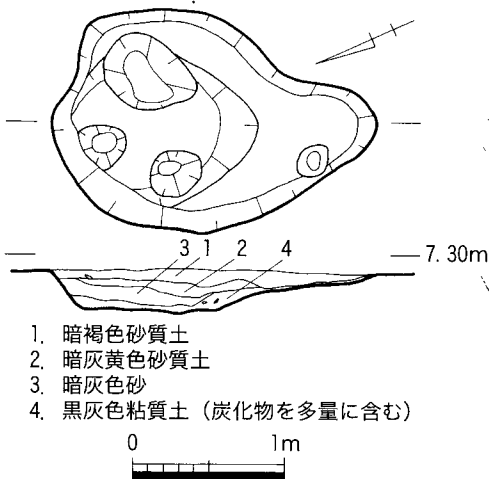
3区北部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は瓢箪形を呈し、長軸2.1m、短軸1.5mを測る。北部が一段低くなっており、最深部で深さ0.3mを測る。底面からは数個の小穴(径0.2～0.5m、深さ0.1m)が検出されたが、先行する柱穴の可能性が高い。出土遺物は少量で、壺・甕、石錐がみられる。1190～1192は壺の口頸部である。1190は外面に段をもつ。段の断面形は低い三角形状を呈し、段の下方にはヘラミガキが顕著にみられる。1191は頸部にヘラ描沈線文を2条施す。1193・1194は甕の口縁部片である。1193は如意状の口縁部を呈し、ヘラ描沈線文を2条施す。1194は逆L字口縁を呈する。



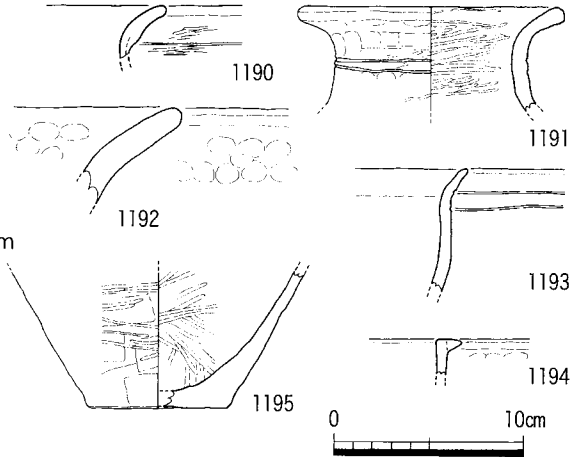
第304図 S K 1261平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)



第305図 S K 1262平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)



第306図 S K 1263平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



### S K 1264 (第307図)

3区北部, 環濠内側に位置する土坑である。平面形はほぼ円形を呈し, 径1.2~1.3m, 深さ0.2mを測る。出土遺物は少量で, 壺・甕・蓋がみられる。1196~1201は壺である。1197は内外面ともに摩滅している。外面には際取り沈線による段がみられる。1198・1199は頸部片で, 頸部に削出突帯第I種を施す。1200は体部片で, 体部に削出突帯第I種を施す。1202・1203は甕の口縁部片で, 1202はヘラ描沈線文2条, 1203は現存で1条施す。

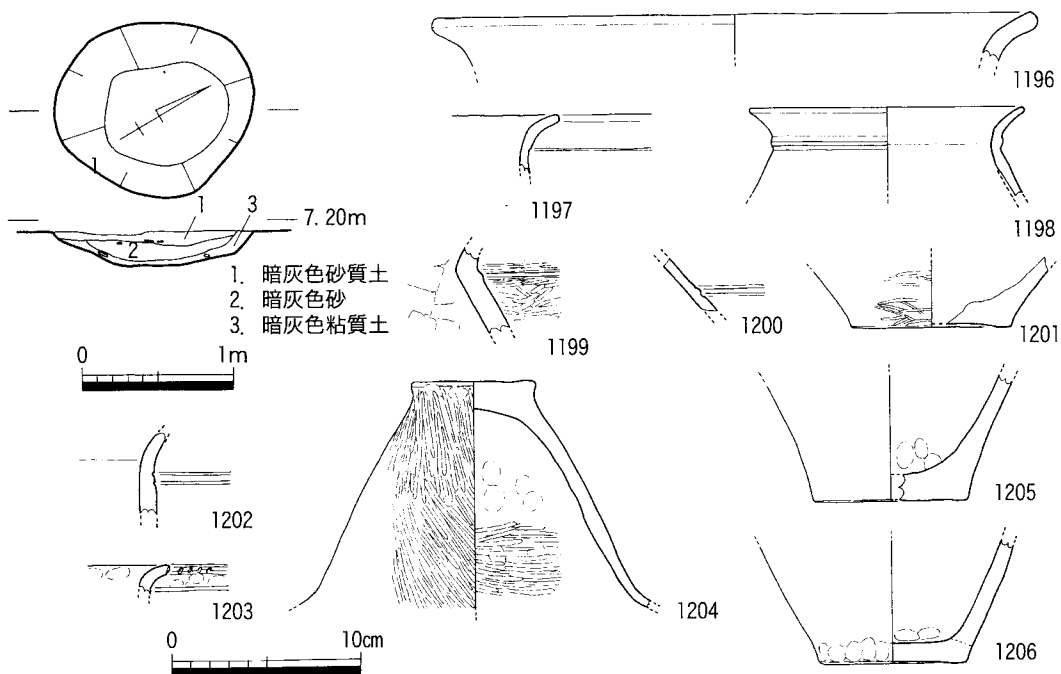
### S K 1265 (第308図)

3区北部, 環濠内側に位置する土坑である。平面形はほぼ楕円形を呈し, 長軸1.0m, 短

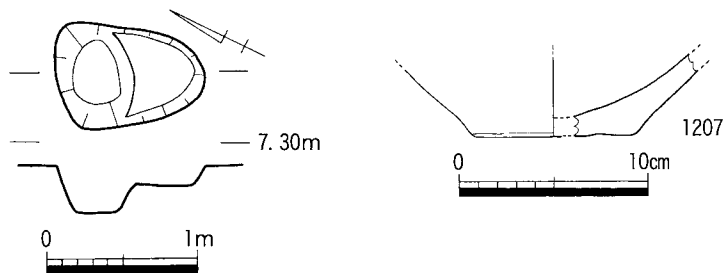
軸0.7mを測る。北部は一段低くなっており、最深部で深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で、壺の底部がみられる。

S K 1266 (第309・310図)

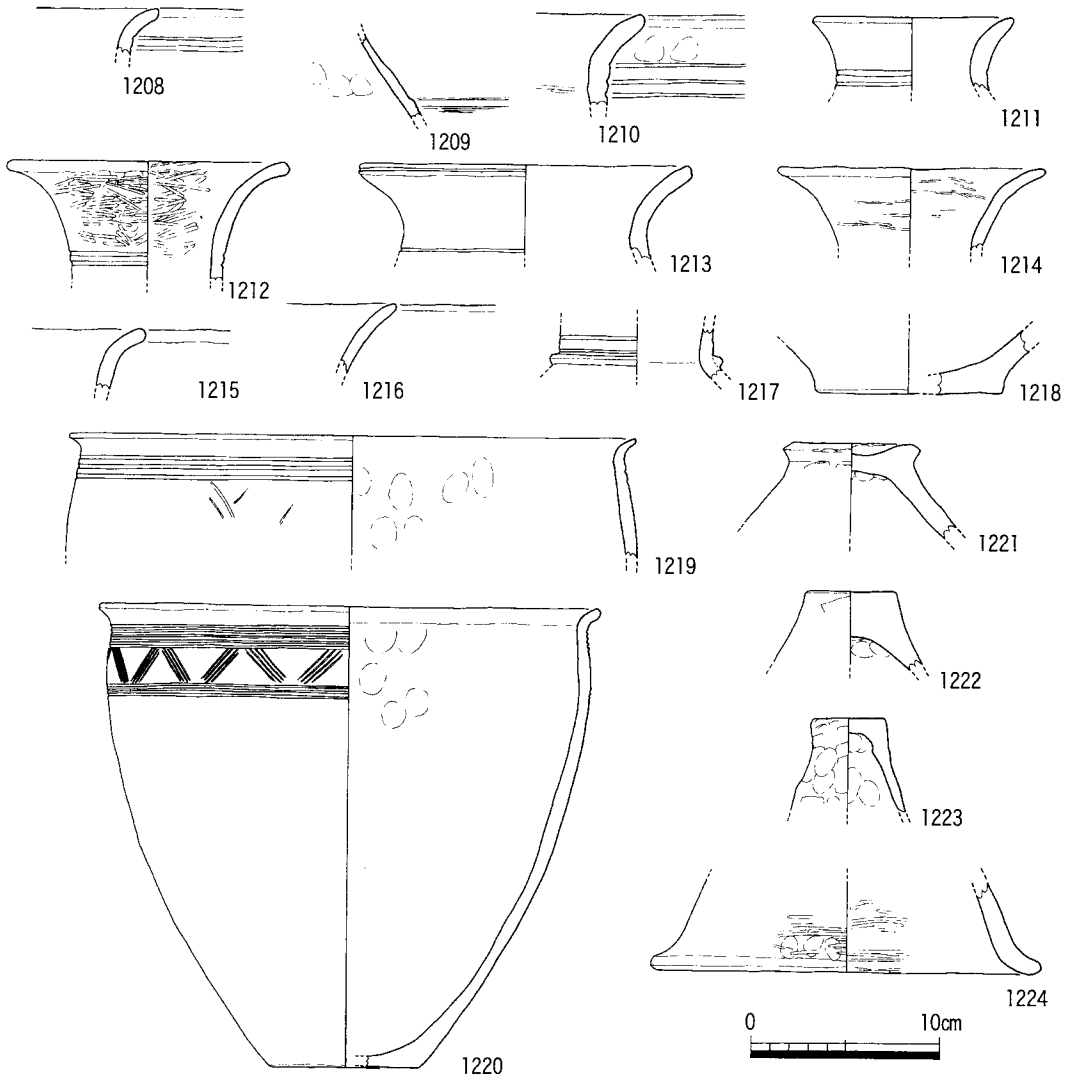
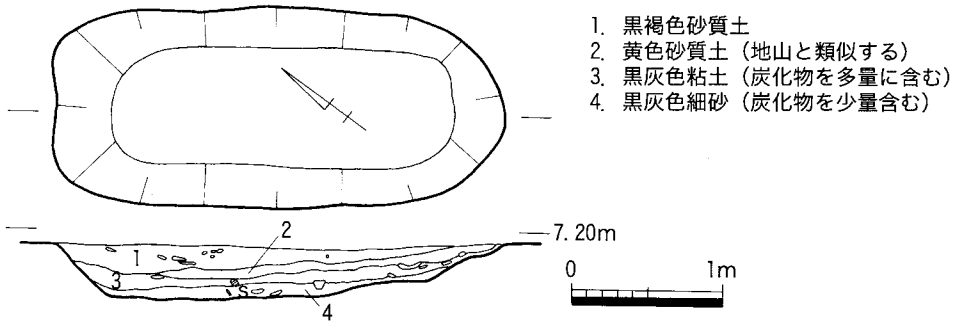
3区北部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸2.95m、短軸1.3mを測る。断面形は舟形を呈し、南東壁の立ち上がりは緩やかである。底面はほぼ平坦で、深さ0.35mを測る。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、壺・甕・蓋・棒状土製品、石皿または砥石がみられる。1208~1218は壺である。1208は壺の口頸部である。削出突帯第Ⅱ種を施す。突帯間に沈線が現存で1条みられる。1209は壺の頸部から体部片で、頸部と体部の境に際取り沈線による段を施し、段の下方にはヘラ描沈線文を現存で2条施



第307図 S K 1264平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

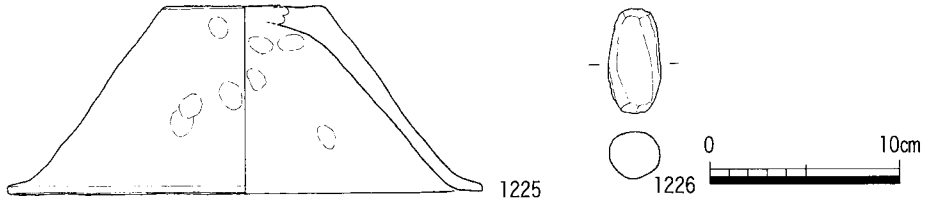


第308図 S K 1265平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

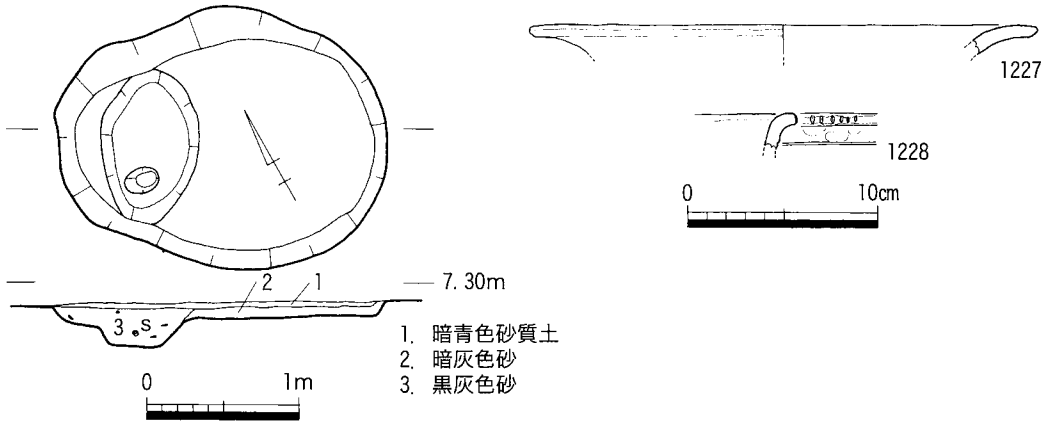


第309図 S K 1266平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

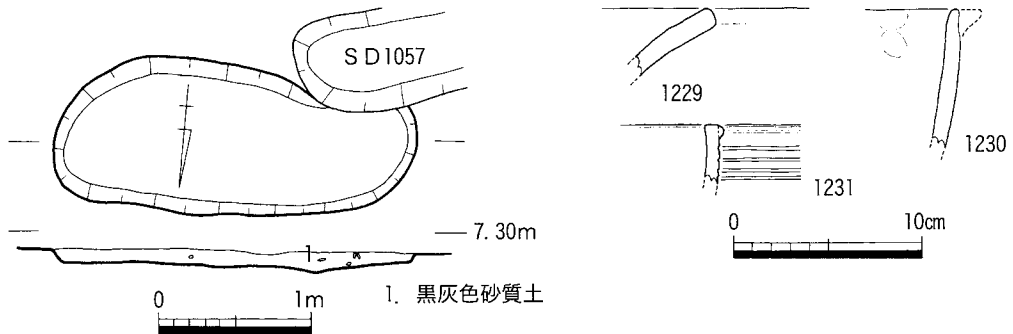




第310図 S K 1266出土土器 2 (1/4)



第311図 S K 1267平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第312図 S K 1268平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

す。1210~1214は壺の口頸部片である。1210はヘラ描沈線文を現存3条, 1211は現存2条, 1212は現存2条, 1213は現存1条施す。1217は口頸部片である。ヘラ描沈線文と貼付突帯を施す。1219・1220は大型の甕である。いずれも口縁部は如意状を呈する。1219は摩滅しているが, ヘラ描沈線文3条と複線山形文と推定されるヘラ描文を施す。1220もヘラ描沈線文5条の下に複線山形文を施し, ヘラ描沈線文を3条施す。

S K 1267 (第311図)

3区中央部北寄り、環濠内側に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸2.2m、短軸1.7mを測る。西部は一段低くなっており、小穴（径0.2m、深さ0.2m）もみられるが、土層堆積からも別遺構の可能性が高い。東部の深さは0.1mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕等がみられる。1228はヘラ描沈線文を現存で1条施す。

#### S K 1268（第312図）

3区中央部北寄り、環濠内側に位置する土坑である。南部は溝S D 1057が重複し、一部が削平されている。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸2.4m、短軸1.1mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕、刃器がみられる。1230は甕の口縁部片であるが、口縁部が剥離している。1231と同様逆L字口縁を呈するものと推定される。1231はヘラ描沈線文を現存4条施す。

#### S K 1269（第313図）

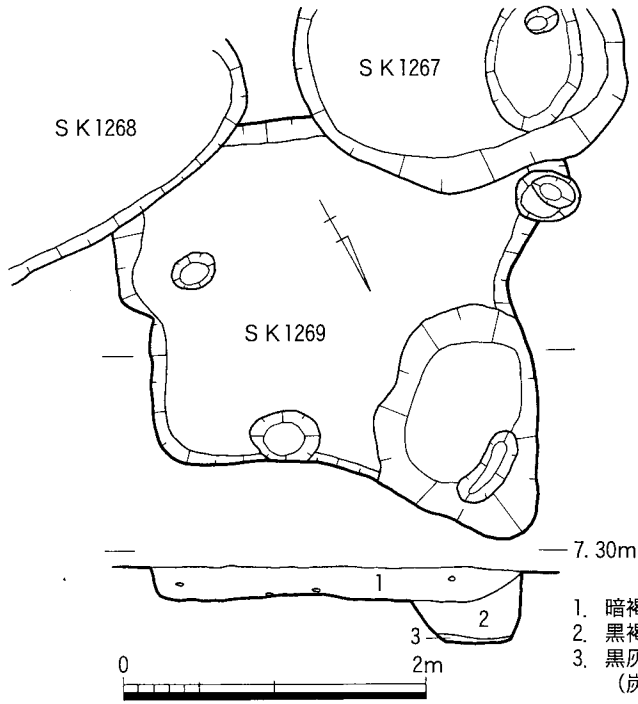
3区中央部北寄り、環濠内側に位置する土坑である。南部は土坑が重複し、一部が削平されている。平面形はややいびつな隅丸方形を呈するが、北部に張り出しをもつ。張り出し部分は一段低くなっており、別遺構の可能性が高い。土層堆積の観察から、先行する土坑であると推定される。張り出し部の平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸1.5m、短軸1.0mを測る。断面形は箱形を呈し、底面は平坦で、深さ0.5mを測る。張り出し部以外の土坑の平面形はややいびつな隅丸方形を呈し、長軸2.8m、短軸2.3mを測る。底面はほぼ平坦で、深さ0.2mを測る。なお、張り出し部からは多量の遺物が出土した。出土遺物は少量で、壺・甕・蓋・鉢、打製石斧がみられる。1232～1235は壺である。1233は壺の頸部片で、削出突帯第Ⅱ種で、突帯間に沈線を2条施す。1235は頸部に貼付突帯を現存1条施す。1236～1242は甕である。1236はヘラ描沈線文を現存で1条施す。1237～1239は如意状の口縁部を呈する。1238・1239はヘラ描沈線文3条施す。

#### S K 1270（第314図）

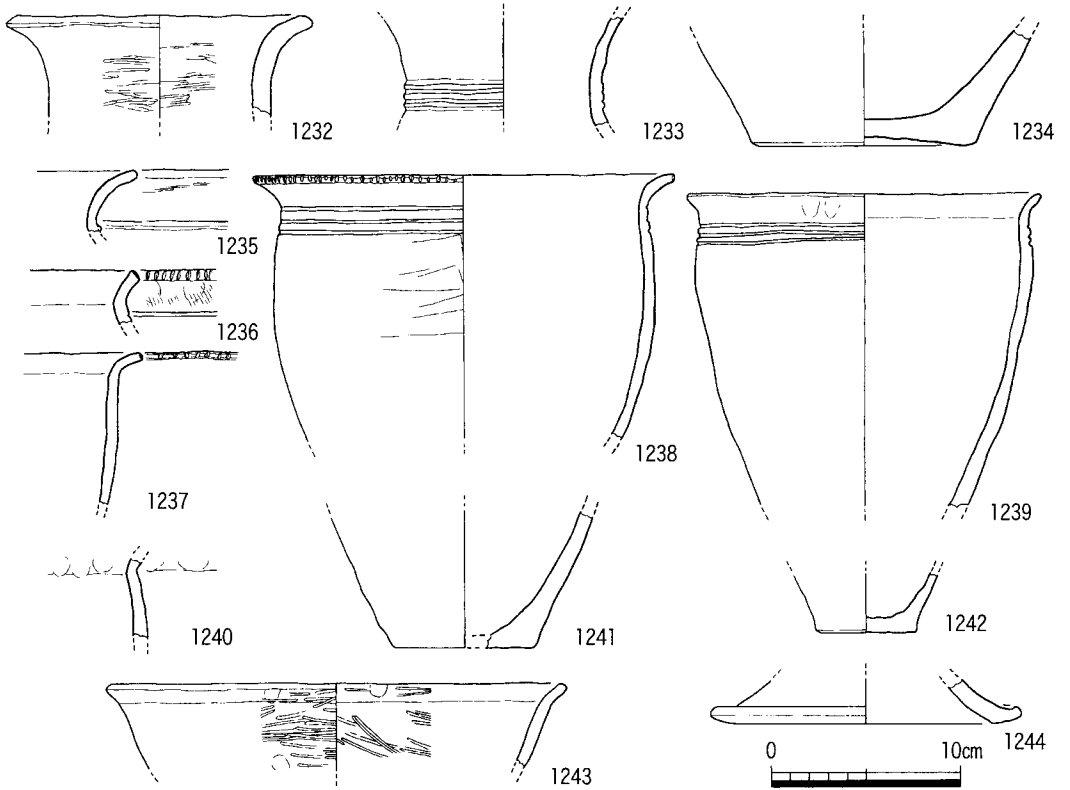
3区北東部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸1.1m、短軸0.95mを測る。北部が一段低くなっており、最深部で深さ0.25mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕・脚台部がみられる。

#### S K 1271（第315図）

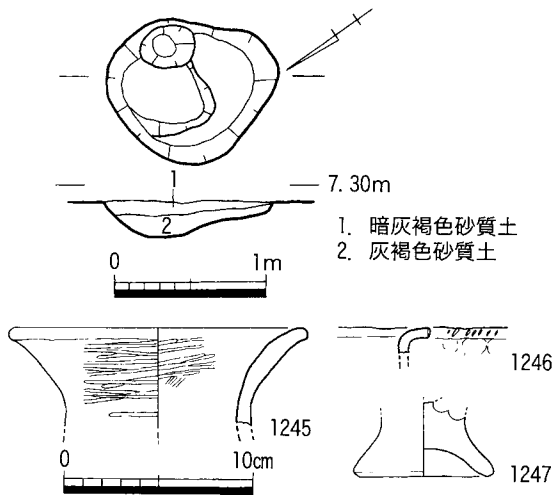
3区北東部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し、長軸1.4m、短軸1.0mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.1mを測る。出土遺物は微量で、土器片がみられる。



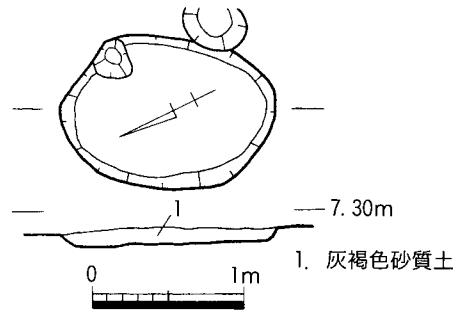
1. 暗褐色粘土混じり砂
2. 黒褐色シルト
3. 黒灰色粘土  
(炭化物・土器片を多量に含む)



第313図 SK1269平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第314図 S K 1270平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)



第315図 S K 1271平・断面図 (1/50)

### S K 1272 (第316図)

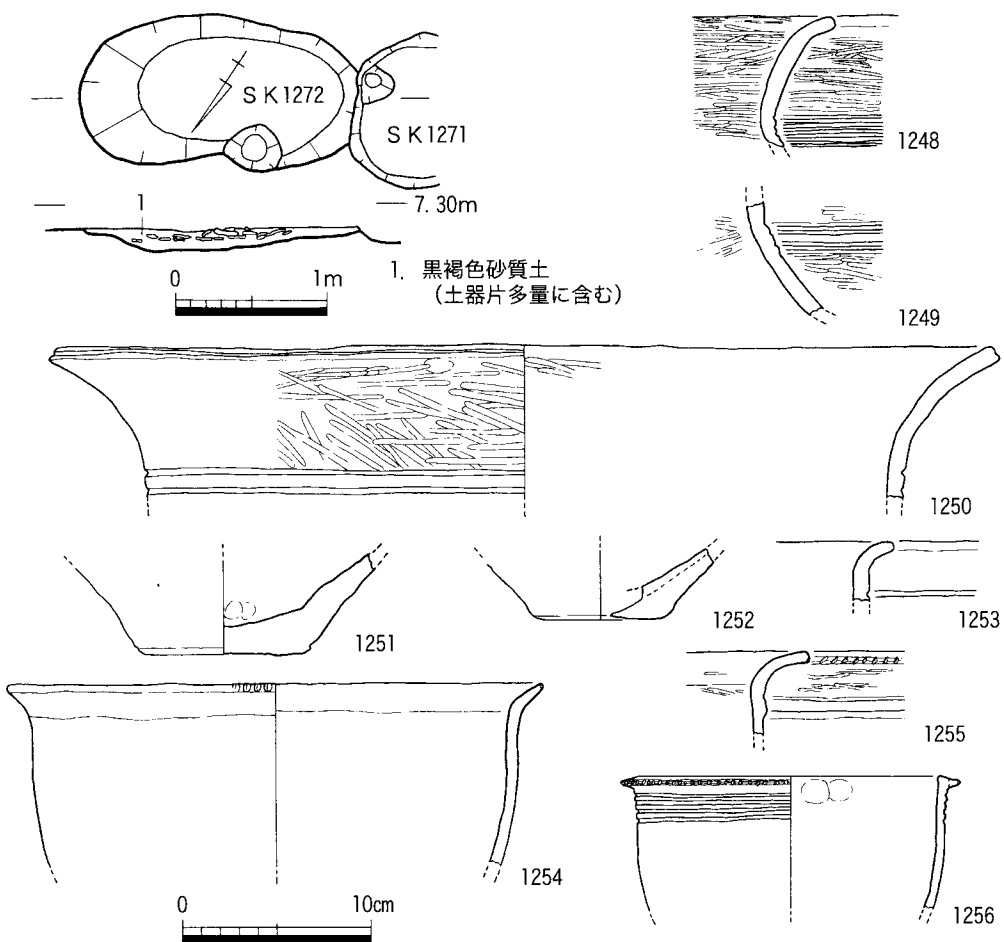
3区北東部、環濠内側に位置する土坑である。南西部で、土坑S K 1271と重複し、一部が削平されている。平面形は楕円形を呈し、長軸1.9m前後、短軸0.95mを測る。断面形は皿状を呈し、深さ0.15mを測る。埋土上部からは土器大形片が集中していた。北西部に重複する柱穴からも多量の土器片が出土した。柱穴はS K 1272に後出する可能性が高い。出土遺物は少量で、壺・甕、非サヌカイト製品等がみられる。1248～1252は壺である。1248は口頸部片で、頸部にヘラ描沈線文を現存で5条施す。1249は壺の頸部片である。削出突帯第Ⅱ種で、突帯間に沈線を2条施す。1250は大型壺である。頸部にはヘラ描沈線文を現存2条施す。1254～1256は甕である。1254は甕で、口縁部は如意状を呈する。1255は削出突帯第Ⅰ種を施す。1256は逆L字口縁を呈する。ヘラ描沈線文を4条施す。

### S K 1273 (第318図)

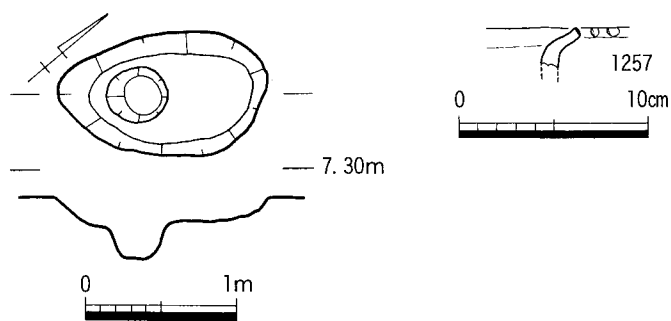
3区北東部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は卵形を呈し、長軸1.7m、短軸1.05mを測る。断面形は南西部で2段掘りになり、最深部で深さ0.2mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕、石包丁がみられる。1258～1261は壺である。1260は内面に貼付突帯を施す。1263は逆L字口縁の甕で、ヘラ描沈線文を6条施す。

### S K 1274 (第317図)

3区北東部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し、長軸1.4m、短軸0.8m、深さ0.2mを測る。底面からは小穴(径0.3～0.4m、深さ0.2m)が検出されたが、S



第316図 S K 1272平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第317図 S K 1274平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

K1274に伴うものかどうか不明である。出土遺物は微量で、甕の口縁部片がみられる。1257は如意状の口縁部を呈する甕である。

S K 1275 (第319図)

3区北東部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は卵形を呈し、長軸0.85m、短軸0.5m、深さ0.25mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕・鉢等がみられる。1265は甕で、ヘラ描沈線文を2条施す。1266も甕の口縁部片である。口縁部に外面に粘土を貼り付ける。

S K 1276 (第320図)

3区北東部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し、長軸1.0m、短軸0.6m、深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で、壺・無頸壺・甕がみられる。1271は外面にヘラ描沈線文を2条施す。1273は大型の甕で、ヘラ描沈線文を1条施す。

S K 1277 (第321図)

3区西端、環濠内側に位置する土坑である。平面形は卵形を呈し、長軸1.0m、短軸0.8m、深さ0.15mを測る。出土遺物は微量で、土器片がみられる。

S K 1278 (第322図)

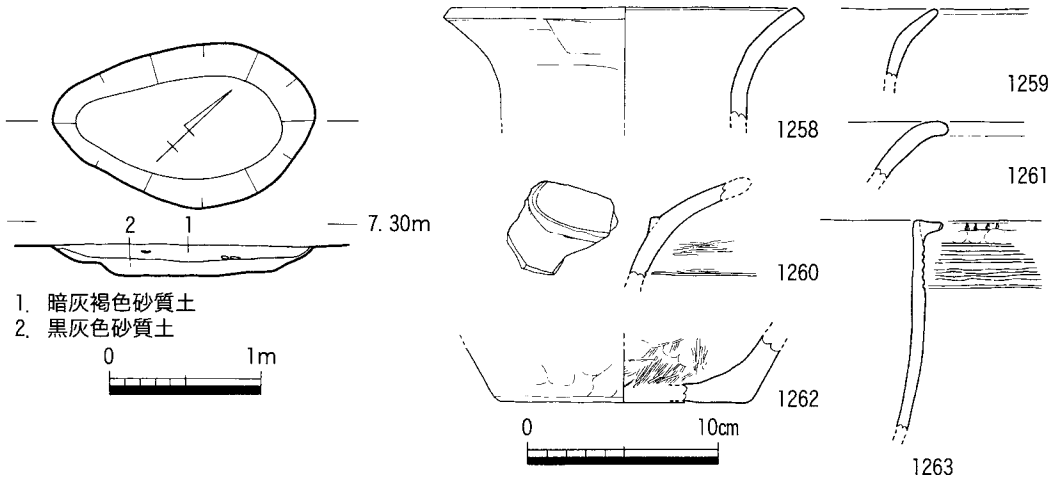
3区西端、環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し、長軸1.05m、短軸0.6mを測る。底面からは2個の小穴を検出したが、S K 1278に伴うものかどうか不明である。小穴を除く深さは0.1mを測る。出土遺物は少量で、土器片、石鍬がみられる。

S K 1279 (第323図、図版20)

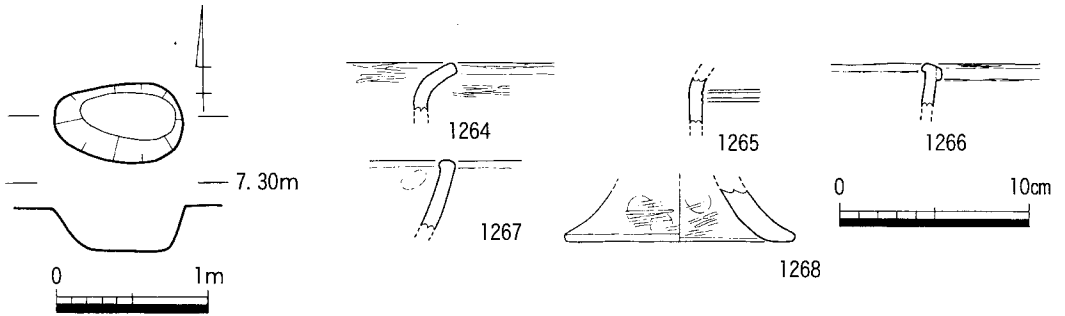
3区西端、環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈する。長軸1.5m、短軸0.85mを測る。断面形は舟形を呈し、北西壁の立ち上がりは急で、南東壁の立ち上がりは緩やかである。底面は平坦で、深さ0.3mを測る。床面東部には小穴(径0.4~0.55m、深さ0.1m)が検出されたが、先行する柱穴の可能性が高い。S K 1279の埋土下部からは大形土器片が多量出土した。出土遺物は少量で、壺・甕・鉢・蓋・紡錘車がみられる。1274は壺である。かなり摩滅しているが、口頸部境にヘラ描沈線文2条または削出突帯第I種、頸部部境に段がみられる。1276・1277は壺の体部片で、1276はヘラ描重弧文、1277はヘラ描沈線文間に円形刺突文がみられる。1280~1285は甕で、いずれも口縁部は如意状を呈する。1280はヘラ描沈線文を2条施す。1281は小型の甕で、ヘラ描沈線文2条とヘラ描逆重弧文を施す。

S K 1280 (第324図)

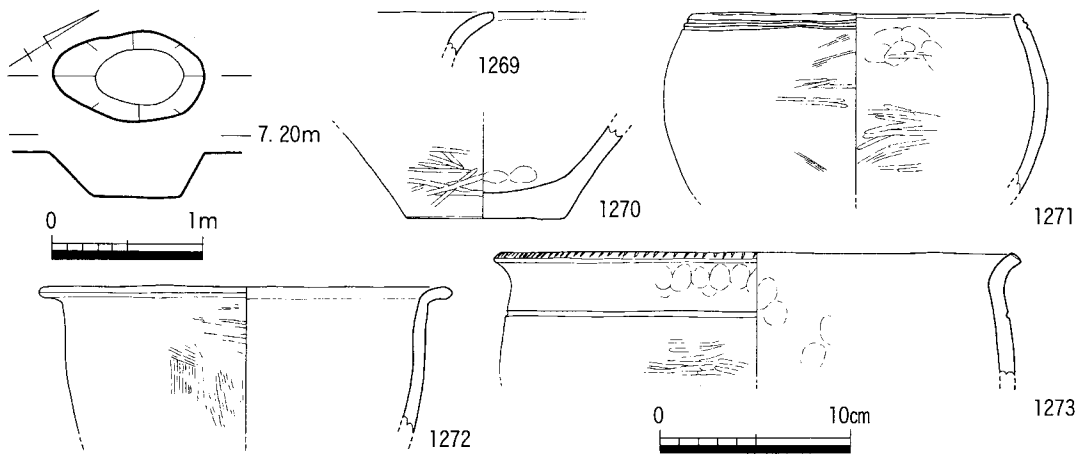
3区西部、環濠内側に位置する土坑である。溝S D 1033と重複し、一部が削平されてい



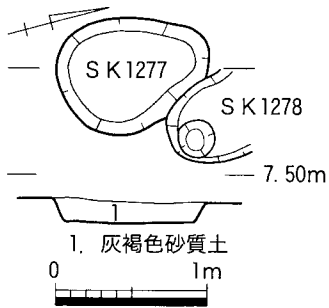
第318図 S K 1273平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



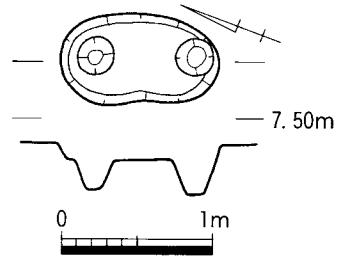
第319図 S K 1275平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



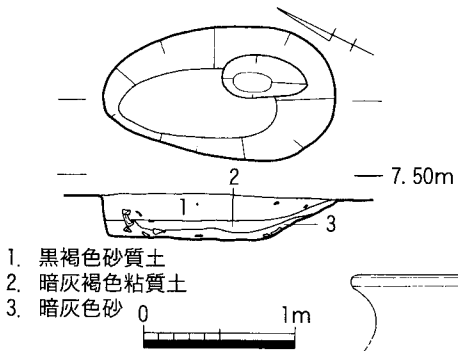
第320図 S K 1276平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



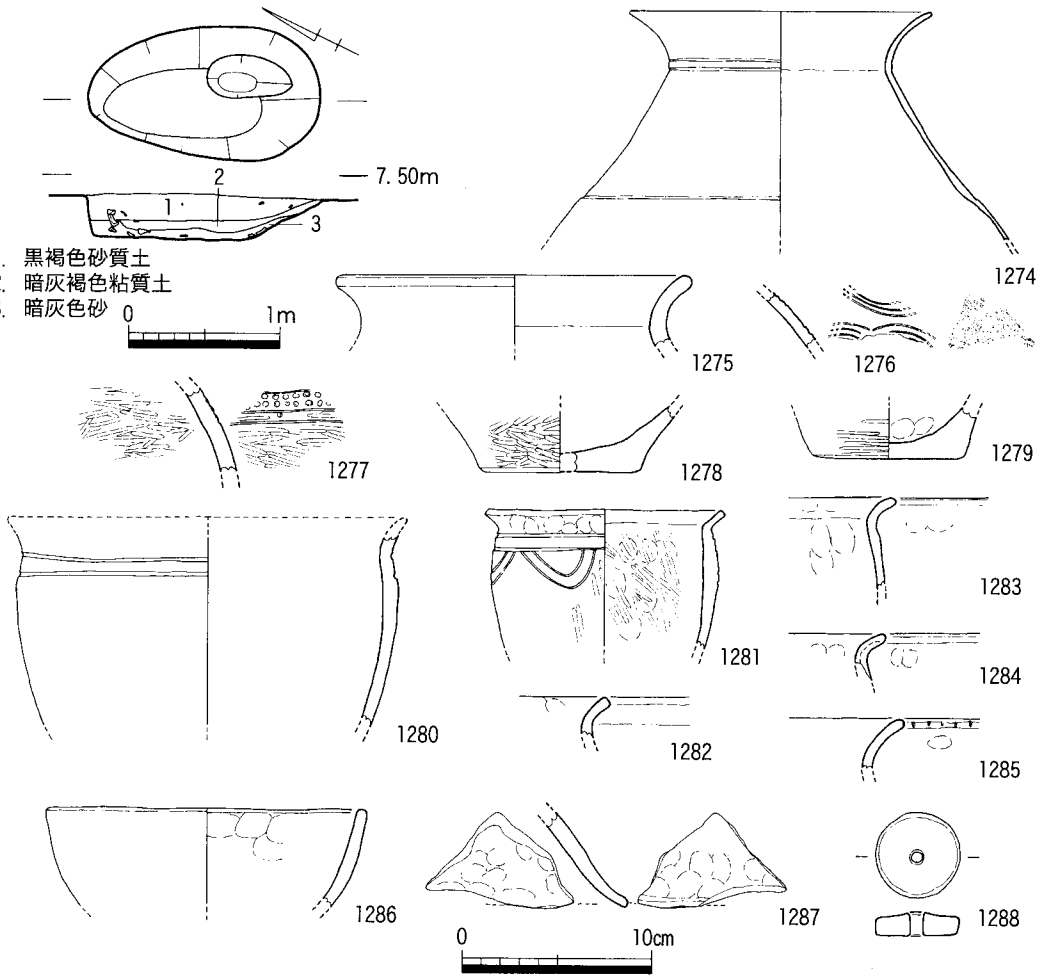
第321图 S K 1277平·断面图 (1/50)



第322图 S K 1278平·断面图 (1/50)

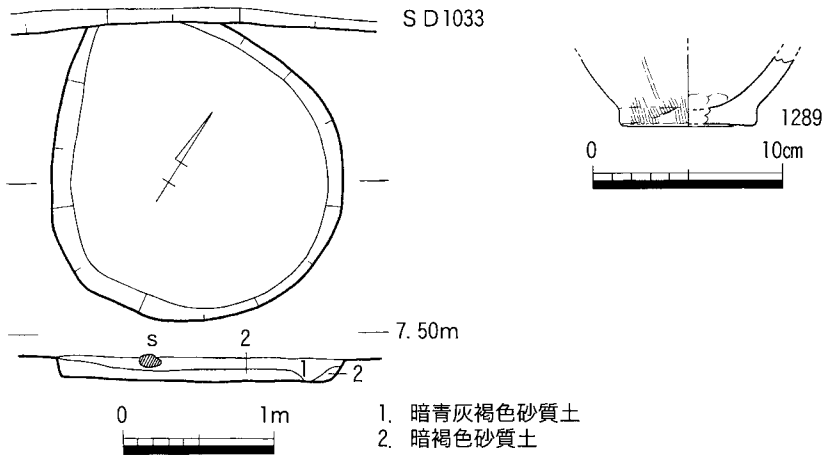


1. 黑褐色砂質土
2. 暗灰褐色粘質土
3. 暗灰色砂



第323图 S K 1279平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)



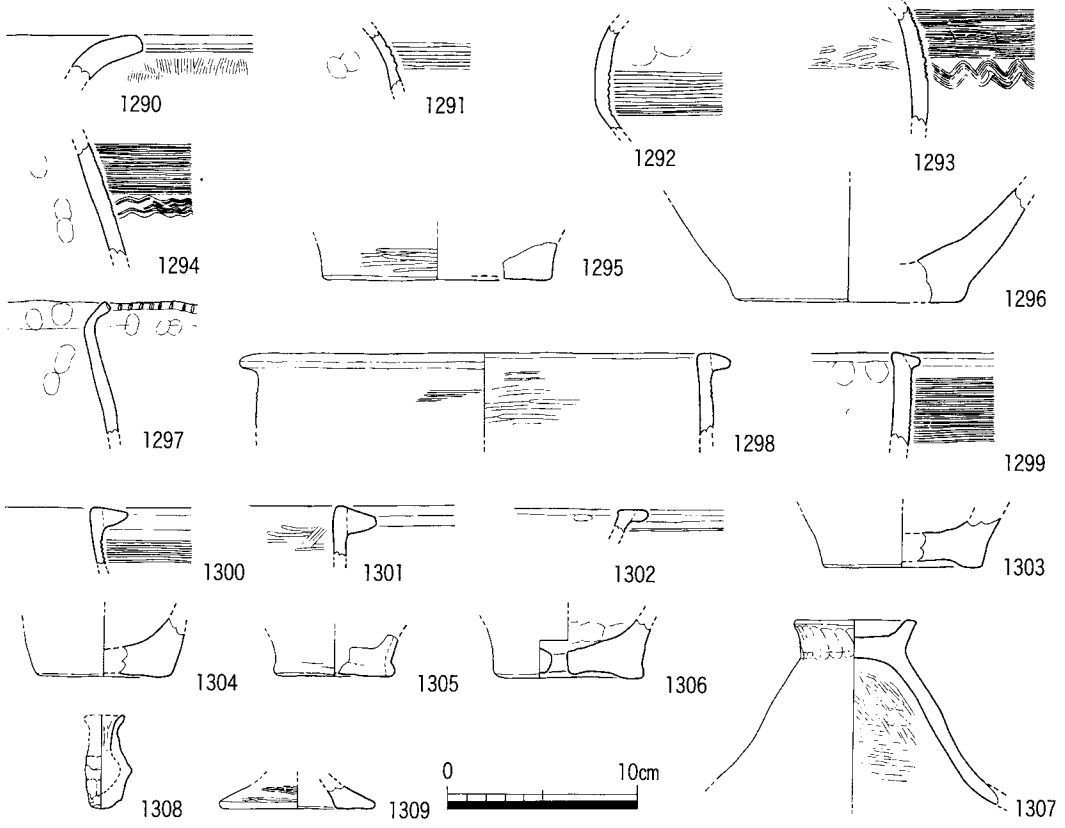
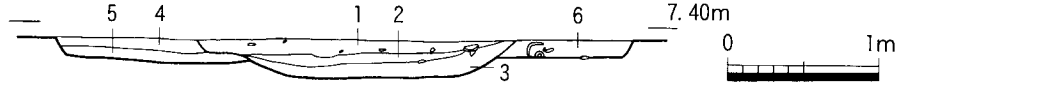
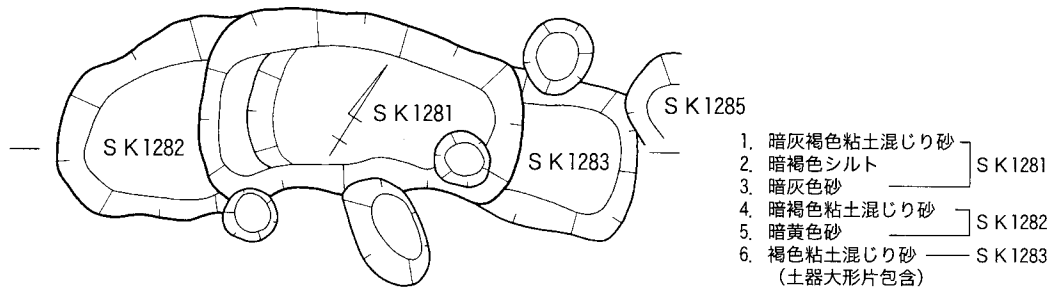


第324図 S K 1280平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

る。平面形はほぼ円形を呈し、径2.0m前後を測る。断面形は箱形を呈し、深さ0.15mを測る。出土遺物は少量で、底部片が出土した。

S K 1281・S K 1282・S K 1283 (第325図)

いずれも3区西部、環濠内側に位置する土坑である。3基が縦列に重複した状態で検出された。土層堆積から中央部に位置するS K 1281が最も後出することがうかがわれる。S K 1281の平面形はややいびつな隅丸長方形を呈し、長軸2.1m、短軸1.2mを測る。断面形は箱形を呈し、底面は平坦である。深さ0.25mを測る。底面で検出された小穴(径0.3m、深さ0.05m)はS K 1281に先行する柱穴であろう。S K 1282・S K 1283は一部が削平されているため、全体の形状は不明であるが、S K 1281同様ややいびつな隅丸長方形を呈するものと考えられる。S K 1282は長軸1.2m以上、短軸1.4m、断面形は箱形を呈し、深さ0.15mを測る。S K 1283は長軸0.9m以上、短軸1.0m、断面形は箱形を呈し、深さ0.15mを測る。S K 1282の埋土からは大形土器片が出土した。出土遺物は少量で、壺・甕・甑・蓋・ミニチュア土器壺・ミニチュア土器高杯、石包丁等が出土した。1290～1296は壺である。1291は体部片で、削出突帯第Ⅱ種、突帯間に沈線を2条施す。1292は頸部でヘラ描沈線文を7条施す。1293・1294は体部片で、櫛描直線文と櫛描波状文を施す。1297～1305は甕である。1298～1302は逆L字口縁を呈する。1298は摩滅しているが、櫛描直線文が現存で3条みられる。1299も櫛描直線文を現存で15条施す。1300はヘラ描沈線文を現存で5条施す。1308はミニチュア土器壺で、手捏成形である。ややいびつである。一方、1309はミニチュア土



第325図 SK1281・SK1282・SK1283平・断面図(1/50), 出土土器(1/4)

器高杯の脚部片で、丁寧にヘラミガキを施している。

#### S K 1284 (第326図)

3区北西部、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1285と重複する。土層堆積から、S K 1284が後出することがうかがわれる。平面形は楕円形を呈し、長軸1.2m、短軸0.85mを測る。底面は平坦ではなく、中央部が低い。最深部で深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で、甕・鉢、片刃石斧・石包丁等がみられる。1310は折り曲げ口縁の甕で、櫛描直線文を8条施す。1311は甕の体部片であるが、櫛描直線文と三角形刺突文を施す。

#### S K 1285 (第327図)

3区北西部、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1284と重複するため、一部が削平されている。平面形は楕円形を呈し、長軸1.1m、短軸0.75mを測ると推定される。断面形は箱形を呈し、深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で、鉢・甕・蓋がみられる。1315は口縁部が直口する鉢で、外面には櫛描直線文と半截竹管山形文を施す。1316・1317は甕の口縁部片で、1316はヘラ描沈線文、1317は櫛描直線文を施す。

#### S K 1286 (第328図)

3区北西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はややいびつな円形を呈し、長軸0.8m、短軸0.65m、深さ0.3mを測る。出土遺物は微量で、甕がみられる。1322は甕の口縁部片である。外面にはヘラ描沈線文を現存で1条施す。

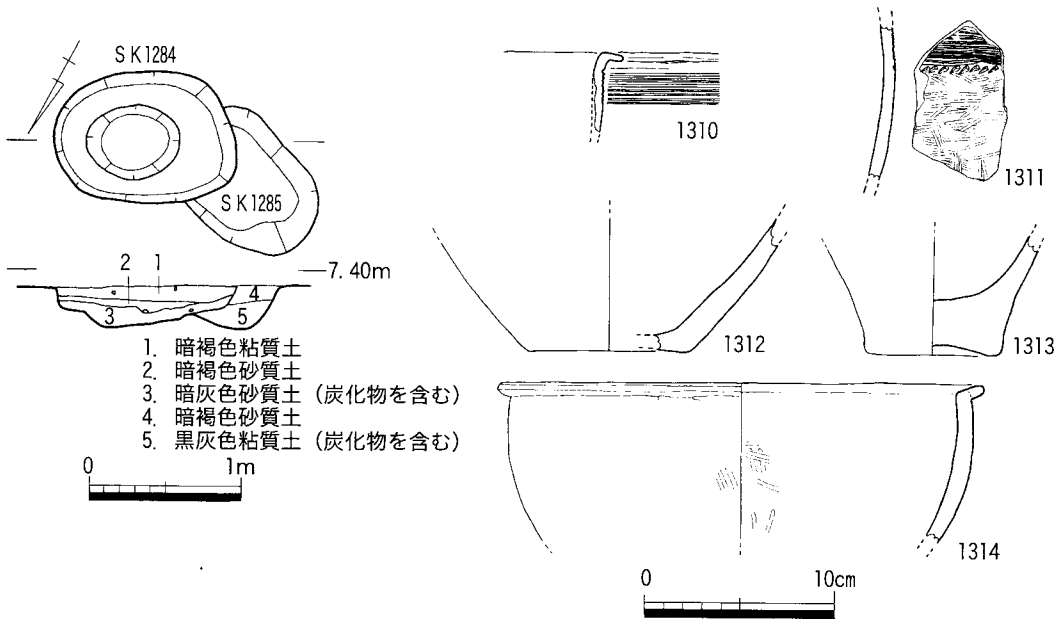
#### S K 1287 (第329図)

3区西端、環濠内側に位置する土坑である。平面形はややいびつな隅丸長方形を呈し、長軸2.5m、短軸1.2mを測る。断面形は舟形を呈し、西壁の立ち上がりは緩やかで、東壁の立ち上がりは急である。床面は平坦で、深さ0.3mを測る。床面からは小穴が検出されたが、S K 1287に先行する柱穴であると考えられる。出土遺物は少量で、壺・甕・鉢・蓋がみられる。1324は壺の体部片である。ヘラ描木葉文を施す。1327～1329は甕の口縁部片である。1328は外面にヘラ描沈線文を1条施す。

#### S K 1288 (第330図)

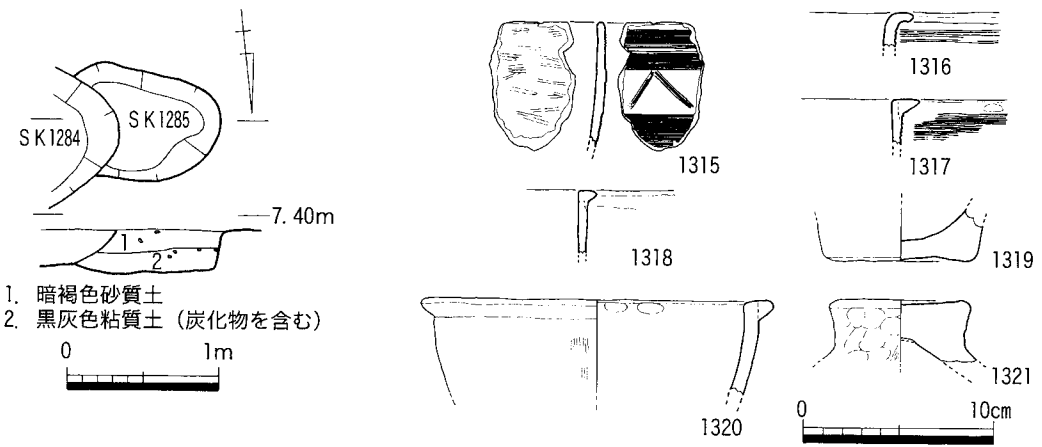
3区北西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し、長軸1.7m、短軸1.4m、深さ0.15mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕・鉢が出土した。1335・1336は壺または蓋の口縁部である。1337は壺の頸部で、段を施す。1338～1342は甕である。1339はヘラ描沈線文を2条施す。

#### S K 1289 (第331図)



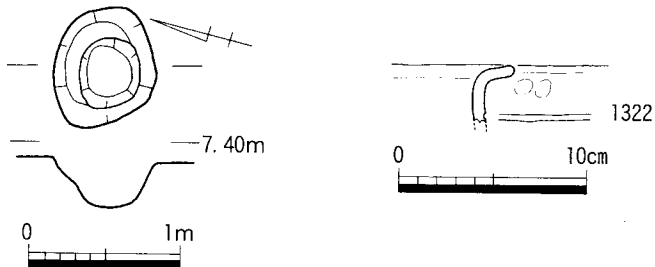
1. 暗褐色粘質土
2. 暗褐色砂質土
3. 暗灰色砂質土 (炭化物を含む)
4. 暗褐色砂質土
5. 黒灰色粘質土 (炭化物を含む)

第326図 SK 1284平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

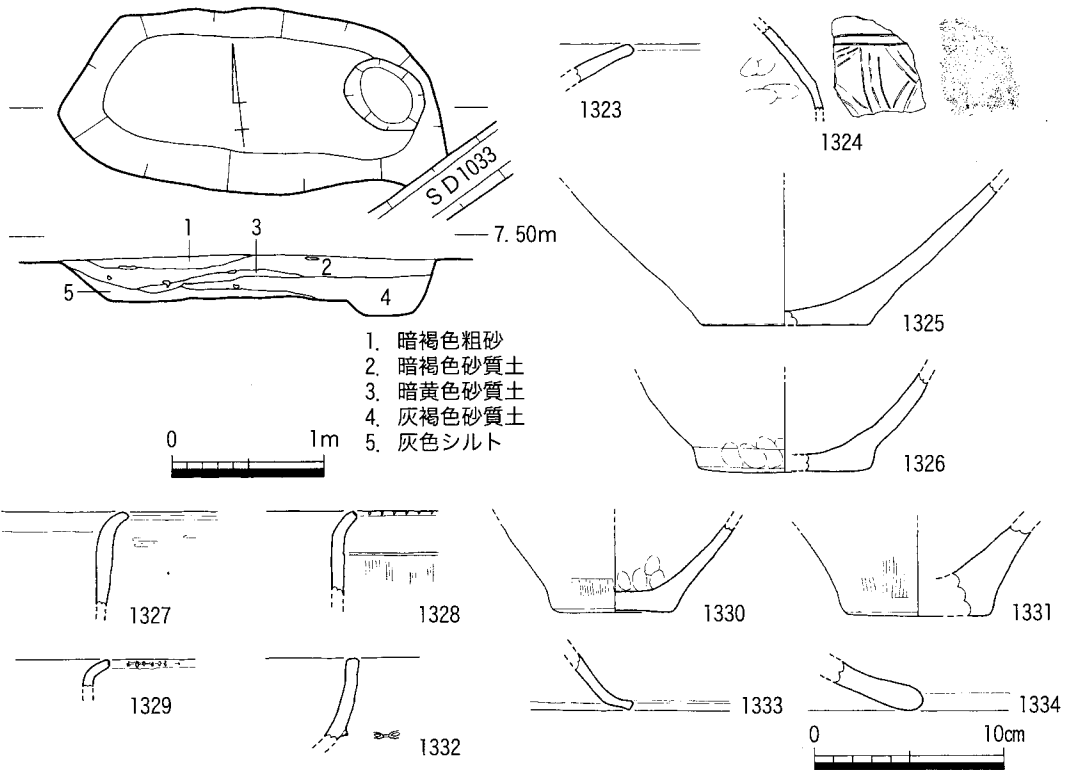


1. 暗褐色砂質土
2. 黒灰色粘質土 (炭化物を含む)

第327図 SK 1285平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第328図 SK 1286平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第329図 S K 1287平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

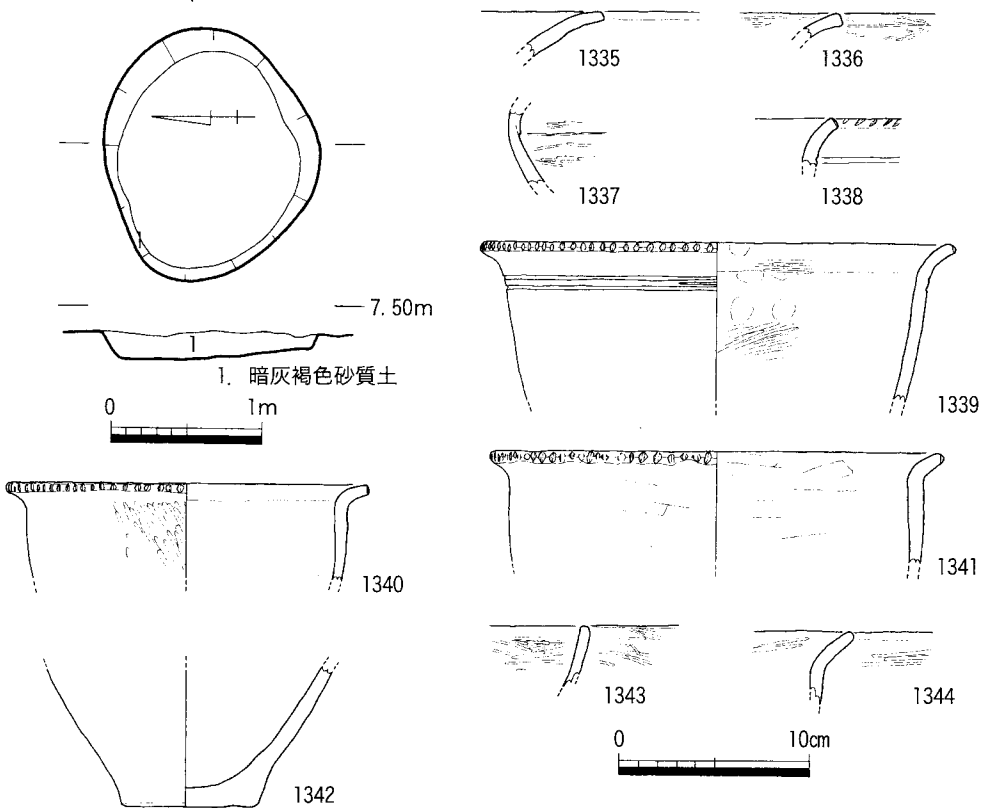
3区西端，環濠内側に位置する土坑である。西部を排水用側溝に削平され，平面形はいびつな楕円形を呈し，長軸2.5m前後，短軸2.1mを測る。中央部が窪んでおり，最深部で深さ0.4mを測る。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で，壺・甕・鉢・蓋・ミニチュア土器蓋，石包丁・石皿または砥石・石鍬・刃器がみられる。1345は壺の口頸部である。頸部外面には弱いヘラ描沈線文または板状工具の圧痕がみられる。1350は壺の体部片である。削出突帯第Ⅱ種，突帯間に沈線を3条施す。1351～1353は壺の頸部片で，1351は貼付刻目突帯を施す。1352も壺の頸部片で，ヘラ描沈線文を現存で13条と三角形刺突文を施す。1353はヘラ描沈線文・刺突文・円形浮文を施す。1355～1361は甕で，1355・1356の口縁部は如意状，1357～1361は逆L字状を呈する。1357は口縁部に間欠刻目，体部にヘラ描沈線文を現存で9条施す。1358は櫛描直線文を現存で13条施す。

S K 1290 (第332図)

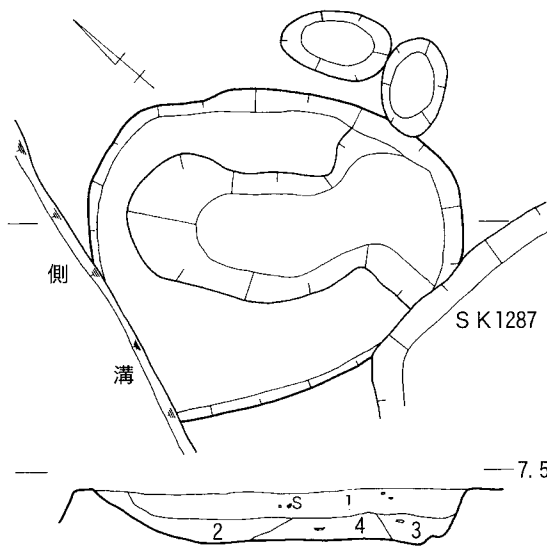
3区西端，環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し，長軸1.9m，短軸1.25mを測る。2段掘りになり，低い部分は隅丸長方形を呈する。底面は平坦ではなく，

中央部に向かって緩く窪む。最深部で深さ0.35mを測る。遺構内北部底面で検出された小穴（径0.6~0.7m、深さ0.4m）はS K1290に先行する柱穴の可能性が高い。埋土全般に土器を多数包含するが、底面付近に集中する。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、壺・無頸壺・甕・鉢・紡錘車、不明片岩製品・石鋤がみられる。1368~1372は壺の口縁部で、1368は外面に段またはヘラ描沈線文を施す。1369は頸部に削出突帯第Ⅱ種で、突帯間に沈線を2条施す。1372・1373は口縁部に円孔が2個みられる。1374~1383は甕で、1374は外面にヘラ描沈線文1条施す。1376・1377は逆L字口縁を呈し、1376はヘラ描沈線文を現存で4条、1377は4条施す。1378は折り曲げ口縁で、半截竹管ヘラ描沈線文間に竹管文を施す。1379は口縁端部から少し下がった位置に突帯を貼り付ける。1382は逆L字口縁を呈する甕で、ヘラ描沈線文とヘラ描複線山形文を施す。

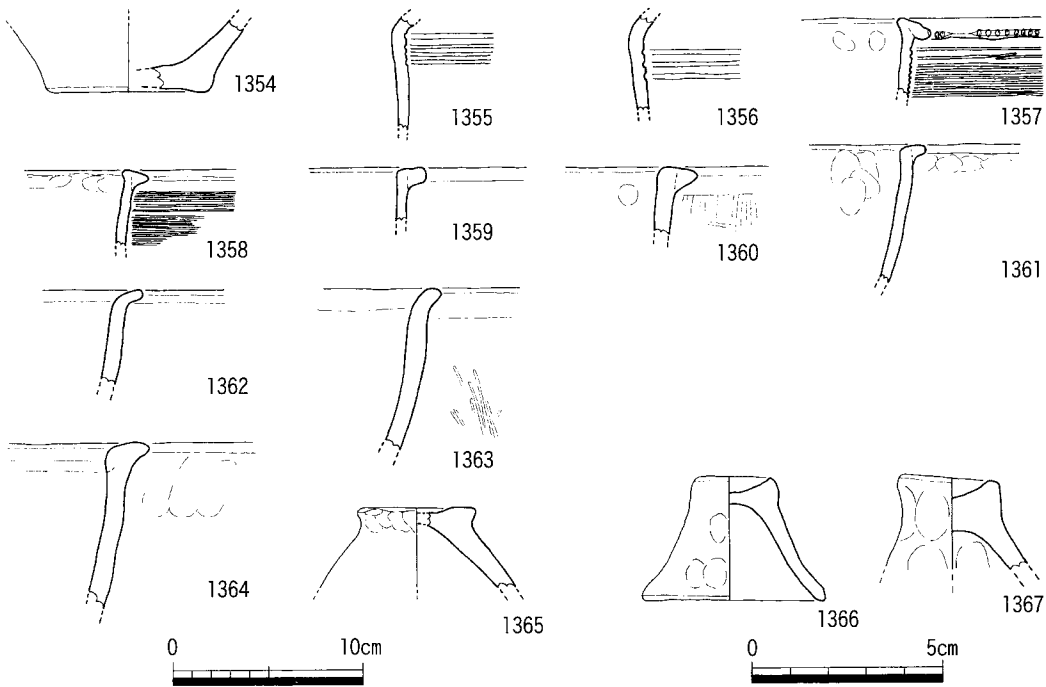
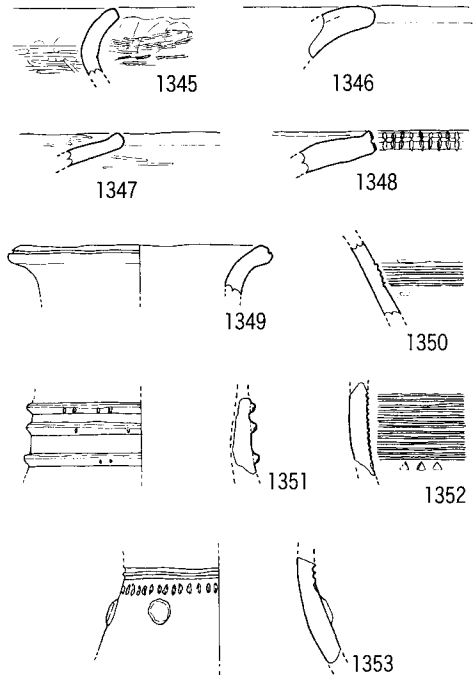
S K 1291 (第333図)



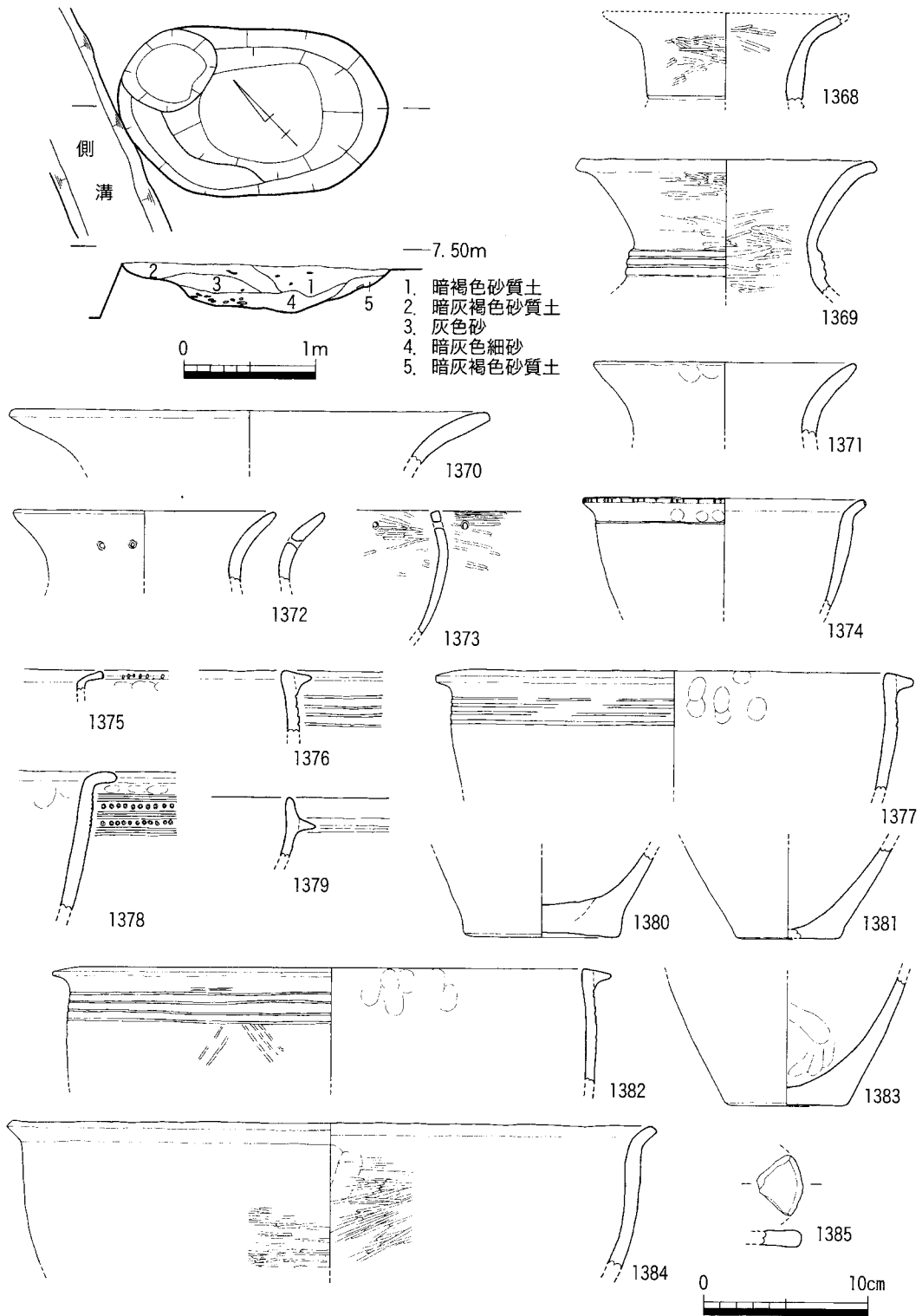
第330図 S K 1288平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



- 1. 暗褐色砂質土
- 2. 灰色シルト
- 3. 暗黄色土ブロック混じり暗灰色シルト



第331図 SK1289平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4, 1/2)



第332図 S K 1290平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



3区北西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はほぼ楕円形を呈し、長軸1.0m、短軸0.5m、深さ0.1mを測る。底面からは小穴が検出されたが、S K 1291に伴うものかどうか不明である。出土遺物は微量で、甕がみられる。1386は甕の体部片で、半截竹管ヘラ描沈線文と三角形刺突文を施す。

S K 1292 (第334図, 図版20)

3区北西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し、長軸1.6m、短軸1.15mを測る。3段掘りとなり、東部が最も低くなる。最深部で深さ0.5mを測る。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、壺・甕・鉢がみられる。1387～1393は壺である。1387はヘラ描沈線文を現存で2条施す。1390は口縁部内面に開口部をもつ貼付突帯を施し、頸部外面にも貼付突帯を施す。1391は体部片で、押圧貼付突帯現存1条を施す。下部はヘラ描沈線文または貼付突帯剥落痕である。1394～1398は甕である。1394～1396は甕で、1394は口縁端部にヘラ描沈線文、外面にヘラ描沈線文3条を施す。1395も外面にヘラ描沈線文現存1条施す。1396は摩滅のため文様の有無は不明である。

S K 1293 (第335図)

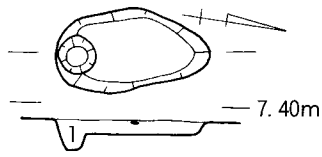
3区北西部、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1294・S K 1295・S K 1296・S K 1297が重複し、北部の一部が削平されている。平面形は隅丸方形を呈し、長軸2.4m、短軸1.3mを測ると推定される。2段掘りとなり、西部は一段窪む。西部の窪みは平面形隅丸長方形を呈し、底面は平坦である。断面形は箱形を呈し、最深部で深さ0.45mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕・鉢、石錐等がみられる。1400～1403は壺で、1403は頸部外面に貼付突帯を施す。1404は甕で、口縁部は如意状を呈する。ヘラ描沈線文を3条施すが、最上部のヘラ描沈線文の上方を板状工具で掻き取ることにより段を形成する。

S K 1294 (第336図, 図版21)

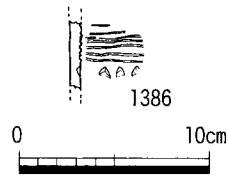
3区北西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し、長軸1.1m、短軸0.9mを測る。壁の立ち上がりは急で、床面は平坦であるが、南部は一段窪む。土器片の大半はこの窪みの埋土から出土した。この窪みは重複する先行土坑の可能性も考えられる。出土遺物は少量で、壺・甕・蓋がみられる。1413～1418は甕で、口縁部はいずれも如意状を呈する。1419はヘラ描沈線文を3条施す。1420は鉢で、把手が付く。

S K 1295 (第337図)

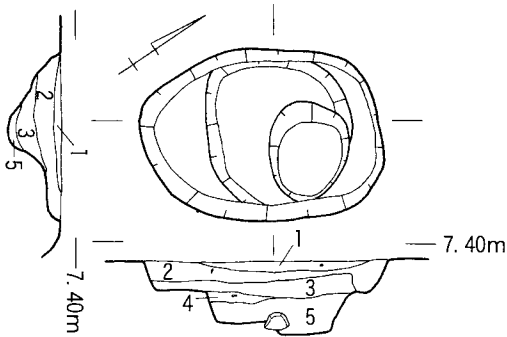
3区北西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し、長軸0.8m、短軸0.65m、深さ0.2mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。1427は如意状を呈する



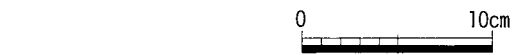
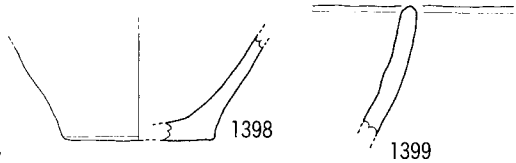
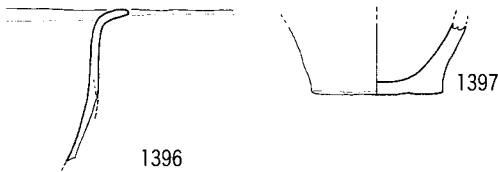
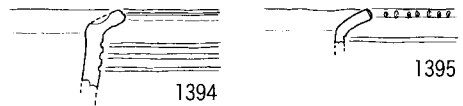
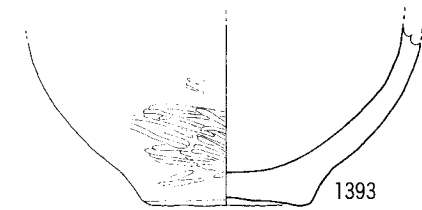
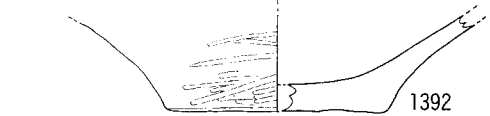
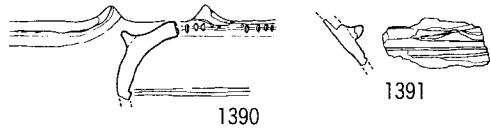
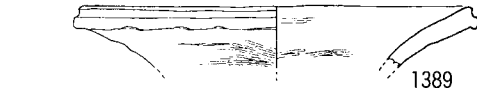
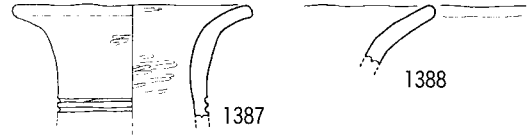
1. 暗茶色砂質土



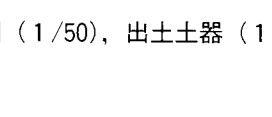
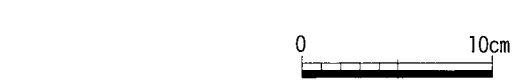
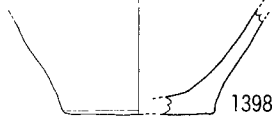
第333図 S K 1291平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



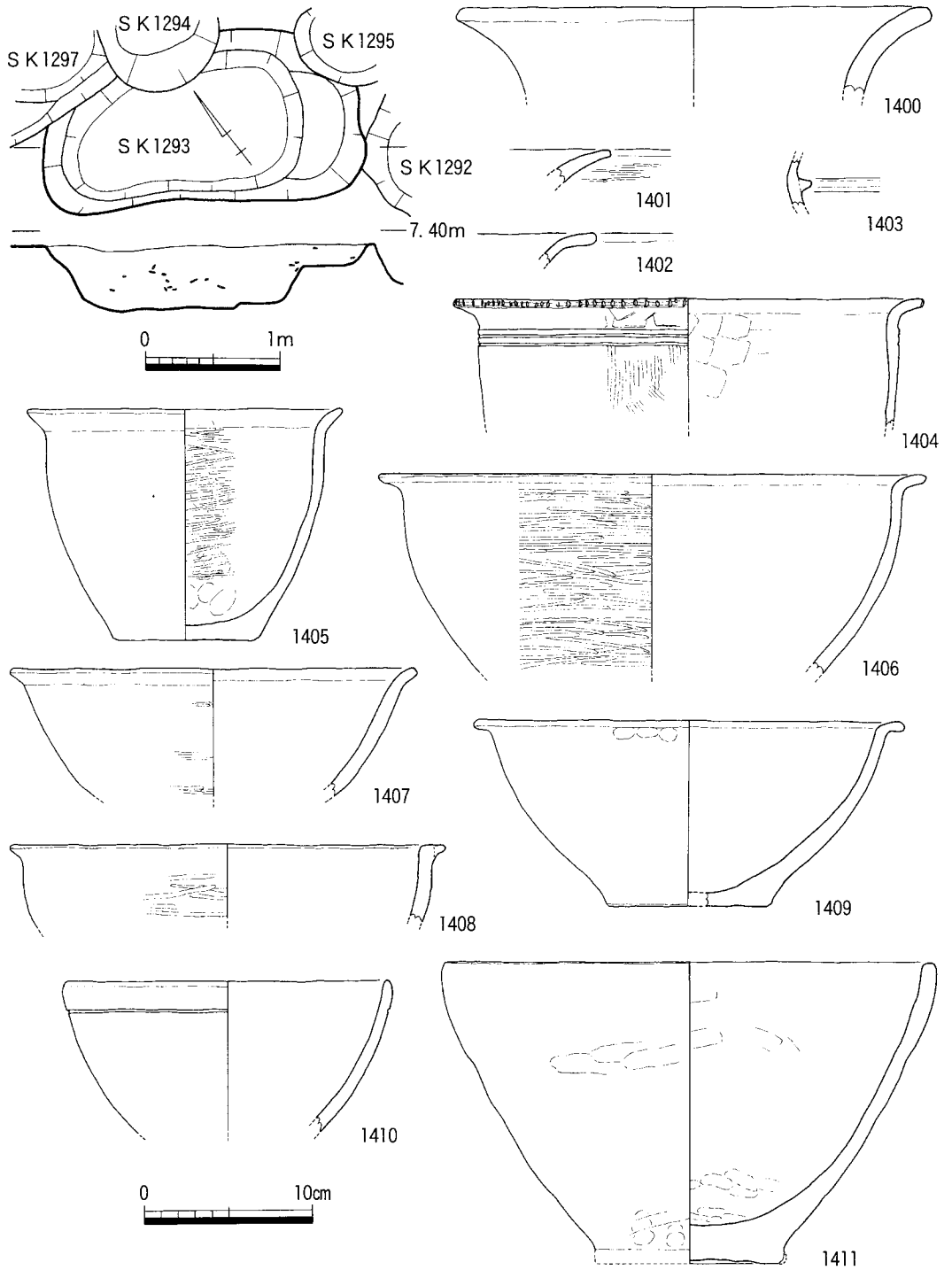
1. 褐色粘質土 (炭化物を多量に含む)
2. 暗黄色砂質土
3. 暗灰色砂質土
4. 焼土
5. 黒灰色粘質土 (炭化物を多量に含む)



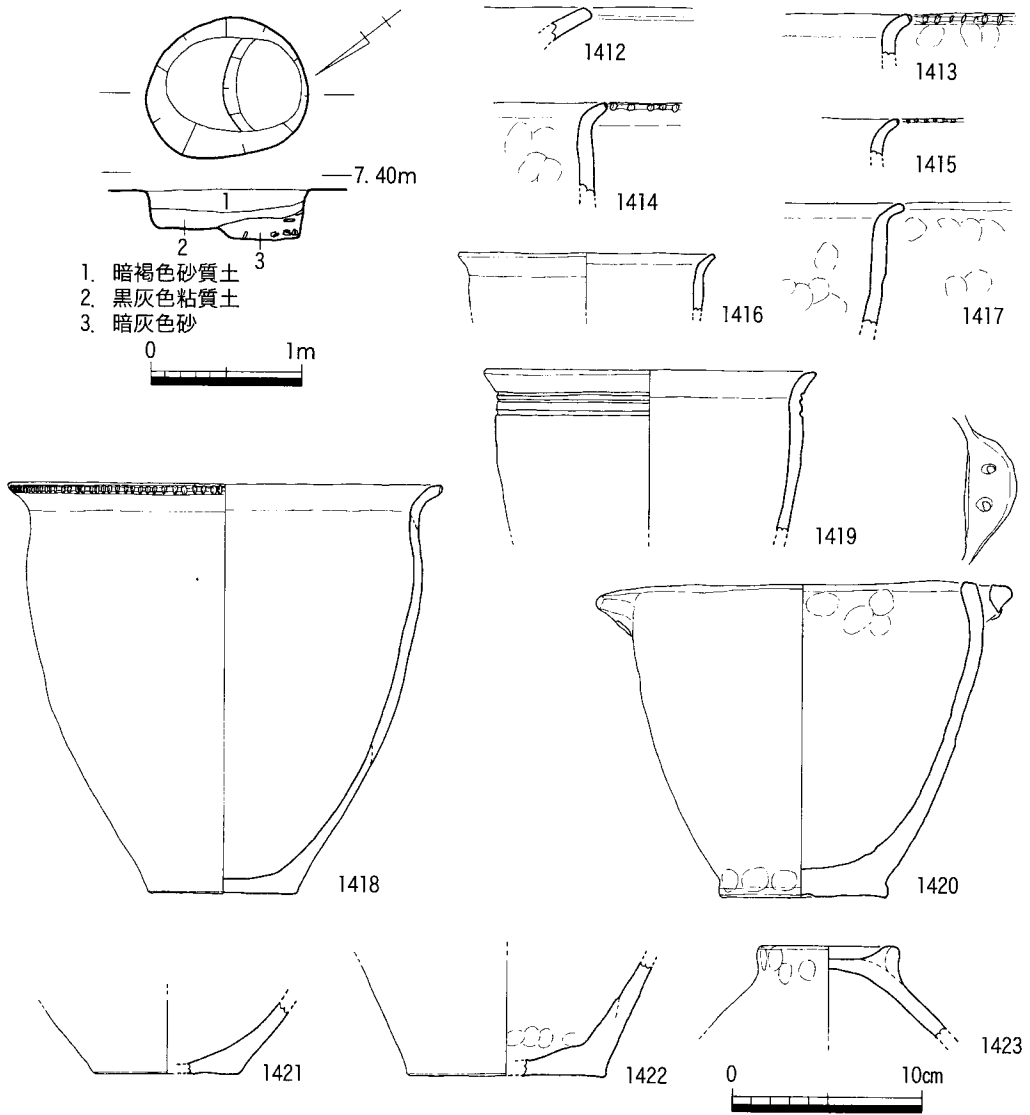
1396



第334図 S K 1292平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第335図 S K 1293平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

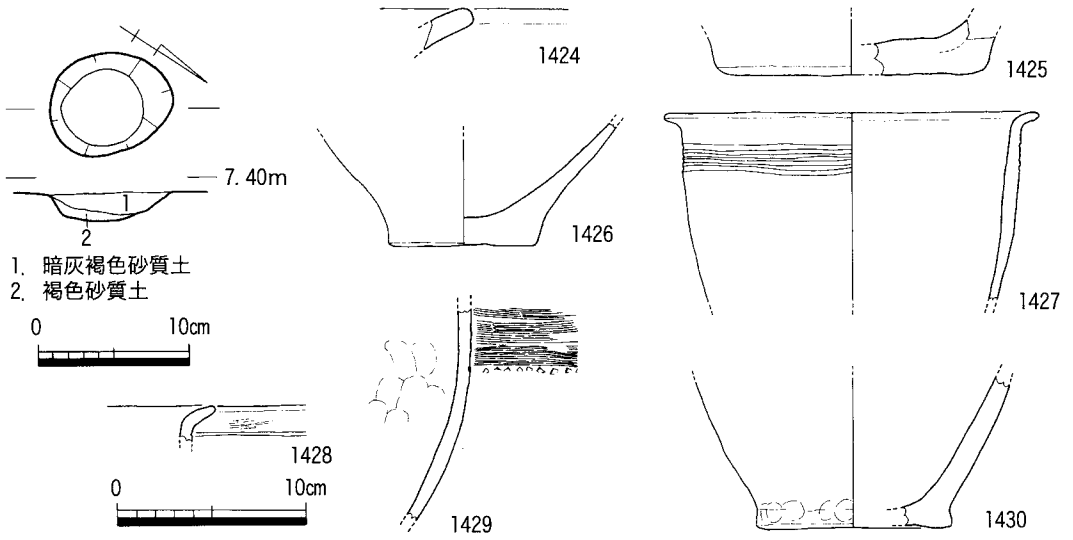


第336図 S K 1294平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

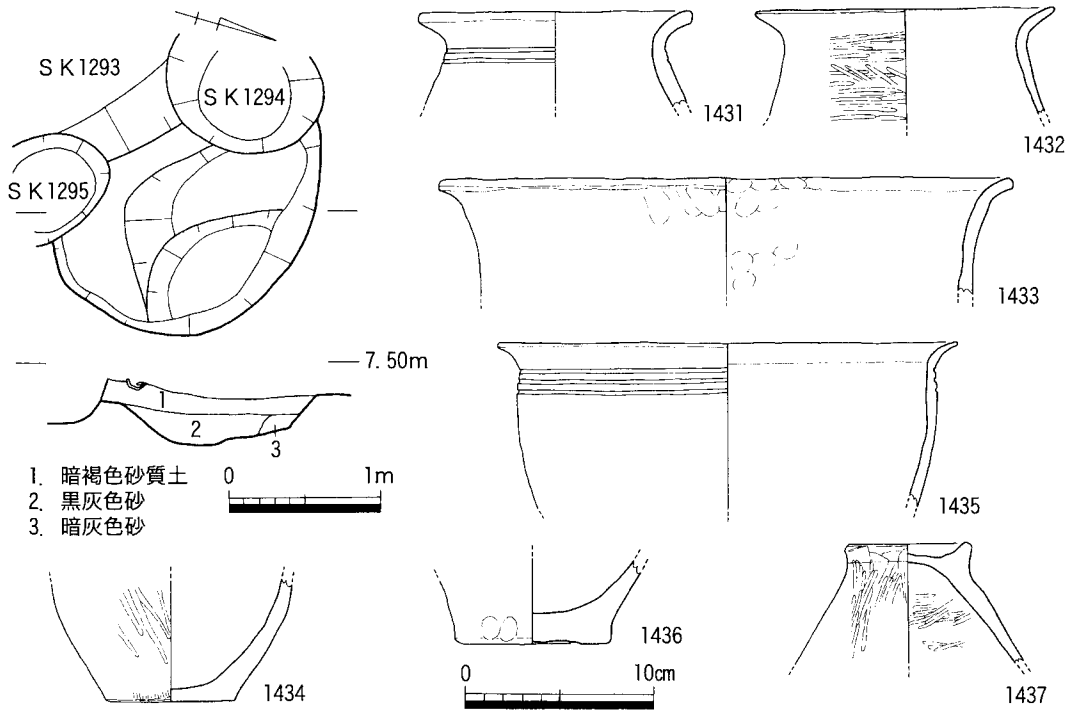
口縁部をもつ甕で、ヘラ描沈線文4条施す。1429は甕の体部片である。櫛描直線文と三角形刺突文を施す。

S K 1296 (第338図)

3区北西部、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1293・S K 1294・S K 1295が重複し、一部が削平されている。残存部分から想定すると、平面形はややいびつな楕円形になるものと推定される。長軸は残存部分で1.9m, 短軸は1.3m以上を測る。底面は平坦ではなく、北部が最も低い。最深部で0.35mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕・蓋, 石包丁・



第337图 S K 1295平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)



第338图 S K 1296平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)

刃器等がみられる。1431～1433は壺である。1431は頸部にヘラ描沈線文2条施す。1435は甕である。口縁部は如意状を呈し、ヘラ描沈線文3条施す。

S K 1297 (第339図)

3区北西部、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1294・S K 1298が重複し、一部が削平されている。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸2.2m、短軸1.2mを測る。東部は一段窪んでおり、窪みの長軸は1.0m、短軸0.9m、最深部で深さ0.45mを測る。また、西部の深さは0.15mを測る。この窪みは先行する土坑である可能性が高い。出土遺物は少量で、甕、石皿または砥石がみられる。1438・1439は甕の口縁部片であるが、いずれも口縁部は如意状を呈する。1439はヘラ描沈線文を現存で2条施す。

S K 1298 (第340図)

3区北西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸1.3m、短軸0.95m、深さ0.1mを測る。底面からは小穴が検出されたが、S K 1298に伴うかどうかは不明である。出土遺物は少量で、壺がみられる。1442・1443は壺の頸部片で、1442は外面にヘラ描沈線文を4条、1443は3条施す。

S K 1299 (第341図)

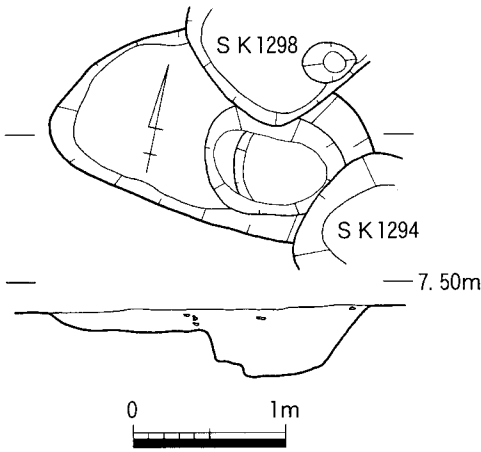
3区北西部、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1302・S K 1303や溝S D 1064が重複し、一部が削平されている。平面形はいびつな楕円形になるものと推定される。長軸は2.2m、短軸は1.3mを測る。北東部が最も低くなっており、最深部で深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で、甕・壺、扁平片刃石斧がみられる。1444・1445は甕である。いずれも口縁部は如意状を呈する。1444・1445はヘラ描沈線文を3条施す。1447は大型壺の口縁部である。頸部外面には削出突帯第Ⅱ種で、突帯間に沈線1条、内面には貼付突帯を1条施す。

S K 1300 (第342図)

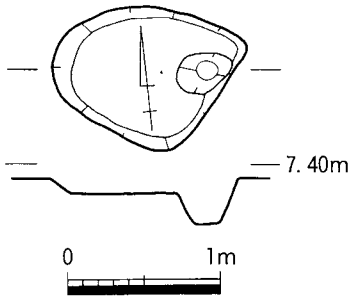
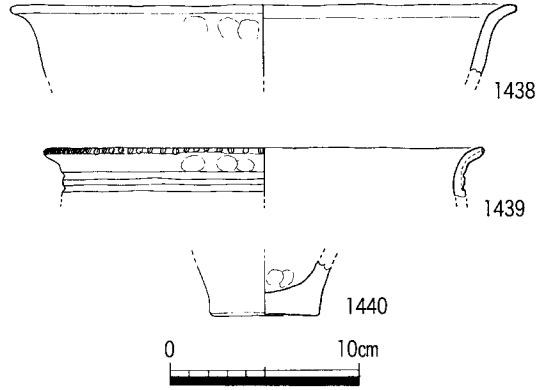
3区北西部、環濠内側に位置する土坑である。溝S D 1064と重複し、一部が削平されている。平面形は円形を呈し、径0.6m、深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。1448は壺の口頸部片で、頸部にヘラ描沈線文を現存で1条施す。1449は如意状を呈する口縁部をもつ甕である。外面にヘラ描沈線文を2条施す。

S K 1301 (第343図)

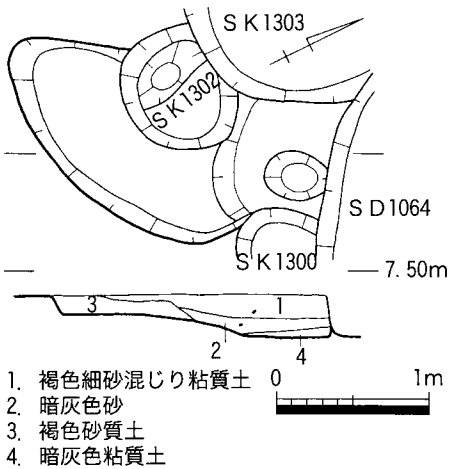
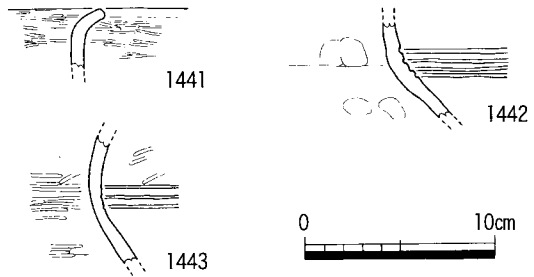
3区北西部、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1299・S K 1300と重複し、一部が削平されている。平面形は楕円形を呈し、長軸0.8m、短軸0.55mと推定される。断面形



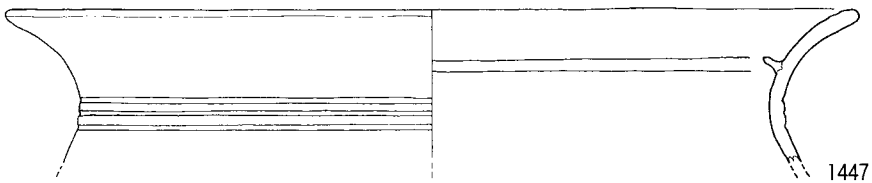
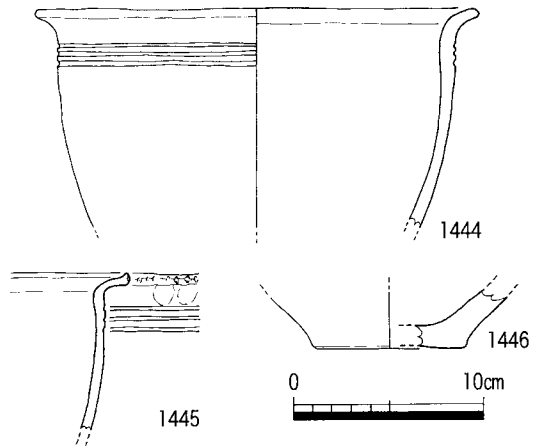
第339図 S K 1297平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第340図 S K 1298平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



1. 褐色細砂混じり粘質土
2. 暗灰色砂
3. 褐色砂質土
4. 暗灰色粘質土



第341図 S K 1299平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

は浅い皿状を呈し、深さ0.15mを測る。出土遺物は少量で、壺がみられる。1450・1451は壺の体部片である。1451は体部外面に貼付刻目突帯を現存で2条施す。

S K 1302 (第344図)

3区北西部、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1303と重複し、一部が削平されている。平面形は楕円形を呈し、長軸0.85m、短軸0.7mを呈するものと推定される。東部は深さ0.15mを測る。西部は一段窪んでおり、深さ0.4mを測る。先行する柱穴の可能性が高い。出土遺物は微量で、甕片がみられる。

S K 1303 (第345図)

3区北西部、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1304や溝S D 1064と重複し、一部が削平されている。平面形はほぼ円形を呈し、径1.4～1.6mを測る。東部が窪んでおり、最深部で深さ0.15mを測る。窪みの南部に径0.3m、深さ0.2mの小穴が検出されたが、S K 1303に伴うものかどうかは不明である。出土遺物は少量で、壺・甕、柱状片刃石斧がみられる。1456～1461は甕の口縁部片である。1456・1457・1459は口縁部は如意状を呈する。1459はヘラ描沈線文を4条施す。1458は口縁部が剥落しているが、逆L字口縁を呈すると推定される。1460・1461は逆L字口縁を呈し、1460はヘラ描沈線文を現存で7条、1461は現存で6条施す。

S K 1304 (第346図)

3区北西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はややいびつな円形を呈し、径0.95～1.15m、深さ0.2mを呈する。南部に径0.4～0.5m、深さ0.1mの小穴が検出された。S K 1304に伴うものかどうかは不明である。出土遺物は微量で、甕、石鍬がみられる。1463は甕の口縁部片で、逆L字口縁を呈する。外面にはヘラ描沈線文を現存で2条施す。

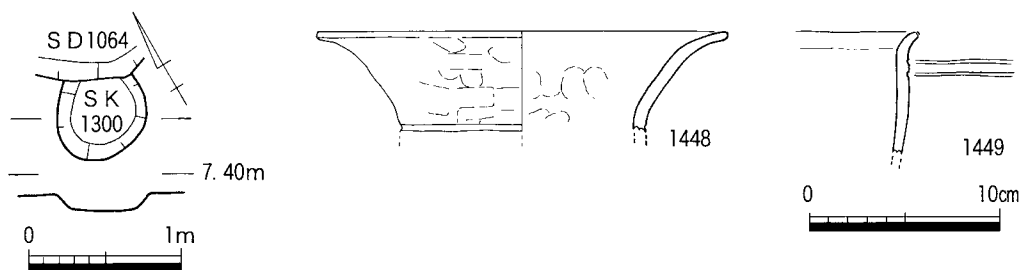
S K 1305 (第347図)

3区北西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し、長軸1.1m、短軸0.9m、断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。1464は壺の口頸部で、口縁部と頸部の境に段をもつ。段は粘土紐接合部分に施されているようにも観察できる。1465は甕の体部片で、1465はヘラ描沈線文間にヘラ先による刺突文を施す。1466は甕の口縁部片で、ヘラ描沈線文2条施す。1467は逆L字口縁を呈し、半截竹管ヘラ描沈線文を6条施す。

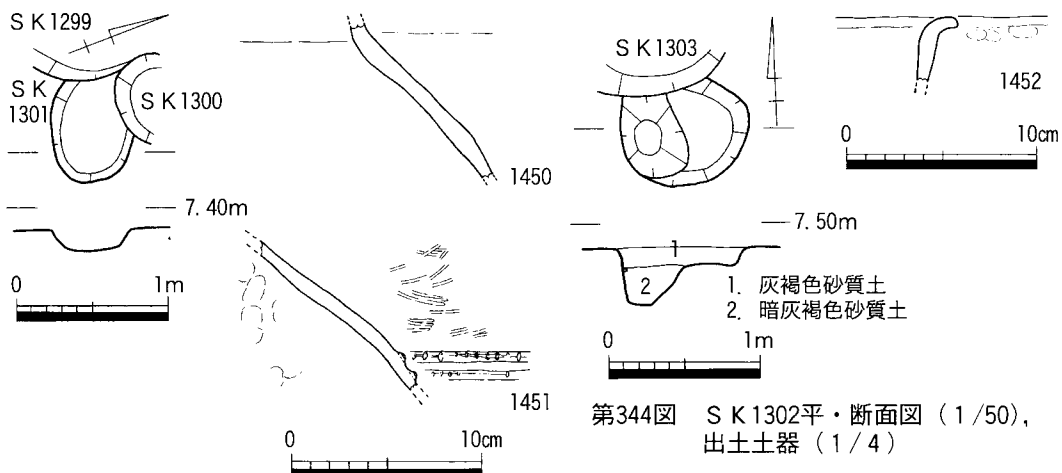
S K 1306 (第348図)

3区北西部、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1303・S K 1304・S K 1307が重



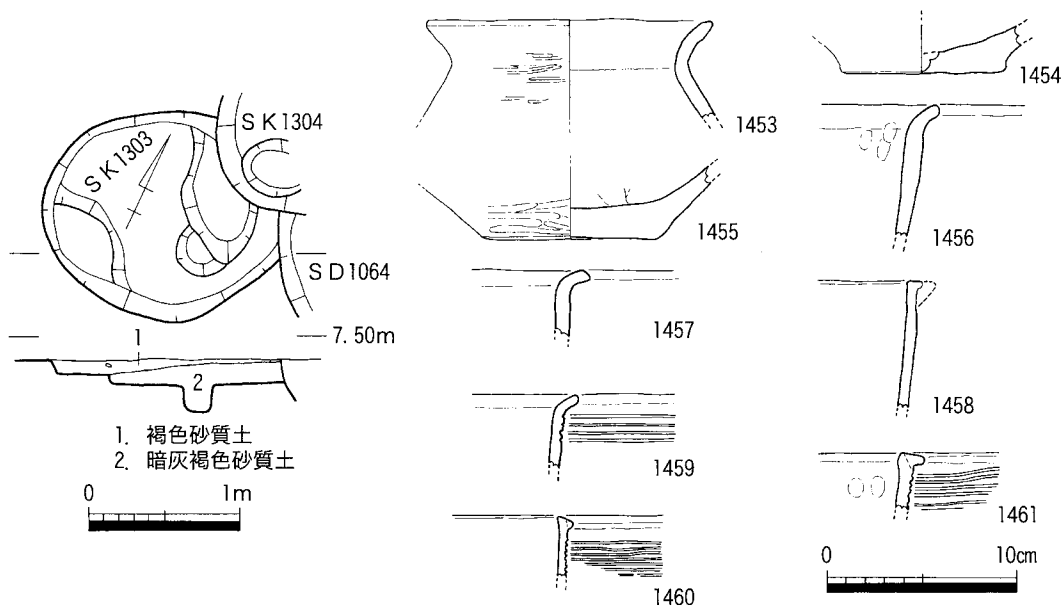


第342図 S K 1300平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

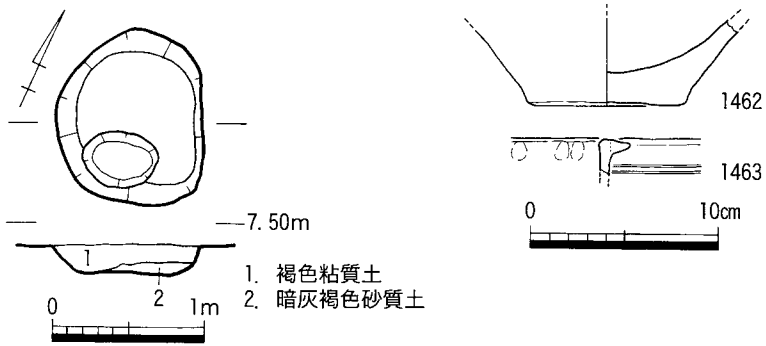


第344図 S K 1302平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

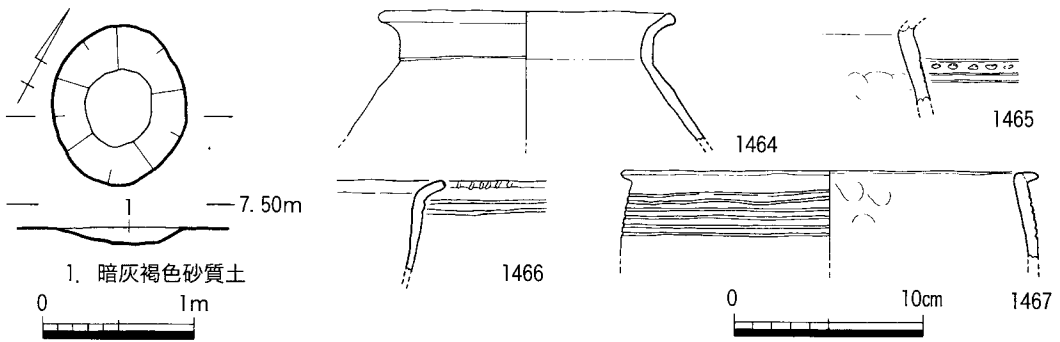
第343図 S K 1301平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



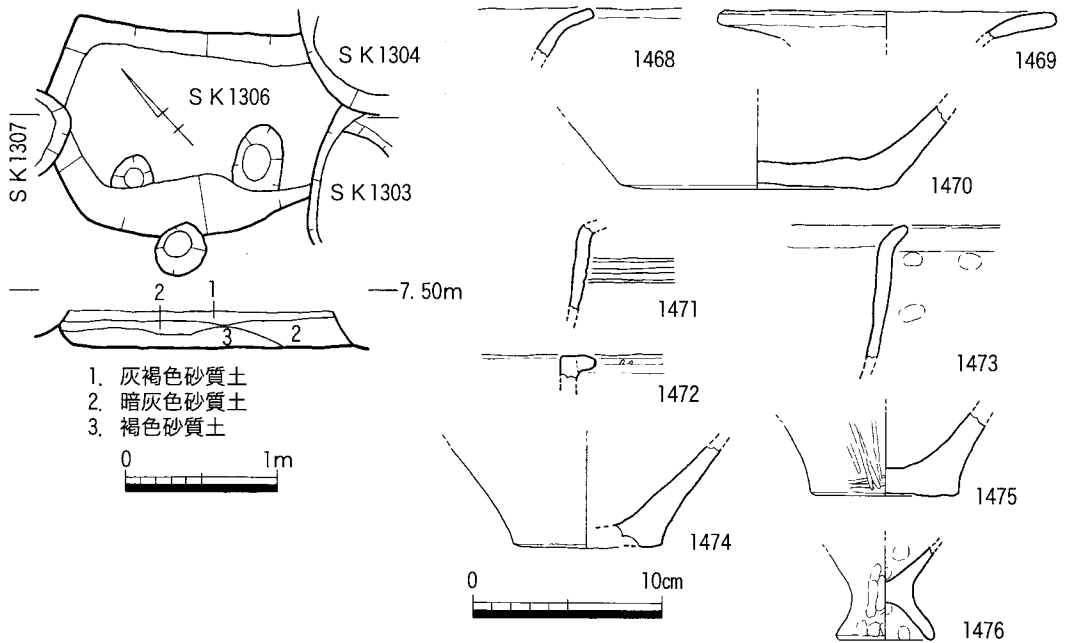
第345図 S K 1303平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



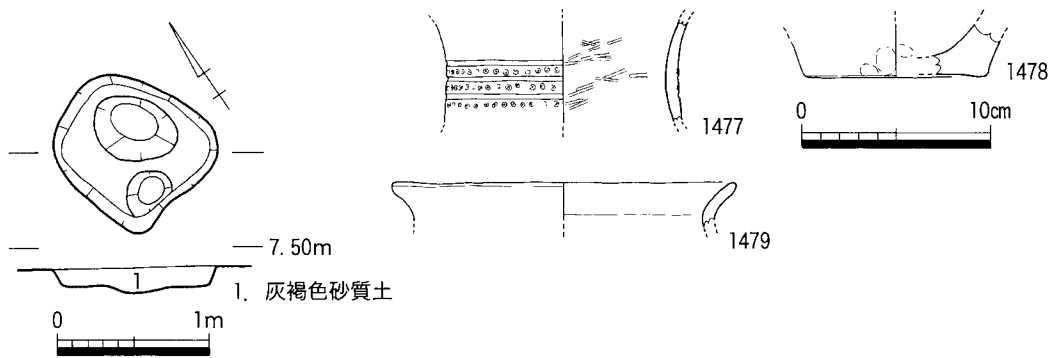
第346図 SK 1304平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



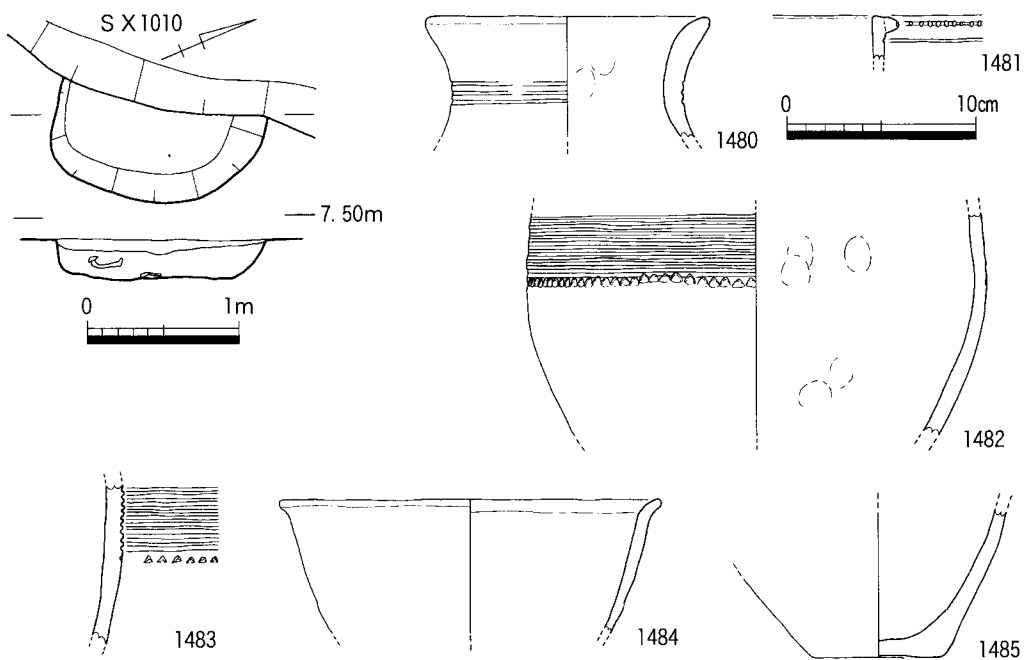
第347図 SK 1305平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第348図 SK 1306平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第349図 S K 1307平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第350図 S K 1308平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

複し、一部が削平されている。平面形はややいびつな隅丸長方形を呈するものと推定される。長軸は残存部分で2.0m、短軸1.35mを測る。断面形は箱形を呈し、底面は平坦である。深さは0.35mを測る。南部の底面からは2個の小穴（径0.3～0.4m、深さ0.1m）が検出されたが、S K 1306に伴うものかどうか不明である。出土遺物は少量で、壺・甕・ミニチュア土器がみられる。1471は甕の体部片で、ヘラ描沈線文を3条施す。

#### S K 1307（第349図）

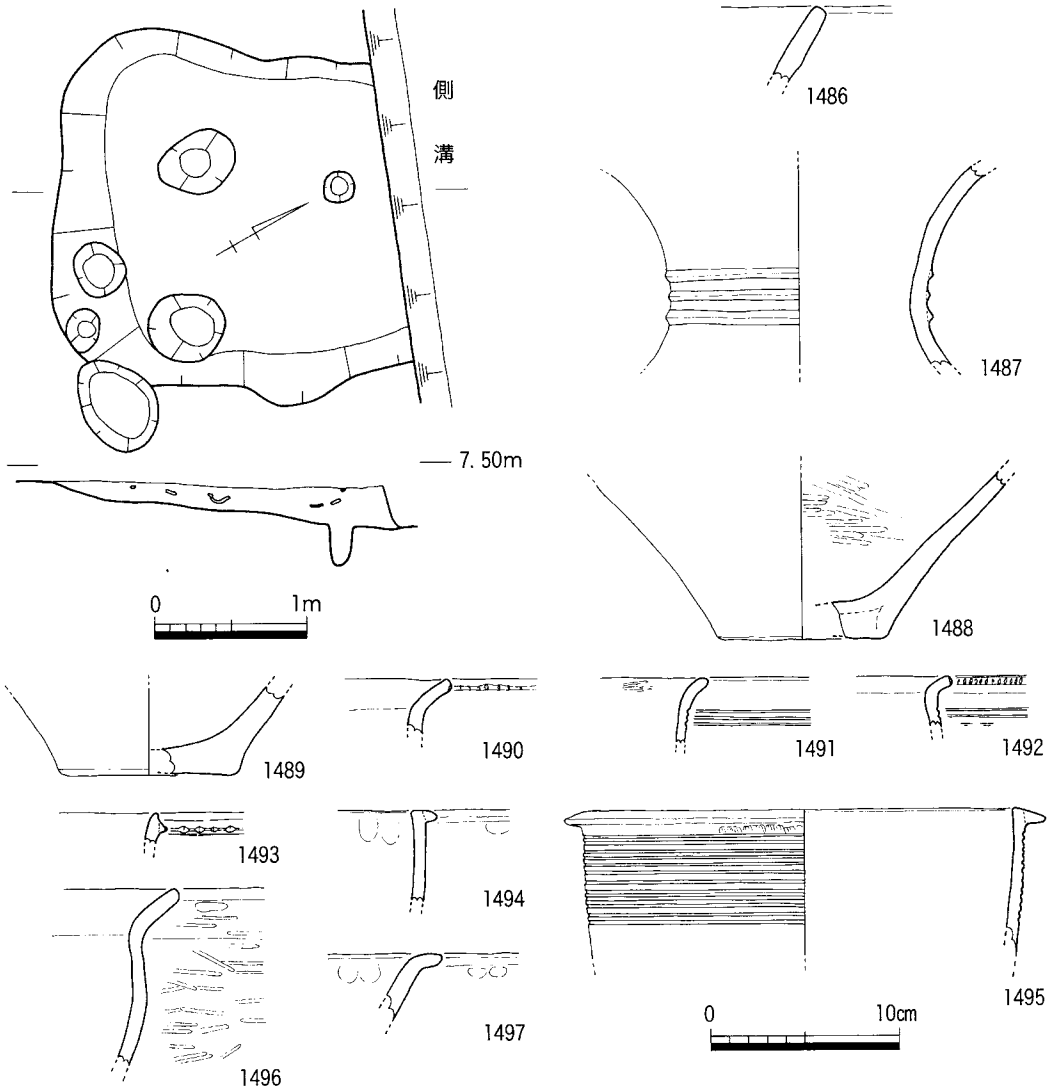
3区北西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はいびつな隅丸方形を呈し、長軸1.0m、短軸0.9mを呈する。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.15mを測る。底面には2個の小穴（径0.3～0.5m、深さ0.2m）が検出されたが、S K 1307に伴うものかどうか不明である。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。1477は壺の頸部片で、ヘラ描沈線文と竹管文を施す。

#### S K 1308（第350図）

3区北西端、環濠内側に位置する土坑である。落ち込みS X 1010と重複するため、一部が削平されている。残存部分から、平面形は隅丸方形になるものと推定される。長軸は1.4m以上を測る。断面形は舟形を呈し、南壁の立ち上がりは急で、北壁の立ち上がりは緩い。底面は平坦で、深さ0.3mを測る。埋土下部からは大形土器片がまとまって出土した。出土遺物は少量で、壺・甕・鉢がみられる。1480は壺の口頸部で、頸部にヘラ描沈線文を3条施す。1481～1483は甕である。1481は逆L字口縁を呈し、ヘラ描沈線文を現存で1条施す。1482・1483は甕の体部片で、1482は櫛描直線文と三角形刺突文、1483はヘラ描沈線文と三角形刺突文を施す。

#### S K 1309（第351図）

3区北西端、環濠内側に位置する土坑である。北側は排水用の側溝によって削平される。平面形はややいびつな隅丸方形を呈するものと推定される。長軸2.3m以上、短軸2.1mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、最深部で深さ0.3mを測る。底面から3個の小穴（径0.2～0.5m）が検出されたが、S K 1309に伴うものかどうか不明である。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、壺・甕・鉢、柱状片刃石斧・打製石斧・盤状剥片の分割材及び石核等がみられる。1486～1488は壺である。1487は壺の頸部片で、外面には貼付突帯を3条施す。1490～1495は甕である。1490～1492は如意状口縁を呈する。1491はヘラ描沈線文を3条、1492は現存で3条施す。1493は口縁端部から少し下がった位置に貼付刻目突帯を施す。1494・1495は逆L字口縁を呈し、1495はヘラ描沈線文を12条施す。



第351図 S K 1309平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

### S K 1310 (第352図)

3区北西端、環濠内側に位置する土坑である。平面形は卵形を呈する。長軸1.7m、短軸1.4mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.15mを測る。底面から3個の小穴(径0.15~0.3m、深さ0.1m)が検出されたが、S K 1310に伴うものかどうか不明である。出土遺物は微量で、甕片がみられる。1498は甕片で、口縁部は如意状を呈し、ヘラ描沈線文を2条施す。

### S K 1311 (第353図)

3区北西部、環濠内側に位置する土坑である。柱穴と重複し、一部が削平されている。平面形は瓢箪形を呈する。長軸1.5m、短軸0.9mを測る。3段掘りとなり、北部が窪む。最深部では深さ0.4mを測る。この窪みや南部の小穴(径0.2m、深さ0.1m)は先行する柱穴の可能性が高い。出土遺物は少量で、壺・甕・蓋、非サヌカイト製品がみられる。1499は壺の口頸部である。口縁端部に刻目を施す。内外面から焼成後穿孔を施すが、貫通はしていない。頸部にはヘラ描沈線文を現存で1条施す。1501~1503は甕である。1501・1502の口縁部は如意状を呈し、1501はヘラ描沈線文を6条施す。1503は逆L字口縁を呈し、ヘラ描沈線文を現存で2条施す。

### S K 1312 (第354図, 図版21)

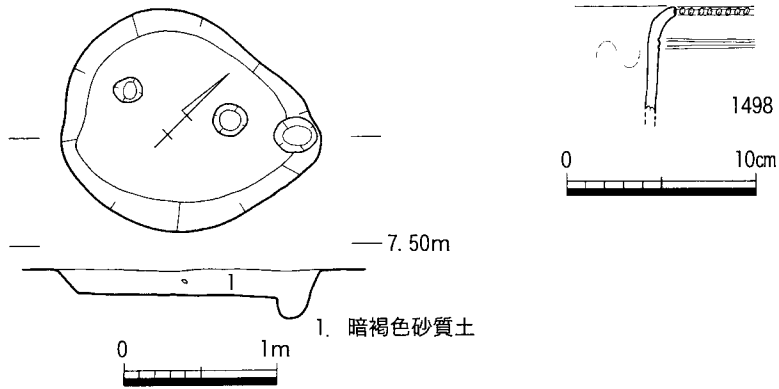
3区北西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は瓢箪形を呈し、長軸1.4m、短軸0.7mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.15mを測る。底面には小穴が検出されたが、S K 1312に伴うものかどうか不明である。1505は壺の頸部から体部片で、削出突帯第I種を施し、その下にヘラ描沈線文を3条施す。1506は体部にヘラ描沈線文とその間に竹管文を施す。1507~1509は甕で、1507は如意状の口縁部を呈し、ヘラ描沈線文2条施す。1508は口縁部は剥落しているが、逆L字口縁を呈し、ヘラ描沈線文を6条施す。

### S K 1313 (第355図)

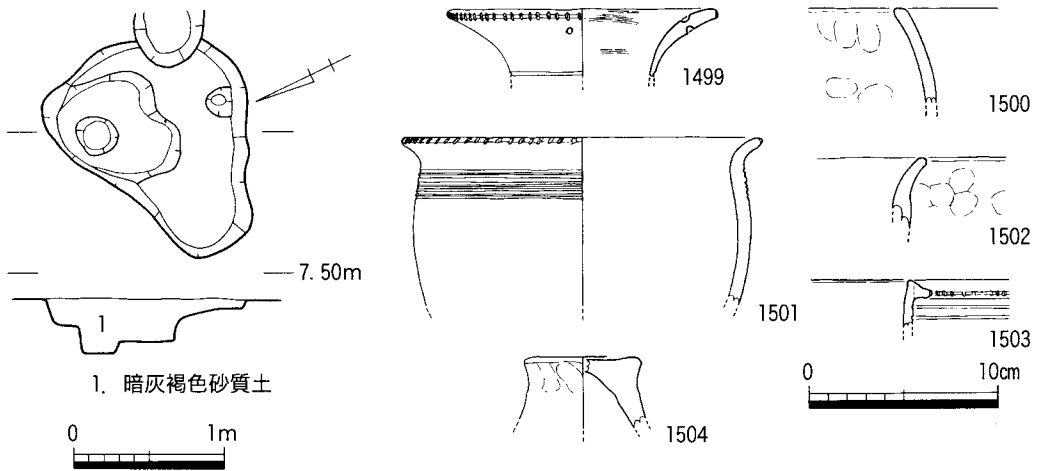
3区北西部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はややいびつな瓢箪形を呈し、長軸1.5m、短軸1.0mを測る。北部に張り出しがあり、張り出し以外は径1.1~1.3mのいびつな円形を呈する。深さは0.3mを測る。埋土最下部には炭粒が多く、炭化材を含む。埋土からは多数の遺物が出土した。出土遺物は少量で、壺・甕、刃器がみられる。1511は壺の頸部片で、貼付刻目突帯を1条施す。1514・1515は甕で、口縁部は如意状を呈する。

### S K 1314 (第356図)

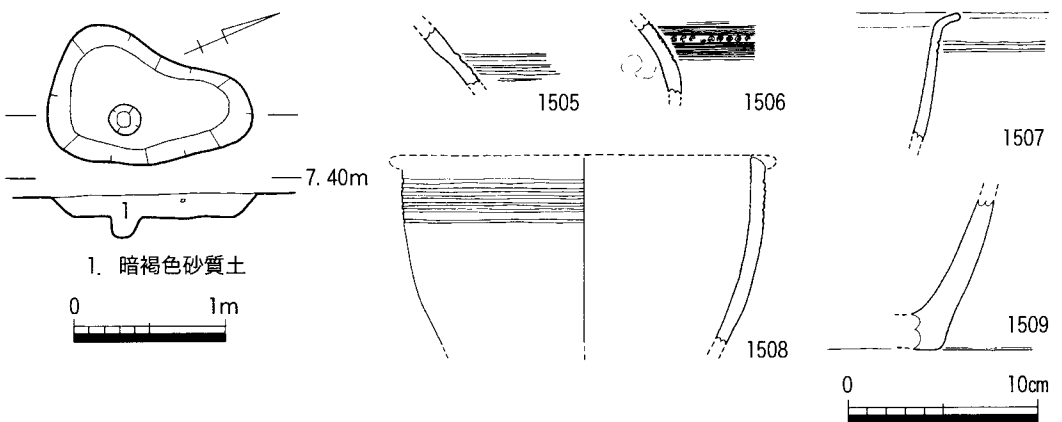
3区北部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は隅丸三角形を呈し、長軸1.6m、短



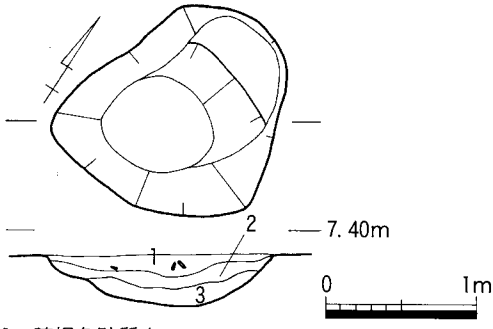
第352図 S K 1310平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



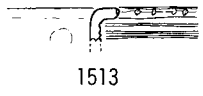
第353図 S K 1311平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



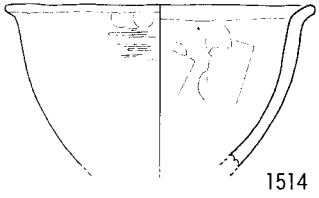
第354図 S K 1312平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



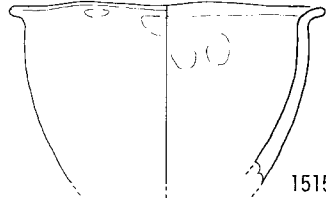
- 1. 暗褐色砂質土
- 2. 暗灰色砂
- 3. 黒灰色シルト（炭化物を多量に含む）



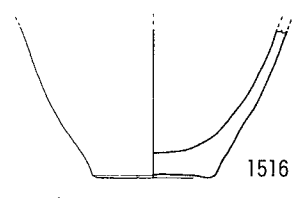
1513



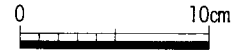
1514



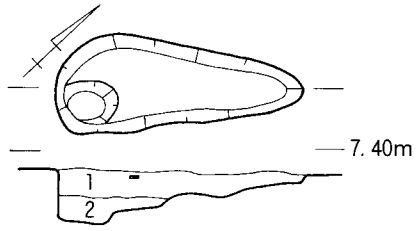
1515



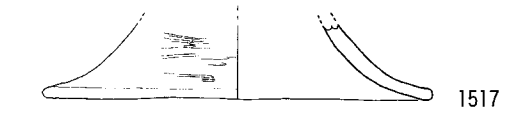
1516



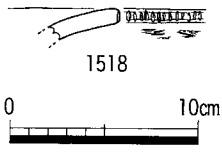
第355図 S K 1313平・断面図（1/50），出土土器（1/4）



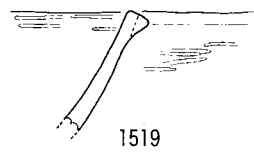
- 1. 暗褐色砂質土
- 2. 暗灰色細砂



1517



1518



1519



第356図 S K 1314平・断面図（1/50），出土土器（1/4）



軸0.65mを測る。床面は平坦ではなく、南西部に小穴（径0.3m、深さ0.4m）がみられる。先行する柱穴の可能性が高い。小穴を除く深さは0.3mを測る。出土遺物は少量で、蓋・壺・鉢、石鍬がみられる。1518は壺の口縁部片で、口縁端部に刻目を施す。

#### S K 1315（第357図）

3区北部、環濠内側に位置する土坑である。北部に土坑S K 1314が重複するため、一部が削平されている。平面形はほぼ円形を呈し、径1.1m前後を測る。底面には径0.3～0.4mの小穴が検出されているが、S K 1315に伴うものかどうか不明である。小穴を除くと、深さ0.2m測る。出土遺物は少量で、甕がみられる。1520・1521は甕で、いずれも口縁部は如意状を呈し、ヘラ描沈線文を3条施す。

#### S K 1316・S K 1317（第358図）

S K 1316は3区北部、環濠内側に位置する土坑である。S K 1317と重複し、S K 1317の一部を削平している。平面形はややいびつな隅丸方形を呈し、長軸2.75m、短軸0.9mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.15mを測る。S K 1317の平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸1.8m、短軸0.95mを測る。北部が一段低くなっており、最深部で深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕、石匙がみられる。1522は壺の体部片で、ヘラ描沈線文と竹管文を施す。1523・1524は甕片で、いずれも口縁部は如意状を呈する。

#### S K 1318（第359図）

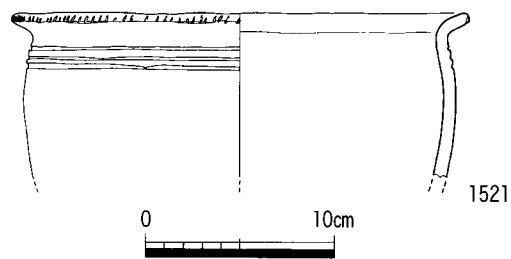
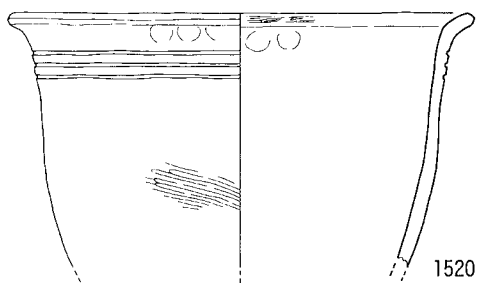
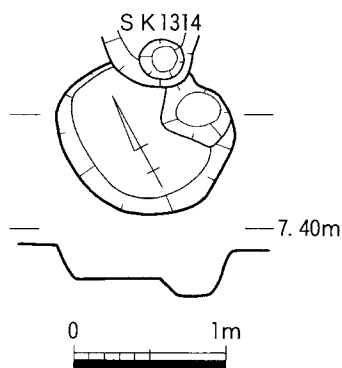
3区北端、環濠内側に位置する土坑である。北部は調査区外に連続するため、全体は不明である。S K 1319と重複し、一部が削平されている。平面形は不明であるが、長軸2.8m以上、短軸1.2m以上を測ると推定される。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.25mを測る。出土遺物は微量で、甕の底部片がみられる。

#### S K 1319（第359図）

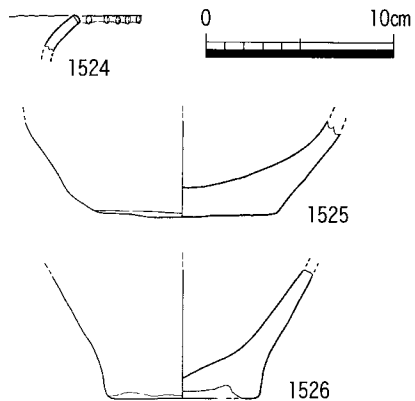
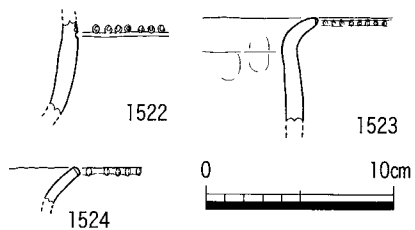
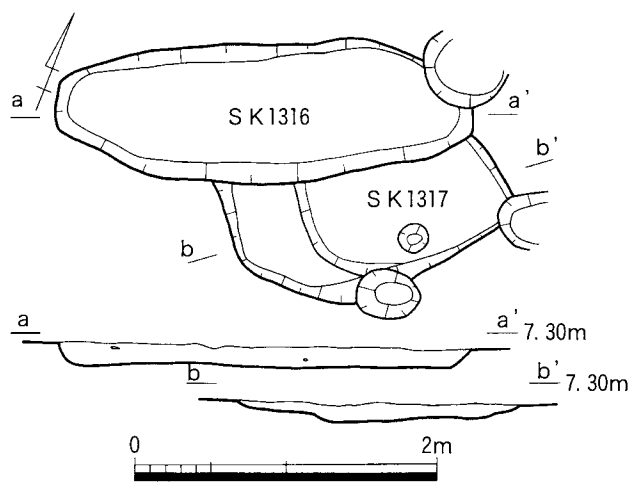
3区北端、環濠内側に位置する土坑である。北部は調査区外に連続するため、全体は不明である。S K 1318と重複し、一部を削平している。また、東部では土坑S K 1320と重複し、一部が削平されている。平面形は不明であるが、現状では長軸2.1mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.25mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕片がみられる。1529は甕の口縁部片で、逆し字口縁を呈し、ヘラ描沈線文を現存で2条施す。

#### S K 1320（第359図）

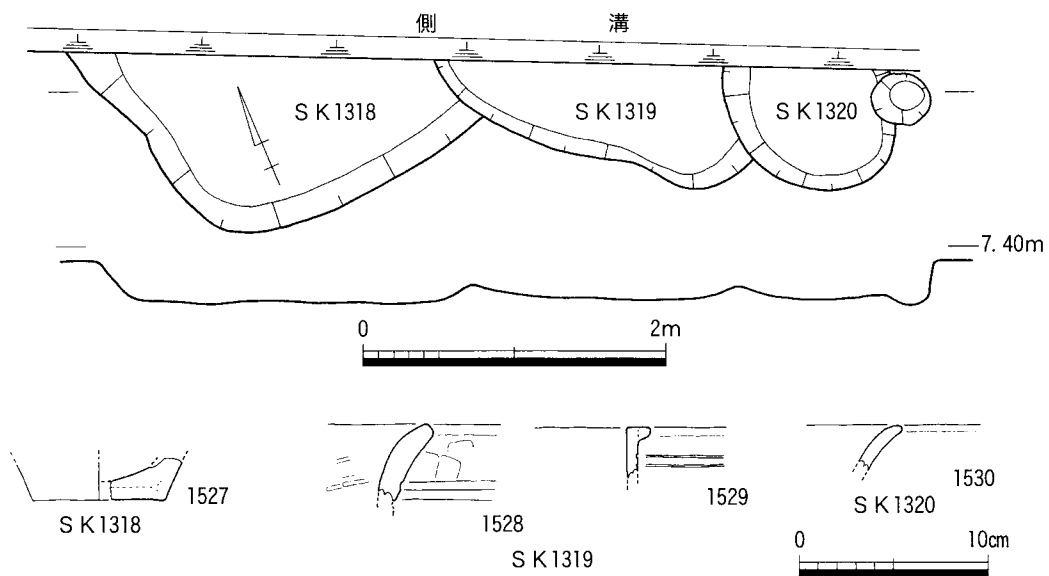
3区北端、環濠内側に位置する土坑である。北部は調査区外に連続するため、全体は不明である。東部では柱穴と重複し、一部が削平されている。平面形はほぼ円形を呈し、径



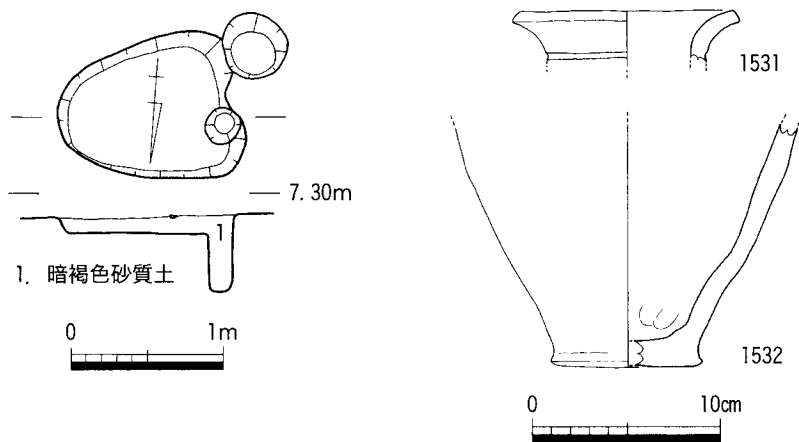
第357图 S K 1315平・断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)



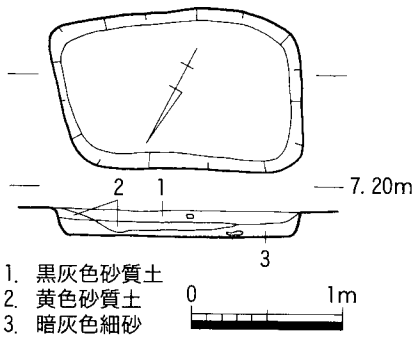
第358图 S K 1316・S K 1317平・断面图 (1/50), S K 1317出土土器 (1/4)



第359図 S K 1318・S K 1319・S K 1320平・断面図（1/50），出土土器（1/4）

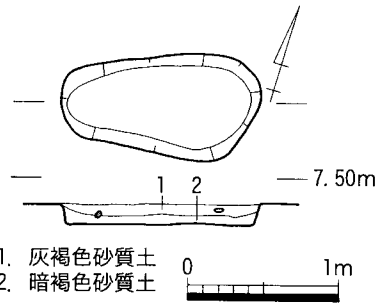


第360図 S K 1321平・断面図（1/50），出土土器（1/4）



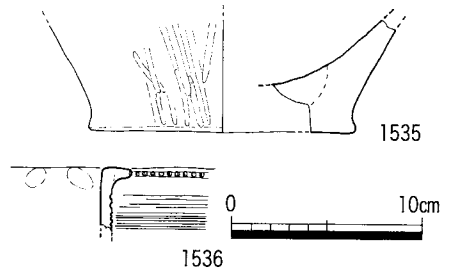
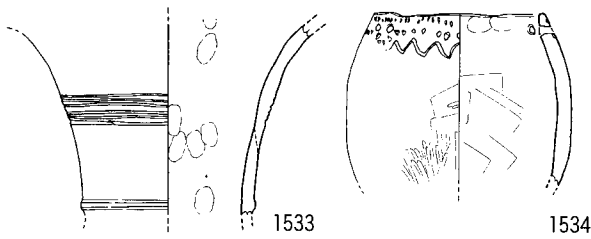
1. 黒灰色砂質土
2. 黄色砂質土
3. 暗灰色細砂

第361図 S K 1322平・断面図 (1/50)

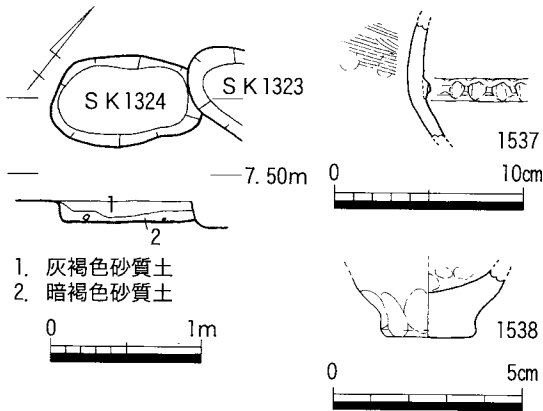


1. 灰褐色砂質土
2. 暗褐色砂質土

第362図 S K 1323平・断面図 (1/50)

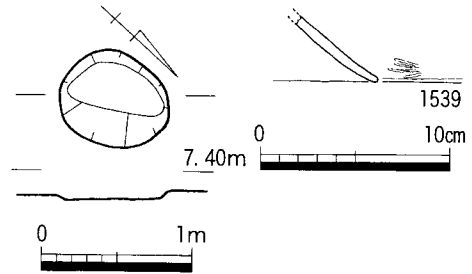


第363図 S K 1323出土土器 (1/4)

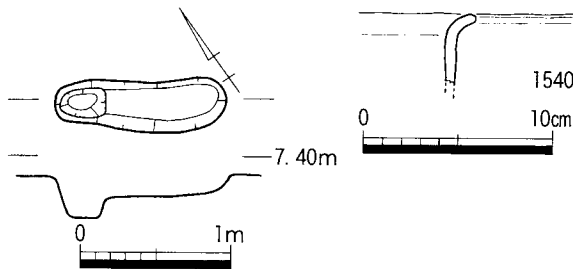


1. 灰褐色砂質土
2. 暗褐色砂質土

第364図 S K 1324平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4, 1/2)



第365図 S K 1325平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)



第366図 S K 1326平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4, 1/2)

1.1m程度であると推定される。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.25mを測る。出土遺物は微量で、壺の口縁部片がみられる。

#### S K 1321 (第360図)

3区北部、環濠内側に位置する土坑である。柱穴と重複し、一部が削平されている。平面形はハート形を呈する。長軸は1.3m、短軸は1.0mを測る。西部底面には小穴が検出されたが、S K 1321に伴うものかどうか不明である。小穴を除く深さは0.1mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。1531は壺の口頸部片で、頸部にヘラ描沈線文を現存で1条施す。

#### S K 1322 (第361図)

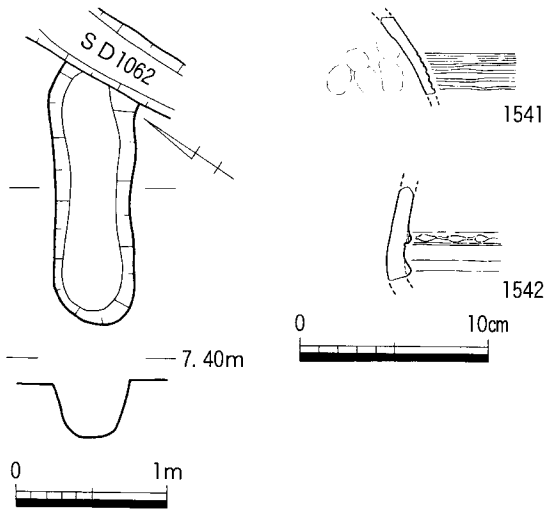
3区北部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は隅丸長方形を呈する。長軸1.7m、短軸1.05mを測る。底面は平坦で、深さ0.15mを測る。壁の立ち上がりは急で、断面形は箱形を呈する。本遺跡で検出された平面形隅丸長方形の土坑は長軸の壁の立ち上がりは一方が緩く、一方が急で、断面形が舟形を呈するものが一般的である。S K 1322の断面形は異なるが、断面形舟形の土坑と埋土の堆積状況は近似する。出土遺物は少量で、壺・無頸壺がみられる。1534は無頸壺で、口縁部外面に円孔を2個施し、粗雑な三角形刺突文を2列と櫛描波状文を施す。

#### S K 1323 (第362・363図)

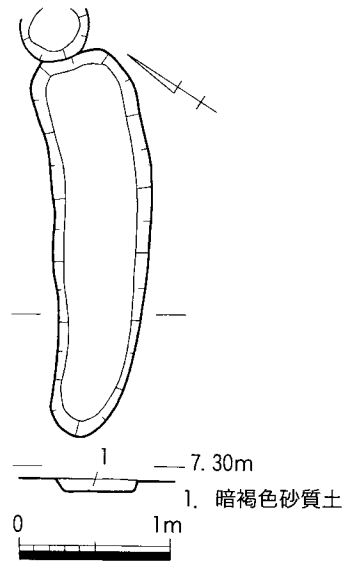
3区中央部西寄り、環濠内側に位置する土坑である。平面形はややいびつな楕円形を呈する。長軸1.3m、短軸0.7mを測る。壁の立ち上がりは急で、底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。深さ0.15mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕、石包丁等がみられる。1533は壺の頸部である。摩滅しているが、頸部上半にヘラ描沈線文6条、頸部と体部の境に貼付突帯または削出突帯第I種がみられる。1534は無頸壺である。口縁端部はいびつで、口縁部には円孔が2個みられ、内傾する。口縁部外面にはヘラ先による刺突文と粗雑な三角形刺突文を2列施し、その下には1条の櫛描波状文を施す。1536は逆L字口縁を呈し、ヘラ描沈線文を現存で6条施す。

#### S K 1324 (第364図)

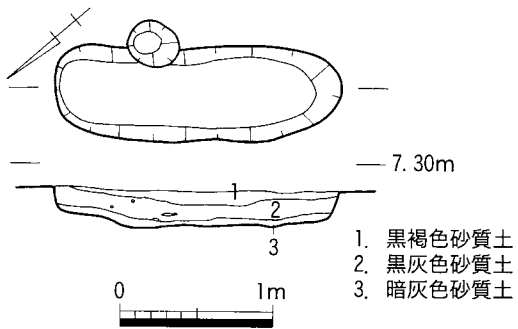
3区中央部やや西寄り、環濠内側に位置する土坑である。土坑S K 1323と重複し、一部が削平されている。平面形は楕円形を呈し、長軸1.0m、短軸0.6mを測る。壁の立ち上がりは急で、底面は平坦である。断面形は箱形を呈し、深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で、壺・ミニチュア土器片がみられる。1537は壺の頸部片で、外面には押圧貼付突帯を1条施



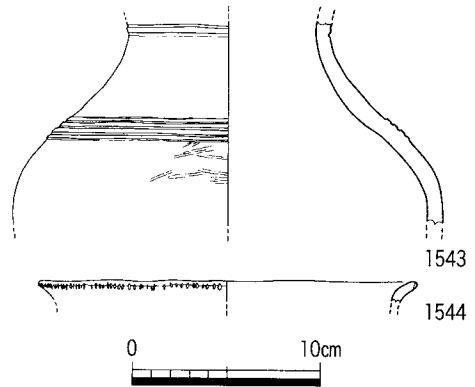
第367図 S K 1327平・断面図 (1/50),  
出土土器 (1/4)



第368図 S K 1328  
平・断面図 (1/50)



第369図 S K 1329平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



す。

S K 1325 (第365図)

3区ほぼ中央部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は円形を呈し、径0.7m、深さ0.05mを測る。出土遺物は微量で、蓋片、大型盤状剥片がみられる。

S K 1326 (第366図)

3区北端、環濠内側に位置する土坑である。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸1.15m、短軸0.35m、深さ0.15mを測る。底面から小穴が検出されたが、S K 1326に伴うものかどうかは明確ではない。出土遺物は微量で、甕の口縁部片がみられる。1540は如意状の口縁部を呈する。

S K 1327 (第367図)

3区北部、環濠内側に位置する。ここでは土坑として報告するが、溝の可能性も考えられる。溝S D 1062と重複し、一部が削平されている。平面形は長楕円形を呈し、長軸1.7m、短軸0.5m、深さ0.35mを測る。出土遺物は少量で、壺片、柱状片刃石斧がみられる。1541は壺の体部片で、ヘラ描沈線文を現存で6条施す。

S K 1328 (第368図)

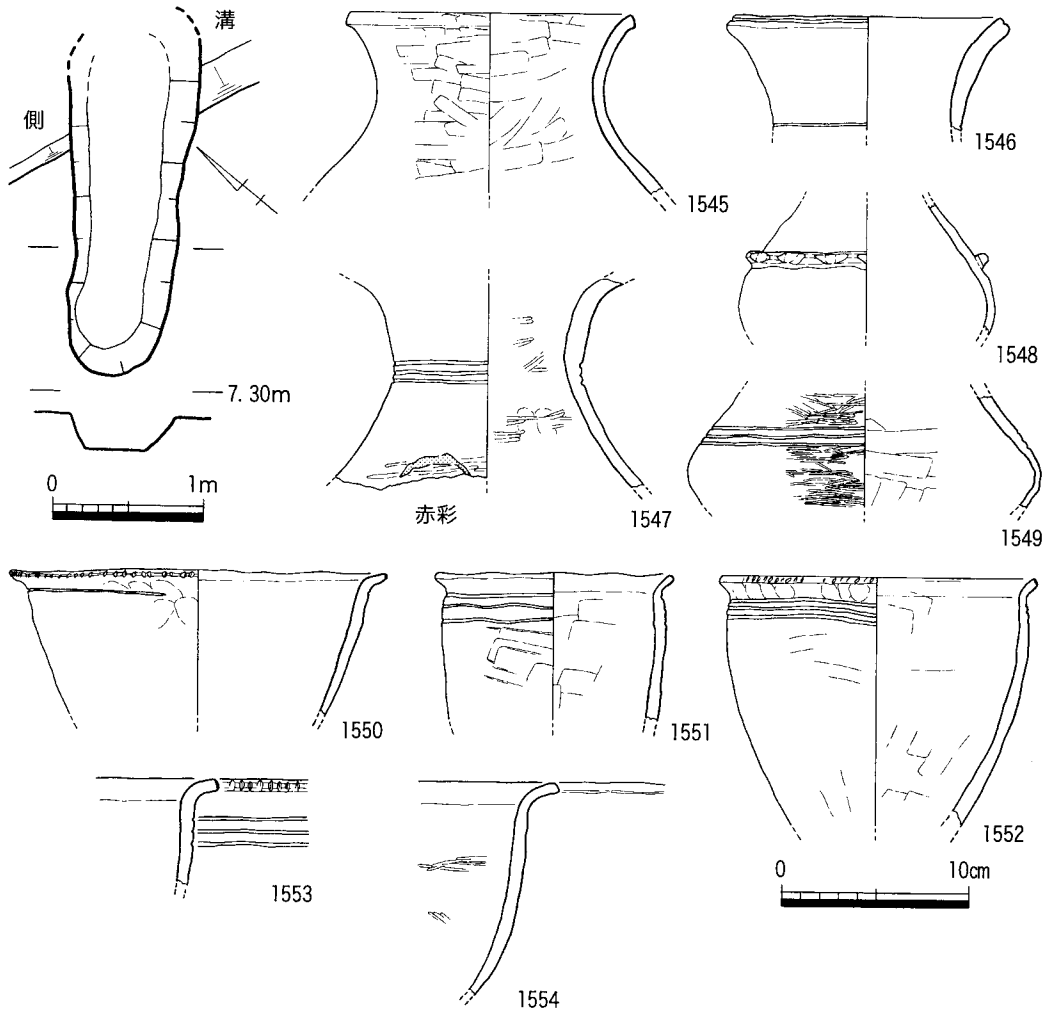
3区北部、環濠内側に位置する土坑である。平面形はややいびつな隅丸長方形を呈し、長軸2.6m、短軸0.6mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.1mを測る。周囲に長楕円形土坑が数基検出されていることから、ここでは土坑として報告したが、溝の可能性も考えられる。出土遺物は微量で、土器片がみられる。

S K 1329 (第369図)

3区北部、環濠内側に位置する土坑である。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸1.8m、短軸0.6mを測る。断面形は箱形を呈し、深さ0.25mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。1543は壺の頸部から体部片である。口縁部と頸部の境にはヘラ描沈線文を現存で2条または削出突帯第Ⅱ種で突帯間の沈線が現存1条みられる。頸部と体部の境には削出突帯第Ⅱ種、突帯間の沈線を3条施す。

S K 1330 (第370図、図版21)

3区北端、環濠内側に位置する土坑である。北部は排水用側溝によって削平されている。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸2.0m以上、短軸0.7mを測る。断面形は箱形を呈し、深さ0.25mを測る。北部底面からは土器片がまとまって出土した。出土遺物は少量で、壺・甕、石包丁・石皿または砥石、種実がみられる。1545～1549は壺である。1546は頸部にヘラ描



第370図 S K 1330平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

沈線文を現存で1条施す。1547は壺の頸部片で、ヘラ描沈線文3条と、体部上半に赤彩による円弧文を描く。1548・1549は壺の体部片で、1548は体部上半に押圧貼付突帯を1条施す。1550～1553は甕である。いずれも口縁部は如意状を呈する。1550はヘラ描沈線文を1条、1551～1553は3条施す。

S K 1331 (第371図, 図版22)

4区南東部, 落ち込みS X 1050とS X 1051の間で土器が集中する地点が認められた。遺構面よりも高いことから, 弥生時代前・中期の遺物包含層である第4層上位からの掘り込



み遺構であることがうかがわれる。遺構として掘り上げることはできなかったが、土器のまとまりから、長軸1.5m、短軸1.0m程度の土坑と推定される。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、壺・無頸壺・甕・鉢、石鍬がみられる。1555・1557は壺で、1555は頸部にヘラ描沈線文3条、1557は現存で6条施す。1556・1559～1562は甕で、いずれも逆L字口縁を呈する。

#### S K 1332 (第372図)

4区北部に位置する土坑である。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸3.3m、短軸2.7mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.15mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕・甑・蓋、石包丁がみられる。1566は壺の体部片で、貼付突帯を現存で3条施す。1567は壺の頸部片で、押圧貼付突帯を現存で4条施す。1568～1573は甕で、1568は如意状の口縁部を呈し、ヘラ描沈線文を現存で3条施す。1569～1572は逆L字口縁を呈する。1573は口縁部が剥落しているが、逆L字口縁を呈するものと考えられる。1570はヘラ描沈線文を11条、1571は9条、1572は櫛描直線文を21条と三角形刺突文を施す。

#### S K 1333 (第373図)

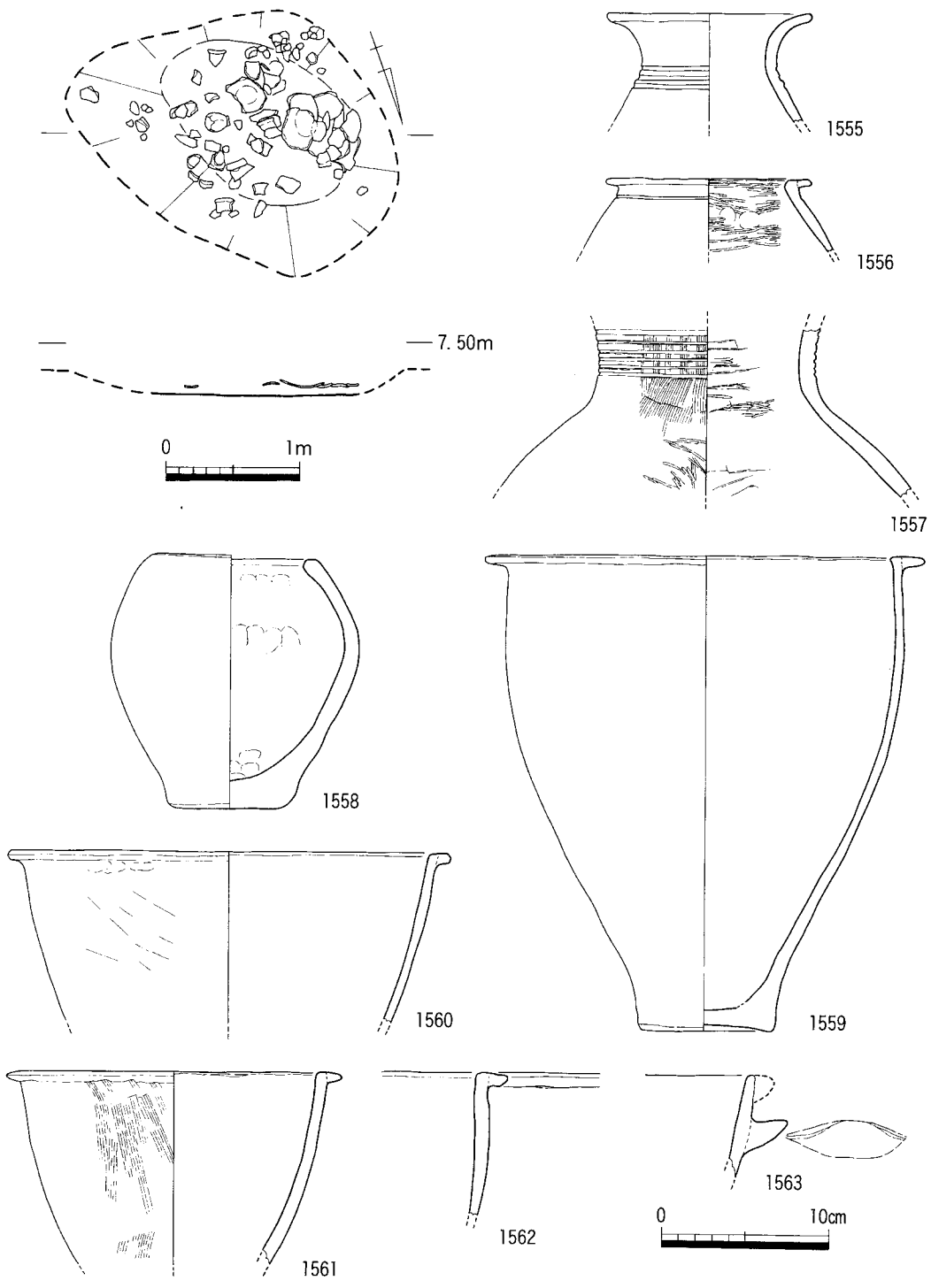
4区中央部やや北部寄りに位置する土坑である。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸2.8m、短軸2.4mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.2mを測る。出土遺物は微量で、壺の頸部片、不明片岩製品片がみられる。1576は壺の頸部片で、現存で5条のヘラ描沈線文を施す。

#### S K 1334 (第374図)

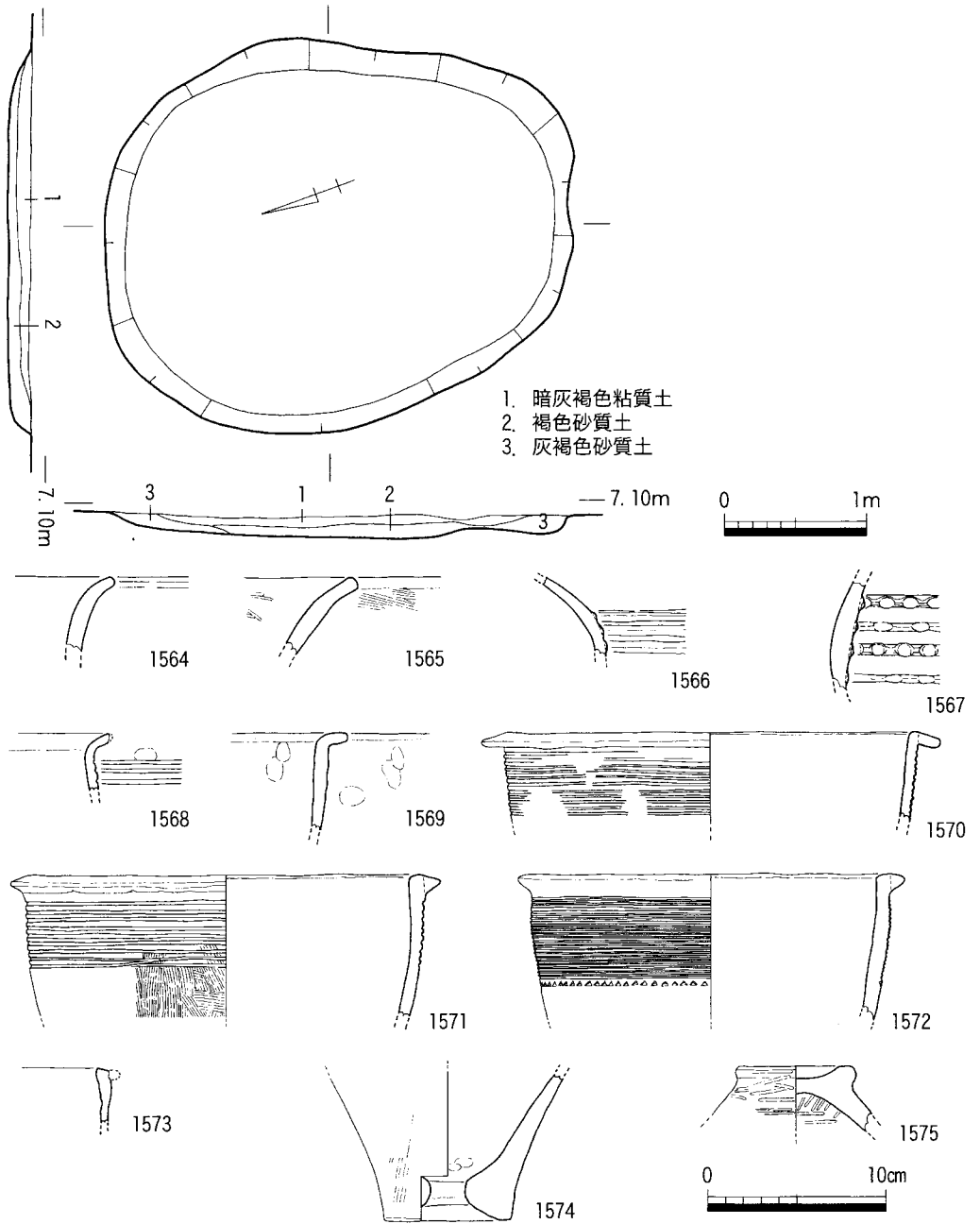
4区中央部に位置する土坑である。古墳時代前期の沼状遺構S X 1056と一部重複し、削平されているため、全体形状は不明である。平面形はややいびつな円形であると推定される。現存では長軸3.3mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.2mを測る。遺構内部には4個の小穴が存在する。平面形は円形で0.15～0.35m、深さ0.1m程度を測る。S K 1334に伴うものかどうかは不明である。出土遺物は少量で、甕・蓋等がみられる。1578は甕の口縁部片で、ヘラ描沈線文を現存で3条施す。

#### S K 1335 (第375・376図, 図版22・23)

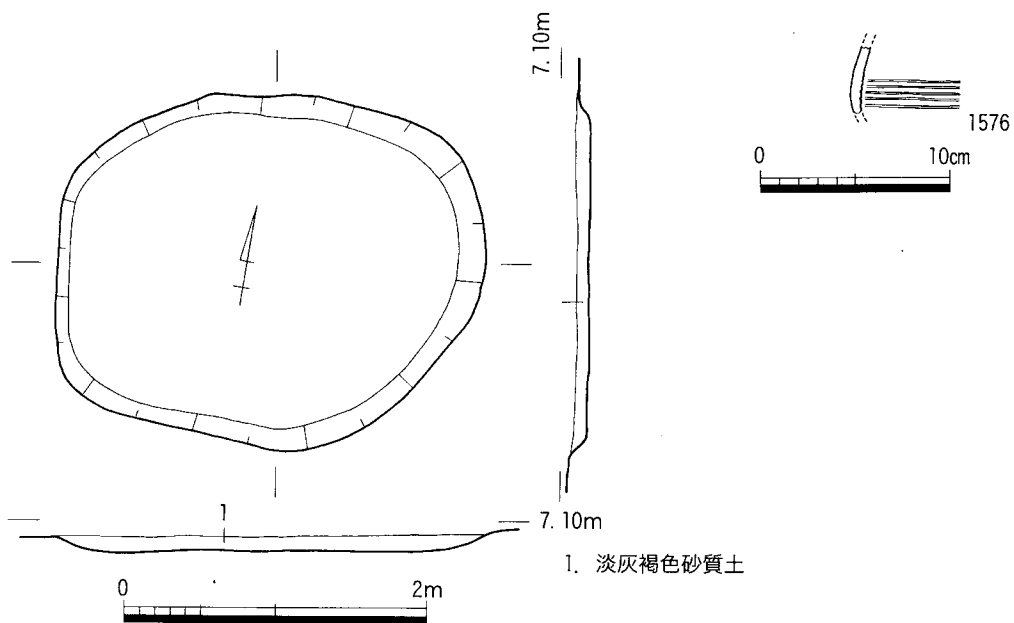
4区西端に位置する土坑である。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸2.8m、短軸2.2mを測る。2段掘りになり、中央部が深く、最深部で深さ0.5mを測る。底面付近には石材や土器片、埋土上部からは土器片がまとまって出土した。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、壺・甕・鉢・蓋・ミニチュア土器、石皿または砥石・石鍬・石錐・刃器・盤状



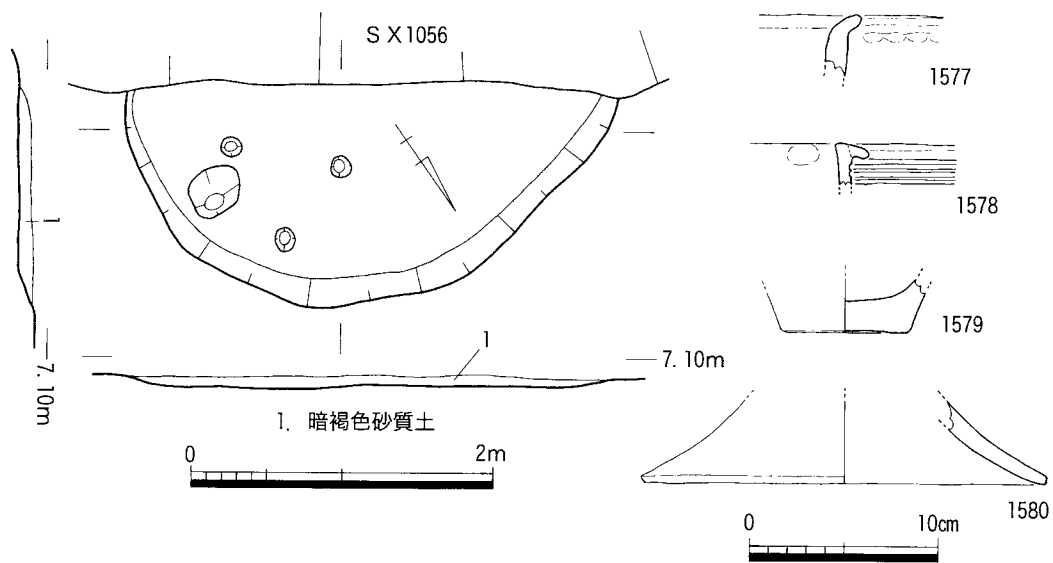
第371图 S K 1331平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)



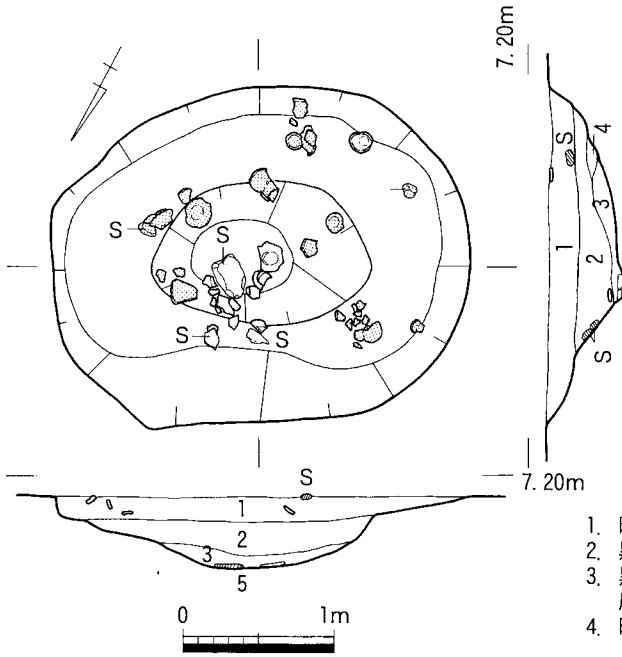
第372図 S K 1332平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



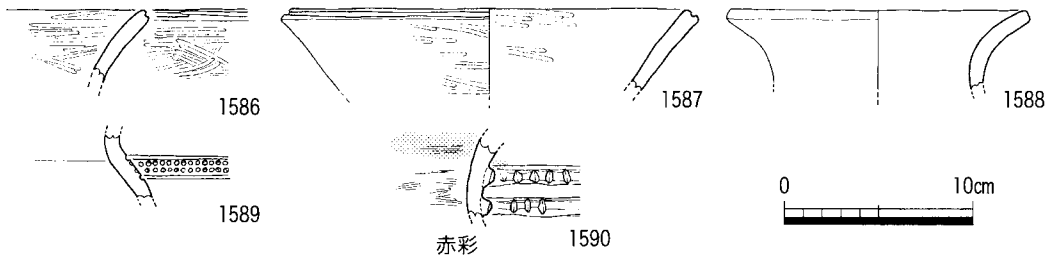
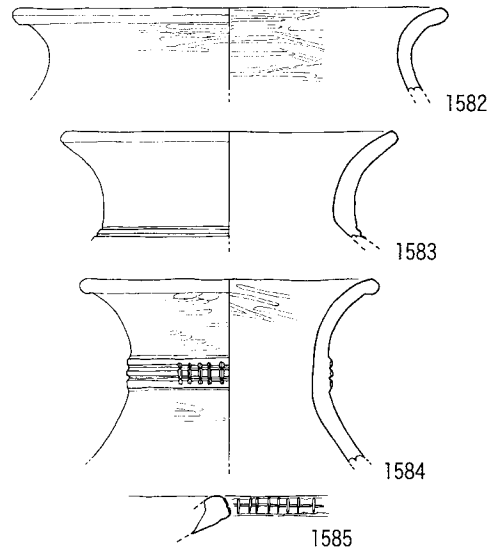
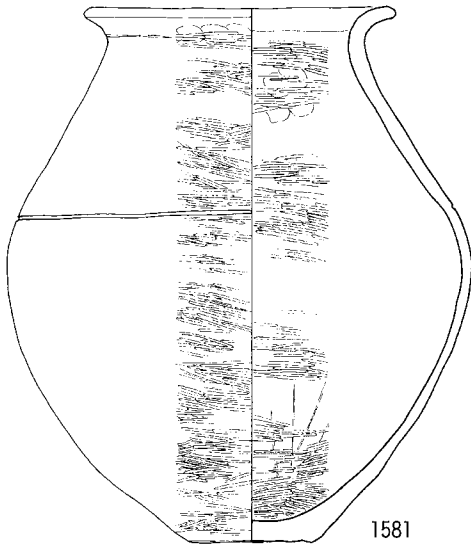
第373図 S K1333平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



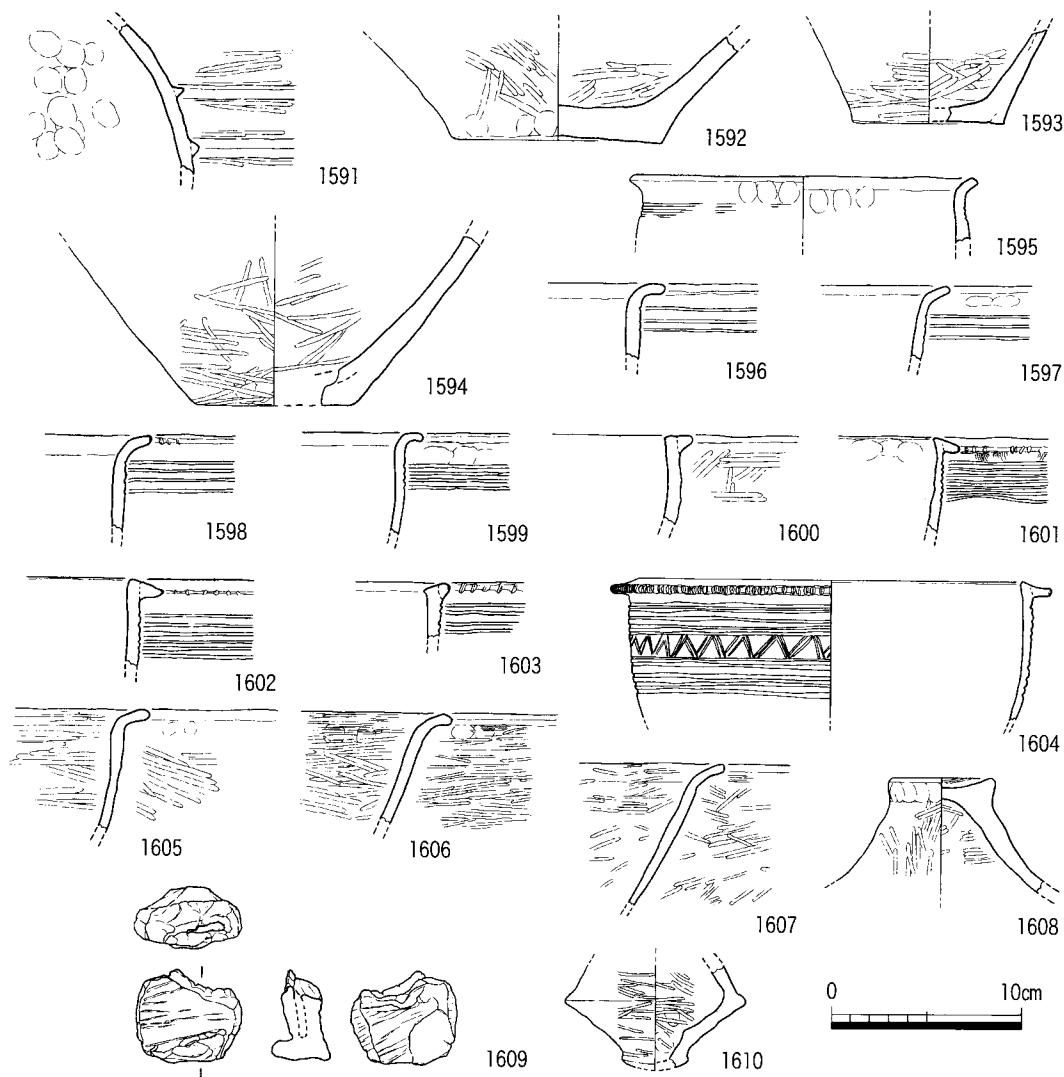
第374図 S K1334平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



1. 暗褐色砂質土（炭化物を少量含む）
2. 黒灰色粘質土（炭化物を多量に含む）
3. 黒灰色砂（炭化物を極めて多量に含む。灰色砂とのラミナ状互層堆積）
4. 暗灰色砂



第375図 S K 1335平・断面図（1/50），出土土器 1（1/4）



第376図 S K 1335出土土器2 (1/4)

剥片の分割材及び石核等がみられる。1581は口縁部下に一部段がみられる。頸部の下にはヘラ描沈線文を1条施す。1582～1588は壺の口頸部である。1583は頸部にヘラ描沈線文を現存で2条施す。1584は頸部に削出突帯第Ⅱ種で、突帯間に沈線を2条施した後、刻目を施す。1589は壺の体部片で、ヘラ描沈線文2条間に刺突文を2列施す。1590は壺の頸部片で、外面には貼付刻目突帯を現存で2条施す。内・外面の一部には赤彩が認められる。1591は壺の体部片で、貼付突帯を現存で2条施す。1595～1604は甕の口縁部片である。1595～1598の口縁部は如意状を呈する。1596・1597はヘラ描沈線文を3条、1598は4条施す。1599

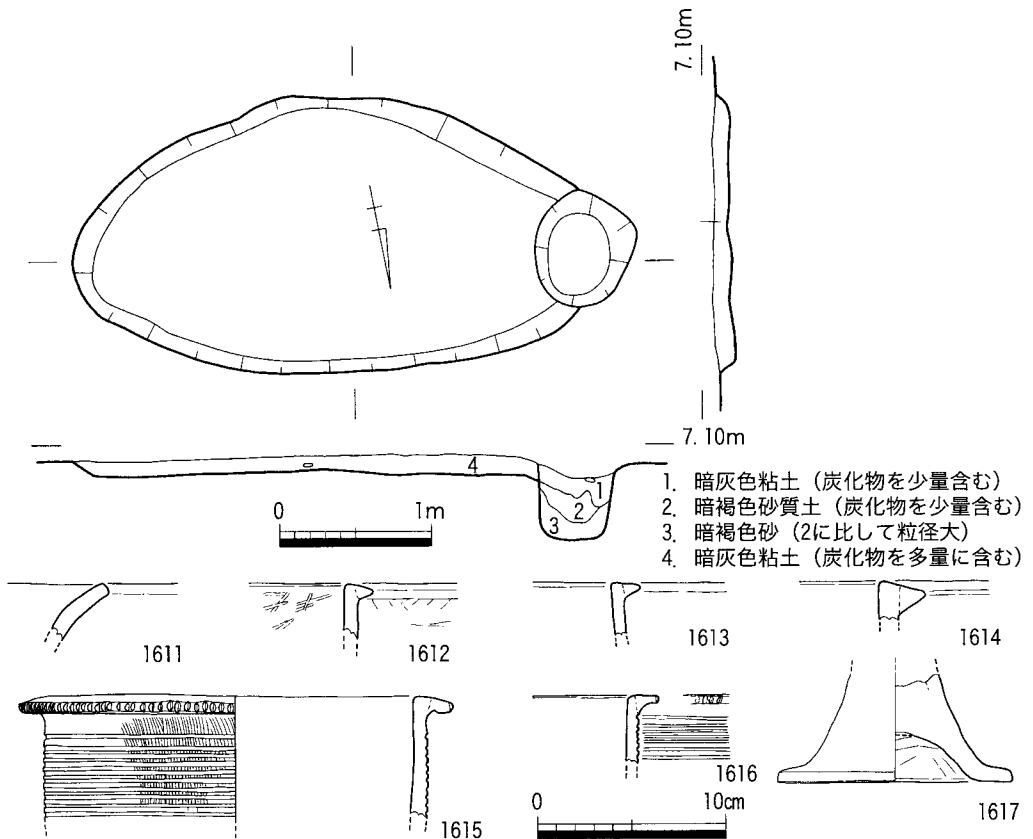
は口縁部の外反がきついが、折り曲げ口縁で、ヘラ描沈線文4条施す。1600～1604は逆L字口縁を呈する。1601はヘラ描沈線文を7条施す。1602はヘラ描沈線文を6条、1603は現存で4条施す。1604はヘラ描沈線文5条とヘラ描複線山形文、ヘラ描沈線文5条施す。1609はミニチュア土器の未製品である。押しつぶされていることから、失敗作であると推定される。

S K 1336 (第377図)

4区東部に位置する土坑である。西端に径0.5m、深さ0.5mの柱穴が重複し、土坑の一部が削平される。土層堆積から、柱穴が後出することが明確である。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸推定3.5m、短軸1.8mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.2mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕・蓋等がみられる。1612～1616は甕片である。いずれも逆L字口縁を呈する。1615はヘラ描沈線文を現存で10条、1616は現存で7条施す。

S K 1337 (第378図)

4区東部に位置する土坑である。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸3.6m、短軸2.7m

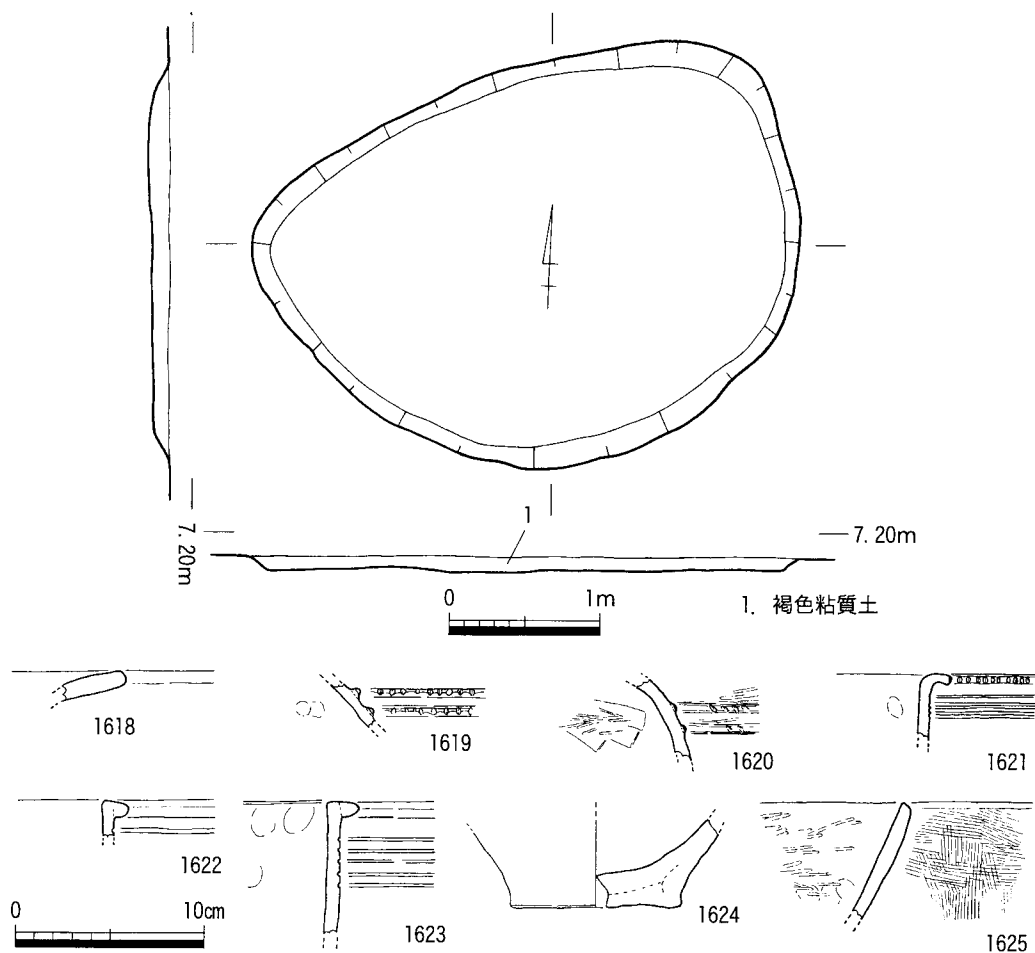


第377図 S K 1336平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

を測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.2mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕・鉢がみられる。1618～1620は壺である。1619は体部片で、貼付刻目突帯を現存で2条、1620は貼付突帯を現存で2条施す。1621は折り曲げ口縁で、ヘラ描沈線文4条施す。1622・1623は逆L字口縁を呈し、1622はヘラ描沈線文を現存で1条、1623は5条施す。

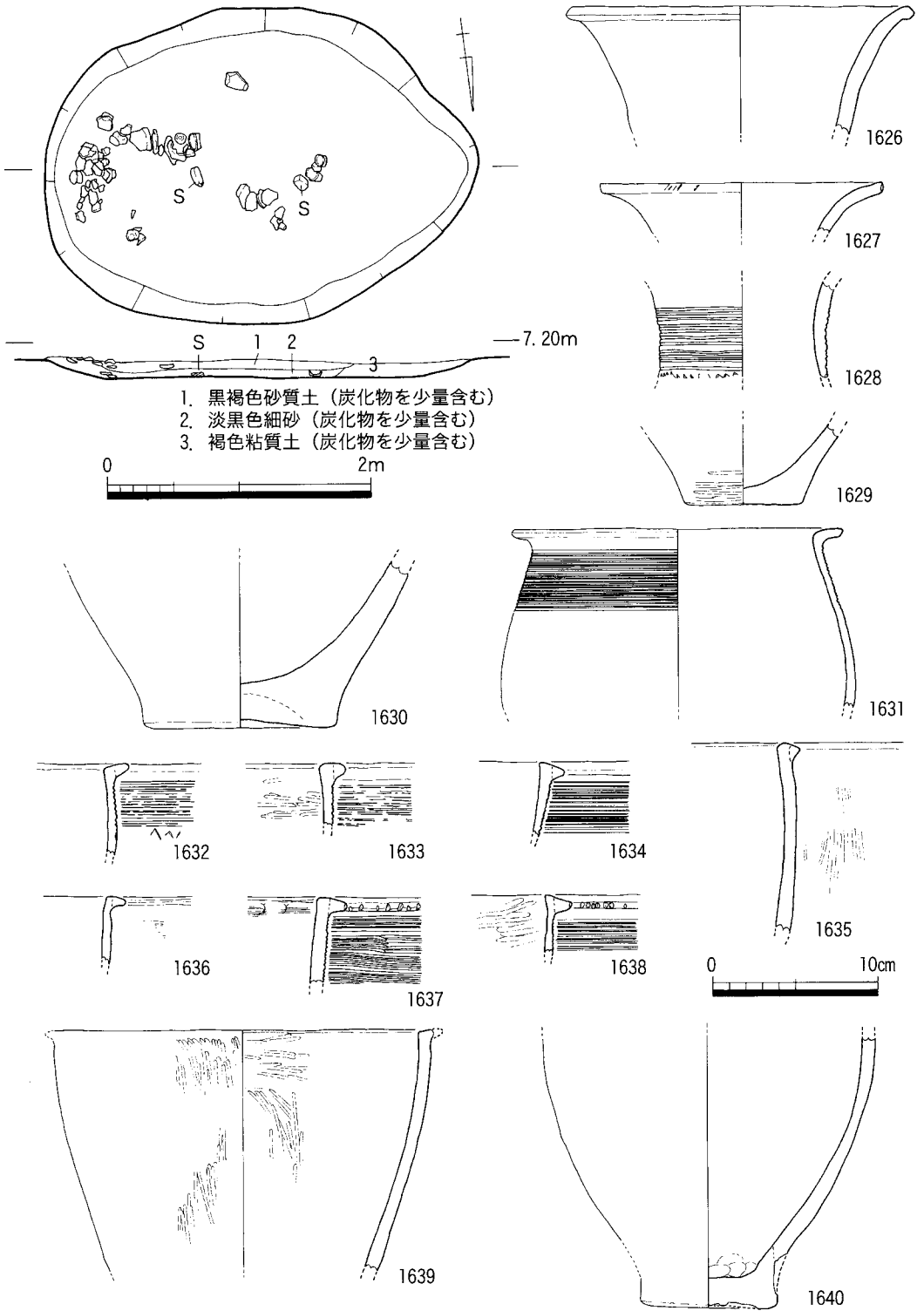
S K 1338 (第379・380図, 図版23)

4区東南部に位置する土坑である。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸3.4m、短軸2.4mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.2mを測る。遺物は東部に堆積する第1・2層からまとまって出土し、西部に堆積する第3層からは出土しなかった。第3層は第1・2層と明確に分離できることから、別遺構の埋土の可能性も考えられる。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、壺・甕・蓋、石鋤・石錐・刃器がみられる。1628は壺の頸部片で、



第378図 S K 1337平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)





第379図 S K 1338平・断面図 (1/50), 出土土器 1 (1/4)

ヘラ描沈線文を現存で11条とその下に三角形刺突文を施す。1631は折り曲げ口縁で、4条5帯20条の櫛描直線文を施す。1632～1638は逆L字口縁を呈する。1639も口縁部が剥落しているが、逆L字口縁を呈するものと考えられる。1632はヘラ描沈線文9条と三角形刺突文を施す。1633はヘラ描沈線文を現存で8条施す。1634は櫛描直線文を現存で16条施す。1636は摩滅が顕著であるが、外面には櫛描直線文を施しているのが観察できる。条数は不明である。1637は櫛描直線文を現存で17条、1638は現存で8条施す。1645は底部片で、斜めに穿孔する円孔が2個みられる。

#### S K 1339 (第381図)

4区南部に位置する土坑である。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸1.3m、短軸0.7mを測る。底面は平坦ではなく、最深部で深さ0.2mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕、石鍬がみられる。1647は壺の口頸部片である。口縁端部を欠損する。頸部には三角形刺突文とヘラ描沈線文を8条施す。1649・1650は甕の口縁部片である。1649は折り曲げ口縁である。1650はヘラ描沈線文を現存で8条施す。

#### S K 1340 (第382図, 図版24)

4区南東部に位置する土坑である。平面形は瓢箪形を呈し、長軸1.9m、短軸0.9m、深さ0.2mを測る。底面直上から木片が出土した。出土遺物は少量で、甕・鉢、石錐等がみられる。1651は口縁部が剥落する。摩滅しているが、ヘラ描沈線文が11条みられる。1652・1653は逆L字口縁の甕片である。1652はヘラ描沈線文を現存で11条、1653は現存で5条施す。1656は脚台部である。内面は剥離している。高杯であろうか。

#### S K 1341 (第383図, 図版24)

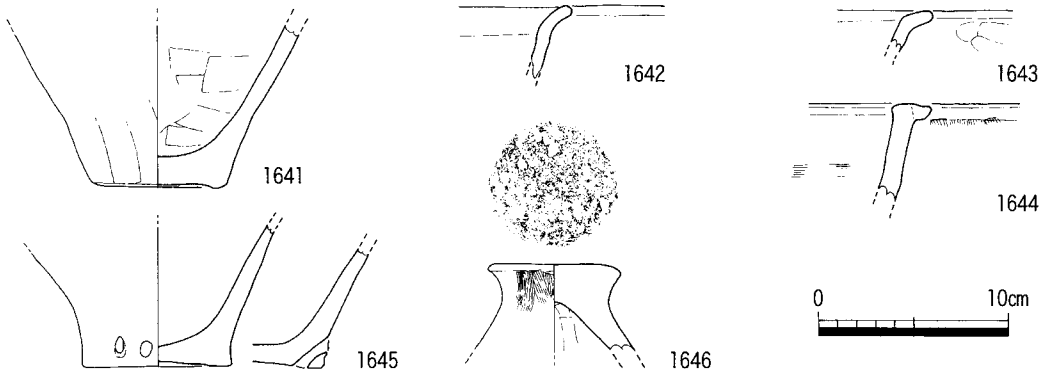
4区南部に位置する土坑である。平面形は長楕円形を呈し、長軸2.4m、短軸1.05m、深さ0.1mを測る。東部の埋土上面からは壺体部片がまとまって出土した。出土遺物は少量で、壺・甕、石鍬がみられる。1657は壺で、頸部と体部に貼付突帯を2条施す。1659は逆L字口縁の甕で、ヘラ描沈線文を16条施す。

#### S K 1342 (第384図)

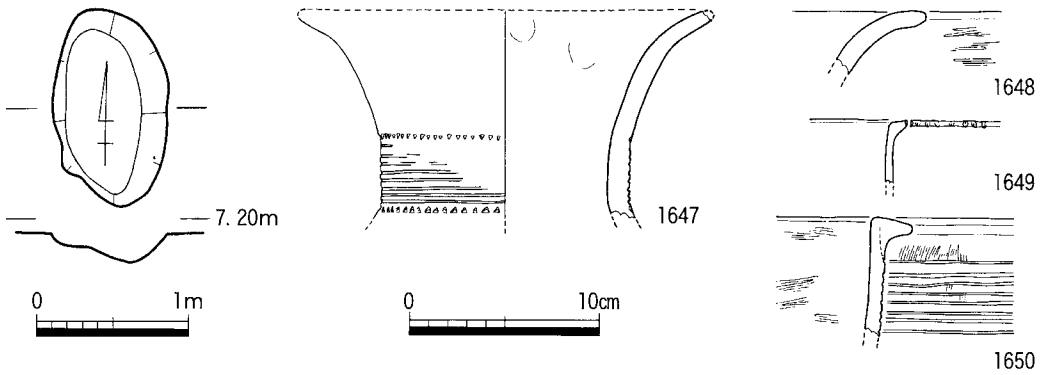
4区中央部に位置する土坑である。平面形はほぼ円形を呈し、径1.1～1.2m、深さ0.55mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。1662は甕の口縁部片で、逆L字口縁を呈する。

### (4) 溝

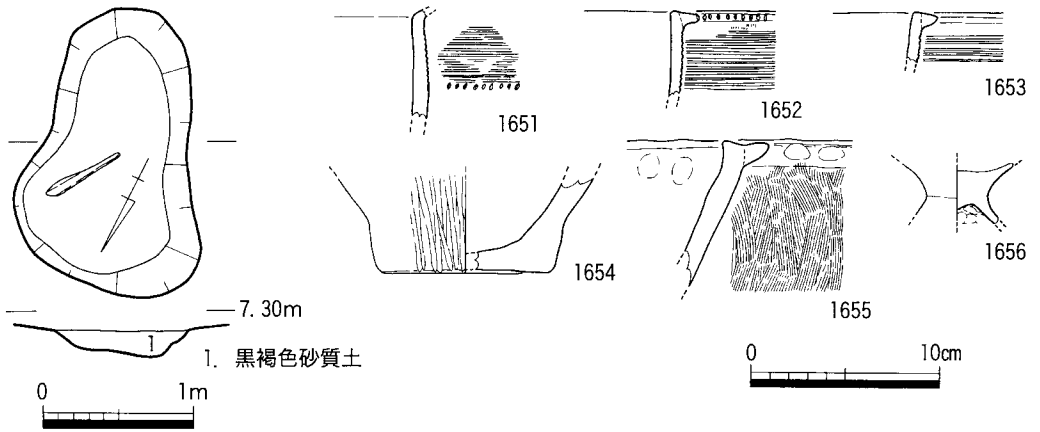
#### S D 1011 (第385図)



第380图 S K 1338出土土器 2 (1/4)

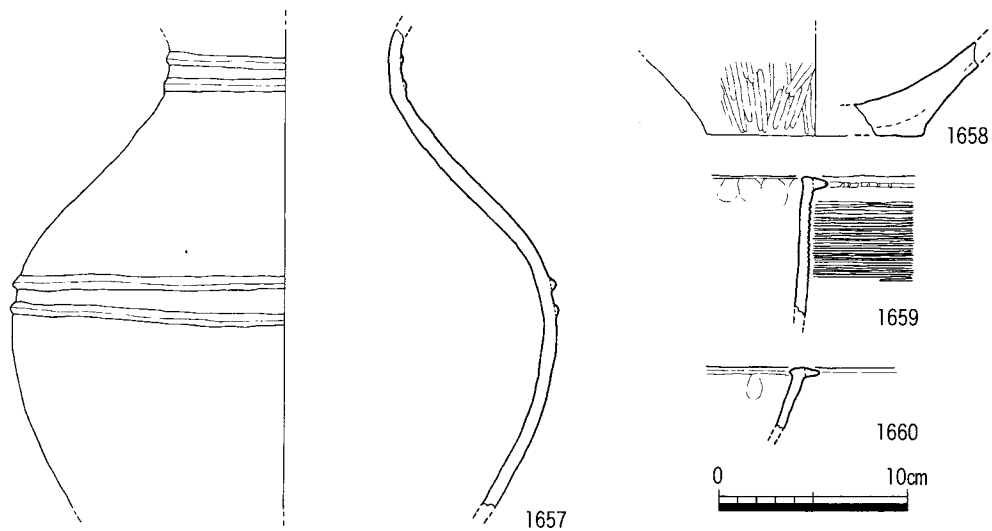
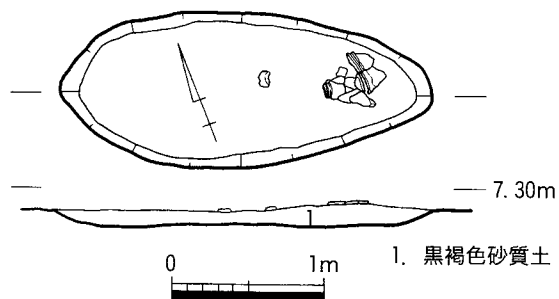


第381图 S K 1339平・断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)

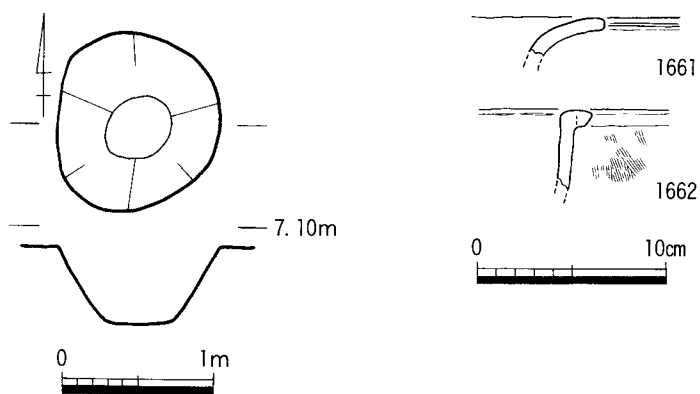


第382图 S K 1340平・断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)

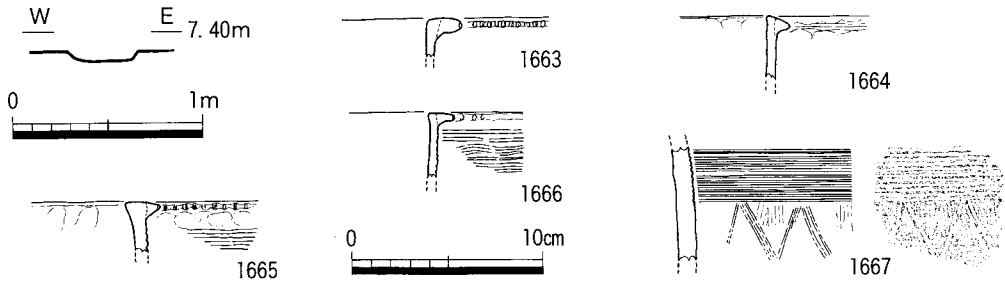
1. 黒褐色砂質土



第383図 S K 1341平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



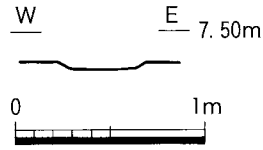
第384図 S K 1342平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



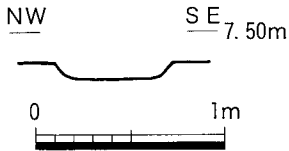
第385図 S D 1011断面図 (1/40), 出土土器 (1/4)



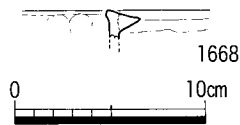
第386図 S D 1012断面図 (1/40)



第387図 S D 1013断面図 (1/40)



第388図 S D 1014断面図 (1/40), 出土土器 (1/4)



1区南部から北部，環濠外側を走る溝である。南から北に向かって走る。検出長18m，幅0.3~0.6m，深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で，甕片がみられる。1663~1666はいずれも逆L字口縁の甕である。1665はヘラ描沈線文を現存で3条，1666は現存で7条施す。1667は半截竹管ヘラ描沈線文を現存で11条と半截竹管山形文を体部に施す。

#### S D 1012 (第386図)

1区北部，環濠外側を走る溝である。南から北に向かって走る。S D 1011と同方向に走ることから，同一溝の可能性も高い。検出長14m，幅0.3~0.6m，深さ0.1mを測る。出土遺物は微量で，土器片がみられる。

#### S D 1013 (第387図)

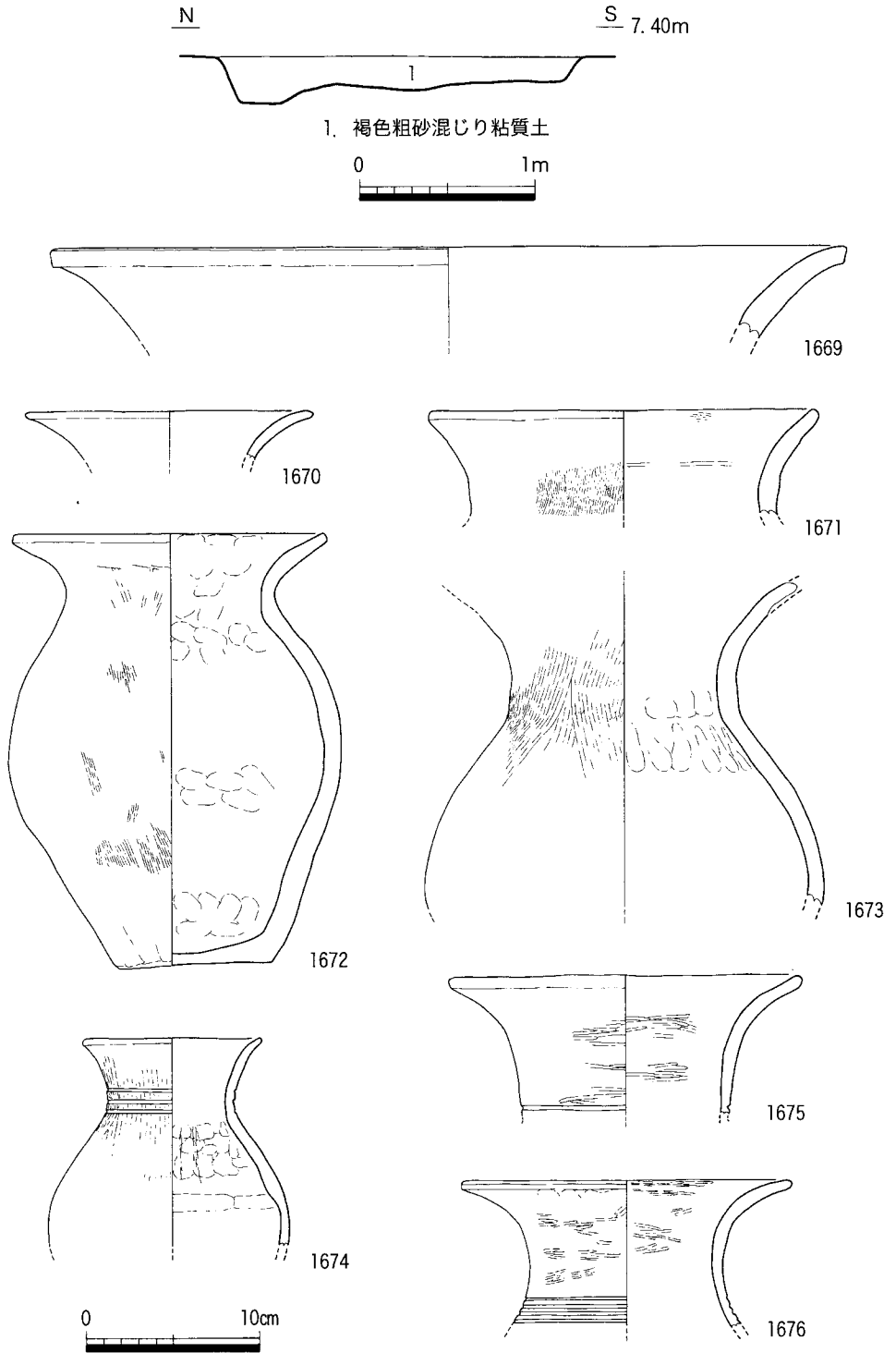
1区北部，環濠外側を走る溝である。南から北に向かって走る。S D 1012と同方向に走る。検出長10m，幅0.3~0.6m，深さ0.1mを測る。出土遺物は微量で，土器片がみられる。

#### S D 1014 (第388図)

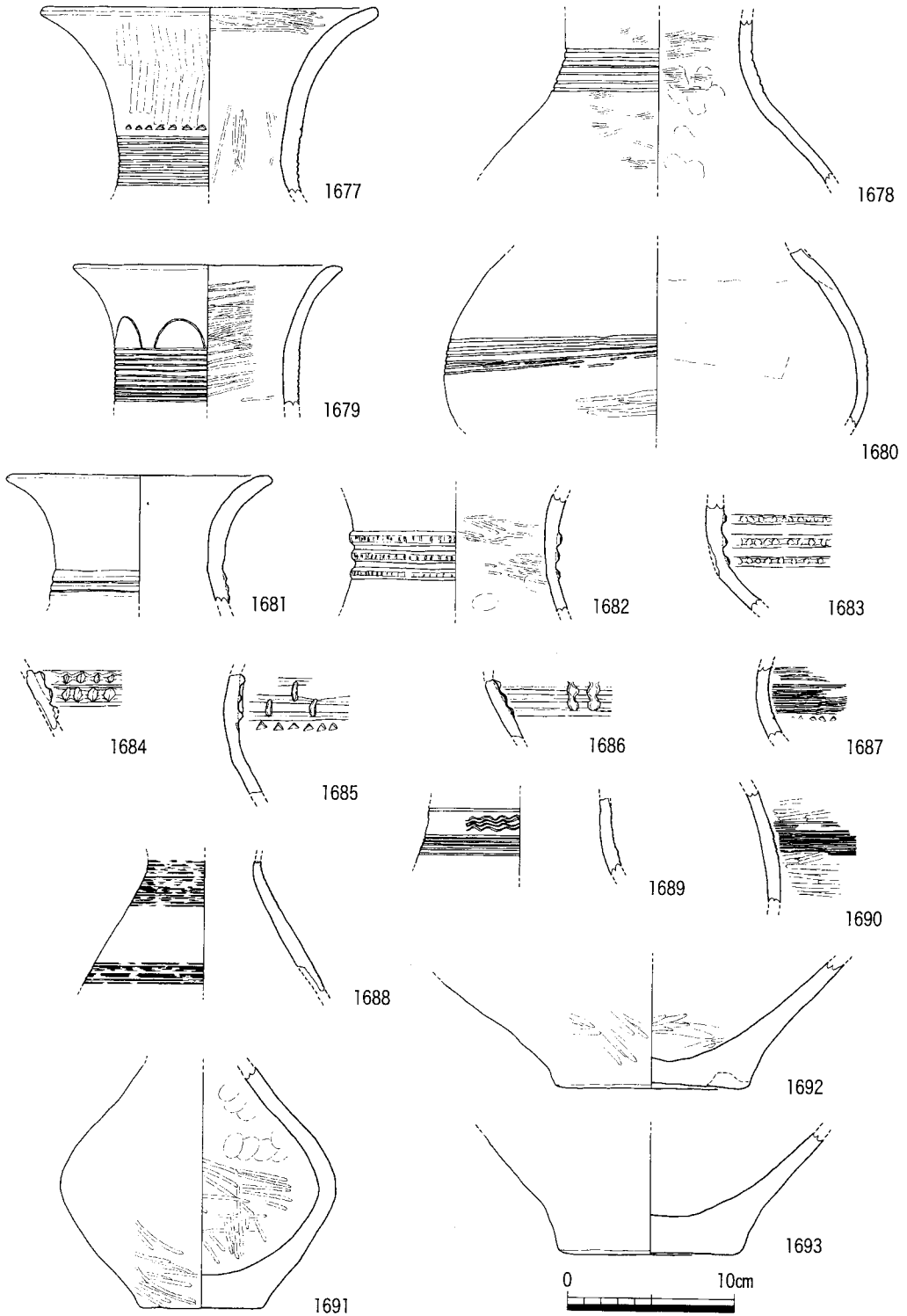
1区北西部，環濠外側を走る溝である。南西から北東に向かって走る。検出長7m，幅0.2～0.6m，深さ0.1mを測る。出土遺物は微量で，甕片がみられる。1668は口縁部片で，逆L字口縁を呈する。

S D 1015（第389～394図）

1区北東部，環濠外側を走る溝である。西から東に向かって走る。検出長14m，幅2.0～3.5m，深さ0.2～0.4mを測る。出土遺物は整理用コンテナ14箱程度で，壺・甕・蓋・棒状土製品・ミニチュア土器甕，太型蛤刃石斧・扁平片刃石斧・石包丁・石皿または砥石・石鋏・打製石斧等がみられる。1669～1696は壺である。1672・1673は体部が細長く，文様を施さない壺である。1674は頸部にヘラ描沈線文3条，1675は現存で1条，1676は現存で4条施す。1677は頸部に三角形刺突文とヘラ描沈線文を現存で9条施す。1679は頸部にヘラ描円弧文とヘラ描沈線文を現存で12条施す。1678・1680は壺の頸部から体部片である。1678は頸部にヘラ描沈線文を6条，1680は体部にヘラ描沈線文を6条施す。1681は頸部に削出突帯第Ⅱ種を施す。突帯間の沈線は2条または2条以上である。1682・1683は頸部片である。1682は貼付刻目突帯を3条，1683は現存で3条施す。1684は壺の体部片で，貼付刻目突帯が2条みられる。その下には沈線状の痕跡が残るが，これは貼付突帯が剥がれ落ちた痕跡であろう。1685は頸部片であるが，頸部に貼付突帯を施した後，棒状浮文を貼り付け，その下に三角形刺突文を施す。1686は壺の体部片であるが，貼付突帯後，棒状浮文を貼り付ける。1687～1690は壺の頸部から体部片である。1687は櫛描直線文の下に三角形刺突文を施す。1688は櫛描直線文を頸部と体部に施す。1689は頸部に櫛描直線文と櫛描波状文を施す。1690は櫛描直線文を施す。1697～1731は甕である。1697・1698は如意状口縁を呈し，1697は体部にヘラ描沈線文12条と刺突文，1698はヘラ描沈線文を6条施す。1699～1718・1723～1728・1730は逆L字口縁を呈する。1700は口縁部上端に三角形刺突文を巡らし，外面にはヘラ描沈線文16条と三角形刺突文を施す。1701は大型の甕である。ヘラ描沈線文6条と三角形刺突文を施す。1702はヘラ描沈線文を5条施す。1703はヘラ描沈線文14条と三角形刺突文を施す。1704は太細併用沈線文を12条と半截竹管山形文を施す。1705はヘラ描沈線文8条施す。1706は10条，1707は現存で7条，1708は現存で9条，1709は現存で13条，1710は10条，1711は現存で11条，1712は現存で10条のヘラ描沈線文を施す。1719～1728は櫛描直線文，1730は櫛描直線文と櫛描波状文を施す。1729はヘラ描沈線文5条と三角形刺突文を施す。1731は折り曲げ口縁で，櫛描直線文を現存で6条施す。1743はミニチュア土器甕で，櫛描直線文を9条施す。

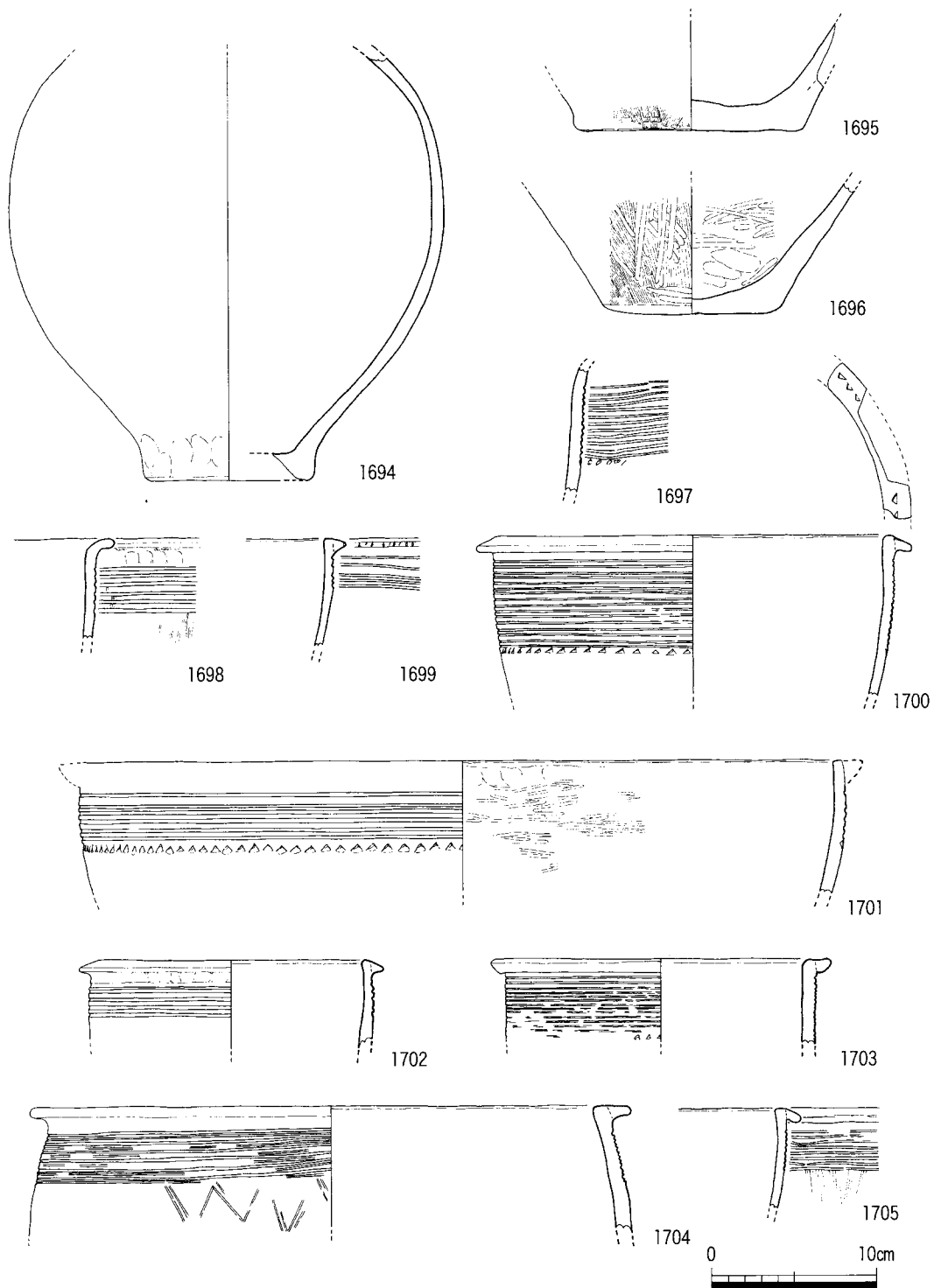


第389図 S D 1015断面図 (1/40), 出土土器 1 (1/4)

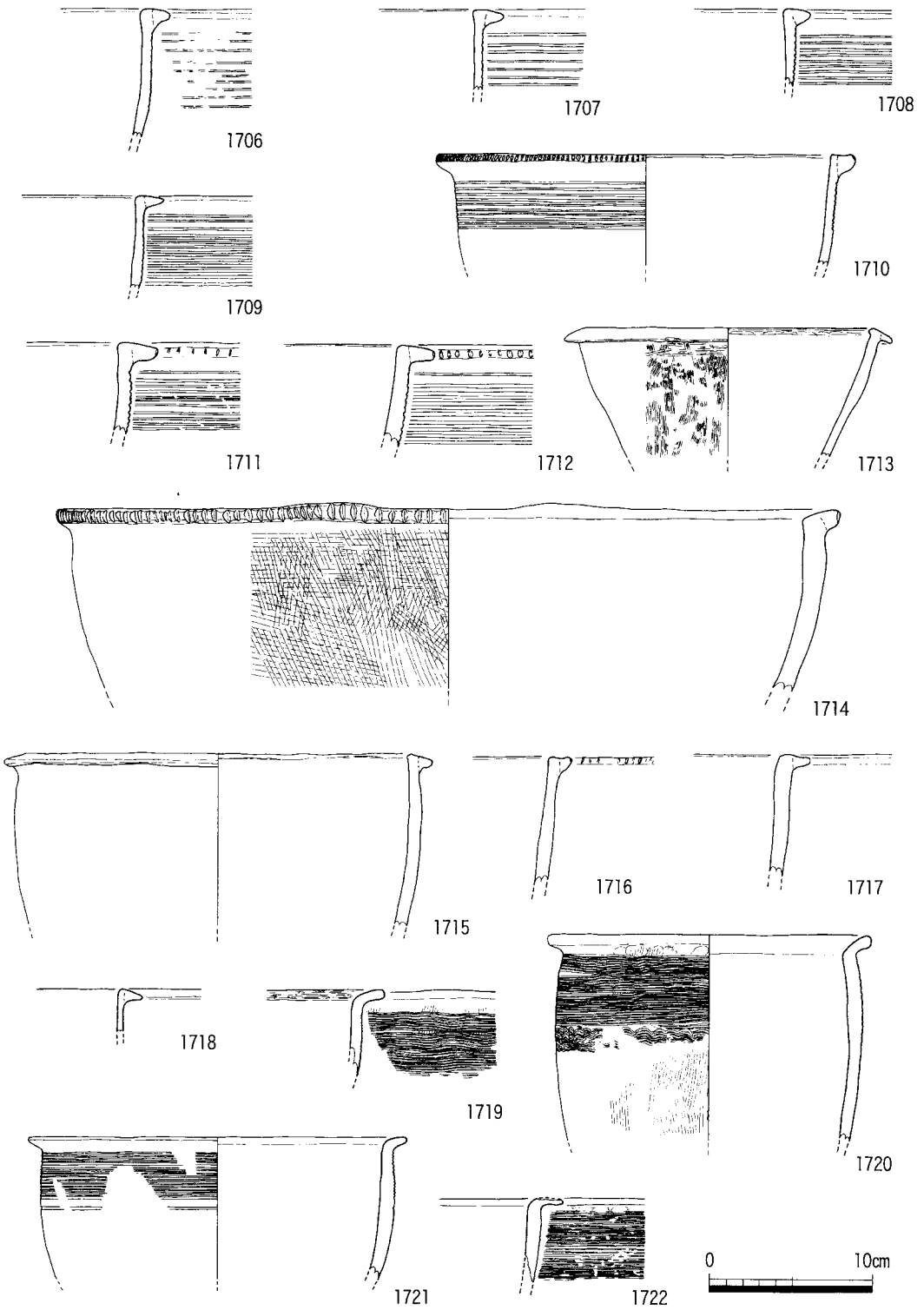


第390图 S D1015出土土器2 (1/4)

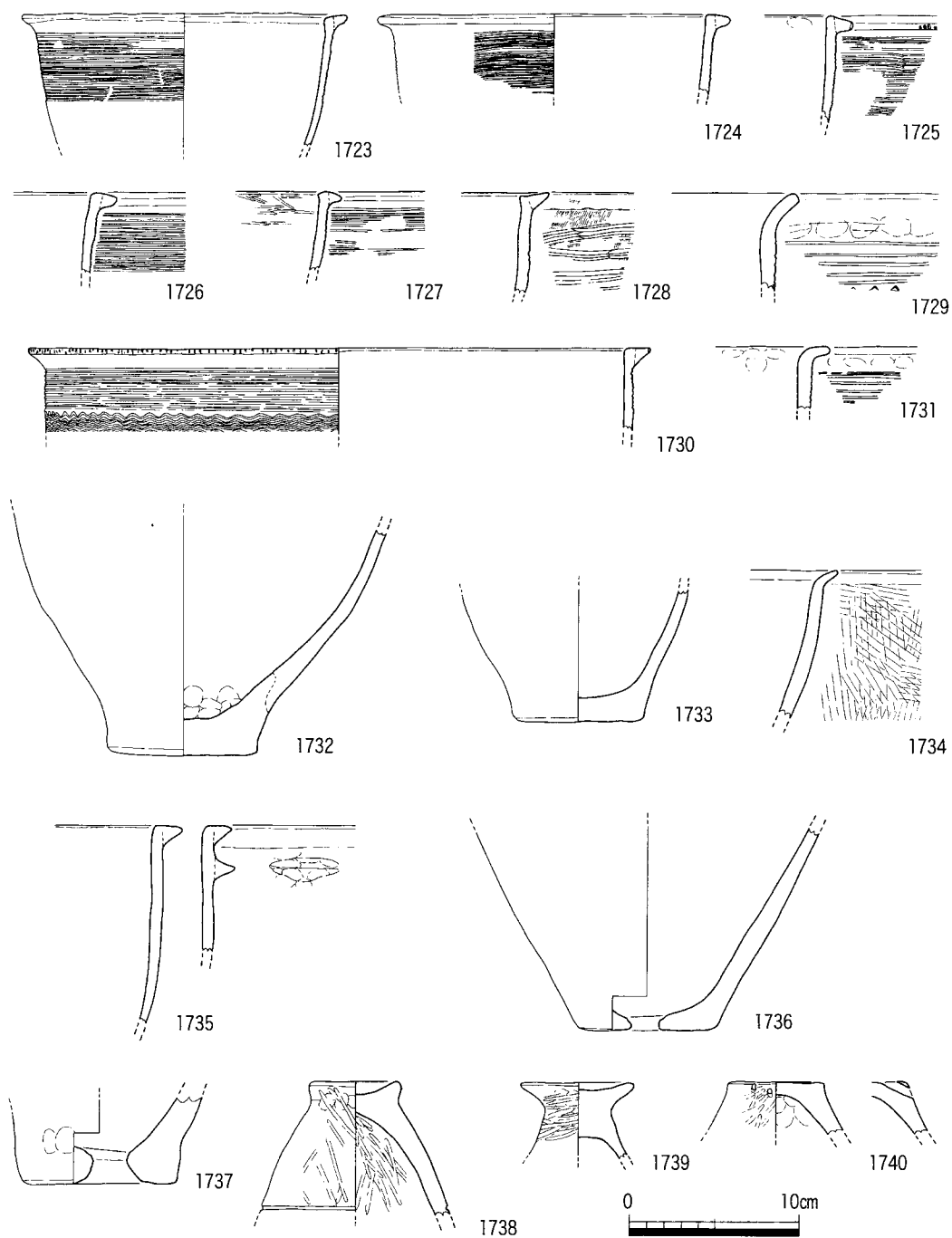




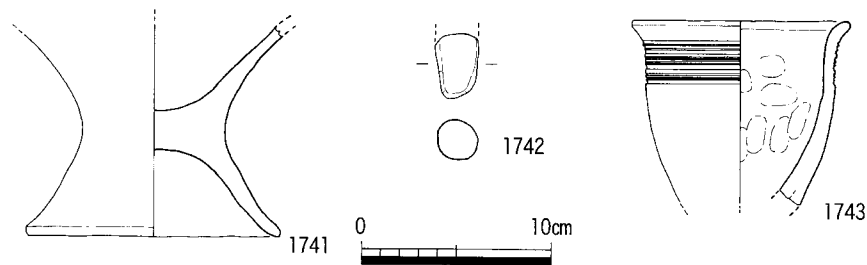
第391图 S D 1015出土土器 3 (1/4)



第392図 S D 1015出土土器 4 (1/4)



第393图 S D 1015出土土器 5 (1/4)



第394図 S D 1015出土土器 6 (1/4)

S D 1016 (第395図)

1区南西部, 環濠外側を走る溝である。南東から北に湾曲して走る。検出長5m, 幅0.8~1.4m, 深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で, 甕片, 石鋤がみられる。1745・1746は甕の口縁部片で, 1745はヘラ描沈線文を3条, 1746は櫛描直線文を現存で9条施す。

S D 1017 (第396図, 図版25)

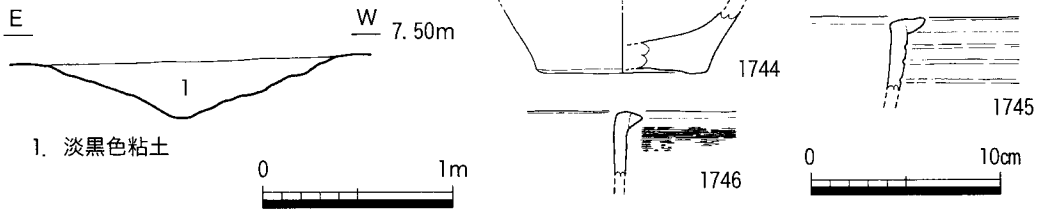
1区南部, 環濠外側を走る溝である。溝S D 1018と平行し, 東西に走る。東部はS K 1030と重複する。検出長11m, 幅0.9m, 深さ0.4mを測るが, 埋土堆積状態からみて最低2回の掘り直しを想定できる。上部溝埋土は第1・2層, 中部溝は第3層, 下部溝は第4・5層と考えられる。出土遺物は少量で, 壺・甕・鉢・蓋・円盤状土製品, 石鋤・石包丁・刃器がみられる。1747は壺の体部片で, 櫛描直線文と櫛描波状文を施す。1748~1752は逆L字口縁を呈し, 1748はヘラ描沈線文10条と三角形刺突文, 1749はヘラ描沈線文を現存で9条施す。

S D 1018 (第397図)

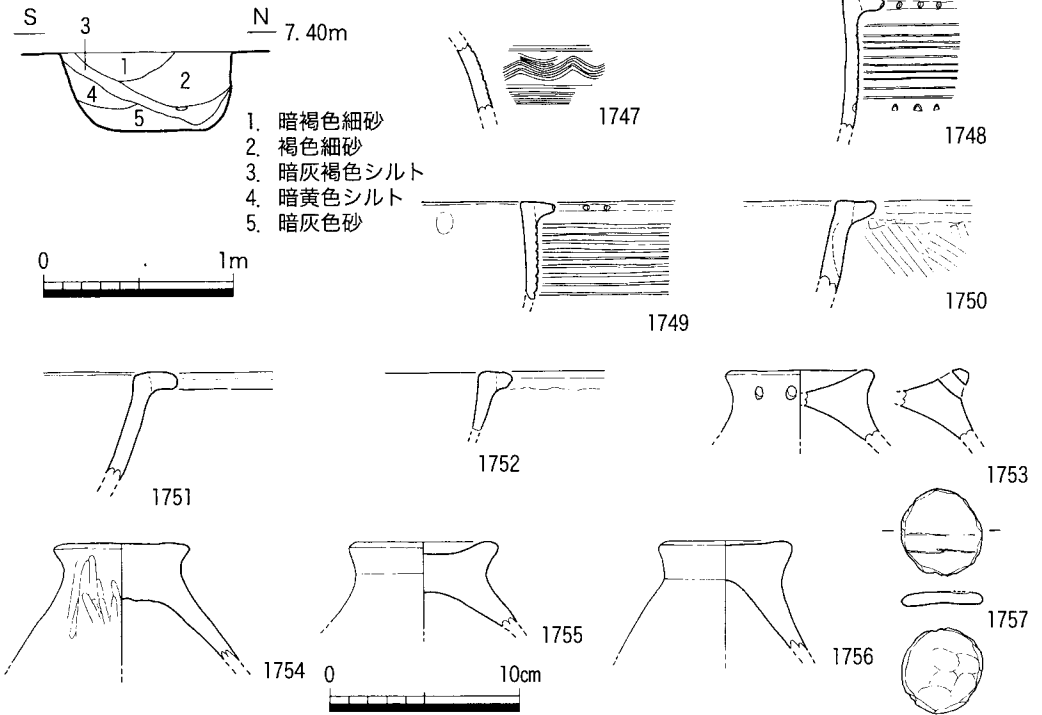
1区南部, 環濠外側を走る溝である。溝S D 1017と平行し, 東西に走る。検出長10.5m, 幅0.4~0.9m, 深さ0.2mを測る。出土遺物は少量で, 壺・甕・甑, 石鋤がみられる。1758・1759は壺の頸部片である。1758はヘラ描沈線文を現存で4条とヘラ描複線山形文を施す。1759は壺の頸部に櫛描直線文を現存で13条施す。1760は甕の口縁部で, 逆L字口縁を呈する。

S D 1019 (第398図)

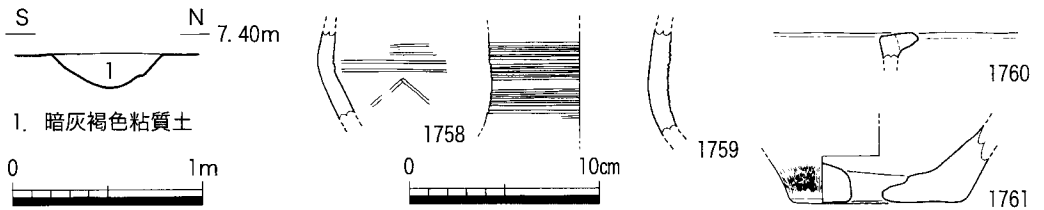
1区中央部, 環濠外側を走る溝である。東西に走る。検出長3.5m, 幅0.4~0.6m, 深さ0.2mを測る。出土遺物は少量で, 壺・甕・蓋, 石錐・石剣がみられる。1762・1763は壺で, 1762は頸部にヘラ描沈線文を現存で5条施す。1763は体部片で, 櫛描直線文と櫛描波状文, 竹管半円刺突文を施す。1765~1768は甕で, いずれも逆L字口縁を呈する。1765はヘラ描



第395図 S D1016断面図 (1/40), 出土土器 (1/4)



第396図 S D1017断面図 (1/40), 出土土器 (1/4)



第397図 S D1018断面図 (1/40), 出土土器 (1/4)

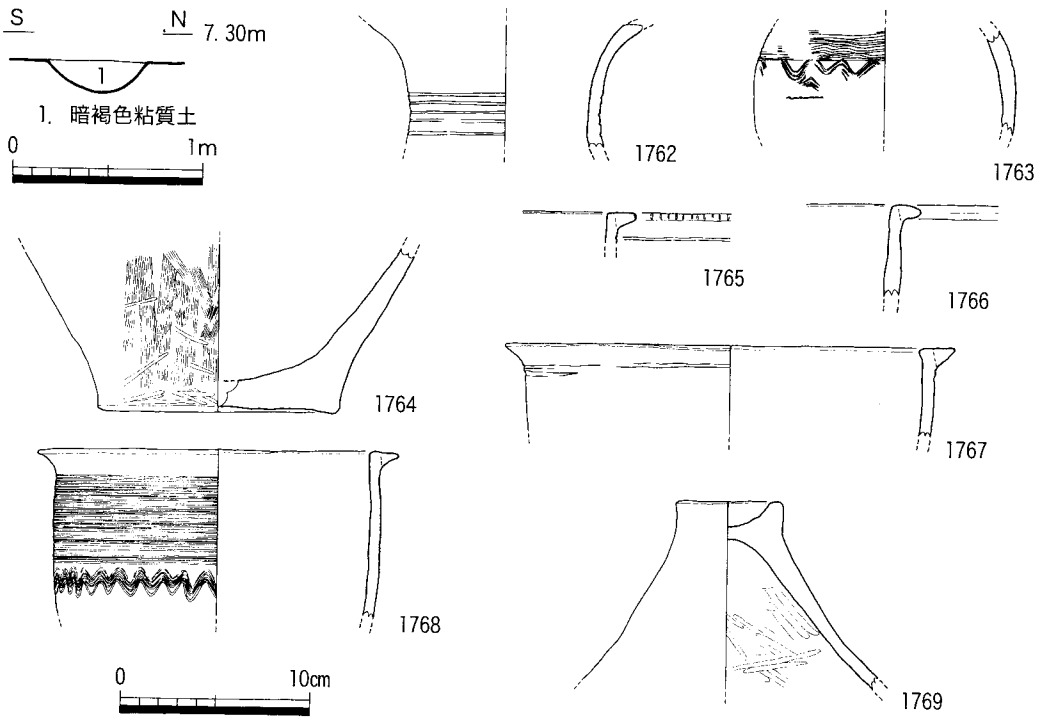
沈線文を現存で1条施す。1768は櫛描直線文と櫛描波状文を施す。

S D 1020 (第399図)

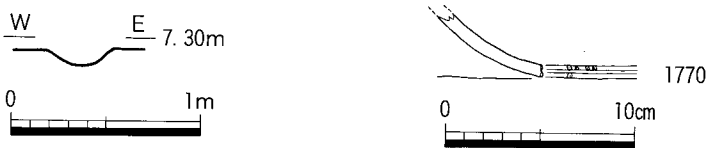
1区東部、環濠外側を南北に走る溝である。検出長2m、幅0.3m、深さ0.1mを測る。出土遺物は微量で、蓋片がみられる。

S D 1021 (第400図)

1区東端、環濠外側を走る溝である。東西に走る。東部は排水用側溝に削平され、調査区外に連続するため不明である。検出長4m、幅1.0~1.3m、深さ0.15mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕、不明片岩製品・石鍬がみられる。1771は壺の口頸部片である。口縁端部に刺突文、内面に貼付刻目突帯を2条施す。1772・1774は壺の頸部片である。1773はへ



第398図 S D 1019断面図 (1/40), 出土土器 (1/4)



第399図 S D 1020断面図 (1/40), 出土土器 (1/4)

ラ描沈線文15条，1774は貼付突帯を巡らし，その上に棒状浮文を施す。1775～1777は甕の口縁部片で，逆L字口縁を呈する。1775はヘラ描沈線文を現存で4条施す。

#### S D 1022 (第401図)

1区中央部，環濠外側を走る溝である。南北に走る。検出長3.0m，幅0.5～0.7m，深さ0.35mを測る。出土遺物は少量で，壺・甕・鉢，石錐がみられる。1779は壺の体部片で，ヘラ描沈線文を現存で8条施す。1780は甕，1782は鉢であるが，いずれも逆L字口縁を呈する。1780はヘラ描沈線文を現存で4条施す。

#### S D 1023 (第402図)

1区中央部，環濠外側を走る溝である。南北に走る。検出長3.0m，幅0.7～0.8m，深さ0.2mを測る。出土遺物は微量で，甕片等がみられる。1783は口縁部片で，口縁部は如意状を呈する。

#### S D 1024 (第403・404図)

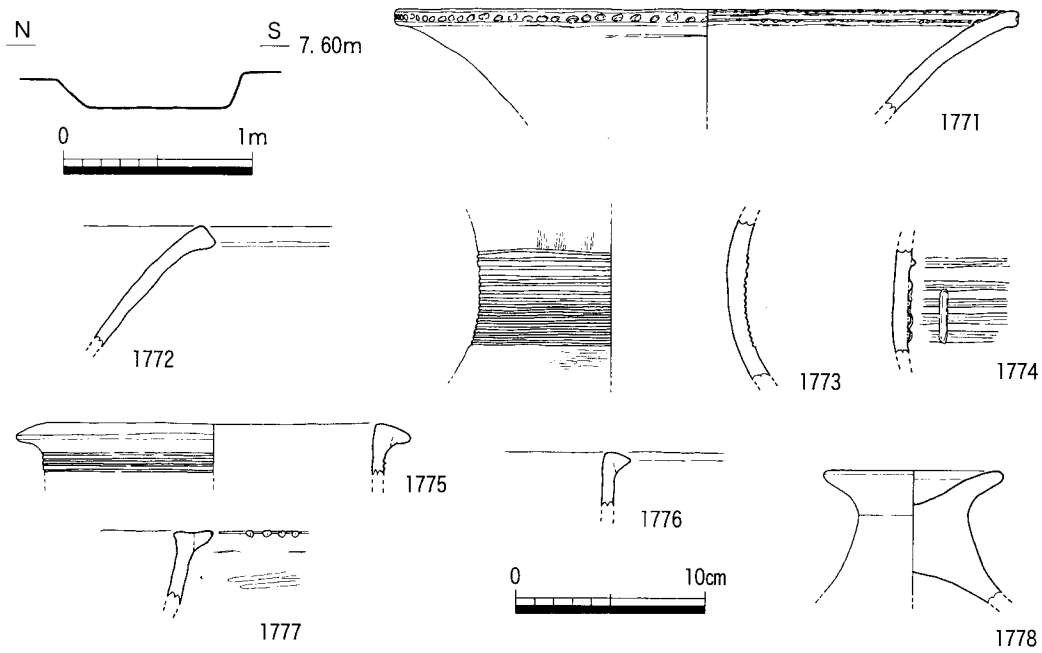
1区中央部，環濠外側を走る溝である。南東から北西に走る。検出長4.7m，幅0.6～1.0m，深さ0.3mを測る。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で，壺・甕，石包丁・石鍬がみられる。1785～1787は壺である。1785は頸部にヘラ描沈線文10条を施す。1786は体部上半に三角形刺突文とヘラ描沈線文を現存で9条施す。1789～1794は甕である。いずれも逆L字口縁を呈する。1789は3条のヘラ描沈線文を施す。1790は摩滅しているが，ヘラ描沈線文11条が観察される。1791も11条，1792は12条のヘラ描沈線文を施す。

#### S D 1025 (第405図)

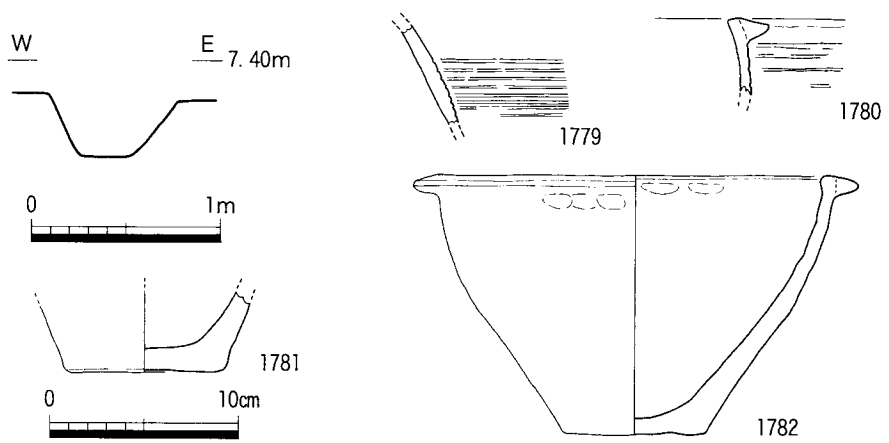
1区東端，環濠外側を走る溝である。南東から北西に走る。東部は調査区外に連続するため全体は不明である。検出長2.2m，幅0.2～0.3m，深さ0.1mを測る。出土遺物は微量で，土器片がみられる。

#### S D 1026 (第406図)

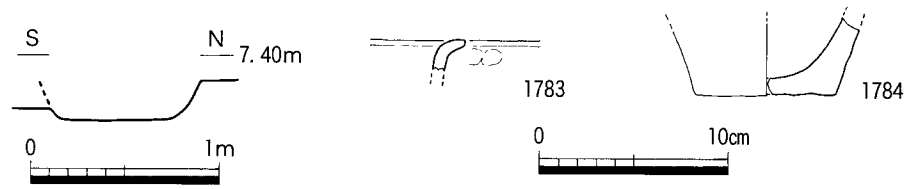
1区中央部やや東寄り，環濠外側で検出された溝である。土坑S K 1017，平安時代の溝S D 1069と重複し，一部が削平を受けている。東西に走る。検出長2.4m，幅0.65mを測る。断面形はU字形を呈し，深さ0.2m前後を測る。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で，壺・甕・蓋等がみられる。1798・1799は壺の口頸部である。1798は櫛描直線文と櫛描波状文を施す。1800は鉢の口縁部である。摩滅しているが，口縁部外面に粘土紐接合時の段がみられる。1801～1804・1806は甕の口縁部である。1803は口縁部が剥離しているが，逆L字口縁を呈すると考えられる。その他も逆L字口縁を呈する。1803はヘラ描沈線文を11条，



第400图 S D1021断面图 (1/40), 出土土器 (1/4)

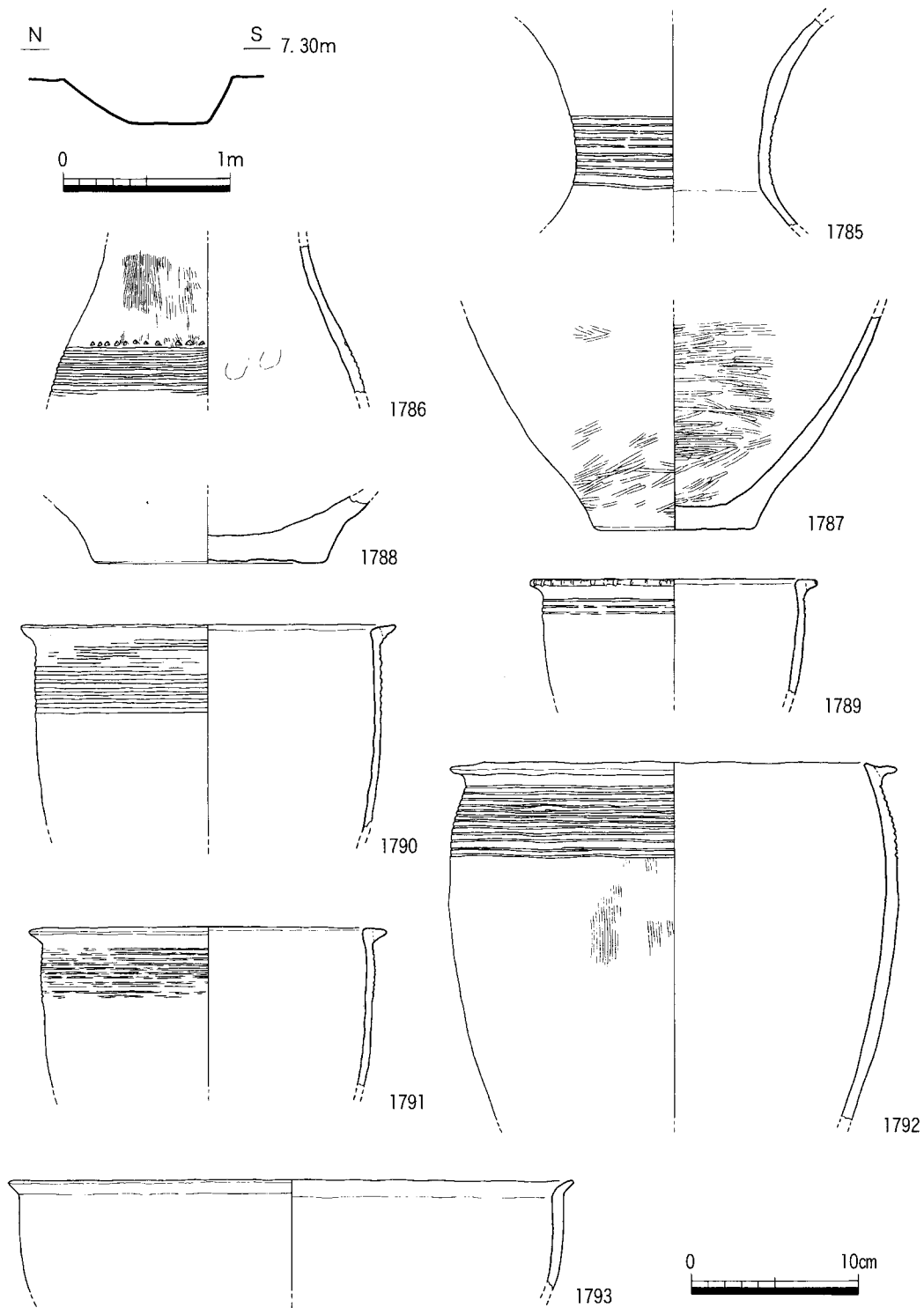


第401图 S D1022断面图 (1/40), 出土土器 (1/4)

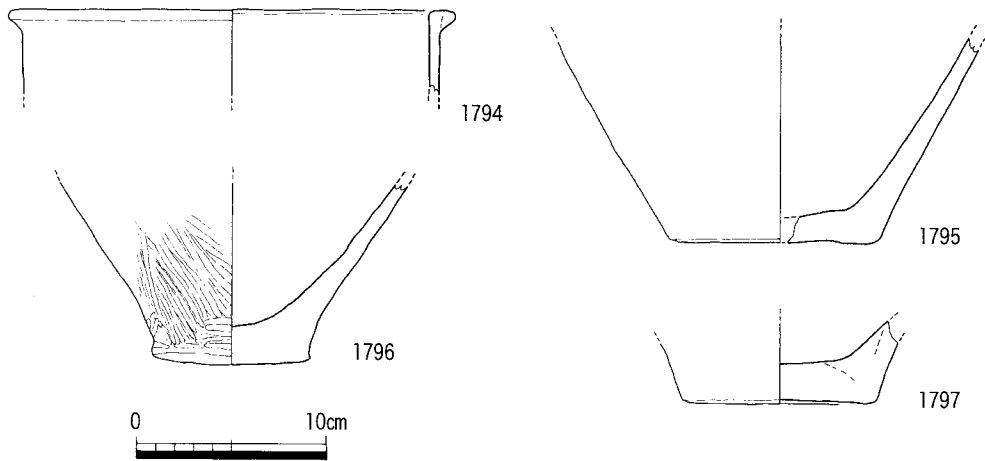


第402图 S D1023断面图 (1/40), 出土土器 (1/4)





第403图 S D1024断面图 (1/40), 出土土器1 (1/4)

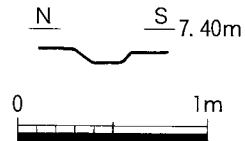


第404図 S D 1024出土土器 2 (1/4)

1804はヘラ描沈線文を現存で2条, 1806は摩滅しているが, 櫛描直線文が現存で16条みられる。

S D 1027 (第407図)

1区ほぼ中央部で検出された溝である。南東から北西に走る。溝S D 1024と重複し, 一部が削平を受けている。検出長2.8m, 幅0.8m, 深さ0.15mを測る。出土遺物は少量で, 壺・甕がみられる。1810・1811は逆L字口縁を呈し, 1810はヘラ描沈線文を現存で8条施す。



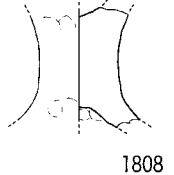
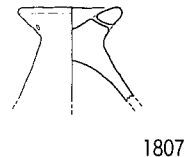
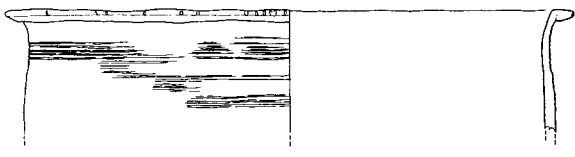
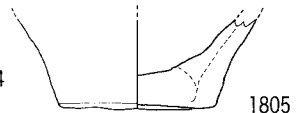
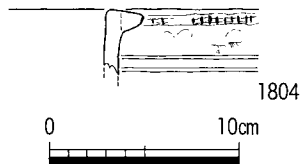
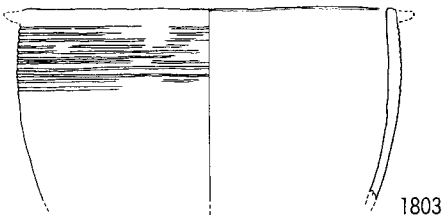
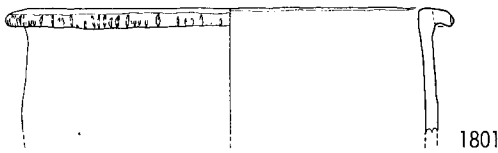
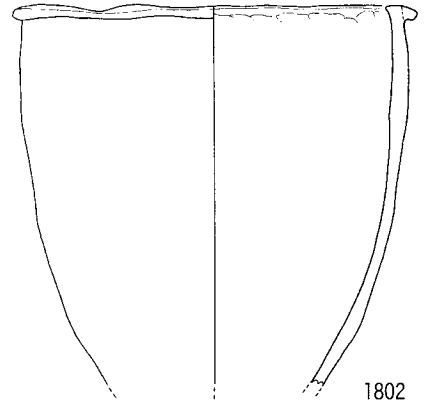
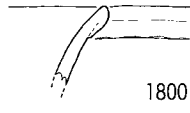
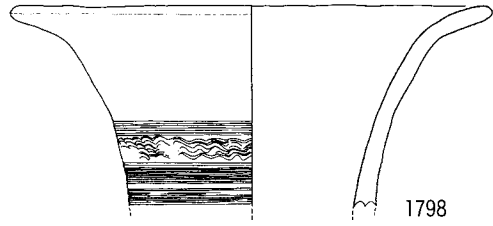
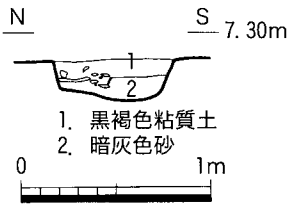
第405図 S D 1025断面図 (1/40)

S D 1028 (第408図)

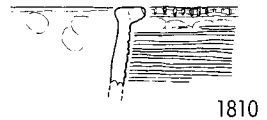
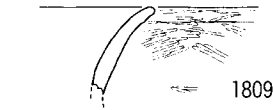
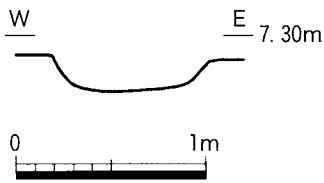
2区北部, 環濠内側を南西から北東に向かって走る溝である。検出長8.5m, 幅0.5~0.6m, 深さ0.2mを測る。埋土上部からは大形土器片が出土した。出土遺物は少量で, 壺・甕, 石包丁等がみられる。1812~1815は壺である。1813は頸部にヘラ描沈線文を3条, 1814は削出突帯第Ⅱ種, 突帯間に沈線2条施す。1815はヘラ描沈線文を4条施す。1816~1819は甕である。いずれも如意状口縁を呈する。1816はヘラ描沈線文を3条施す。1817は摩滅しているが, ヘラ描沈線文が1条みられる。1818はヘラ描沈線文を2条施す。1819は口縁端部にヘラ描沈線文と刻目, 体部上半にヘラ描沈線文を5条施し, その下にはヘラミガキによる段がみられる。

S D 1029 (第409図)

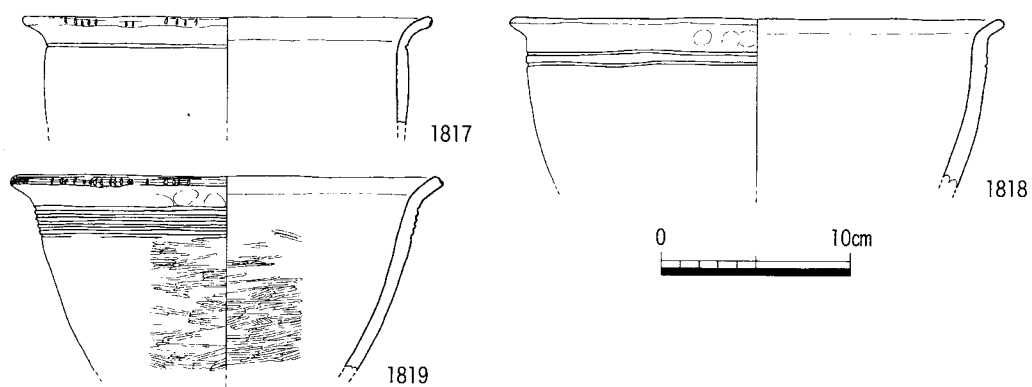
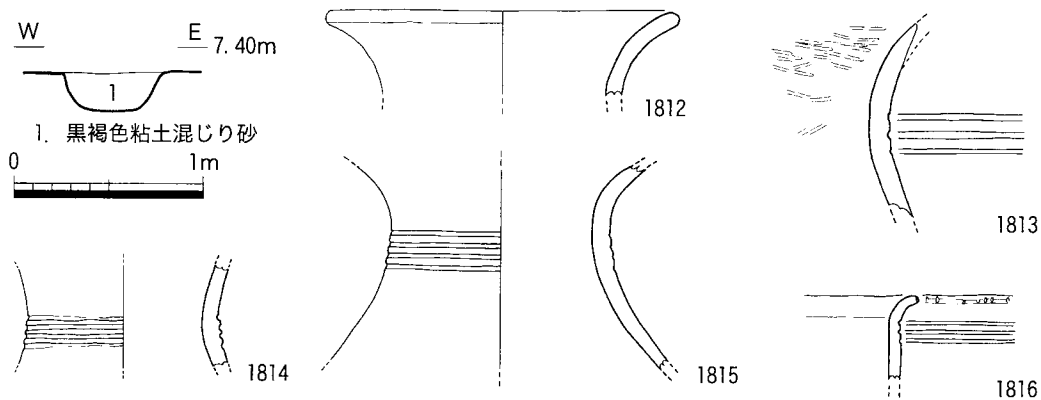
2区北東部, 環濠内側を東西方向に走る溝である。検出長4m, 幅0.3~0.4m, 深さ0.25mを測る。出土遺物は少量で, 甕がみられる。1821は逆L字口縁の甕で, 体部上半にヘラ



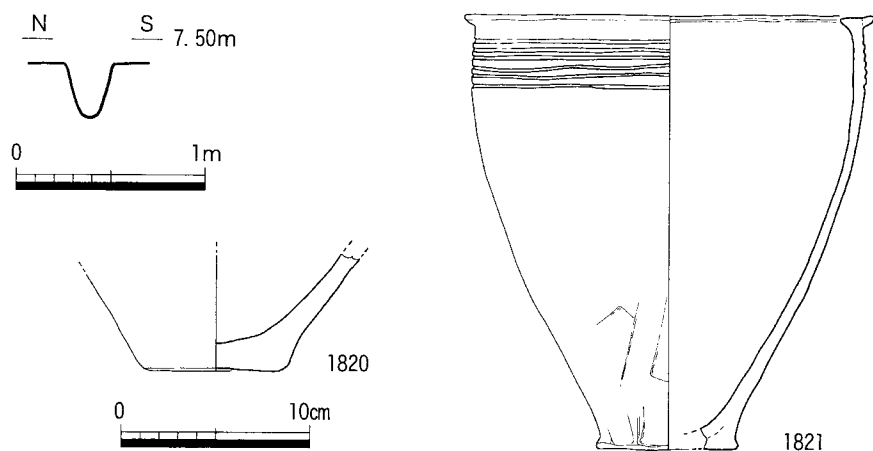
第406图 S D 1026断面图 (1/40), 出土土器 (1/4)



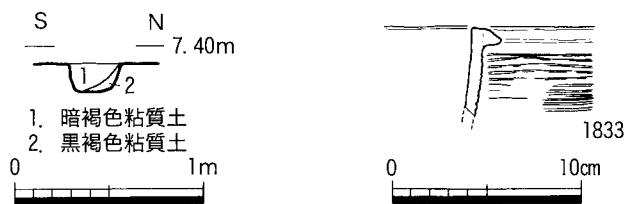
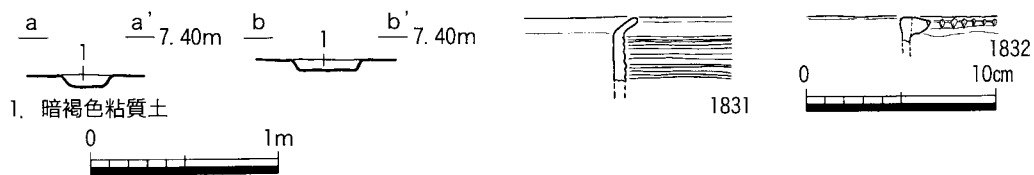
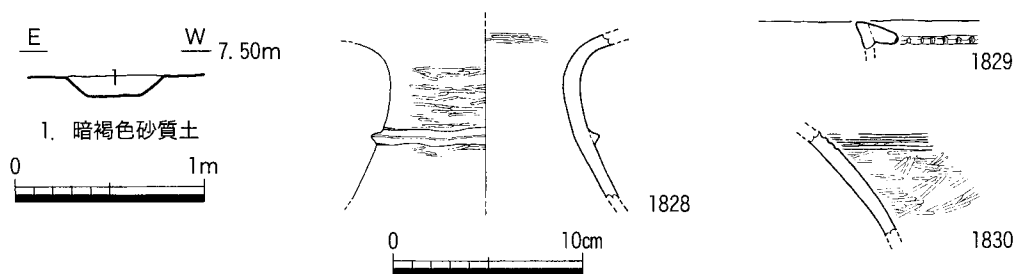
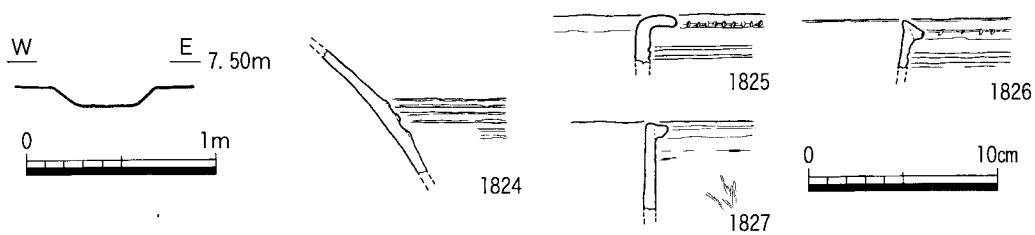
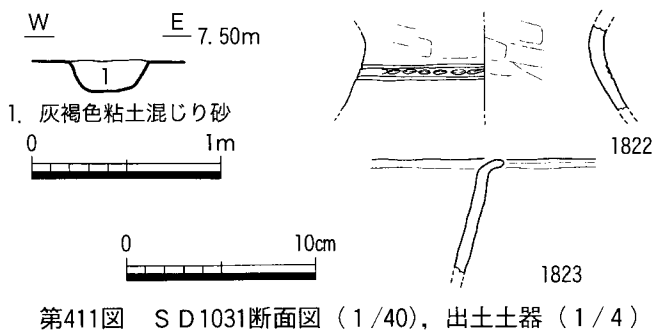
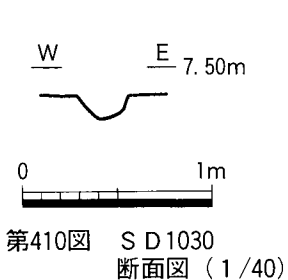
第407图 S D 1027断面图 (1/40), 出土土器 (1/4)



第408図 S D 1028断面図 (1/40), 出土土器 (1/4)



第409図 S D 1029断面図 (1/40), 出土土器 (1/4)



描沈線文を6条施す。

S D 1030 (第410図)

2区東端、環濠内側を南東から北西に向かって走る溝である。検出長3m、幅0.2m、深さ0.15mを測る。出土遺物は微量で、土器片等がみられる。

S D 1031 (第411図)

2区西部、環濠内側を南から北に向かって走る溝である。中央部には小型土坑が重複しており、一部が削平されている。検出長9m、幅0.5~1.0m、深さ0.15mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。1822は壺の頸部片で、ヘラ描沈線文間にヘラ先による刺突文を施す。

S D 1032 (第412図)

2区中央部、環濠内側を南から北に向かって走る溝である。落ち込みS X 1015と重複し、S X 1015の一部を削平している。検出長13m、幅0.5~0.6m、深さ0.2mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕等がみられる。1824は壺の体部片で、貼付突帯を3条施す。1825は折り曲げ口縁の甕で、ヘラ描沈線文を現存で2条施す。1826・1827は逆L字口縁の甕で、1826はヘラ描沈線文を現存で2条施す。

S D 1033 (第413図)

3区中央部西端、環濠内のほぼ中央部を南西から北東に向かって走る溝である。検出長13m、幅0.5m、深さ0.15mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕、石皿または砥石がみられる。1828は壺の頸部片で、頸部に貼付突帯を1条施す。1830は壺の体部片で、ヘラ描沈線文を現存で3条施す。1829は甕の口縁部片で、逆L字口縁を呈する。

S D 1034 (第414図)

環濠内側、2区南東端から3区南西部にかけて南から東に向かって走る溝である。検出長12m、幅0.2~0.3m、深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で、甕、片刃石斧片がみられる。1831は甕で、口縁部は如意状を呈し、ヘラ描沈線文を現存で6条施す。1832は逆L字口縁である。

S D 1035 (第415図)

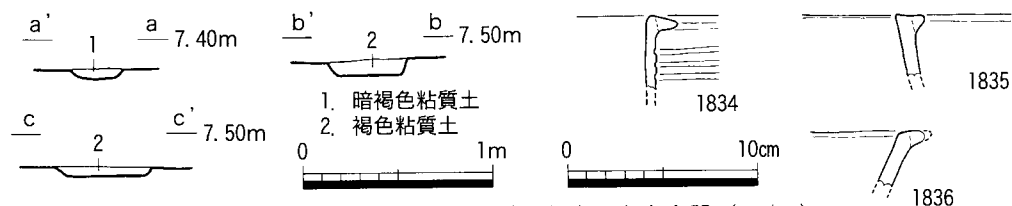
2区南東部、環濠内側を西から東に向かって走る溝である。溝S D 1036と重複し、一部を削平している。検出長3m、幅0.25m、深さ0.15mを測る。出土遺物は微量で、甕片がみられる。1833は逆L字口縁の甕で、ヘラ描沈線文を現存で11条施す。

S D 1036 (第416図)

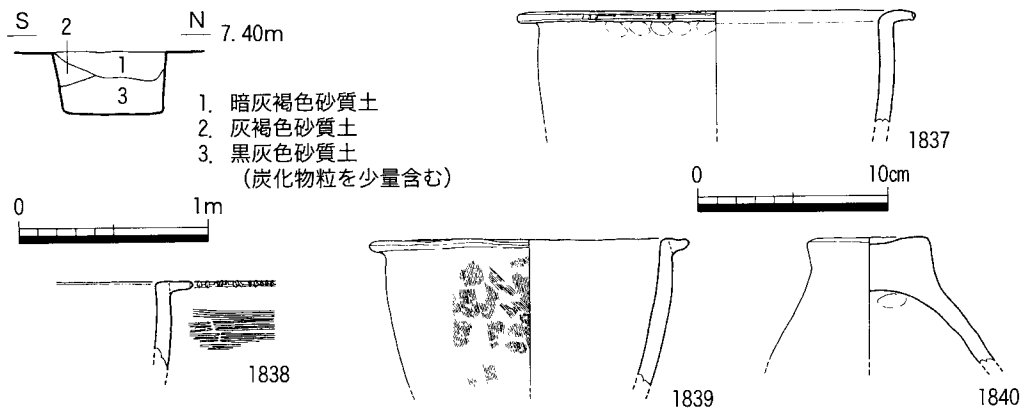
環濠内側,2区南東部から3区南西部にかけて北西から南東に向かって走る溝である。検出長14m,幅0.2~0.3m,深さ0.05mを測る。出土遺物は少量で,甕・鉢がみられる。1834~1836はいずれも逆L字口縁を呈する。1834は外面にヘラ描沈線文を現存で3条施す。

S D 1037 (第417図)

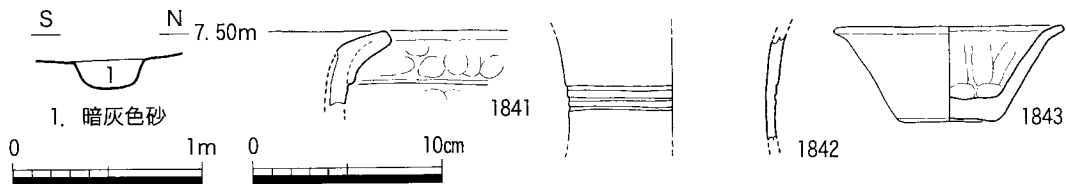
2区南東部,環濠内側を南西から北東に向かって走る溝である。検出長4m,幅0.6mを測る。断面形は逆台形を呈し,深さ0.35mを測る。出土遺物は少量で,甕・蓋がみられる。1837は折り曲げ口縁の甕である。1838・1839は逆L字口縁の甕で,1838は櫛描直線文が現



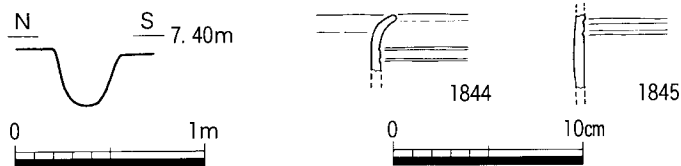
第416図 S D 1036断面図 (1/40), 出土土器 (1/4)



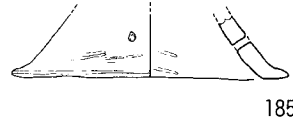
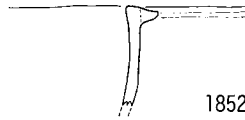
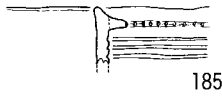
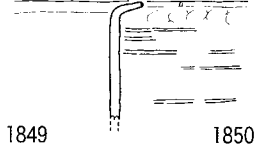
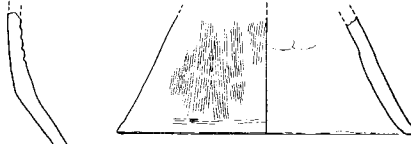
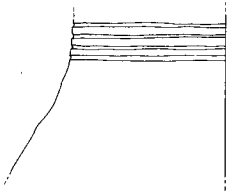
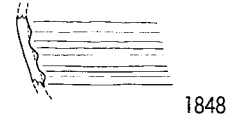
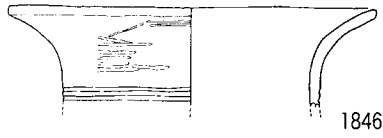
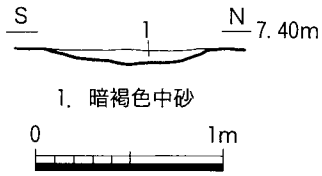
第417図 S D 1037断面図 (1/40), 出土土器 (1/4)



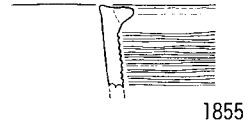
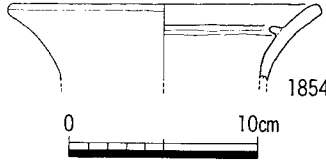
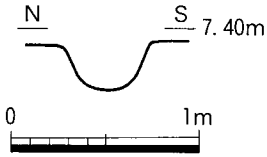
第418図 S D 1038断面図 (1/40), 出土土器 (1/4)



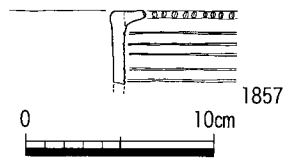
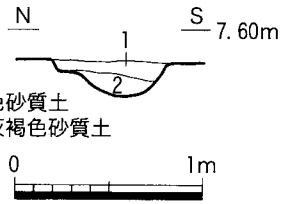
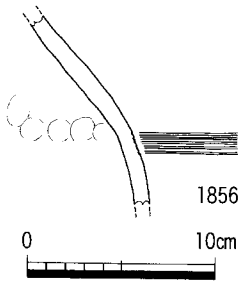
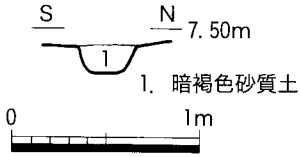
第419図 S D 1039断面図 (1/40), 出土土器 (1/4)



第420图 S D 1040断面图 (1/40), 出土土器 (1/4)



第421图 S D 1041断面图 (1/40), 出土土器 (1/4)



第422图 S D 1042断面图 (1/40), 出土土器 (1/4)

第423图 S D 1043断面图 (1/40), 出土土器 (1/4)



存で10条みられる。

S D1038 (第418図)

2区東部，環濠内側を西から東に向かって走る溝である。検出長2.5m，幅0.4m，深さ0.15mを測る。出土遺物は少量で，壺・鉢または蓋がみられる。1841は大型壺の口縁部で，粘土の接合部分に段が残る。1842は壺の頸部で，ヘラ描沈線文を3条施す。1843は鉢または蓋である。

S D1039 (第419図)

2区南部，環濠内側を東西方向に走る溝である。検出長2.4m，幅0.3～0.5m，深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で，甕がみられる。1844は如意状の口縁部を呈し，ヘラ描沈線文を現存で2条施す。1845は甕の体部片で，ヘラ描沈線文を現存で2条施す。

S D1040 (第420図)

2区南端，環濠内側を西から東に向かって走る溝である。南端は排水用側溝に削平される。検出長4m，幅0.25m，深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で，壺・甕・蓋がみられる。1846は壺の口頸部片で，頸部にはヘラ描沈線文を現存で2条施す。1847・1848も壺の頸部片で，1847はヘラ描沈線文を現存で4条，1848は貼付突帯を現存で3条施す。1850は摩滅しているが，ヘラ描沈線文が5条観察できる。1851は逆L字口縁を呈し，ヘラ描沈線文を現存で3条施す。1852は逆L字口縁の甕である。

S D1041 (第421図)

2区南端，環濠内側を東西方向に向かって走る溝である。検出長3m，幅0.4～0.5m，深さ0.25mを測る。出土遺物は少量で，壺・甕がみられる。1854は壺の口頸部で，内面に貼付突帯を1条施す。1855は逆L字口縁の甕で，ヘラ描沈線文を現存で9条施す。

S D1042 (第422図)

2区南部，環濠内側を西から東に向かって走る溝である。検出長1.8m，幅0.3m，深さ0.15mを測る。出土遺物は微量で，壺がみられる。1856は壺の体部片で，体部上半にヘラ描沈線文を5条施す。

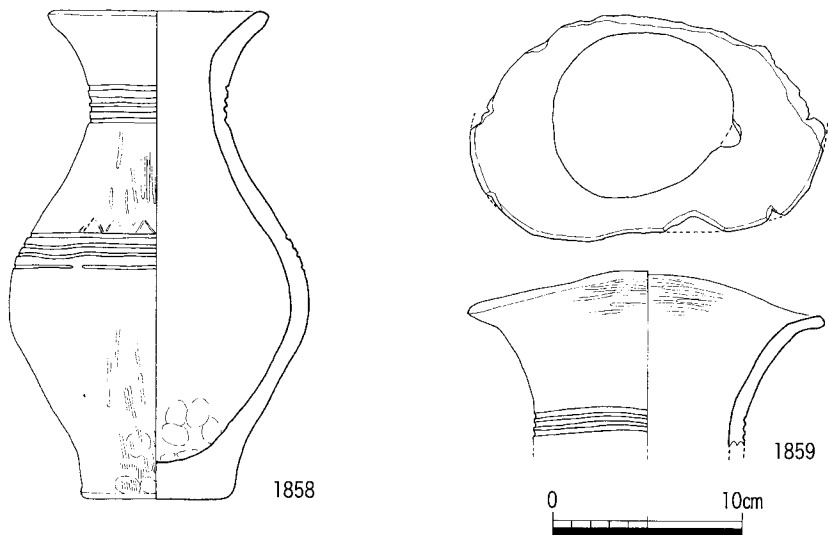
S D1043 (第423図)

2区南部，環濠内側を西から東に向かって走る溝である。溝S D1042と重複し，一部が削平される。検出長3m，幅0.6m，深さ0.2mを測る。出土遺物は微量で，甕，石包丁がみられる。1857は逆L字口縁を呈し，ヘラ描沈線文を現存で5条施す。

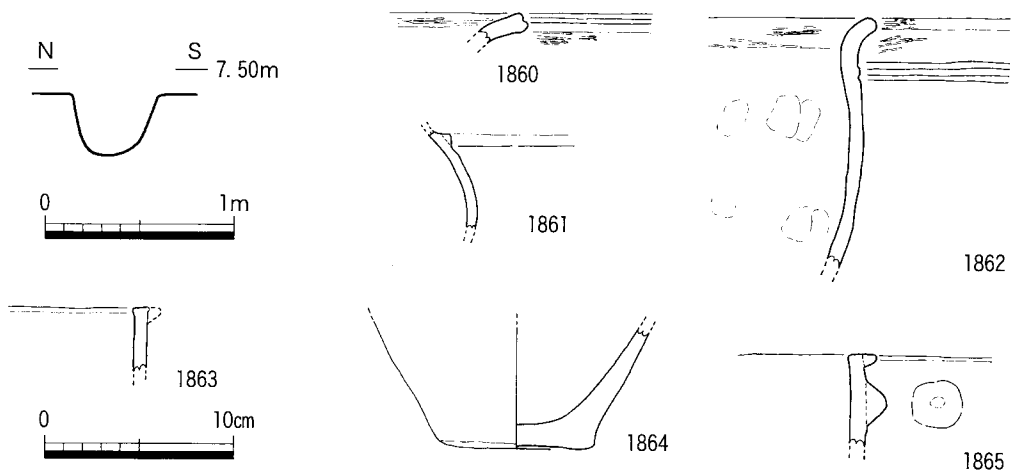
S D1044 (第424・425図)



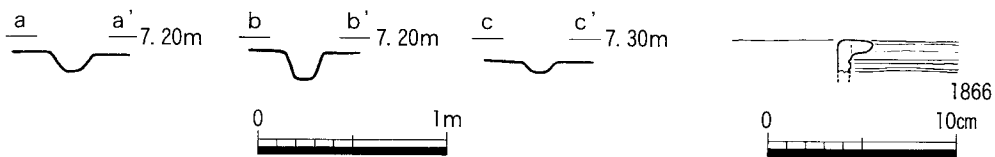
第424图 SD1044·SD1045断面图(1/40)



第425图 SD1044出土土器(1/4)



第426图 SD1046断面图(1/40), 出土土器(1/4)



第427图 SD1047断面图(1/40), 出土土器(1/4)

2区西部，環濠内側を南北に向かって走る溝である。平安時代の溝S D1070と重複し，一部が削平されている。検出長5.6m，幅0.6～1.5m，深さ0.1～0.2mを測る。出土遺物は少量で，壺がみられる。1858は頸部にヘラ描沈線文4条，体部上半に半截竹管山形文またはヘラ描複線山形文とヘラ描沈線文4条施す。1859は口縁部が押し潰されており，上からみると楕円形を呈する。頸部にはヘラ描沈線文を現存で3条施す。

S D1045 (第424図)

2区西部，環濠内側を南北に向かって走る溝である。平安時代の溝S D1070と重複し，一部削平を受ける。検出長1.5m，幅0.4～0.5m，深さ0.1mを測る。出土遺物は微量で，土器片がみられる。

S D1046 (第426図)

2区北東部，環濠内側を走る溝である。東西に走る。検出長2.3m，幅0.4～0.5m，深さ0.35mを測る。出土遺物は少量で，壺・甕・鉢，石包丁・石鋏がみられる。1861は壺の体部片で，貼付突帯を施す。1862は甕で，口縁部は如意状を呈し，ヘラ描沈線文2条施す。1863は口縁部が剥落しているが，逆L字口縁を呈するものと考えられる。

S D1047 (第427図)

3区南東部，環濠外側を東西に走る溝である。一部途切れるが，検出長23m，幅0.15～0.3m，深さ0.1～0.3mを測る。出土遺物は微量で，甕がみられる。1866は逆L字口縁を呈し，ヘラ描沈線文を現存で2条施す。

S D1048 (第428図)

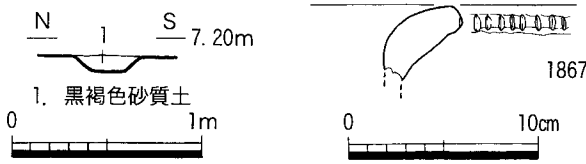
3区南部，環濠内側を南西から北東に向かって走る溝である。検出長4.5m，幅0.4m，深さ0.15mを測る。出土遺物は微量で，大型壺の口縁部片，盤状剥片剥片の分割材等が出土した。

S D1049 (第429図)

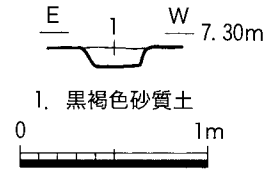
3区ほぼ中央部，環濠内側を南西から北東に向かって走る溝である。検出長4.5m，幅0.4m，深さ0.1m前後を測る。出土遺物は微量で，甕，石皿または砥石がみられる。1868は如意状の口縁部を呈し，ヘラ描沈線文を現存で3条施す。

S D1050 (第430図)

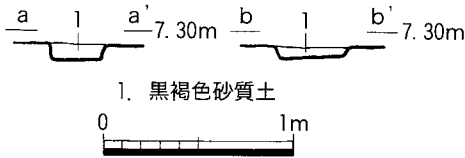
3区中央部南寄り，環濠内側を南西から北東に向かって走る溝である。検出長15m，幅0.3～0.4m，深さ0.1m前後を測る。出土遺物は微量で，壺・甕，打製石斧がみられる。1869は壺の頸部片で，頸部にはヘラ描沈線文を4条施す。1870～1873は甕である。1871～1873



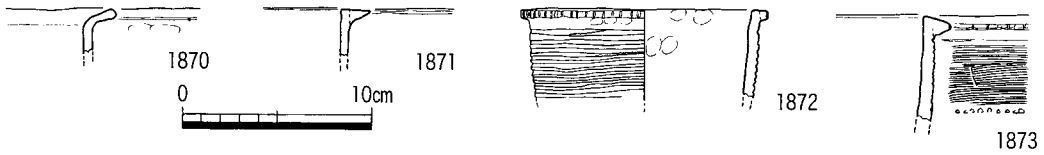
第428図 S D 1048断面図 (1/40), 出土土器 (1/4)



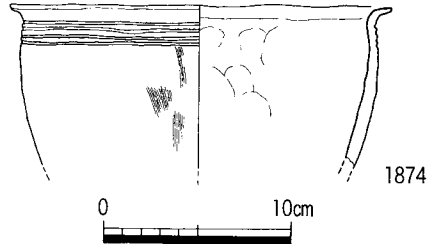
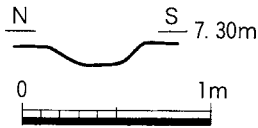
第429図 S D 1049断面図 (1/40), 出土土器 (1/4)



第430図 S D 1050断面図 (1/40), 出土土器 (1/4)



第431図 S D 1051断面図 (1/40), 出土土器 (1/4)



は逆L字口縁を呈し、1872はヘラ描沈線文を現存で10条、1873は櫛描直線文13条と三角形刺突文を施す。

S D 1051 (第431図)

3区南部、環濠内側を南西から北東に向かって走る溝である。検出長2m、幅0.4~0.5m、深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で、甕がみられる。1874はヘラ描沈線文を4条施す。

S D 1052 (第432図, 図版26)

3区南西端、環濠内側を南西から北東に向かって走る溝である。検出長5.5m、幅1.15m、深さ0.2mを測る。溝のほぼ中央部埋土第2層から大形土器片がまとまって出土した。出土遺

物は整理用コンテナ1箱程度で、壺・甕・鉢、石包丁・石鍬がみられる。1875～1877は壺である。1877は壺の頸部片で、貼付突帯後、棒状浮文を施す。1878～1887は甕である。1878の口縁部は如意状を呈する。外面は摩滅しているため不明瞭であるが、ヘラ描沈線文とみられる沈線文を12条程度施す。1879～1881・1883～1885・1887は逆L字口縁の甕である。1879は摩滅しているが、現存する櫛描直線文9条が観察できる。1880はヘラ描沈線文を10条、1881は現存で9条施す。1882は甕の体部片で、ヘラ描沈線文を現存で8条と刺突文を施す。

#### S D1053 (第433図)

3区南西部、環濠内側を西から東に向かって走る溝である。検出長4m、幅0.65m、深さ0.2mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。1889は壺の頸部片で、ヘラ描沈線文を現存で2条施す。1890は折り曲げ口縁の甕片で、ヘラ描沈線文を現存で3条施す。

#### S D1054 (第434図)

3区西部、環濠内側を西から東に向かって走る溝である。検出長6m、幅0.6m、深さ0.2mを測る。出土遺物は少量で、壺・無頸壺・甕がみられる。1892は壺の頸部から体部片で、頸部にヘラ描沈線文が現存で1条みられる。1893は無頸壺である。外面にはヘラ描沈線文、半截竹管複線山形文、細かい刺突文を施す。1894～1897・1899は逆L字口縁の甕である。1894はヘラ描沈線文を8条施す。1895は現存で4条、1896は現存で6条みられる。

#### S D1055 (第435図)

3区ほぼ中央部、環濠内側を西から東に向かって走る溝である。検出長5m、幅0.55mを測る。断面形は浅い皿状または浅い逆台形を呈し、深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で、土器片、不明片岩製品がみられる。

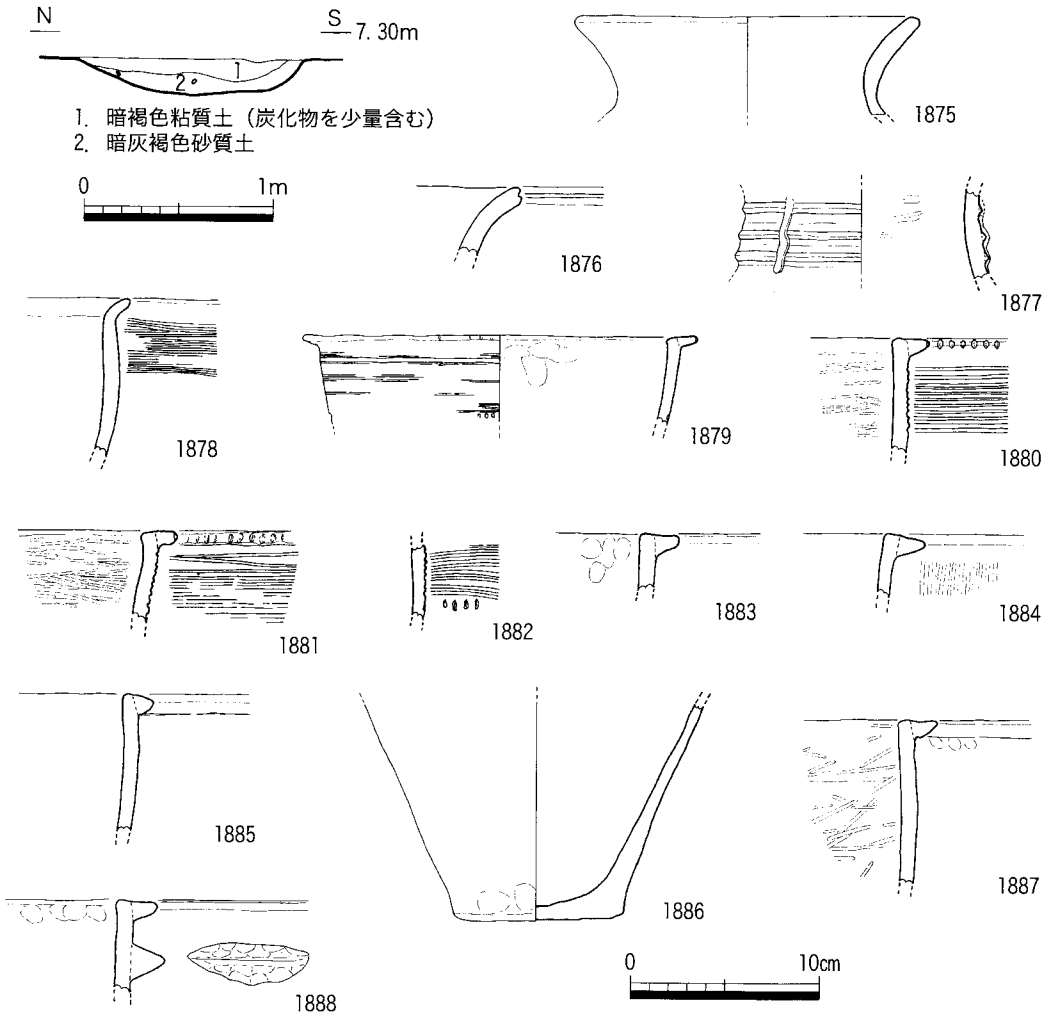
#### S D1056 (第436図)

3区東部、環濠内側を南から北に向かって走る溝である。溝S D1055、環濠と重複し、溝の両端を削平されている。検出長1.4m、幅0.4～0.6m、深さ0.1～0.2mを測る。出土遺物は少量で、壺がみられる。1900は壺の頸部で、口縁部と頸部の境にヘラ描沈線文1条がみられる。

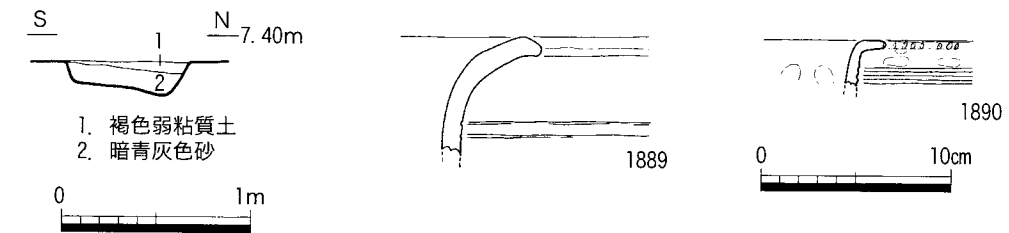
#### S D1057 (第437図)

3区東部、環濠内側を南西から北東に向かって走る溝である。検出長2.0m、幅0.6～0.7m、深さ0.1～0.2mを測る。出土遺物は少量で、壺・蓋がみられる。

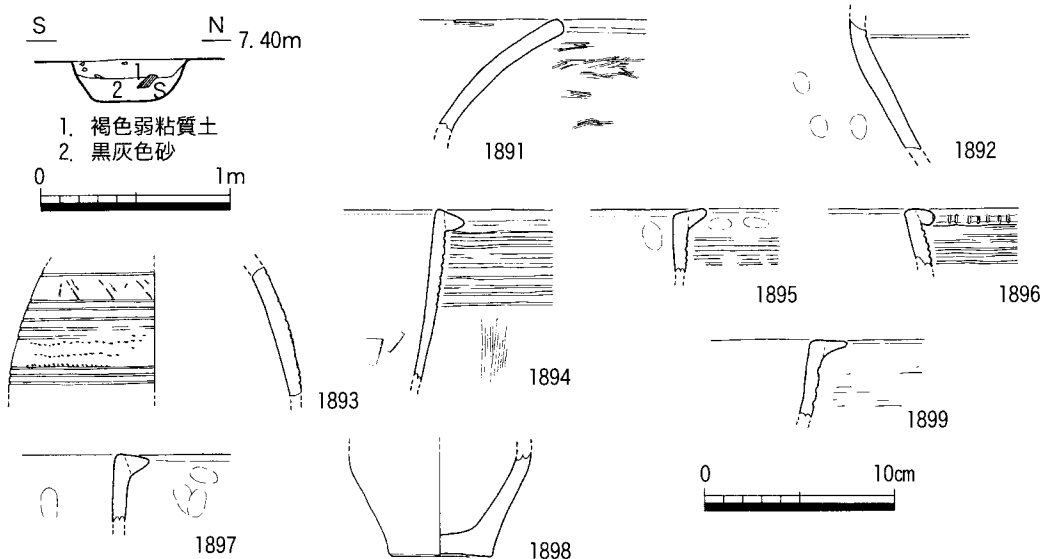
#### S D1058 (第438図)



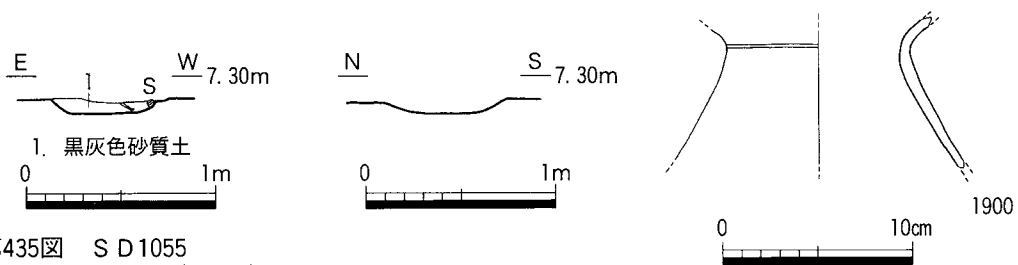
第432図 S D 1052断面図 (1/40), 出土土器 (1/4)



第433図 S D 1053断面図 (1/40), 出土土器 (1/4)

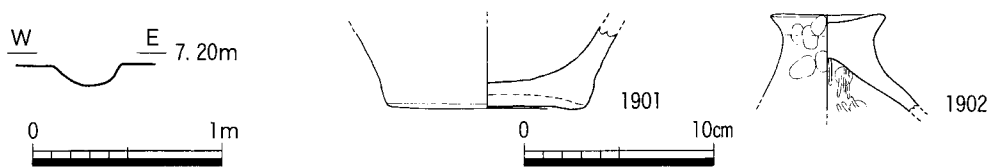


第434图 S D 1054断面图 (1/40), 出土土器 (1/4)

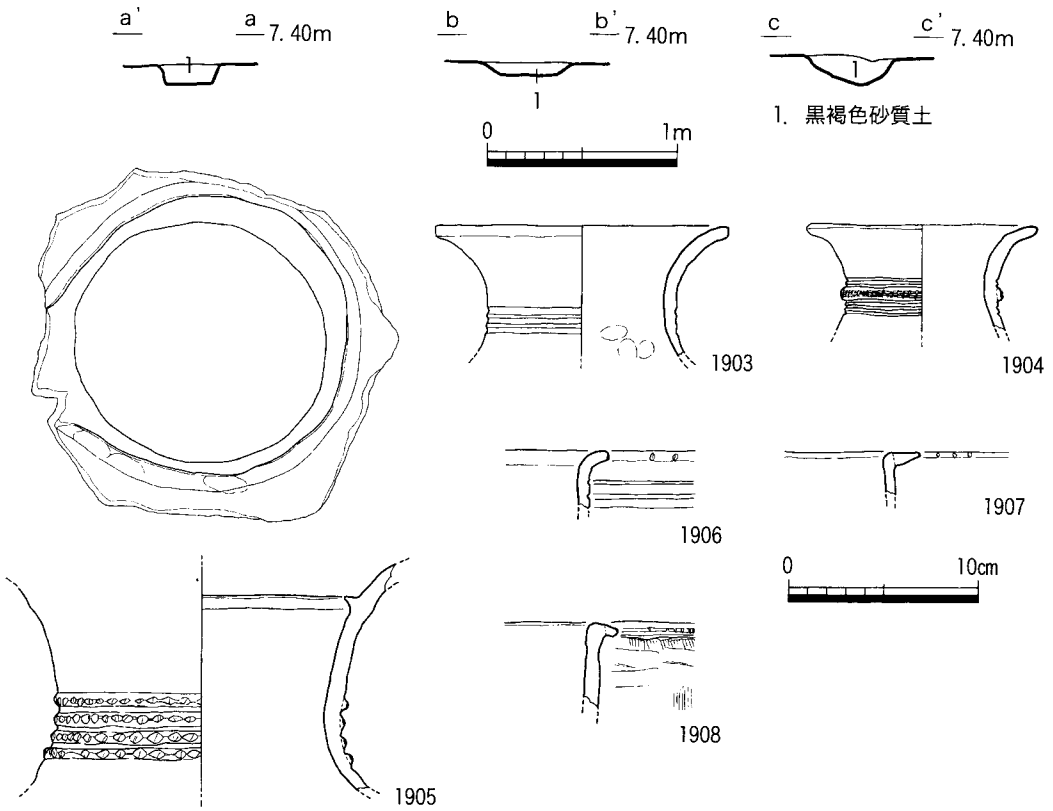


第435图 S D 1055  
断面图 (1/40)

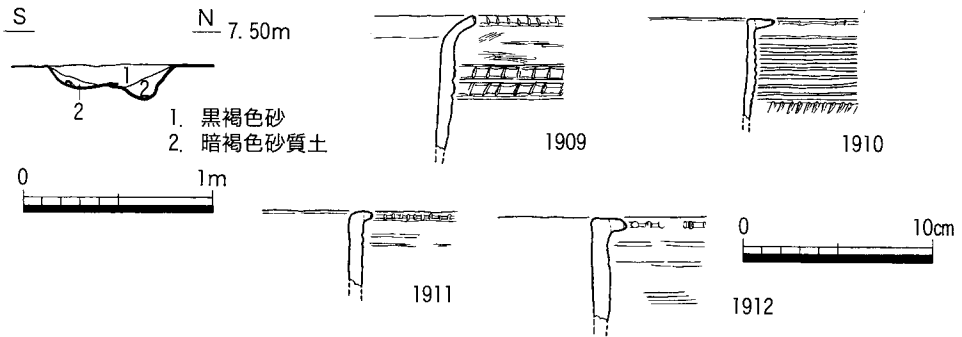
第436图 S D 1056断面图 (1/40), 出土土器 (1/4)



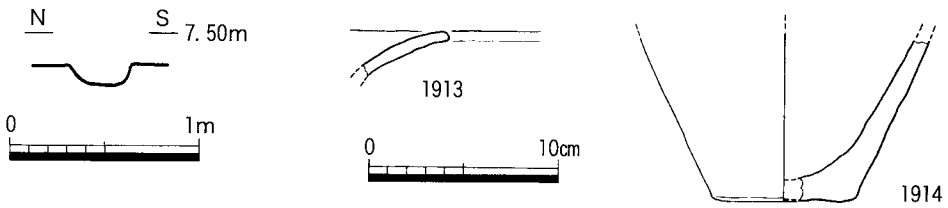
第437图 S D 1057断面图 (1/40), 出土土器 (1/4)



第438图 S D 1058断面图 (1/40), 出土土器 (1/4)



第439图 S D 1059断面图 (1/40), 出土土器 (1/4)



第440图 S D 1060断面图 (1/40), 出土土器 (1/4)



3区中央部やや北寄り，環濠内側を南から北に向かって走る溝である。検出長20m，幅0.3～0.5m，深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で，壺・甕，石鍬がみられる。1903～1905は壺である。1903は頸部にヘラ描沈線文を3条施す。1904は頸部にヘラ描沈線文と貼付突帯を施す。貼付突帯上にはヘラ描沈線を1条巡らした後，刻目を施す。1905は頸部外面に貼付刻目突帯を4条，内面には開口部をもつ貼付突帯を1条施す。1908は逆L字口縁の甕である。

#### S D 1059 (第439図，図版26)

3区中央部やや西寄り，環濠内側を西から東に向かって走る溝である。検出長7.5m，幅0.65m，深さ0.1～0.2mを測る。溝北部から土器片がまとまって出土した。出土遺物は少量で，甕，石包丁がみられる。1909は如意状を呈する甕で，ヘラ描沈線文3条を施し，沈線文間に刻目を施す。1910～1912は逆L字口縁を呈し，1910はヘラ描沈線文9条と刺突文を施す。1911・1912は摩滅しているが，1911は2条の沈線文，1912はヘラ描沈線文を多条施しているのが観察できる。1911は櫛描直線文の可能性が高い。

#### S D 1060 (第440図)

3区中央部やや西寄り，環濠内側を南西から北東に向かって走る溝である。検出長5m，幅0.3～0.4m，深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で，壺・甕がみられる。

#### S D 1061 (第441図)

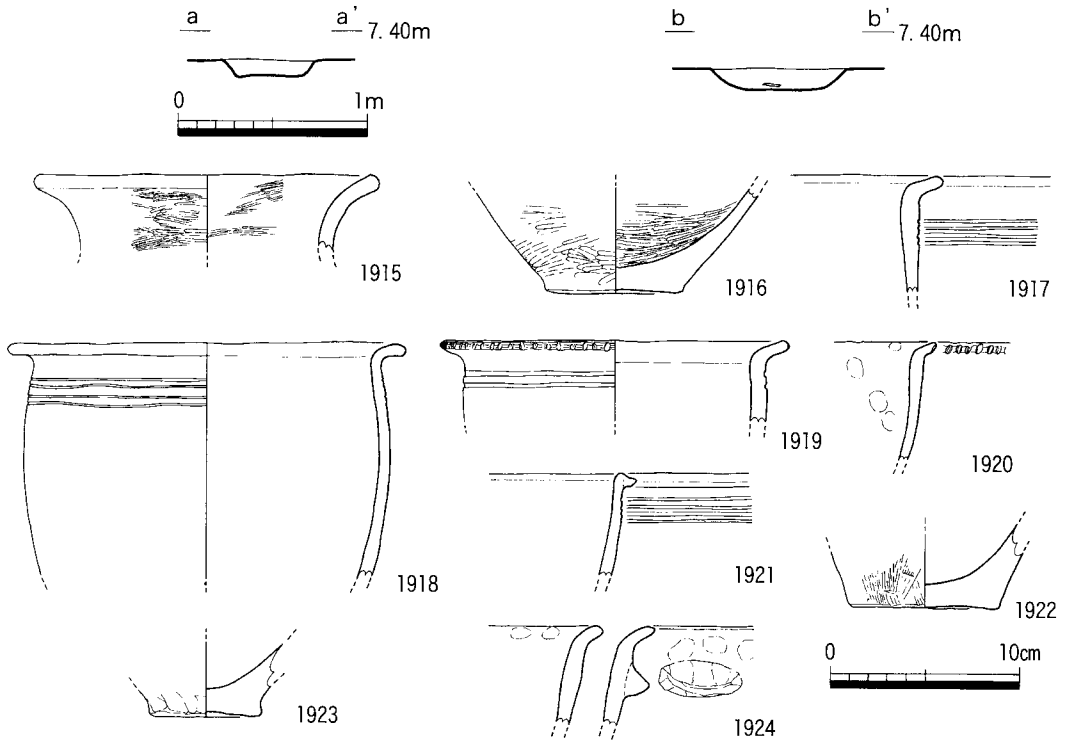
3区中央部北寄り，環濠内側を南から北東に向かって走る溝である。検出長6m，幅0.5～0.7m，深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で，壺・甕・鉢，石鍬等がみられる。1917～1923は甕である。1917～1920の口縁部は如意状を呈し，1917はヘラ描沈線文を4条施す。1918はヘラ描沈線文を4条，1919は2条施す。1921は逆L字口縁を呈し，ヘラ描沈線文を4条施す。

#### S D 1062 (第442図)

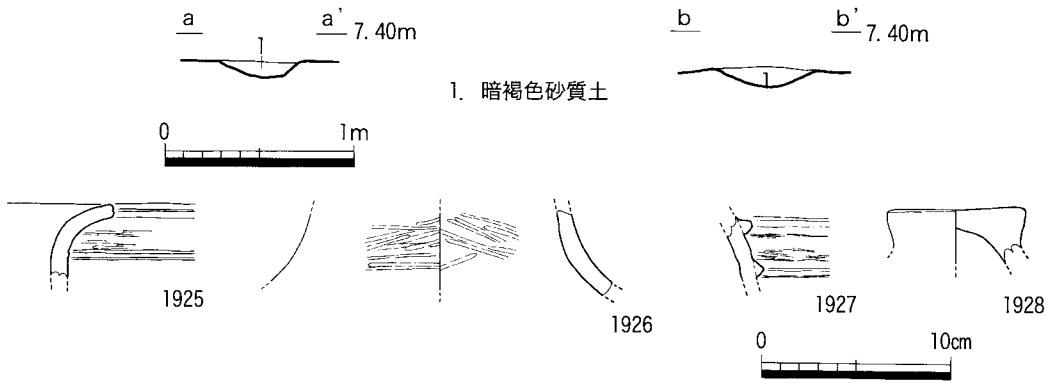
3区中央部北寄り，環濠内側を南から北東に向かって走る溝である。検出長15m，幅0.4～0.5m，深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で，壺・蓋，石鍬・打製石斧がみられる。1927は壺の体部片で，貼付突帯を現存で2条施す。

#### S D 1063 (第443図)

3区北部，環濠内側を南北に走る溝である。検出長3.0m，幅0.5m，深さ0.15mを測る。出土遺物は少量で，壺・甕がみられる。1930は壺の頸部片である。削出突帯第Ⅱ種，突帯間に沈線文を1条施す。1931・1932は甕で，口縁部は如意状を呈する。1931は摩滅している

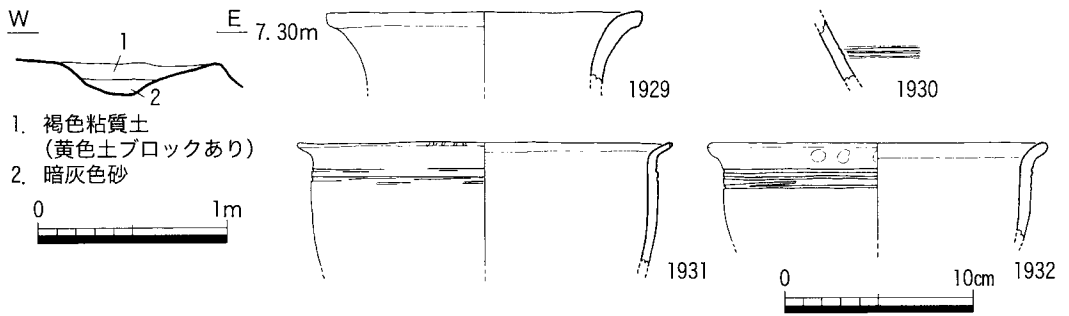


第441图 S D 1061断面图 (1/40), 出土土器 (1/4)

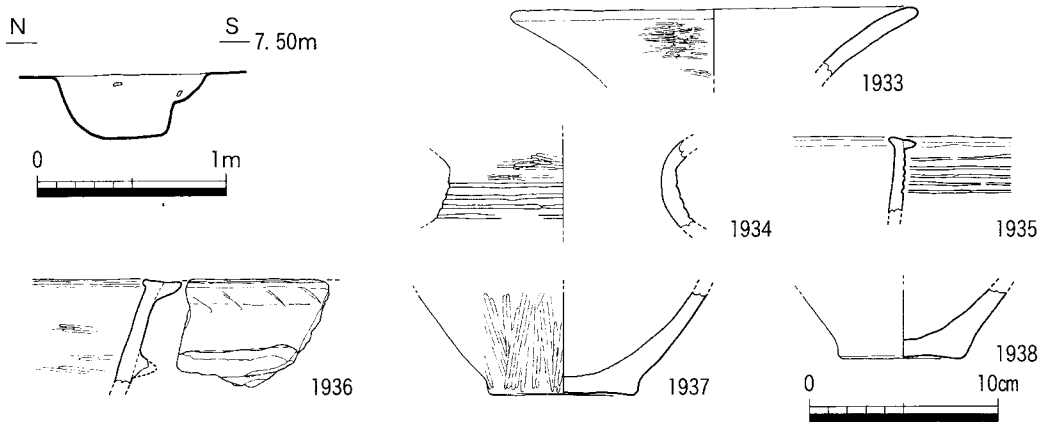


第442图 S D 1062断面图 (1/40), 出土土器 (1/4)

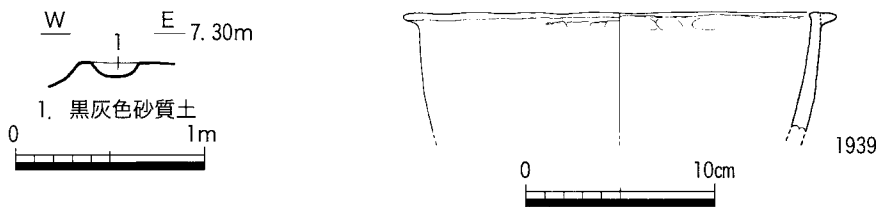
1. 暗褐色砂質土



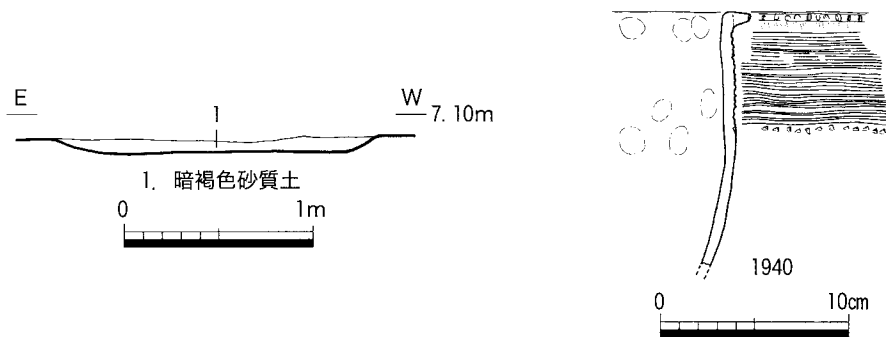
第443図 S D 1063断面図 (1/40), 出土土器 (1/4)



第444図 S D 1064断面図 (1/40), 出土土器 (1/4)



第445図 S D 1065断面図 (1/40), 出土土器 (1/4)



第446図 S D 1066断面図 (1/40), 出土土器 (1/4)

が、ヘラ描沈線文3条が観察できる。1932もヘラ描沈線文を3条施す。

#### S D 1064 (第444図)

3区北西部、環濠内側を南東から北西に向かって走る溝である。検出長11m、幅0.8m、深さ0.3mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕・鉢、石皿または砥石がみられる。1934は壺の頸部で、ヘラ描沈線文を現存で4条施す。1935は甕で、逆L字口縁を呈し、ヘラ描沈線文を5条施す。

#### S D 1065 (第445図)

3区中央部、環濠内側を南西から北東に向かって走る溝である。検出長5m、幅0.3m、深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で、甕がみられる。1939は逆L字口縁の甕である。

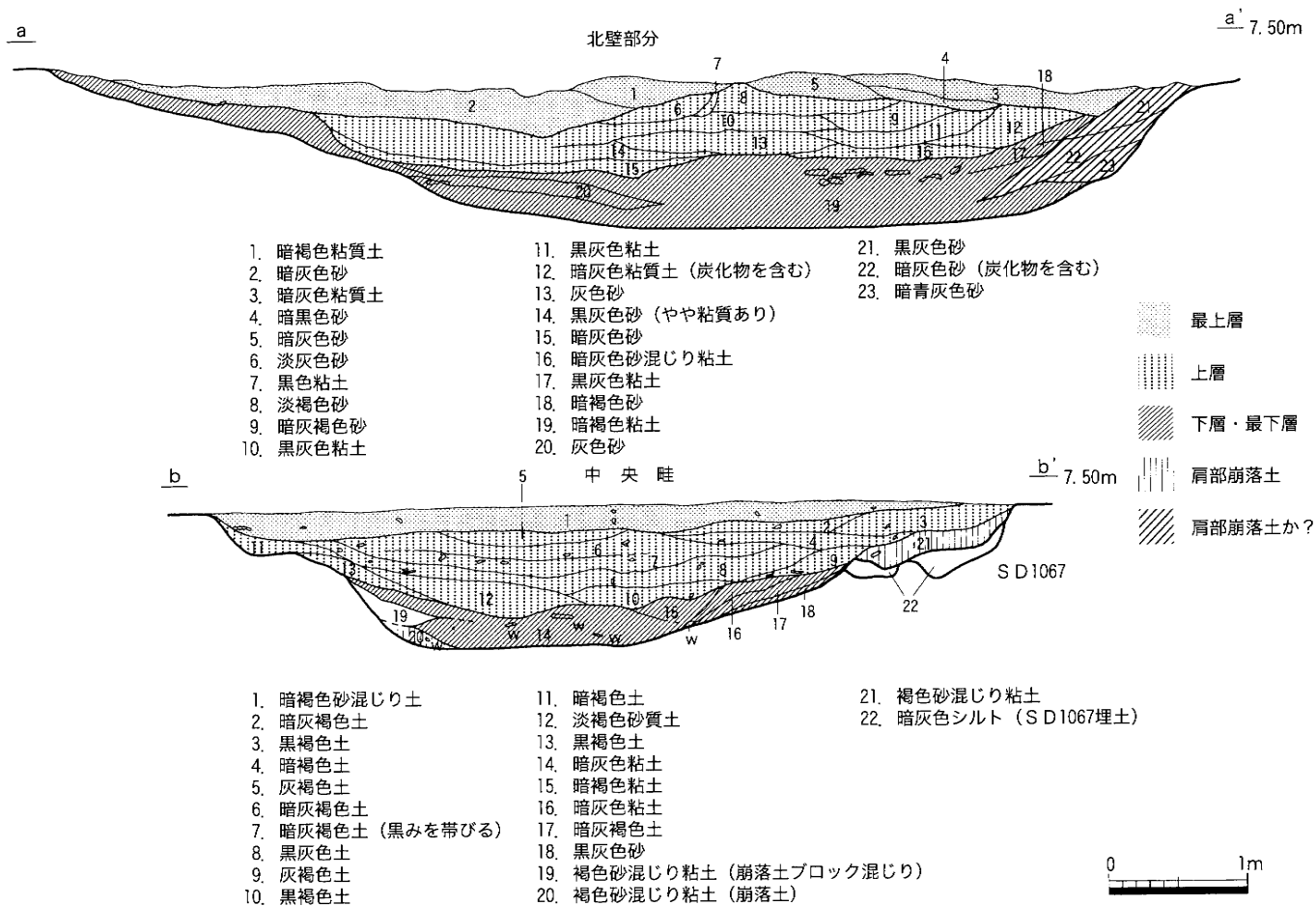
#### S D 1066 (第446図)

4区やや西部、環濠外側を南北に走る溝である。南部は沼状遺構S X 1056と重複し、削平されている。幅0.25~0.4m、深さ0.1~0.2m、検出長5.5mを測る。出土遺物は少量で、甕、石鍬・石錐・打製石斧がみられる。1940は逆L字口縁の甕で、櫛描直線文を16条と三角形刺突文を施す。

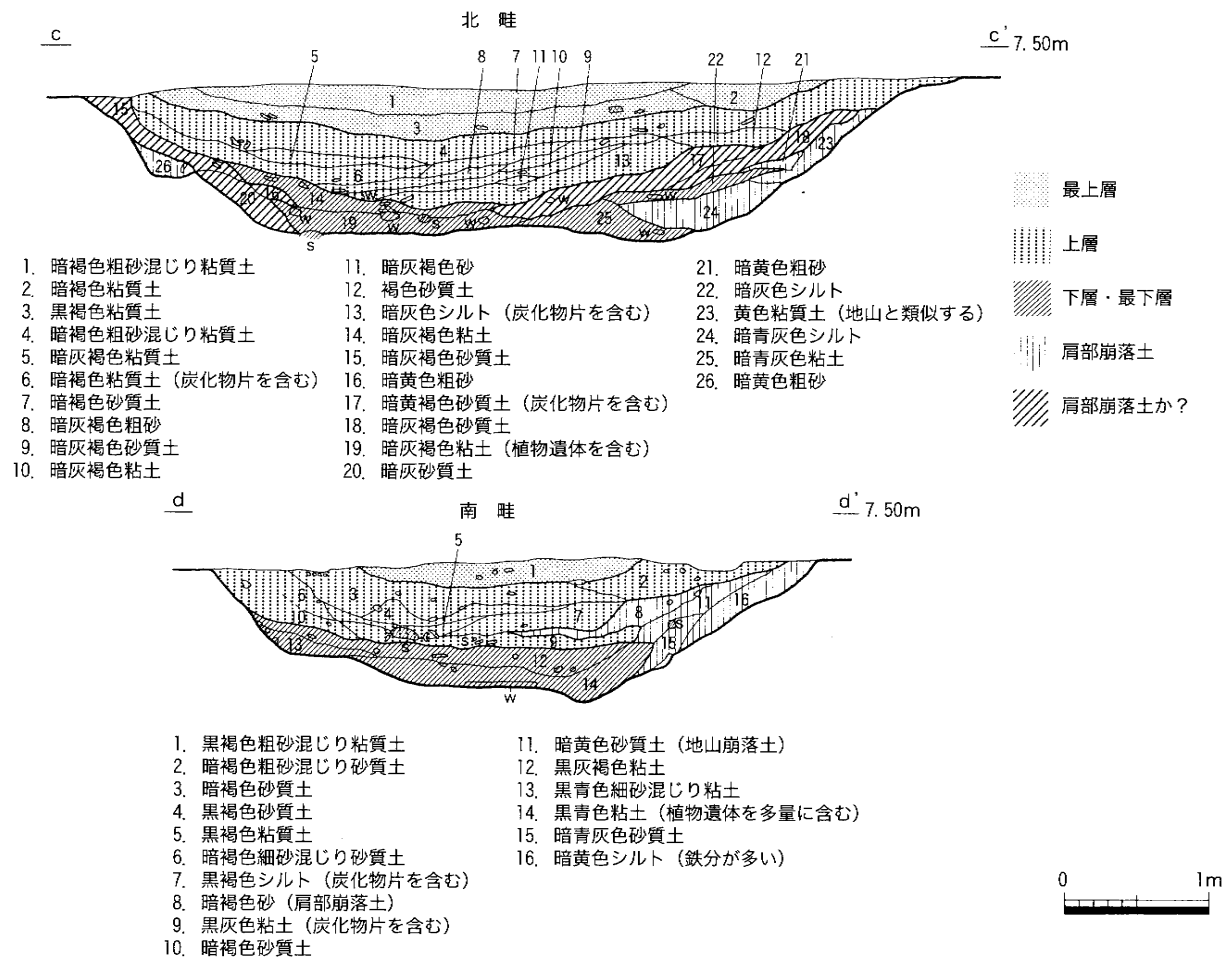
### (5) 環濠

#### S D 01・S D 1067 (第447~456図、図版33~56)

S D 01は2区から3区にかけて検出された環濠である。平成2年度にもこの溝の南側の一部を検出しており、調査区内ではほぼ円形に巡ることが確認されている。北部は調査区外に及ぶため全体は不明であるが、環濠の内側は東西径53~60mを測る。溝幅は2区では2.3~5.3m、3区では2.4~6.5mを測り、2区・3区ともに中央部が幅広い。断面形は逆台形を呈する。溝の深さは2区では中央部で部分的に深くなり、深さ1.2mを測るが、北部では0.8~0.9m、南部では0.8~1.0mを測る。3区でも中央部で最も深く、深さ1.1mを測るが、北部では0.9~1.0m、南部では0.6~0.9mを測る。溝の埋土は大きく最上層・上層・下層に分類され、最上層は主として黒褐色粘質土、上層は黒褐色砂質土または粘質土、下層は暗褐色粘土が堆積する。なお、S D 01の肩部が崩落したと考えられる地山に類似する黄色粘質土・暗黄色粗砂層が最上層・上層の下部、下層堆積土中にラミナー状堆積する。また、2区においてはS D 01の内側に、S D 01に平行して走る溝S D 1067が検出されている。S D 1067は本来2条の溝であるが、2条の溝に分岐する部分のごく僅かで、大半が重複している。そのため、両溝の前後関係は不明で、遺物の所属も不明であった。土層堆積状況から、S D 1067の埋没後、S D 01の肩部が崩壊したと考えられる地山が堆積していることが確認され



第447図 S D 1067・S D 01 (2区部分) 断面図 (1/50)

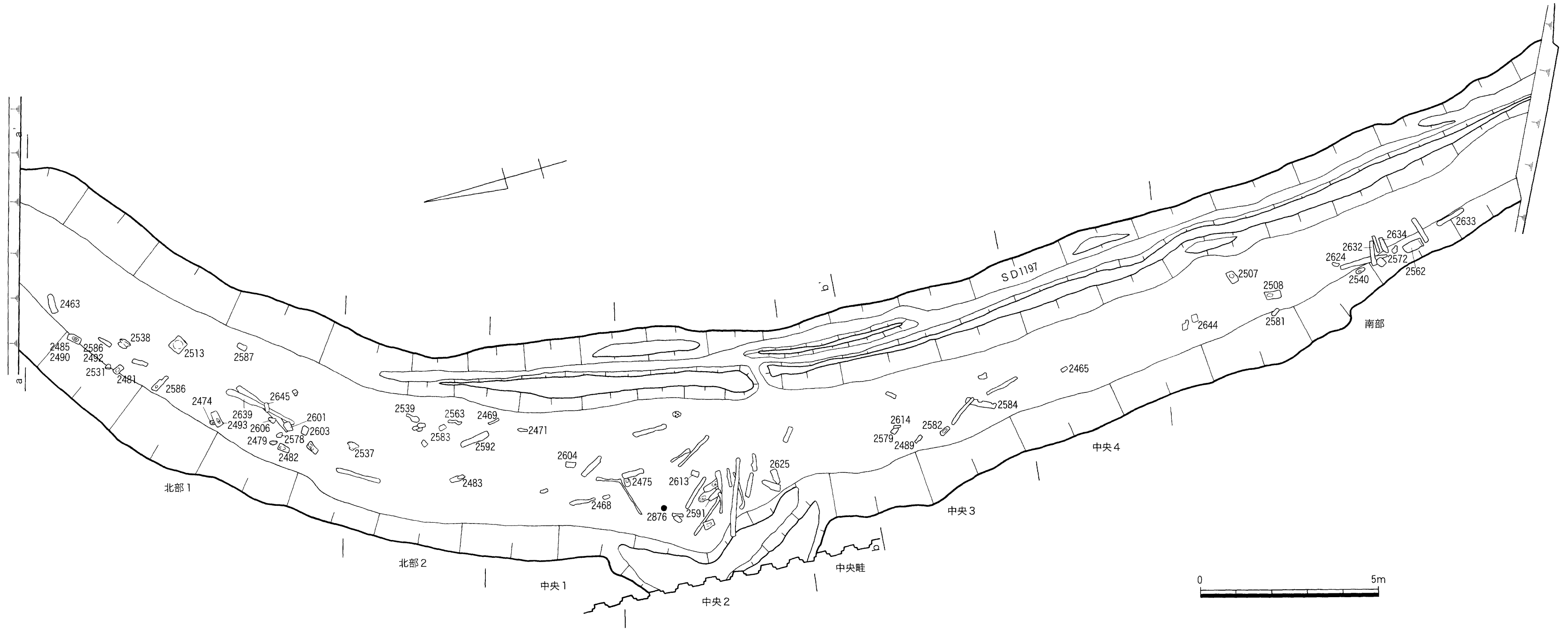


第448図 S D01 (3区部分) 断面図 (1/50)

第2表 S D01出土木製品

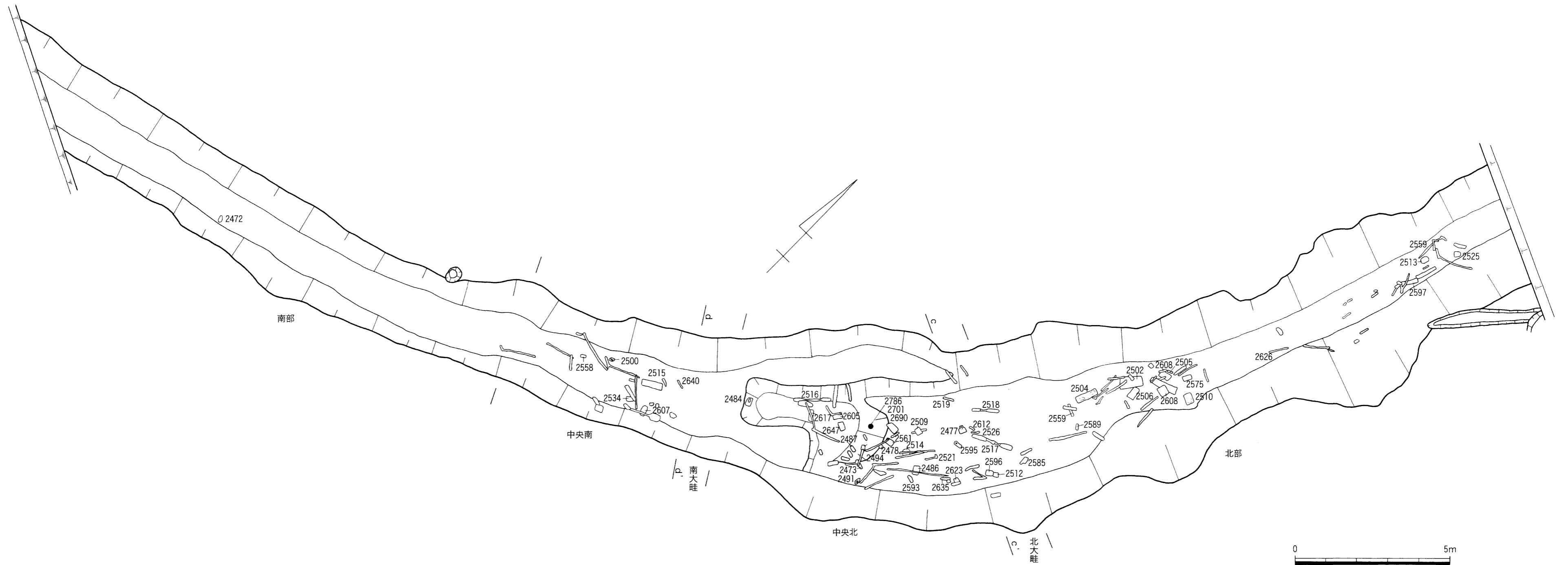
2区	出土位置	農具 (鋤・鍬)	農具(鋤・鍬) 未製品	その他 の農具	工具	武器	容器 容器未製品	用途 不明品	部材・端材・ 用途不明材	計
	詳細な位置不明	3		1	1	3	1		37	46
北 部	北 部 1	8	1				3		9	21
	北 畦									
	北 部 2	2					2		2	6
	中 央 1	3							1	4
中 央 部	中 央 2	3							4	7
	中 央 畦									
	中 央 3	1							4	5
南 部	中 央 4	1								1
	南 部	2						1	9	12
計		23	1	1	1	3	6	1	66	102

3区	出土位置	農具 (鋤・鍬)	農具(鋤・鍬) 未製品	その他 の農具	工具	武器	容器 容器未製品	用途 不明品	部材・端材・ 用途不明材	計
	詳細な位置不明	4	1		1		2	1	24	33
北 部	北 部		6				1		7	14
	試掘トレンチ									
	北 大 畦									
中 央 部	中 央 北	9	2	4	3				9	27
	南 大 畦									
	中 央 南	2		1			1		3	7
南 部	南 部	1	1		1					3
	南 辺 畦									
計		16	10	5	5		4	1	43	84

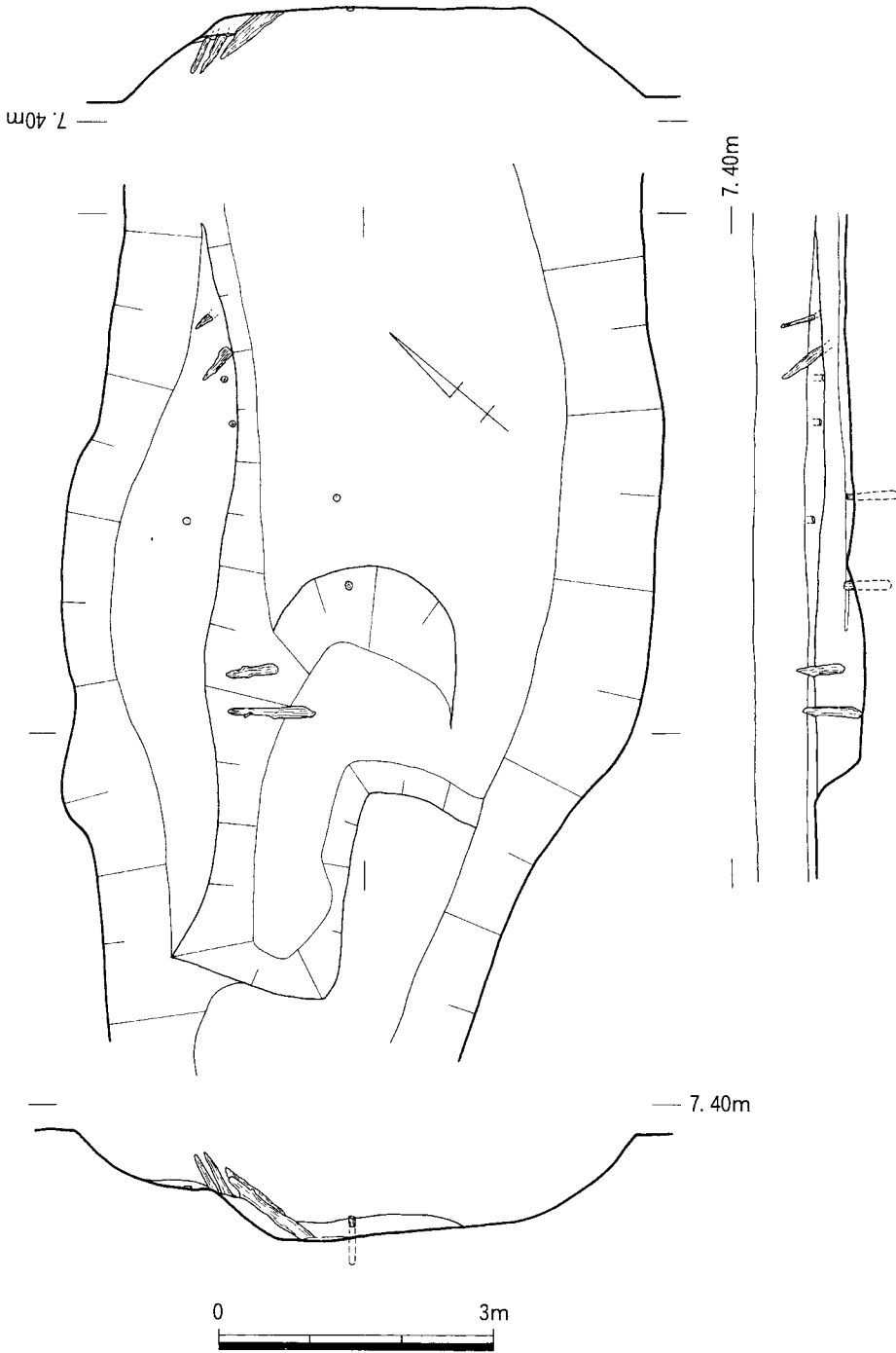


第449図 S D1067・S D01 (2区部分) 遺物出土状況 (1/100)

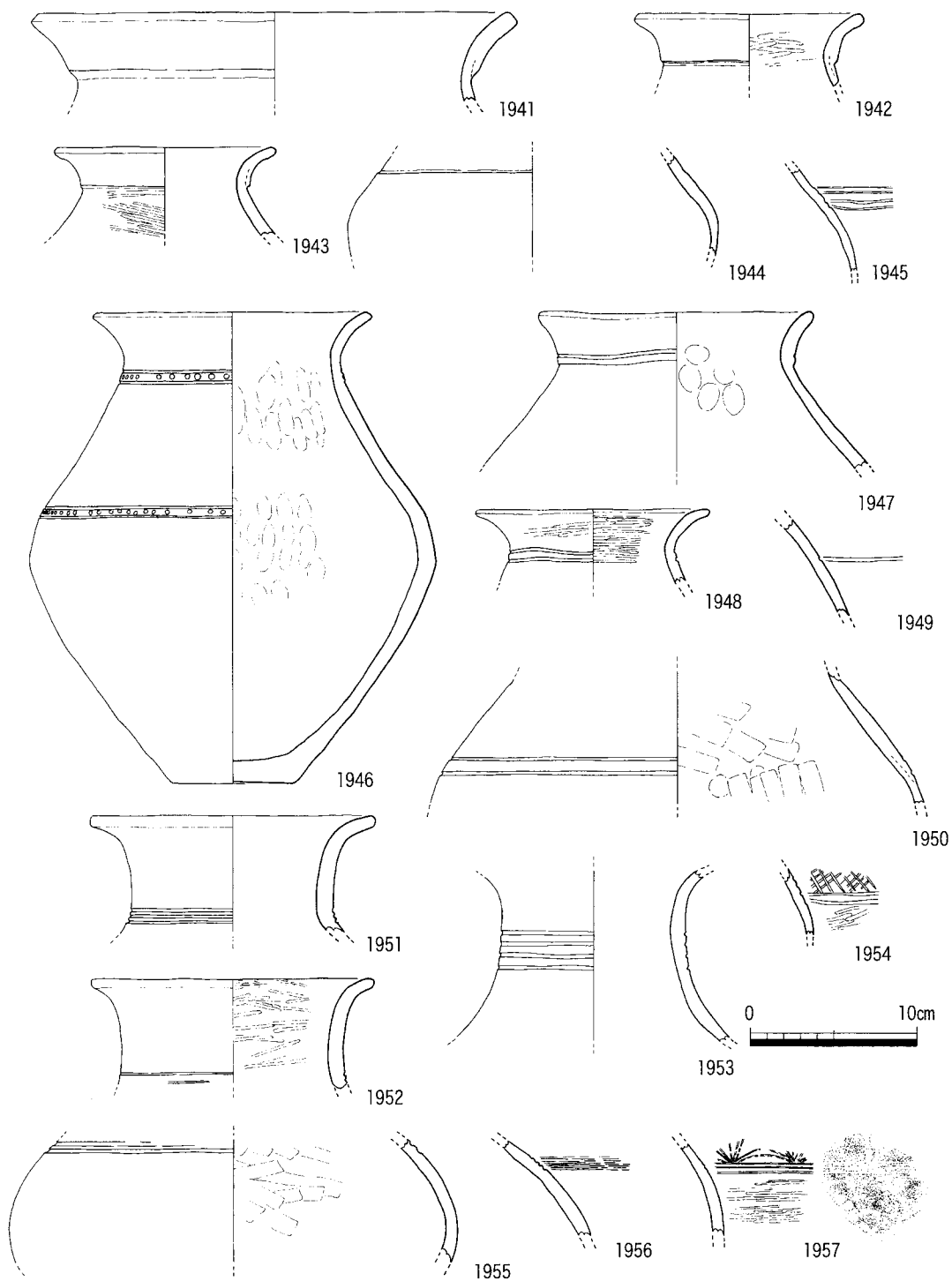




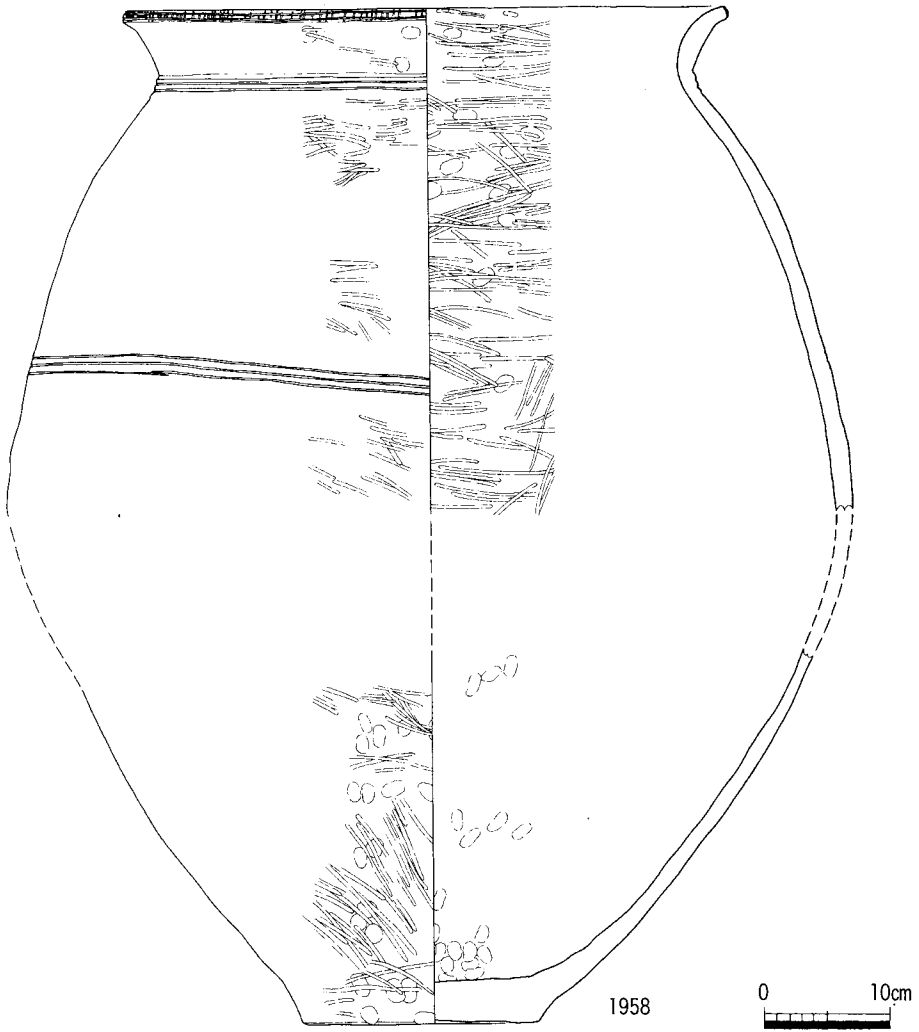
第450図 S D 01 ( 3 区部分) 遺物出土状況 ( 1 / 100)



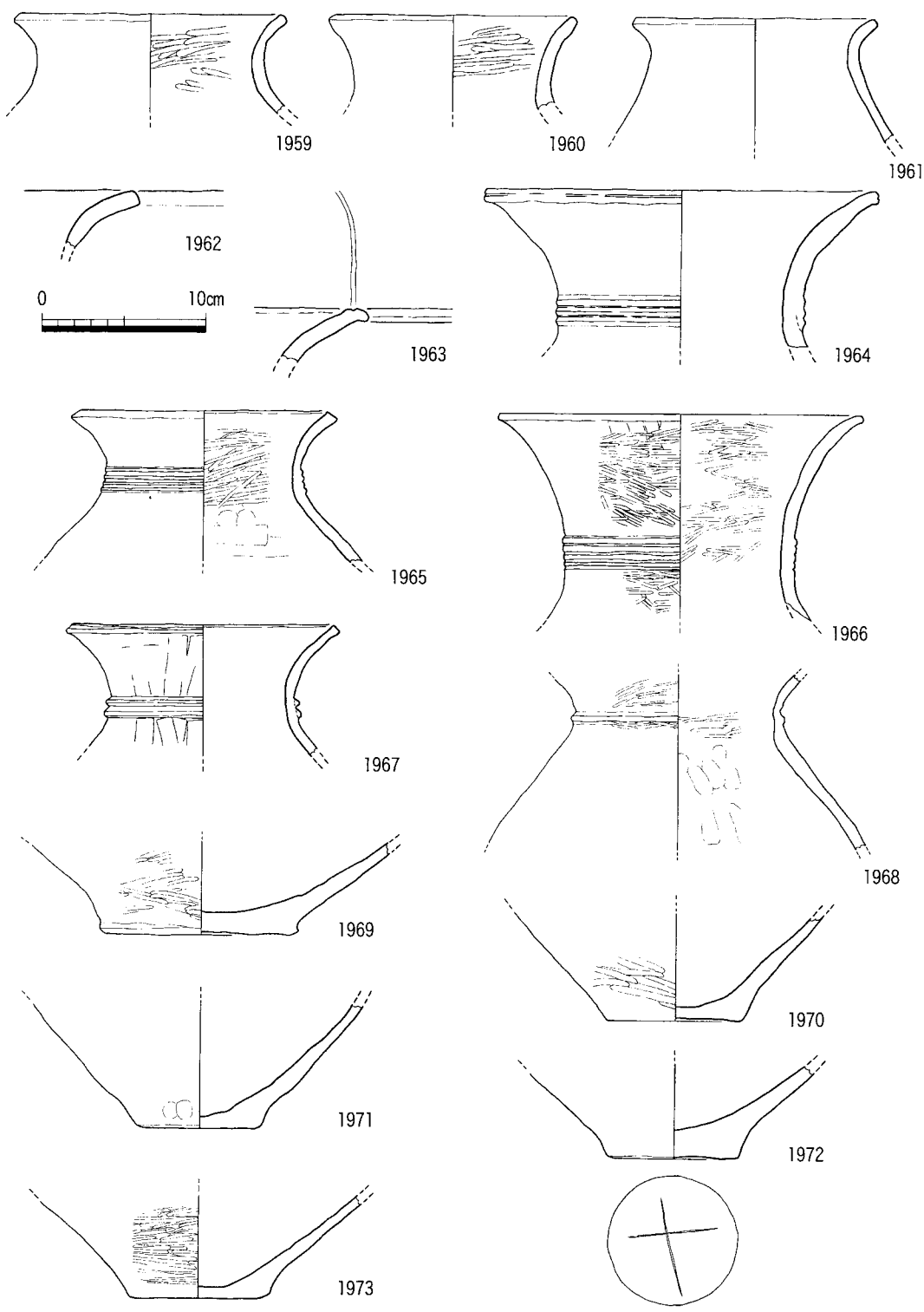
第451図 SD01 (3区) 杭検出状況 (1/80)



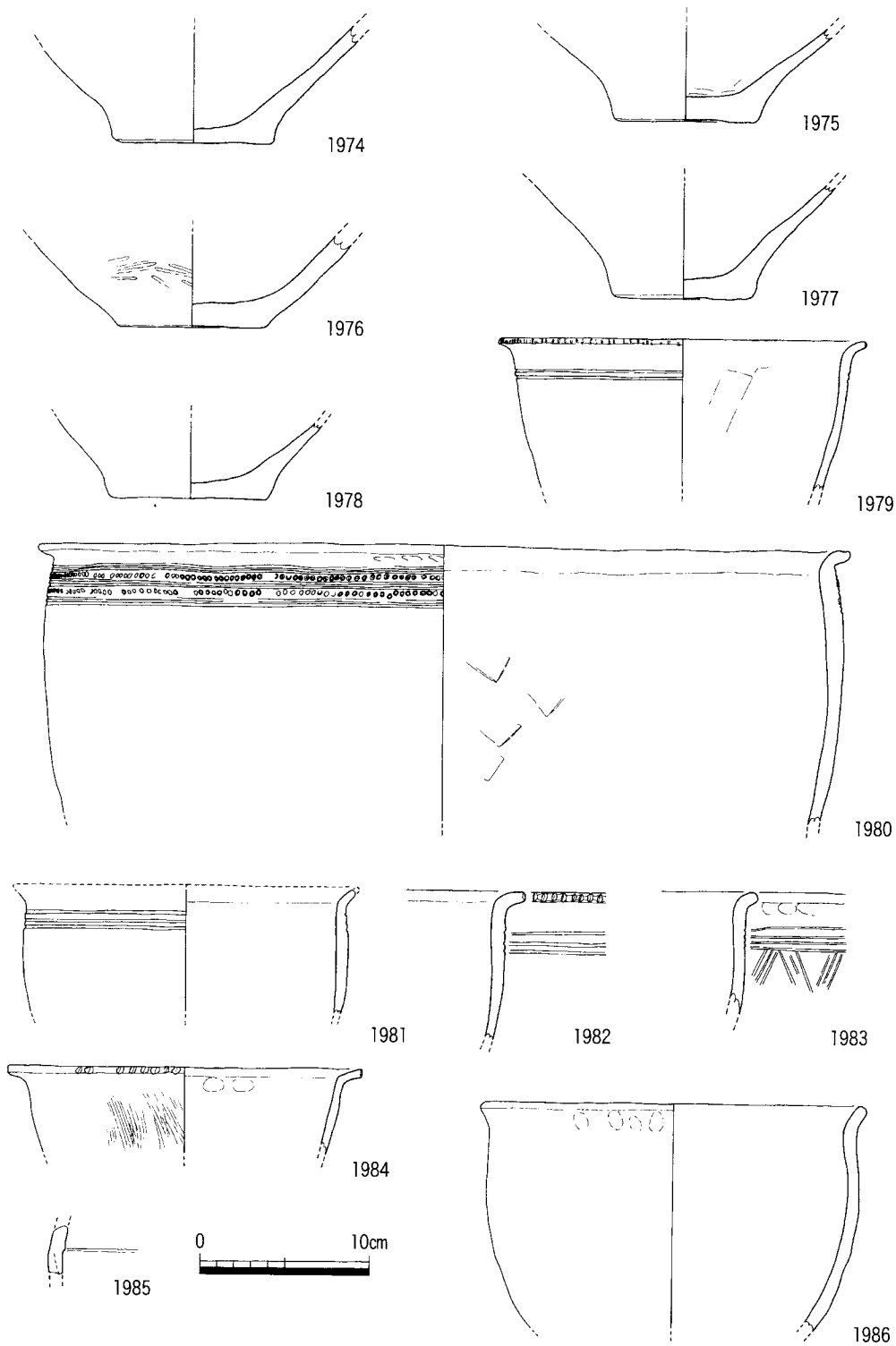
第452图 S D1067出土土器 1 (1/4)



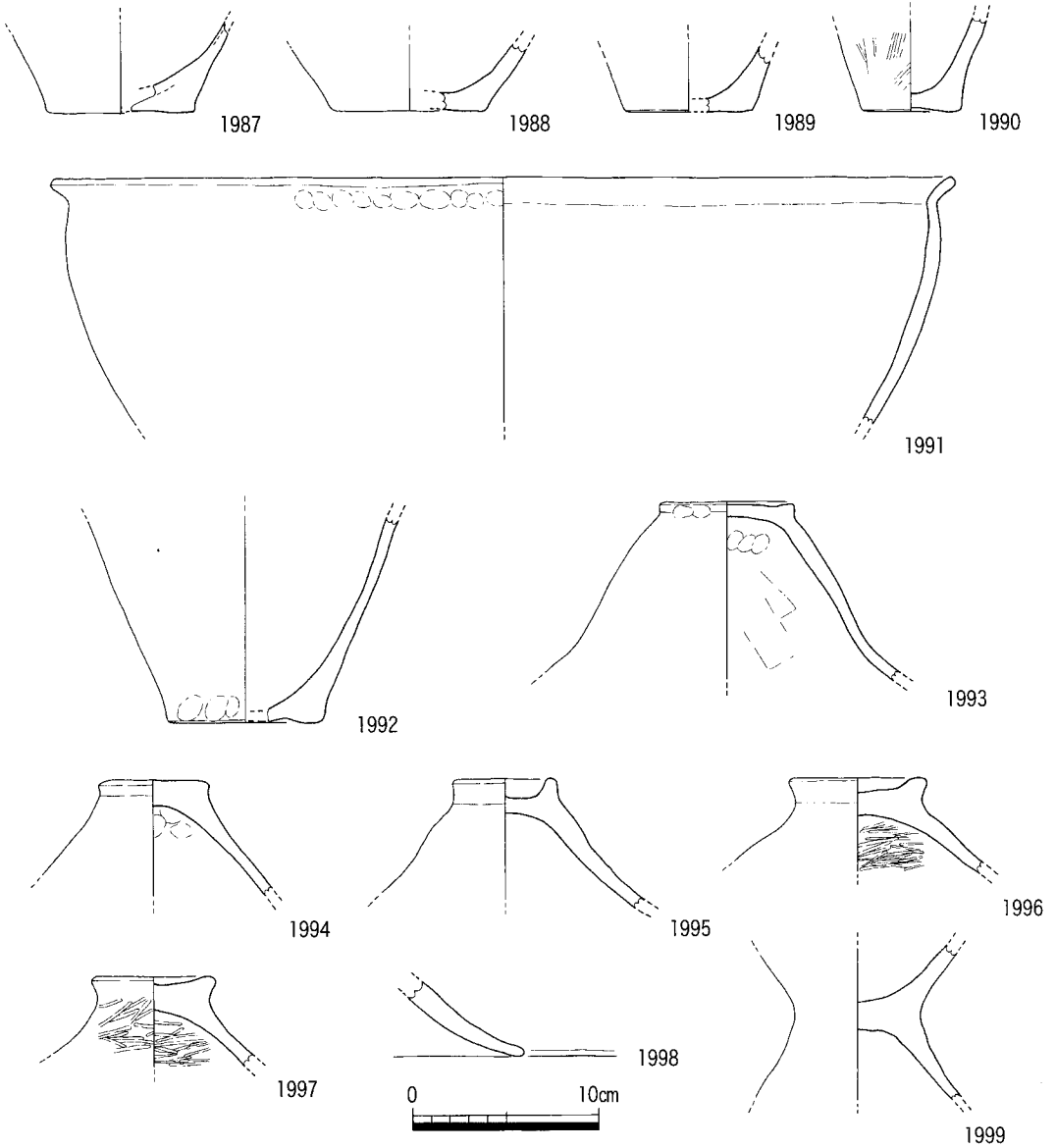
第453图 S D 1067出土土器 2 (1/6)



第454图 S D 1067出土土器 3 (1/4)



第455图 S D 1067出土土器 4 (1/4)



第456図 S D1067出土土器5 (1/4)

ていることから、S D1067はS D01掘削以前に掘削した溝であることが明確である。肩部崩落土と考えられる地山に類似する土層は環状に巡るS D01の内側に堆積が著しいことから、S D01の内側に盛り土が存在した可能性が極めて高い。また、3区ほぼ中央部では溝の肩部に杭が検出された。杭は西肩に斜めに打ち込まれたものが7本、底面中央部に垂直に打ち込まれたものが2本検出された。杭は本来数多く打設されたものと考えられるが、機能については不明である。S D01からの遺物の出土量は非常に多く、土器については2区

では整理用コンテナ307箱、3区では354箱出土した。詳細な出土位置や層位ごとにみると、2区では北部では最上層で29箱、上層で35箱、下層・最下層で52箱、中央部では最上層で3箱、上層で25箱、下層・最下層で84箱、南部では最上層で13箱、上層で48箱、下層・最下層で18箱出土した。3区北部では最上層で21箱、上層で17箱、下層・最下層で62箱、中央部では最上層で22箱、上層で38箱、下層・最下層で90箱、南部では最上層で6箱、上層で7箱、下層・最下層で10箱出土した。その他試掘トレンチ掘削時に出土した土器など詳細な出土位置不明な土器が81箱みられる。2区・3区とも北部・中央部からの出土量が最も多く、層位別では下層・最下層の出土量が最も多いことがうかがわれる。土器は弥生時代前期後半の様相を呈するものがほとんどである。木製品は農具（鋤・鍬）、農具（鋤・鍬）未製品、その他の農具（堅杵）、工具（石斧の柄等）、武器（弓）、容器・容器未製品、用途不明品、部材・端材・用途不明材が186点出土した。2区では102点、3区では84点出土したが、木製品の種類ごとにみても2区では農具は23点、3区では16点みられる。2区の中でも北部での出土量が最も多く、13点出土した。3区では農具は中央部での出土量が最も多く、11点出土した。農具未製品は製品とは出土場所が異なる。2区ではS D01から出土した農具未製品は1点と少ないが、3区では北部で6点、中央部で2点、南部で1点、詳細な位置不明1点と合計10点の未製品が出土した。その他の農具（堅杵）は3区中央部で5点と最も多い。農具未製品は3区での出土量が多いことから、木製品製作を3区の大溝周辺部で行っていた可能性が高いことが推定される。そのほかでは動物遺存体が218点出土した。このうち2区では99点、3区では119点出土した。S D01出土木製品については第3節で報告するが、土器については第3分冊に掲載予定である。

S D1067からの出土遺物は整理用コンテナ14箱程度で、壺・甕・鉢・蓋等がみられる。1941～1943は口縁部と頸部の境に粘土紐の接合部分の段が残る。1944は摩滅しているが、頸部と体部の境に段がみられる。1945も壺の体部片で、頸部と体部の境に段とヘラ描沈線文3条を施す。1946は頸部と体部上半にヘラ描沈線文を2条ずつ施し、その間に円形刺突文を施す。1947・1948は壺の口頸部片で、いずれも頸部にヘラ描沈線文2条施す。1949は体部片である。頸部と体部の境にヘラ描沈線文を1条施す。1950も壺の体部片で、ヘラ描沈線文を2条施す。1951～1953は壺の口頸部で、1951は3条、1952は現存で2条、1953は4条のヘラ描沈線文を頸部に施す。1954は壺の体部片で、ヘラ描斜格子文とヘラ描沈線文を2条施す。1955～1957も壺の体部片で、1955は体部上半にヘラ描沈線文を現存で2条、1956はヘラ描沈線文4条、1957はヘラ描木葉文を施す。1958は大型の壺で、口縁端部には



ヘラ描沈線文2条と刻目を施す。頸部には削出突帯第Ⅱ種で、突帯間の沈線を1条施す。体部にはヘラ描沈線文3条を施す。1964は壺の口頸部片で、頸部には削出突帯第Ⅱ種、突帯間に沈線を2条施す。1965も削出突帯第Ⅱ種を施す。1965は突帯間に沈線を3条、1966は段の下にヘラ描沈線文4条を施す。1967は頸部に貼付突帯を2条施す。1968は頸部に削出突帯第Ⅰ種を施す。1972は底部外面にヘラ描文様がみられる。1979～1984・1986は如意状口縁の甕である。1980は大型の甕で、外面には半截竹管によるヘラ描沈線文を3条巡らし、その間に竹管文を施す。1981・1982はヘラ描沈線文3条を施す。1983はヘラ描沈線文4条とヘラ描複線山形文を施す。1985は壺の頸部・体部片で段を施す。

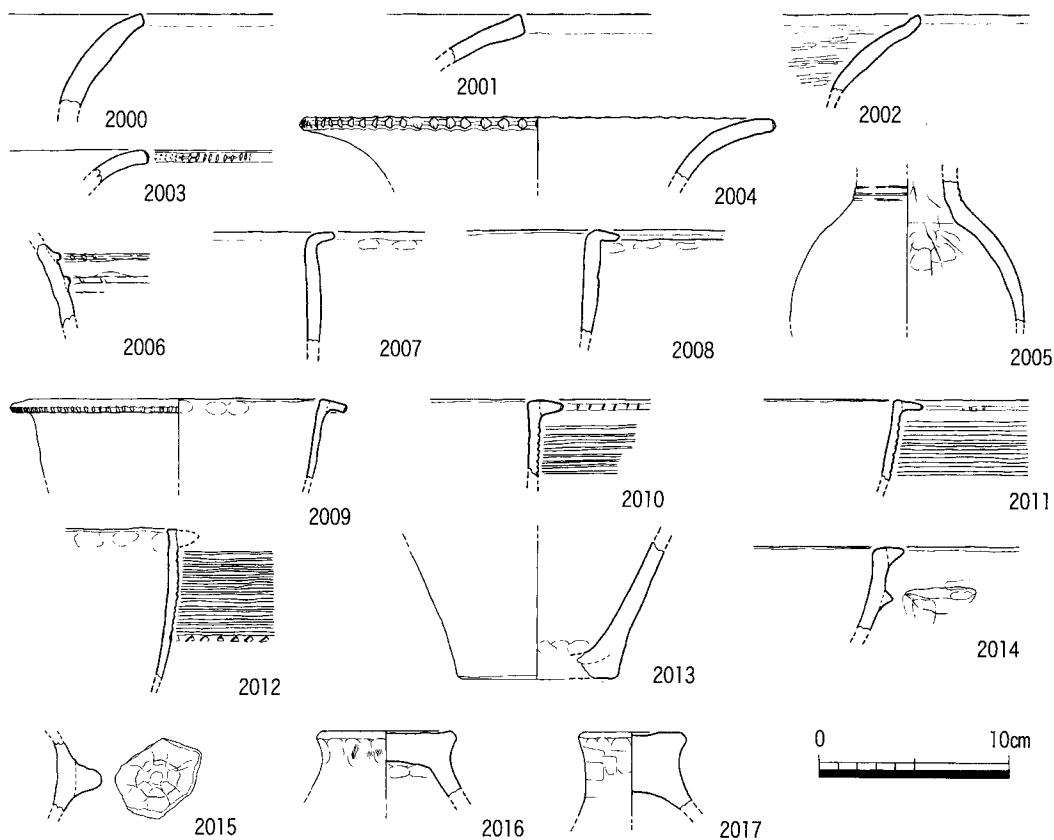
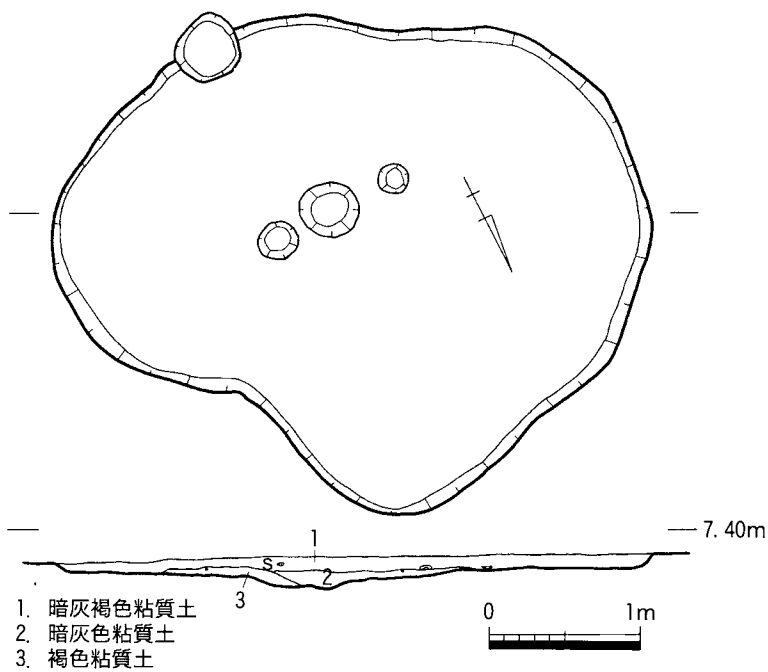
## (6) 落ち込み

### S X 1001 (第457図)

1区中央部やや北西寄り、環濠外側に位置する落ち込みである。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸4.0m、短軸3.1m、深さ0.1～0.2mを測る。底面からは3個の小穴(径0.2～0.4m)が検出された。S X 1001に伴うものかどうかは不明である。出土遺物は整理用コンテナ3箱程度で、壺・甕・鉢・蓋、石包丁・刃器がみられる。2005は小型の壺で、頸部にヘラ描沈線文を現存で3条施す。2006は壺の体部片で、貼付刻目突帯を現存で2条施す。2009～2011は逆L字口縁の甕である。2010は外面にヘラ描沈線文を現存で8条、2011は現存で7条施す。2012は口縁部が剥落しているが、逆L字口縁を呈すると思われる。2012はヘラ描沈線文14条と三角形刺突文を施す。

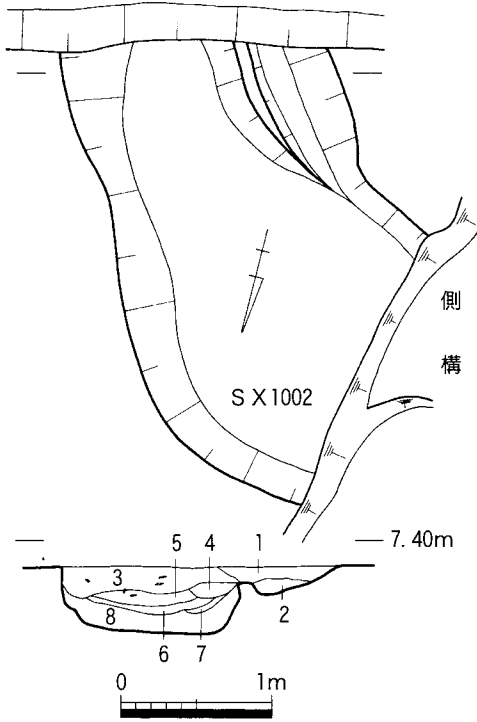
### S X 1002 (第458・459図)

1区西端、環濠外側に位置する落ち込みである。西部は排水用側溝に削平されており、南部は平安時代の溝S D 1069と重複し、削平されている。平面形は不明であるが、長軸3.0m以上、短軸2.0m、深さ0.45mを測る。土層堆積状況から、2基の落ち込みが重複している可能性も高い。出土遺物は整理用コンテナ3箱程度で、壺・無頸壺・甕・鉢・蓋、非サヌカイト製品がみられる。2020・2021は壺の頸部片である。2020はヘラ描沈線文を8条と三角形刺突文を施す。2021はヘラ描沈線文を現存で17条施す。2022～2024は壺の体部片である。2022は体部片で、ヘラ描沈線文と三角形刺突文を施す。2023は貼付刻目突帯を現存で4条施す。2024は櫛描直線文と櫛描波状文を施す。2025・2026は無頸壺で、2025は体部上半にヘラ描沈線文を現存で12条施す。2031～2039は甕である。2032は体部上半にヘラ描沈線文を11条施す。2033～2036は逆L字口縁を呈する。2033はヘラ描沈線文を現存で6条施す。

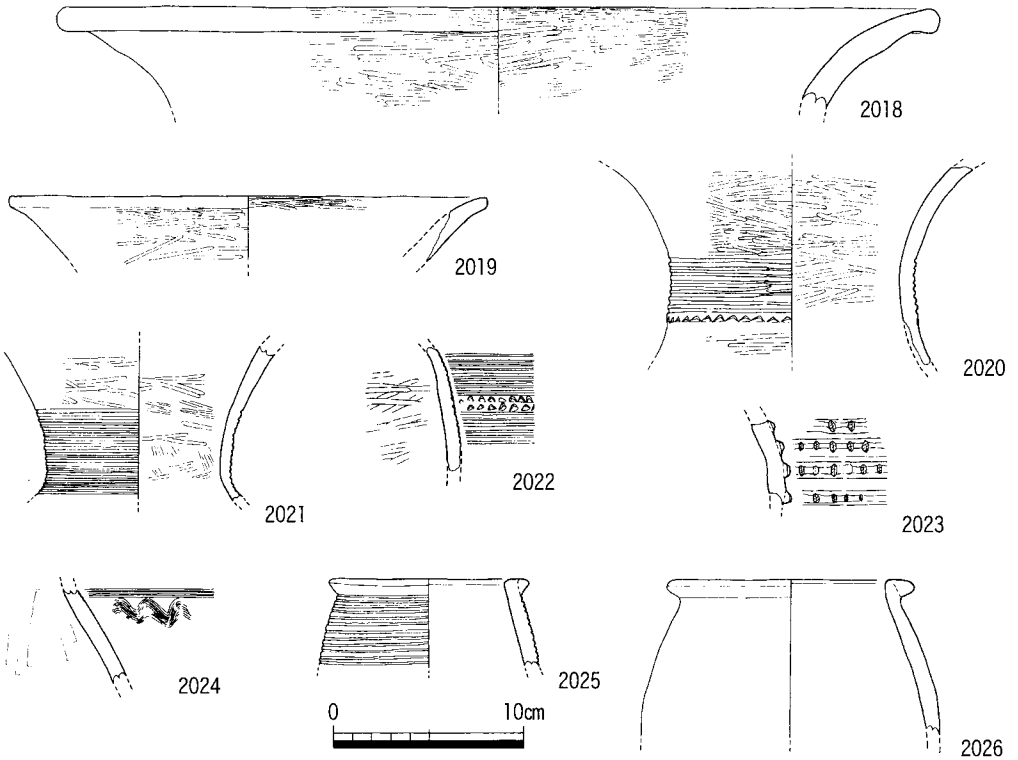


第457图 S X 1001平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)

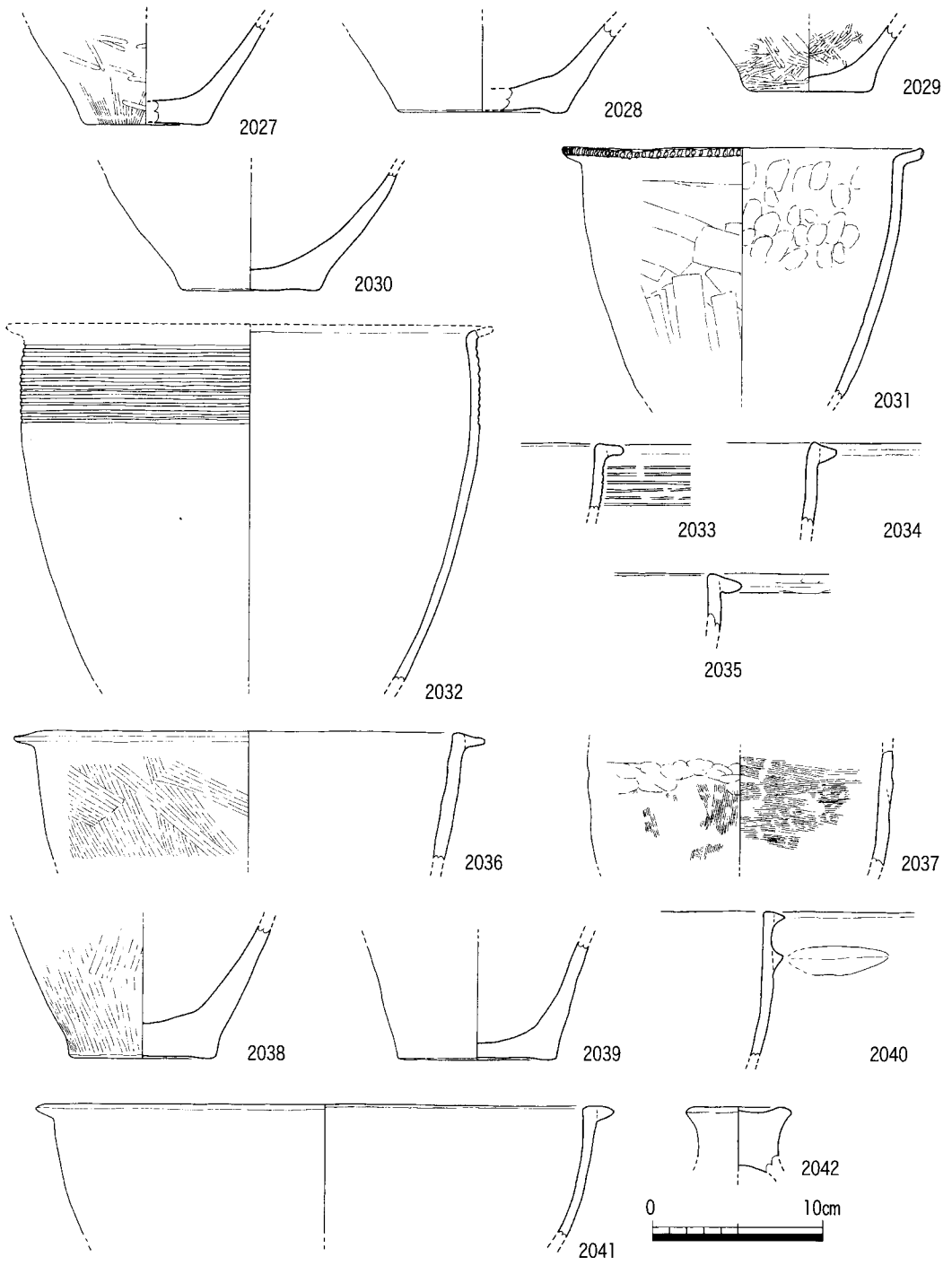
SD1069



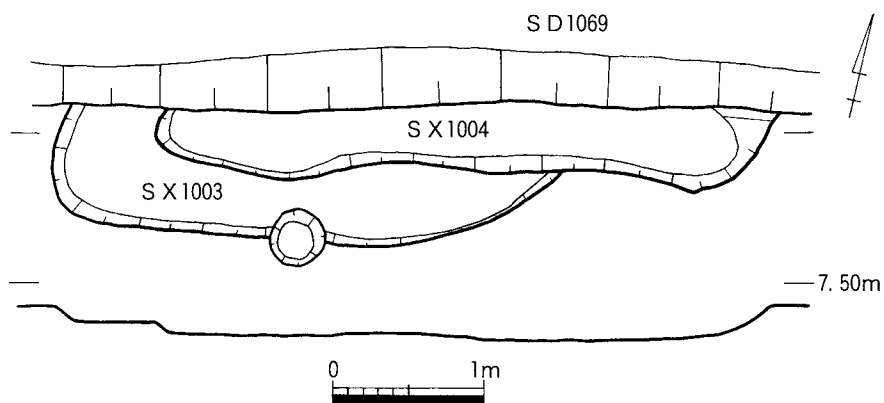
1. 暗褐色粘質土 (炭化物を多量に含む)
2. 暗黄色粘質土
3. 暗褐色粘質土
4. 暗橙色粘質土
5. 暗灰色シルト
6. 暗灰白色粘土
7. 暗灰色粘土
8. 黒灰色粘土



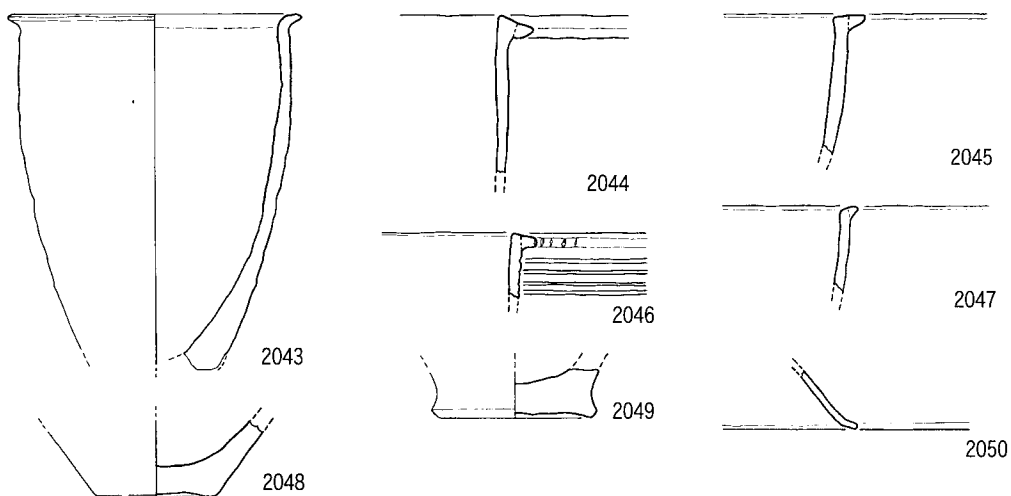
第458図 SX1002平・断面図 (1/50), 出土土器1 (1/4)



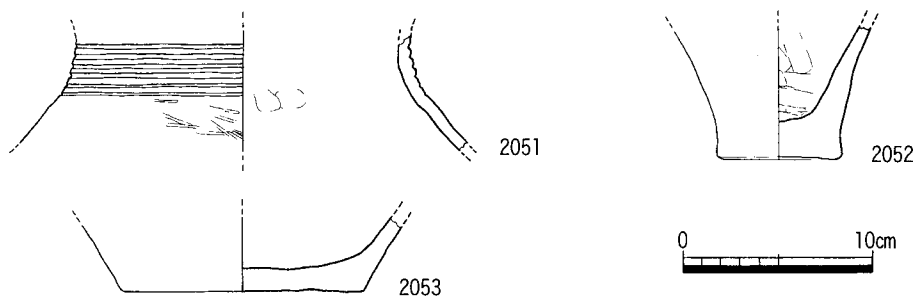
第459図 S X 1002出土土器 2 ( 1 / 4 )



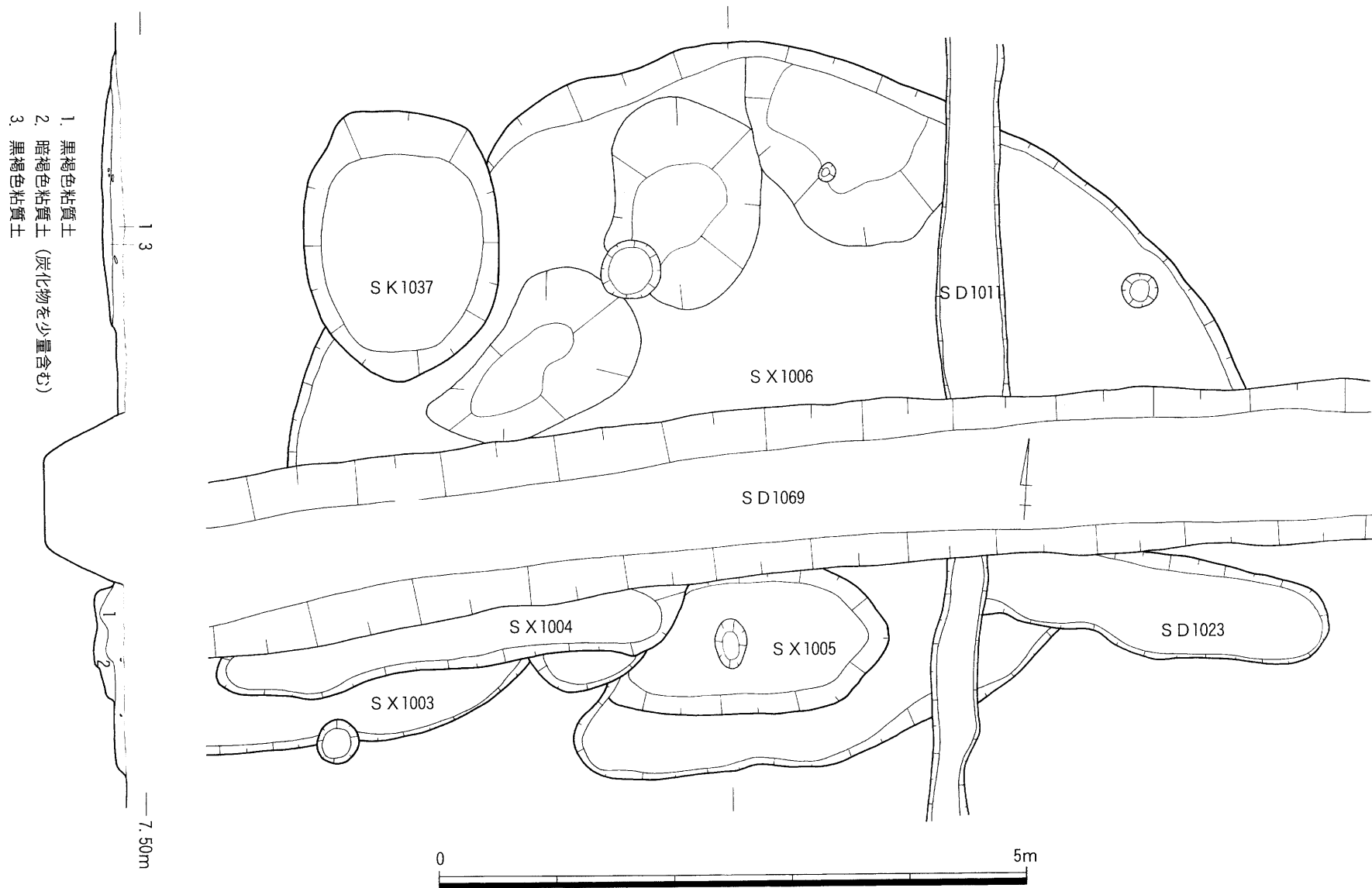
第460图 S X1003・S X1004平・断面图 (1/50)



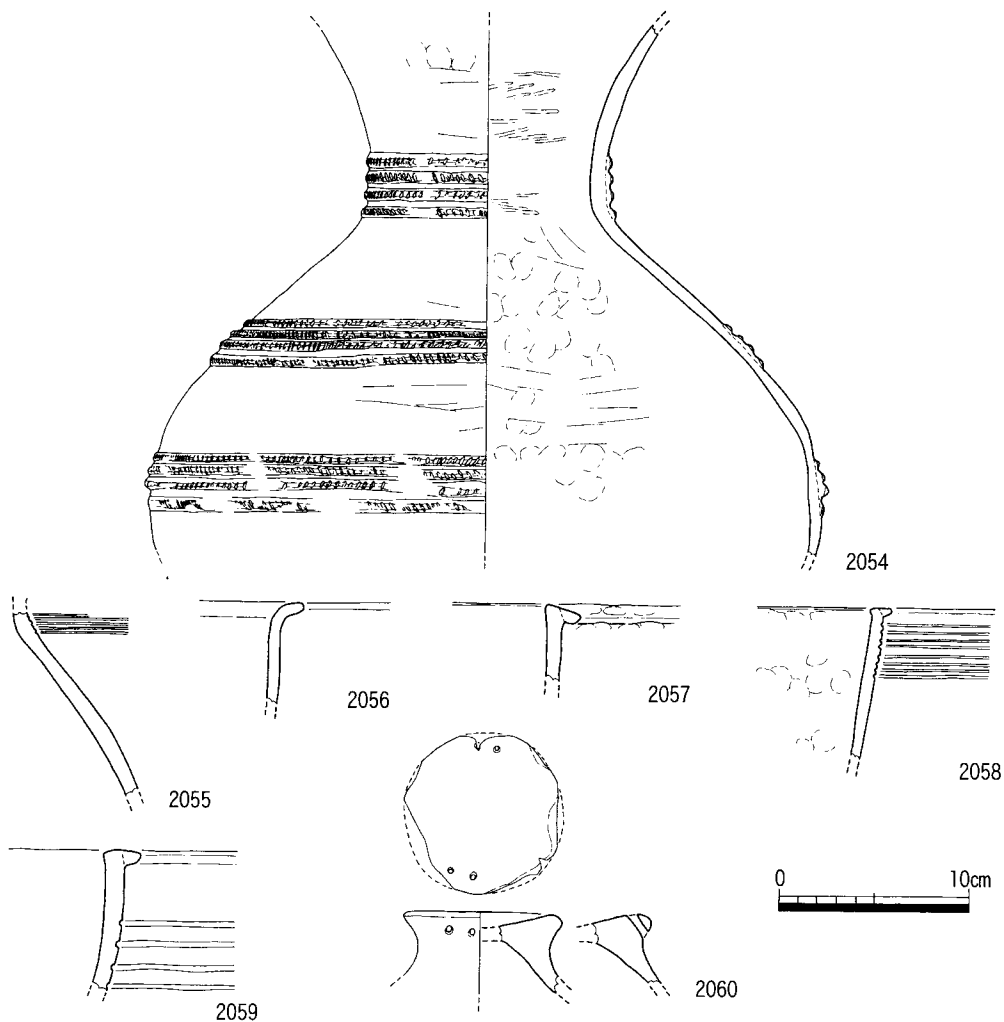
第461图 S X1003出土土器 (1/4)



第462图 S X1004出土土器 (1/4)



第463図 S X 1004・S X 1005・S X 1006平・断面図 (1/50)



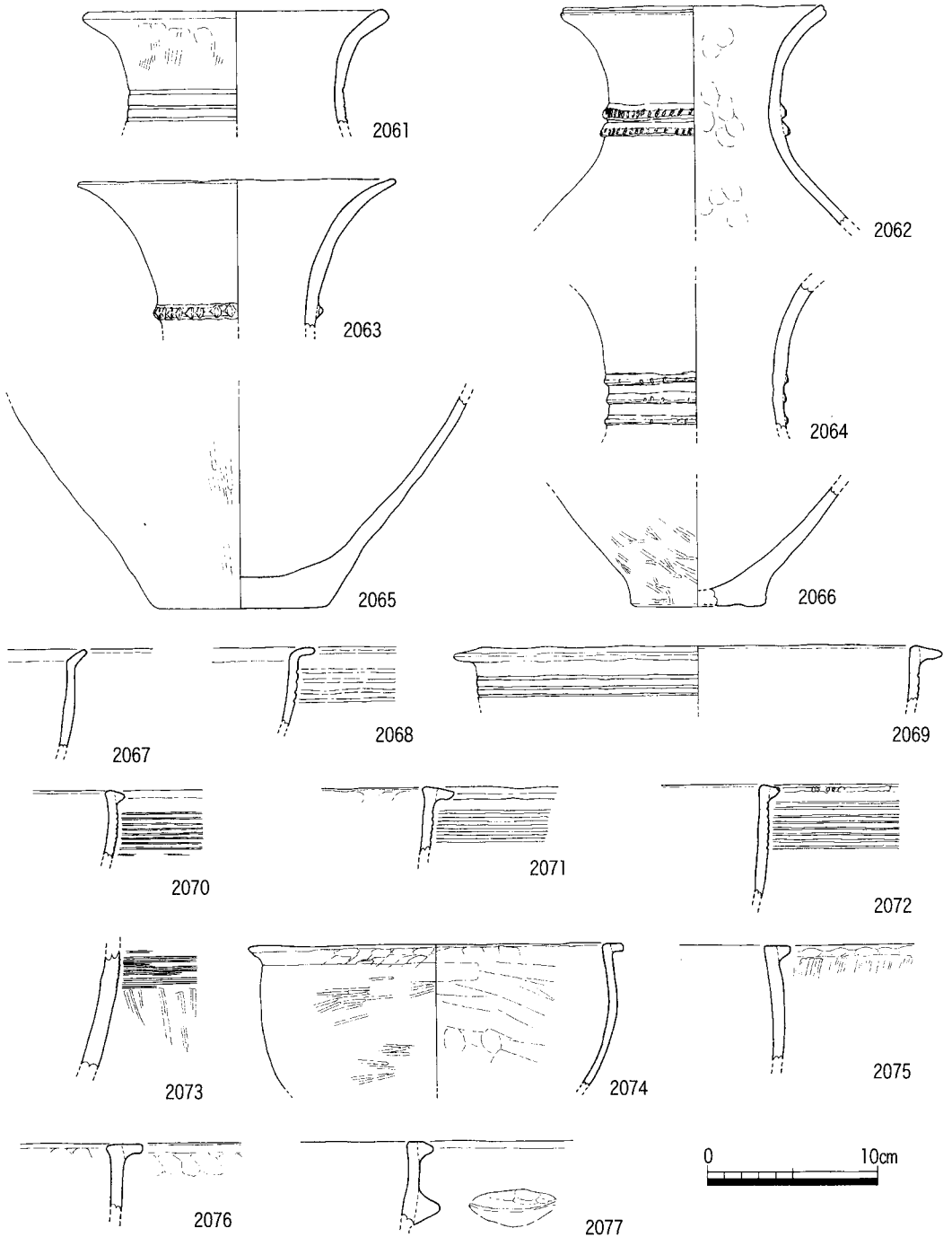
第464図 S X 1005出土土器 (1/4)

S X 1003 (第460・461図)

1区中央部やや南西寄り、環濠外側に位置する落ち込みである。落ち込みS X 1004、平安時代の溝S D 1069と重複し、一部が削平されている。平面形は不明であるが、長軸3.4m以上、短軸0.8m以上、深さ0.1m前後を測る。出土遺物は少量で、甕・蓋がみられる。2043は折り曲げ口縁である。内外面とも摩滅している。2044～2047は逆L字口縁の甕である。2045は摩滅しているため文様の有無は不明である。2046はヘラ描沈線文を現存で4条施す。

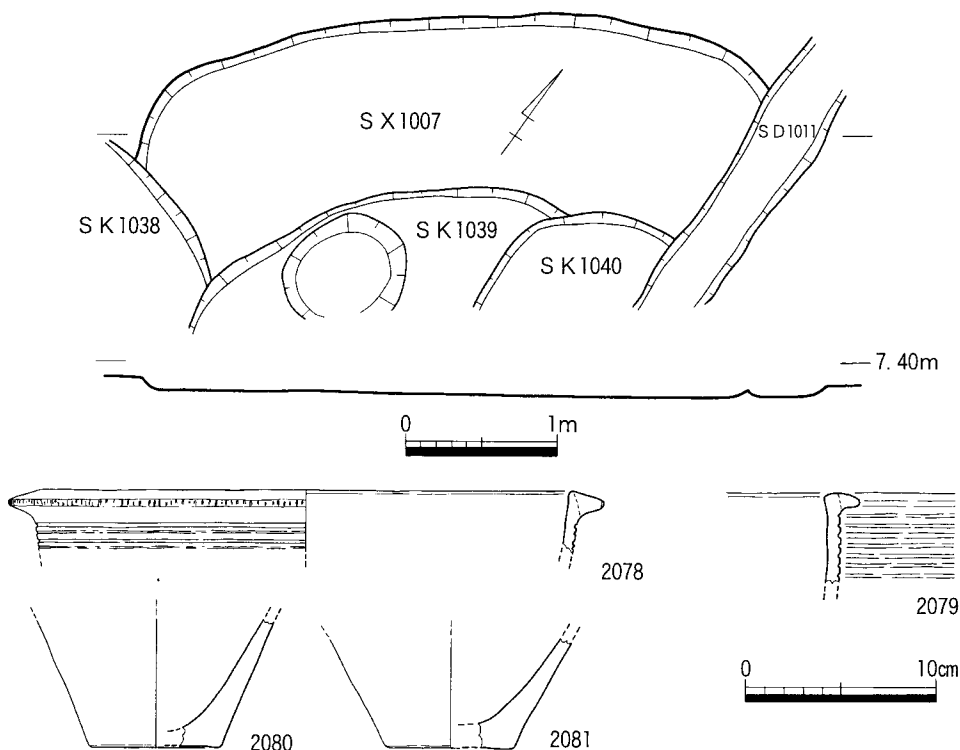
S X 1004 (第460・462・463図)

1区中央部やや西寄り、環濠外側に位置する落ち込みである。平安時代の溝S D 1069と重複し、一部が削平されている。平面形は不明であるが、長軸4.0m以上、短軸0.5m以上、



第465图 S X 1006出土土器 (1/4)





第466図 S X 1007平・断面図（1/50），出土土器（1/4）

深さ0.2m前後を測る。出土遺物は少量で，壺・甕，非サヌカイト製品がみられる。2051は壺の頸部片である。頸部にはヘラ描沈線文を現存で6条施す。

#### S X 1005（第463・464図）

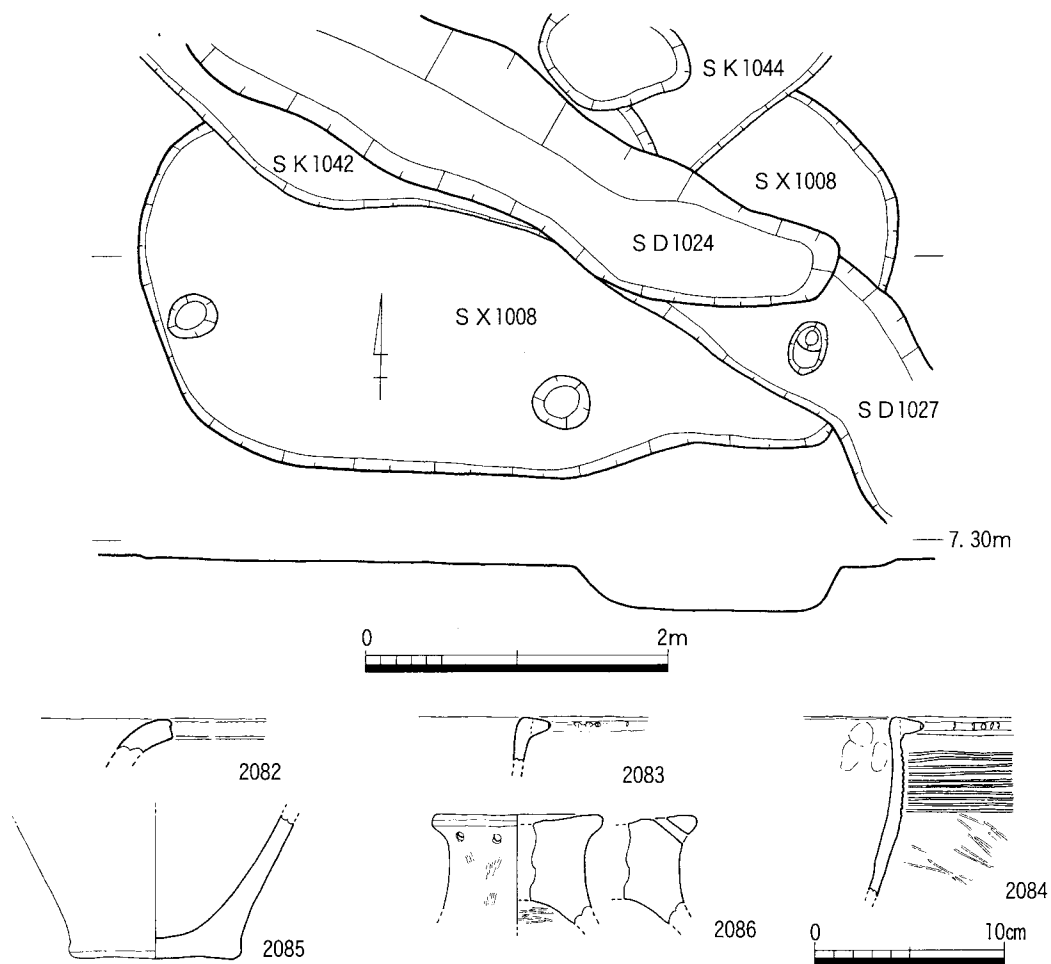
1区中央部，環濠外側に位置する落ち込みである。溝S D 1011・S D 1023，平安時代の溝S D 1069と重複し，一部が削平を受けている。S D 1069を挟んで北側には落ち込みS X 1006が位置する。同一遺構の可能性もあるが，S D 1069で分断されるため不明である。平面形は不明であるが，長軸4.2m以上，短軸1.7m以上，深さ0.25m前後を測る。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で，壺・甕・蓋，石皿または砥石，刃器がみられる。2054は壺の頸部から体部である。頸部に貼付刻目突帯を4条，体部上半と体部中位にも貼付刻目突帯を4条ずつ施す。2055は頸部にヘラ描沈線文を現存で5条施す。2056は甕片で，如意状口縁を呈する。2057～2059は逆L字口縁の甕である。2058はヘラ描沈線文8条，2059はヘラ描沈線文を現存で4条施す。

#### S X 1006（第463・465図）

1区中央部，環濠外側に位置する落ち込みである。平安時代の溝S D 1069，土坑S K

1037, 溝 S D 1011 と重複し, 一部が削平されている。S D 1069 を挟んで南側には落ち込み S X 1005 が位置する。同一遺構の可能性もあるが, S D 1069 で分断されるため不明である。平面形は不明であるが, 長軸 8.0m 以上, 短軸 3.1m 以上, 最深部で深さ 0.2m を測る。出土遺物は整理用コンテナ 1 箱程度で, 壺・甕・鉢, 石包丁・石鋤等がみられる。2061~2066 は壺である。2061 は頸部にヘラ描沈線文を現存で 3 条施す。2062 は頸部 2 条, 2063 は現存で 1 条, 2064 は現存で 3 条の刻目貼付突帯を施す。2067~2072・2075・2076 は甕である。2068 は折り曲げ口縁の甕である。ヘラ描沈線文を 4 条施す。2069~2072 は逆 L 字口縁の甕である。2069 は現存で 3 条, 2070 は現存で 9 条, 2071 は現存で 5 条, 2072 は 8 条のヘラ描沈線文を施す。2073 は甕の体部で, 櫛描直線文を現存で 10 条施す。

S X 1007 (第466図)



第467図 S X 1008 平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

1区中央部やや北西寄り、環濠内側に位置する落ち込みである。土坑S K1038・S K1039・S K1040、溝S D1011と重複し、一部が削平されている。平面形は楕円形を呈し、長軸4.0m、短軸1.1m以上、深さ0.1m前後を測ると推定される。出土遺物は少量で、甕がみられる。2078はヘラ描沈線文を現存で4条施す。2079はヘラ描沈線文を現存で7条施す。

S X1008 (第467図)

1区ほぼ中央部、環濠内側に位置する落ち込みである。溝S D1024・S D1027、土坑S K1042と重複し、中央部から北部が削平されている。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸5.0m、短軸2.4m以上、深さ0.05mを測る。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、壺・甕・蓋、石皿または砥石がみられる。2083・2084は逆L字口縁の甕である。2083は摩滅のため文様の有無は不明である。2084はヘラ描沈線文10条を施す。2086は天井部から体部に向かって円孔が2個みられる。

S X1009 (第468図)

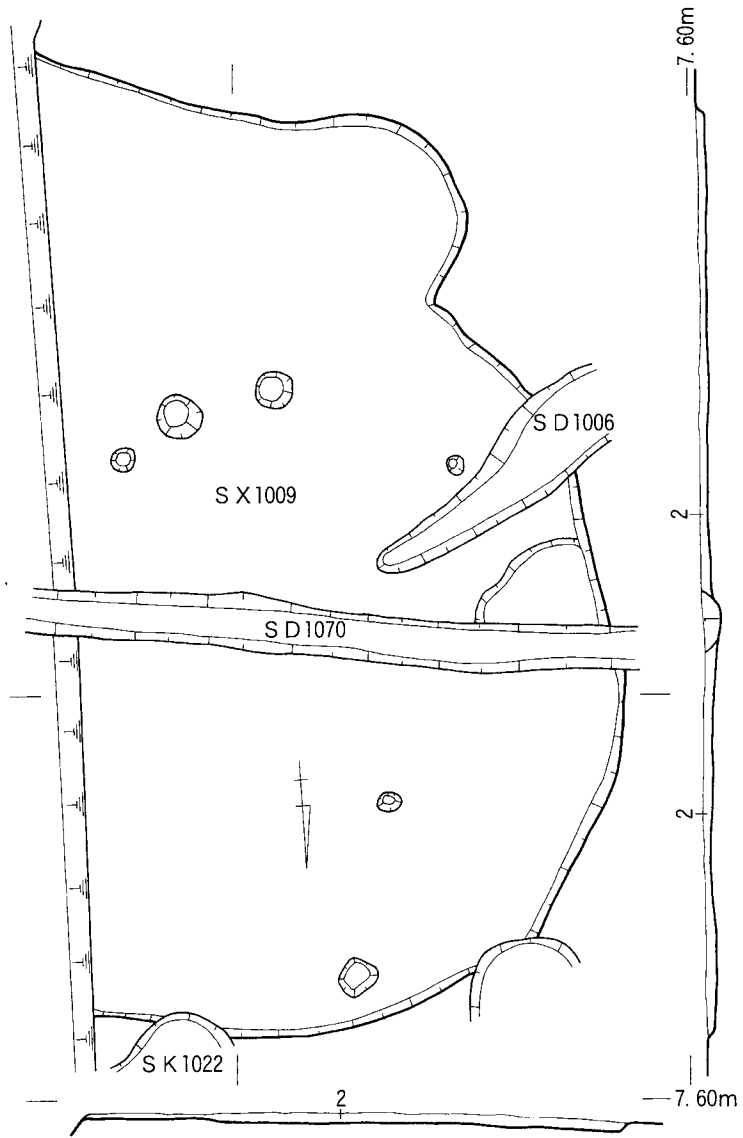
1区東端、環濠内側に位置する落ち込みである。中央部を平安時代の溝S D1070が重複し、一部が削平されている。平面形はややいびつな円形を呈し、長軸9.5m、短軸5.5m以上、深さ0.05mを測る。底面からは6個の小穴(径0.3~0.5m、深さ0.1~0.2m)が検出されたが、S X1009に伴うものかどうかは不明である。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、壺・甕、石包丁・石皿または砥石・石鍬・刃器・打製石斧がみられる。2088~2092は甕で、2088は如意状を呈する。2089~2091は逆L字口縁を呈する。2089・2090は摩滅のため文様の有無は不明であるが、2091は櫛描直線文を現存で16条施す。

S X1010 (第469図、図版27)

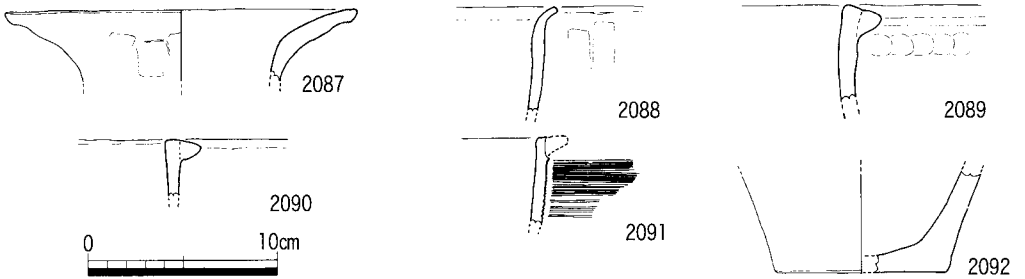
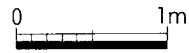
2区北東端から3区北西端、環濠内側に位置する落ち込みである。土坑S K1049と重複し、削平を受ける。平面形はいびつな隅丸五角形を呈し、長軸5.6m、短軸4.3mを測る。底面は平坦ではなく、凸凹がみられ、最深部で深さ0.6mを測る。出土遺物は整理用コンテナ5箱程度で、壺・甕・棒状土製品、大型蛤刃石斧・石包丁・石鍬・石錐・刃器・打製石斧等がみられる。2093は壺の体部片で、貼付刻目突帯を現存で4条施す。2094・2095は逆L字口縁の甕で、2094はヘラ描沈線文を現存で4条、2095はヘラ描沈線文を現存で8条施す。

S X1011 (第470図、図版27)

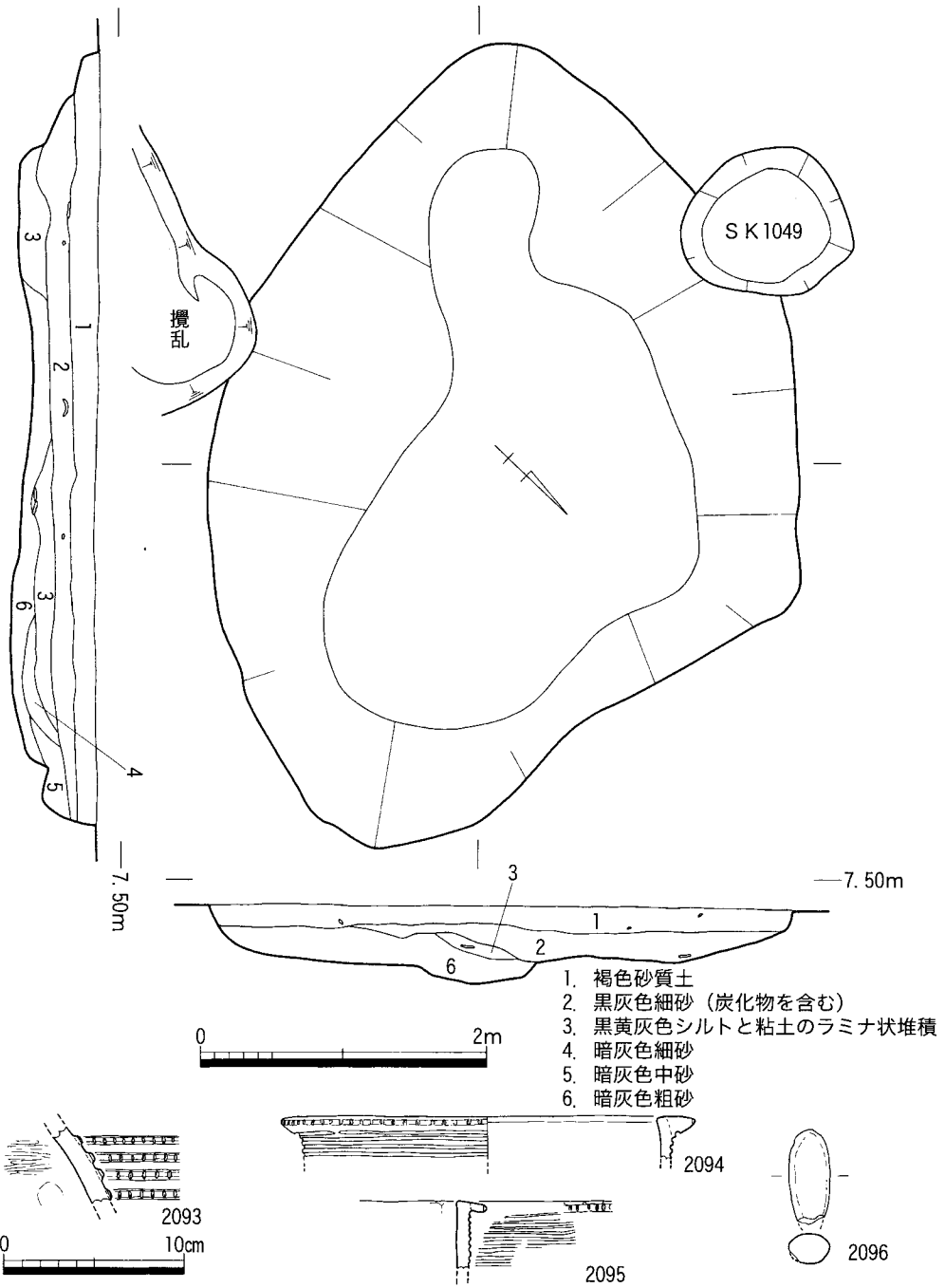
2区北東部、環濠内側に位置する落ち込みである。土坑S K1078と重複し、削平されている。平面形は楕円形を呈し、長軸3.3m、短軸4.8mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.1m前後を測る。出土遺物は少量で、石包丁未製品・石鍬、土器片がみられる。



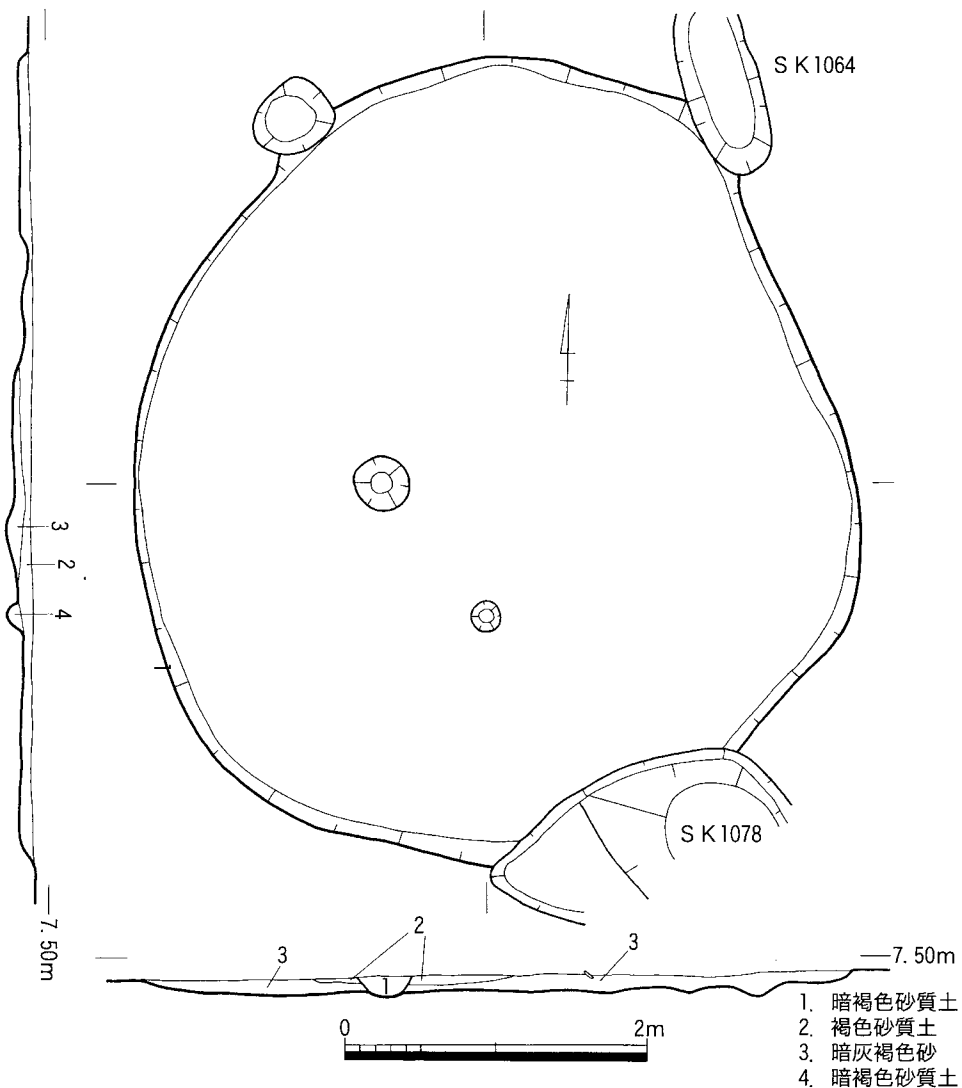
- 1. 暗青灰色粘土 (S D 1070)
- 2. 暗褐色粘土



第468图 S X 1009平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)



第469図 S X 1010平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

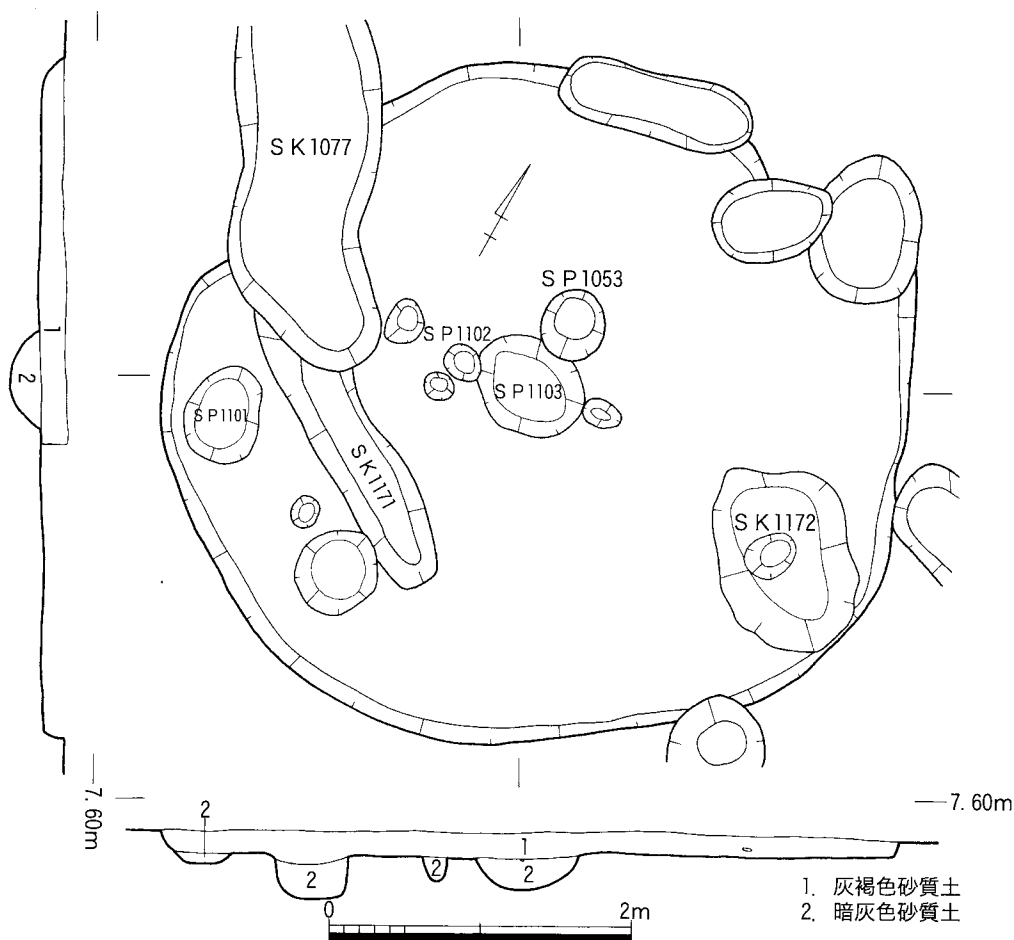


第470図 S X 1011平・断面図 (1/50)

S X 1012 (第471図, 図版27)

2区北東部, 環濠内側に位置する落ち込みである。土坑SK1077・SK1171・SK1172等と重複し, 削平されている。平面形はほぼ円形を呈し, 径4.4~4.9mを測る。底面はほぼ平坦で, 深さ0.2m前後を測る。底面からは小穴(径0.2~0.8m, 深さ0.1~0.3m)が検出されたが, SX1012に伴うものではなく, 重複遺構の可能性が高い。出土遺物は少量で, 土器片, 柱状片刃石斧・石包丁・石皿または砥石・紡錘車・石鍬・石錐等がみられる。

S X 1013 (第473図, 図版28)



第471図 S X 1012平・断面図 (1/50)

2区東部，環濠内側に位置する落ち込みである。平安時代の井戸S E 1001と重複し，削平を受ける。平面形はややいびつな楕円形を呈し，長軸6.1m，短軸4.6mを測る。壁はゆるやかに立ち上がる。底面は平坦ではなく，凸凹がみられ，中央部が窪んでいる。最深部で深さ0.3mを測る。底面からは3個の小穴（径0.2～0.7m，深さ0.1～0.2m），2基の土坑（短軸0.9m前後，長軸1.3～1.5m，深さ0.2m）が検出されたが，S X 1013に伴うものではないと思われる。出土遺物は少量で，土器片，石包丁・石皿または砥石等がみられる。

#### S X 1014 (第473図)

2区中央部やや東寄り，環濠内側に位置する落ち込みである。落ち込みS X 1013，平安時代の溝S D 1070と重複し，削平される。平面形はややいびつな円形を呈し，径6.5～7.7mを測る。底面は平坦ではなく，凸凹がみられ，深さ0.1m前後を測る。底面からは4個の小

穴（径0.25～0.7m、深さ0.1～0.2m）が検出されたが、S X 1014に伴うものではなく、重複遺構の可能性が高い。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、土器片、石包丁・石皿または砥石がみられる。

#### S X 1015（第473図）

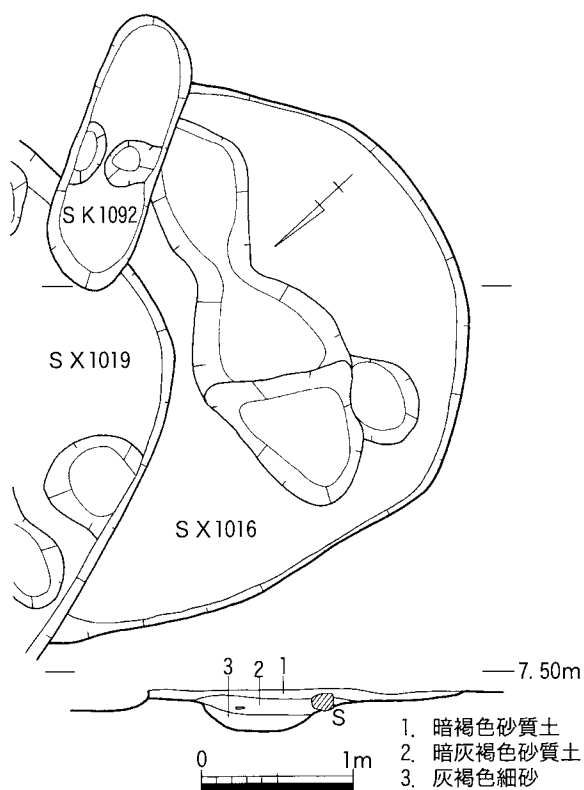
2区中央部、環濠内側に位置する落ち込みである。落ち込みS X 1014、溝S D 1032と重複し、削平されている。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸4.5m以上、短軸4.3mを測ると推定される。底面は平坦ではなく、凸凹がみられ、深さ0.2～0.3mを測る。底面からは3基の土坑（長軸1.0m前後、短軸0.4～0.7m、深さ0.05～0.3m）が検出されたが、S X 1015に伴うものではないと思われる。出土遺物は少量で、土器片、石包丁・石鋏・石錐がみられる。

#### S X 1016（第472図）

2区中央部東寄り、環濠内側に位置する落ち込みである。落ち込みS X 1019、土坑S K 1092と重複し、削平されている。平面形は円形ないし楕円形を呈し、長軸2.8m以上、短軸3.5m前後を測ると推定される。底面は平坦ではなく、深さ0.1～0.25mを測る。底面からは小穴（径0.4m前後、深さ0.1m）、土坑（長軸1.1m、短軸0.95m、深さ0.2m）が検出されたが、S X 1016に伴うものかどうかは不明である。出土遺物は少量で、土器片、不明片岩製品等がみられる。

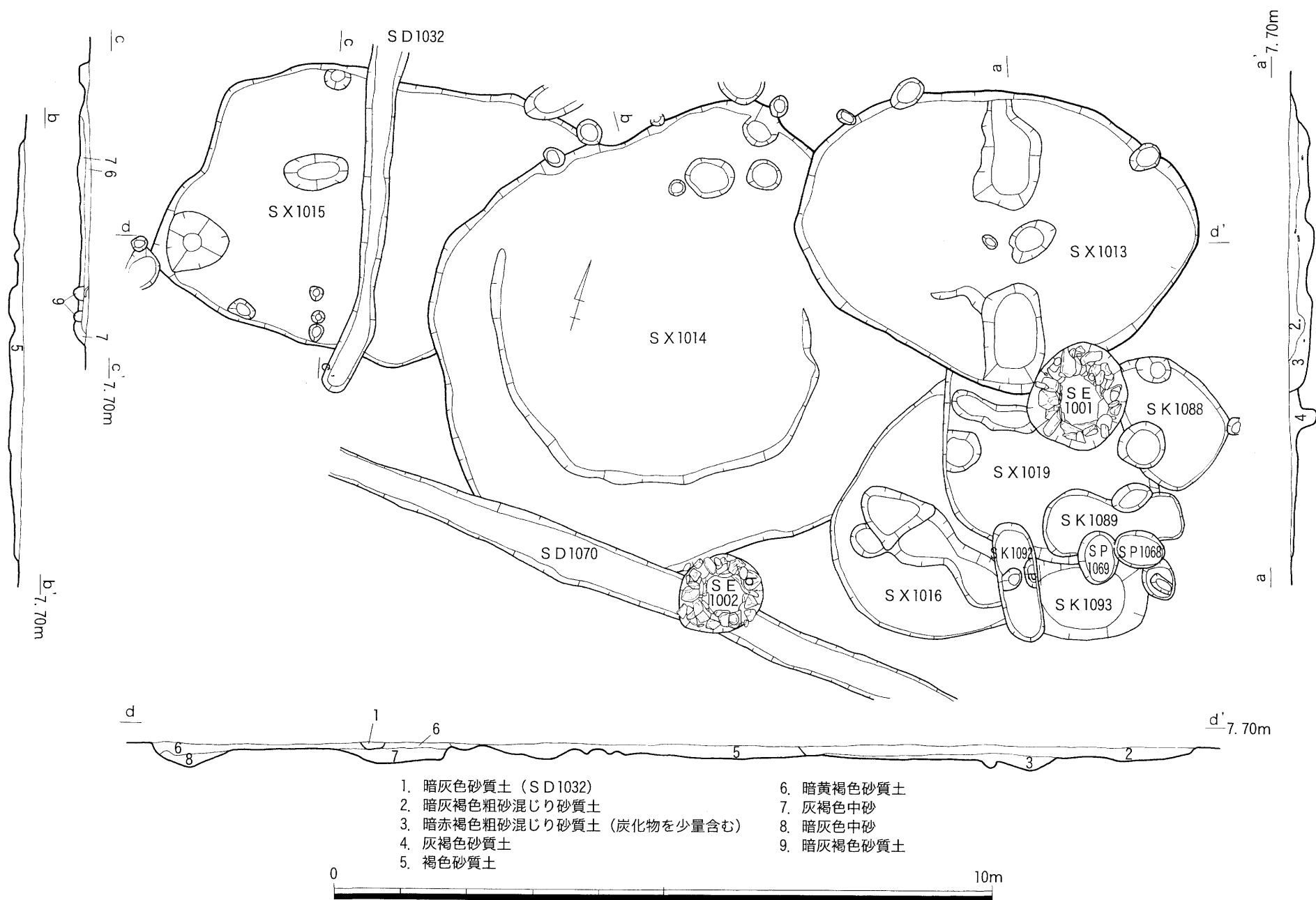
#### S X 1017（第475・476図）

2区北部、環濠内側に位置する落ち込みである。攪乱坑によって一部削平されるため、全体は不明である。S X 1018と攪乱坑を挟んで位置することから、両遺構は同一遺構の可能性も考えられるが、ここでは、別遺構として報告する。S X 1017は長軸4.6m前後、短軸1.8m以上、深さ0.1m前後を測る。

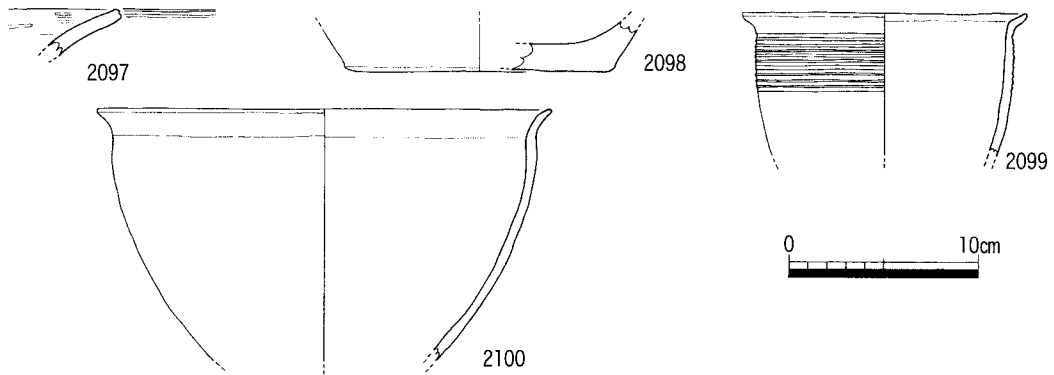


第472図 S X 1016平・断面図（1/50）





第473図 SX1013~SX1015, SX1019平・断面図 (1/80)



第474図 S X 1019出土土器 (1/4)

底面からは10個の小穴（径0.2～0.5m，深さ0.1～0.3m）が検出されたが，S X 1017に伴うものではなく，重複する柱穴の可能性が高い。出土遺物は少量で，壺等の底部片，不明片岩製品・刃器がみられる。

S X 1018 (第475・477図)

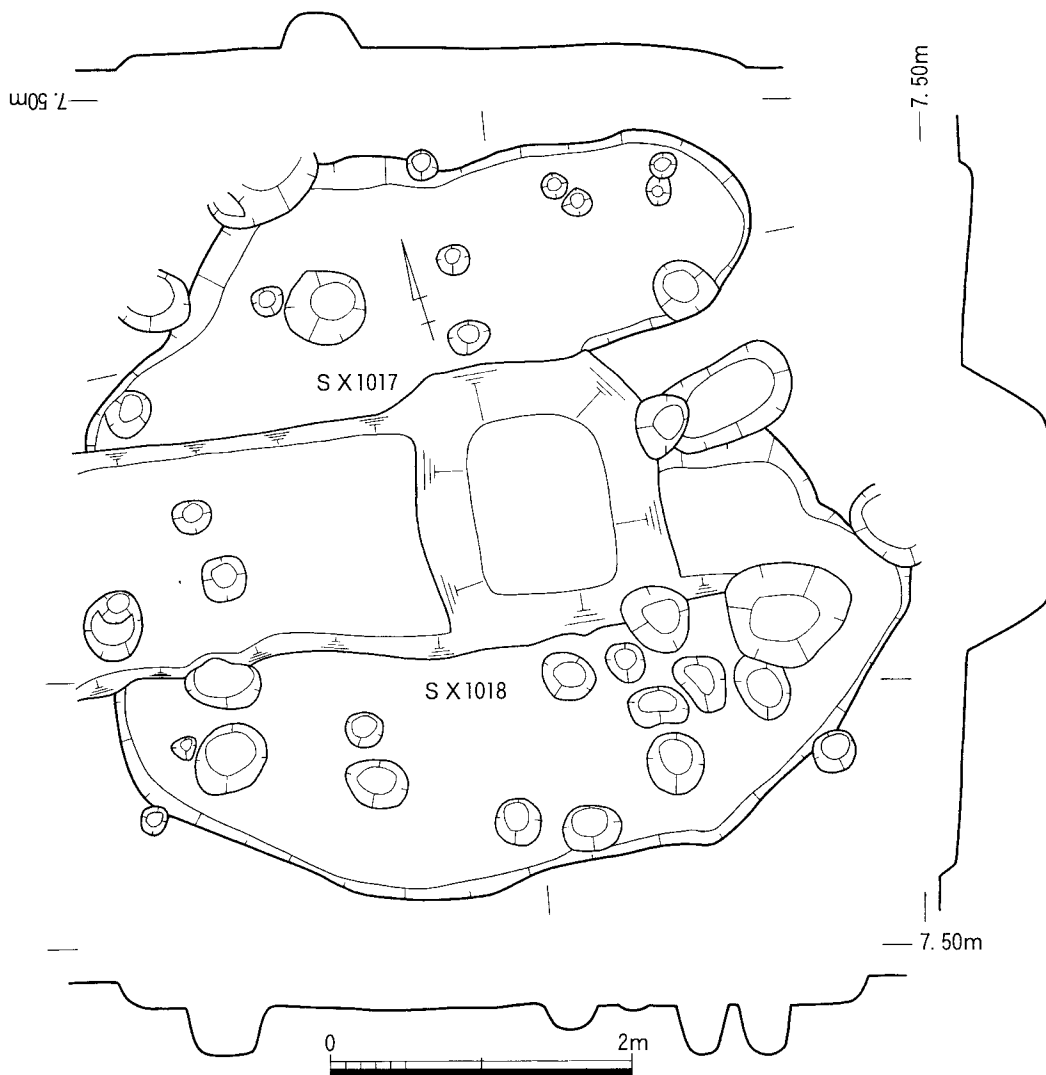
2区北部，環濠内側に位置する落ち込みである。攪乱坑によって一部削平されるため，全体は不明である。S X 1017と攪乱坑を挟んで位置することから，両遺構は同一遺構の可能性も考えられる。S X 1018は長軸5.3m前後，短軸2.3m以上，深さ0.1m前後を測る。底面からは15個の小穴（径0.15～0.8m，深さ0.2～0.4m）が検出されたが，S X 1018に伴うものではなく，重複する柱穴の可能性が高い。出土遺物は少量で，甕・円盤状土製品がみられる。2105は口縁部は剥落しているが，2104同様逆L字口縁を呈すると考えられる。2104はヘラ描沈線文を現存で3条，2105はヘラ描沈線文を5条施す。

S X 1019 (第473・474図)

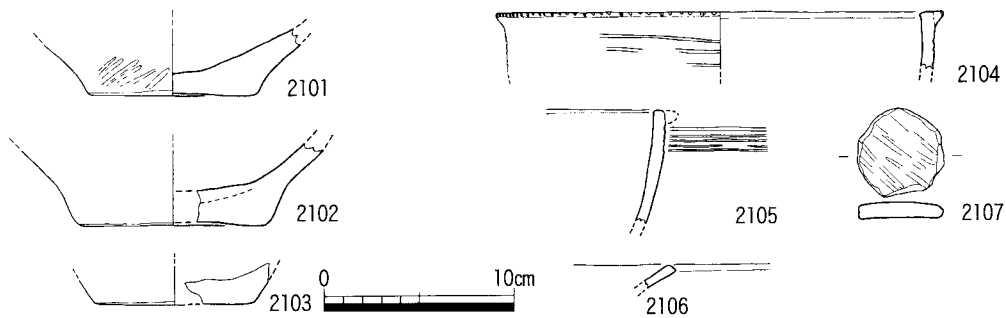
2区東部，環濠内側に位置する落ち込みである。平安時代の井戸S E 1001，落ち込みS X 1013，土坑S K 1089などと重複し，一部が削平されている。平面形は不明であるが，ほぼ円形を呈し，径3.5m前後を測ると推定される。断面形は皿状を呈し，深さ0.1mを測る。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で，壺・甕，石斧片等がみられる。2099は甕で，口縁部は如意状を呈する。摩滅しているが，ヘラ描沈線文が現存で10条みられる。

S X 1020 (第478図)

2区北西部，環濠内側に位置する落ち込みである。土坑S K 1098・S K 1099と重複し，一部を削平されている。平面形はいびつなハート形を呈し，長軸4.5m，短軸2.5m，深さ0.1mを測る。底面からは8個の小穴（径0.3～0.7m，深さ0.1～0.3m）が検出されたが，S



第475图 SX1017・SX1018平・断面图 (1/50)



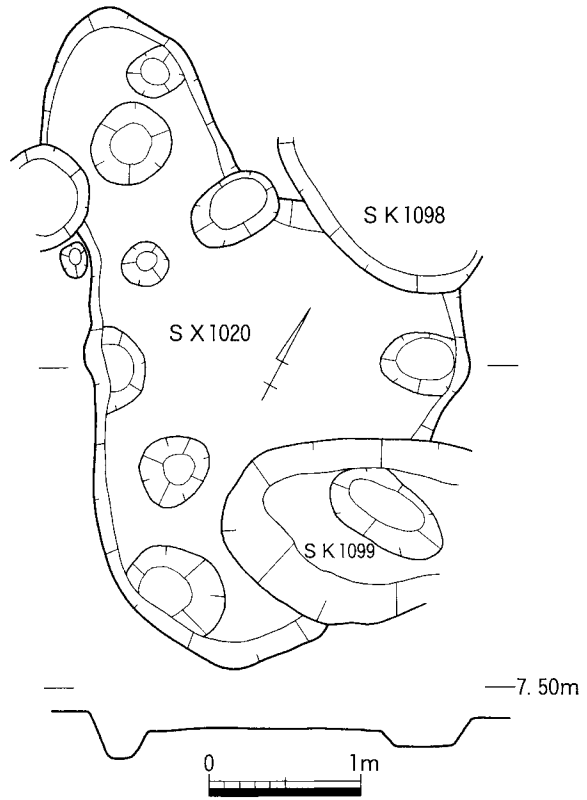
第476图 SX1017出土土器 (1/4)

第477图 SX1018出土土器 (1/4)

X1020に伴うものではなく、重複する柱穴の可能性が高い。出土遺物は少量で、土器片、石錐・刃器がみられる。

#### S X 1021 (第479図)

2区北西部、環濠内側に位置する落ち込みである。土坑S K 1100・S K 1121, 落ち込みS X 1020と重複し、一部が削平されている。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸4.8m, 短軸1.65m, 深さ0.1~0.2mを測る。底面からは6個の小穴(径0.25~0.5m, 深さ0.1~0.2m)が検出されたが、S X 1021に伴うかどうかは不明である。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、甕、石包丁・石錐等がみられる。2108の口縁部は如意状を呈し、現存でヘラ描沈線文を1条施す。2109も折り曲げ口縁である。



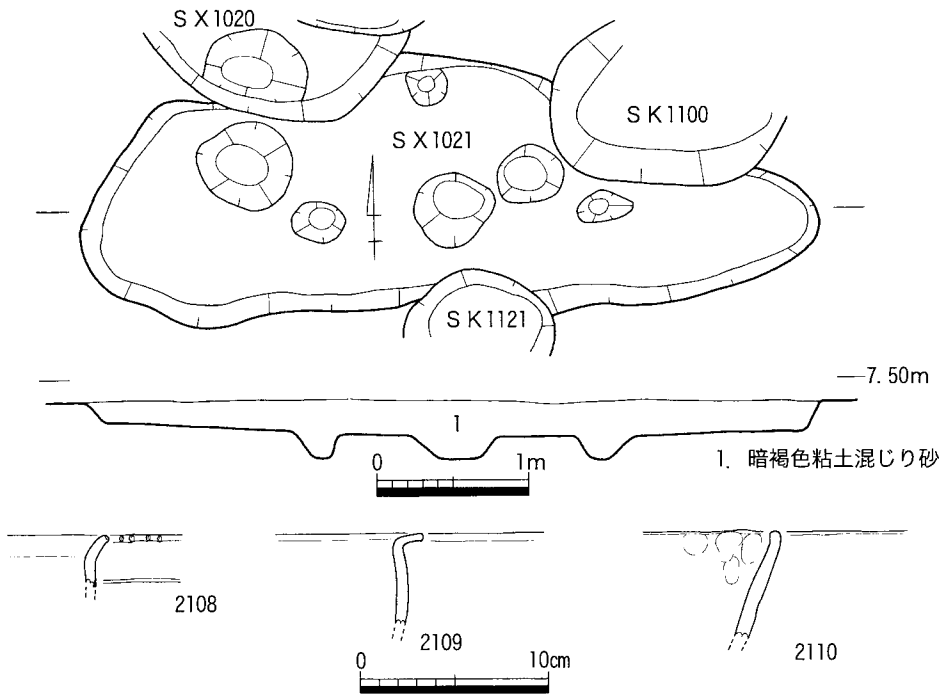
第478図 S X 1020平・断面図 (1/50)

#### S X 1022 (第480図)

2区ほぼ中央部、環濠内側に位置する落ち込みである。土坑S K 1106と重複し、一部が削平されている。平面形は卵形を呈し、長軸3.2m以上, 短軸2.2mを測る。中央部が一段窪んでおり、最深部で深さ0.2mを測る。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、壺・甕等がみられる。2111~2114は壺である。2111は摩滅しているが、頸部に際取り沈線による段がみられる。2112は頸部にヘラ描沈線文を現存で3条施す。2113は頸部に貼付突帯を現存で1条施す。2114は頸部に貼付刻目突帯を現存で4条施し、その上から棒状浮文を貼り付ける。2115~2119は甕で、2115~2117の口縁部は如意状を呈する。2115はヘラ描沈線文3条, 竹管文, ヘラ描複線山形文, ヘラ描沈線文3条を施す。2116は摩滅しているが、ヘラ描沈線文3条施す。2118は逆L字口縁を呈する。摩滅しているため文様の有無は不明である。2119は口縁端部から少し下がった位置に突帯を巡らす。

#### S X 1023 (第481図)

環濠内側, 2区東端から3区西端にかけて位置する落ち込みである。中央部を排水用の

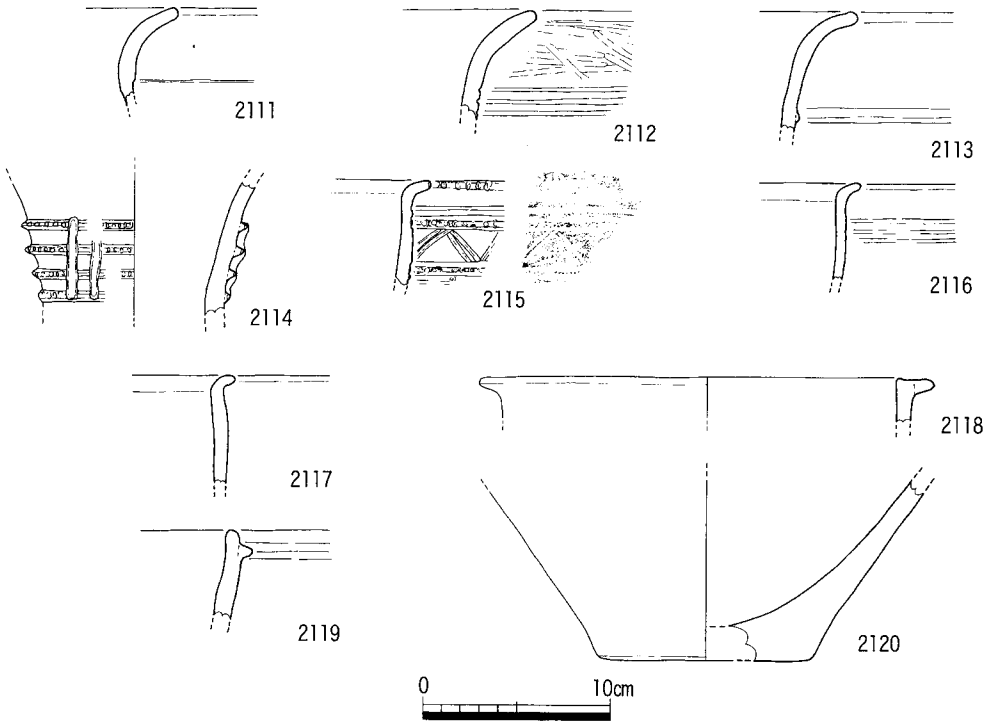
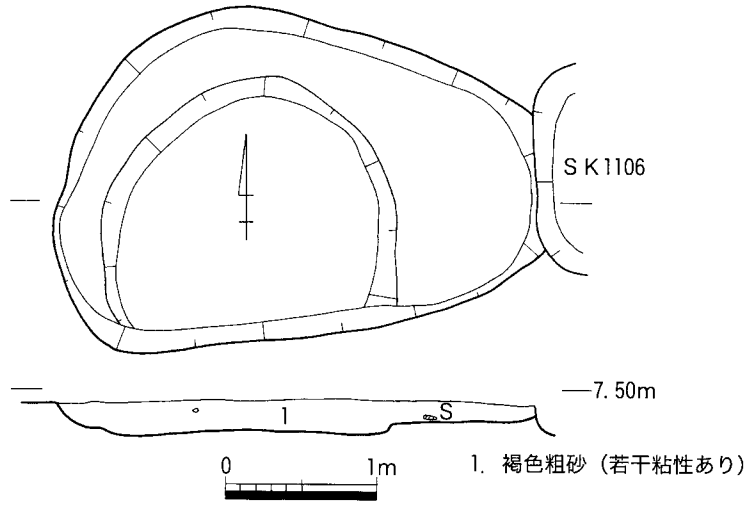


第479図 S X 1021平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

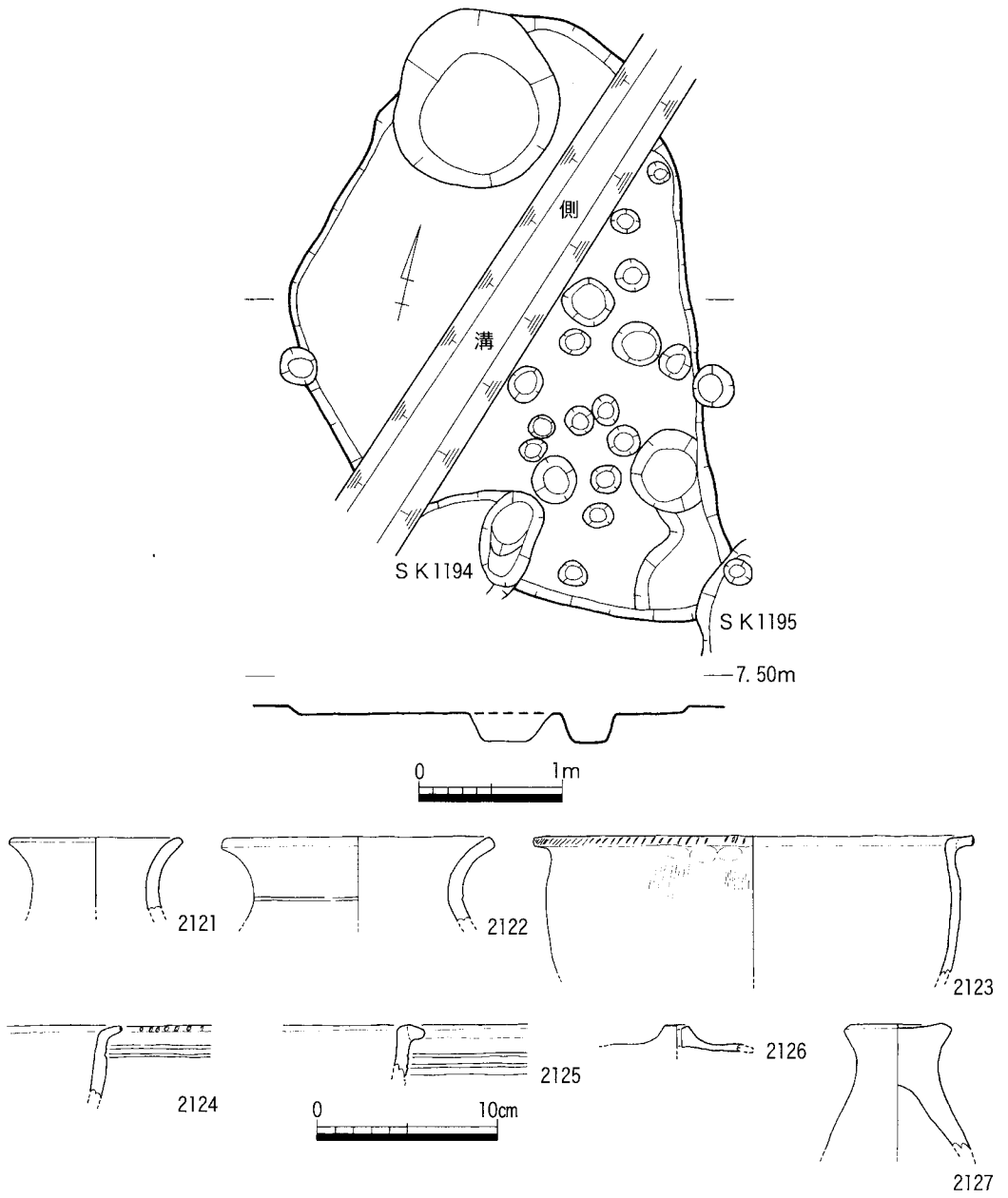
側溝が重複するため、削平されている。平面形はいびつで、長軸4.3m、短軸2.75m、深さ0.05mを測る。底面からは小穴（径0.2～0.5m、深さ0.2m）が多数検出されたが、付近にも同様の柱穴が多数検出されていることから、柱穴が重複した可能性が高い。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、壺・甕・蓋、石包丁未製品がみられる。2121・2122は壺の口縁部片で、2122は頸部にヘラ描沈線文を現存で1条施す。2124は如意状の口縁部を呈する甕で、ヘラ描沈線文2条施す。2125は逆L字口縁を呈する甕で、ヘラ描沈線文を現存で3条施す。

#### S X 1024 (第482・483図)

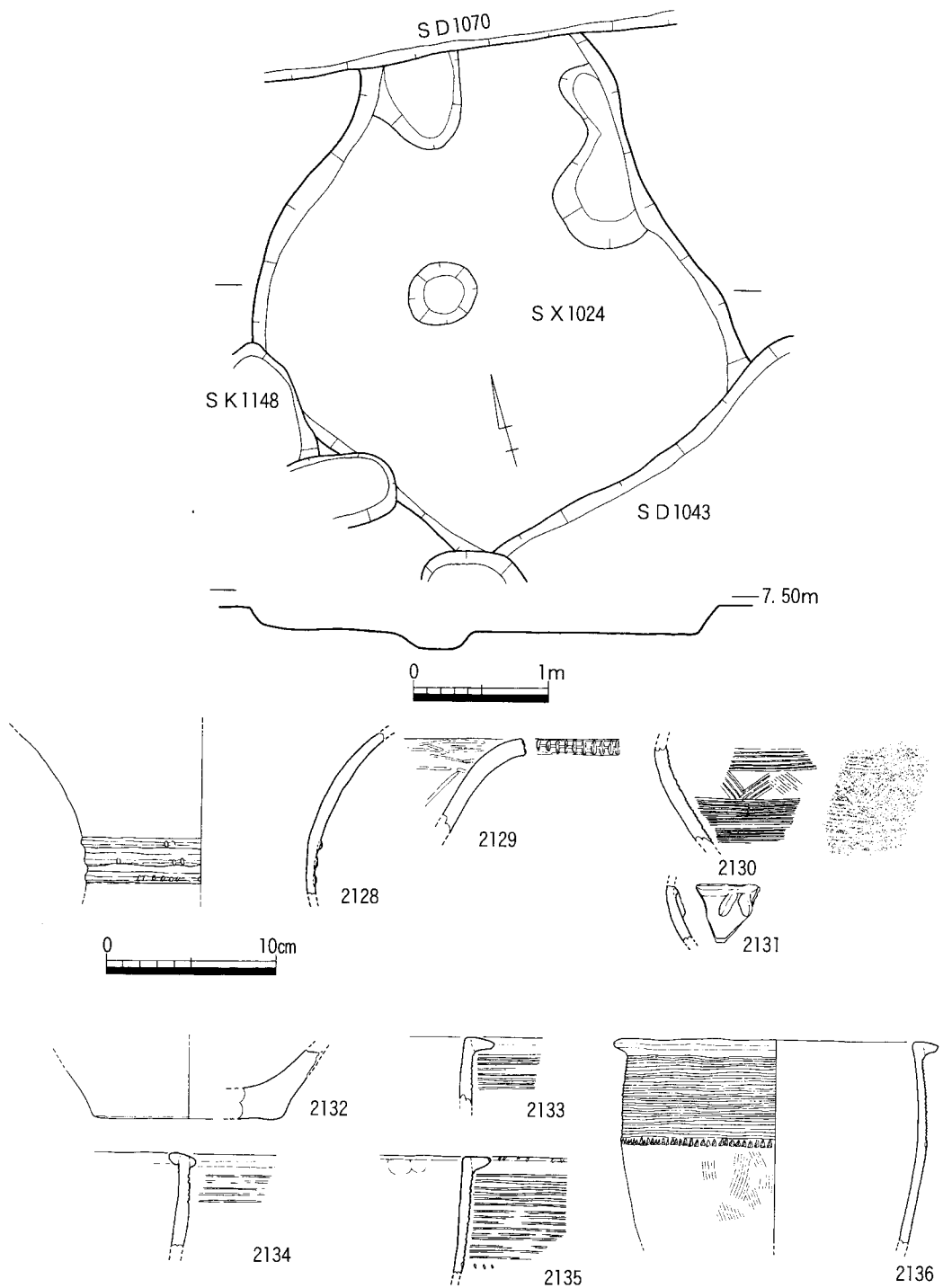
2区中央部南寄り、環濠内側に位置する落ち込みである。溝S D1043、平安時代の溝S D1070などと重複し、一部が削平されている。平面形は不明であるが、長軸3.5m以上、短軸3.1m、深さ0.2mを測る。底面からは4個の小穴（径0.3～0.7m、深さ0.15m）が検出されたが、S X 1024に伴うものかどうか不明である。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、壺・甕・蓋・鉢、石包丁・石鋏がみられる。2128～2132は壺である。2128は頸部に貼付刻目突帯を現存で3条施す。2130は頸部にヘラ描沈線文とヘラ描複線山形文を施す。2133～2140・2142は甕である。2133～2137・2142は逆L字口縁を呈する。2133は櫛描直線文を現



第480図 S X 1022平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

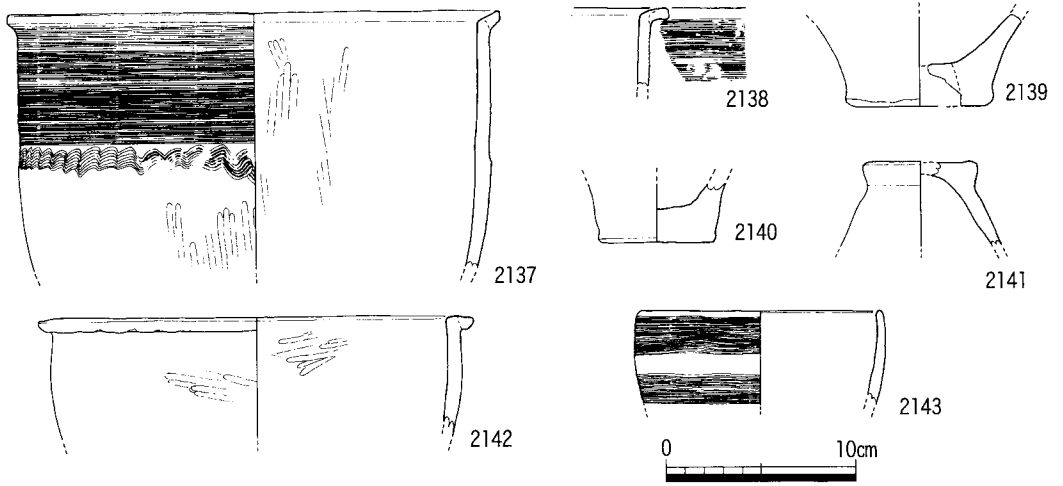


第481図 S X1023平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

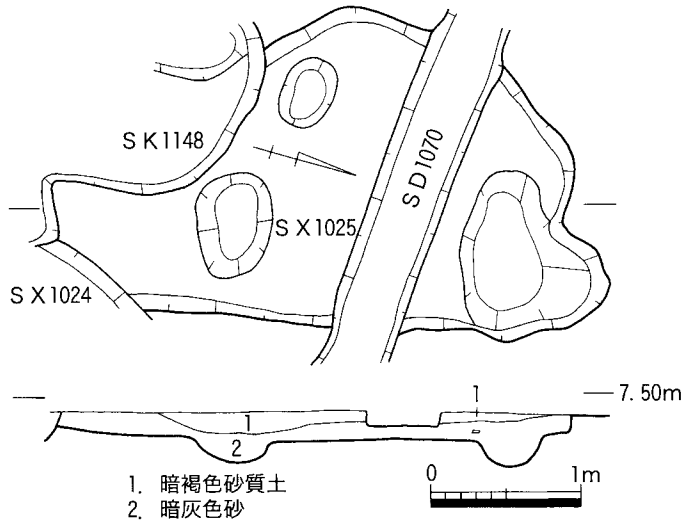


第482图 S X 1024平·断面图 (1/50), 出土土器 1 (1/4)

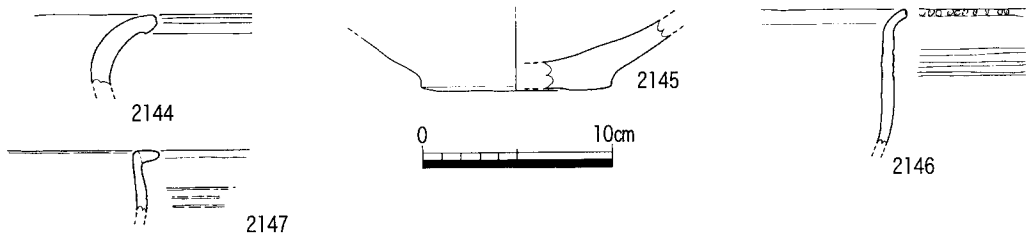




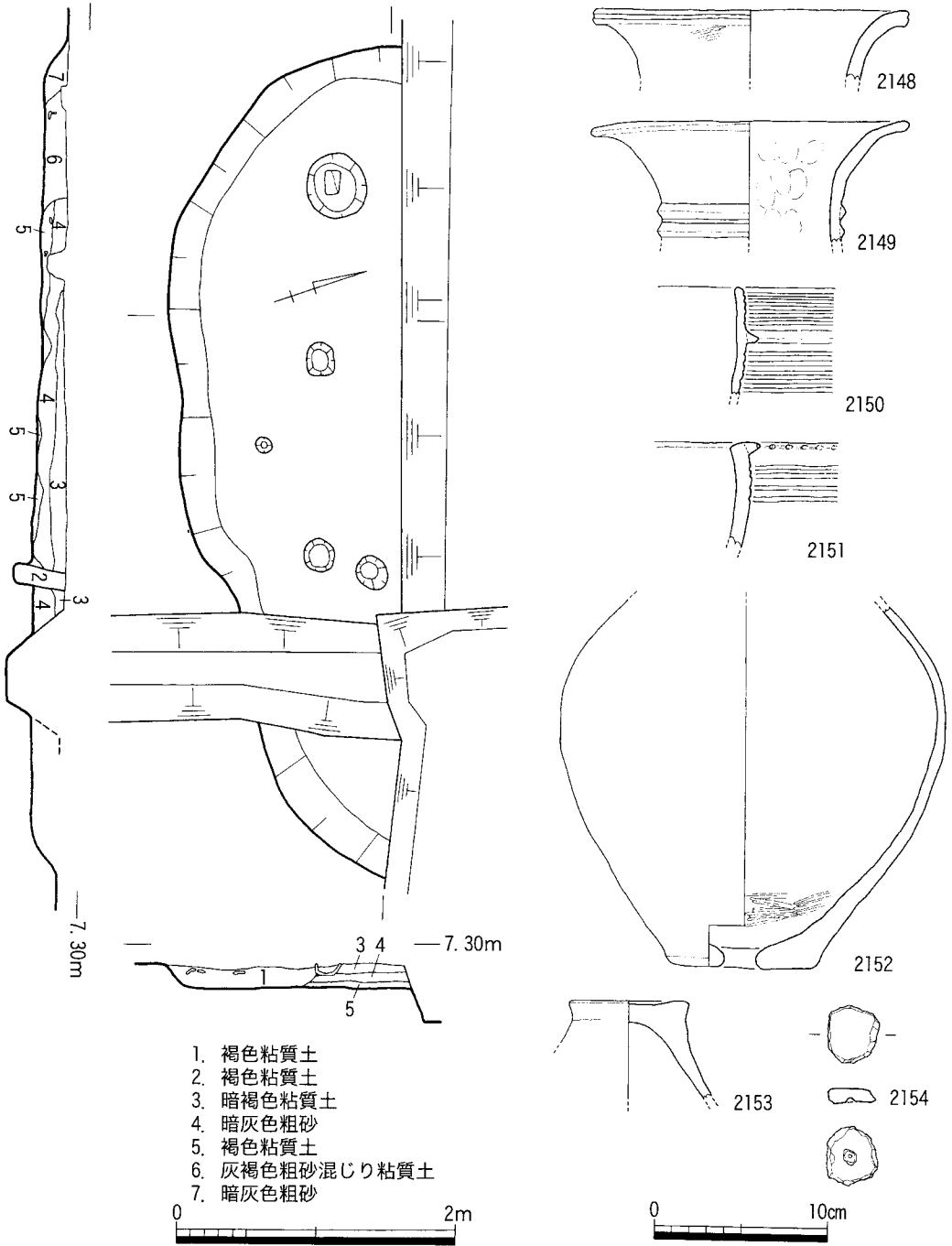
第483图 S X 1024出土土器 2 (1/4)



1. 暗褐色砂質土
2. 暗灰色砂



第484图 S X 1025平・断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)



第485図 S X 1026平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

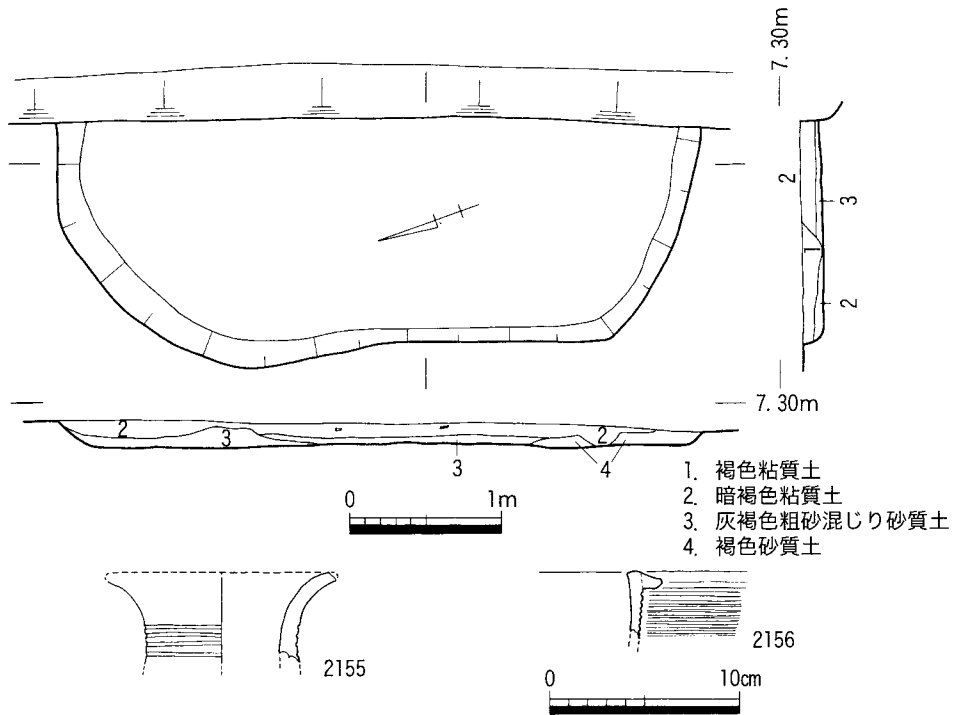
存で8条施す。2134はヘラ描沈線文5条，2135はヘラ描沈線文15条と刺突文，2136は櫛描直線文28条，三角形刺突文を施す。2137は櫛描直線文を47条と櫛描波状文，2138は櫛描直線文を現存で18条施す。2143は鉢で，体部に櫛描直線文を施す。

S X 1025 (第484図)

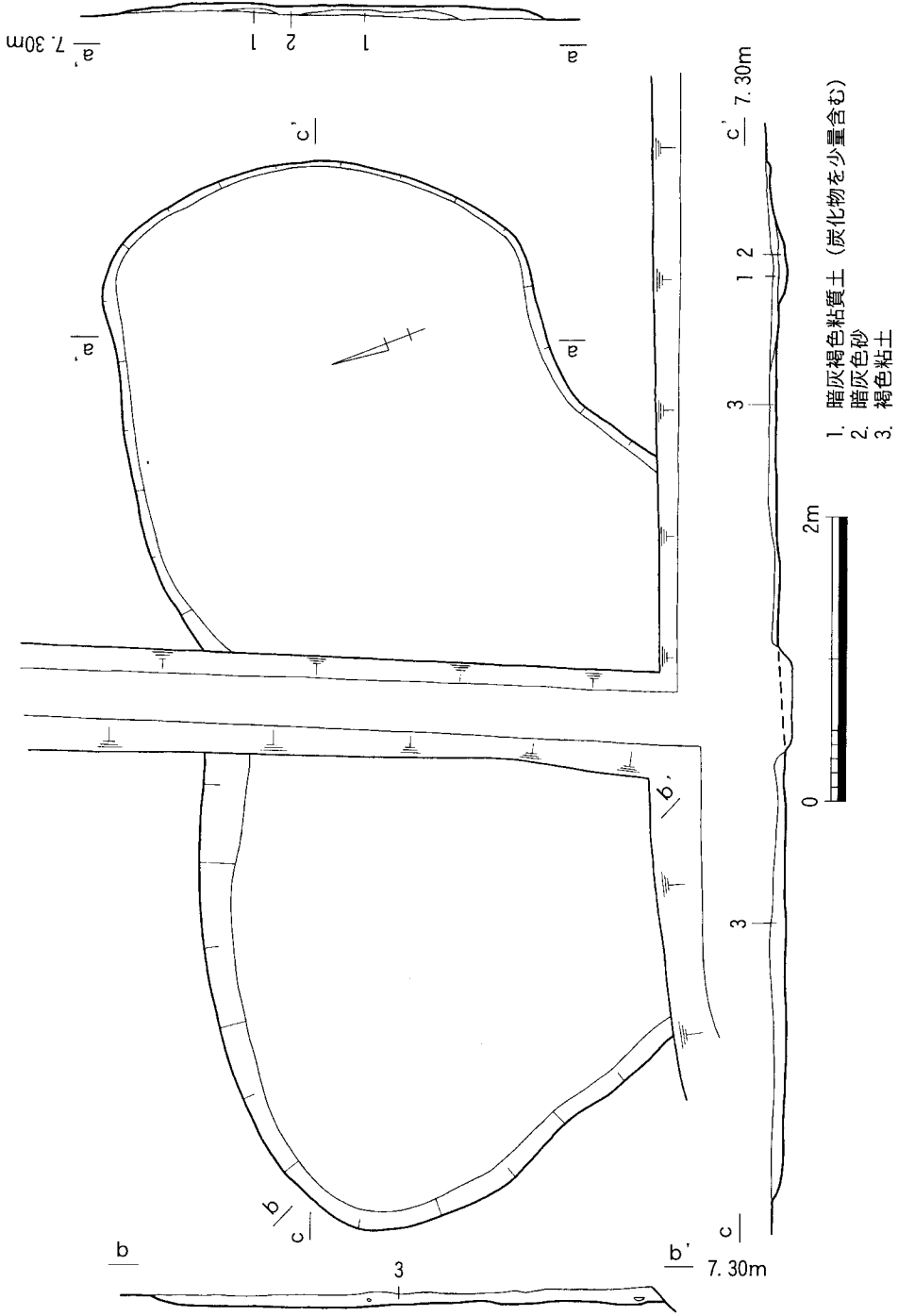
2区中央部やや南寄り，環濠内側に位置する落ち込みである。土坑S K 1148，落ち込みS X 1024，平安時代の溝S D 1070と重複し，一部が削平されている。平面形は不定形を呈し，長軸3.5m以上，短軸1.7mを測る。底面からは3個の小穴（径0.3~0.8m，深さ0.15~2.0m）が検出されたが，S X 1025に伴うかどうかは不明である。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で，壺・甕，石鍬がみられる。2146は如意状口縁を呈する甕である。体部にヘラ描沈線文を3条施す。2147は逆L字口縁の甕で，体部にヘラ描沈線文を現存で3条施す。

S X 1026 (第485図)

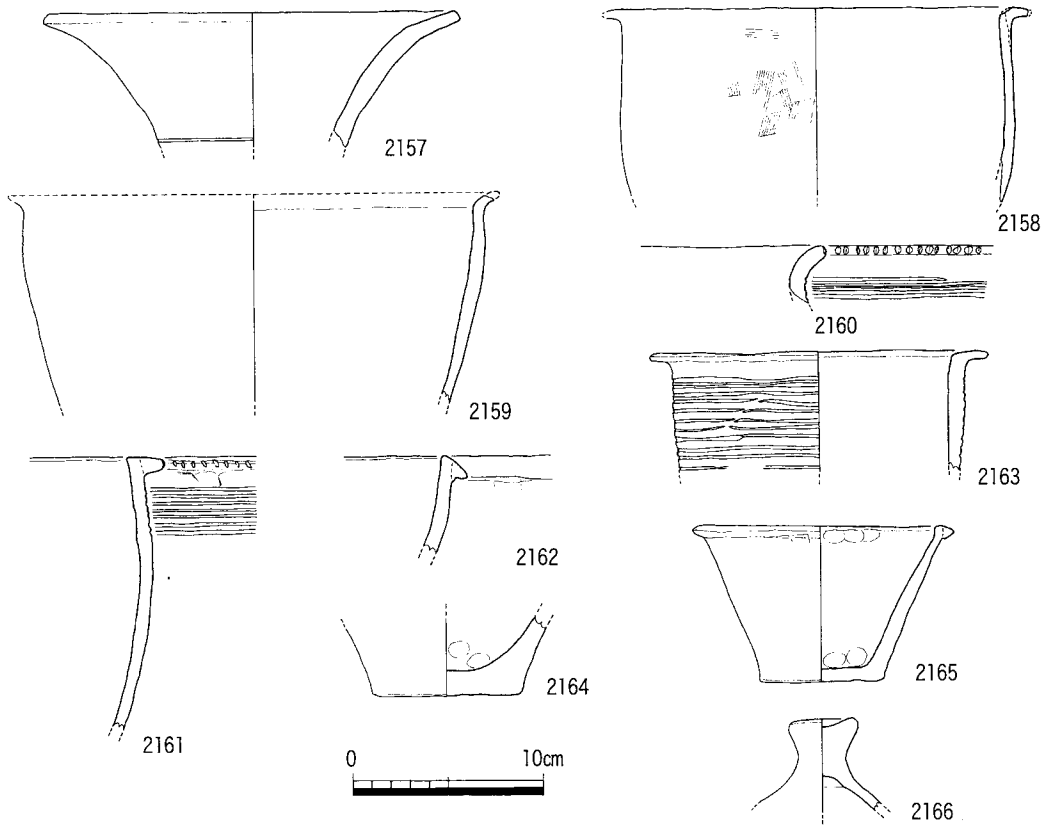
3区北東隅から4区北西隅にかけて，環濠外側に位置する落ち込みである。北部は調査区外に連続するため，全体形状は不明である。平面形は円形ないし楕円形を呈するものと推定され，径6.0m以上を測る。断面形は浅い皿状を呈し，最深部で深さ0.25mを測る。出



第486図 S X 1027平・断面図 (1/50)，出土土器 (1/4)



第487図 S X 1028平・断面図 (1/50)



第488図 S X 1028出土土器（1/4）

土遺物は整理用コンテナ2箱程度で、壺・甕・甑・蓋・円盤状土製品、石鋤がみられる。2148・2149は壺の口縁部片で、2149は現存で2条の貼付突帯を施す。2150は甕の口縁部片で、ヘラ描沈線文5条と貼付突帯1条、その下にはヘラ描沈線文を現存で5条施す。2151は逆L字口縁の甕で、ヘラ描沈線文を4条施す。2154は円盤状土製品である。土器片を再利用したもので、周囲を打ち欠いて円盤状に整形する。中央部には穿孔がみられるが、貫通はしていない。

S X 1027（第486図）

3区北東端、環濠外側に位置する落ち込みである。東部は排水用側溝に削平されている。平面形は楕円形を呈し、短軸2.0~2.4m前後、長軸4.2mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.15mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。2155は壺の頸部で、ヘラ描沈線文を現存で4条施す。2156は逆L字口縁の甕で、ヘラ描沈線文を現存で8条施す。

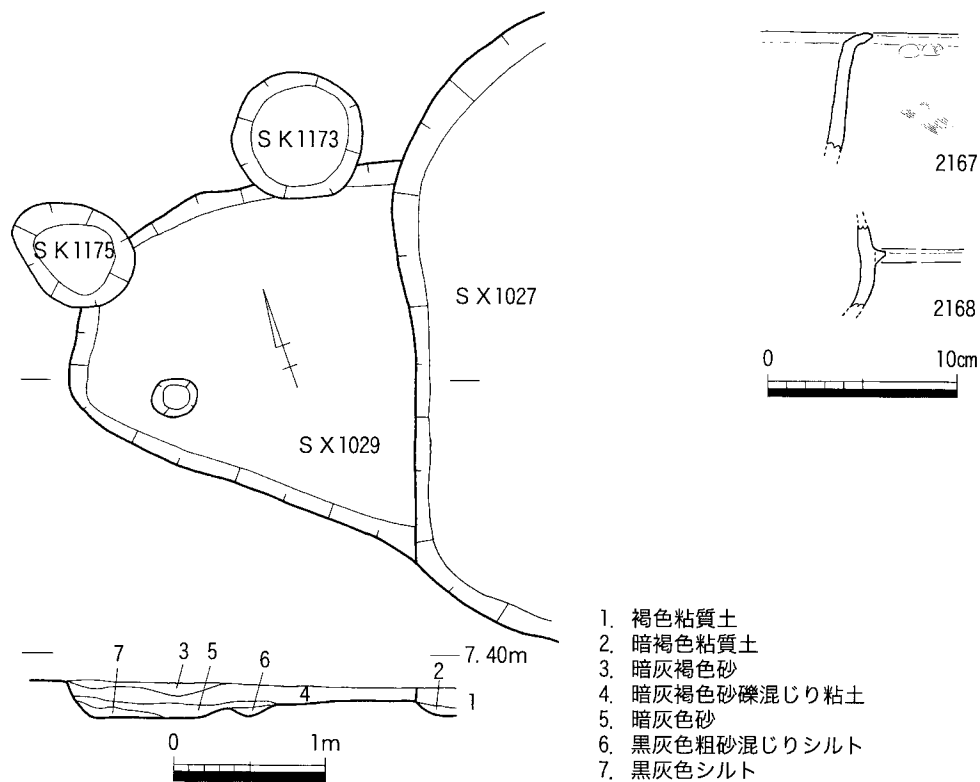
S X 1028（第487・488図、図版28）

4区南西端、環濠外側に位置する落ち込みである。排水用の側溝によって中央部を削平

されている。南部は調査区外に連続するため、全体は不明である。平面形はいびつな達磨形を呈し、長軸7.5m前後を測る。断面形は浅い皿状を呈する。壁の立ち上がりは極めて緩やかである。底面は平坦ではなく、凸凹がみられ、深さ0.1~0.2mを測る。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、壺・甕・蓋、打製石斧・柱状片刃石斧がみられる。2157は壺の口頸部で、頸部にヘラ描沈線文を現存で1条施す。2160は甕の口縁部片で、ヘラ描沈線文を現存で4条施す。2161・2162は逆L字口縁の甕で、2161はヘラ描沈線文を7条施す。2163は折り曲げ口縁で、体部にヘラ描沈線文を現存で11条施す。

S X 1029 (第489図)

3区北東端、環濠外側に位置する落ち込みである。落ち込みS X 1027と重複し、削平されている。平面形は不明であるが、長軸2.6m、短軸2.3m以上、深さ0.25mを測る。壁の立ち上がりは緩やかである。底面は平坦ではなく、凸凹がみられる。底面からは小穴(径0.3m、深さ0.2m)が検出されたが、周囲には多数の柱穴が検出されていることから、重複する柱穴の可能性が高い。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、甕、柱状片刃石斧・石包



第489図 S X 1029平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

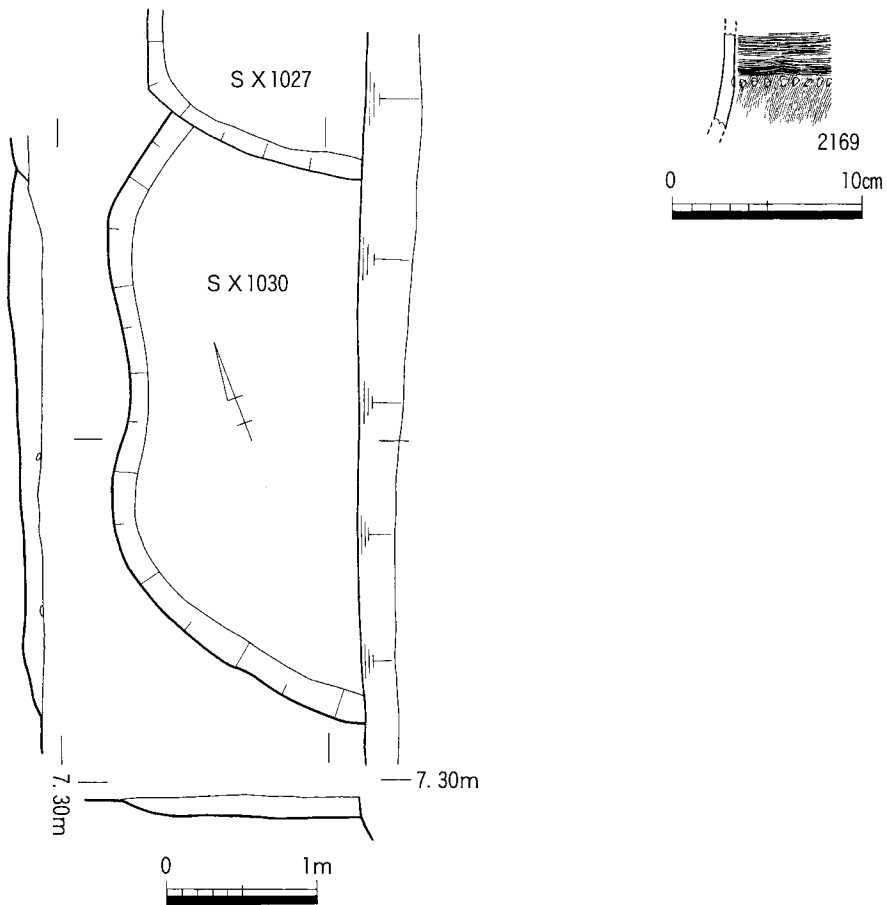
丁・刃器がみられる。2167は如意状口縁を呈する甕である。2168は口縁端部を欠損する。口縁端部から少し下がった位置に突帯を張り巡らす。

S X 1030 (第490図)

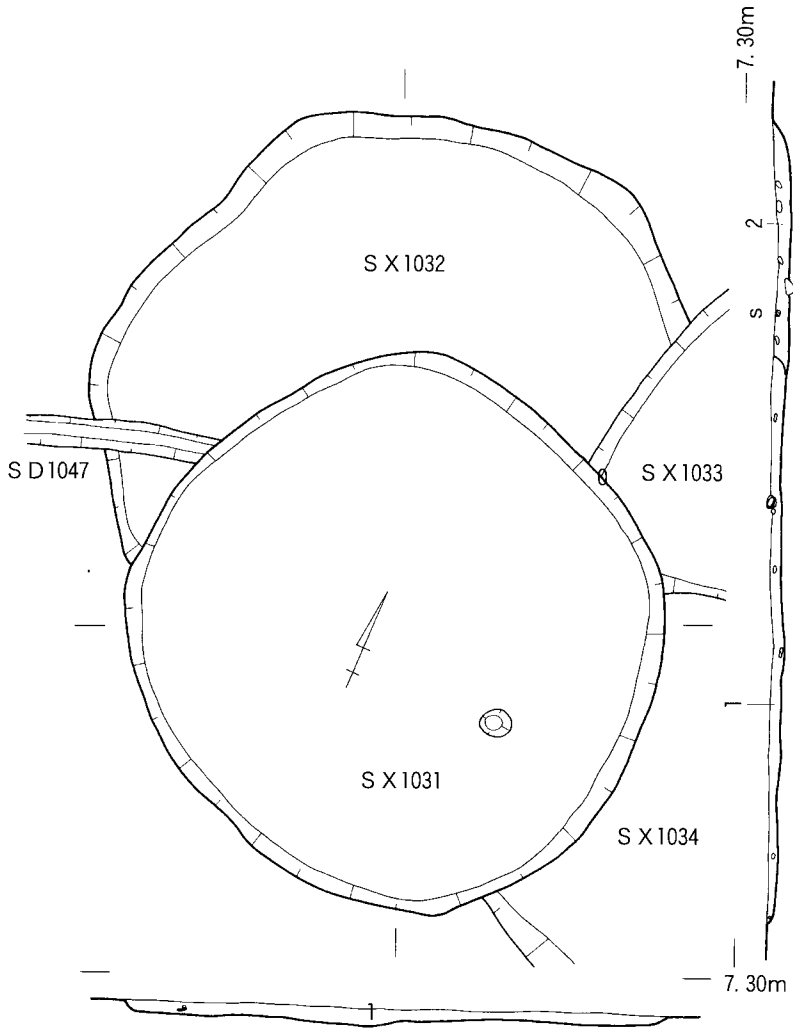
3区東端、環濠外側に位置する落ち込みである。落ち込みS X 1027と重複し、削平される。また、東部は排水用側溝によって削平されている。平面形は不明であるが、ややいびつな楕円形を呈し、長軸3.6m以上、短軸1.6m以上、深さ0.1~0.2mを測ると推定される。出土遺物は少量で、甕片がみられる。2169は甕の体部片で、櫛描直線文と刺突文を施す。

S X 1031 (第491・492図)

3区南部、環濠外側に位置する落ち込みである。落ち込みS X 1032・S X 1033・S X 1034と重複し、削平する。平面形はほぼ円形を呈し、径3.5~3.7m、深さ0.1mを測る。底面からは小穴(径0.2m、深さ0.1m)が検出されたが、S X 1031に伴うものとは考えがたい。出



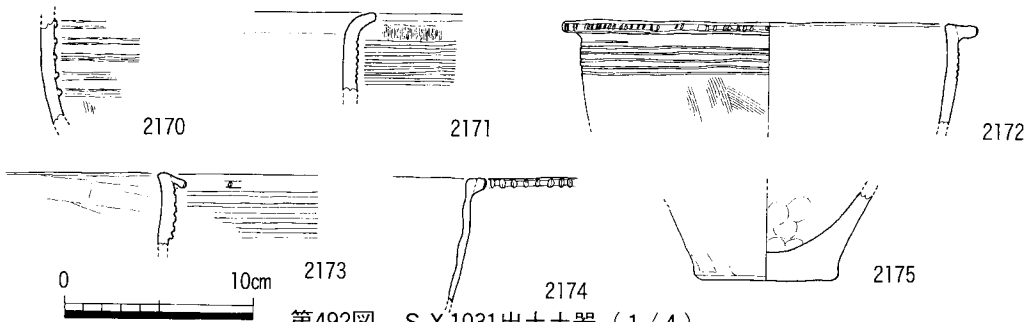
第490図 S X 1030平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



1. 暗灰褐色粘土（炭化物を含む）
2. 褐色粗砂混じり粘土

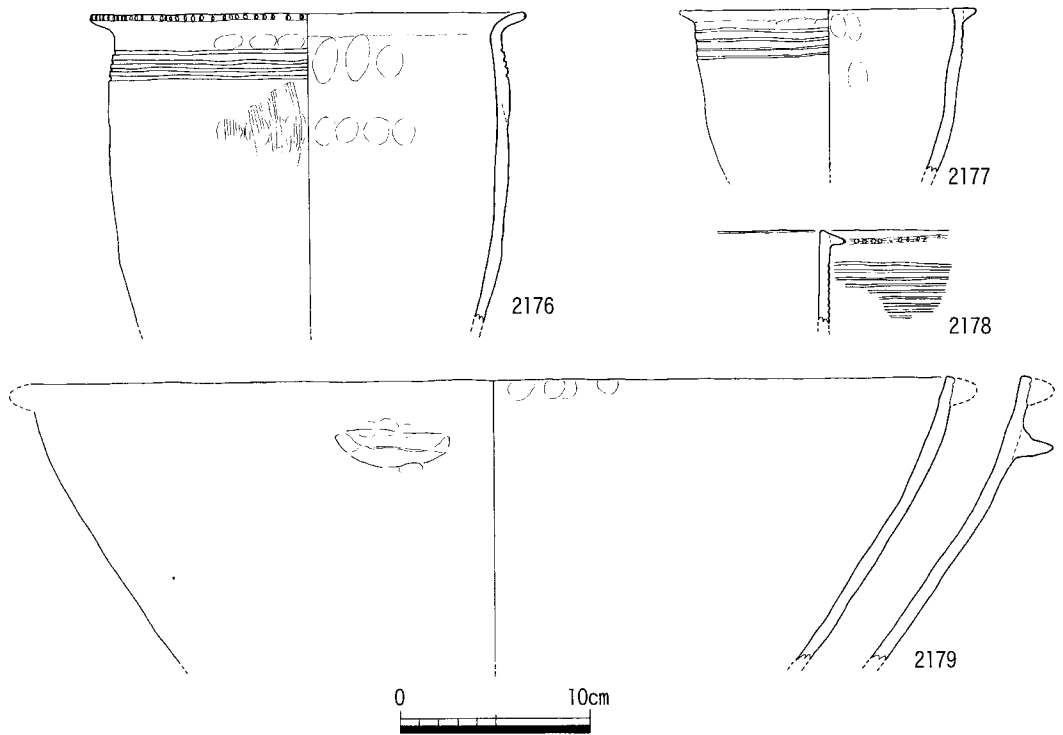


第491図 S X 1031・S X 1032平・断面図（1/50）



第492図 S X 1031出土土器（1/4）





第493図 S X 1032出土土器 (1/4)

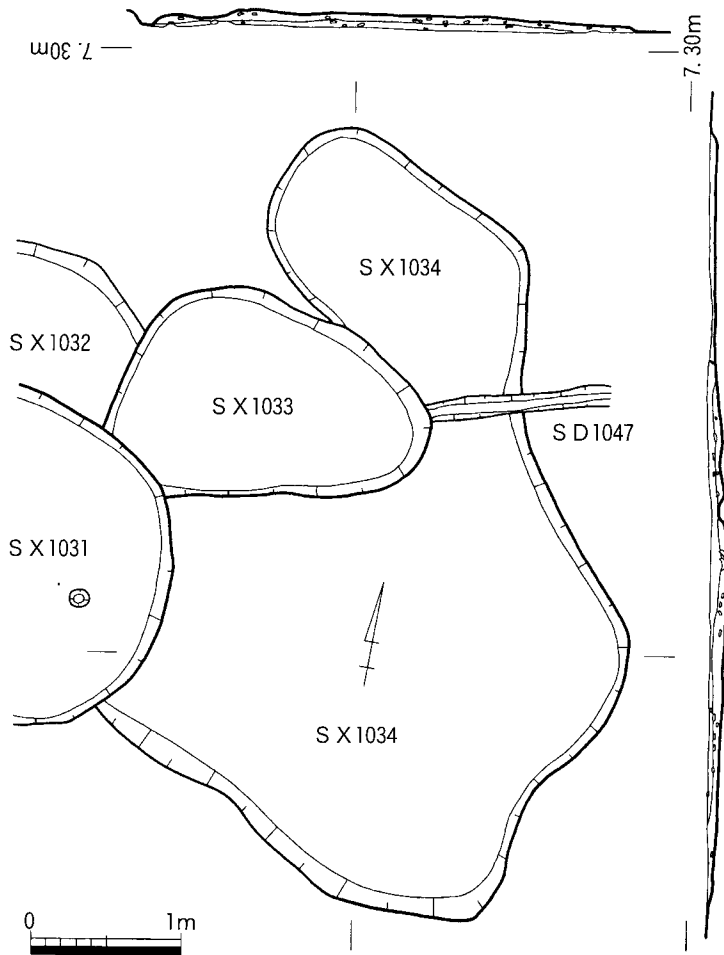
土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、壺・甕、非サヌカイト製品がみられる。2170は壺の頸部片で、貼付突帯を現存で5条施す。2171・2172・2174・2175は甕片で、2171は如意状口縁を呈し、外面にヘラ描沈線文を現存で7条施す。2172～2174は逆L字口縁の甕で、2172はヘラ描沈線文5条を施す。2174は摩滅しているため文様の有無は不明である。2173はヘラ描沈線文5条と段を施す。

S X 1032 (第491・493図)

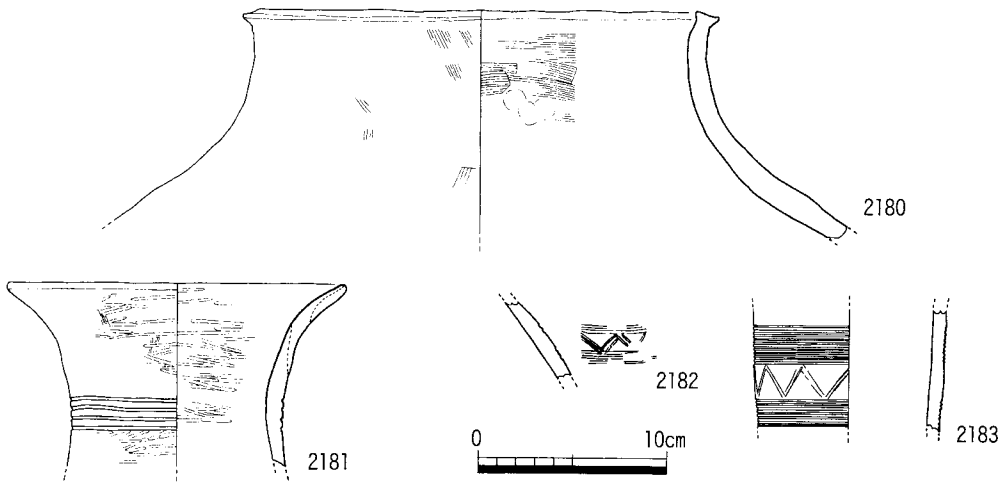
3区南部、環濠外側に位置する落ち込みである。落ち込みS X 1031・S X 1033と重複し、削平を受ける。平面形はほぼ円形を呈し、径4.0m前後を測ると推定される。断面形は浅い皿状を呈する。底面は平坦ではなく、凸凹がみられ、深さ0.1m前後を測る。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、甕・鉢、非サヌカイト製品がみられる。2176～2178は甕である。2177・2178は逆L字口縁を呈する。2176・2177は外面にヘラ描沈線文4条、2178はヘラ描沈線文を現存で9条施す。

S X 1033 (第494・495図, 図版28)

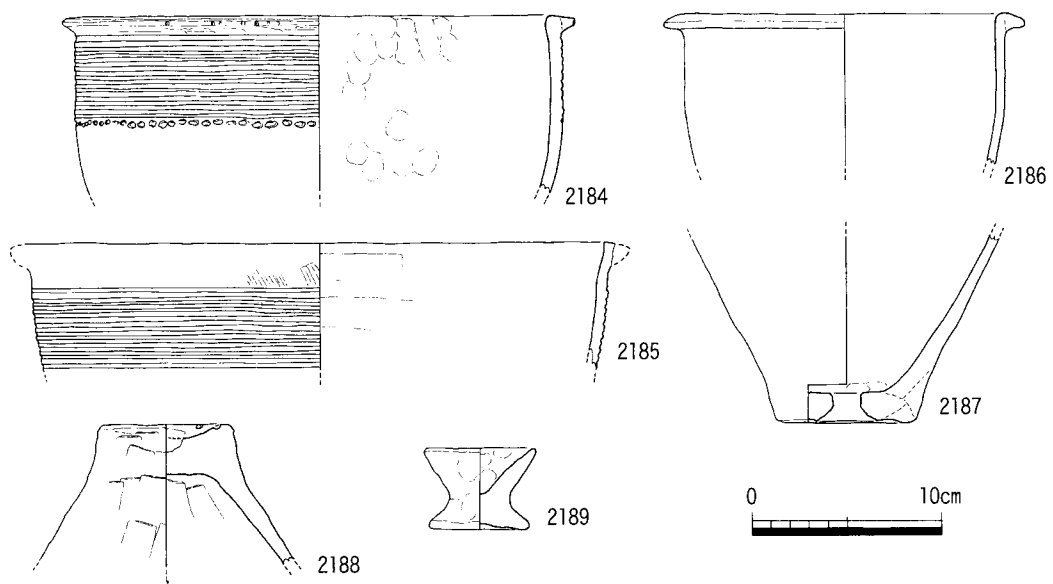
3区南東部、環濠外側に位置する落ち込みである。落ち込みS X 1031・S X 1032・S X



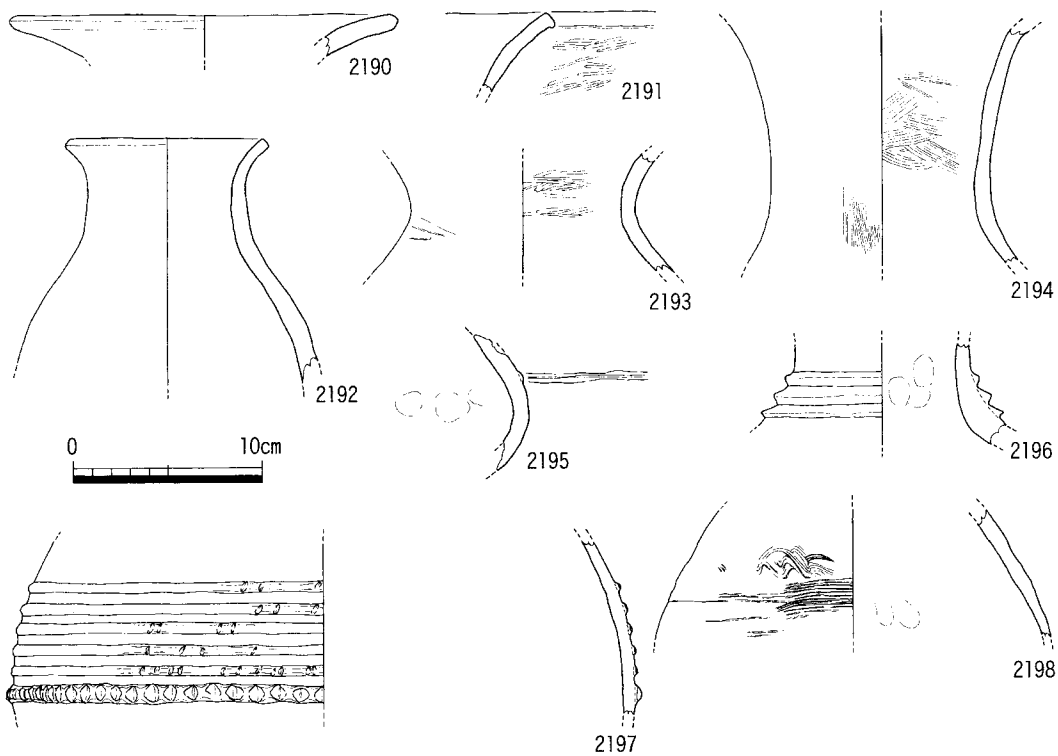
第494图 S X 1033・S X 1034平・断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)



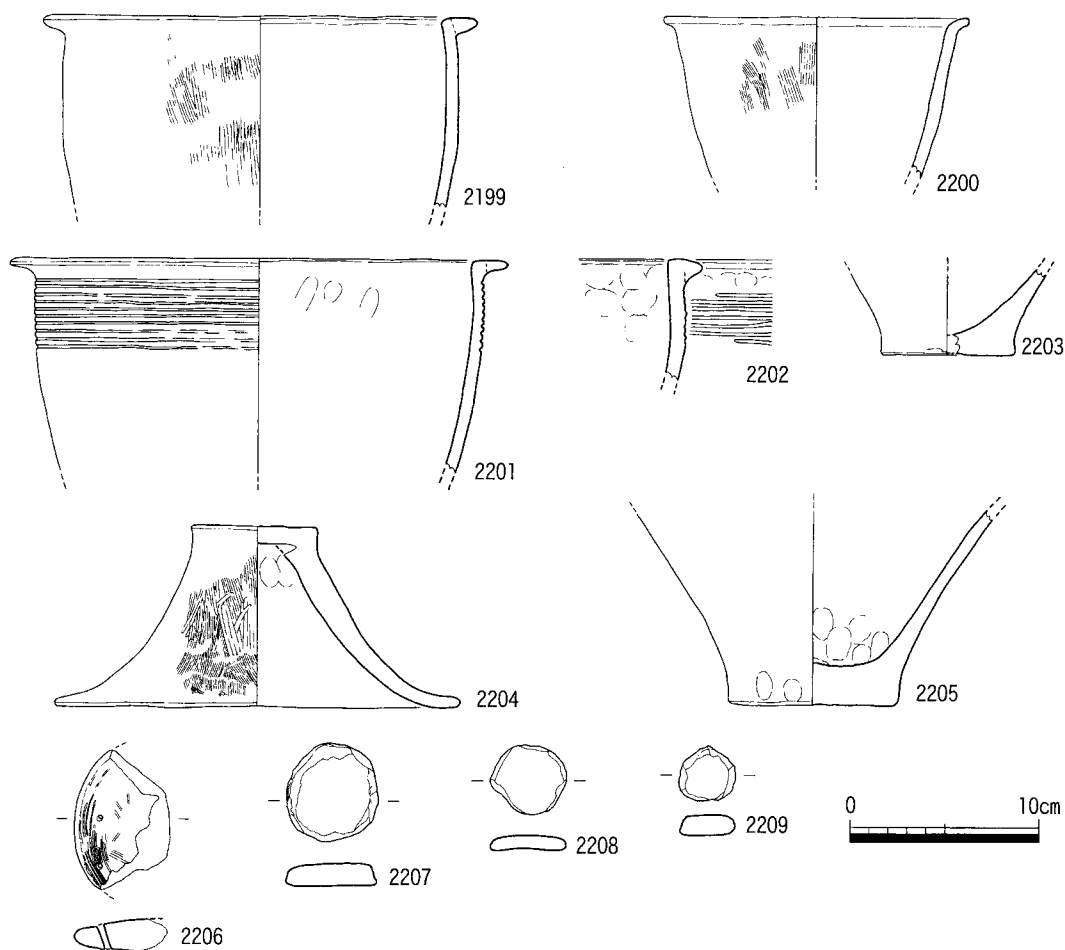
第495图 S X 1033出土土器 1 (1/4)



第496图 S X 1033出土土器 2 ( 1 / 4 )



第497图 S X 1034出土土器 1 ( 1 / 4 )



第498図 S X 1034出土土器 2 (1/4)

1034と重複する。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸3.4m前後、短軸2.2m前後を測ると推定される。底面は平坦ではなく、凸凹がみられ、深さ0.1m前後を測る。出土遺物は整理用コンテナ3箱程度で、壺・鉢・甕・甑・蓋・ミニチュア土器鉢、太型蛤刃石斧・石包丁・石皿または砥石・石鋤・石錐がみられる。2180は大型壺の口頸部である。2181は壺の口頸部片で、ヘラ描沈線文を4条施す。2182は壺の体部片で、ヘラ描沈線文と半截竹管複線山形文を施す。2183は鉢で、口縁端部を欠損する。外面にはヘラ描沈線文と半截竹管ヘラ描複線山形文を施す。2184～2186は甕である。2185は口縁部を剥落するが、2184・2186同様逆L字口縁を呈すると考えられる。2184はヘラ描沈線文10条と刺突文を施す。2186は摩滅しているため文様の有無は不明である。2185はヘラ描沈線文を現存で10条施す。

S X 1034 (第494・497・498図, 図版28・29)

3区南東部、環濠外側に位置する落ち込みである。S X 1035と重複するが、前後関係は不明である。平面形はいびつで、長軸8.3m以上、短軸5.5m以上を測ると推定される。底面は平坦ではなく、凸凹がみられ、深さ0.1~0.2mを測る。遺物は散乱した状態で埋土中位から底面にかけて出土した。出土遺物は整理用コンテナ6箱程度で、壺・甕・蓋・円盤状土製品、太型蛤刃石斧・扁平片刃石斧・石包丁・石鋏、石包丁・刃器がみられる。2190~2198は壺である。2195は体部片で、貼付突帯が現存で1条みられる。2196は頸部片で貼付突帯を現存で3条施す。2197は体部片で、貼付刻目突帯を現存で6条施す。2198も体部片で、櫛描波状文と櫛描直線文を施す。2199~2203は甕で、2201はヘラ描沈線文を10条、2202は7条施す。2206は壺の蓋で、2個の円孔がみられる。2207~2209は円盤状土製品で、いずれも土器片を再利用し、周囲を打ち欠いて整形したものである。

#### S X 1035 (第499・500図, 図版29・30)

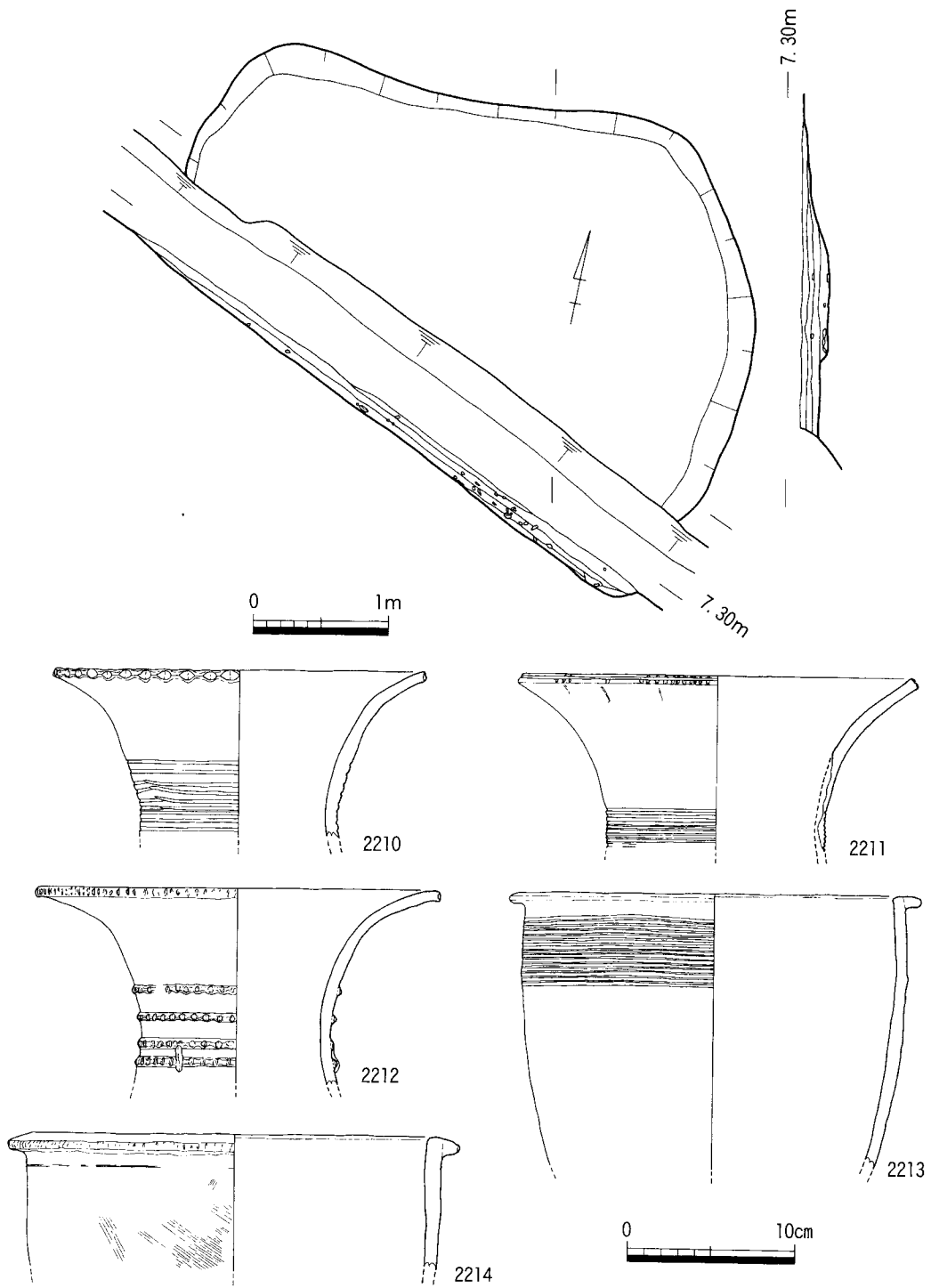
3区南東端、環濠外側に位置する落ち込みである。平面形はいびつで、長軸7.3m、短軸3.8m以上、深さ0.2m前後を測る。遺物は散乱した状態で、S X 1034同様埋土中位から底面にかけて出土した。出土遺物は整理用コンテナ6箱程度で、壺・甕、太型蛤刃石斧・柱状片刃石斧・石包丁・石皿または砥石等がみられる。2210~2212は壺の口頸部片で、2210は頸部にヘラ描沈線文を現存で9条、2211は口縁部外面にヘラ描縦線文または工具痕、頸部にヘラ描沈線文を現存で8条施す。2212は頸部に貼付刻目突帯を現存で4条施した後、棒状浮文を施す。2213~2216は逆L字口縁の甕である。2213は櫛描直線文を現存で15条施す。2214は口縁部下に工具痕がみられる。2215は口縁端部を欠損する。体部にはヘラ描沈線文と、ヘラ描または半截竹管による複線山形文を施す。

#### S X 1036 (第501図)

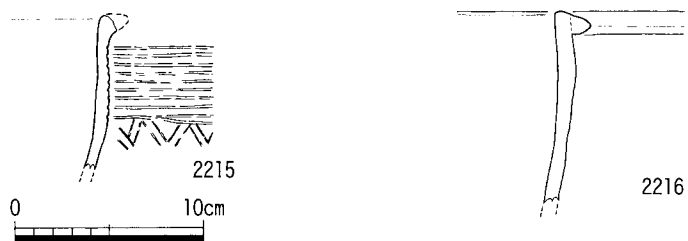
3区南端、環濠外側に位置する落ち込みである。南部は調査区外に連続するため、不明である。平面形は円形ないし、楕円形を呈し、長軸4.4m以上、短軸1.1m以上、深さ0.05~0.1mを測ると推定される。出土遺物は整理用コンテナ2箱程度で、甕・蓋・円盤状土製品、石包丁未製品等がみられる。2217は口縁部が剥離しているが、2218同様逆L字口縁を呈するものと考えられる。2217は体部にヘラ描沈線文12条、2218はヘラ描沈線文9条施す。2222は円盤状土製品で、土器片を打ち欠いて整形したものである。

#### S X 1037 (第502図)

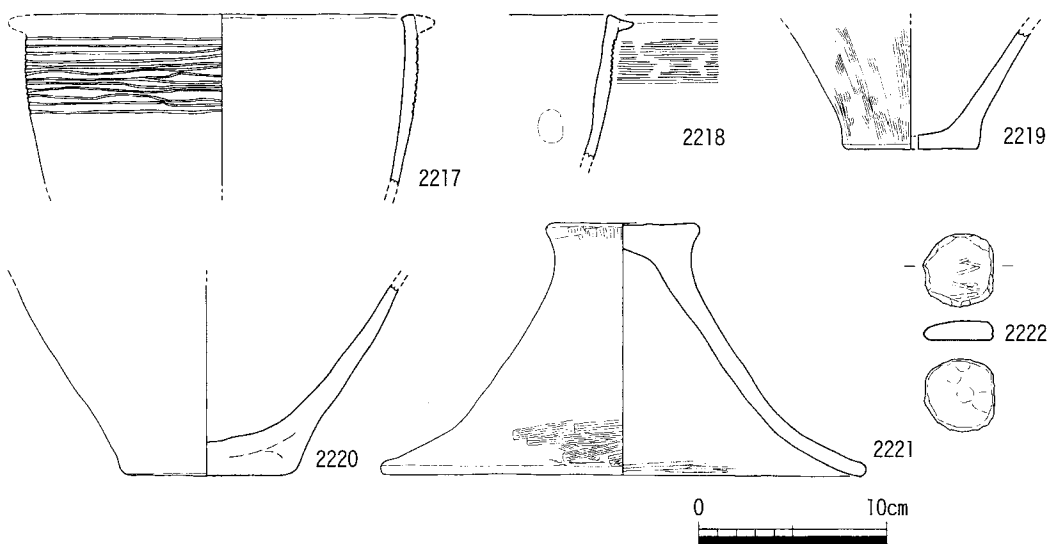
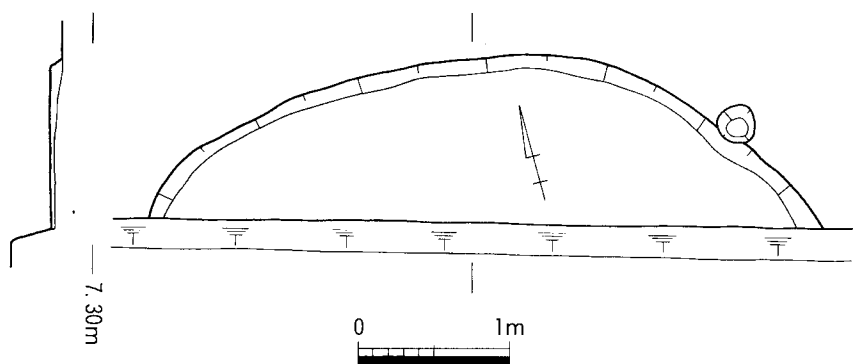
3区北西部、環濠内側に位置する落ち込みである。溝S D 1061、土坑S K 1295・S K 1296と重複し、削平されている。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸5.0m、短軸2.0m以



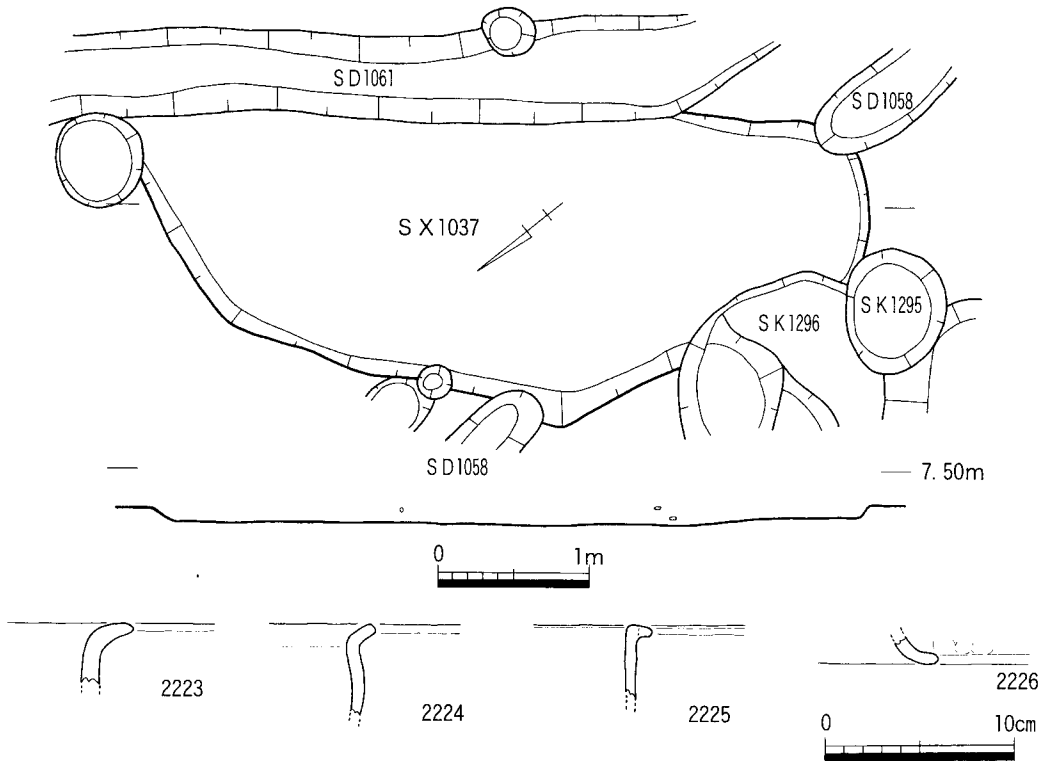
第499图 S X 1035平·断面图 (1/50), 出土土器 1 (1/4)



第500图 S X 1035出土土器 2 (1/4)



第501图 S X 1036平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)



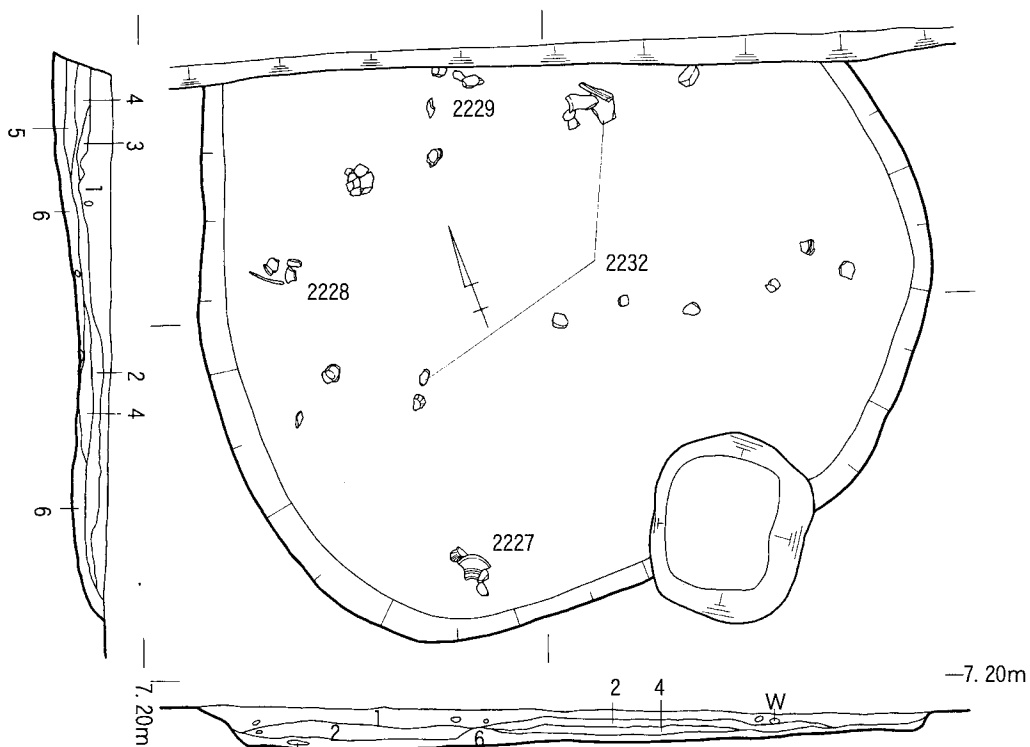
第502図 S X 1037平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

上を測ると推定される。底面はほぼ平坦で、深さ0.15mを測る。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、壺・甕等がみられる。

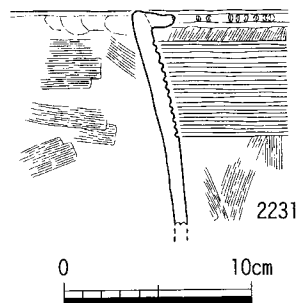
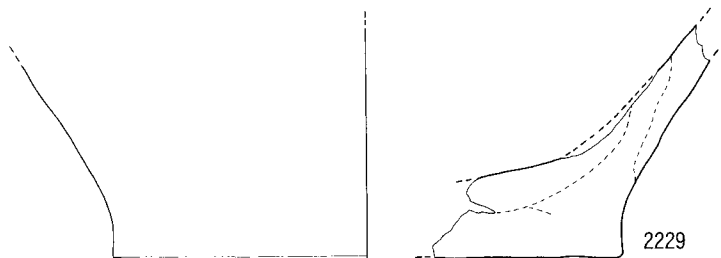
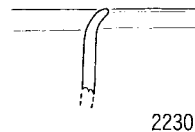
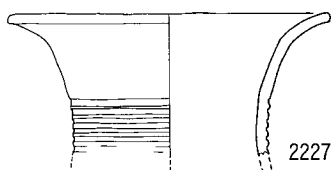
S X 1038 (第503・504図, 図版30)

4区北端、環濠外側に位置する落ち込みである。落ち込みS X 1040・S X 1047と重複し、削平する。北部は調査区外に連続し、全体形状は不明である。平面形はほぼ円形を呈し、径4.8~5.0mを測るものと推定される。断面形は浅い皿状を呈し、底面は平坦ではなく、凸凹がみられ、緩やかに中央部に向かって窪む。最深部で深さ0.25mを測る。埋土は大きく上層の褐色ないしは灰色粗砂層(第1~3層)、下層の炭化物粒を多く含む黒灰色系粘土(第4~6層)に大別できる。底面や埋土上層からは木片が出土した。出土遺物は整理用コンテナ3箱程度で、壺・甕・蓋、石皿または砥石がみられる。2227・2228は壺の口頸部である。2227は頸部にヘラ描沈線文を現存で6条、2228はヘラ描沈線文を現存で1条施す。2230~2233は甕である。2230は如意状の口縁部を呈する。摩滅しているため文様の有無は不明である。2231は逆L字口縁を呈し、ヘラ描沈線文を12条施す。2232は口縁部が剥落するが、逆L字口縁を呈すると推定される。体部にはヘラ描沈線文を7条施す。2233も逆L

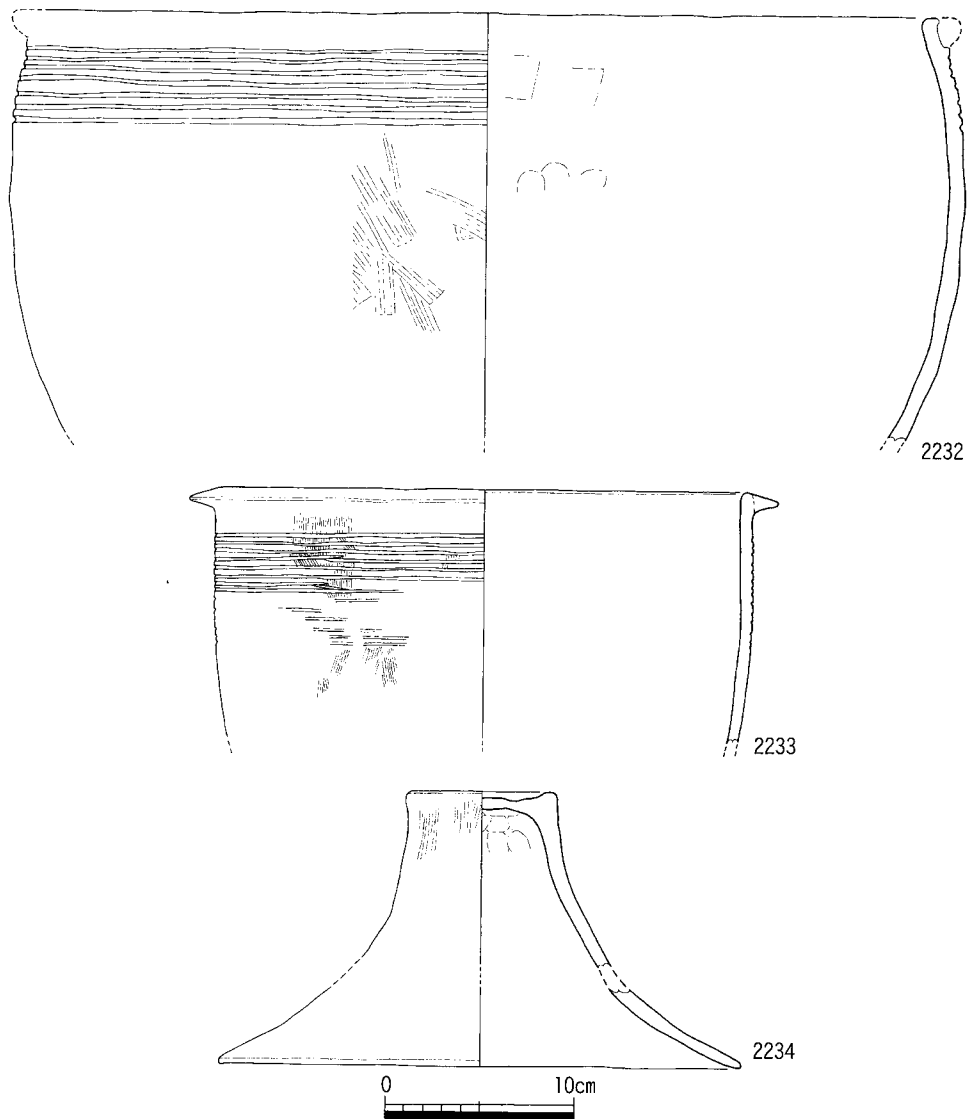




- 1. 暗褐色粗砂混じり粘質土（炭化物を含む）
- 2. 暗灰色粗砂
- 3. 灰色細砂
- 4. 暗褐色粘質土
- 5. 暗灰色砂
- 6. 黒灰色粘質土（炭化物を多量に含む）



第503図 S X1038平・断面図（1/50），出土土器1（1/4）

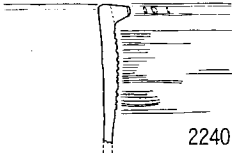
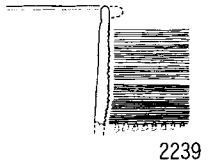
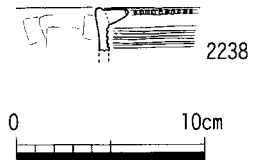
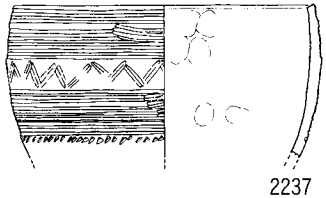
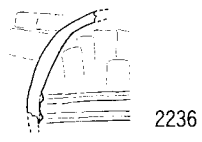
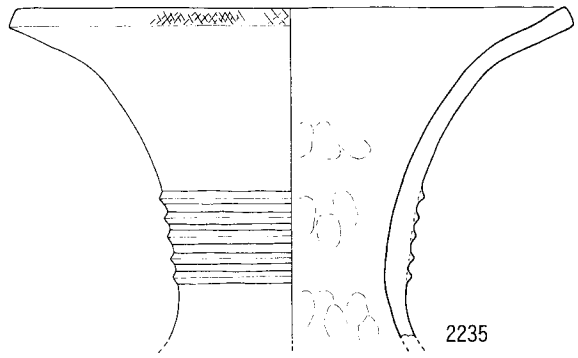
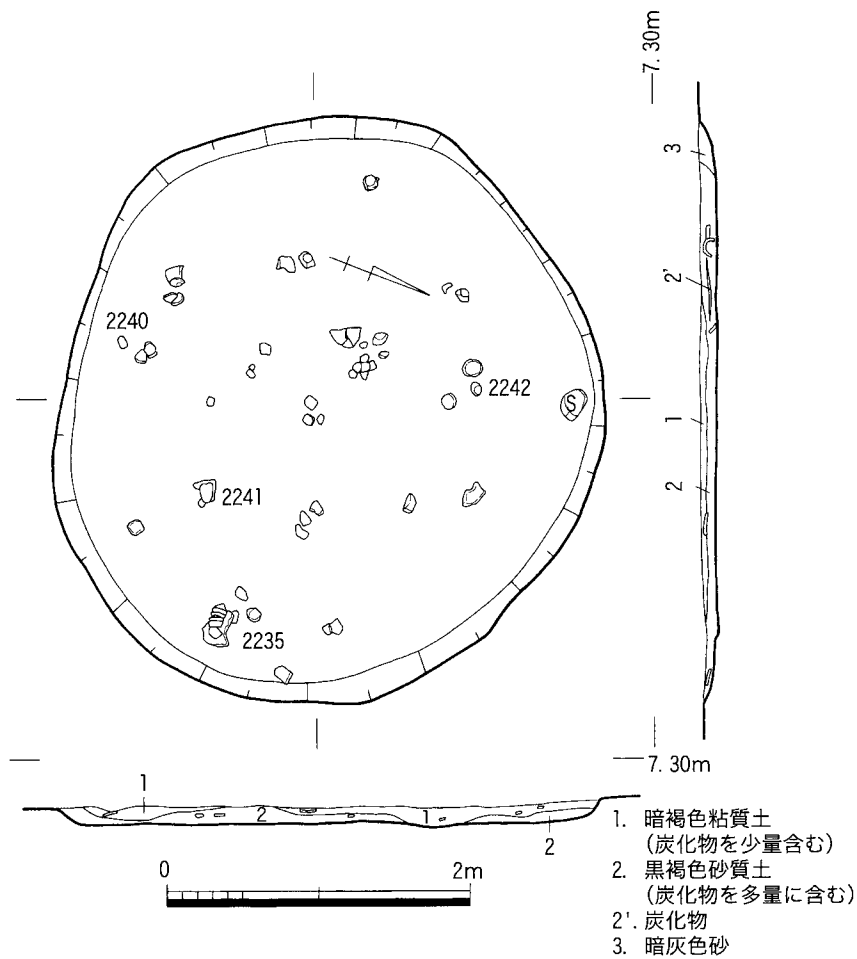


第504図 S X 1038出土土器 2 (1/4)

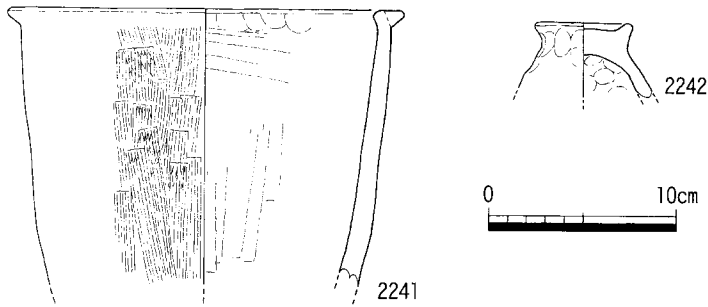
字口縁を呈し、ヘラ描沈線文を14条施す。

S X 1039 (第505・506図, 図版30)

4区北西部, 環濠外側に位置する落ち込みである。平面形はほぼ円形を呈し, 径3.7~4.1mを測る。断面形は浅い皿状を呈し, 最深部で深さ0.15mを測る。出土遺物は整理用コンテナ3箱程度で, 壺・無頸壺・甕・蓋, 石包丁未製品・石鍬がみられる。2235・2236は壺の口頸部で, 2235は口縁端部にヘラ描斜格子文, 頸部に貼付突帯を5条施す。2236は頸部



第505図 S X1039平・断面図 (1/50), 出土土器 1 (1/4)



第506図 S X 1039出土土器 2 (1/4)

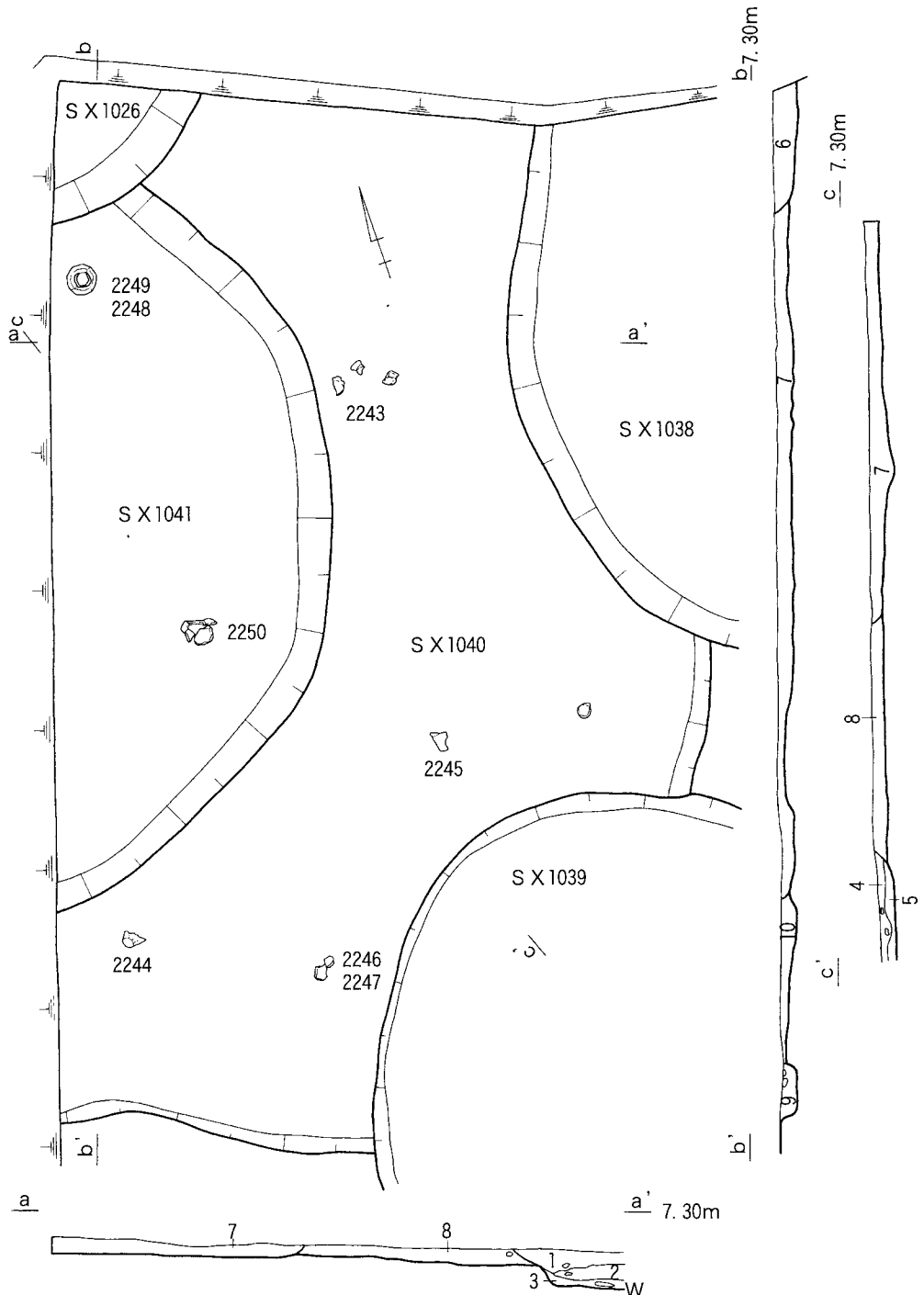
に貼付突帯を現存で2条施す。2237は無頸壺で、半截竹管ヘラ描沈線文と半截竹管複線山形文、三角形刺突文を施す。2238・2240・2241は逆L字口縁の甕である。2239は口縁部が剥落するが、逆L字口縁を呈するものと考えられる。2238はヘラ描沈線文を現存で4条、2239は櫛描直線文と三角形刺突文を施す。2240は摩滅しているが、外面にはヘラ描沈線文13条が観察される。

S X 1040・S X 1041 (第507～509図)

S X 1040は4区北西端、環濠外側に位置する落ち込みである。落ち込みS X 1041・S X 1038・S X 1026・S X 1039と重複し、削平を受ける。北部は調査区外に連続し、全体は不明である。平面形は円形ないし楕円形を呈し、長軸7.6m以上、短軸5m前後、深さ0.1mを測る。S X 1041は4区北西端、環濠外側に位置する落ち込みである。落ち込みS X 1040・S X 1026と重複し、削平している。西部は排水用側溝に削平され、不明であるが、平面形は楕円形を呈し、長軸5.4m前後、短軸2.5m前後、深さ0.1m前後を測ると推定される。S X 1040・S X 1041からの出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、S X 1040からは壺・甕が出土した。2243は壺の口頸部で、ヘラ描沈線文を現存で3条施す。2245はヘラ描沈線文を8条施す。2246・2247は逆L字口縁の甕で、2246は摩滅しているが、ヘラ描沈線文を現存で12条施す。S X 1041からは甕・蓋、石鍬が出土した。

S X 1042 (第510図, 図版31)

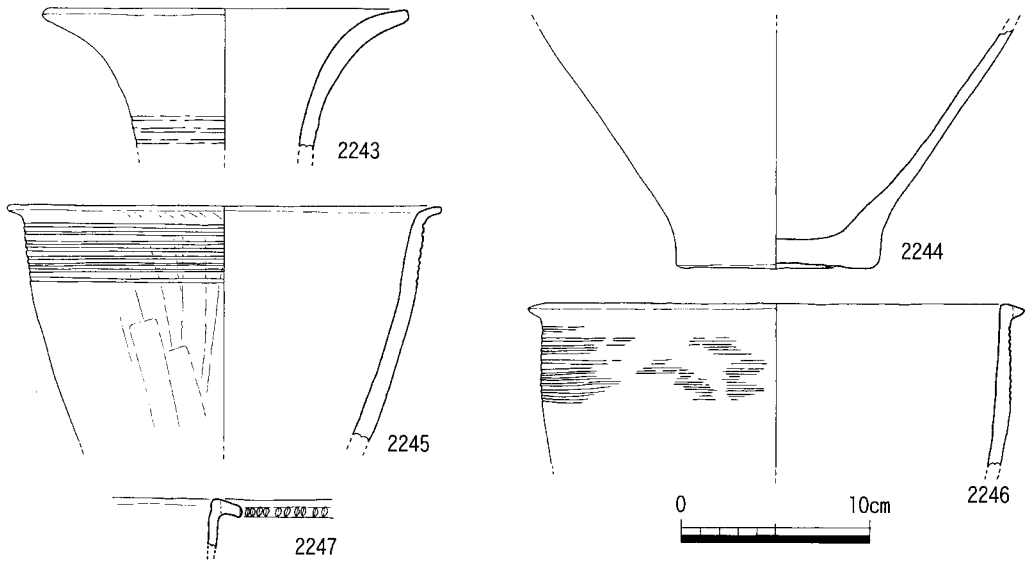
4区北部、環濠外側に位置する落ち込みである。落ち込みS X 1044と重複する。平面形はほぼ円形を呈し、径3.2m前後を測る。断面形は浅い皿状を呈し、北部の壁の立ち上がりは緩やかである。底面は凸凹が顕著で、東西断面の土層堆積状況から、2基の小形の皿状の落ち込みが重複している可能性が高い。中央部には2個の小穴(径0.2～0.3m、深さ0.1m)が検出されたが、浅いことから柱穴ではないものと考えられる。出土遺物は整理用コンテ



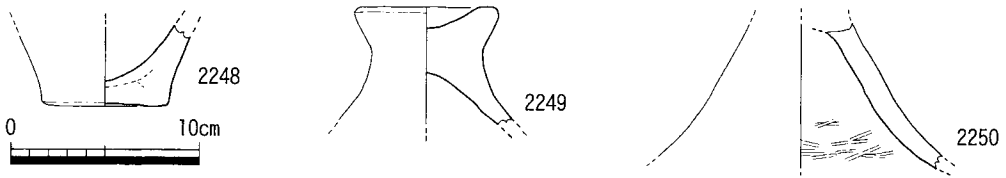
- |                         |                   |
|-------------------------|-------------------|
| 1. 暗褐色粗砂混じり粘質土 (炭化物を含む) | 6. 明褐色粗砂混じり砂質土    |
| 2. 暗灰色粗砂                | 7. 褐色砂質土          |
| 3. 暗褐色粘質土               | 8. 褐色粘質土          |
| 4. 暗褐色粘質土 (炭化物を含む)      | 9. 暗褐色粘質土         |
| 5. 黒褐色砂質土 (炭化物を多量に含む)   | 10. 褐色弱粘質土 (8と類似) |



第507図 S X 1040・S X 1041平・断面図 (1/50)



第508図 S X 1040出土土器 (1/4)



第509図 S X 1041出土土器 (1/4)

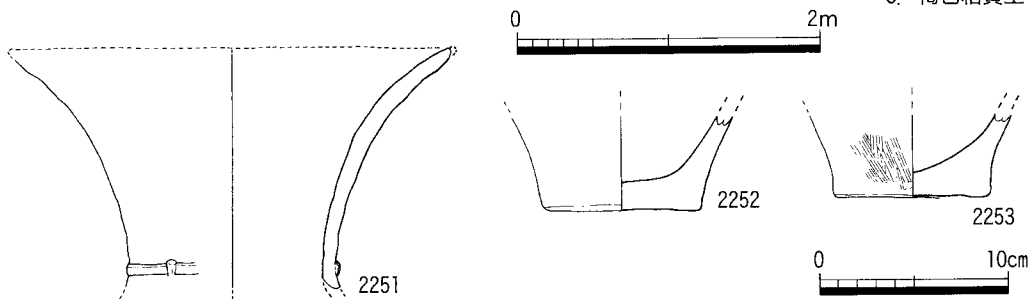
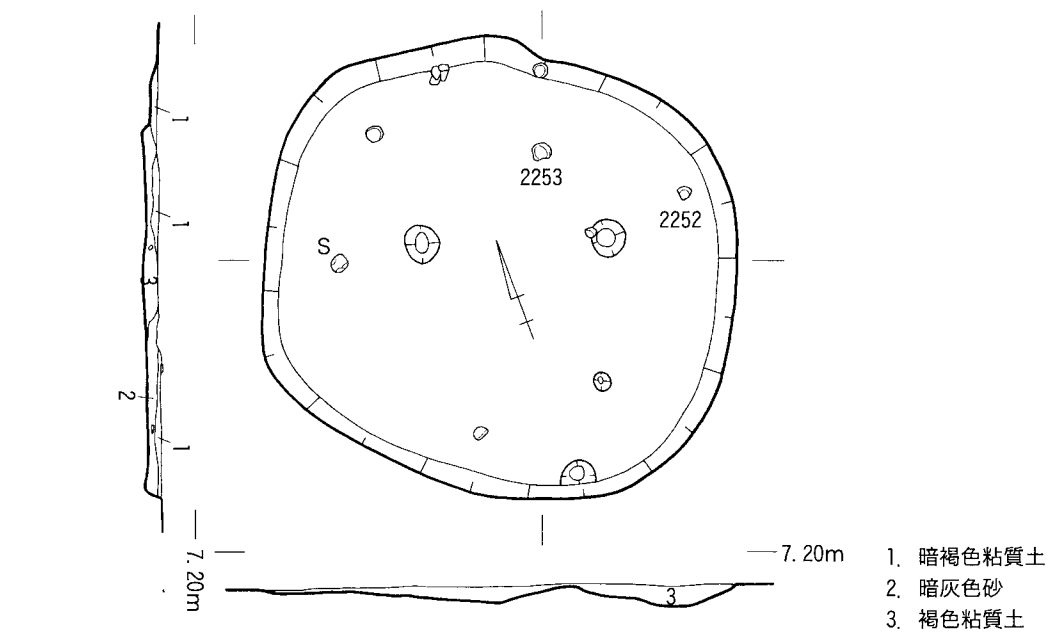
ナ2箱程度で、壺・甕等がみられる。2251は壺の口頸部片で、頸部には貼付突帯を現存で1条施した後、棒状浮文を貼り付ける。

S X 1043 (第511図, 図版31)

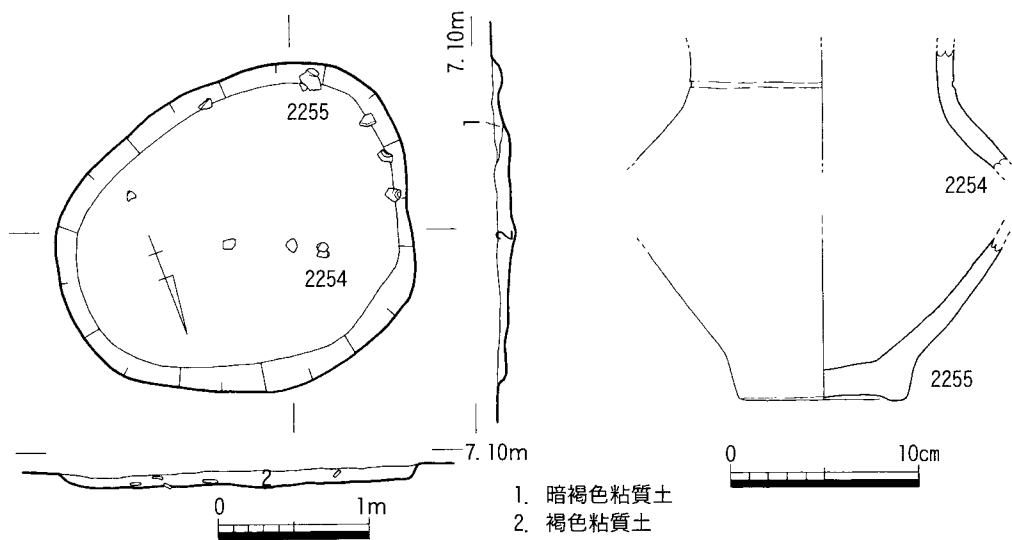
4区北部, 環濠外側に位置する落ち込みである。落ち込みS X 1044と重複する。平面形はややいびつな楕円形を呈し, 長軸2.4m, 短軸2.2mを測る。壁の立ち上がりの形状は一樣ではなく, 底面も平坦ではない。深さ0.1m前後を測る。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で, 壺, 石鍬がみられる。2254は頸部にヘラ描沈線文を現存で1条施す。

S X 1044 (第512・513図, 図版31)

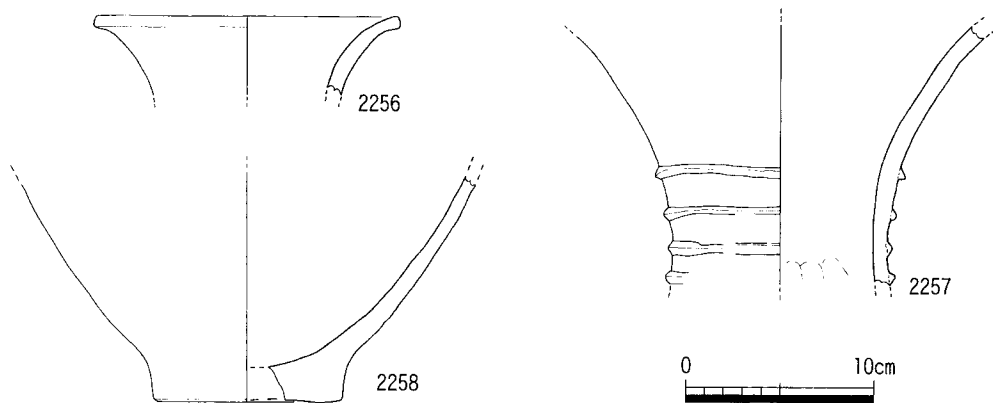
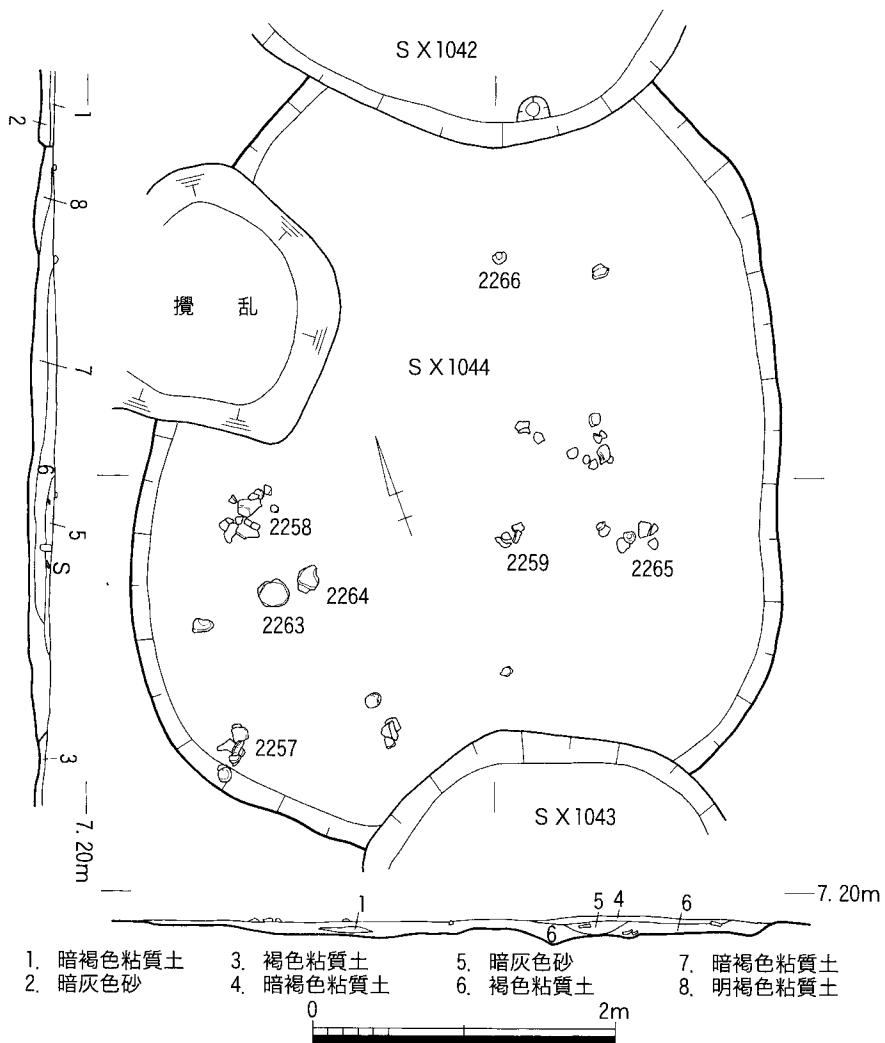
4区北部, 環濠外側に位置する落ち込みである。落ち込みS X 1042・S X 1043と重複する。平面形はややいびつな楕円形を呈し, 長軸5.4m前後, 短軸4.6mを測る。断面形は浅い皿状を呈し, 壁の立ち上がりは極めて緩やかで, 底面は凸凹が顕著である。深さ0.1~0.2mを測る。出土遺物は整理用コンテナ3箱程度で, 壺・甕・蓋・円盤状土製品, 石包丁未製



第510図 S X 1042平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

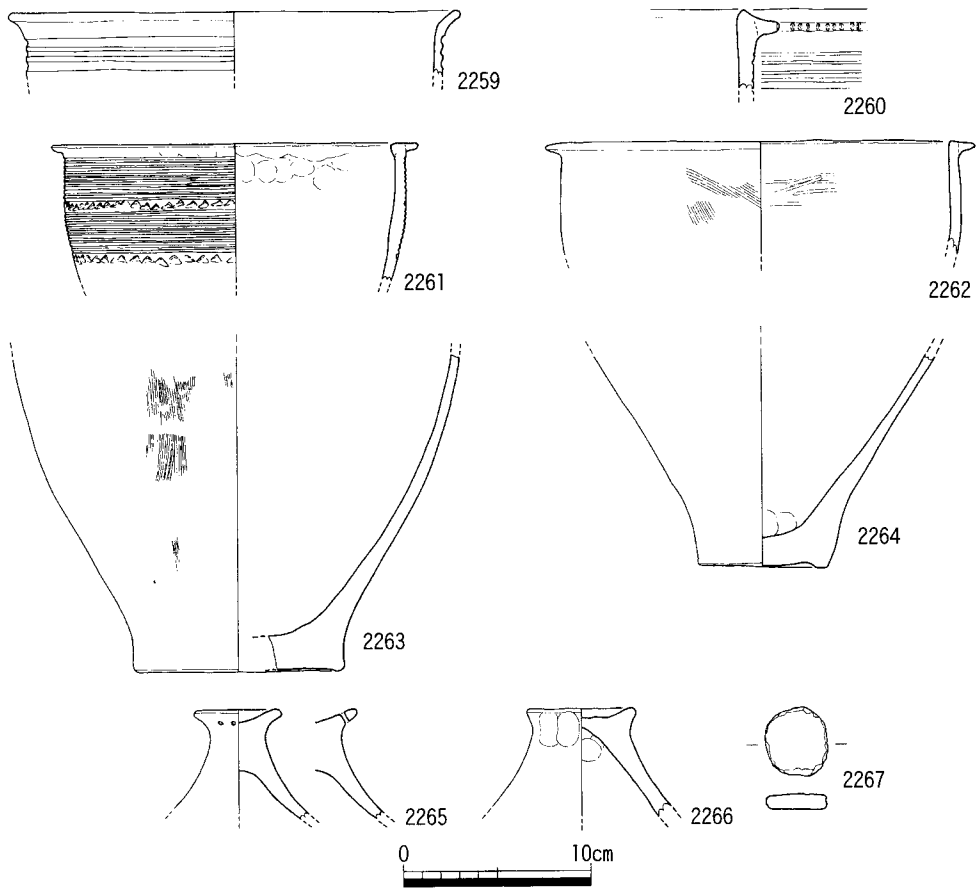


第511図 S X 1043平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



第512図 S X 1044平・断面図 (1/50), 出土土器 1 (1/4)



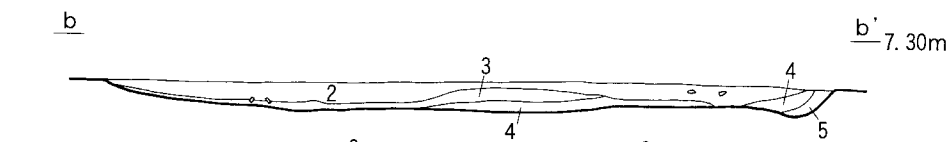
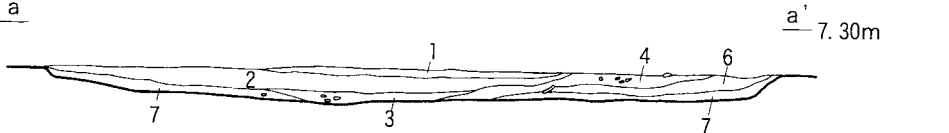
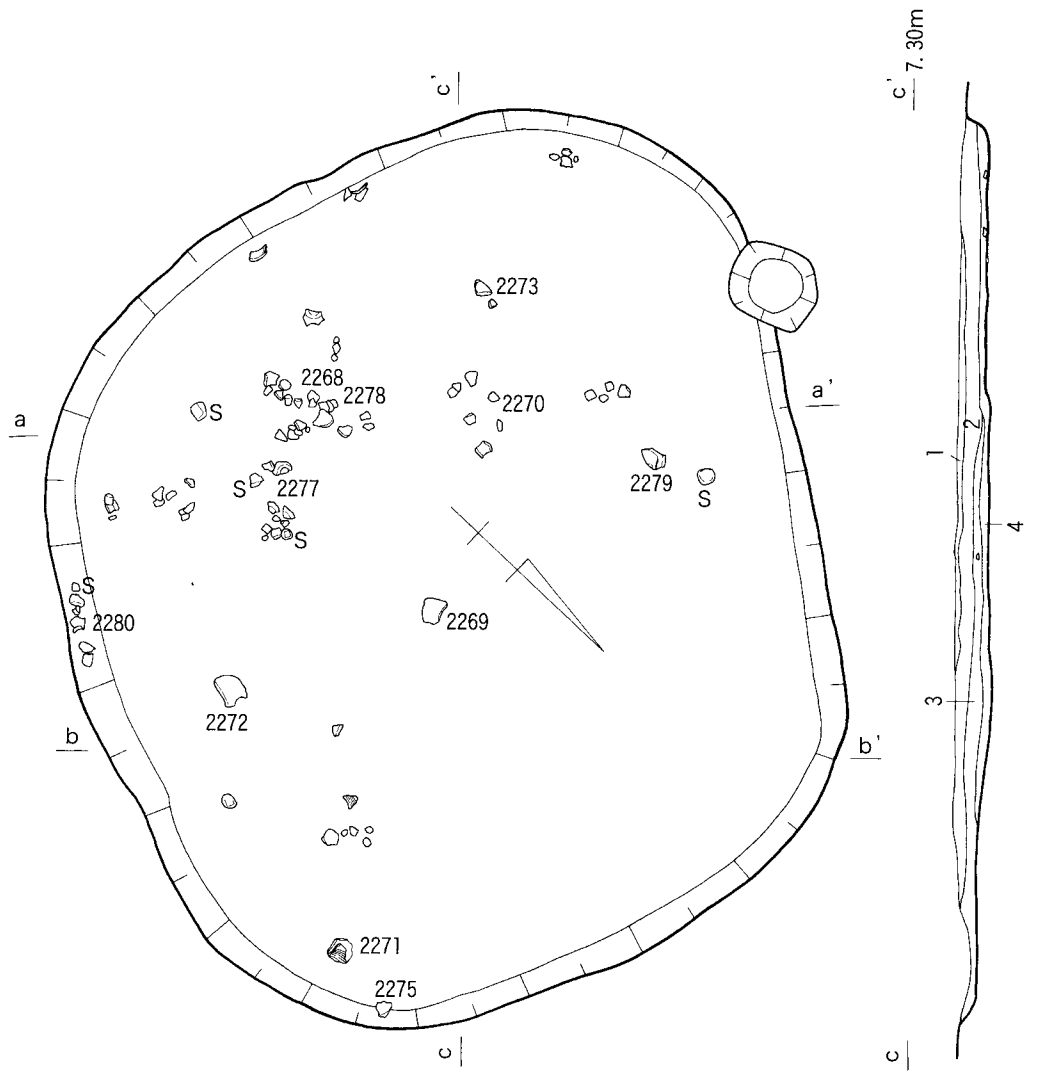


第513図 S X1044出土土器 2 (1/4)

品・石鋏がみられる。2257は壺の頸部片で、貼付突帯を現存で4条施す。2259～2264は甕で、2259は如意状口縁を呈し、ヘラ描沈線文を現存で3条施す。2260～2262は逆L字口縁の甕で、2260はヘラ描沈線文を現存で3条、2261はヘラ描沈線文と三角形刺突文を施す。2265は蓋で、天井部から体部に向けて円孔を2個施す。2267は円盤状土製品で、土器片を再利用し、周囲を打ち欠いて整形したものである。

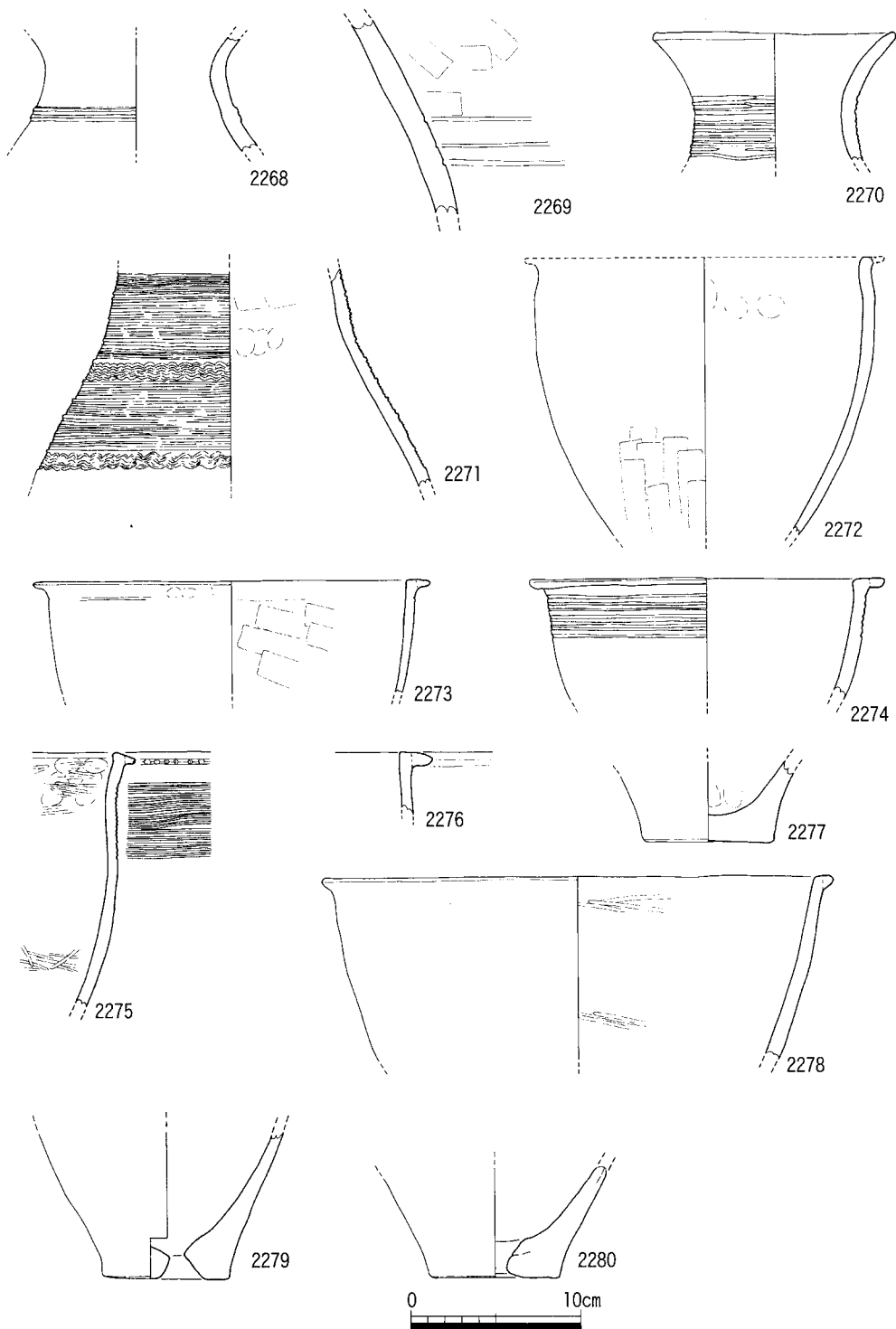
S X1045 (第514・515図, 図版31・32)

4区北部、環濠外側に位置する落ち込みである。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸6.0m、短軸5.0mを測る。底面は凸凹が顕著で、深さ0.1～0.2mを測る。出土遺物は整理用コンテナ2箱程度で、壺・甕・鉢・甗、石鋏・打製石斧がみられる。2268は壺の頸部で、削出突帯第Ⅱ種で、突帯間の沈線を1条施す。2269は大型壺の体部片である。体部にはヘラ描沈線文を現存で3条施す。2270は壺の口頸部である。頸部にはヘラ描沈線文を現

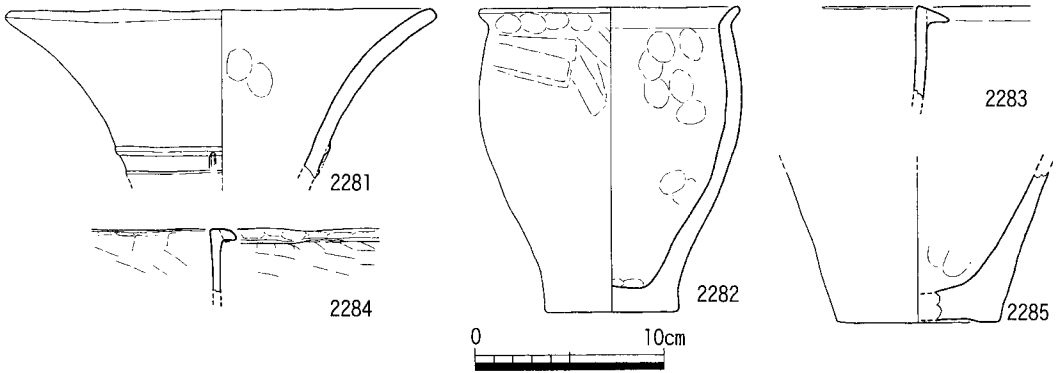
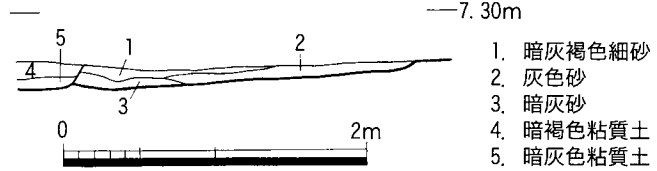
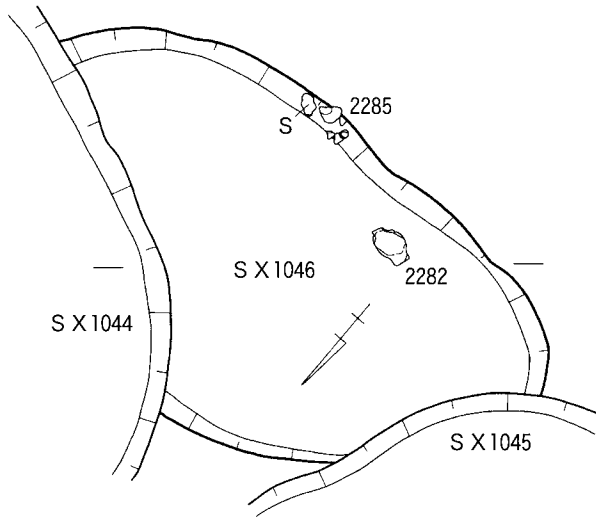


- 1. 褐色粗砂混じり粘質土
- 2. 暗褐色粘質土
- 3. 暗灰色砂
- 4. 暗灰色粘質土 (炭化物粒を含む)
- 5. 暗灰褐色粗砂
- 6. 褐色粘質土 (炭化物粒を含む)
- 7. 灰色砂

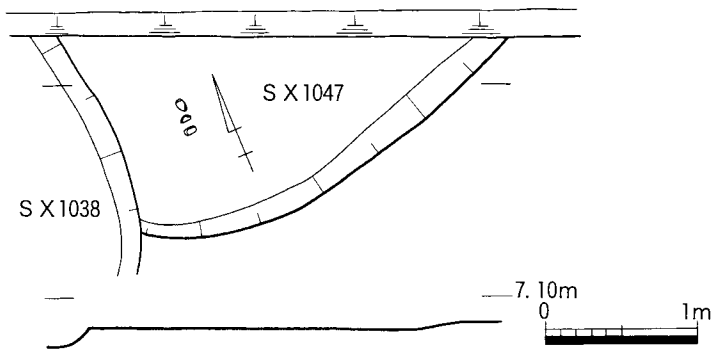
第514図 S X 1045平・断面図 (1/50)



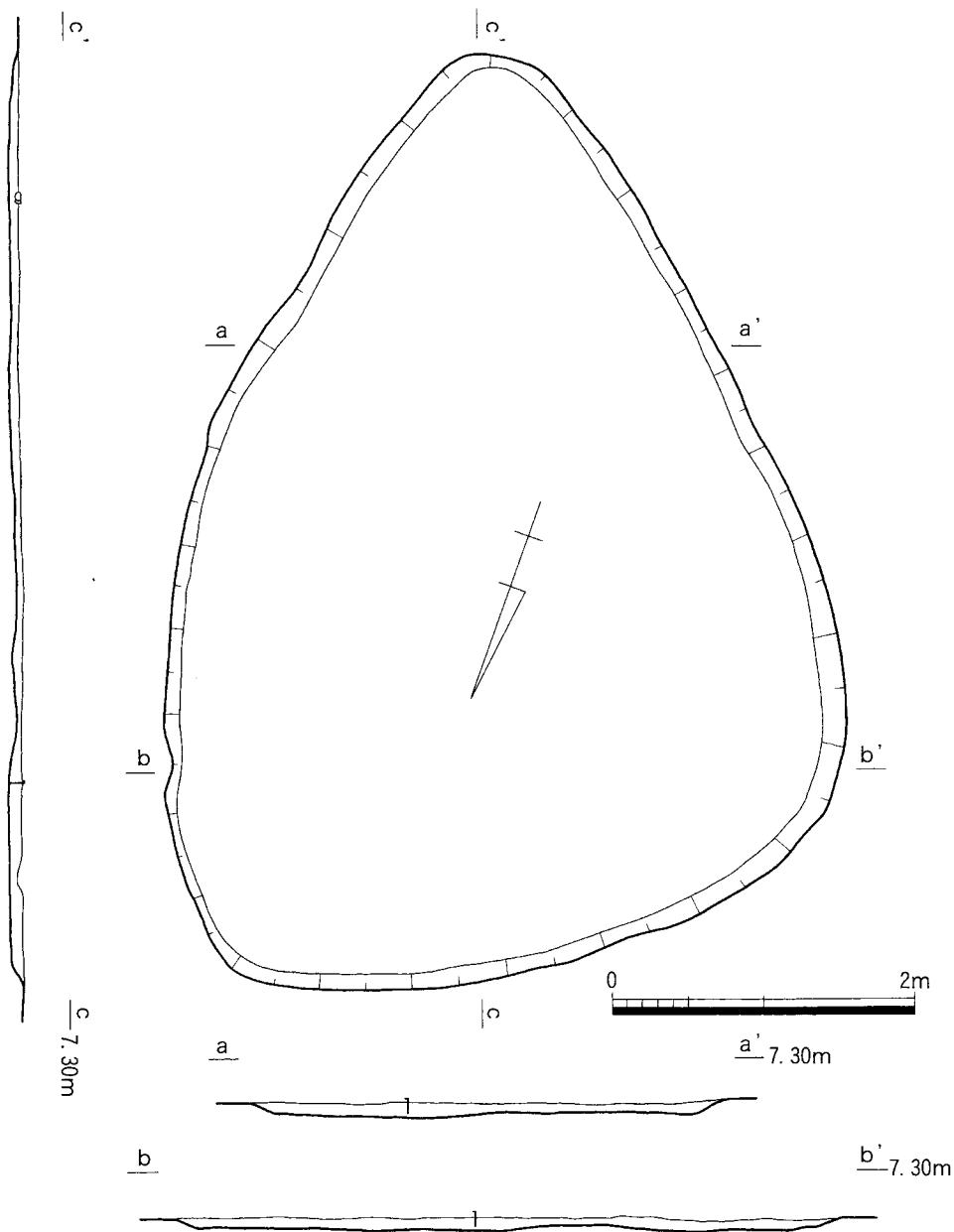
第515図 S X1045出土土器 (1/4)



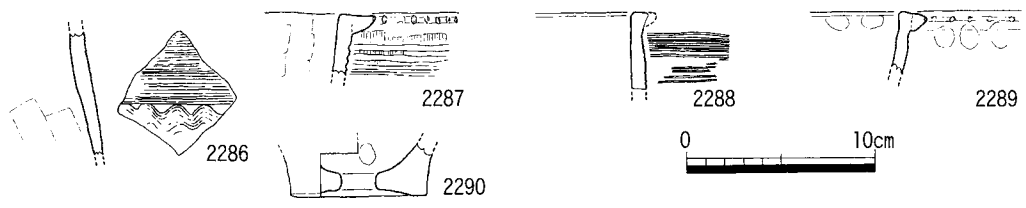
第516図 S X 1046平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)



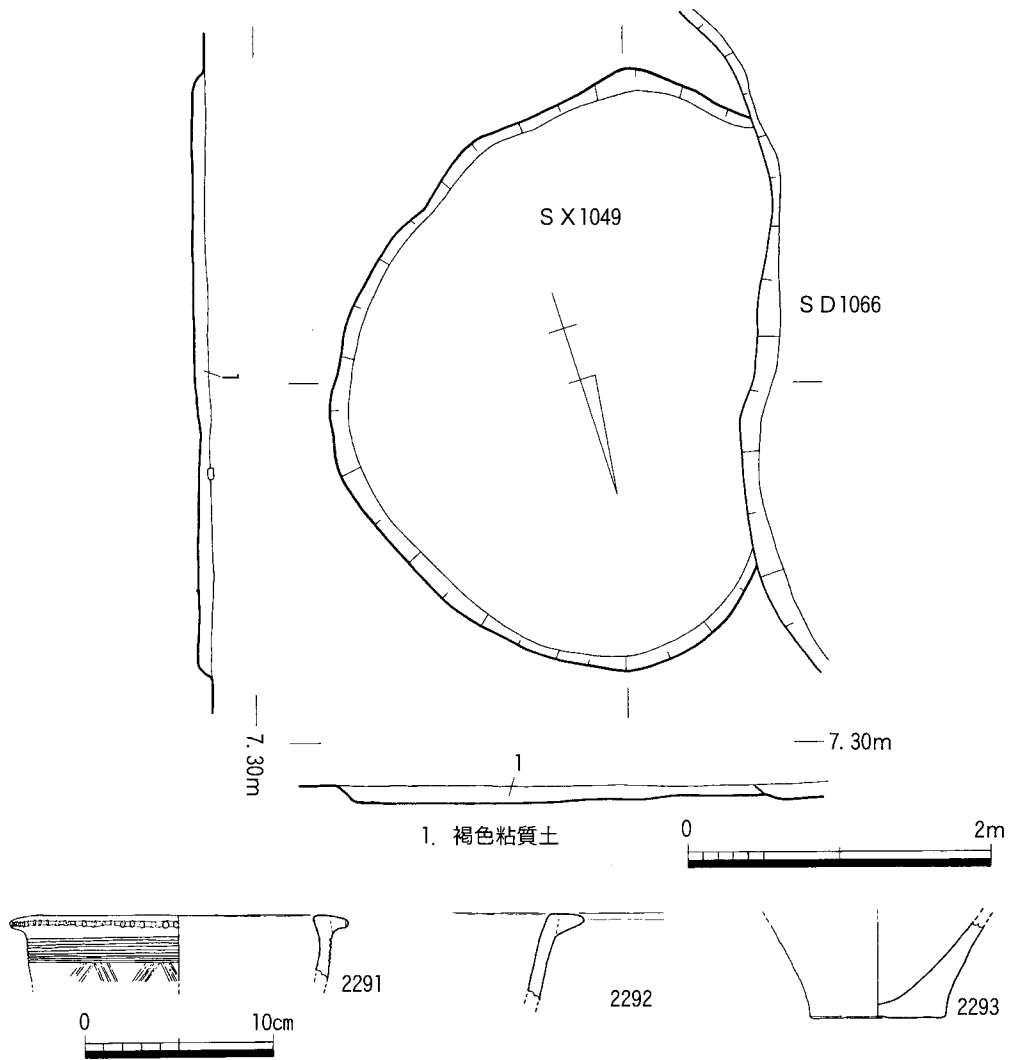
第517図 S X 1047平・断面図 (1/50)



1. 暗灰褐色砂質土



第518图 S X 1048平·断面图 (1/50), 出土土器 (1/4)

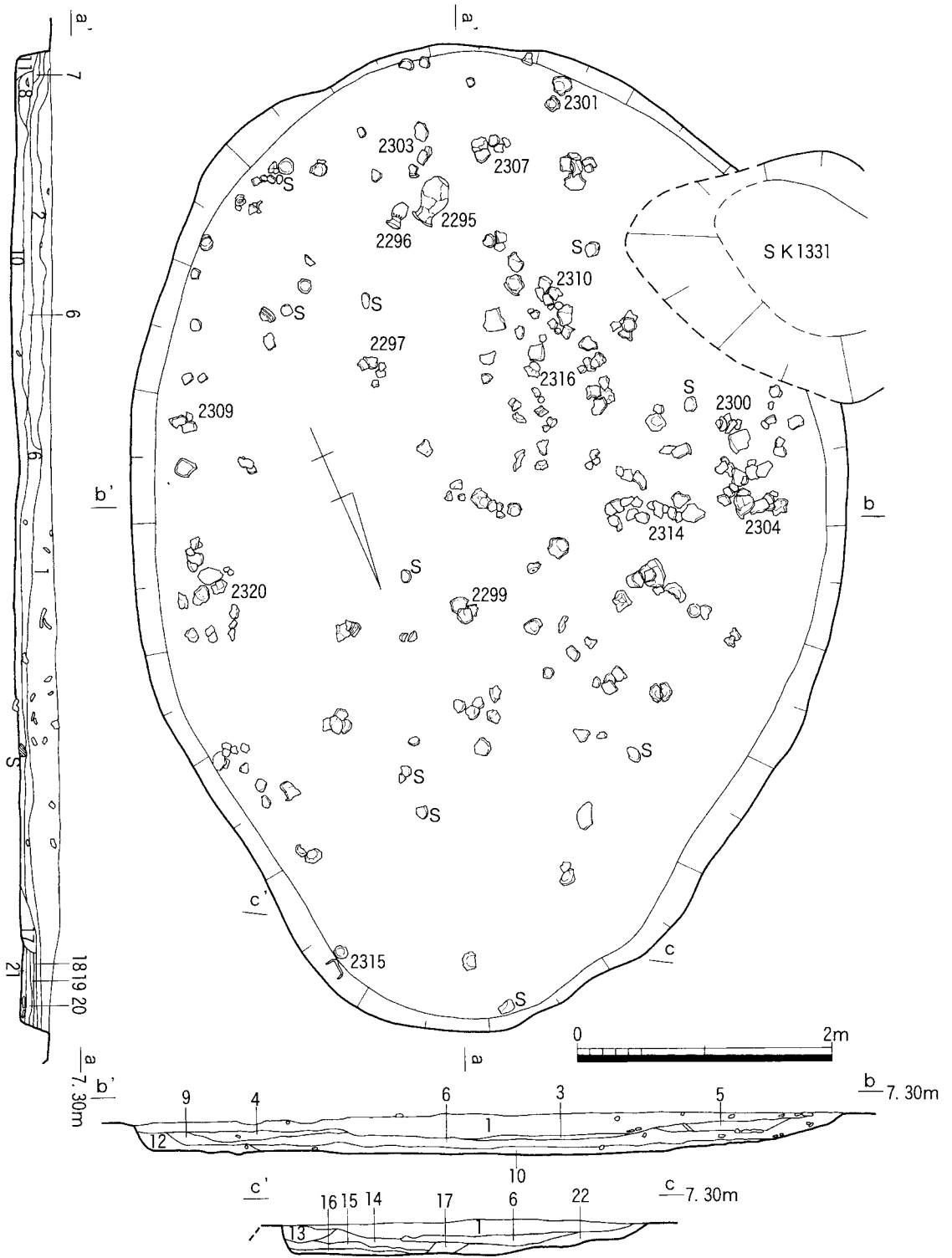


第519図 S X 1049平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

存で10条施す。2271は壺の頸部から体部片で、櫛描直線文と櫛描波状文を外面に施す。2273～2276は逆L字口縁の甕である。2273は口縁部下に沈線状の工具痕がみられる。2274はヘラ描沈線文を7条施す。2275は櫛描直線文を18条施す。

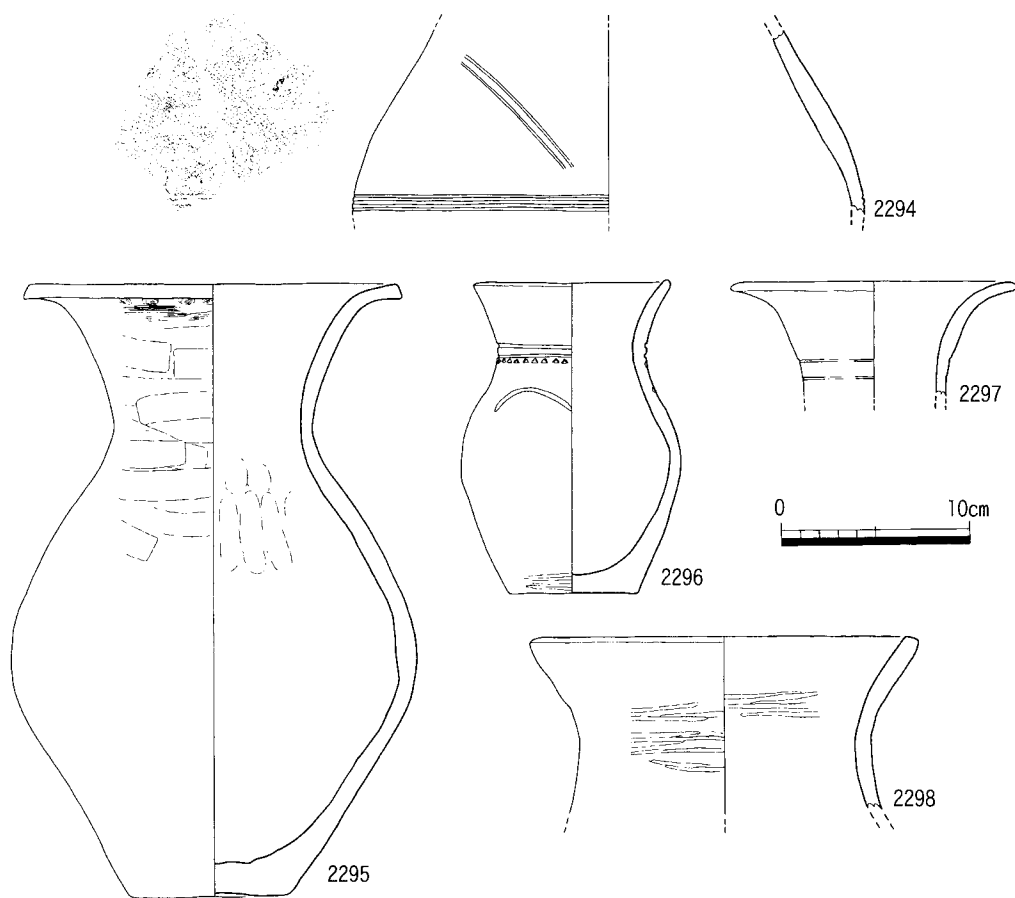
#### S X 1046 (第516図)

4区北部、環濠外側に位置する落ち込みである。落ち込みS X 1045・S X 1044と重複する。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸4.0m前後、短軸2.2mを測ると推定される。底面は凸凹が顕著で、深さ0.1～0.2mを測る。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、壺・甕、石包丁未製品がみられる。2281は壺の口頸部で、貼付突帯を施した後で、棒状浮文



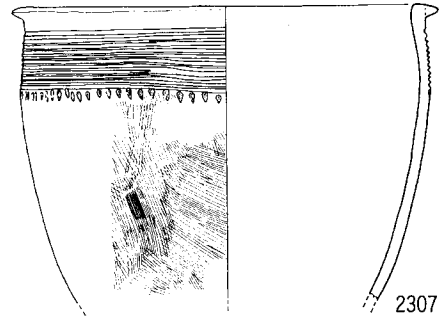
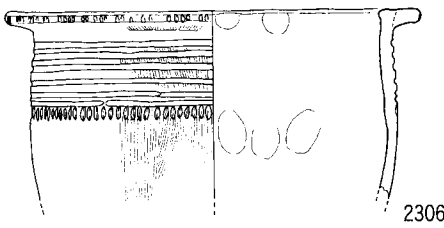
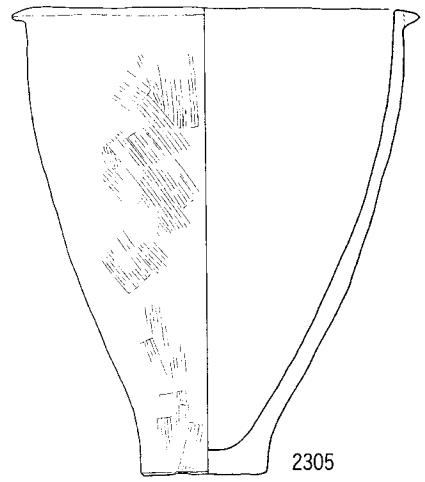
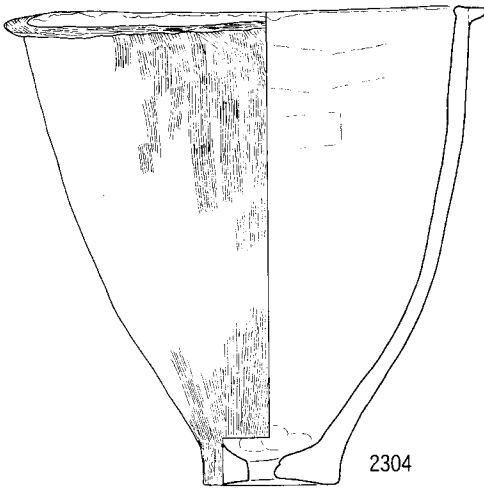
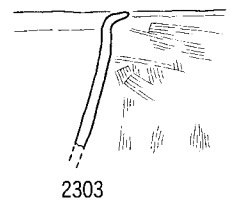
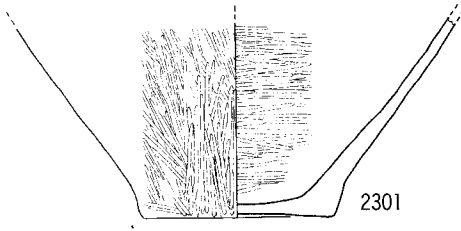
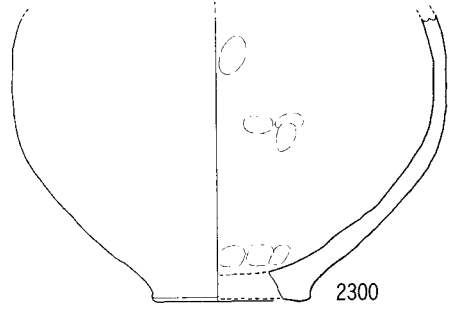
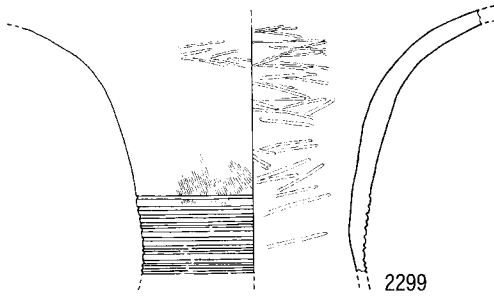
第520図 S X 1050平・断面図 (1/50)

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1. 黒灰色粗砂（炭化物を少量含む）   | 12. 暗黄褐色砂質土          |
| 2. 褐色砂               | 13. 淡灰褐色粗砂           |
| 3. 暗灰色細砂             | 14. 黒灰色粘土（炭化物を多量に含む） |
| 4. 黒灰色粗砂混じり細砂        | 15. 淡灰褐色砂            |
| 5. 淡灰褐色粗砂            | 16. 暗灰褐色砂            |
| 6. 黒灰色細砂             | 17. 暗灰色砂             |
| 7. 褐色砂               | 18. 暗褐色粘質土（炭化物を含む）   |
| 8. 黒灰色砂混じり砂          | 19. 褐色粗砂             |
| 9. 暗黄色砂（炭化物を少量含む）    | 20. 黒灰色粘土（炭化物を多量に含む） |
| 10. 黒灰色粘土（炭化物を多量に含む） | 21. 暗灰褐色砂            |
| 11. 褐色細砂             | 22. 黒灰色細砂混じり粘土       |

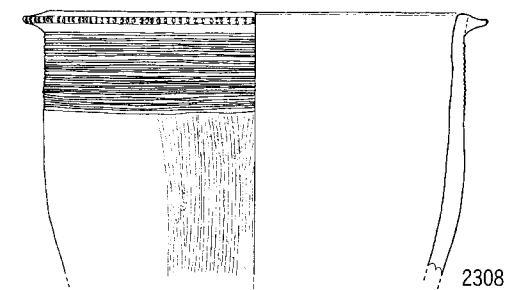


第521図 S X 1050出土土器 1 (1/4)

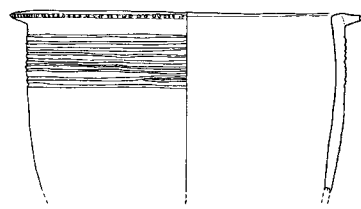




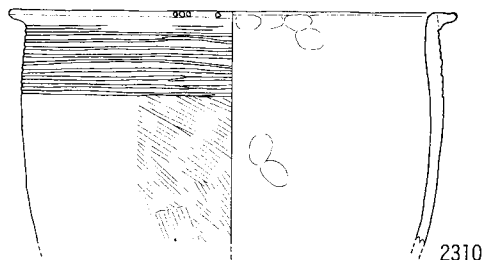
第522図 S X 1050出土土器 2 (1/4)



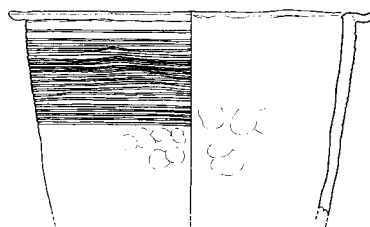
2308



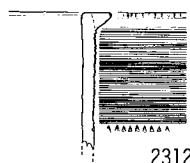
2309



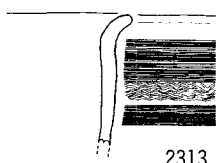
2310



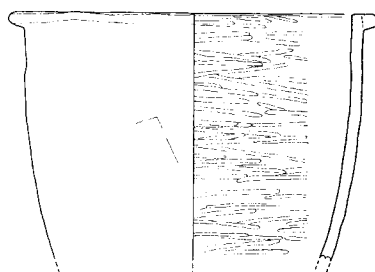
2311



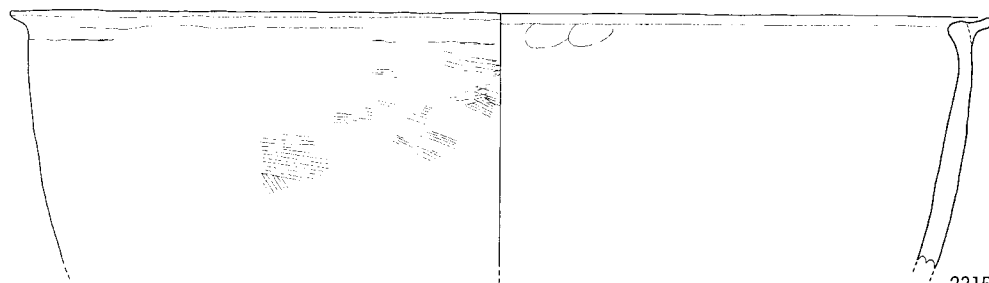
2312



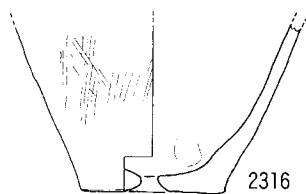
2313



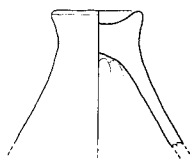
2314



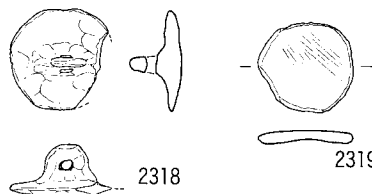
2315



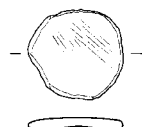
2316



2317



2318



2319



第523図 S X 1050出土土器 3 (1/4)



第524図 S X 1050出土土器 4 (1/6)

を貼り付ける。2282～2285は甕で、2283・2284は逆L字口縁を呈する。

S X 1047 (第517図)

4区北端、環濠外側に位置する落ち込みである。落ち込みS X 1038と重複する。北部は調査区外に連続するため、全体は不明である。平面形は不明であるが、長軸3.0m以上、短軸1.5m以上、深さ0.1m前後を測ると推定される。出土遺物は少量で、土器片がみられる。

S X 1048 (第518図)

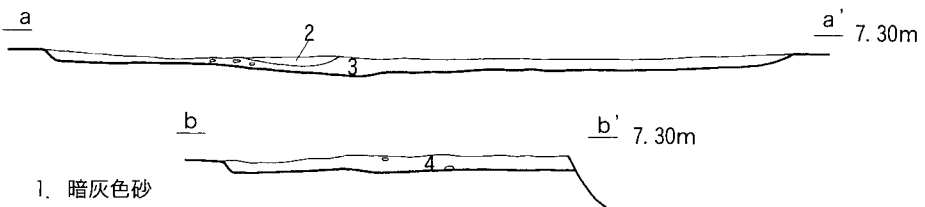
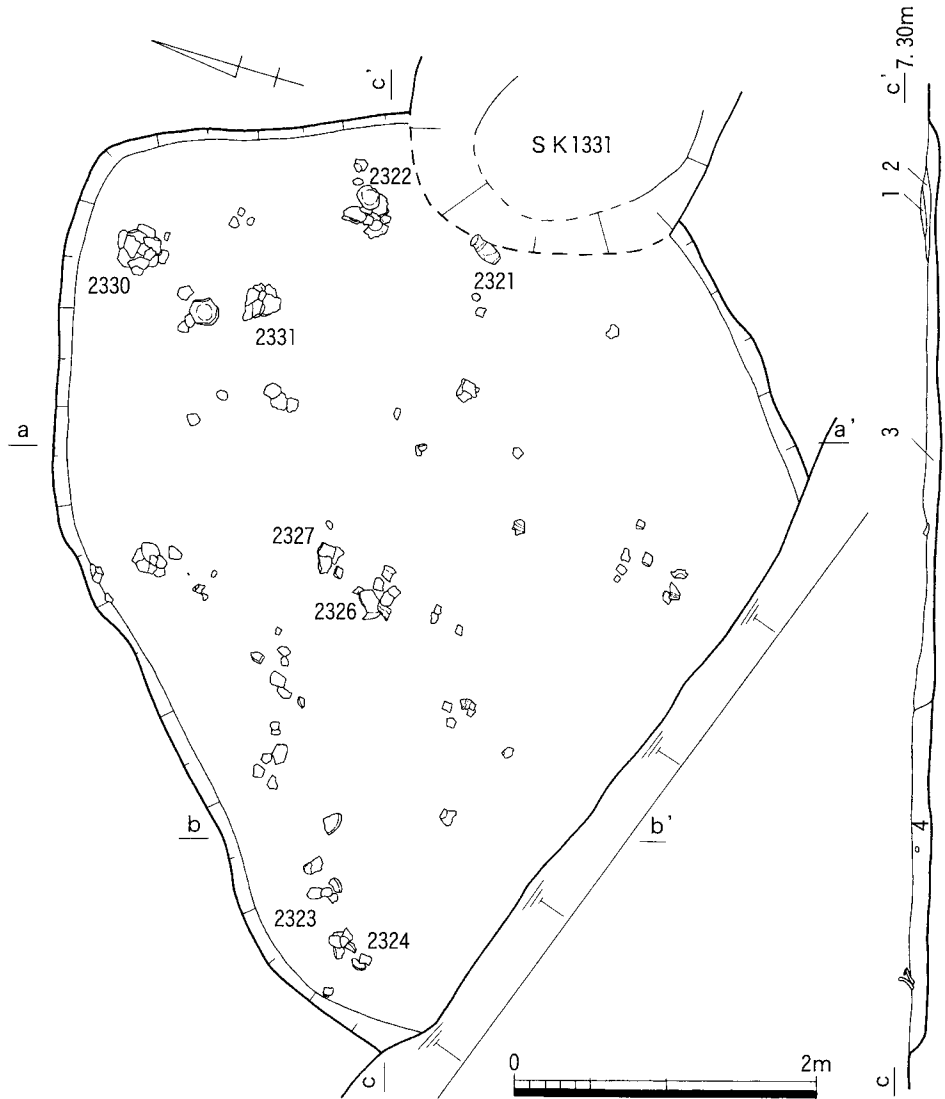
4区北部、環濠外側に位置する落ち込みである。平面形はいびつな隅丸三角形を呈し、長軸6.2m、短軸4.5mを測る。底面は凸凹が顕著で、深さ0.1m前後を測る。出土遺物は少量で、壺・甕・甑、石包丁未製品がみられる。2286は壺片で、櫛描直線文と櫛描波状文を施す。2287～2289は甕片である。2287は逆L字口縁を呈し、ヘラ描沈線文を現存で4条施す。2288は口縁部が剥落するが、逆L字口縁を呈すると考えられる。ヘラ描沈線文を現存で12条施す。

S X 1049 (第519図)

4区中央部やや北西寄り、環濠外側に位置する落ち込みである。溝S D 1066と重複し、削平を受ける。平面形はほぼ楕円形を呈し、長軸3.9m、短軸2.7m以上を測る。底面は凸凹が顕著で、深さ0.1mを測る。出土遺物は少量で、甕、太型蛤刃石斧等がみられる。2291はヘラ描沈線文とヘラ描複線山形文を施す。

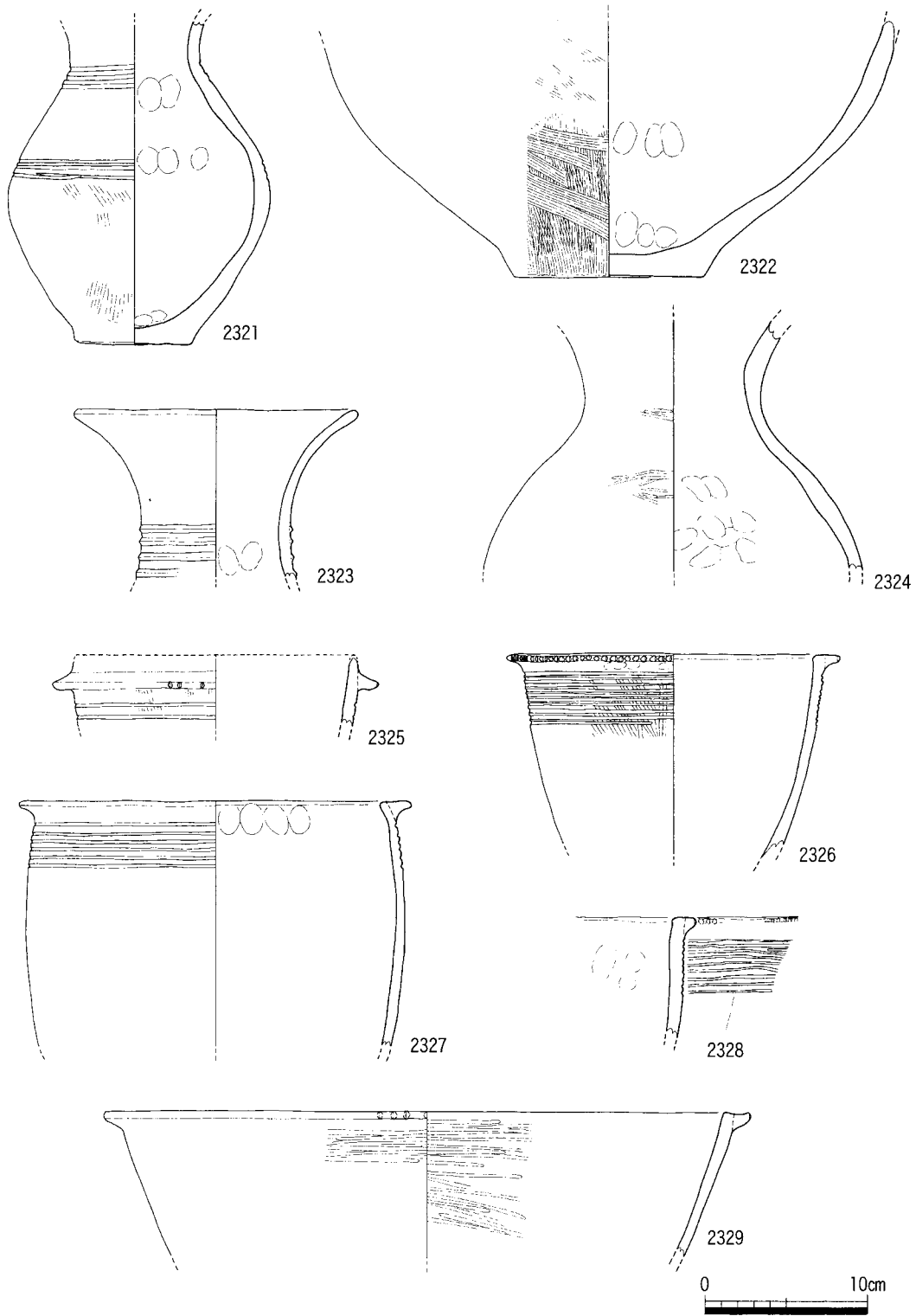
S X 1050 (第520～524図、図版32・33)

4区南東部、環濠外側に位置する落ち込みである。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸7.6m、短軸5.7mを測る。壁の立ち上がりはかなり急な箇所もあるが、なだらかな箇所もあり、一様ではない。底面は比較的平坦であるが、僅かに凸凹がみられ、緩やかに中央部が窪む。埋土上層は主に褐色系粗砂、下層は主に黒灰色系の細砂・粘土である。埋土の堆積状況はS X 1054と類似するが、S X 1054でみられた顕著なラミナ状の堆積はみられない。また、下層は炭粒を多く包含するが、明瞭な炭化物層は形成しない。遺物は多量に出

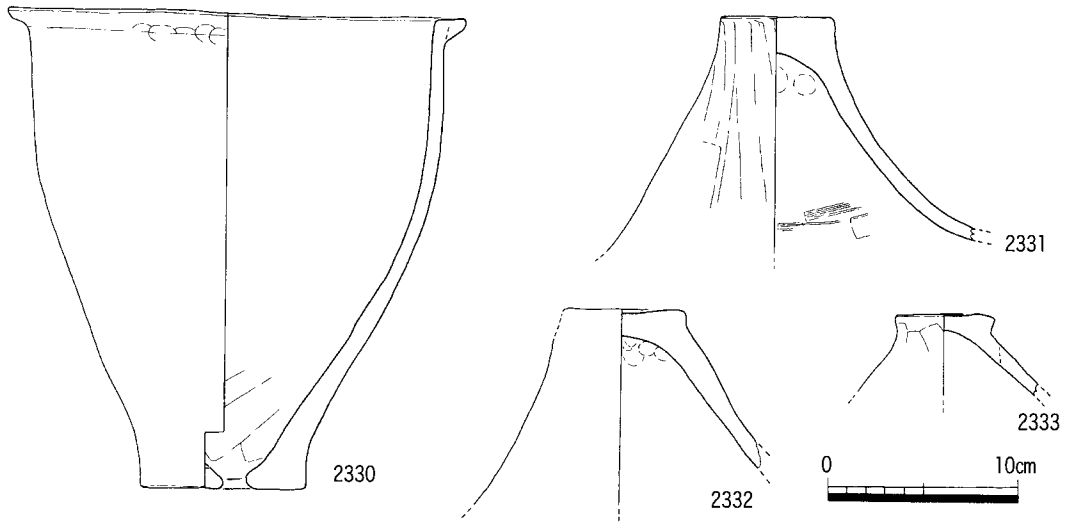


- 1. 暗灰色砂
- 2. 暗灰色粘質土
- 3. 暗灰褐色砂質土 (褐色土ブロックを多量に含む)
- 4. 暗灰褐色砂質土

第525図 S X 1051平・断面図 (1/50)



第526図 S X 1051出土土器 1 (1/4)

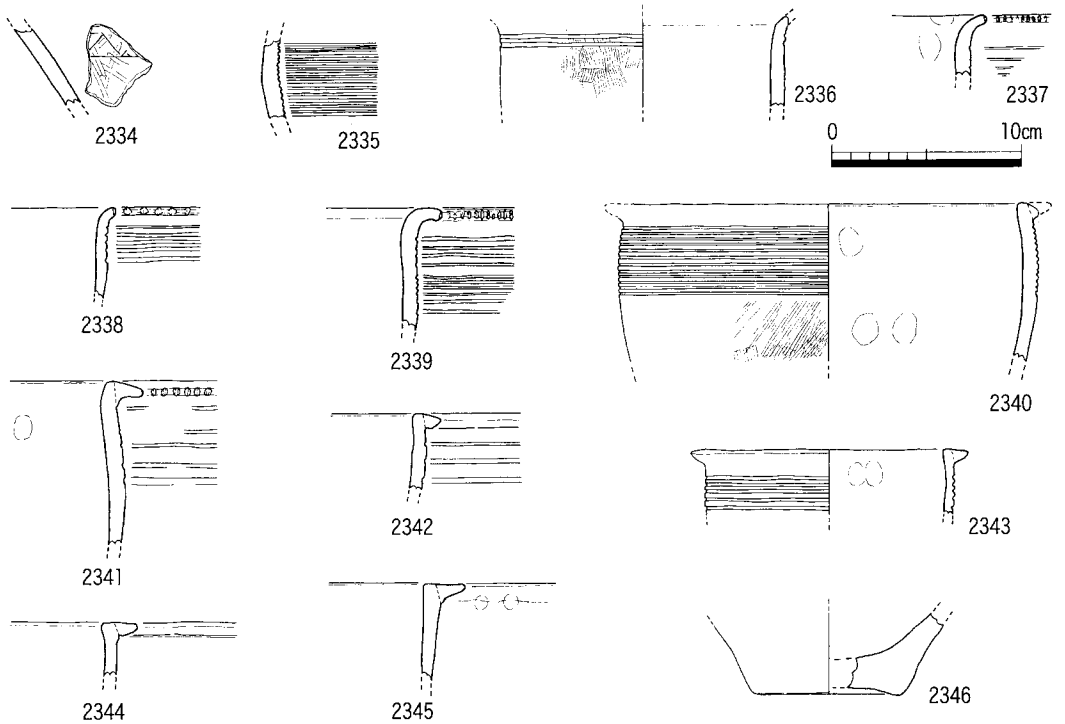
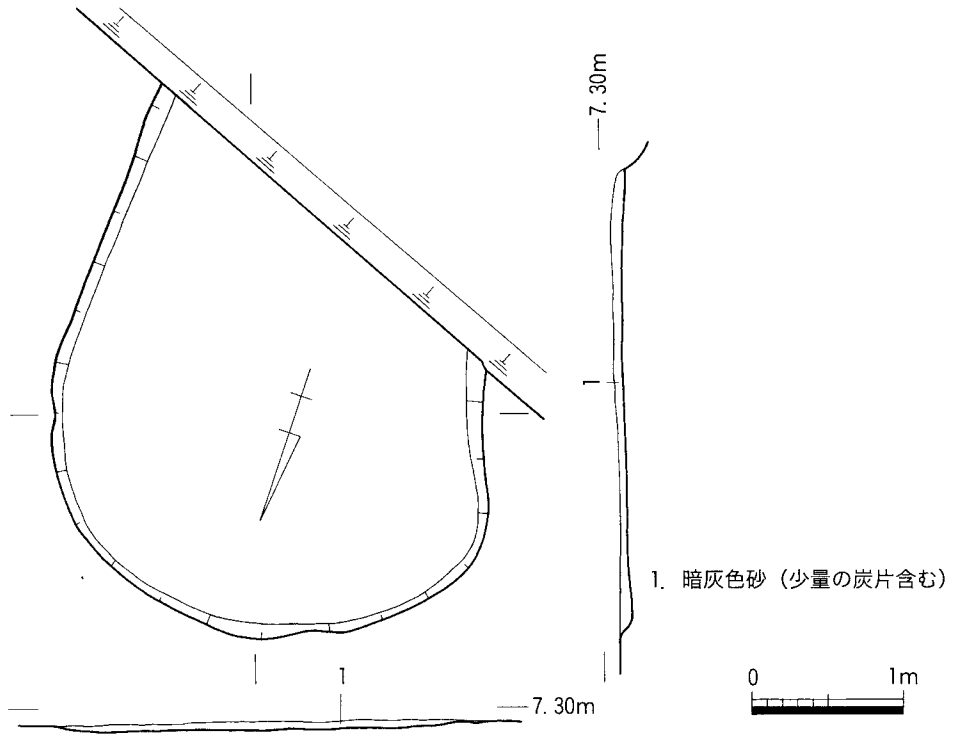


第527図 S X 1051出土土器 2 (1/4)

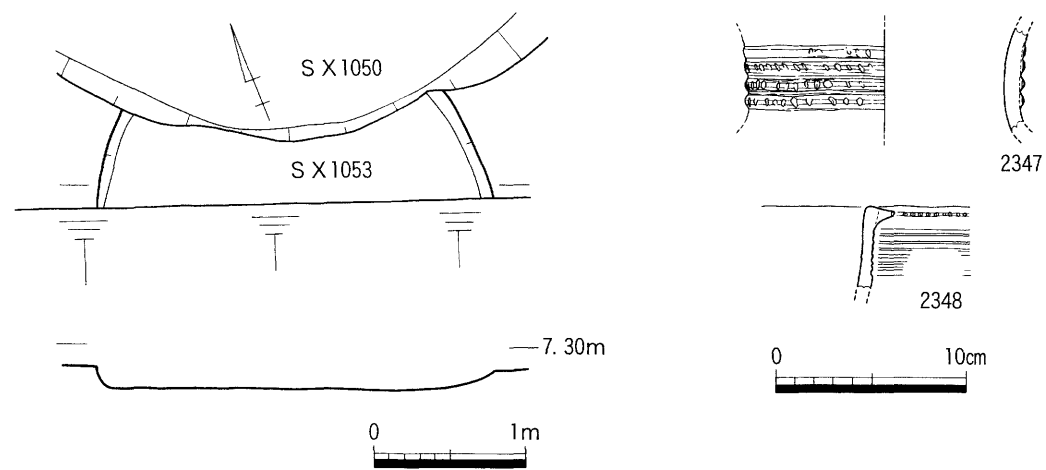
土したが、上層と、下層にまとまり、埋土中位からはあまり出土しなかった。出土遺物は整理用コンテナ17箱程度で、壺・甕・甑・蓋・鉢・ミニチュア土器蓋・円盤状土製品、柱状片刃石斧・石包丁・石皿または砥石・石鍬・石錐・石匙・刃器・打製石斧がみられる。2294～2300・2302は壺である。2294は頸部から体部片で、半截竹管斜線文とその下方にヘラ描沈線文を現存で3条施す。2296は頸部にヘラ描沈線文2条と三角形刺突文、体部にヘラ描円弧文を施す。2297は頸部にヘラ描沈線文を2条施す。2299は頸部にヘラ描沈線文を現存で11条施す。2302は体部片で、櫛描直線文と櫛描波状文を施す。2303・2305～2315は甕である。2305～2312・2314・2315は逆L字口縁の甕である。2305は無文である。2306はヘラ描沈線文6条と刺突文、2307はヘラ描沈線文11条と刺突文、2308はヘラ描沈線文16条、2309はヘラ描沈線文9条、2310はヘラ描沈線文10条、2311はヘラ描沈線文20条、2312は櫛描直線文26条と三角形刺突文を施す。2313は如意状の口縁部を呈し、櫛描直線文と櫛描波状文を施す。2318は蓋であるが、径5.3cmと小さいことから、ミニチュア土器の蓋であろう。2319は土器片を再利用したもので、周囲を打ち欠いて整形したものである。

S X 1051 (第525～527図)

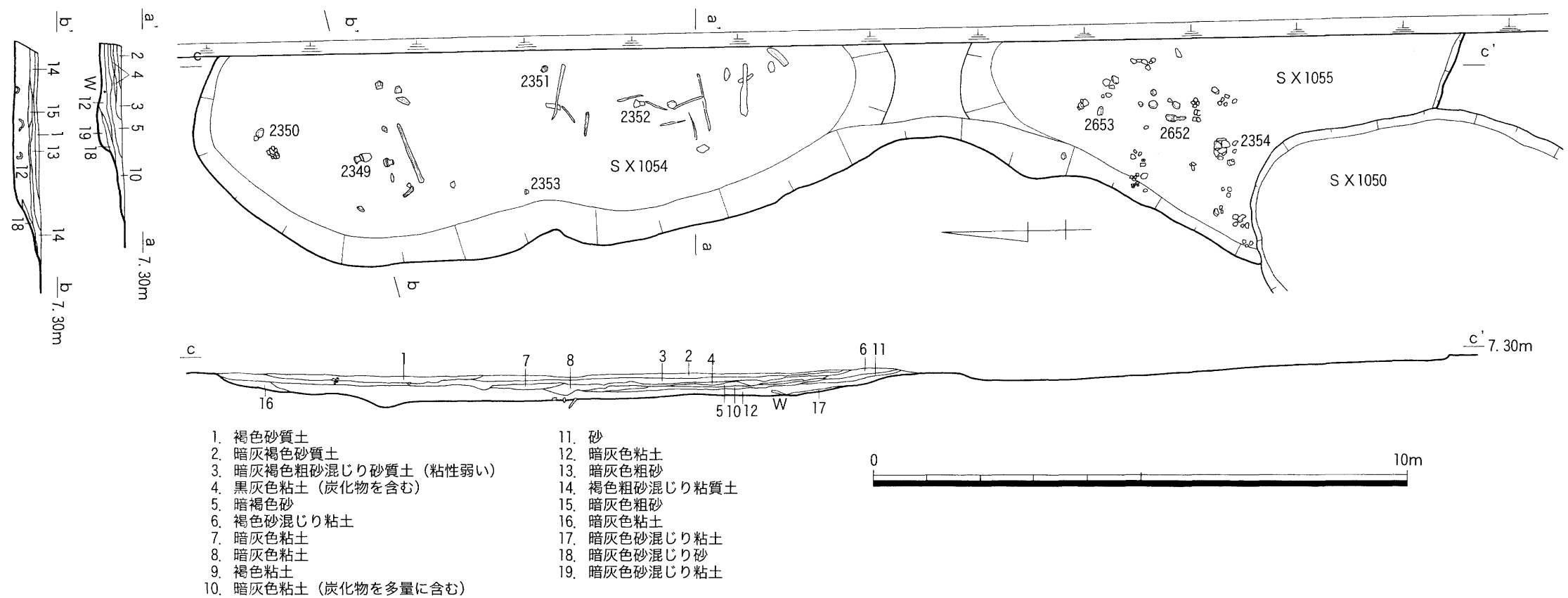
4区南部、環濠外側に位置する落ち込みである。南部は調査区外に連続するため、全体は不明である。平面形はややいびつな楕円形を呈し、長軸6.1m以上、短軸4.8m以上を測ると推定される。底面は平坦ではなく、凸凹がみられ、深さ0.1～0.2mを測る。出土遺物は整理用コンテナ8箱程度で、壺・甕・鉢・甑・蓋、石包丁・石鍬がみられる。2321～2324は



第528図 S X 1052平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

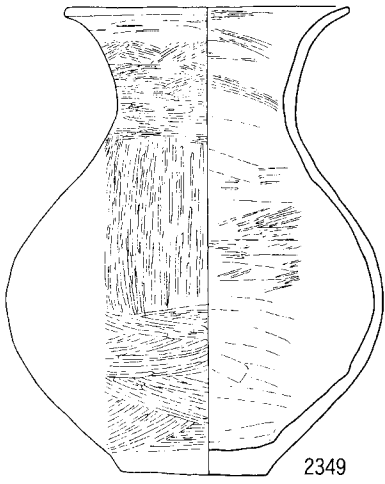


第529図 S X 1053平・断面図 (1/50), 出土土器 (1/4)

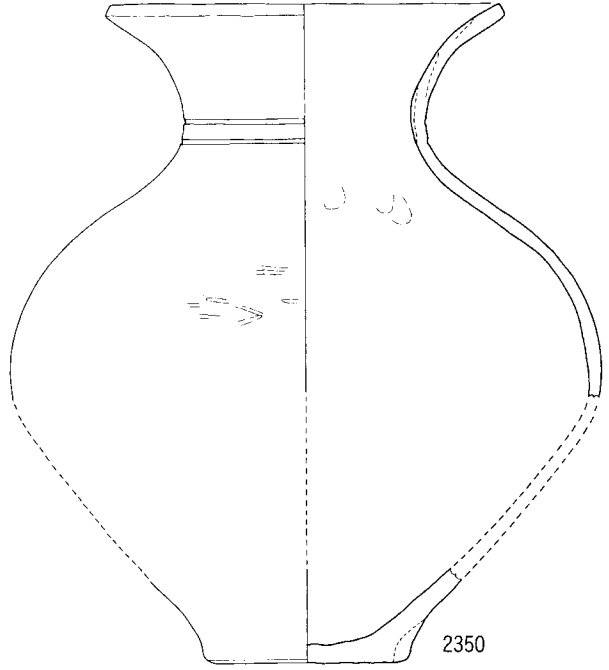


第530図 S X 1054・1055平・断面図 (1/100)

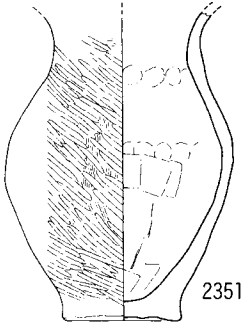




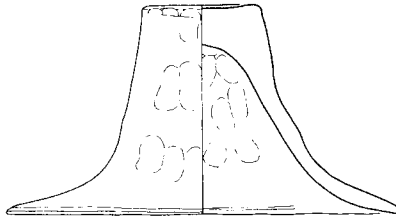
2349



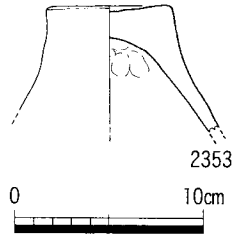
2350



2351



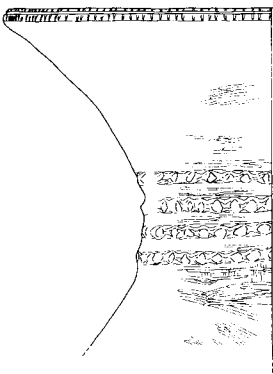
2352



2353



第531图 S X 1054出土土器 (1/4)



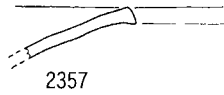
2354



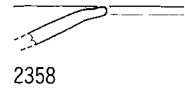
2355



2356



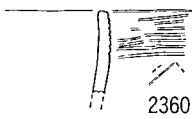
2357



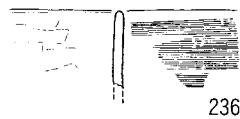
2358



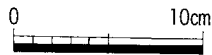
2359



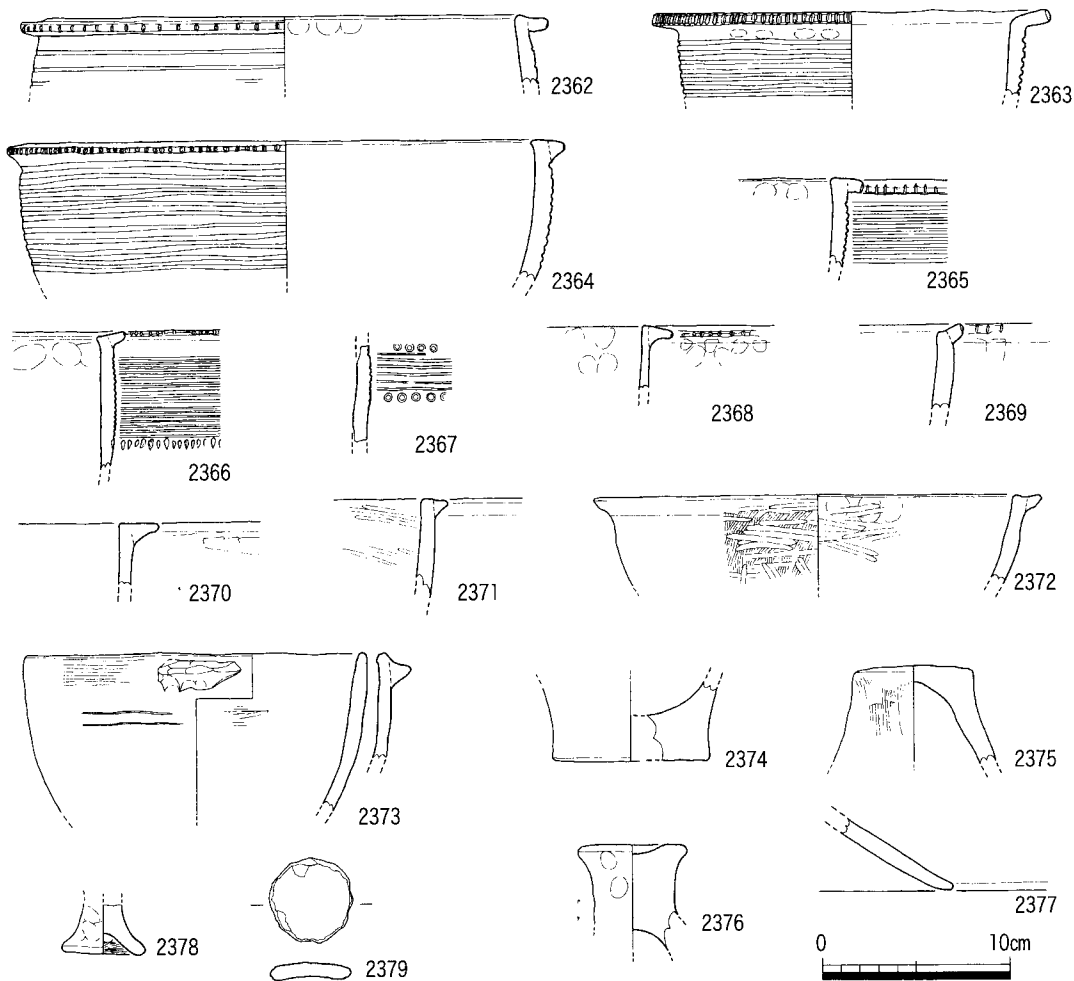
2360



2361



第532图 S X 1055出土土器 1 (1/4)

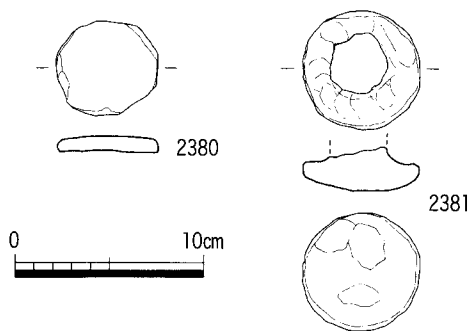


第533図 S X 1055出土土器 2 (1/4)

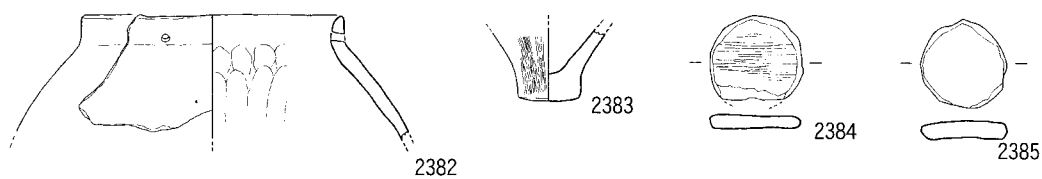
壺である。2321は頸部と体部にヘラ描沈線文を3条ずつ施す。2323は頸部に貼付突帯を現存で4条施す。2325は甕で、口縁端部を欠損するが、口縁端部から少し下がった位置に突帯を貼り付け、突帯の下方にはヘラ描沈線文を現存で2条施す。2326～2328は逆L字口縁の甕である。2326は10条、2327は6条、2328は9条のヘラ描沈線文を施す。

S X 1052 (第528図)

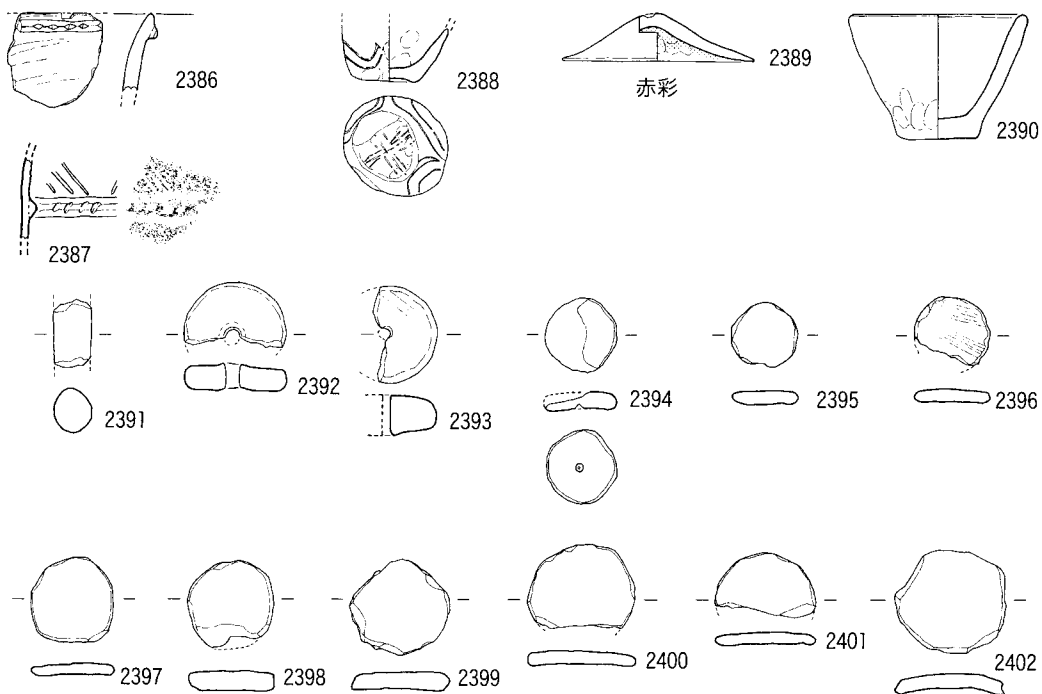
4区南端、環濠外側に位置する落ち込みである。南部は排水用側溝に削平されており、全体は不明である。平面形は舌状を呈し、長軸2.8m以上、短軸2.7mを測ると推定される。断面形は浅い皿状を呈し、深さ0.1mを測る。出土遺物は整理用コンテナ1箱程度で、壺・甕がみられる。2334は壺の頸部から体部片で、ヘラミガキ後、ヘラ描による鋸歯文を施す。



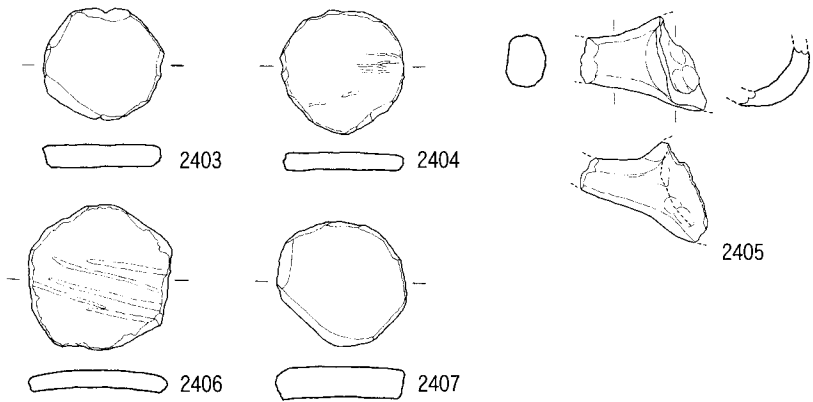
第534図 1区包含層出土土器・土製品 (1/4)



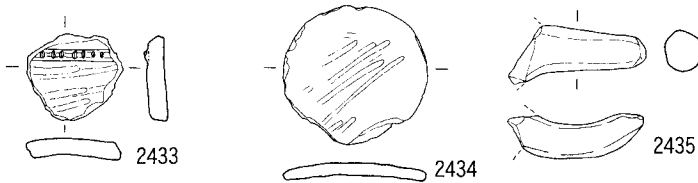
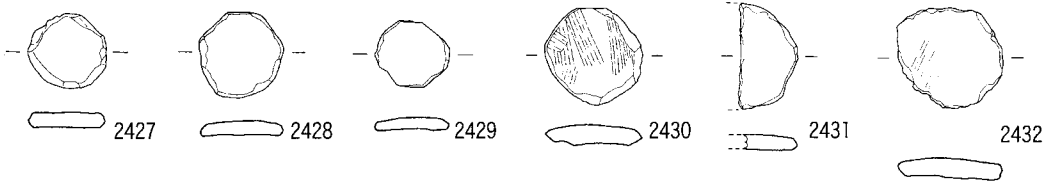
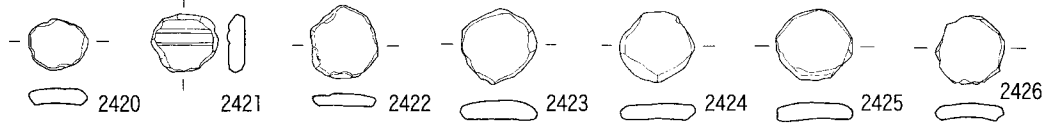
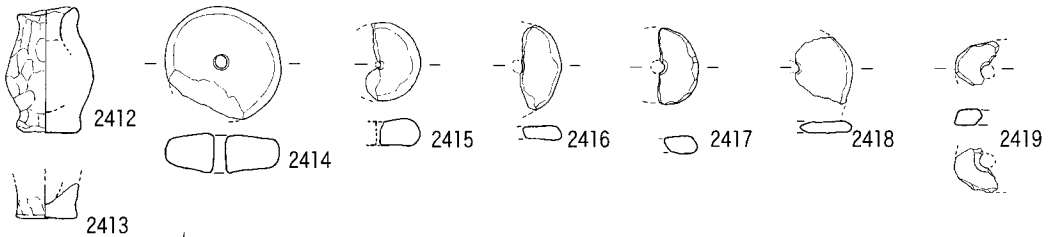
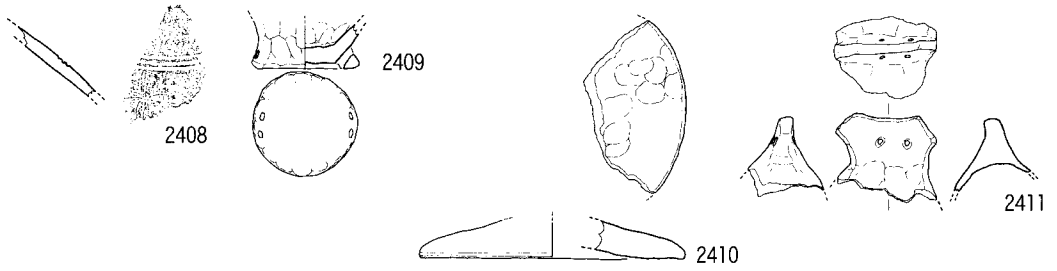
第535図 2区包含層出土土器・土製品 (1/4)



第536図 3区包含層出土土器・土製品 (1/4)



第537图 3区包含層出土土器・土製品 2 (1/4)



第538图 4区包含層出土土器・土製品 (1/4)

2335は壺の頸部片でヘラ描沈線文を現存で14条施す。2336～2346は甕である。2336は口縁部を欠損するが、如意状を呈すると考えられる。外面にはヘラ描沈線文を2条施す。2337は現存で4条、2338は5条、2339は11条のヘラ描沈線文を施す。2340は口縁端部を欠損するが、2340～2345は逆L字口縁の甕である。2340は12条、2341は5条、2342は現存で3条、2343は現存で5条のヘラ描沈線文を施す。

#### S X 1053 (第529図)

4区南東端、環濠外側に位置する落ち込みである。南部は排水用側溝に削平されており、北部は落ち込みS X 1050と重複し、削平されている。平面形は不明であるが、長軸2.6m以上、短軸0.5m以上、深さ0.15mを測る。出土遺物は少量で、壺・甕がみられる。2347は壺の頸部片で、貼付刻目突帯を現存で4条施す。2348は逆L字口縁を呈し、ヘラ描沈線文7条施す。

#### S X 1054・S X 1055 (第530～533図、図版56・57)

4区東端で検出された沼状遺構である。東部・南部は調査区外に連続するため、全体は不明である。発掘調査時には1つの沼状遺構として発掘したが、2つの沼状遺構の可能性が高い。北部のS X 1054は長軸13.1m、短軸3.7m以上、最深部で深さ0.5mを測る。南部のS X 1055は長軸9.2m、短軸4.3m、最深部で深さ0.35mを測る。両遺構からの出土遺物は整理用コンテナ15箱程度である。確実にS X 1054から出土と考えられる遺物には壺・蓋がある。2349～2351は壺である。2350は体部下半を欠損する。頸部にはヘラ描沈線文を2条施す。S X 1055から出土したと考えられる遺物には壺・無頸壺・鉢・甕・蓋・ミニチュア土器高杯がみられる。2354は壺の口頸片で、頸部には貼付刻目突帯を4条施す。2360・2361は鉢で、2360は外面にヘラ描沈線文7条と複線山形文を施す。複線山形文は半截竹管によるものかどうか不明である。2361は櫛描直線文を現存で17条施す。2362～2371は甕である。2367は体部片であることから口縁部の形態は不明であるが、その他は逆L字口縁の甕である。2362は外面に現存3条、2363は現存で7条、2364は11条、2365は現存で9条のヘラ描沈線文を施す。2366は16条のヘラ描沈線文と刺突文を施す。2367は竹管文とヘラ描沈線文を施す。2373は鉢で、把手が付く。把手の下方にはヘラ描沈線文または工具痕が2条みられる。

#### (7) 包含層出土土器 (第534～538図)

包含層からの出土遺物も整理用コンテナ240箱程度あるが、本報告書ではごく一部を掲載するにとどめる。2380・2381は1区からの出土遺物である。2380は円盤状土製品である。

土器片を再利用したもので、周囲を打ち欠いて整形している。2381は不明土製品である。一部欠損しており、全体の形態は不明であるが、現存ではキノコ形を呈する。2382～2385は2区からの出土遺物である。2382は無頸壺である。口縁部に円孔がみられる。2383はミニチュア土器甕である。2384・2385は円盤状土製品で、土器片を再利用し、周囲を打ち欠いて整形したものである。2386～2407は3区からの出土遺物である。2386・2387は縄文土器深鉢である。2386は口縁端部から少し下がった位置に刻目突帯を貼り付ける。2387は口縁部を欠損する。現存では1条の刻目突帯がみられるが、2条突帯の深鉢であろう。突帯の上方にはヘラ描斜線文を施す。2388はミニチュア土器の甕である。体部下半にはヘラ描重弧文、底部外面にはヘラ描沈線文による十字文を施す。2389は壺の蓋である。内外面とも摩滅しているが、天井部内面には赤彩が残る。2390はミニチュア土器鉢である。2391は棒状土製品である。両端部を欠損する。2392・2393は紡錘車である。2395～2404・2406・2407は円盤状土製品である。土器片を再利用し、周囲を打ち欠いたものである。2405は匙条土製品である。柄の先端部分と匙の先端部を欠損する。2408～2435は4区からの出土遺物である。2408は壺の頸部から体部片である。ヘラ描沈線文3条と有軸のヘラ描木葉文を施す。2409は円孔が1単位2個で、2単位みられる。底部または蓋の天井部である。2410・2411は蓋である。2412・2413はミニチュア土器である。いずれも手捏ね成形である。2414・2415は紡錘車である。2417～2419は土器片を再利用して、周囲を打ち欠いた円盤状土製品であるが、中央部に穿孔がみられる。紡錘車として使用したものであろうか。2420～2434は円盤状土製品であるが、中央部に穿孔はみられない。周囲を打ち欠いて整形したものである。2435は匙状土製品の柄である。

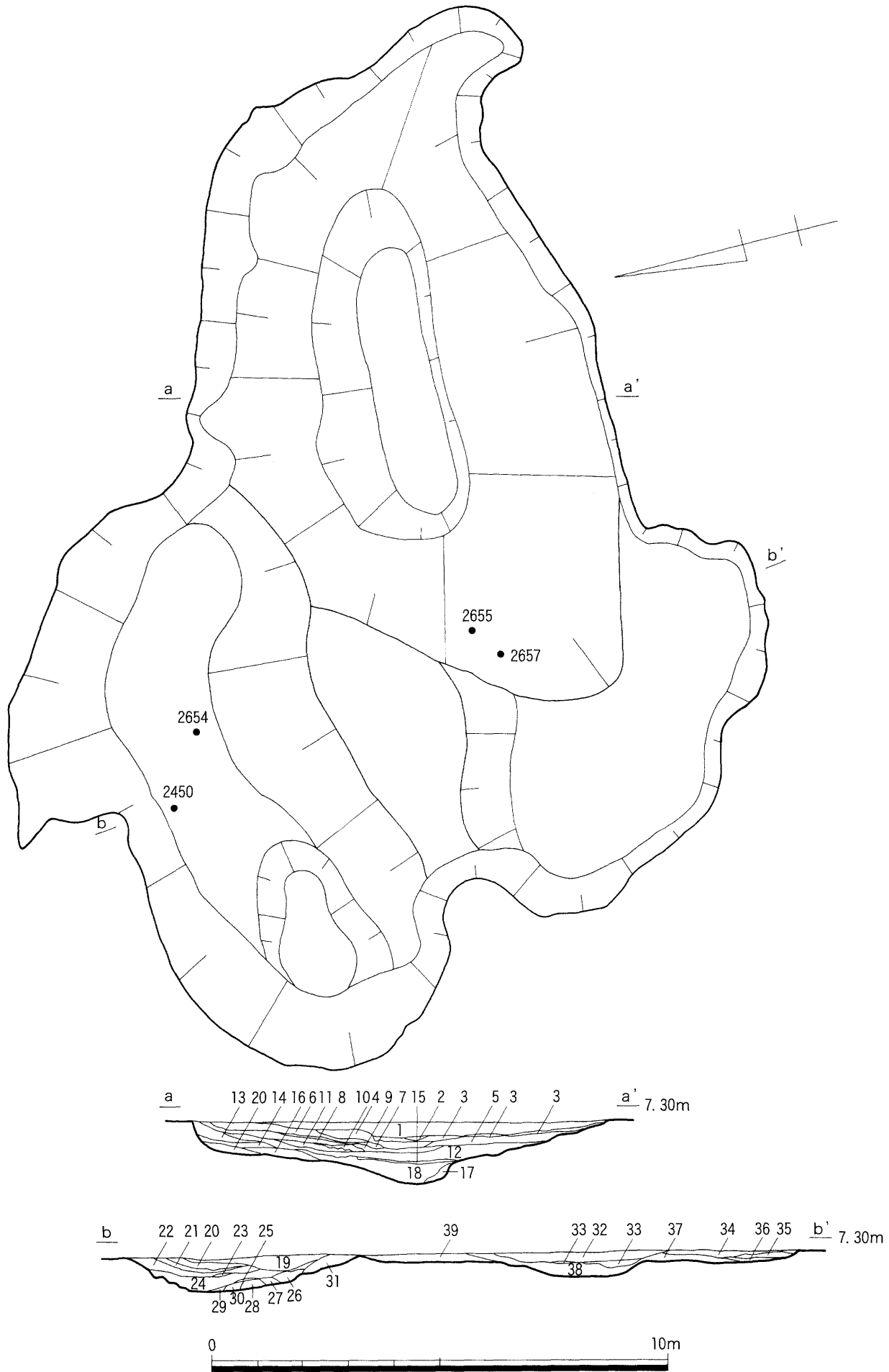
## 2. 弥生時代後期から古墳時代前期

### (1) 落ち込み

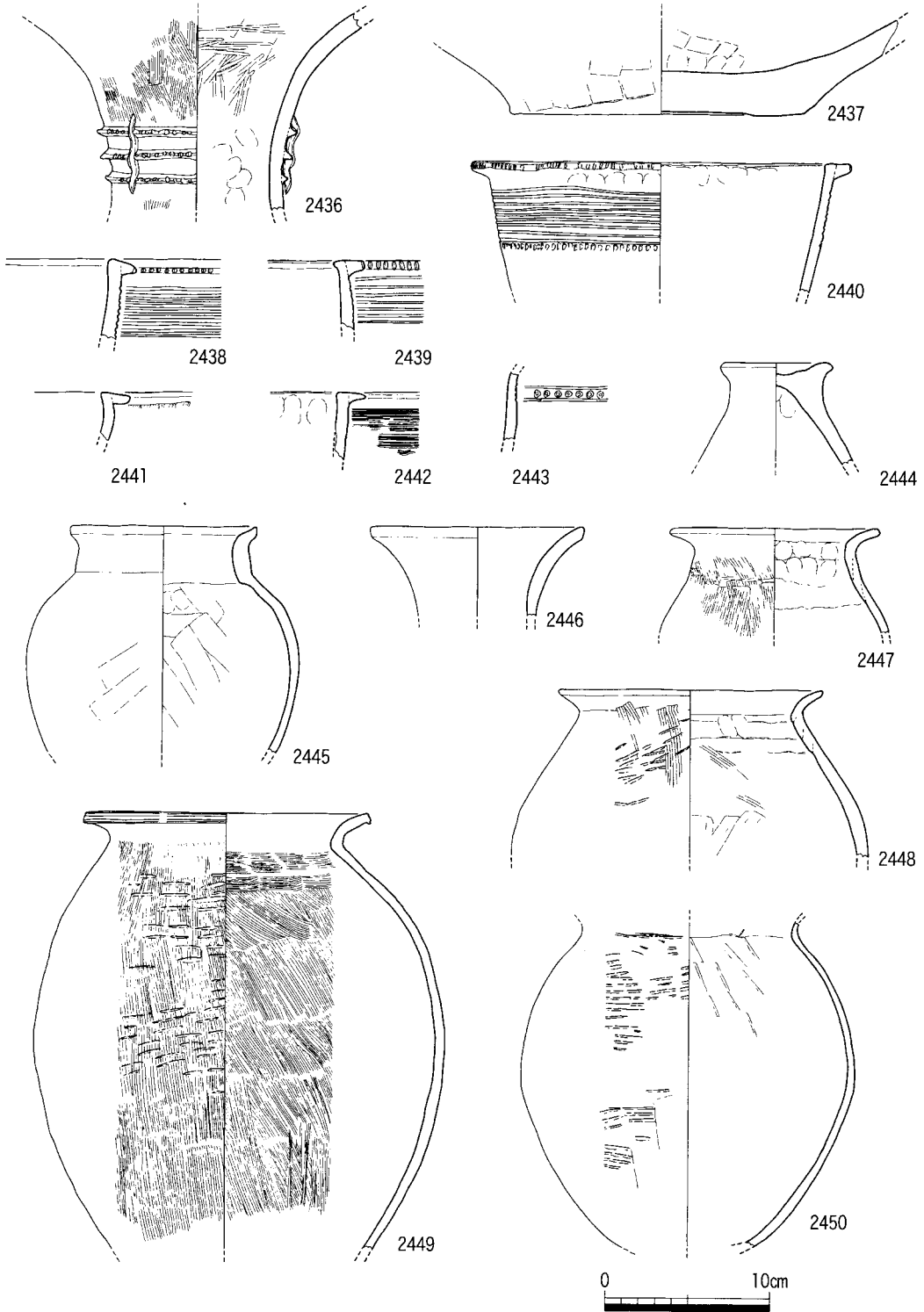
S X 1056 (第539～541図, 図版57・58)

4区中央部で検出された沼状遺構である。平面形は不定形で、長軸23.5m、短軸10.7mを測る。土層断面の観察から、東西方向に長軸をもつ楕円形に近い大きな落ち込み3基が重複して形成されたものである。埋土下部には黒灰色ないし黒色粘土が主として堆積し、局部的に中粗砂層が堆積する。埋土上部は淡灰色粗砂層が主として堆積し、局部的に黒色粘土層がみられる。最深部で深さ1.35mを測る。弥生時代前期から中期の遺物包含層(第4層)上面で検出されたことから、包含層形成以前に形成されたことがうかがわれる。鴨部

第539図 S X 1056平・断面図 (1/120)

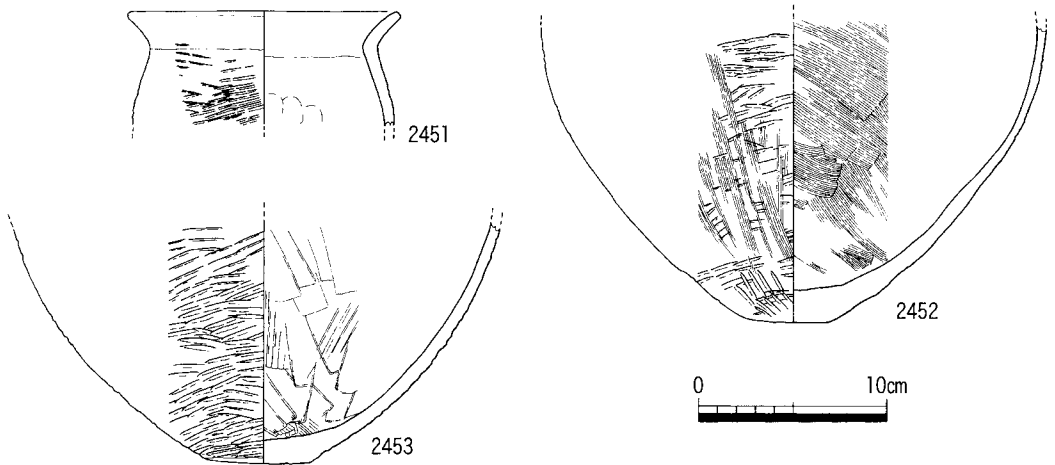


- |              |                       |               |                |
|--------------|-----------------------|---------------|----------------|
| 1. 黒褐色粘土     | 11. 黒灰色粘土             | 21. 黒褐色砂混じり粘土 | 31. 灰褐色粗砂      |
| 2. 黒灰色粘土     | 12. 黒灰色粘土混じり中砂        | 22. 暗褐色粗砂     | 32. 暗褐色粗砂      |
| 3. 黒灰色砂      | 13. 黒灰色砂 (粗砂と粘土少量混じる) | 23. 黒灰色細砂     | 33. 黒褐色粗砂      |
| 4. 暗灰色粗砂     | 14. 暗灰褐色粗砂            | 24. 黒灰色粘土     | 34. 粘土混じり黒褐色粗砂 |
| 5. 黒褐色粘土     | 15. 淡褐色粗砂             | 25. 暗青灰色砂     | 35. 黒灰色粗砂混じり粘土 |
| 6. 暗灰褐色粗砂    | 16. 黒灰色粘土             | 26. 黒灰色粘土     | 36. 黒色粘土       |
| 7. 黒灰色粘土     | 17. 淡灰細砂              | 27. 淡褐色粗砂     | 37. 灰褐色粗砂      |
| 8. 黒褐色中砂     | 18. 暗灰褐色粗砂            | 28. 暗灰色砂      | 38. 黒灰色粗砂混じり粘土 |
| 9. 黒褐色粘土混じり砂 | 19. 黒褐色粘土             | 29. 暗青灰色粗砂    | 39. 灰褐色粘土      |
| 10. 灰褐色粗砂    | 20. 暗褐色粗砂             | 30. 黒灰色粘土     |                |



第540图 S X 1056出土土器 1 (1/4)





第541図 S X 1056出土土器 2 (1/4)

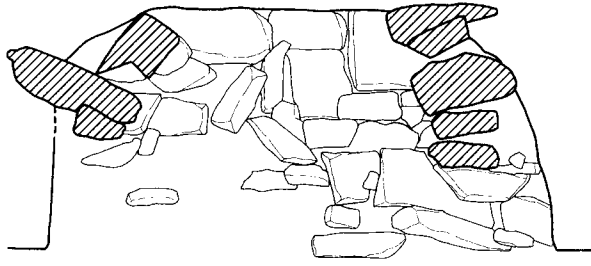
川の流路変更に伴い、強い水流によって地表面が抉られたため形成された自然の沼状落ち込みの可能性が高い。出土遺物は整理用コンテナ14箱程度で、弥生土器壺・甕・蓋，土師器甕，太型蛤刃石斧・石包丁・石皿または砥石・石鋤・刃器等がみられる。弥生土器はいずれも前期から中期初頭に属する。2436・2437は弥生土器壺である。2436は頸部片で，貼付刻目突帯を3条施した後，棒状浮文を貼り付ける。2438～2443は弥生土器甕である。2438～2442は逆L字口縁を呈する。2438は現存で8条，2439は現存で7条のヘラ描沈線文を施す。2440はヘラ描沈線文9条と三角形刺突文を施す。2442は櫛描直線文と櫛描波状文を施す。2443はヘラ描沈線文を2条施し，沈線間に竹管文を施す。2448～2453は土師器甕である。外面にはタタキとハケ目を施す。

### 3. 平安時代

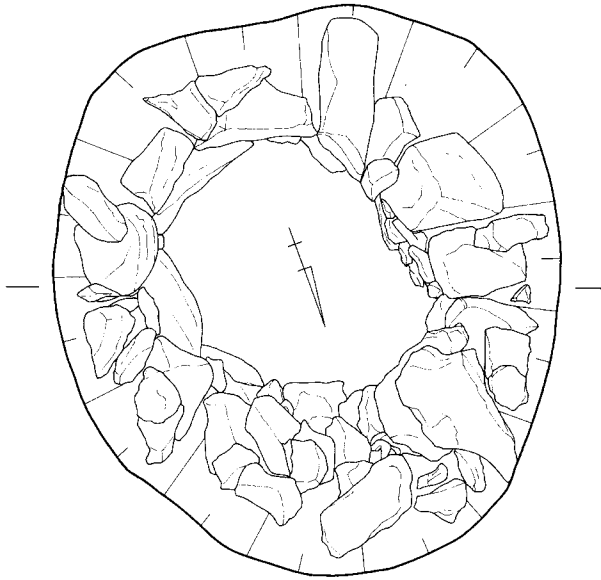
#### (1) 井戸

S E 1001 (第542図，図版58)

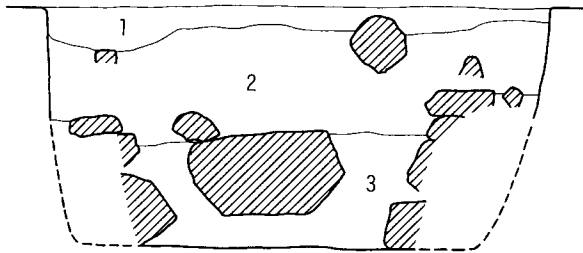
2区東部に位置する井戸である。石組があり，平面形は円形を呈し，内部径は0.75m前後，深さ0.65mを測る。掘り方も平面形は円形を呈し，径1.3～1.4mを測る。石材は主として花崗岩の割石を使用し，大きさは0.3×0.15m，0.3×0.3m，0.15×0.15m程度を測る。また，凝灰岩の五輪塔の一部も転用され，石組みとして使用されていた。井戸底面付近には一辺0.4m程度の割石が検出された。上面が水平になり，石の下には小石が入っていたことから，人為的に据え置かれたものと推定できる。埋土最上層の暗褐色土は花崗土を混入し



—7.60m—



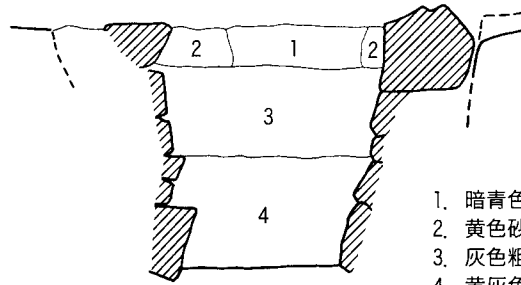
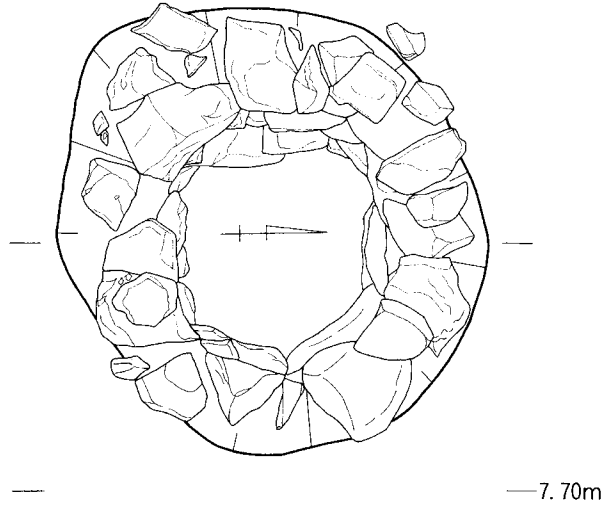
—7.60m—



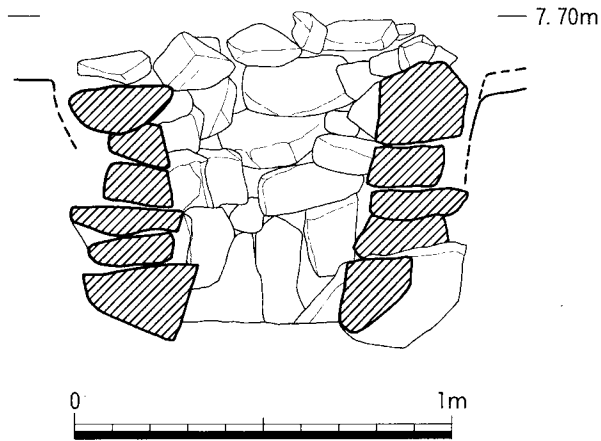
1. 暗褐色土（よくしまっている）
2. 暗灰緑色土（曲物片・木片が出土）
3. 黒灰色砂質土



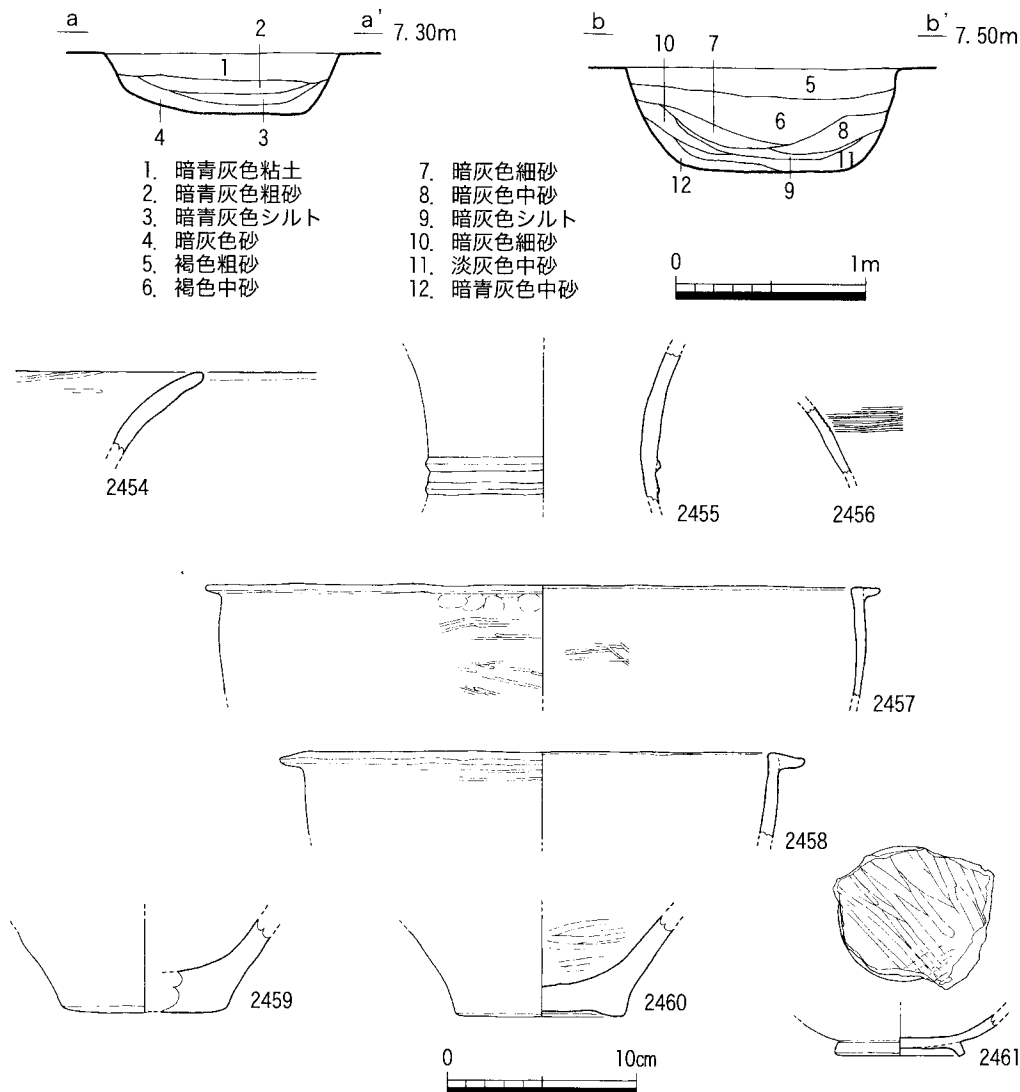
第542図 S E 1001平・断面図（1/20）



- 1. 暗青色粘質土
- 2. 黄色砂
- 3. 灰色粗砂 (粘質土小ブロック混入)
- 4. 黄灰色粗砂



第543図 S E 1002平・断面図 (1/20)

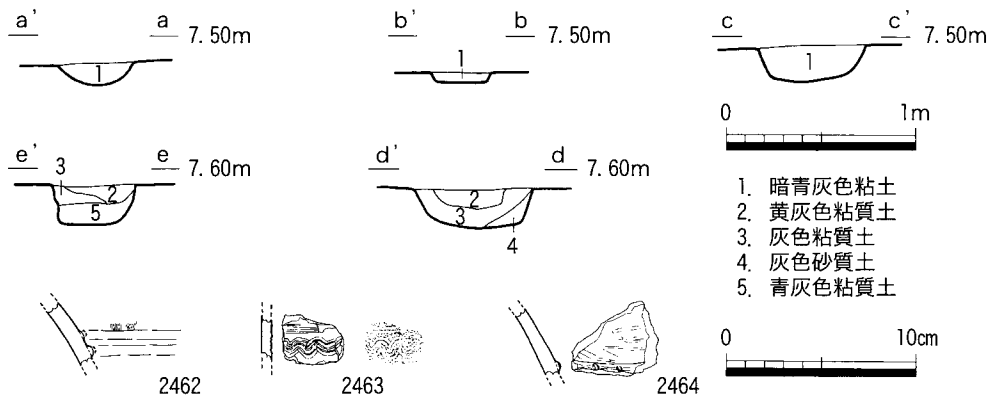


第544図 S D 1069断面図 (1/40), 出土土器 (1/4)

たもので、非常に硬くしまっていた。埋土の状況から、自然埋没したものではなく、意図的に埋め戻したことがうかがわれる。埋土下部からは曲物片と黒赤漆木片が出土した。

S E 1002 (第543図, 図版59)

2区東部に位置する井戸である。石組があり、上部の平面形は円形を呈し、内部径は0.6~0.7m、深さ0.8mを測る。掘り方の平面形は円形を呈し、径1.1~1.3mを測る。石材は花崗岩の割石を使用し、井戸基底には大きい石が配置され、長側面を内部に据えている。なお、西部の基底石と南部の基底石は直角に据えられていた。埋土は大半が砂層である。



第545図 S D1070断面図 (1/40), 出土土器 (1/4)

色調は異なるが、遺跡を覆っている砂層と類似しており、洪水で一気に埋没したものと推定される。出土遺物はみられなかった。

## (2) 溝

### S D1069 (第544図, 図版59)

1区西端から東端, 2区北西部を西から東に向かって走る溝である。S D01と重複し、一部を削平している。検出長60m, 幅1.2~1.6m, 深さ0.3~0.55mを測る。埋土は粗砂・細砂・シルト等の互層状堆積である。出土遺物は少量で、弥生土器壺・甕, 土師器椀, 石包丁未製品, 種実がみられる。弥生土器はいずれも前期に属する。2454~2456は弥生土器壺である。2455は頸部に貼付突帯を現存で2条施す。2456は体部片で、櫛描直線文またはヘラ描沈線文を施す。2461は土師質土器椀である。内面にはヘラミガキを施す。平安時代末のものであろう。

### S D1070 (第545図)

平成2年度調査区南西部, 平成3年度調査区1区南西部から2区南部にかけて東西方向に走る溝である。一部途切れるが, 検出長115m, 幅0.4~0.6m, 深さ0.2~0.4m前後を測る。出土遺物は少量で, 弥生土器壺片が出土した。いずれも弥生時代前期から中期に属するが, 遺構埋土が灰色系で, 弥生時代の埋土と異なることから, S D1070は平安時代の溝と考えられる。

## 註

- (1) 森 格也『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第7冊 鴨部・川田遺跡I』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・建設省四国地方建設局 (1997)

## 第3節 木製品

### 1. 弥生時代前期から中期の木製品

#### (1) 環濠S D01出土木製品 (第546～619図)

環濠S D01からは多量の木製品が出土した。出土状況については第2節のとおりである。

以下に掲載する木製品は全体で197点である。うち弥生前期資料は187点で柱材1点を除き、S D01から出土している。その弥生後期以降の資料8点、古代2点である。

弥生前期資料のうち、製品では農耕具37点、杵6点、斧柄5点、弓2点、食器2点と圧倒的に農耕具が多い。(農耕具の内訳は広鋤28, 狭鋤5, 組合せ鋤4である。) また未製品では、ミカン割段階から柄穴穿孔途上品まで鋤類未製品が少なくとも13点、食器類8点、斧柄1点で、製作諸工程で排出された端材は各種で35点を数える。(その一部は小形品素材となるかも知れない。)

未製品の多さは共伴する加工斧類の豊富さと共に、本集落における木器製作の盛行を示すものである。更に伐採斧・加工斧の多さに比べた斧柄の乏しさ(特に未製品は1点にすぎない。)と広鋤未製品の多さに示されるように特定器種に偏った集中的な木器生産の可能性を示唆する。磨製石器類で石包丁にほぼ限定された集中的な製作が予測されるのと同様な本集落における手工業生産の特性として注意しておくべきだろう。

#### 2465 組合せ鋤(柁目材)

乾燥変形が著しく器厚は計測不能。鋤身の基部は方形を呈し、復元推定幅160mm。刃部は丸く舌状を呈するらしい。上縁と側縁には低い隆帯が巡る。基部端の中軸に狭い軸受け部が取り付け、其の端部は縄掛け状に張り出す。軸受け延長部分は鋤身本体よりも一段高く削り残して傾斜面をなし、其の先端には鋤身に方形の柄孔を斜めに穿つ。柄孔両側にも細い隆帯を設け、これによって柄の左右の振れを防ぐ。

#### 2466 組合せ鋤着柄部片(柁目材)

鋤身の左肩部小片。身は厚8mm前後で側縁・上縁には幅10mm前後、高2～3mm縁取りがつく。着柄部は推定長径40mm、短径30mmの楕円形孔を斜めに穿ち、その外縁にはやはり同じように低平な隆帯が取り付く。

#### 2467 組合せ鋤着柄部片(柁目材)

鋤身上部の着柄部右肩片。鋤身は厚5mm前後と薄いですが、上縁及び着柄孔縁の隆帯は高20

mmに達する。やはり鋤身上部中央に斜方向に着柄孔を穿つ。

2468 組合せ鋤？（柁目材）

薄板材小片で、残存する側縁辺に厚3mm、幅8mmの隆帯が取り付く。組み合わせ鋤身側縁片の可能性はある。

2469 狭鋤（柁目材）

ほぼ長方形を呈する狭鋤で身に反りはない。中軸で縦に折損しており復元幅220～230mm。鋤身は基部から刃部まで均等に厚く刃部付近でもあまり厚みを減じない。雨滴状を呈する隆起部はあまり突出しない。柄孔は隅丸方形に近く、鋤身に対して60°に穿つ。

2470 狭鋤（柁目材）

刃先の一部を欠損する他はほぼ完存するが乾燥変形が著しい。現状の反りはそのためであって本来の形状ではない。両側縁が並行する長方形の狭鋤である。乾燥変形のため断定はしがたいが、鋤身は狭鋤としては薄手である。方形の隆起部は矮小化し、ほとんど柄孔外縁の隆帯に過ぎない。方形の柄孔は鋤身に対して50°で穿つ。

2471 狭鋤（柁目材）

復元推定幅は柄孔付近で70mm程度。柄孔は方形を呈し、その周囲は表裏両面共に隆起するが、一般的な舟形隆起のように明瞭で頑丈ではない。推定幅と10mm前後のやや厚めの身部から狭鋤の一種と復元したが、華奢な小形品である。方形柄孔例は本遺跡資料では多くない。

2472 狭鋤片？（柁目材）

外周の大部分は折損し、全体的に痛みの激しい小片であるが、斜めに穿たれた略方形孔の一部が残存する。穿孔部の縁には幅7mm、高3mm弱の微隆起が縁取り状に取り付く。方形柄孔を備え、隆起部の矮小化したタイプの狭鋤であろうか。

2473 狭鋤（板目材）

身部は厚15mm前後と厚い。身幅は基部から先端に向かって変化せず、推定幅は90mmと狭い。多少乾燥変形を蒙っており、定かではないが長軸方向で、隆起面に向かってわずかな反りが見られる。舟形隆起は細身の紡錘形を呈し、鋤身厚に比べればあまり突出は強くない。柄孔は推定楕円形。鋤身に対して75°で穿つ。通常の広鋤と木取りが異なる点に注意すべきであろう。

2474 狭鋤（板目材）

鋤身は幅63mm、厚21mmと極端に分厚く狭い。また隆起部面に向かってわずかな反りが観

察できる。両端を折損しており、全形は定かではないが、残存部から推測すればむしろ鶴嘴に近い形状が予想される。舟形隆起は細身の紡錘形を呈し、上下端でほとんど形状に違いがなく高く突出する。隆起中央部に楕円形の柄孔を穿つ。長軸方向では鋏身に対してほぼ直交し、単軸方向で $13^{\circ}$ の傾斜が見られる。こうした柄孔穿孔方向は他の鋏類に認められない特徴である。木取りも一般の広鋏とは異なる点に注意すべきである。

#### 2475 広鋏舟形隆起及び鋏身基部片（柁目材）

舟形隆起は下方に細く伸びる雨滴状を呈し、あまり高く突出しない。楕円形の柄孔は鋏身に対して $43^{\circ}$ で穿たれる。鋏身は基部で9mm前後の厚みを持つので狭鋏の可能性もある。

#### 2476 広鋏（柁目材）

基部のごく一部を欠失するが、全形を観察するのに支障はない。鋏身は基部に比べ刃先の幅が広く大略長台形を呈する。基部の柄孔両側に計25mm大の円孔を穿つ。刃先は現状では緩く弧を描き、円刃をなすが使用損耗か。左縁の損耗が著しい。鋏身は基部を含め全体に薄く、刃先に向かって更に厚さを減じる。側縁端部も丸く納める。隆起部は上端が丸く細身の雨滴状を呈し高い。柄孔は大略楕円形を呈し、鋏身に対して $75^{\circ}$ で穿つ。

#### 2477 広鋏（柁目材）

全長に対して身幅がかなり広い形態。鋏身上部は折損し、基部の形状は不明。刃先両端は隅切りしたように丸くなる。ほぼ左右対称の形状からみて損耗によるのではなく本来的な成形であろう。鋏身両側縁は丸く納め、刃先は薄く尖らせる。舟形隆起は高く突出し、概ね細身の紡錘形を呈するものの、下端は鋭く伸びるが上端は鈍く丸める。楕円形を呈する柄孔は鋏身に対して $59^{\circ}$ で穿つ。

#### 2478 広鋏（柁目材）・鋏柄（芯持材）

柄頭部を柄孔に装着した状態で出土した資料である。鋏身は刃先に向かってやや広がる形状らしい。復元幅は刃部で推定200mm、基部で推定150mmとなる。刃先は隅が丸くすり減っている。鋏身左肩に長径10mmの小孔が見られる。結合装置であろうが、他例に比べかなり貧弱である。舟形隆起は幅広い紡錘形を呈し、あまり高く突出しない。楕円形の柄孔は鋏身に対して $57^{\circ}$ に穿つ。

鋏柄は柄孔と同様の断面楕円形の芯持材である。端部は細かい面取り加工で丸く納め、外表は平滑に仕上げるが、柄孔装着部分に特に細工は見られない。

#### 2479 広鋏（柁目材）・鋏柄（芯持材）

鋏身は半身を折損し、残存する部分も側縁と刃先の一部を除き縁が欠落する。この種の



広鋏に多くみられる両肩部の透かし孔の有無は欠落により不明。刃先部分は舌状を呈するようだが、使用損耗か本来の形状かは不明。側縁端も丸く納める。隆起部は細身の紡錘形を呈し高い。柄孔は略楕円形で鋏身と約62°で穿つ。

2480 広鋏（柁目材）

薄手の広鋏。刃先に向かってやや広がり、長台形様を呈する。刃先は両隅が損耗する。基部の隆起両脇部分に推定三角形の結合孔を穿つ。舟形隆起は細身の雨滴状を呈し、あまり高く突出しない。柄孔は楕円形で鋏身に対して56°で穿つ。

2481 鋏（柁目材）

上部の復元鋏身幅、推定110mm強とやや狭い。肩部の両隅を大きく切り取り、基部は凸状を呈する。舟形隆起は細身の紡錘形で高く突出する。長楕円形を呈する柄孔は鋏身に対して60°で穿つ。

2482 広鋏（柁目材）

両側縁折損。基部両肩は大きく抉り取るとともに舟形隆起脇に三角形の結合孔を穿つ。高く突出する舟形隆起は細身の紡錘形を呈し、両端が鋭く伸びる。楕円形を呈する柄孔は鋏身に対して62°で穿つ。

2483 広鋏（柁目材）

薄手の広鋏。基部両肩を切り落とすとともに隆起部脇に三角形の結合孔を穿つ。鋏身はほぼ中軸部分で縦に折れており、折損部に接して補修用の小孔2ヶ所を穿つ。鋏身に生じた亀裂をこの程度の細工で補修している点は本例のような薄手広鋏の機能を検討する上で興味深い。舟形隆起は長大な紡錘形を呈し、そのほぼ中央に隅丸方形の柄孔を鋏身に対して52°に穿つ。

2484 広鋏？（柁目材）

鋏身の復元幅は基部付近で推定140mmとやや狭く、この部分で13mmと分厚い。両肩は大きく三角形に切り取る。大形の舟形隆起は紡錘形を呈し、高く突出する。柄孔は楕円形で鋏身に対して65°で穿つ。鋏身寸法と隆起部の頑丈さからみて他の広鋏とは区別する必要がある。

2485 鋏舟形隆起片（柁目材）

鋏身基部の両肩には舟形隆起に接して結合用の切り込みが見られる。鋏身厚は隆起部付近で9mmとやや厚い。舟形隆起は幅広い紡錘形を呈し、高く突出する。柄孔は隅丸長方形を呈し、鋏身に対して71°に穿つ。

#### 2486 広鋏（柁目材）

舟形隆起が剥落した広鋏身。基部両肩に各1ヶ所ずつ径20mm前後の略円孔を備える。補強結合用孔であろう。鋏身はほぼ長方形で刃先は開かず、薄い。柄孔は楕円形を呈し、鋏身に対して斜交して穿つ。柄孔位置と鋏身に残る痕跡から、隆起は比較的小型で雨滴状を呈する可能性が高い。

#### 2487 広鋏身（柁目材）

左側縁1/3弱を欠失し、舟形隆起も剥落する。柄孔は楕円形を呈し、鋏身に斜行して穿つ。剥落痕跡からみて隆起部はあまり大きくなく、雨滴状を呈する可能性が高い。また隆起部脇には結合用の三角形切り込みがある。側縁辺は丸く納め、刃先は特に薄く尖る。

#### 2488 広鋏片（柁目材）

広鋏の身基部の小片。上部の剥落した舟形隆起基部の一部が残存し、その脇に結合用小孔の一部がみえる。身厚は5mmと薄い。

#### 2489 広鋏身（柁目材）

残存する左側縁は直線的に伸びる。上端折損部に残るクサビ状の切り込みは広鋏両肩部にしばしば見られる三角形の透かし孔の一部であろう。残存部分に舟形隆起部が現れないことから、少なくとも180mm以上の幅が想定できるであろう。

#### 2490 広鋏（柁目材）

広鋏身片で舟形隆起の先端部が残存する。鋏身の平均厚は5mmと極めて薄い。基部から刃先に向かって直線的に広がり、長台形様の形態をもつ。復元刃幅は約200mmとなる。本品は使用途上で中軸部分に縦に亀裂が生じたらしく、この部分に補修孔と見られる2孔が穿たれる。こうした補修孔が残る資料は他に2例確認できるが、いずれも本品同様の薄手の広鋏である。こうした補修で充分使用に耐えることを示しており、この種の広鋏の機能を推定する上で興味深い。

#### 2491 広鋏舟形隆起片（柁目材）

舟形隆起は細身の紡錘形を呈し、両端は細長く伸び、高く突出する。柄孔は楕円形を呈し鋏身に対して69°に穿つ。鋏身厚は推定5mmと薄い。

#### 2492 鋏舟形隆起片（柁目材）

柄孔付近が膨れた紡錘形を呈するが、両端はあまり長く伸びない。隆起部厚は本遺跡の一般的な広鋏例に比べ、やや薄い。柄孔は楕円形を呈し鋏身に62°で穿つ。隆起部左辺に鋏身基部が残り、これから推定すれば同基部復元幅は約100mmと狭いが、この部分で約7mm

の厚さしかなく、狭鋏とは考えにくい。刃先に向かって大きく広がる形態の広鋏を想定すべきか。なお、残存する鋏身基部左縁、柄孔横部分に三角形の削り込み部が見える。しばしば基部に穿たれる結合用小孔と同一の性格であろう。

2493 鋏舟形隆起と鋏身基部の一部（柁目材）

傷みがひどく隆起部の形状もやや崩れているが、幅広の紡錘形を呈し、比較的高い。柄孔は楕円形を呈し長軸方向で $61^\circ$ で鋏身に穿つ。また本品では単軸方向も鋏身に直交して穿たれず、わずかに左辺に傾く。鋏身基部は最大9mmの厚さを持つ。右辺柄孔横に結合小孔の一部が残る。

2494 鋏舟形隆起片（柁目材）

舟形隆起は紡錘形を呈し、特に下端が細く長く伸びる。また上面は、柄孔上方に向かって緩く隆起し、かなり高く突出する。柄孔は楕円形を呈し、鋏身に $61^\circ$ で穿つ。このように頑丈な隆起部を作出しているが、鋏身は8mm以下の厚みしかない。左辺の鋏身が一部残存するが、部分的に炭化焼損している。

2495 広鋏舟形隆起片（柁目材）

舟形隆起は紡錘形を呈し、一端が細く鋭く伸びるが、あまり高く突出しない。柄孔は楕円形を呈し鋏身に対して $74^\circ$ で穿つ。残存する鋏身は厚4mmと薄い。

2496 舟形隆起片（柁目材）

比較的細身の紡錘形を呈し、高く突出する。柄孔は楕円形を呈し鋏身に対して $63^\circ$ で穿つ。鋏身厚は約5mmと薄い。

2497 舟形隆起片（柁目材）

幅広い紡錘形を呈する舟形隆起。高く突出する。柄孔は楕円形というよりも隅丸長方形に近く鋏身に対して $63^\circ$ に穿つ。鋏身厚は推定6mm程度か。

2498 鋏舟形隆起片（柁目材）

柄孔の一部を含めて舟形隆起の2/3残存。両端が細く伸びる紡錘形を呈し、高い。柄孔は楕円形もしくは隅丸長方形を呈し鋏身に $55^\circ$ で穿たれる。隆起部下面に残る折損面から判断すれば鋏身は約7mmと薄いので、本品は広鋏であろう。

2499 鋏舟形隆起片（柁目材）

おそらく細身の紡錘形を呈する。高く突出し、柄孔は楕円形を呈し鋏身に対して $67^\circ$ で穿つ。

2500 鋏舟形隆起片（柁目材）

鋏舟形隆起基底部の薄く剥落した小片。紡錘形を呈し柄孔は楕円形に穿つ。

#### 2501 舟形隆起片（柁目材）

舟形隆起部の薄く剥落した小片。比較的細身の紡錘形を呈する。柄孔は楕円形で斜めに穿つ。

#### 2502 ミカン割り材

丸太材を放射状に分割したミカン割り材で、本遺跡出土資料中ミカン割り材の形状を最もよく示す資料である。材外縁部には樹皮を留めるが、木芯部は見られない。全長90cm強を測るが、外縁部厚は12cm未満と比較的薄い材である。したがって、本遺跡出土木製品の一般的な木取りから判断して狭鋏や容器類の素材としては厚みに難がある。材厚と幅の点では広鋏が最も適している。また材長の点では標準的な広鋏二枚分となる。広鋏未製品2504の前工程に相当する材と考えられる。また両小口部に明確な切断時打撃痕を認めない点から丸太材の段階で輪切り分割しておいたものとする。なお、材外縁や小口面に接した打撃や楔打ち込み等の痕跡が明らかでないことから、ミカン割り材製材手法は明らかにしたい。

#### 2503 ミカン割り材

大形ミカン割り材で幅・厚さの点から広鋏素材とするに充分である。ミカン割り材裁断面に一見加工痕跡を思わせる凹凸が観察できるが、材の保存状態から考えて断言しがたい。小口的一端は明らかに表裏の裁断面からの打撃により切断するが、他端は明確ではない。本資料では外縁部に樹皮を留めないが、この製材段階で外皮を殺いだものは多くない。本資料も長90cm弱とミカン割り材（2502）・広鋏未製品（連結材）（2504）およびミカン割り材端材（2631）等に近似した寸法となり興味深い。ミカン割り材もしくは先行する丸太裁断段階で一定の規格が存在するのであろうか。

#### 2504 広鋏未製品

本品では1本のミカン割り材から二個体以上の鋏身の作出を予定している。舟形隆起部の概形を削り出した上で鋏身を分割する途上の未製品である。隆起部の作出は不十分で、一方の鋏身材では僅かに中軸部分が緩やかに隆起するのみで、その形状はまだ作出されていない。分割後工程を示す未製品（2508・2510）等を参考にすれば本格的な舟形隆起部の作出は分割後に行うのであろう。材外側面には樹皮を残す。ミカン割り材（2502）に後続する広鋏製造工程を示す資料であろう。材の一端は欠損しており、鋏身材の連結数は不明であるが、少なくとも鋏身2個体分を刃先で連結するように作出している。

材の一方の面(隆起作出面側)に対する連続的な打撃と材外側面からの同様の加撃によって鋸身を分割を図っている。これに対して、残存する一方の小口面の形状から見て、本材そのものはミカン割り材製材に先行して丸太材の外縁側から加えた粗放な打撃によって裁断された可能性が高い。

#### 2505 鋸未製品？(柁目材)

形状・寸法から広鋸未製品と推定したが、本例の場合2504等と異なり、舟形隆起の作出がほとんど行われない段階で分割している。一側縁には樹皮をとどめ、わずかに材中軸部分が肉厚となるものの、横断形状はほとんどミカン割り材そのままである。両端には分割時の材表裏面からの打撃痕を明瞭にとどめる。

#### 2506 鋸未製品(柁目材)

裁断したミカン割り材の一方の板面を舟形隆起部分を作り出しつつ、殺ぎ落とす工程の未製品。本材は通常の広鋸寸法に比べ、かなり長い。同上工程の途上にあるため材横断方向の厚みは均衡ではない。基部側小口端面は表裏の板面に加えた連続打撃により切断。他端はこれとは異なり樹皮方向からの打撃による切断の可能性高い。

#### 2507 広鋸未製品(柁目材)

樹皮をとどめた裁断ミカン割り材使用。刃先相当部端面は表裏の板面に連続的に加えた打撃により切断。基部側端面はこれとは異なり、樹皮方向からの打撃を思わせる痕跡が観察できる。裁断ミカン割り材の樹皮側肥厚部を斜めに殺ぎ落として片方の板面中軸付近に、後に舟形隆起とする隆起を作りだした後に、隆起部を付した面の刃先相当部分を全体的に薄く殺ぐ過程の未製品である。

#### 2508 広鋸未製品(柁目材)

舟形隆起部の作出が不十分であるので、分割直後段階未製品と考えられるが、鋸身は比較的薄く仕上げられている。全体に損耗が著しく、両端切断面等の加工痕の詳細は観察できない。

#### 2509 鋸未製品(柁目材)

全体に傷みがひどく詳細な観察は困難だが、鋸未製品であろう。左側縁は折損するが、中軸付近に一方の小口端部に寄せた舟形隆起用の肥厚部は残る。刃先相当部分端面は表裏の板面に加えた連続打撃により切断。他端は切断方法が異なるように見える。残存する右側縁は既に薄く殺がれている。

#### 2510 広鋸未製品(柁目材)

分割後、舟形隆起の削り出しがやや進んだ段階の広鋏未製品である。隆起部はほぼ紡錘形に加工が進み、30mm程度突出している。隆起部作出と同時に鋏身も薄く殺ぎかけているが、横断面を見るとまだ木芯側がかなり薄い。刃先部分はまだ分割時の表裏面からの切り込み加工の痕跡を明らかにとどめている。基部は損耗が著しく確実ではないが、やや斜めに切り取られたような形状はミカン割り製材以前の丸太材裁断時の切断面の可能性がある。

#### 2511 広鋏未製品（柁目材）

柄孔穿孔直前の完成度の高い広鋏未製品である。この段階の未製品は本例のみである。細身の紡錘形を呈する舟形隆起は丁寧に加工され、鋏身はかなり薄く仕上げている。鋏身基部は緩やかに丸みを帯び、肩部に削り込みや貫通孔はない。側縁はわずかに外反し、刃部は直線的となる。

#### 2512 狭鋏未製品（板目材）

舟形隆起面に向かい長軸方向に大きく反り返る。身厚は全体に分厚く、特に中軸部分は緩やかに肥厚する。刃先はやや薄く尖らすようだが、先端部付近まで側縁断面は四角い。舟形隆起は長大な紡錘形を呈し、高く突出する。隆起部上面の中央部に集中的に打撃を加え、この面から柄孔を削りかけている。最終工程途上の未製品である。

#### 2513 丸鋏もしくは泥除け具未製品（柁目材）

木芯部分を利用した柁目材方形板で一隅を斜めに切り落としている。中央部がやや分厚く、一方の面のみややその部分が隆起する。両小口は表裏面からの連続的な打撃により切断する。丸鋏もしくは泥除け具三製品であろうが、通有の鋏類と木取り方式が異なる点が興味深い

#### 2514 丸鋏もしくは泥除け具未製品

木取り方式は2513に準じている。また、同品より更に加工が進んだ段階の未製品で傘状の形状がよく表されている。広鋏・狭鋏類より遙かになだらかに設えた隆起部は中央よりやや上部に偏する。上端は直線的に切り落とすが、下端は舌状に緩く突出する形状。主軸は通有の鋏類と異なり横方向となる点に注意。

#### 2515 堅杵（芯持材）

一方の頭部を完全に欠損する。残存する頭部はほぼ均一の太さで外縁には樹皮をとどめ、先端作業部位は丸く収める。握り部中央は細く削り込み、その両端を輪状に太くする。

#### 2516 堅杵（芯持材）

両方の頭部共にほぼ均一の太さで両端作業部位は丸く収める。堅杵（2515）と同様に握

り部は中央を細く削り込み両端を輪状に太くする。

#### 2517 堅杵（芯持材）

ほかの堅杵に比べ、頭部がかなり長くなる大型品である。両先端部とも細かな面取り加工によって丸く仕上げるが、端部に平坦面をとどめる。あまり使い込まれていないのであろうか。握り部の形状は堅杵2518同様に中央部に瘤状の分厚い隆帯一カ所を設けている。

#### 2518 堅杵（芯持材）

頭部の一方を欠損する。頭部はほぼ均一の太さで先端作業部位を丸く納める。握り部中央の一箇所に瘤状の分厚い隆帯を作り出す。

#### 2519 堅杵（芯持材）

丸太材から作りだした堅杵。握り部以下を折損。頭部作業部位に向かい、わずかに太くなる。頭部端面は丸く納める。握り部境には不明瞭な輪状の隆帯を作り出し、この部分を経て急に細身の握り部に至る。

#### 2520 堅杵？（芯持材）

丸太材で一端は炭化焼損。他端は折損するが、その部分に向かい外周を斜めに削り込み細めている。破損が著しく断定しがたいが、この部分が堅杵握り部際に相当する可能性がある。

#### 2521 石斧柄？（芯持材）

枝分かれ部分を利用する。幹部を石斧着装部とし、枝部分を斧柄とするのであろう。推定着装部の半ば以上を折損するが、残部には細かな加工痕がみえる。形状から見て未製品であろうか。

#### 2522 柱状片刃石斧柄着装部？（芯持材）

推定石斧着柄面と柄本体は折損。細い樹枝の股部分を使用し、小枝を柄本体とする。着柄部の一端はやや細く仕上げ、他端は有頭状とする。石斧柄で正しければ、柱状片刃石斧柄であろう。

#### 2523 不明（芯持材）

細身の樹枝の股部分を利用。樹幹部は一端を丁寧に丸く落とし、他端に向かい外表を薄く殺いで細めるが、その先端部は折損。樹枝側は長30mmを残して折損。

#### 2524 縦斧柄着装部片（板目材）

側面観は舳先状を呈し、上下面は平坦とする。小判形ないしは隅丸長方形を呈する着装孔は先端より100mm以上も奥まった位置に上下面にほぼ直交して穿たれる。縦斧柄としては

薄く、着装孔短径からみて基部厚20mm以下の最も小形の両刃石斧しか着装できない。外面には幅20mm前後の細かい加工痕が残る。

#### 2525 縦斧未製品（丸太分割材 木芯近接部位？）

縦斧着装部未製品。柄先端は折損。柄と着装部の境は両側を三角形に鈍く張り出す。まだ加工程度が低いこともあって、柄・張り出し部は断面不整長楕円形を呈する。着装部は張り出し部に比べやや厚く両側に平坦面を作り出す。この平坦面に斧着装孔を穿つのであろう。着装部厚から判断して、小形の両刃石斧用とみられる。

#### 2526 小形縦斧柄（ミカン割り材）

直線的な柄の一端に幅広く分厚い着装部が取り付く。着装孔より先を折損するが、他例からみて、着装部は側面観舳先状の形状をもつであろう。柄は断面楕円形もしくはレンズ形で基部端がわずかに太くなる。楕円形の着装孔は柄にほぼ直交して穿たれる。着装孔短径から判断して、基部厚20mm内外の小形両刃石斧用の柄である。

#### 2527 弓弭

芯持ち材ではなく細い角材を削りだして、断面はやや扁円形に成形する。弓内側縁側には幅8mm前後のわずかな凹面（樋）を溝状に削り込む。端部は細く削り込み丸く納める。端部より約40mm、60mmの部分にそれぞれ10mm、16mmの微妙な隆帯を削り残し、この部分に樺皮を4～6段階巻き付け、漆で固定補強する。隆帯の間隔は約15mmを測る。この部分が弓弭装置であろう。

#### 2528 弓？

細身の角材の外周を整えて、断面円形～隅丸方形に成形した棒状品。両端折損。一側面に幅10mmほどの浅い樋を削る。弓の一部か。

#### 2529 小形棒状品

木芯部を避けて断面円形または楕円形の細身の棒状品とする。外表の一側面が全体を通して浅く窪む。意図的に樋を作出したものかもしれない。弓の一部の可能性はある。

#### 2530 容器未製品（芯持材？横木取り）

平面形が棒椽形を呈する。深めの容器。中位で緩く括れ上端は鈍く開く。口縁部は一端に向かって緩く高まると共にこの部分が細く張り出し、注ぎ口状の形態をもつ。これと対向する位置の外側面には下端が細くなる低い隆帯を作り出す。底部は外縁部をそぎ落としてわずかに丸味をもつ。削り込み部分は器高に比べ、極端に浅く、刃幅10mm強の小形工具による加工痕の凹凸が随所に残り、最終的な仕上げ調整前段階であることがよく判る。分



厚く残された底部に木芯部が位置する。外表は相対的に平滑だが、やはり内面と同様の工具痕が明瞭に観察できる。

#### 2531 鉢未製品（芯持材）

上面に向かってわずかに開くが、ほぼ円筒形を呈する。下面は平坦だが、加工痕は顕著ではない。外表側面には縦方向に幅10mm前後の細かい加工痕が明瞭に観察できる。上面は緩やかに擂り鉢状に削り込んでいるが、その面は平滑で工具痕をとどめない。上面中心の粗い窪みは木芯部の傷であろう。

#### 2532 片口小形鉢未製品（横木取り）

上面観楕円形を呈し、やや不安定な平底を持つ小形鉢。上縁の一端に突出気味の注ぎ口を作り出す。器高に対して削り込み部は浅く、底部は分厚い。内面の成形は丁寧だが、概評には粗く加工痕をとどめるため未製品と判断した。

#### 2533 横斧柄素材？（芯持材）

小枝を残したまま細身の樹幹を四分割する。樹幹部分が斧着装部、樹枝が斧柄となるであろう。但し、樹幹部は一部焼損し、細部加工の形跡はみられない。樹枝部分は樹皮を除去する。未製品というよりも横斧柄素材か。

#### 2534 長方形皿（柁目材？）

外周に低い立ち上がり部を備えた長方形浅皿。台客は付さない。木槽等と異なり四隅は丸く落とす。一方の小口の立ち上がり部分は幅広く残されている。成形途上の可能性もある。

#### 2535 木槽？（半裁丸太材）

半裁丸太材の木芯側を削り抜き、外形を方形に整えた大形木槽の一部か。本品は小口面の一部で底面部分は剥落している。小口部内面は緩やかに立ち上がり、外面はわずかに外傾する。

#### 2536 蓋未製品

笠形の木蓋。平面形は小判形を呈する。頂部は平坦で同様に小判形。内面は低円錐形に削り込み、縁辺には幅広い平坦面を残す。内外面とも粗い加工痕が顕著に残り、紐孔はない。未製品であろう。

#### 2537 容器未製品（横木取り？）

浅鉢もしくは蓋。浅い裁頭円錐形を呈する。全体に比べ、削り込み部分は小さく浅い。縁辺には35mm前後の幅広い平坦面を残す。刃幅15mm内外の小形工具による加工痕が内外面に

残る。特に削り込み部分ではこれによる粗い凹凸が顕著である。こうした仕上げ調整以前の様相と削り込み部の浅さから未製品と判断した。

2538 高坏未製品？（横木取り）

横木取りで設えられた円柱の側縁を削り込む。上部は大きく張り出し、分厚くこしらえ、上面はかなり平滑に整えている。下部は損傷が著しいが、本来的に丈夫に比べやや小形で薄いようだ。分厚い上部を削り込んで一木の高坏もしくは台付鉢状の容器を意図するものであろうか。

2539 横杓子未製品（半裁丸太材）

ほぼ半球形の体部に鈍角で長く柄を付す。半裁丸太材の木芯近接部を使用。柄側縁と体部上縁に木芯部が残る。体部はほぼ半球形で、底面は径60mm大の平坦面をなす。上面はまだ平坦で全く削り込みを行っていない。柄はまだ厚い角柱状を呈し、基部に向かってわずかに幅広くなる。前面に刃幅20mm強の細かい加工痕が見える。

2540 有文有孔円盤（柁目材）

扁円形を呈する薄手の円盤である。中心部は外形と相似の扁円形に孔を穿ち、その周囲には表裏共に低い隆帯を巡らす。また表裏共に3条一組の刻線を放射状に四方に配し、外縁全周ににやや不揃いの刻み目を見る。形状から別材との結合が想定されるものの用途は不明である。

2541 不明品（芯持材）

円柱の側面を全体的に浅く削り込み、支脚状を呈するが用途不明である。全面に細かな面取り加工を施すものの、全体形状はいびつである。小形容器の未製品であろうか。

2542 鋏柄？（芯持材）

小枝を払っただけで外表に樹皮すら残すが、端部は斜めに切り、更に両側を薄くそぎ落として断面隅丸長方形にしつらえる。狭鋏で方形柄孔の例があるので、寸法から鋏柄でもよいと考える。

2543 穿孔板材（柁目材）

薄い板材小片で一端に方形の削り込みないしは穿孔部が残る。木取りから、鋏身基部の結合孔の可能性もある。

2544 棒状品（芯持材）

細身の丸太材の一端を細かく殺ぎ落として杭先状に加工する。他端は炭化焼損。

2545 棒状品

ミカン割り材を素材とした棒状品。上端は斜め方向からの加撃により切断しているように見える。下端は杭先状に細めているが、痛みがひどく加工状況の詳細は不明。

2546 小形棒状品（芯持材）

細い樹枝を用い、外表には樹皮を残し、加工程度は低い。一端を外表各部から斜めに切り落とし、杭先状とする。

2547 棒状品

角材を素材とし、一方は多角柱状に加工し、他端は二側面を薄く殺いでくさび形とする。細くした一端は別材との結合部とみられるが、用途不明。

2548 棒状品（芯持材）

小形棒状品。外表は樹皮を除去し、比較的平滑に仕上げる。両端折損。

2549 芯持丸太材（細）

細い棒状品。樹皮を残すが、小枝は基部より落としている。残存する一端は丸く納める。

2550 小形丸太材（芯持材）

外表には樹皮を残し、一端は外周方向からの連続的打撃による切断痕をとどめる。他端は折損。

2551 丸太材（芯持材）

外表に樹皮を残し加工程度は低い。両端とも外表各部からの斜め方向の連続的な打撃により切断。

2552 丸太材（芯持材）

傷みが著しく外表の加工程度は不明。一方の端部は外表各部の斜方向からの連続的打撃で切断。先端部折損により杭先状加工かどうか不明。他端は腐朽折損。

2553 小形丸太材（芯持材）

外表に樹皮を残し、小枝も粗く払っただけの加工程度の低い材。上端は折損。下端は外周の半ば以上の方向から斜めに打撃を加えた後、木芯部を折取る。切断部は極めて鋭利な加撃痕跡を残し、鉄製工具の使用をすら疑わせる。

2554 小形丸太材（芯持材）

外表は小枝を払っただけで樹皮を残し、加工程度は低い。一端は外周各部から斜めに加撃して粗く切断。先端部を折損するため、杭先状加工かどうかは不明。

2555 半裁丸太材（芯持材）

半ば以上が炭化焼損し、詳細は判断しがたいが、半裁丸太材で寸法から建築材の可能性

もある。

2556 丸太材（芯持材）

枝払い後に外縁は薄く殺ぐが、整った角柱状を呈するには至らない。両端折損。

2557 丸太材（芯持材）

径70mm強の丸太材。縦に割れ、両端も折損する。

2558 丸太材（芯持材）

縦に割れているため旧状の詳細は窺い得ないが、少なくとも丸太材の外周の一部を殺ぎ落として形状を整えた形跡がある。寸法から建築部材の可能性はある。

2559 丸太材（芯持材）

小枝を払っただけで樹皮を残した加工程度の低い丸太材を裁断。両端ともに外周の二方向から斜めに加えた連続的な打撃で粗く切断しており、端部はクサビ状を呈する。比較的明瞭に残る打撃痕跡から切断工具は幅30mm前後と推定できる。

2560 丸太材（芯持材）

径100mm前後の丸太材で外表は小枝を払うだけで樹皮を残す。縦に折れ、半身は欠損。一方の小口には外周各部の斜め方向から連続的に加えた打撃による切断痕跡が残る。他端は折損。

2561 建築部材？（芯持材）

丸太材の二側縁を薄く殺ぎ落とすが、残存する外縁部には樹皮を留める。上端には細い出柄状の突起を作り出す。下端は外周各部からの粗放な打撃により切断。

2562 建築部材？（分割丸太材）

丸太材を割裂いた断面三角形材。建築部材であろうか。現状では、両端は外周各部からの粗い打撃により切断するが、二次的な加工であろうか。

2563 建築部材？（芯持材）

現状では外皮は残らないが、本来は枝払い程度の簡便な製材とみられる。下端は外周からの粗い加撃で切断している。上部を横方向に大きく穿つが、上端を欠損するため貫通孔となるか、叉状を呈するか不明。寸法・形状から柱材上部と考えたい。下端の切断は二次的なものであろう。

2564 角材（芯持材）

丸太材の二側面を殺ぎ落として扁平な角柱とする。下端は後に殺ぎ落とした二側面に連続的な打撃を加えて切断している。上半は炭化焼損。上部に出ホゾ状に残る突起は焼損部

に木芯が残ったもので、本来的な細工ではない。

2565 芯持角材？

丸太材の二側面を切り落として角材状に加工する。更に一端は外周方向より斜めに加撃して杭先状に尖らす。他端は折損。

2566 芯持角材

丸太材を四分割し木芯部を残す。一方の小口は主に材外周方向からの粗い加撃によって切断。他端は炭化焼損。

2567 角材

断面長方形の小形角材。両端は折損。ミカン割り材を木目に沿って裁断したものか。

2568 角材？小片

不整形な角材もしくは厚板材成形時の端材。上端は折損。下端は四周方向からの連続的な打撃を加えた後に材の芯部を折取る。

2569 小形角材片

細身の角材小片。上端は折損。下端は主に二側面の斜め上方より打撃を加え切断。先端は尖り気味だが、意図的に杭先状に加工したという程度には整わない。

2570 楕円形板（板目材）

長楕円形を呈する薄板材。縁辺部は角を落として丁寧に仕上げる。別材との結合痕跡は見られず用途不明。本遺跡資料で板目材例は多くない。

2571 板材（板目材）

残存する側縁は弧状を呈し、現状では半円形に近いが、他端は折損し、旧状不明。縁辺に向かいわずかに厚みを減じ、端部は尖り気味に丸く納める。側縁に寄った部分に方形孔の一部に見える部分があるが、周囲の傷みが著しく確定できない。

2572 舌状板材（柁目材）

上端は細くすぼまり、緩やかに開いた下端はU字形に丸く突出する。横断方向でわずかな反りがみられる。両側縁は丁寧に四角く納め、先端部はやや丸く薄く終わる。上端部付近も含め、明瞭な別材結合痕はみられないが、下端部などの形状から、組合せ鋤の一種の可能性を想定しておきたい。

2573 板材（柁目材）

舌状を呈する薄板材片。U字形を呈する一端の形状は使用損耗によるか、本来的な形状か判断しがたい。他端は折損。木取り・形状から、小形の広鋤身部前半片でもよい。

2574 隅丸方形板（柁目材）

一方の端部は緩く弧を描いてU字形を呈する。他端は直線的だが、両隅を丸く落とす。縁辺部は全体として丁寧な丸く整える。別材との結合痕跡はみられない。

2575 長方形板（柁目材）

大略長方形を呈する薄板で四隅は丸く納め、一方の小口端辺は緩く弧を描いて張り出す。すべての縁辺は丸く納める。別材との結合痕跡は観察できない。

2576 板材（柁目材）

一方の小口端辺を除いて折損し、全体形状を窺い得ない。片面に縦方向で幅10mm、厚6mmの断面蒲鋒状の隆帯が通る。組合せ鋤縁辺隆帯に似た形状だが、位置が異なる。

2577 厚板端材（板目材）

不定台形様を呈する厚板材端材。外表各面に加工痕が残る。小形容器素材の可能性もある。

2578 組合せ部材板（板目材）

一方の端部は、厚みは変わらないが、左右を削り込んで細めている。またこの部分には横断方向の細かい傷みが多く、その形状とともに他材との結合部位であろう。他端は折損し、全形は窺えない。組み合わせ式の木台様の製品部材か。

2579 板材（柁目材）

扇形の板材。下端は緩く弧を描き、端部は丸く納める。他材との結合痕跡は確認できない。

2580 板材（柁目材）

薄板材で小口端付近に広鋤刃部の補修孔に似た径6mmの小孔を穿つ。

2581 楕円形板（柁目材）

楕円形もしくは卵形を呈する木板。中軸部分がやや肥厚し両側に向かって薄くなる。縁辺部は丸く納めるが、小口縁辺はやや鈍い。別材との結合痕跡は見られない。

2582 板材（柁目材）

損傷と変形が著しく、旧状を復元することは難しいが、一端がU字形に丸く突出した舌状の薄板材か。他端はやや粗く斜めに切り落とし、他材との結合痕跡はみられない。なお両側縁の削り込み状の形態は折損部で本来的ではない。

2583（柁目材）

上端は折損するが、一方の小口に向かい、緩やかに広がる台形様を呈する。両側縁端は

丁寧に納めるが、下端は板面からの粗い切断痕跡をとどめる。また厚みは均一ではなく左端に向かい薄くなる。

#### 2584 加工板材（板目材？）

現状で三ヶ所の削り込み部分が残る側は折損面の可能性高い。したがって、これらは本来的に切り込み非貫通孔かは不明。両端は方形中央は円形基調で、ほぼ一直線に配される。各切り込み部は表裏両面から加工される。表裏の板面は刃幅25mm大の加工痕が縦方向に顕著に残る。両小口端面は切断後の調整加工が施されるようだが、残存する側縁は十分な整形を行っていない。用途不明。寸法から考えて何らかの建築部材か。

#### 2585 加工板材（柁目材）

薄板材で一端を欠損する。他端は両側縁部分を棒状に残して、方形に削り込む。一種の組合せ部材であろうか。

#### 2586 薄板材（柁目材）

両側は直線的で比較的形状も整い、厚さも一定している。大形の薄板材。

#### 2587 板材（柁目材）

薄い板材だが、厚みは一定していない。側縁は比較的丁寧に丸く納めるが、残存する一方の小口端は表裏の板面の斜方向から連続的に打撃を加え、切断した形跡が明瞭に残る。また、材中軸よりやや外れた位置に長径55mm、短径35mmの不整楕円形の孔を穿つ。

#### 2588 板材（柁目材）

薄板材。残存する側縁端部は丸く納める。広鋏身片の可能性もある。

#### 2589 方形板（柁目材）

小形の方形薄板材で縁辺部は丁寧に丸く納める。一方の短辺に接して略方形の削り込みもしくは透かし孔がある。

#### 2590 板材（柁目材）

一方の側縁は折損するが、他縁辺は残存する。全体に平滑に仕上げ端部はいずれも丸く納める。寸法形状から見て広鋏身片でもよい。

#### 2591 板材（柁目材）

表面に加工痕跡がわずかに残る。残存する側縁辺は丸く納める。先端部は大部分が炭化焼損するが、同様に丸く納める。別材との結合などについては不明。

#### 2592 板材（柁目材）

表裏の板面に不明瞭ながら加工痕をとどめる。折損していない一方の小口端には切断時

に板面から加えた連続打撃の痕跡がみえる。

2593 板材小片（柁目材）

不定型な小片。一端に節の一部が残る。製材工程で殺ぎ落とされた端材か。

2594 不明舌状板材（柁目材）

痛みがひどく、旧状の理解がやや困難である。長方形板の隅を丸く落として、舌状を呈する。先端部他の残存する縁辺はいずれも丸く仕上げる。上下2段に計5ヶ所の粗雑な開口部分がある。特に下段の3孔は意図的な配列がうかがえるが、開口部の形状自体かなりいびつであるし、この部分の痛みがひどく断定することは難しい。

2595 板材（板目材）

両側縁は並行し、一端がU字形に突出する。舌状を呈する板材。中軸部分がやや肥厚し、両側縁に向かって薄くなる。先端部も同様に急激に薄くなり、端部は丸く納める。寸法形状ともに耕起具刃部を思わしめるが、残存部分に別材との結合痕跡はなく確定しがたい。また木取りも一般的な鋤鍬類とは異なる。

2596 板材（板目材）

小形の長方形板。中軸両端付近2ヶ所の開口部分は形状は整わないものの、意図的な穿孔の可能性が高い。

2597 板材（柁目材）

折損していない小口端には、表裏板面に斜方向から加えた切断時の連続打撃痕が残る、断面形はクサビ状を呈する。

2598 板材（柁目材）

細身の板材で一方の小口端は表裏両面から加えた連続的な打撃で切断。断面はクサビ状を呈する。他端は折損。

2599 板材（柁目材）

小形の板材。一方の小口端部に、切断時に表裏の板面に斜方向から連続的に加えた打撃の痕跡が残る。他端は折損。

2600 板材（板目材）

両小口端に明瞭に切断痕跡が残る。一端は片方の板面からの打撃により切断。他端は表裏両面からの加撃で切断する。

2601 厚板材（柁目材）

台形様を呈する厚板材。両小口端は表裏の板面からの連続的打撃で切断している。表面



方の小口にはミカン割り材裁断両面からの連続的な打撃による分割痕跡を明瞭に留める。表裏で打撃位置がややずれたようで切断面には段差を生じている。他端の切断痕跡は不明瞭だが、分割手法が異なるようだ。舟形隆起の作出は全く認められないので、広鋸未製品と断定することは難しいが、十分その素材となりうる寸法の板材である。

#### 2609 厚板材（柁目材）

腐朽が著しく細部の観察が困難である。一方の小口端は表裏の板面からの連続的な加撃により切断され、クサビ状を呈する。他端は痛みがひどく、切断状況の観察は不可能である。

#### 2610 板材（柁目材）

厚板材だが炭化焼損し、切断痕跡などの観察不可。

#### 2611 厚板材？（追い柁目材？）

木芯部分を含む厚板材である。半ば焼損しているが、本来は角柱状に裁断されていたものと見られる。やや不明瞭だが、両小口の加工痕跡に相違が見られる。木芯直近部位を含む点にやや難があるが、縦木取り・横木取りに関わらず、小形用器素材としては十分使用可能な材である。

#### 2612 厚板材（柁目材）

両側と小口の一方は切断か折損か判定できない。他方の小口は両方の板面から加えた連続的な打撃によって切断している。

#### 2613 板材（柁目材）

両小口端面ともに表裏の板面に加えた連続打撃により切断する。横断方向の板厚は均一ではない。

#### 2614 板材（柁目材）

両側縁は折損。一方の小口端は片方の板面方向から垂直に連続的に打撃して切断。他端は両面の斜方向から連続的に打撃し、切断部断面はクサビ状を呈する。加撃痕跡からみて切断工具の刃幅30mm弱か。

#### 2615 板材（柁目材）

板材片で一端は炭化焼損。他端は一方の板面の斜方向からの連続的な打撃により切断している。

#### 2616 板材（柁目材）

一方の小口端には粗い切断痕跡が残る。外表方向から加撃を想定できる。他端は折損。

2617 端材（柁目材）

おそらく製材工程で除去された端材の一部であろう。但し、一方の小口面に樹皮方向からの打撃痕跡が残る。

2618 端材（柁目材）

一方の小口端面には樹皮方向から粗く加えた打撃痕跡が残る。他端は表裏の板面に加えた連続的な細かい打撃により切断。

2619 端材（柁目材）

両端に表裏の板面に斜方向に加えた打撃痕跡が明瞭に残る。

2620 板材（板目材）

一方の端部は表裏の板面に連続的に斜めに加えた打撃による切断痕跡が明瞭に残る。他端は折損。板目材例は多くない。

2621 板材（柁目材）

小形の板材で一方の小口端は折損する。他端は表裏の板面から加えた連続的な打撃により切断した形跡が明瞭に残る。

2622 端材？（板目材）

一方の板面には縦方向の刃幅15mm程度の加工痕が明瞭に残る。裏面は炭化焼損。

2623 板材（板目材？）

一方の小口端は表裏の板面から加えた連続打撃により切断。他端は傷みがひどく、折損かどうか不詳。

2624 板材（板目材）

厚みを揃えた整った板材のようだが、周囲は折損し、裏面も炭化焼損のため原形はうかがえない。

2625 板材？

小口的一端は折損し、両側面及び裏面は割取られているようで、旧形状はうかがいがたい。但し、残存する表面には全体に縦方向及び斜方向に刃幅25mm前後の小形工具による丁寧な加工痕が顕著に残る。また、残存する小口面も切断後に同様の工具で丁寧な調整を加えている。

2626 板材（板目材）

両端の一部と片面が炭化焼損し、詳細は不明だが、少なくとも一方の小口端部には板面に加えた斜方向からの連続打撃の痕跡が残る。

#### 2627 板材小片

両側面は折損し、下端も炭化焼損した小片であるが、残存する小口端では表裏の板面から連続的に加えた打撃により、切断した形跡が明瞭に観察できる。

#### 2628 板状木片

木芯部に比較的近い部分の板目材片である。四周には比較的粗雑な打撃痕が観察できる。寸法・木取りの点では小形の、例えば皿状容器ぐらいならば十分に作出可能な素材であるが、具体的な加工形跡は明確ではない。製材時の端材か素材もしくは容器等未製品となるか判断しがたい。

#### 2629 端材？（板目材）

表裏両面に縦方向の加工痕が観察できる。両小口端は一方の板面の斜め方向からの打撃で切断する。

#### 2630 不整形材 端材？（板目材）

一端を折損し、不整亀甲形を呈する材。表裏の両側を粗く、斜めに面取りし、断面は扁平六角形を呈する。単なる端材と思われるが、成形の進んでいない段階の縦斧柄未製品の可能性もわずかながら考慮すべきであろう。

#### 2631 ミカン割り材

形状・木取りの点ではミカン割り材に含めうるが、外側縁部分でも厚さ5cm程度にすぎず、素材としては薄すぎる。ミカン割り材製材段階か、後続工程の初期に生じた端材であろうか。いずれにしても長90cm弱とミカン割り材（2502）や広楾未製品（2504）に準じた寸法であることには注意しておきたい。両小口面はやや痛んであり、詳細を観察しづらいが、切断痕跡の形状が相違するようで、興味深い。下端はミカン割り材裁断面からの打撃で分割するようだが、上端はそのような形跡がない。

#### 2632 ミカン割り材

径120mm前後の細身の丸太材を8分割程度に割り裂いた小材。外表に樹皮をとどめる。両端折損。

#### 2633 ミカン割り材端材

ミカン割り材製材工程もしくは次工程の板材作出段階に長大な端材。両端は折損しており、丸太材より割り取られたミカン割り材が800mm以上の長さをもつことを示す。

#### 2634 ミカン割り材端材

板材製材工程でミカン割り材から殺ぎ落とされた端材。両端折損。元のミカン割り材が

全長800mm以上であったことが判る。

#### 2635 輪切りミカン割り材？

材側面は折損か、切断面か判断できない。径300mm強の丸太材もしくは、それを四分割したミカン割り材を薄く輪切りにしている。樹皮は失うが、木芯部を残す。小口面の一方は主に外表方向からの連続的な加撃を比較的明瞭に残す。使用工具痕は幅15mm前後と狭い。ただし、これが切断時の加撃痕か、調整時のそれかは判断できない。他方の小口面にはこれとは異なるかなり粗雑な凹凸が観察できるが、痛みがひどく詳細な観察は困難である。

#### 2636 ミカン割り材（柁目材）

計120mm前後の細身の丸太材をミカン割り状に分割した材。両端折損。

#### 2637 ミカン割り材端材

板材作出工程で除去されたミカン割り材の端材か。一方の小口端面の残存部に樹皮方向からの打撃痕らしき部分が残る。

#### 2638 ミカン割り材端材？（柁目材）

横断方向の厚みは一定せず、左側縁に向かって急激に薄くなる。この部分は木芯部に近いことからみても、板材作出工程で除去されたミカン割り材の端材か。

#### 2639 ミカン割り材端材

ミカン割製材時もしくはミカン割り材整形時に生じた端材であろう。単なる余材であるが2 mに達する長さに注目したい。ミカン割り材および広鋸未製品の項で触れたように、それらは90cm前後の長さに整えられたものが目に付く。用意素材の規格の可能性を既に示唆したが、その予測が正しいとすれば、このようなそれを遙かに凌駕する端材の存在は規格設定段階を推定する材料となりうるであろう。その点に注目してあえて図示しておく。

#### 2640 ミカン割り材端材

ミカン割り材作出段階もしくは次工程の板材製材工程で除去された端材か。一端は折損。他端は外表方向からの打撃痕跡らしき部分が残る。丸太材裁断時の切断痕か。

#### 2641 ミカン割り材端材

ミカン割製材時もしくはミカン割り材整形時に生じた端材であろう。余材とはいえ2639同様に2 mに達する長さに注意したい。

#### 2642 ミカン割り材端材（柁目材）

おそらく均一な厚みの板材製作工程でミカン割り材の外表部から剥ぎ取られた端材であろう。両端折損。

2643 ミカン割り材端材？（柾目材）

板材製材工程でミカン割り材の肥厚部を殺ぎ落とした端材か。一方の小口端に外表方向からの加撃痕跡が残る。

2644 ミカン割り材端材？

両端は材外表方向からの加撃により切断。裁断したミカン割り材より切り落とされた外表部分端材であろう。

2645 ミカン割り端材？（柾目材）

四周に明瞭な加工痕がみられず、厚さも必ずしも均一ではなく、表裏面とも平滑ではない。本品自体が製材された板材ではなく、製材過程で殺ぎ落とされた端材の可能性が高い。但し、殺ぎ落とし作業痕は明瞭ではない。

2646 ミカン割り材端材

ミカン割り材より板材を作出する工程で殺ぎ落とされた端材か。両端折損。

2647 ミカン割り材端材

厚みは一定ではなく、片方の側縁がやや厚い。表裏面は木目に沿った凹凸が顕著。ミカン割り材から板材を作出する工程で除去された端材か。両端折損。

2648 ミカン割り端材

ミカン割り材より板材を作出する工程で除去された端材か。一端には表裏の板面に加えられた切断時打撃痕が残る。他端に残る打撃痕跡は丸太樹皮方向からの加撃を示す可能性が高い。

2649 ミカン割り材端材

本品自体が木製品素材ではなく、ミカン割り材から均一な厚みの板材を作出する工程で除去されたミカン割り材の樹皮付近端材であろう。外表部には樹皮をとどめる。下端は折損するが、上端は外表方向からの粗い打撃による切断痕のように見える。

2650 ミカン割り材端材

ミカン割り材から板材を作出段階で除去された端材か。両端折損。

## （2）掘立柱建物S B 1001出土木製品（第620図）

2651 柱材

柱穴内に遺存した柱基部材。丸太材をおよそ六分割したミカン割り材。現状では下端が瘦せ細っているが、明瞭な杭先状成形の痕跡はみられない。土中で腐朽損耗か。上端は一方より粗く切り落とすように見えるが、痛みが著しく詳細は不明。

### (3) 落ち込みS X1055出土木製品 (第621図)

#### 2652 器種不明未製品? (芯持材)

細身の丸太材を使用。本体部分の下端は外表方向からの加撃によって切断。全長の半ば以上の部分は外表の一部を残して除去。この部分は幅広い板柄状を呈する。一見、縦杓子未製品に似るが、本体相当部分の形状と木取りに無理がある。器種不明未製品とせざるを得ない。

#### 2653 角材 (芯持材)

細身の丸太材の外周部を殺いで、角柱状に仕上げる。両端は折損。

## 2. 弥生時代後期から古墳時代前期の木製品

### (1) S X1056出土木製品 (第622~624図)

#### 2654 ナスビ形膝柄又鋏 (柁目材)

全体形状の判る唯一の膝柄又鋏である。刃部はほぼ並行してほとんど開かない。着柄部端は棒状に長く伸びる。膝柄結合部に接して三角形の小さい張り出し部が両側にある。ナスビ形と称される所以である。刃部側縁は表裏から斜めに殺いで薄く尖るが、刃先は丸くなる。使用時の損耗かも知れない。張り出し部以下の着柄下部では表裏の形状に相違はないが、上部では一面を平坦に他面を凸状に仕上げ、断面蒲鋒形に近い。平坦面が膝柄着柄面であろう。刃先に使用損耗の可能性のあるものの、膝柄との結合痕跡は観察できない。

#### 2655 膝柄又鋏 (柁目材)

着柄部から又刃基部まで残存、基部と刃先は折損する。着柄部の両側には三角形の鈍い張り出しがあり、其の直下の切り込みと棒状を呈する基部とで膝柄に結合固定するのであろう。又刃はあまり開かずO脚状に伸びる。着柄部では両側縁を丸く納め、刃部はやや薄く削り出す。

#### 2656 ナスビ形膝柄又鋏基部着柄部付近 (柁目材)

又鋏刃先部分は完全に失っている。上端は棒状に細く伸び、断面形は蒲鋒形を呈する。両側に設けられた結合部の三角形張り出し部分の一方は折損。残存する側縁は角を落として隅丸方形状に仕上げる。柄材との結合痕跡は観察できない。

#### 2656 ナスビ形膝柄又鋏刃部 (柁目材)

又鋏の一方の刃先部分で先端部も折損。わずかにS字形に湾曲しつつ伸びることから、本来的に二つの刃先はO脚状を呈するものとみられる。破片上端の推定鋏基部付近の縁部

は四角く終わるが、刃先部分では内外両側縁とも削って薄く仕上げる。

#### 2657 ナスビ形膝柄鋏（柁目材）

着柄鋏（鋤）の基部結合部片。一方の側縁に結合部直上の三角形張り出し部分が残る。結合部刳り込み以下は折損。上端も他例に拠れば、本来は長く棒状に伸びる形状であろうが本例では折損している。

#### 2658 ナスビ形着柄又鋏（柁目材）

又鋏基部。棒状に長くのびた基部から柄結合部に向けて広がる部分。この部位でも両側縁は丁寧に丸く納める。

又鋏刃部片。厚みはほぼ均一で両側縁は丸く納める。両端欠損。

#### 2659 杭（芯持材）

細身の丸太材を使用し、先端は外周から斜めに加えられた打撃で尖らす。先端加工部は切断面はいずれも深く平滑である。かなり鋭利な切断具が予想される。

### 3. 平安時代の木製品

#### （1）SE1001出土木製品（第625図）

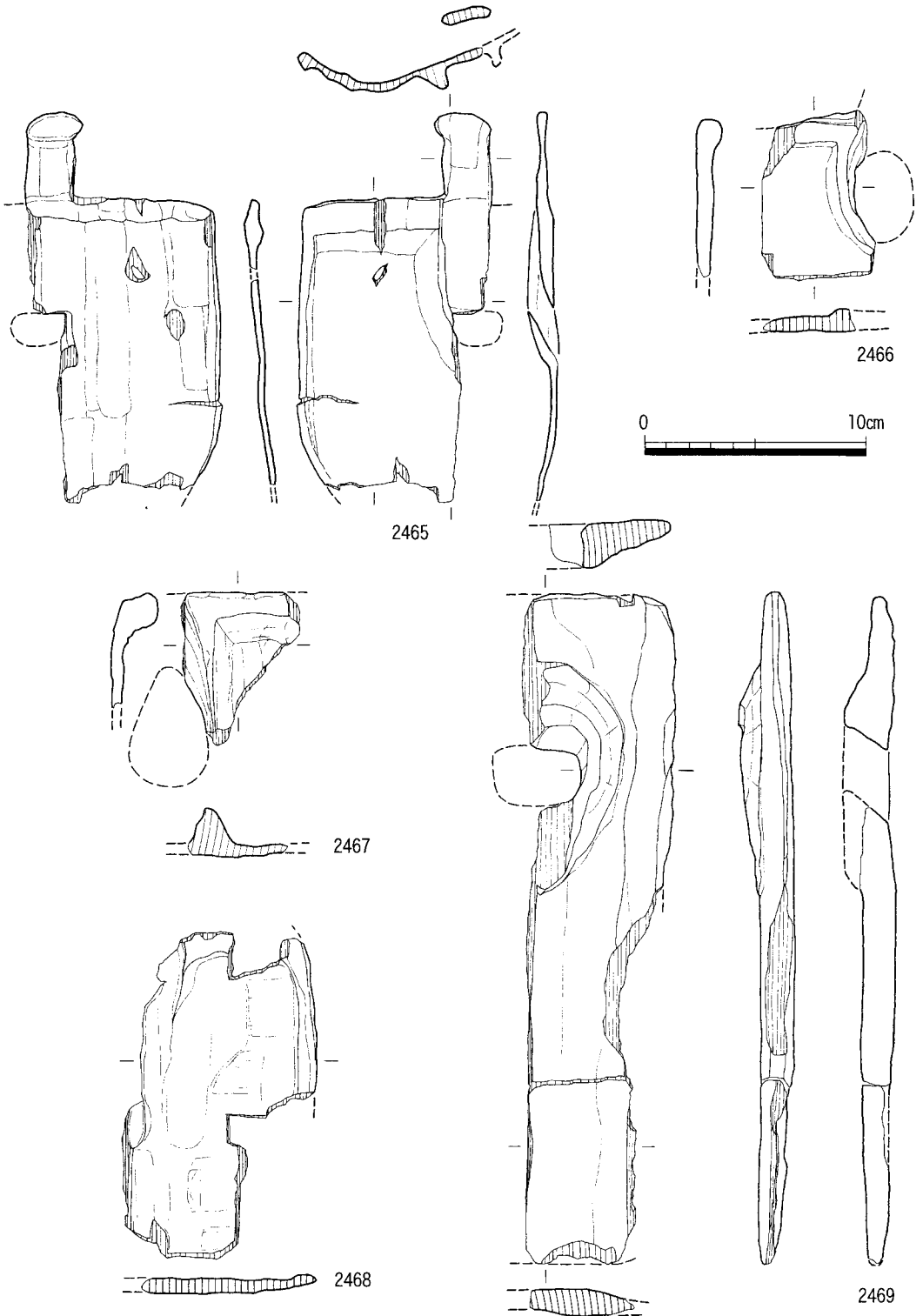
##### 2660 折敷側板材（板目材，赤漆黒漆塗布）

丁寧に成形した薄板材。板面の両端に各々4孔・2孔と中央部に1孔の竹釘穴がある。また、一方の側面にも等間隔に4孔が穿たれ、この部分では竹釘が残存する。これらから、方形の板材上に四方の側板材を載せ、各々竹釘で結合する浅い箱物の側板材であることが判る。また、中央の釘穴から仕切り板の存在も予想できる。箱外面と上端に相当する部位には黒漆が、内面には赤漆が塗布されている。後者では他の側板と合わさる部分には赤漆痕がみられない。

#### （2）SD1069出土木製品（第626図）

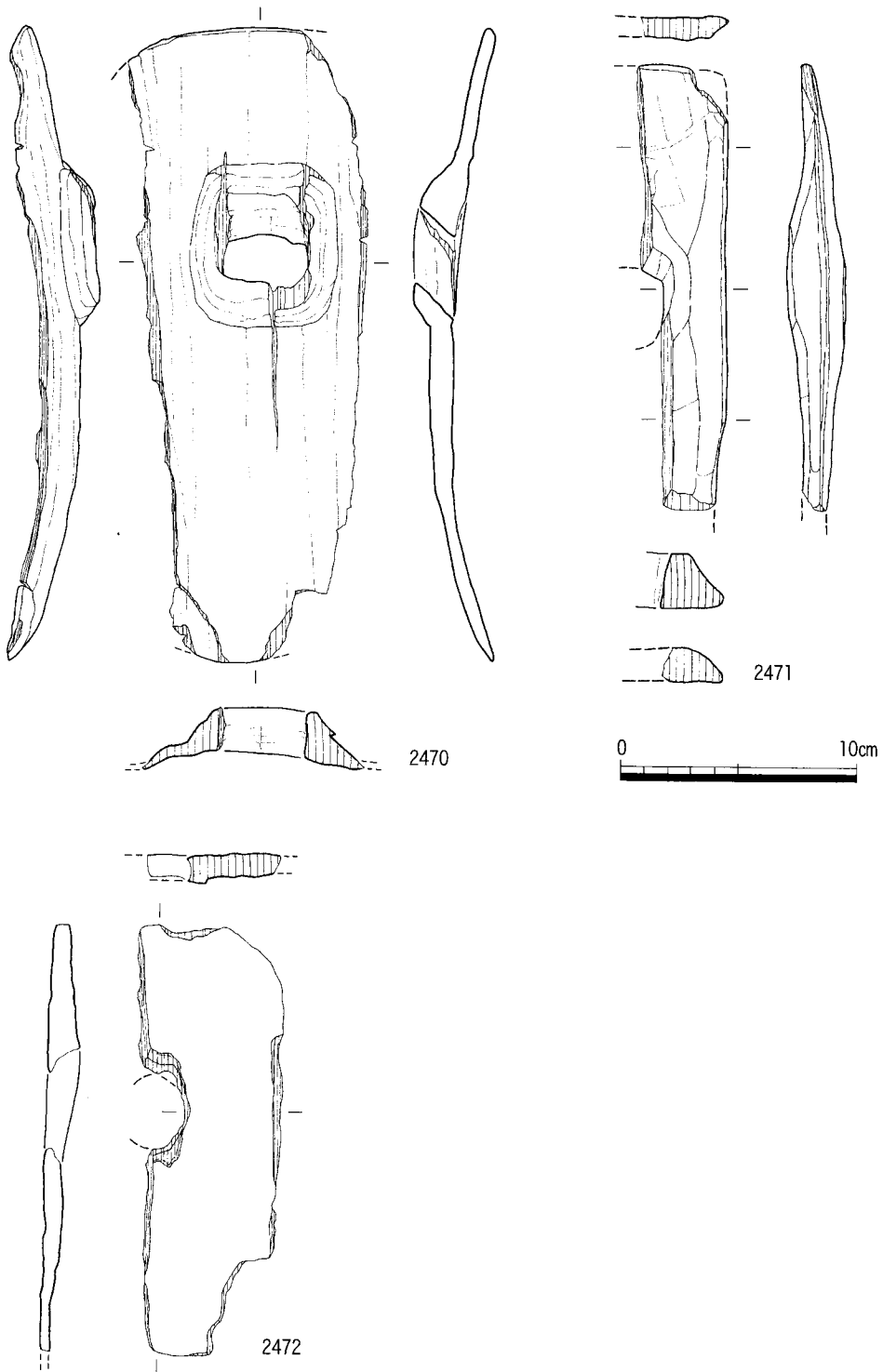
##### 2661 扇（柁目材）

丁寧に加工した木札状骨材の端部に小孔を穿ち、木釘で留める。現状では4枚の骨材が残るが、扇とすればあと2～3枚は必要であろう。骨材はいずれも先端を折損するが、厚3～5mm、幅15mmの薄い木札状を呈し、両端をわずかに細める。骨材の形状から見て檜扇ではなかろう。

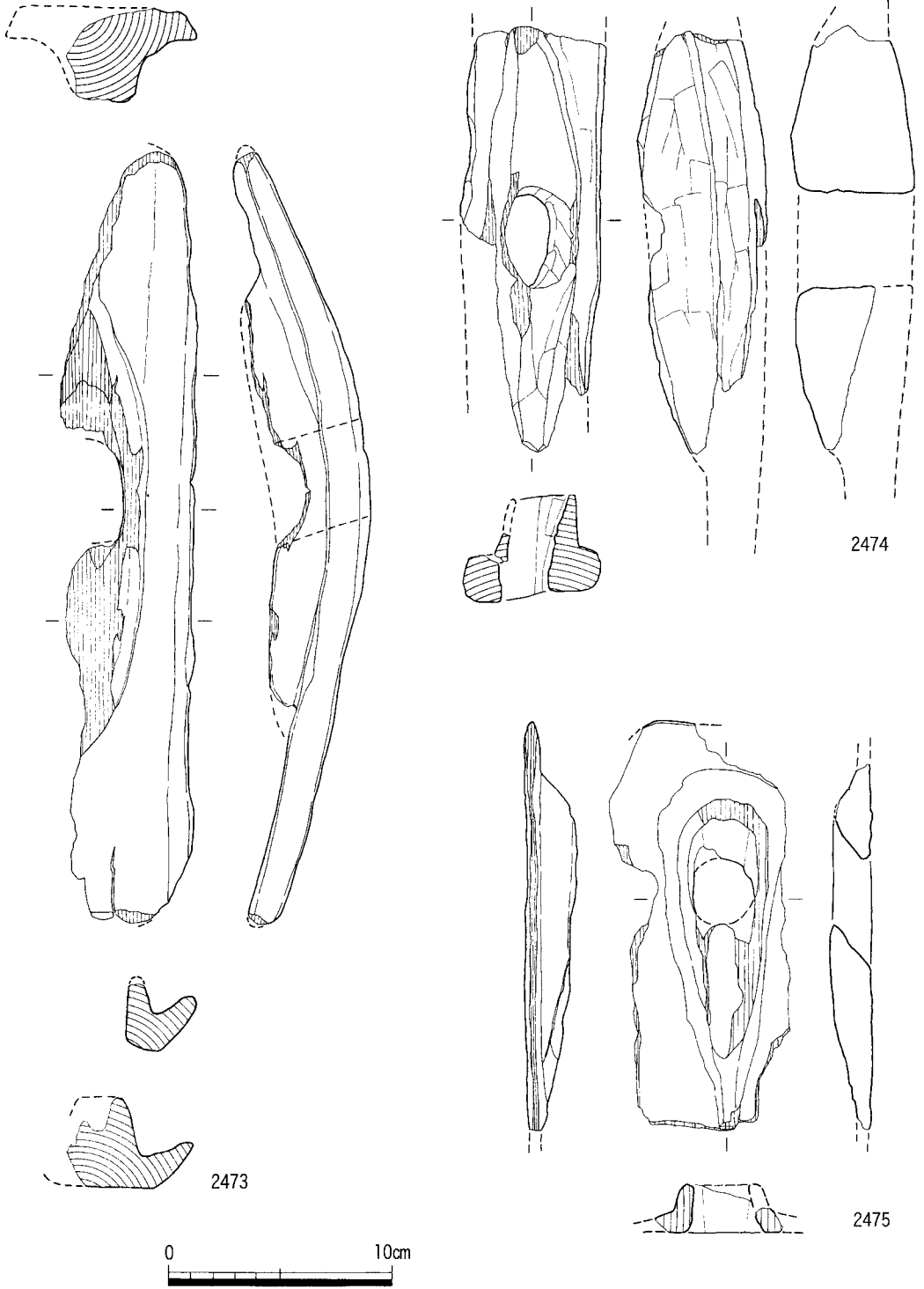


第546図 S D01出土木製品1 (1/3)

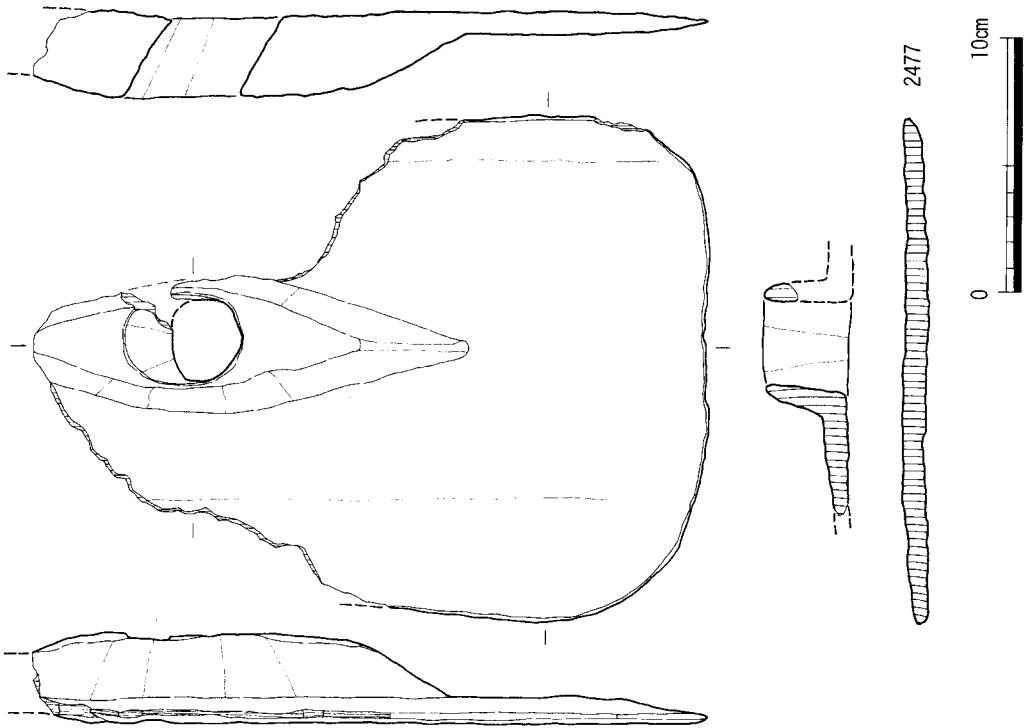
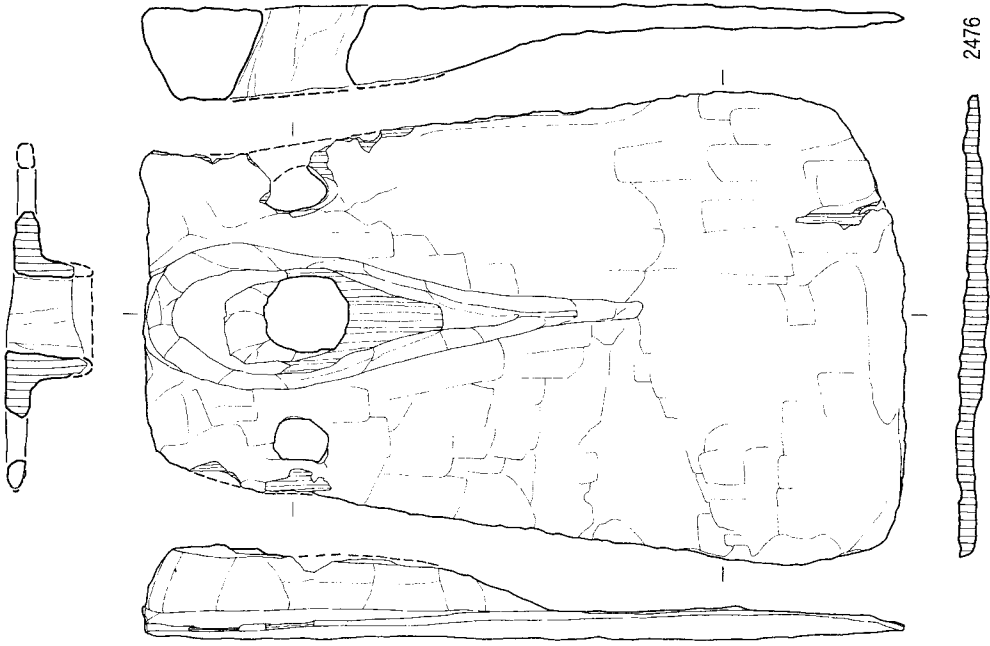




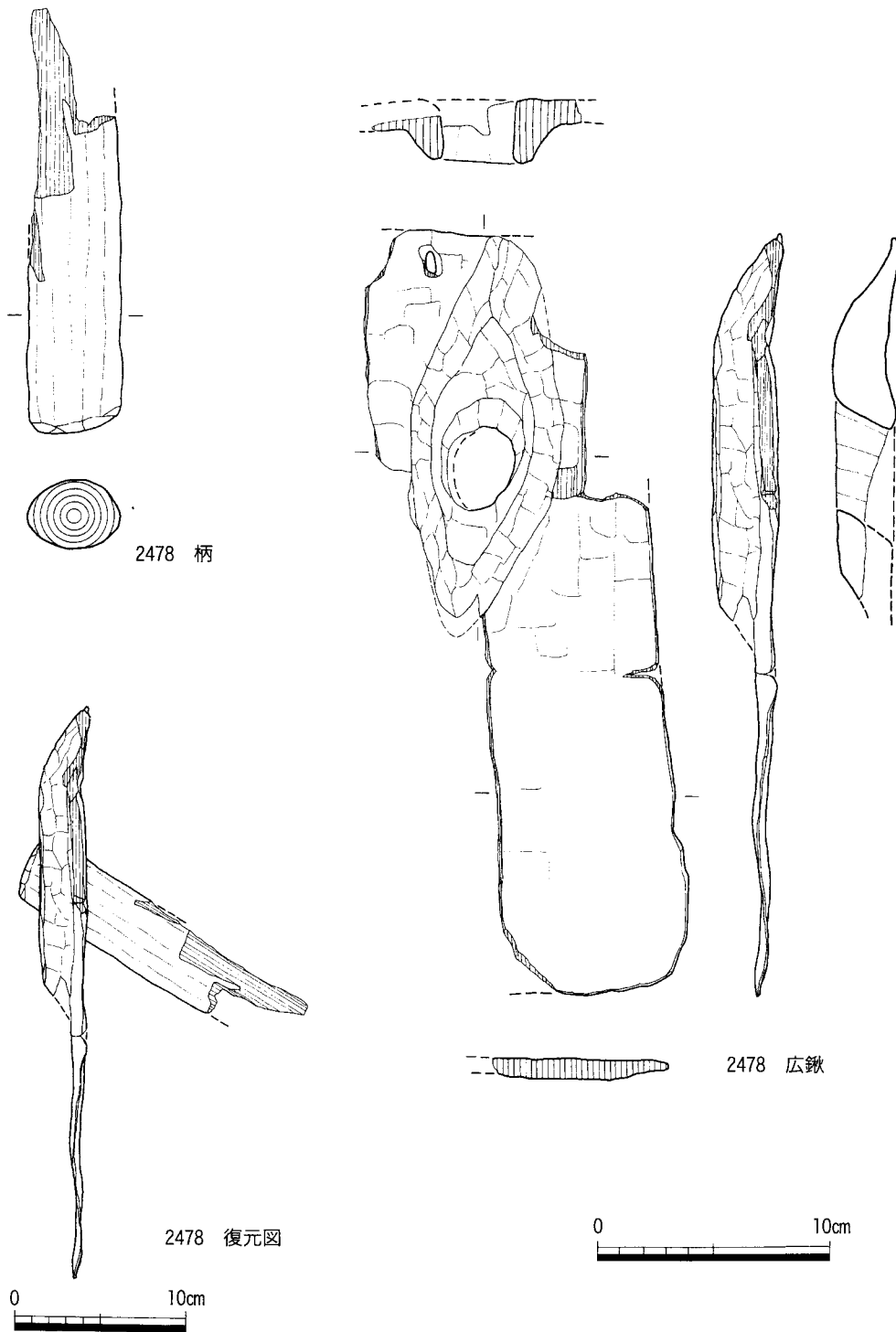
第547図 S D01出土木製品 2 (1/3)



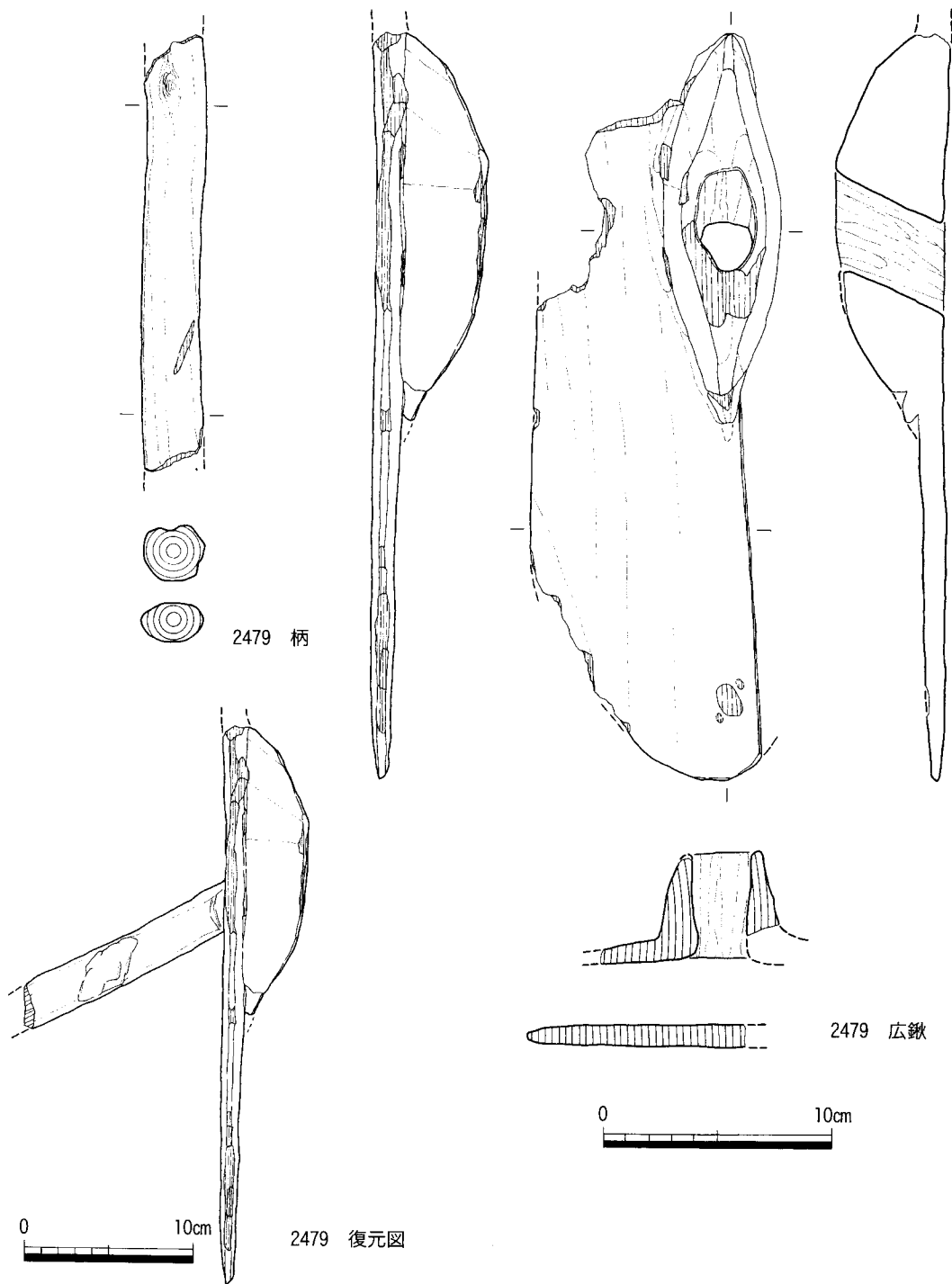
第548図 S D01出土木製品 3 (1/3)



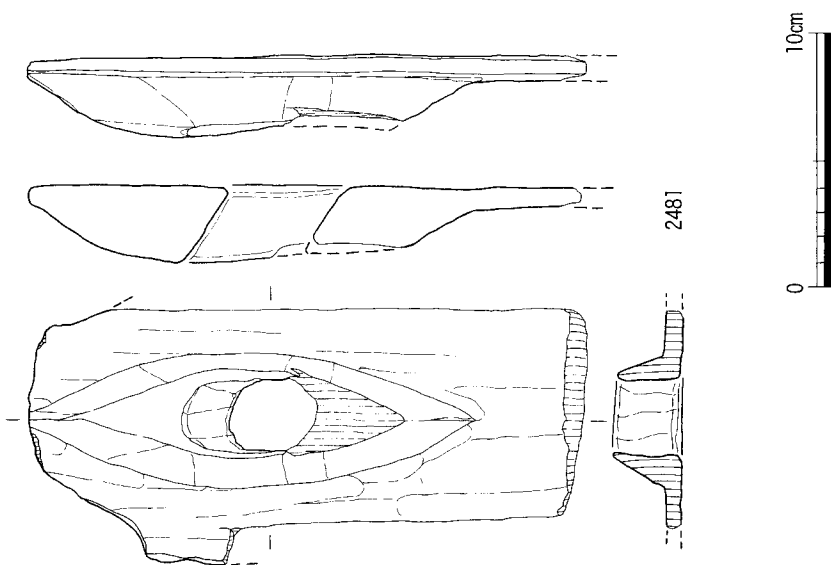
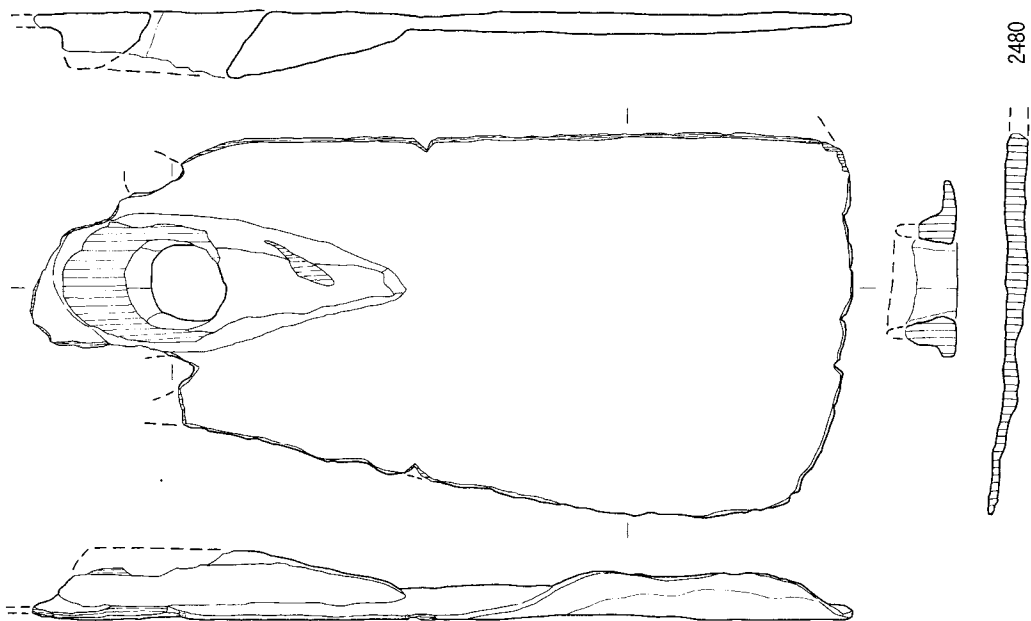
第549図 S D01出土木製品 4 (1/3)



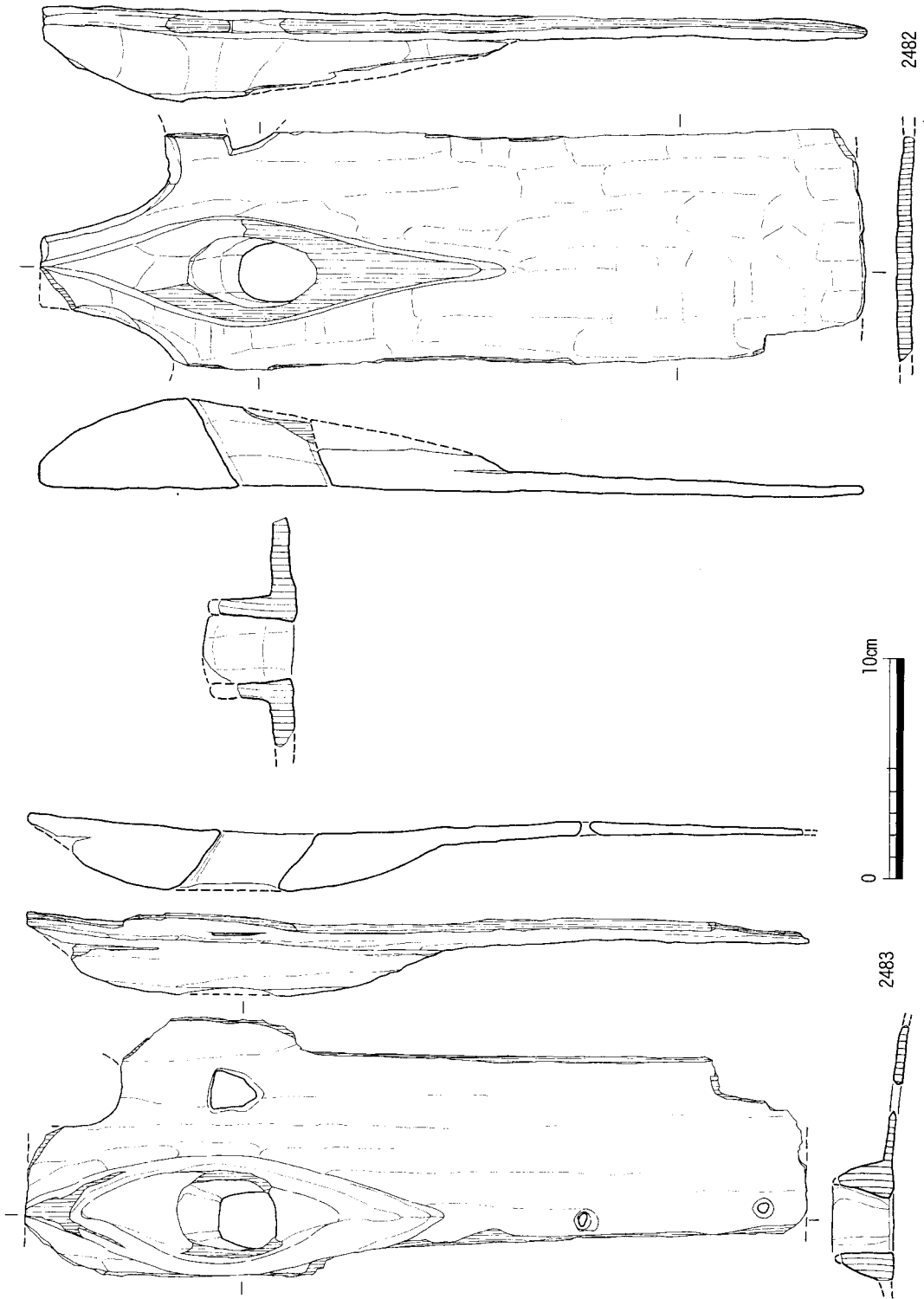
第550図 S D01出土木製品5 (1/3, 1/4)



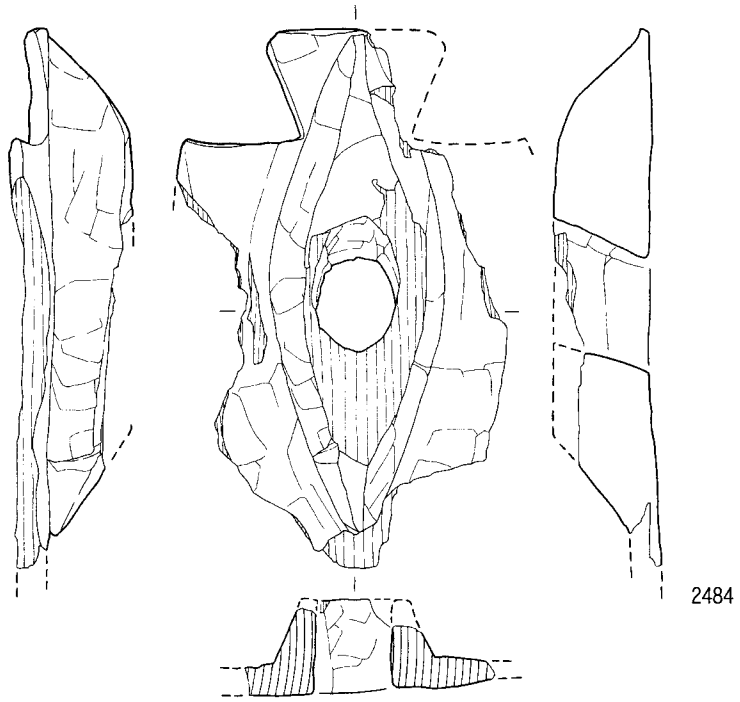
第551図 S D01出土木製品6 (1/3, 1/4)



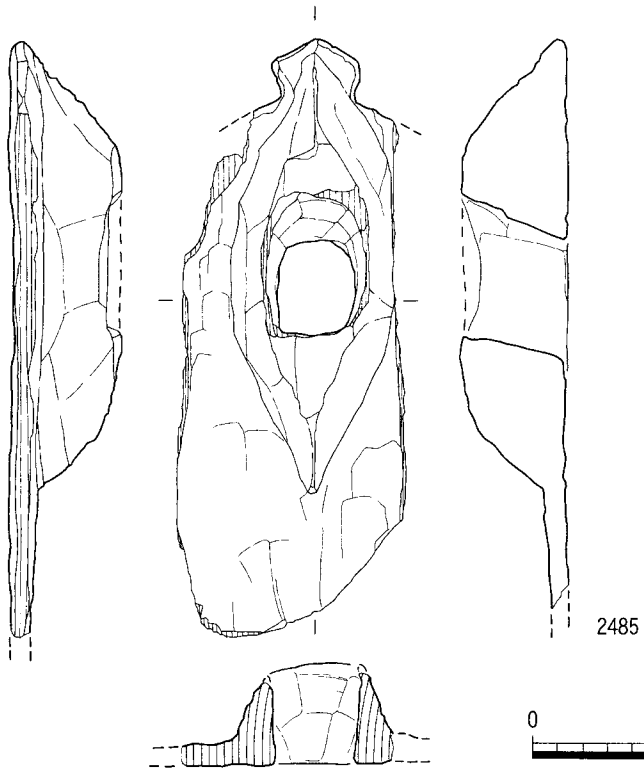
第552図 S D01出土木製品 7 (1/3)



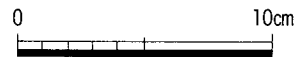
第553図 S D01出土木製品8 (1/3)



2484

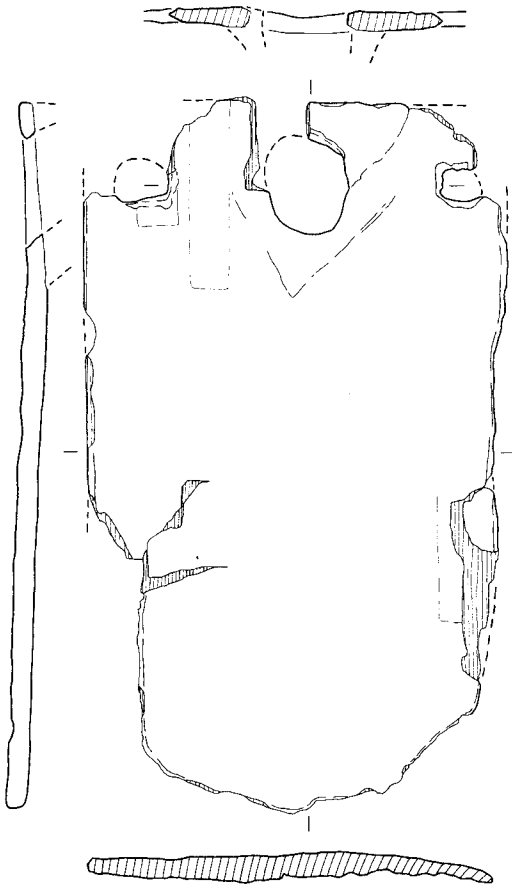


2485

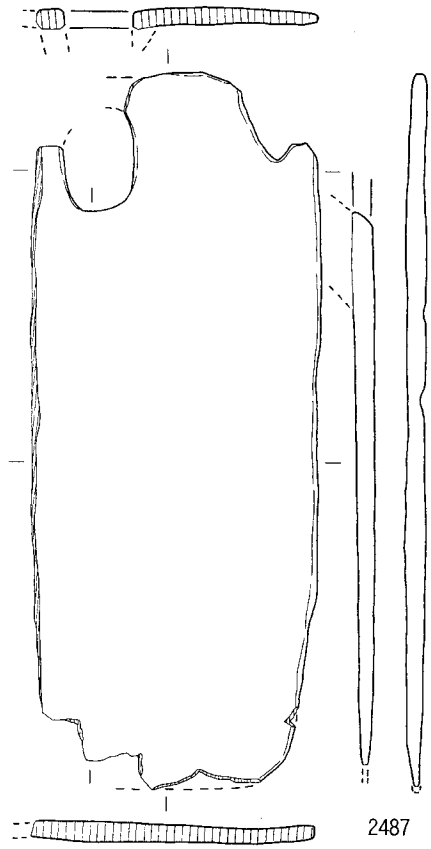


第554図 S D 01出土木製品 9 ( 1 / 3 )

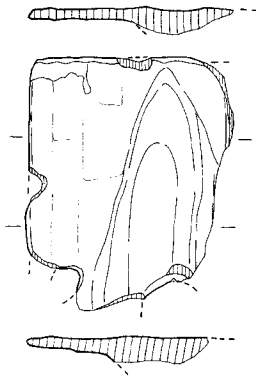




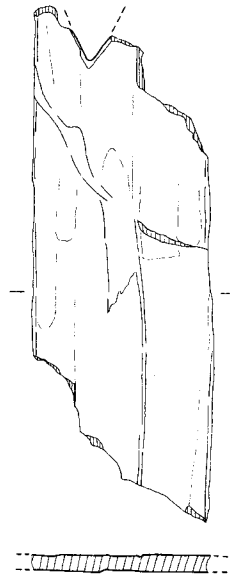
2486



2487



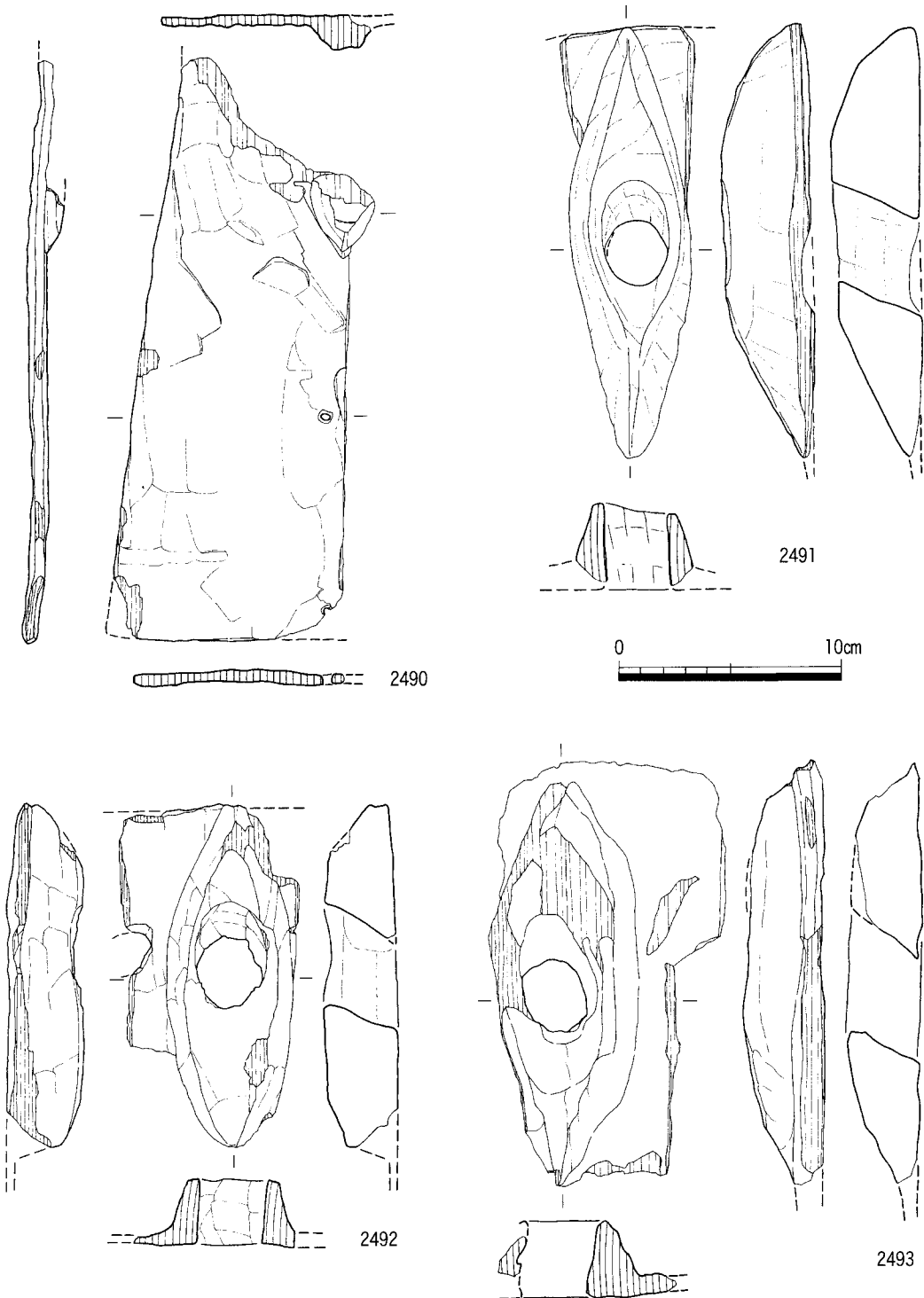
2488



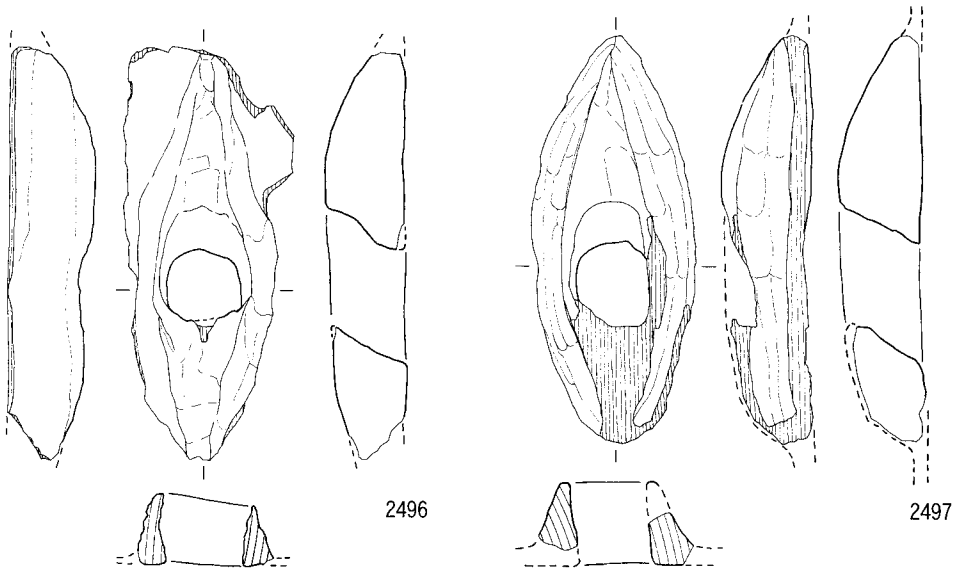
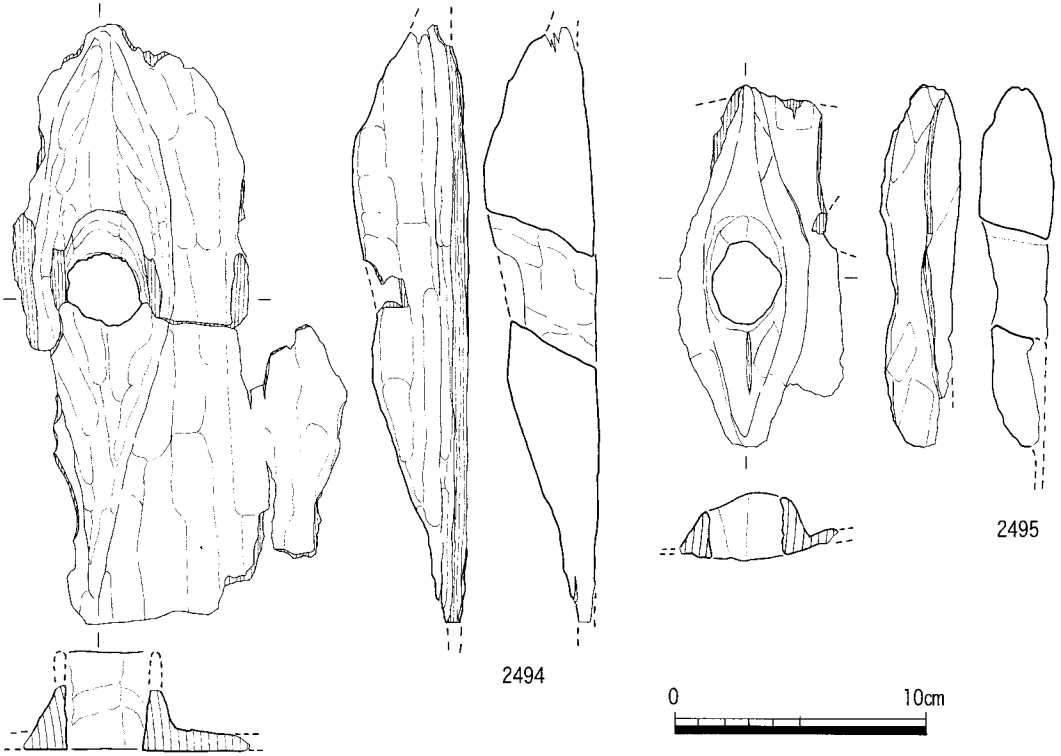
2489



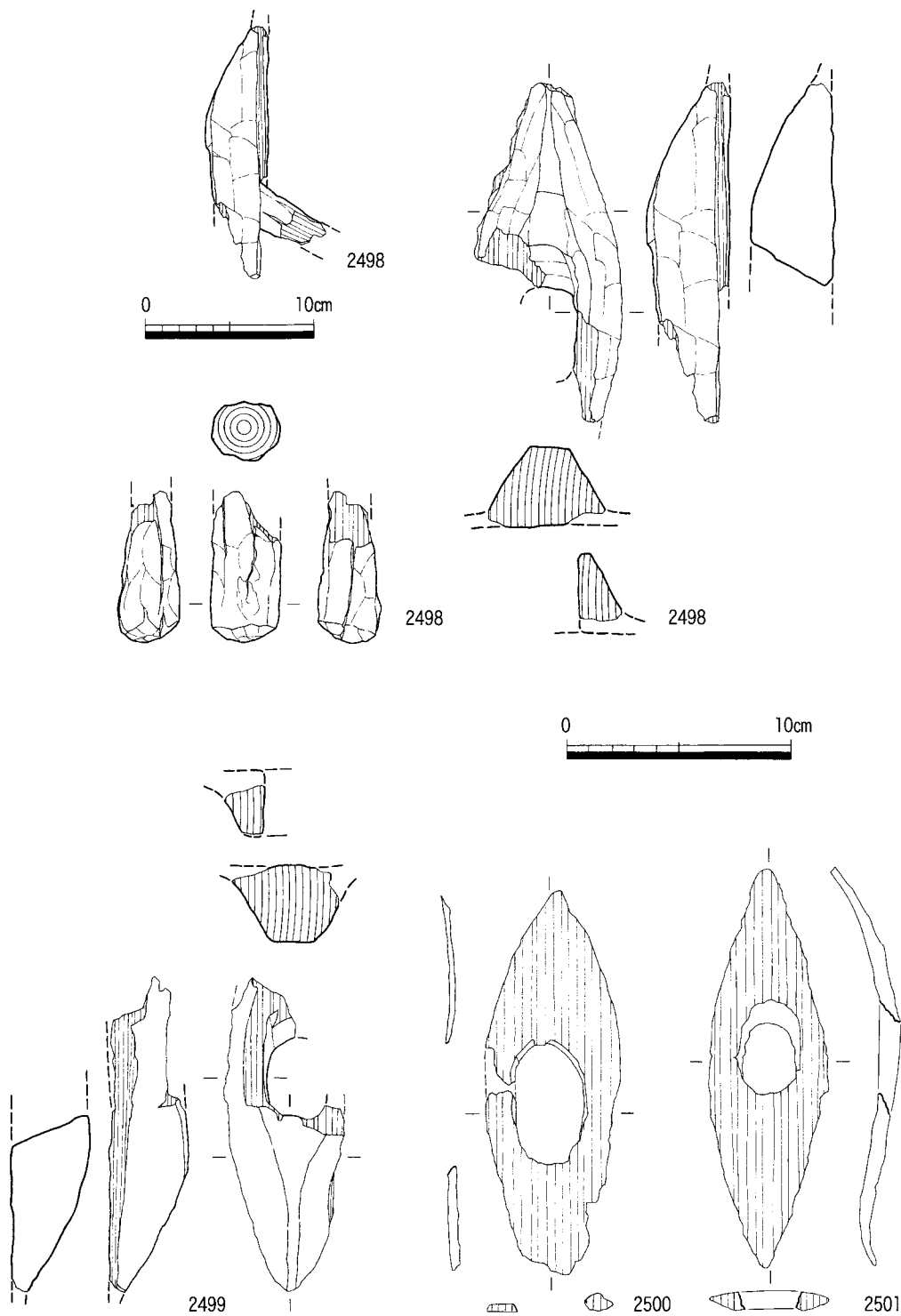
第555図 S D01出土木製品10 (1/3)



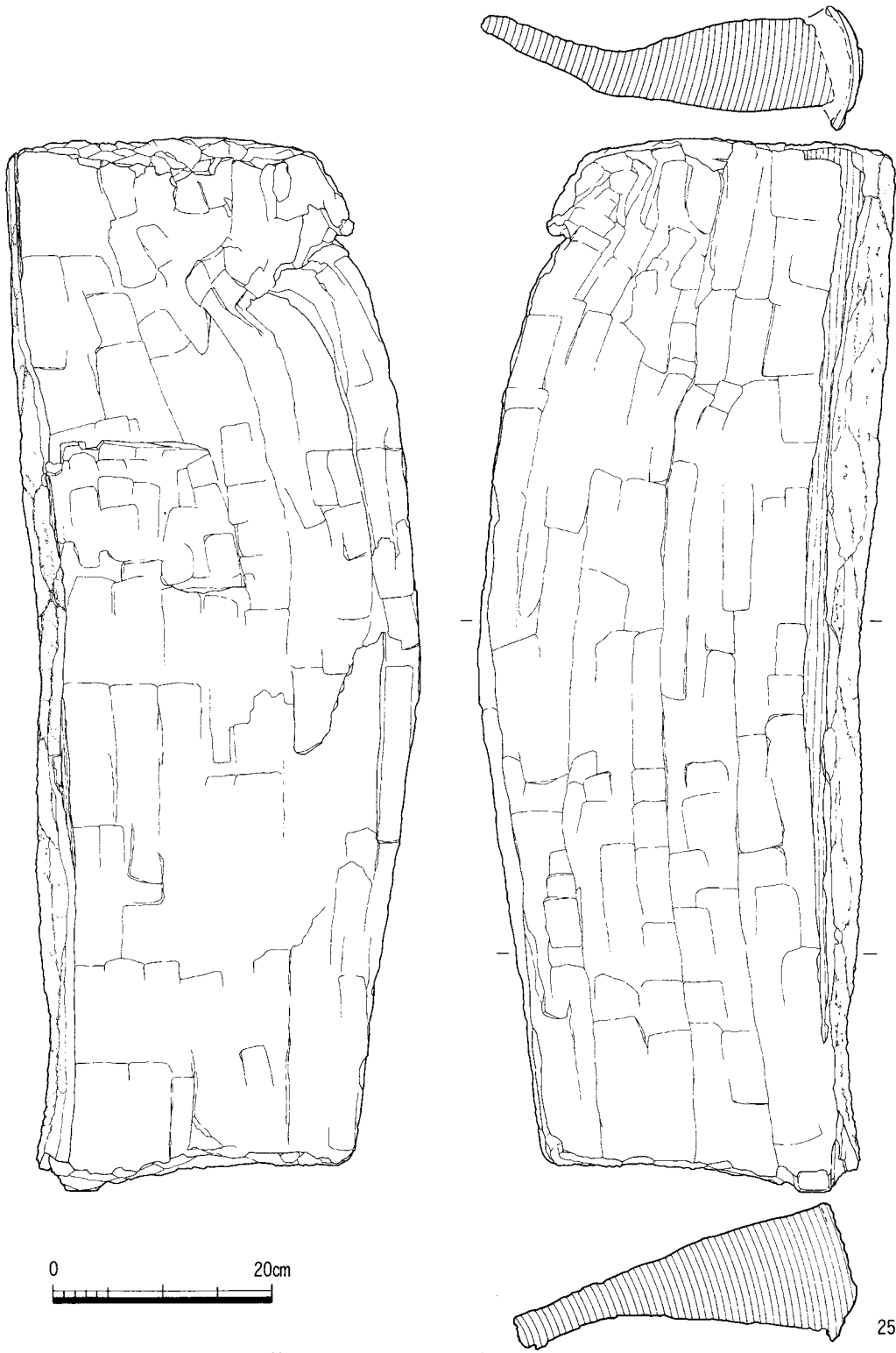
第556図 S D01出土木製品11 (1/3)



第557図 S D 01出土木製品12 (1 / 3)



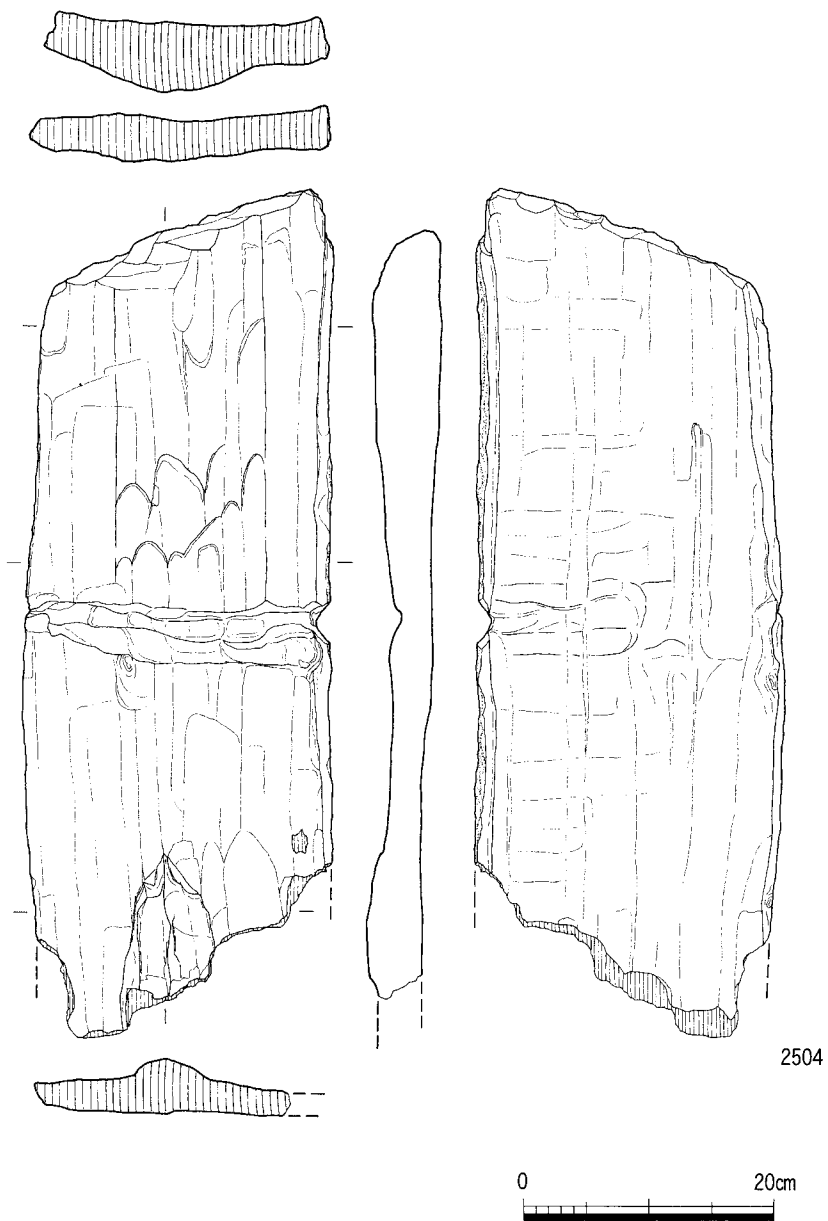
第558図 S D01出土木製品13 (1/3, 1/4)



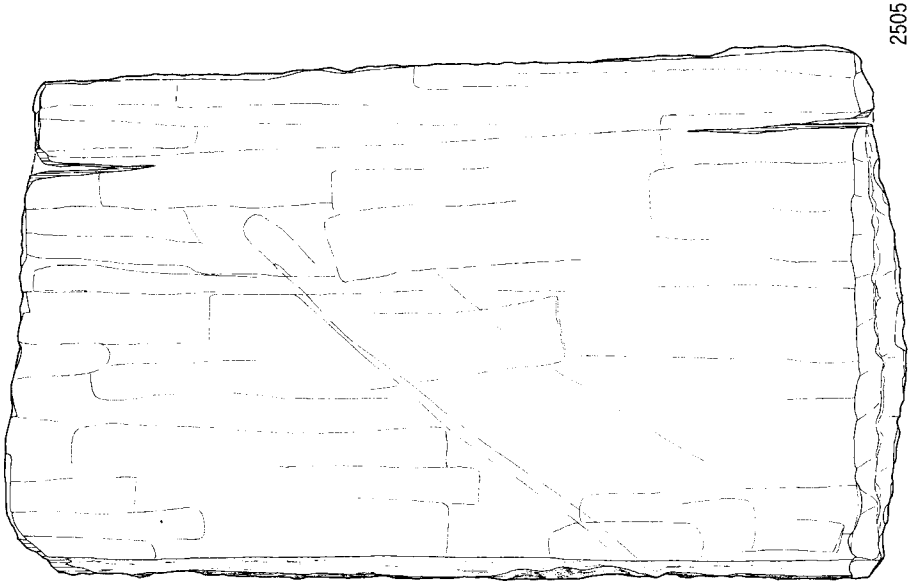
第559図 S D01出土木製品14 (1/6)



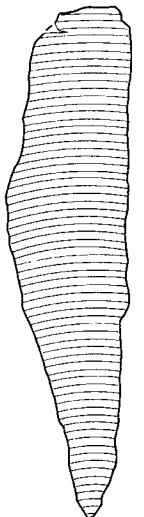
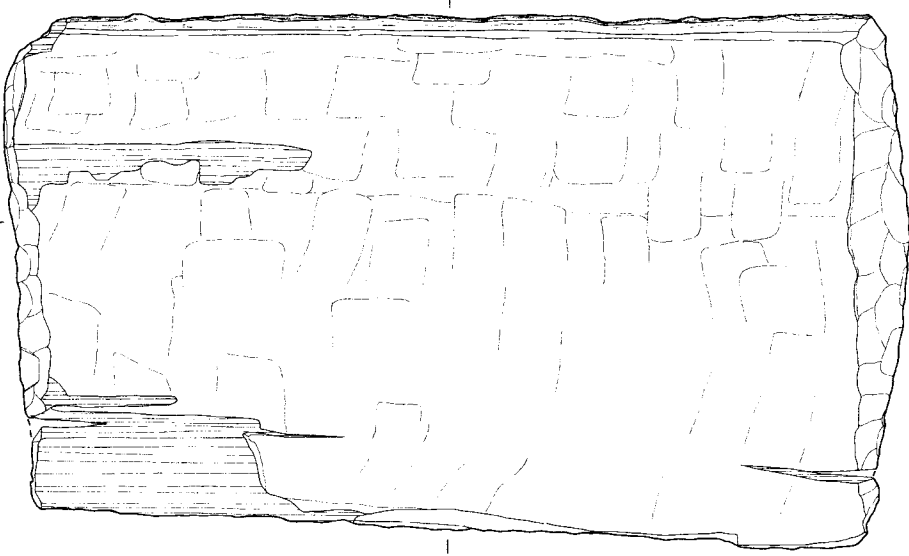
第560図 S D01出土木製品 (1/6)



第561図 S D01出土木製品16 (1/6)

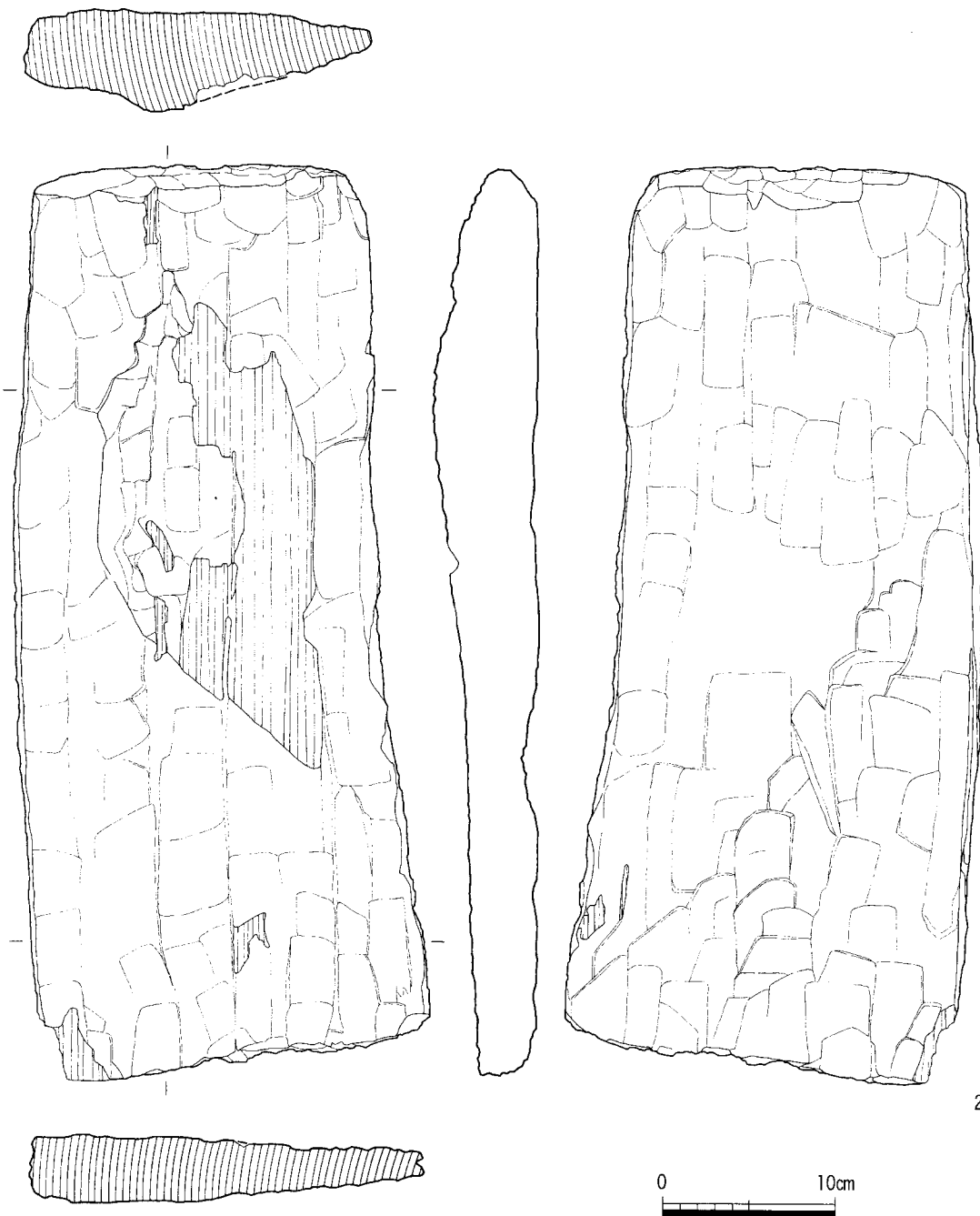


2505



第562図 S D01出土木製品17 (1/4)



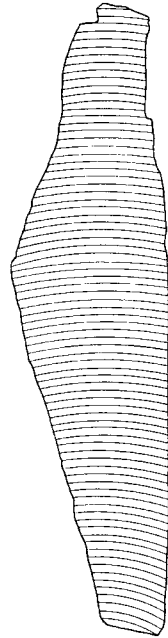
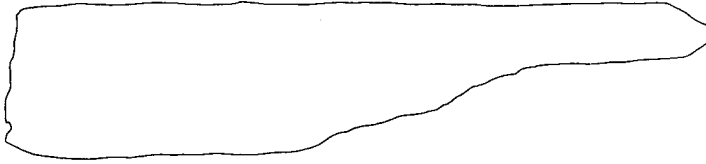
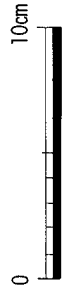


2506

第563図 S D01出土木製品18 (1/4)



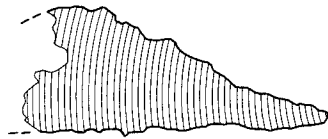
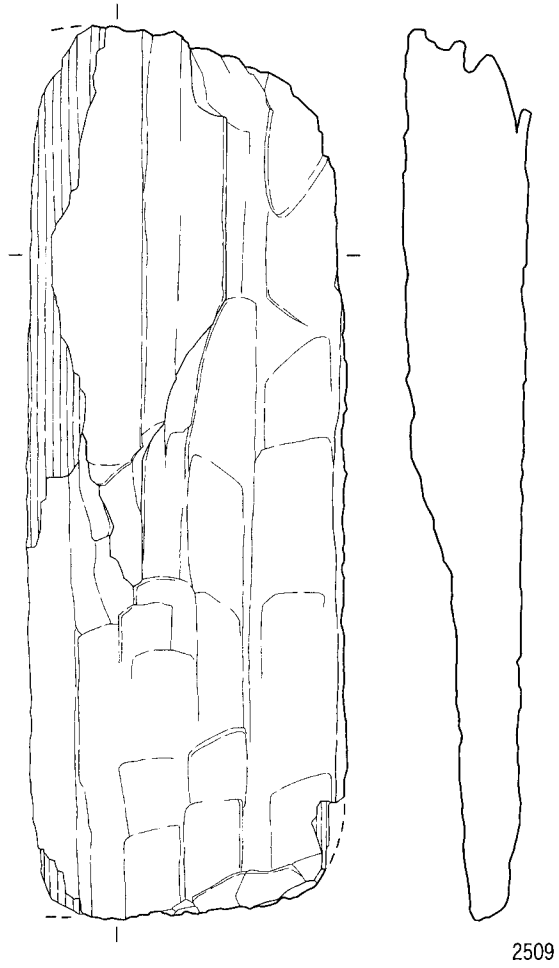
2507



第564図 S D01出土木製品19 (1/3)



第565図 S D01出土木製品20 (1/3)



第566図 S D01出土木製品21 (1/3)

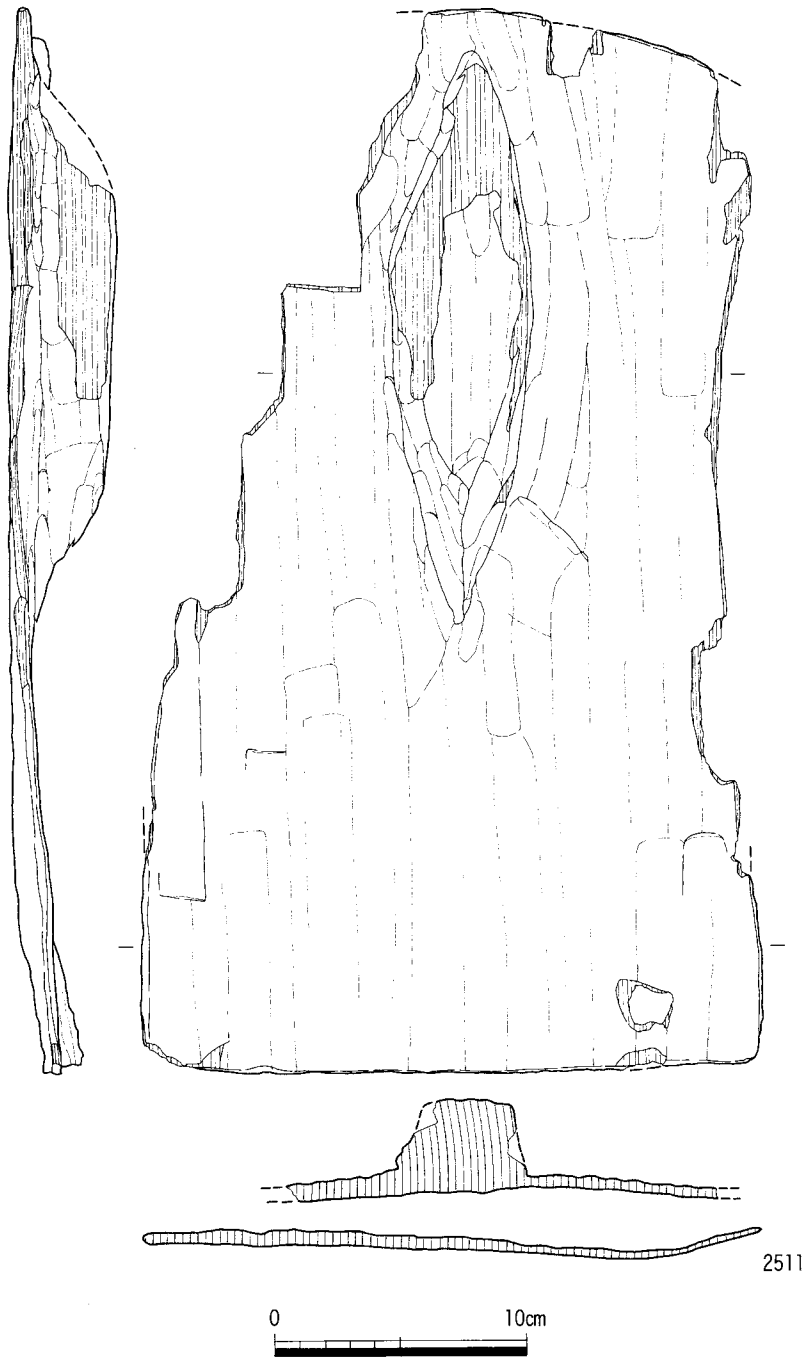


0 10cm

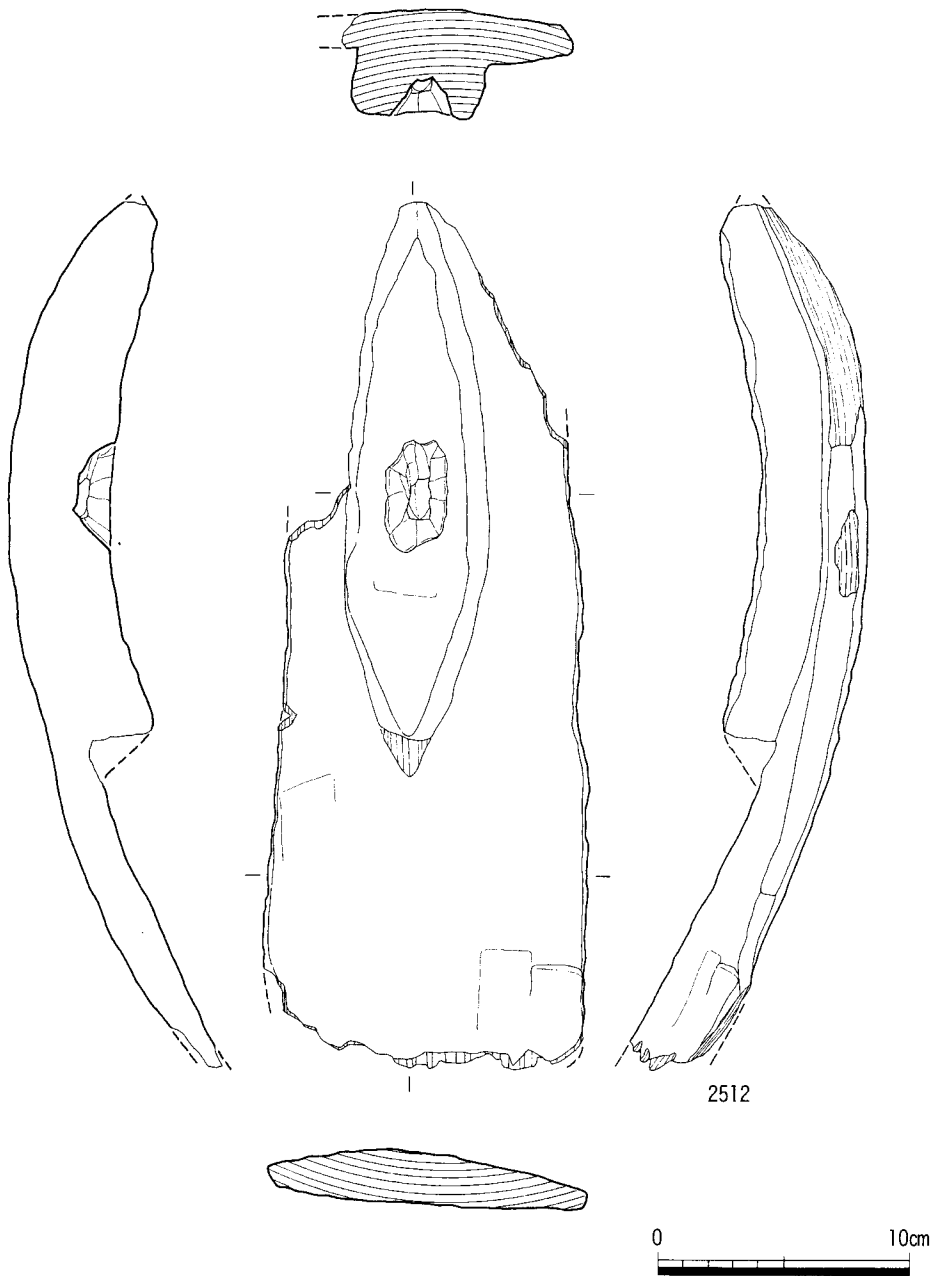


2510

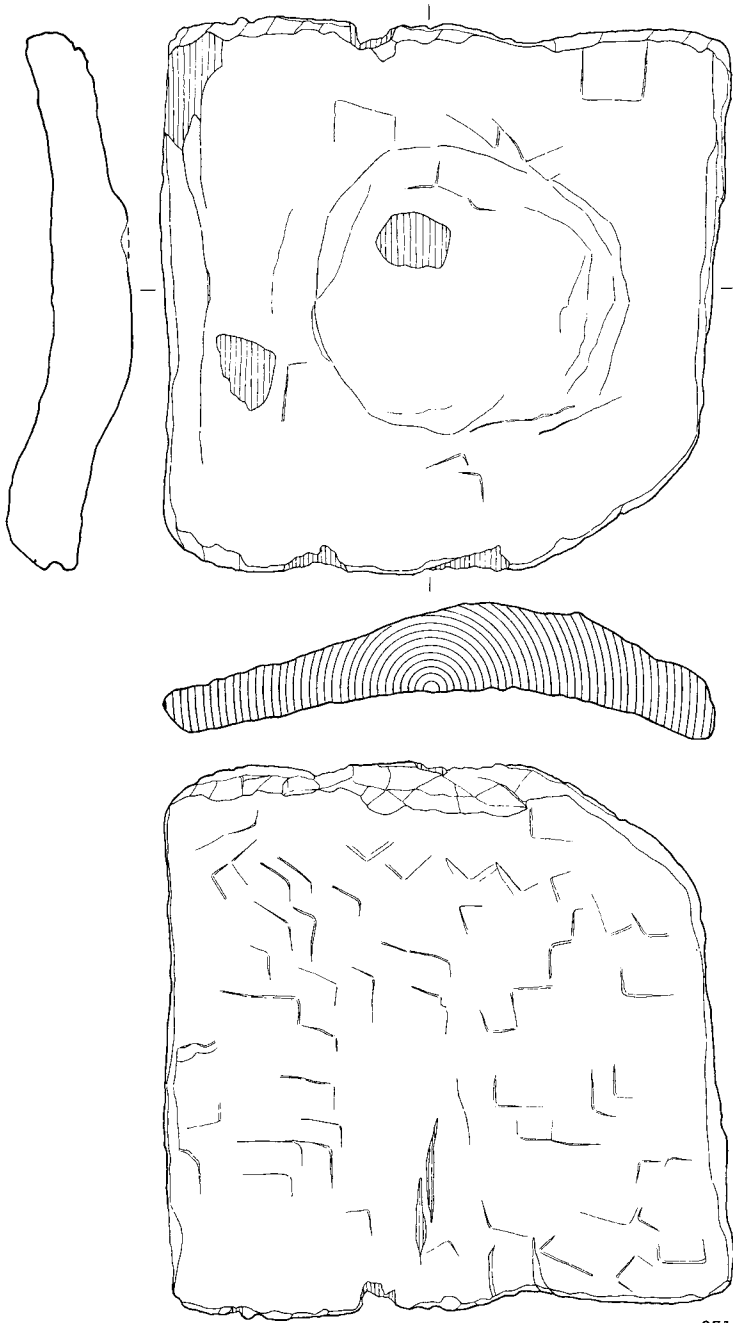
第567図 S D01出土木製品22 (1/3)



第568図 S D01出土木製品23 (1/3)



第569図 S D01出土木製品24 (1/3)

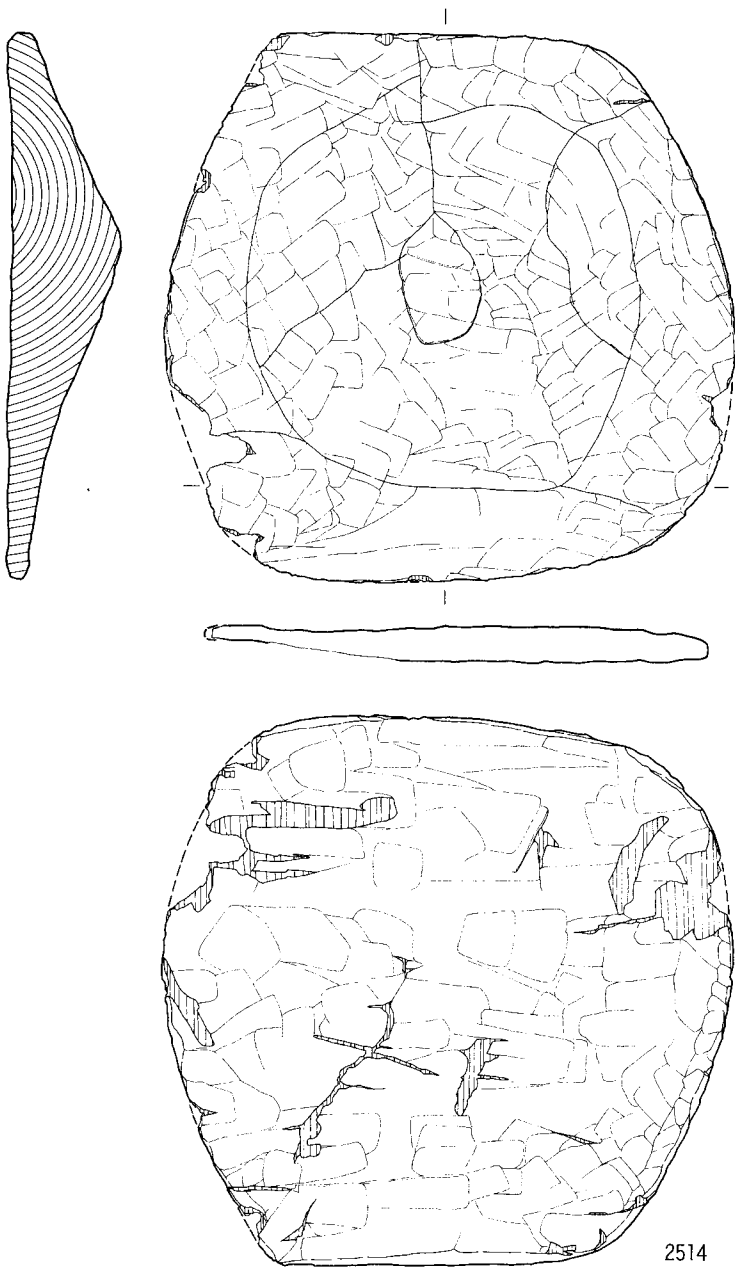


2513



第570図 S D01出土木製品25 (1/6)

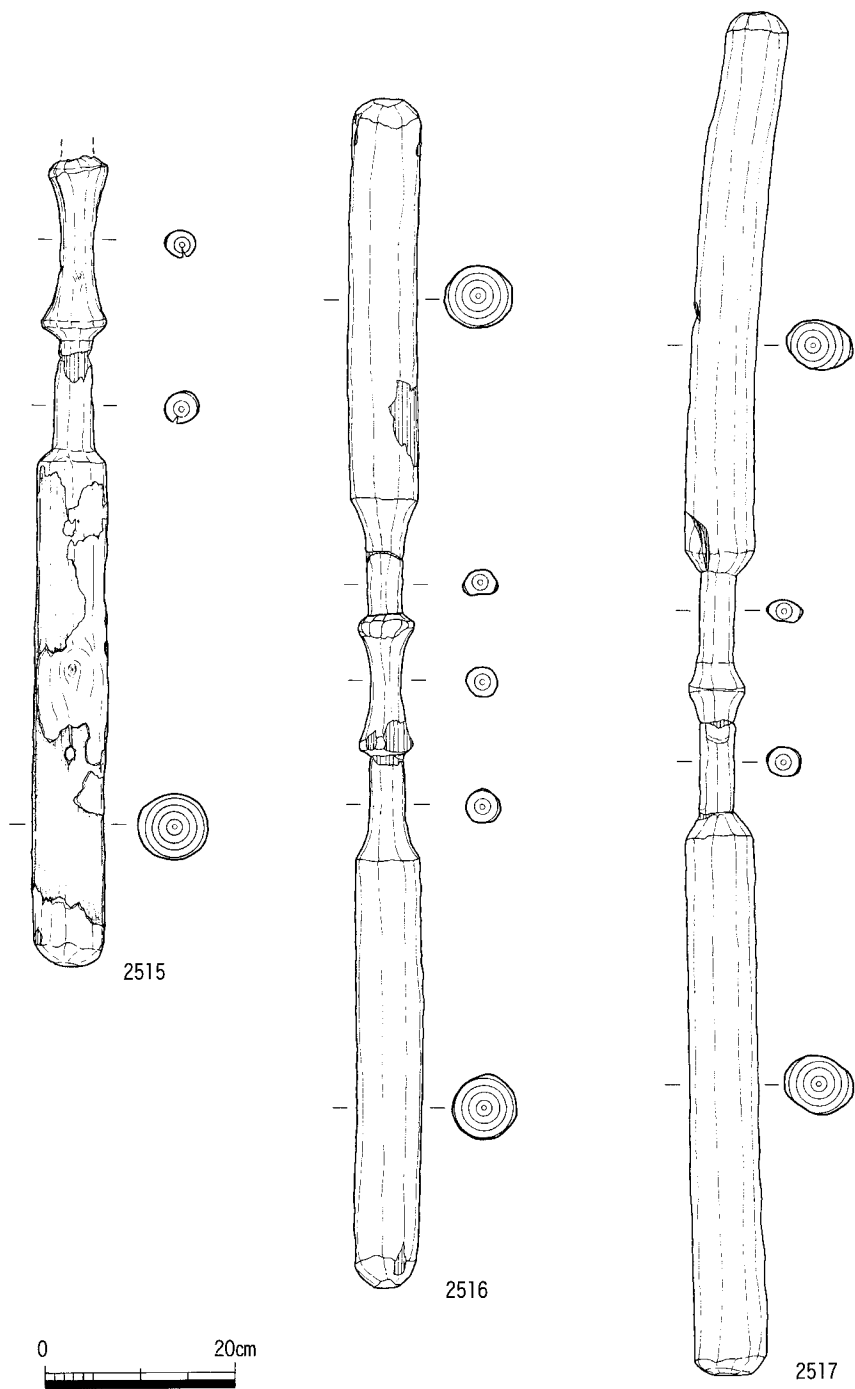




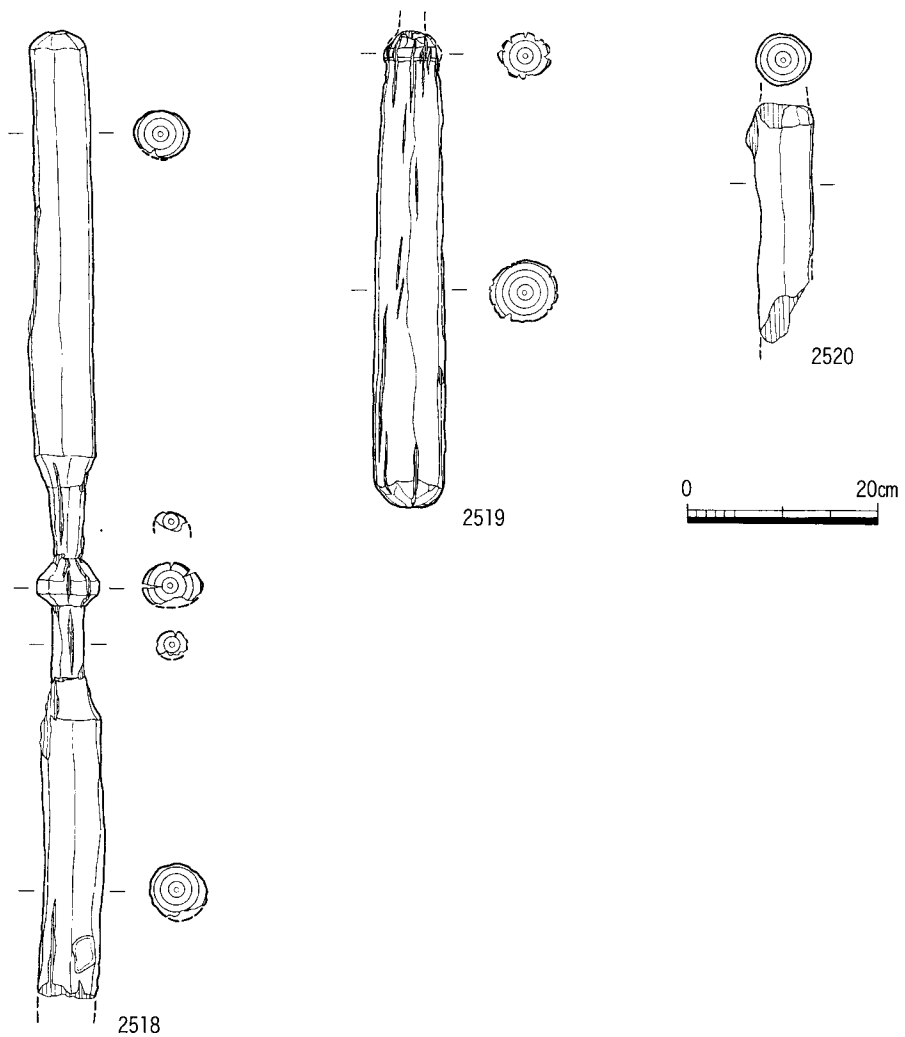
2514



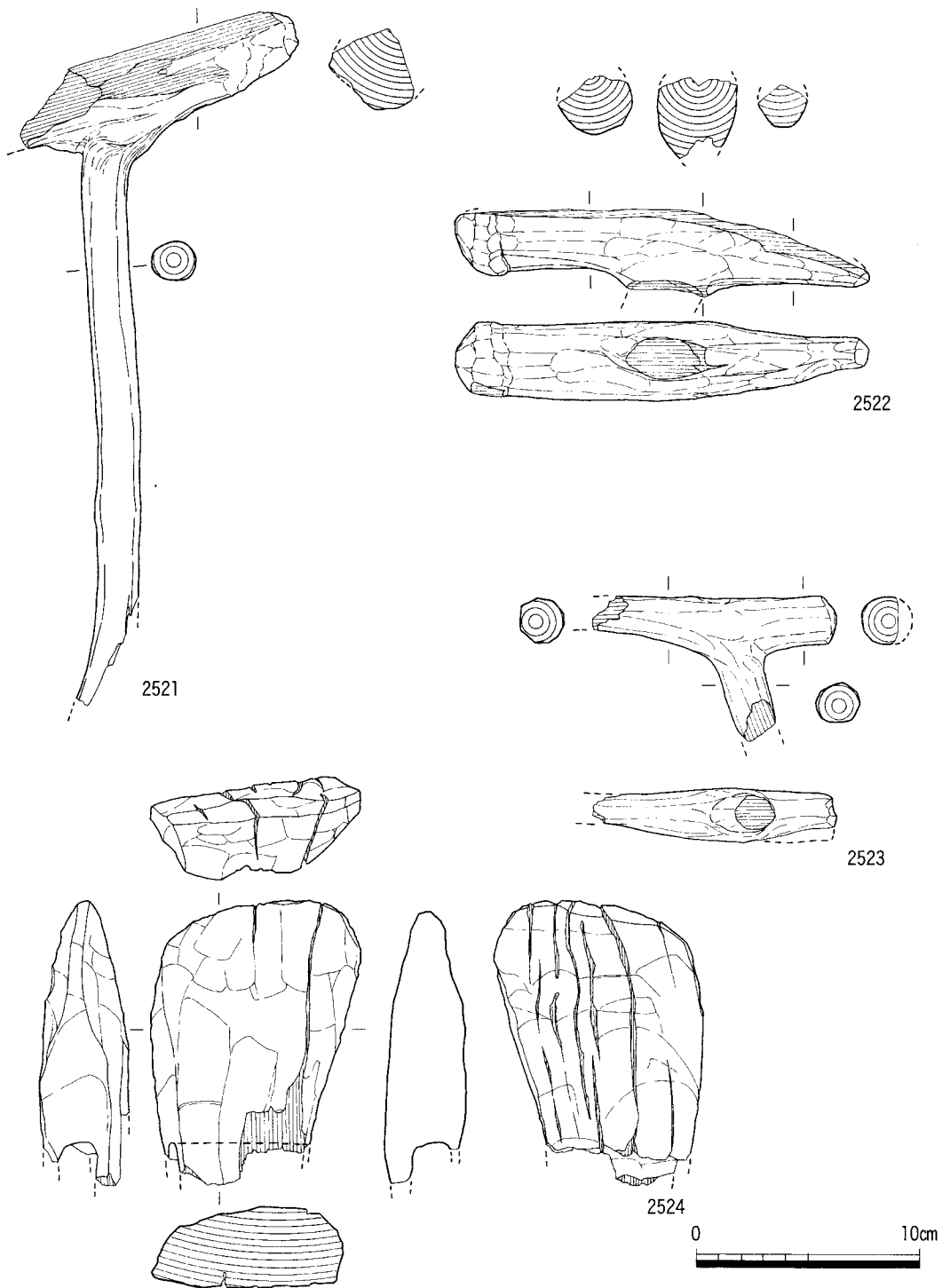
第571図 S D01出土木製品26 (1/5)



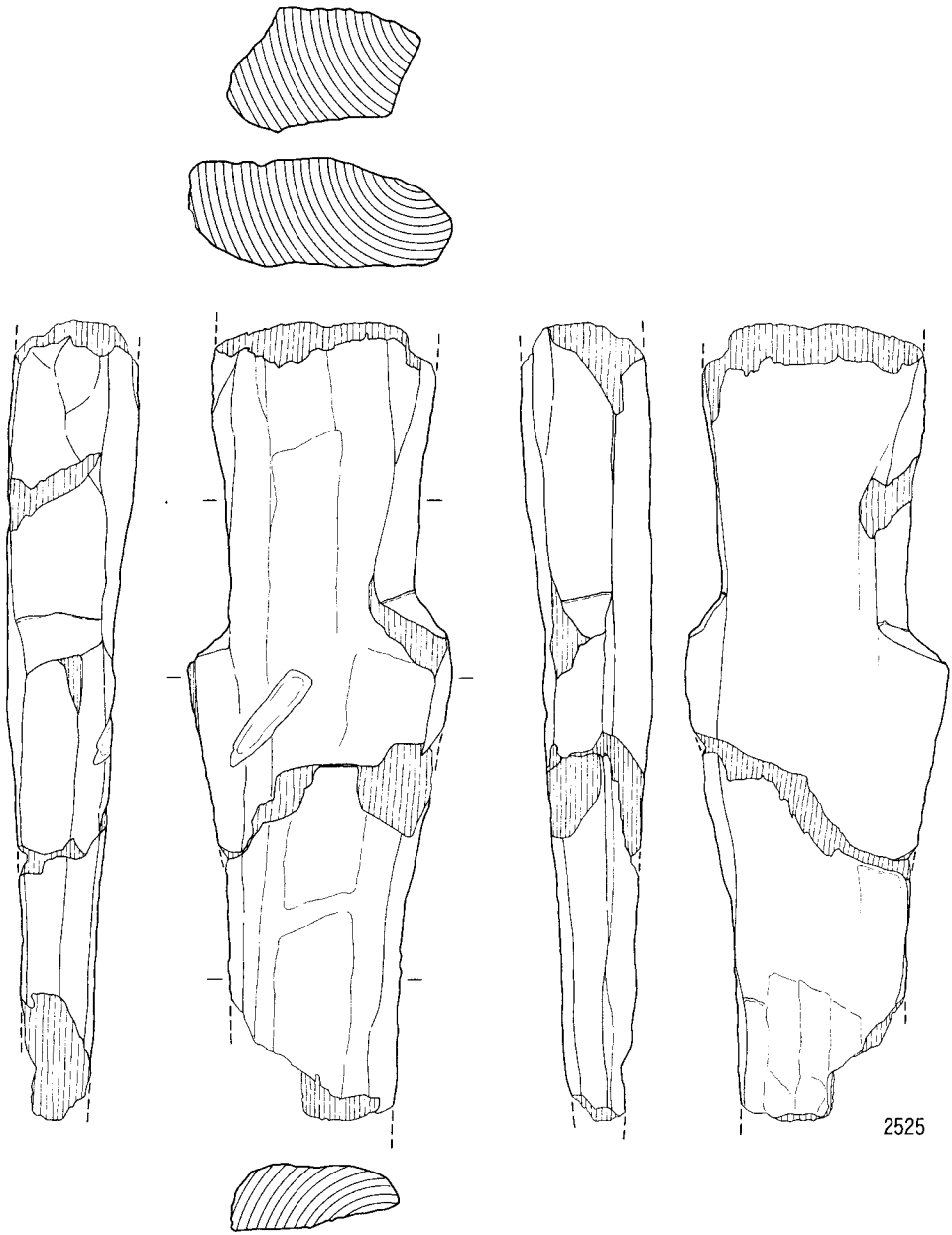
第572図 S D01出土木製品27 (1/8)



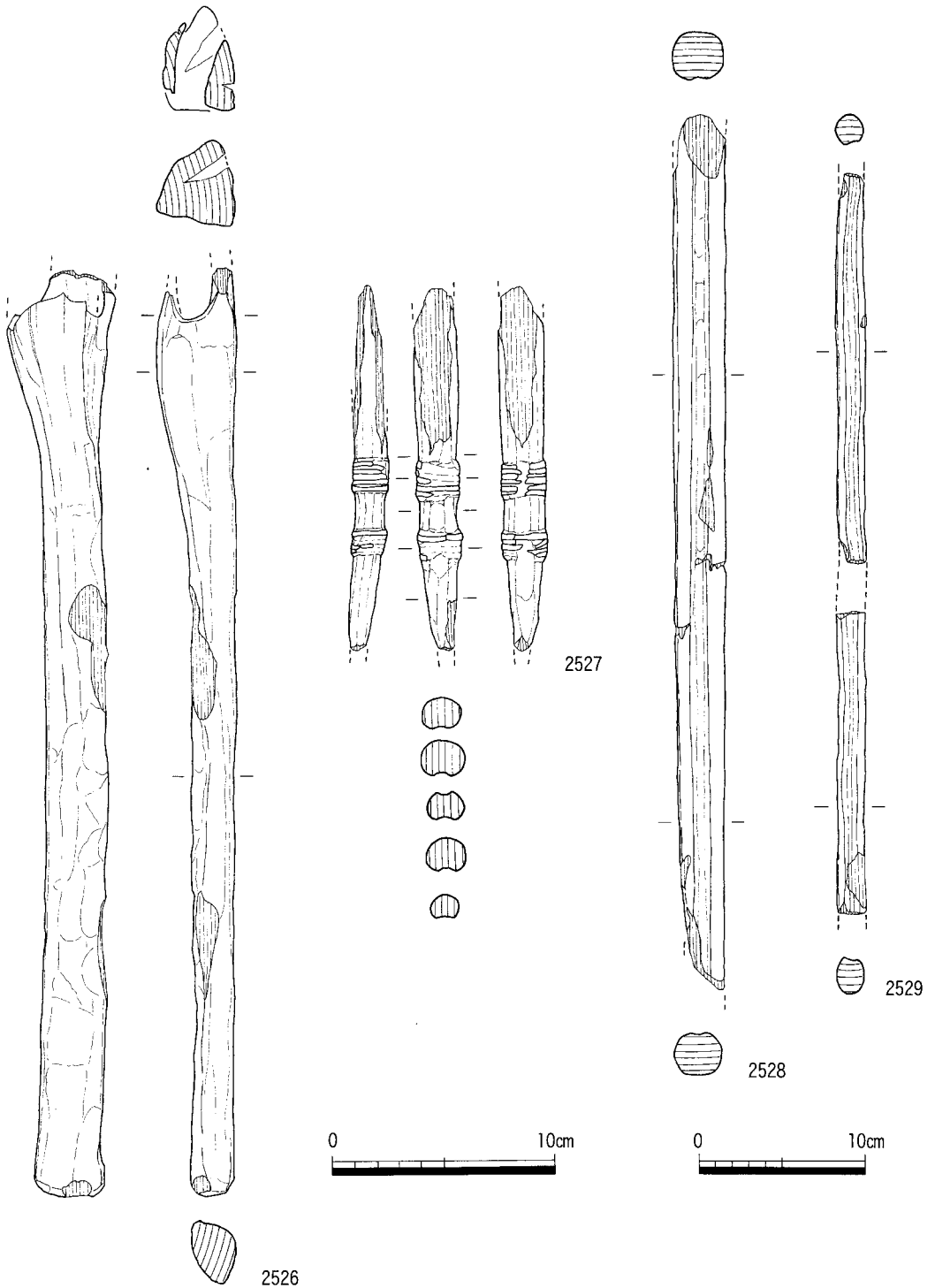
第573図 S D01出土木製品28 ( 1 / 8 )



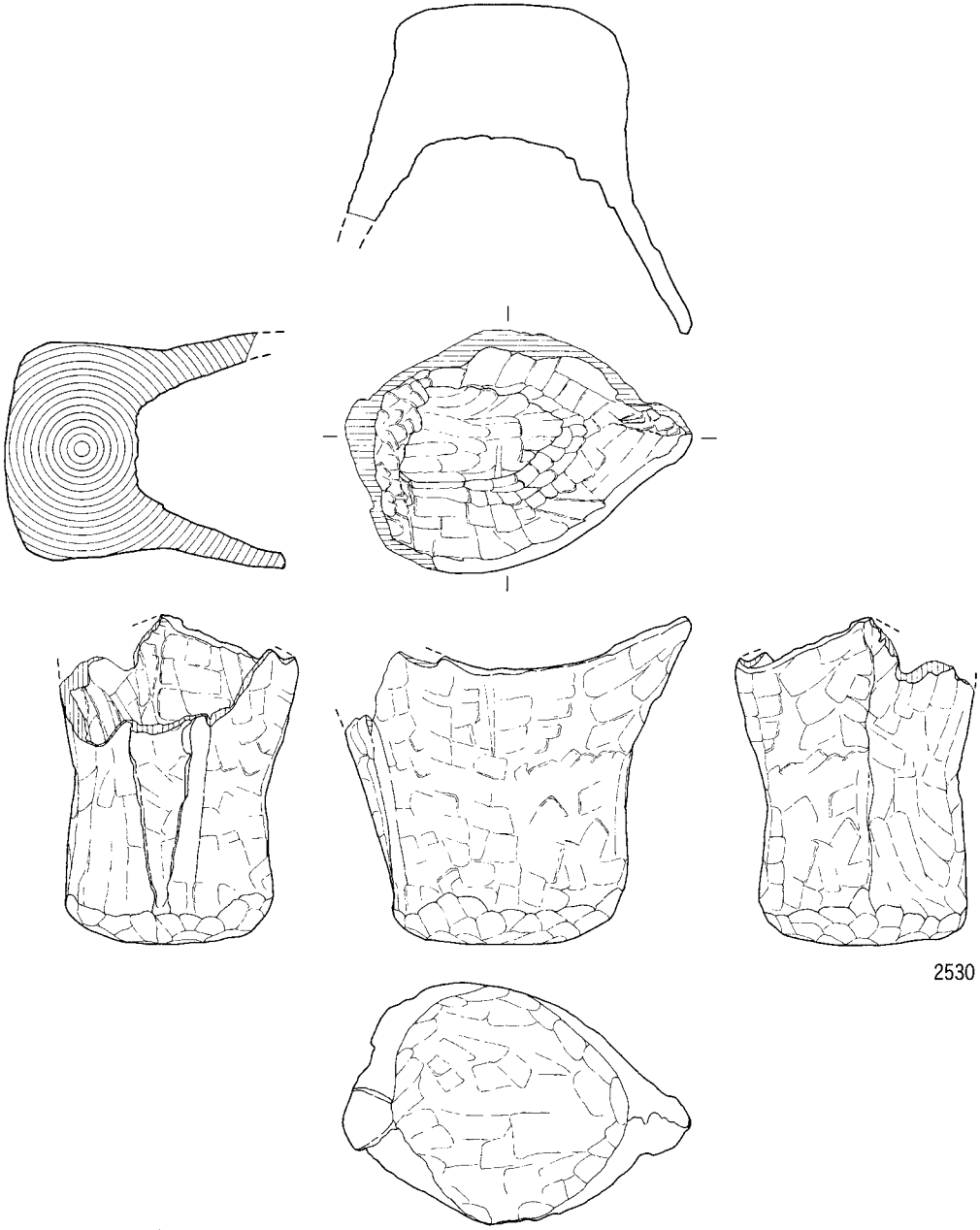
第574図 S D01出土木製品29 (1/3)



第575図 S D01出土木製品30 (1/3)

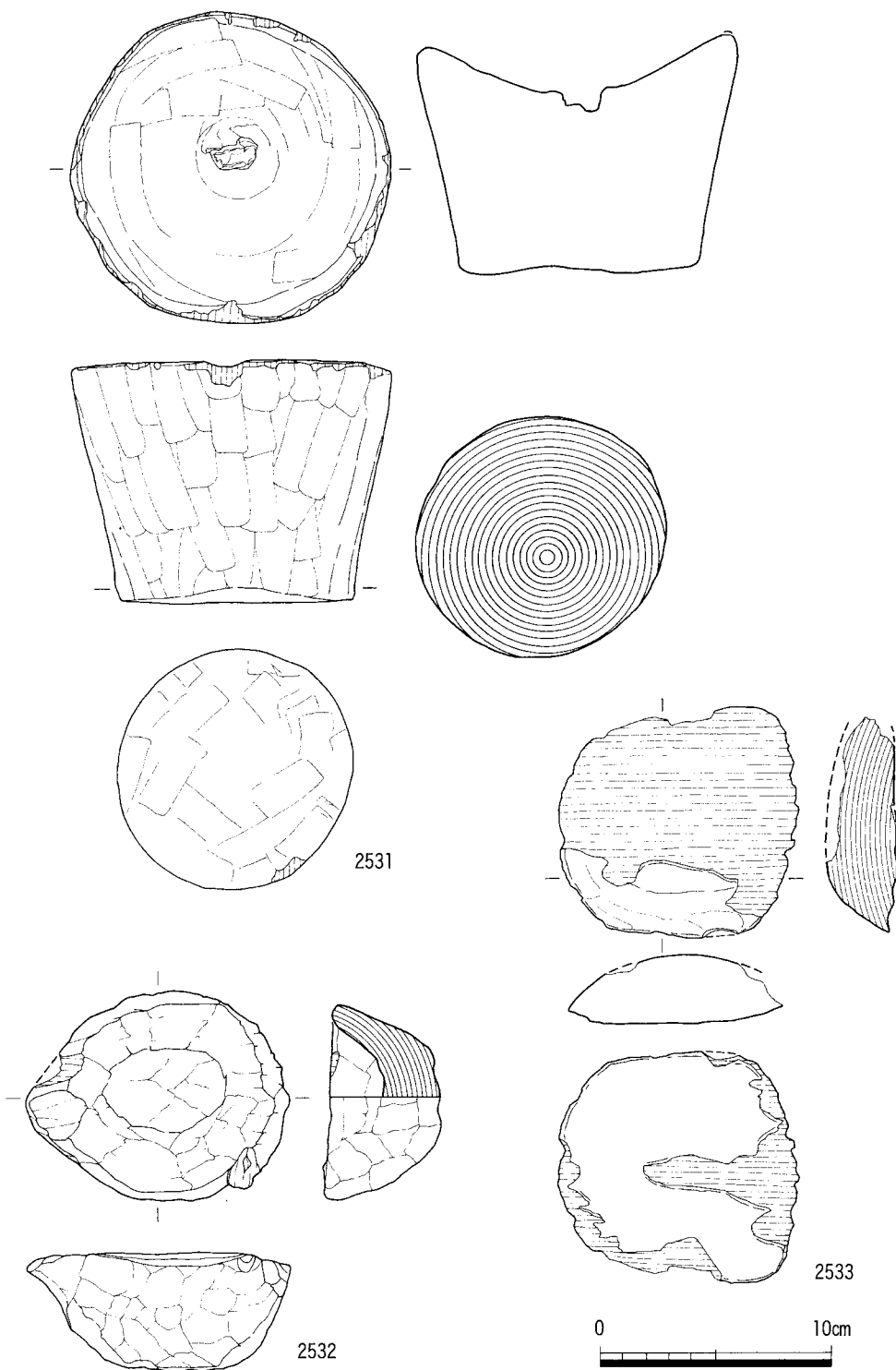


第576図 S D01出土木製品31 (1/3, 1/4)



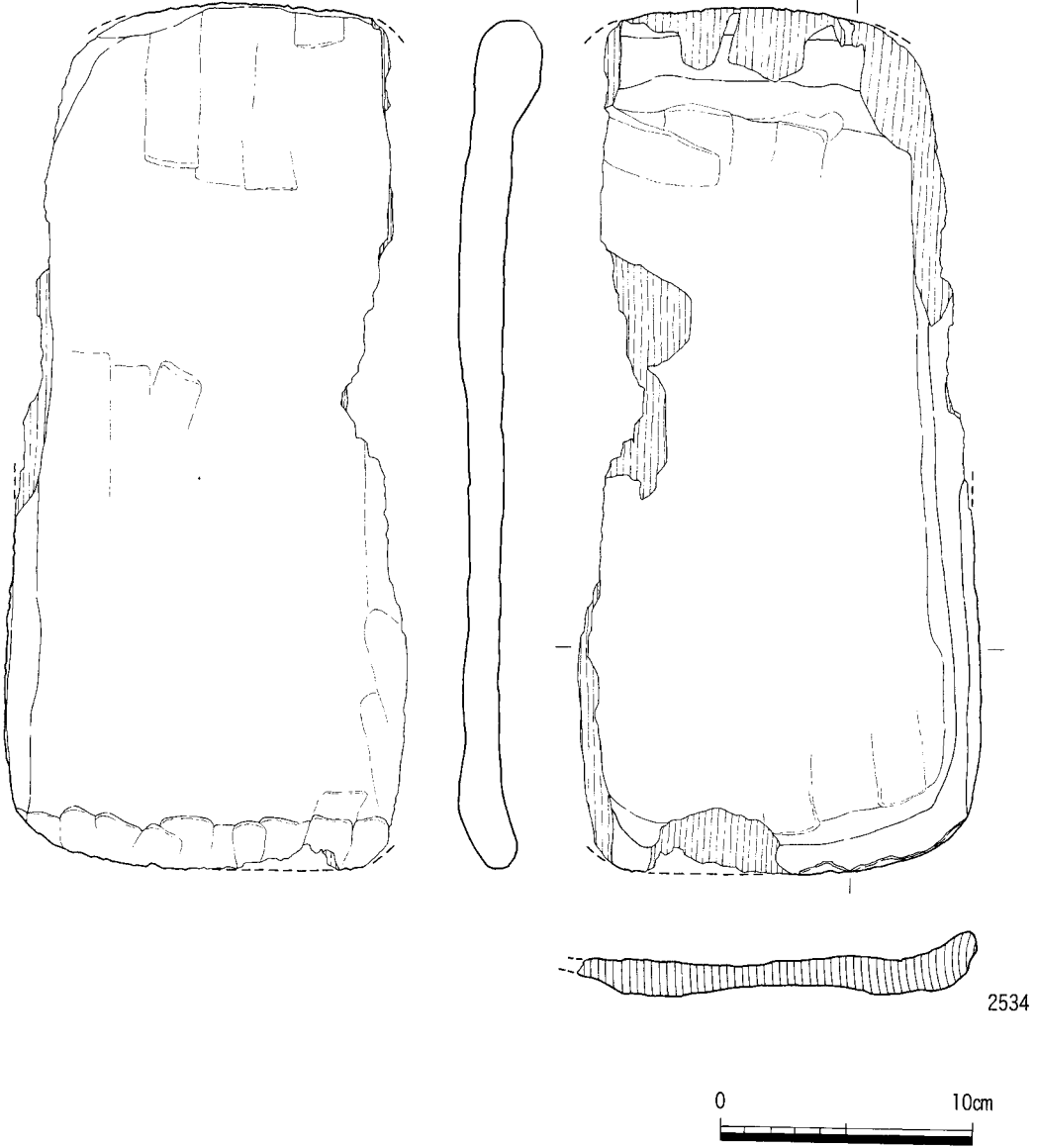
2530

第577図 S D01出土木製品32 (1 / 3)

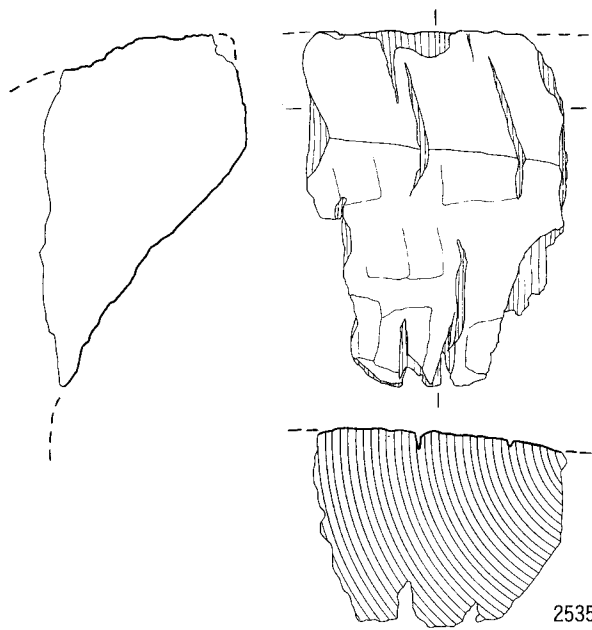


第578図 S D01出土木製品33 (1/3)

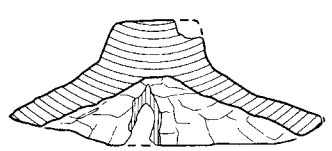
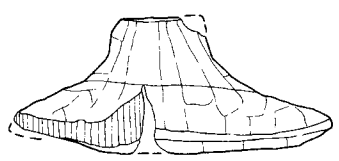
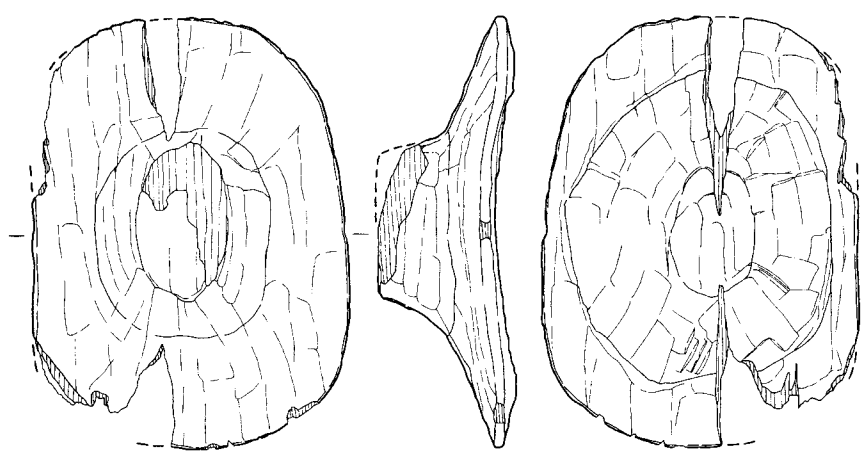




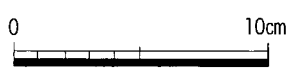
第579図 S D01出土木製品34 (1 / 3)



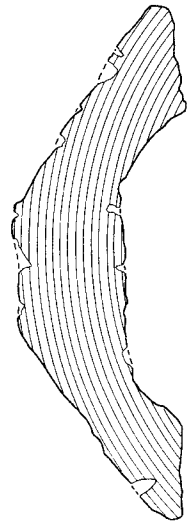
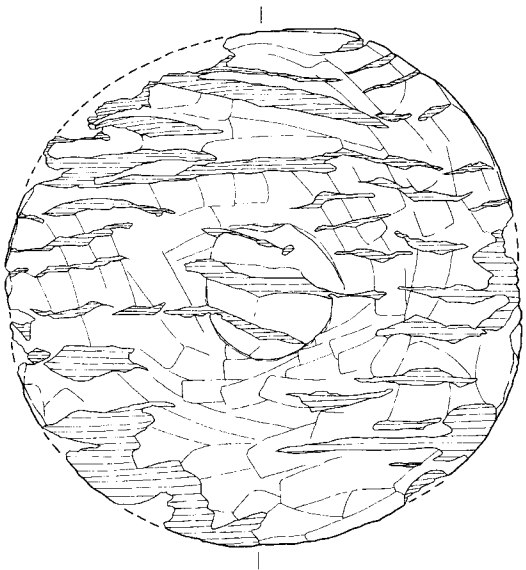
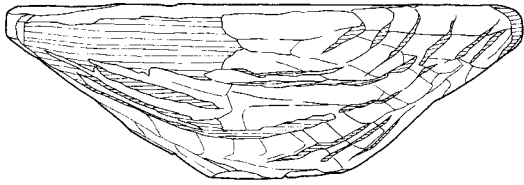
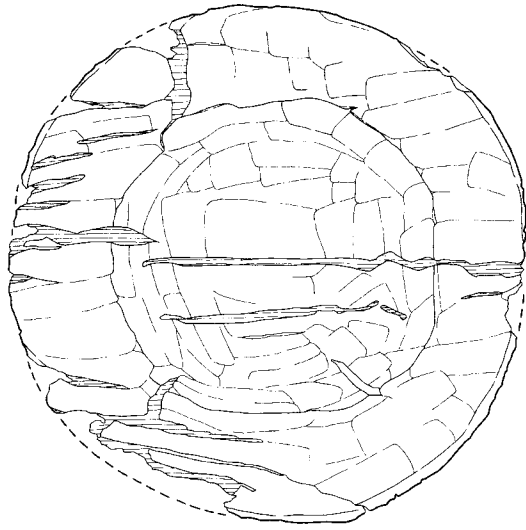
2535



2536



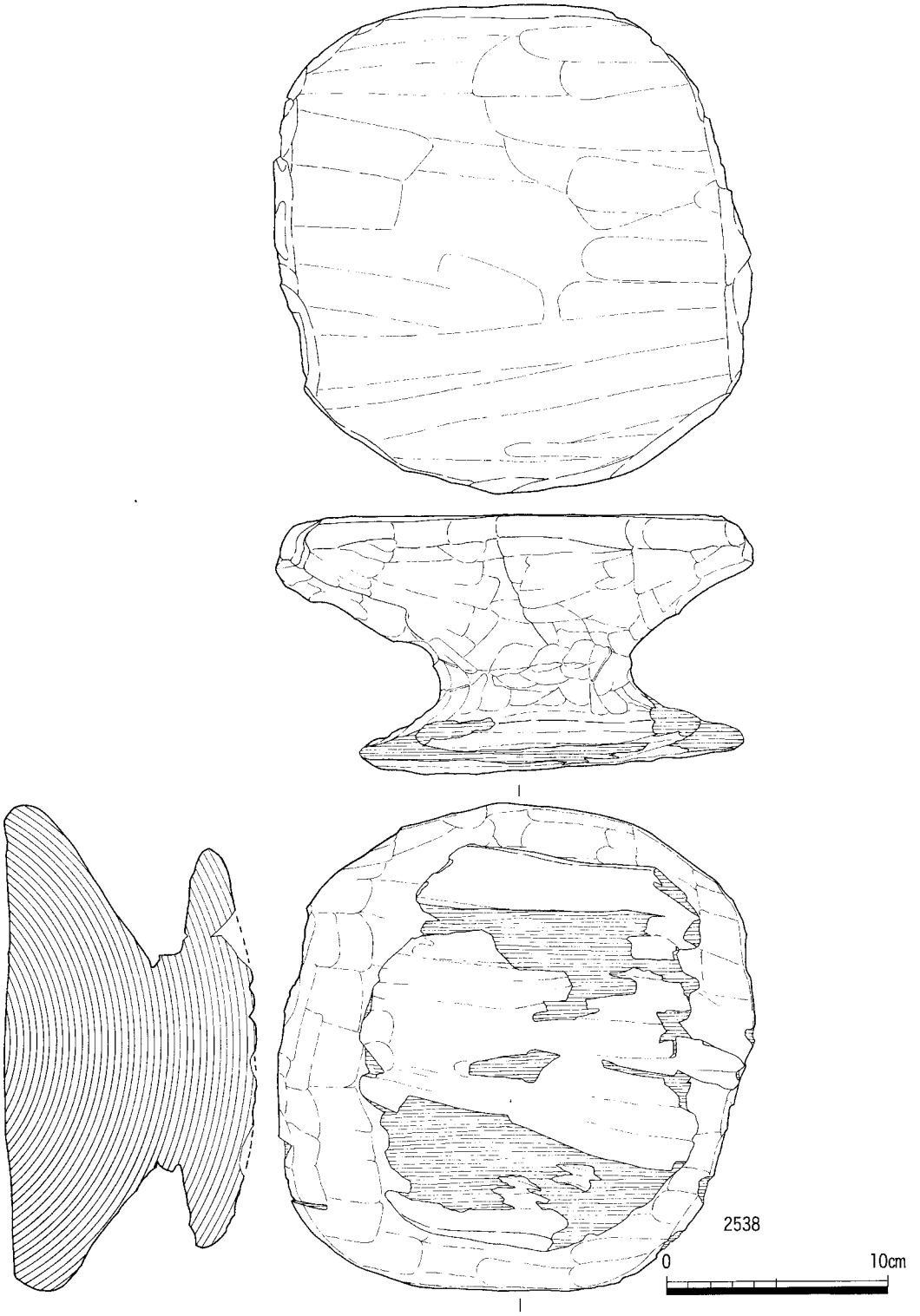
第580図 S D01出土木製品35 (1/3)



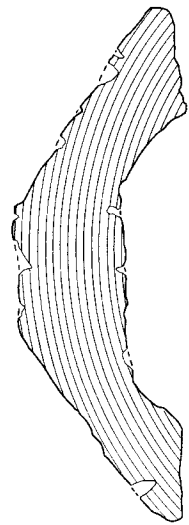
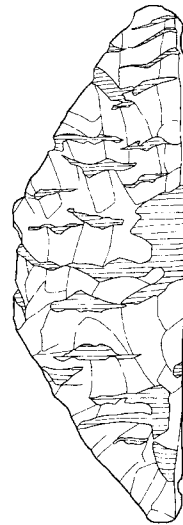
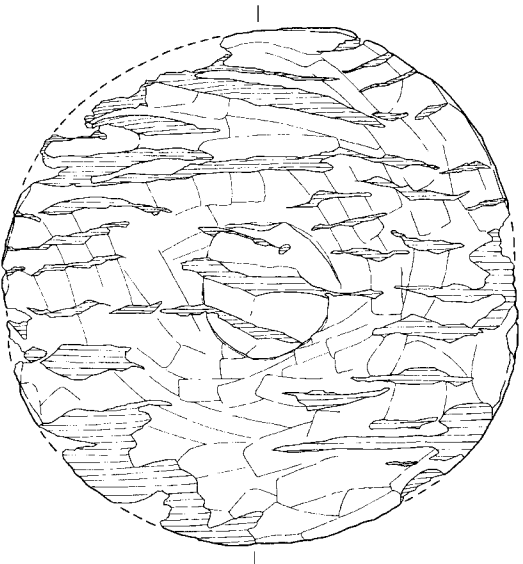
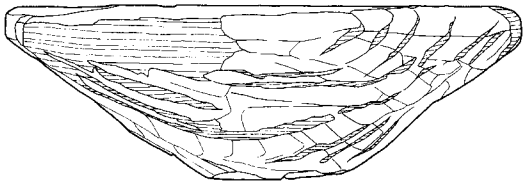
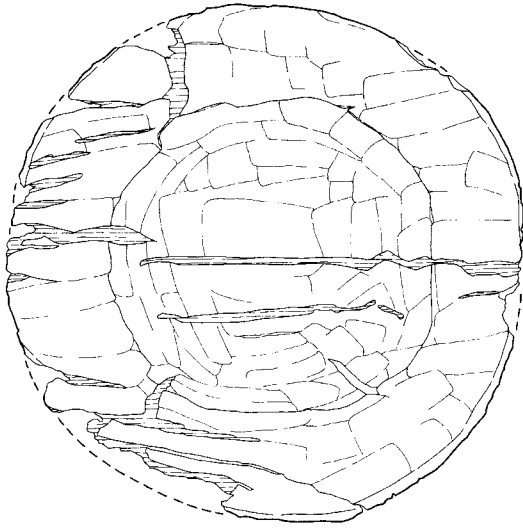
2537



第581図 S D01出土木製品36 (1/3)

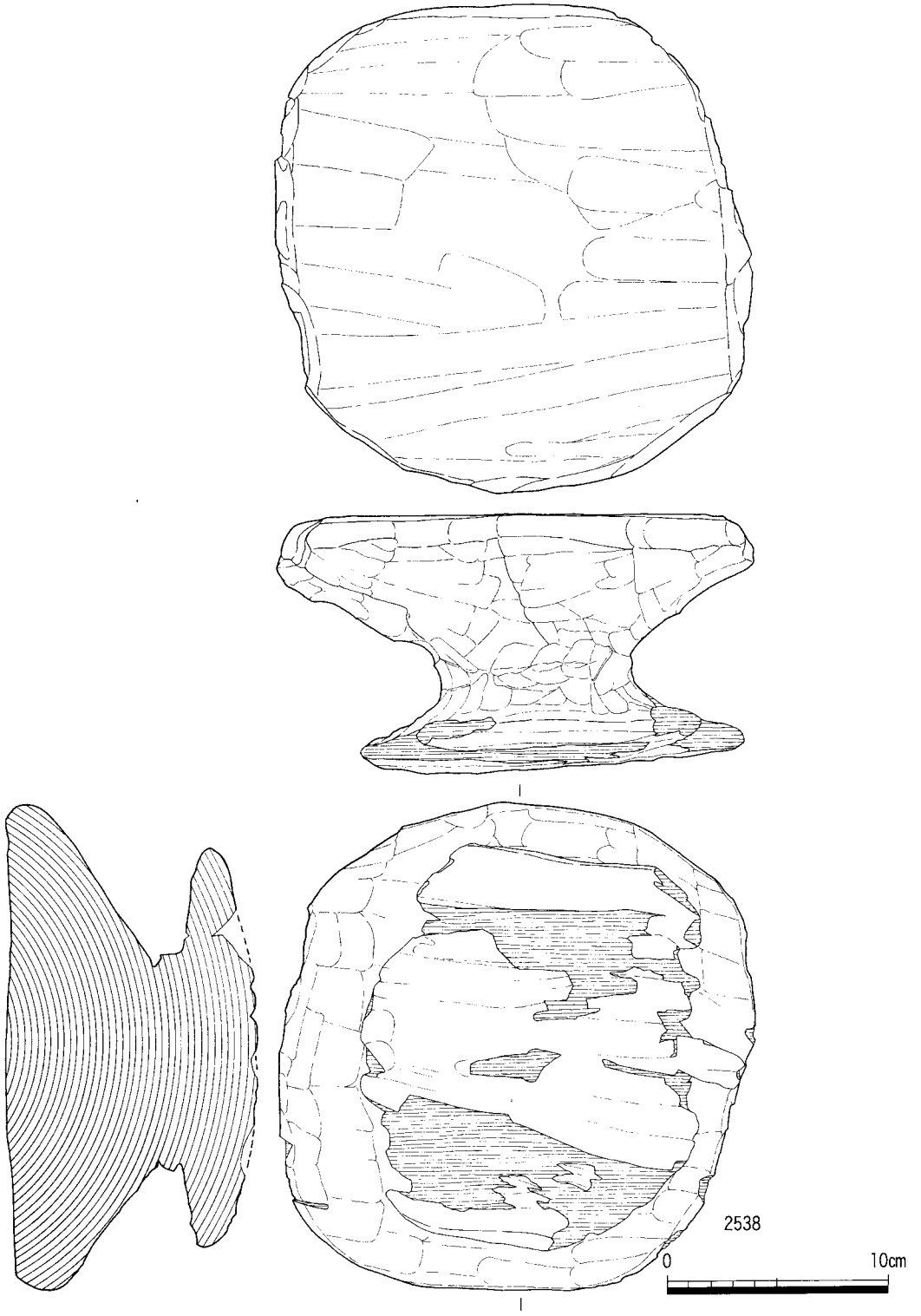


第582図 S D01出土木製品37 (1/3)

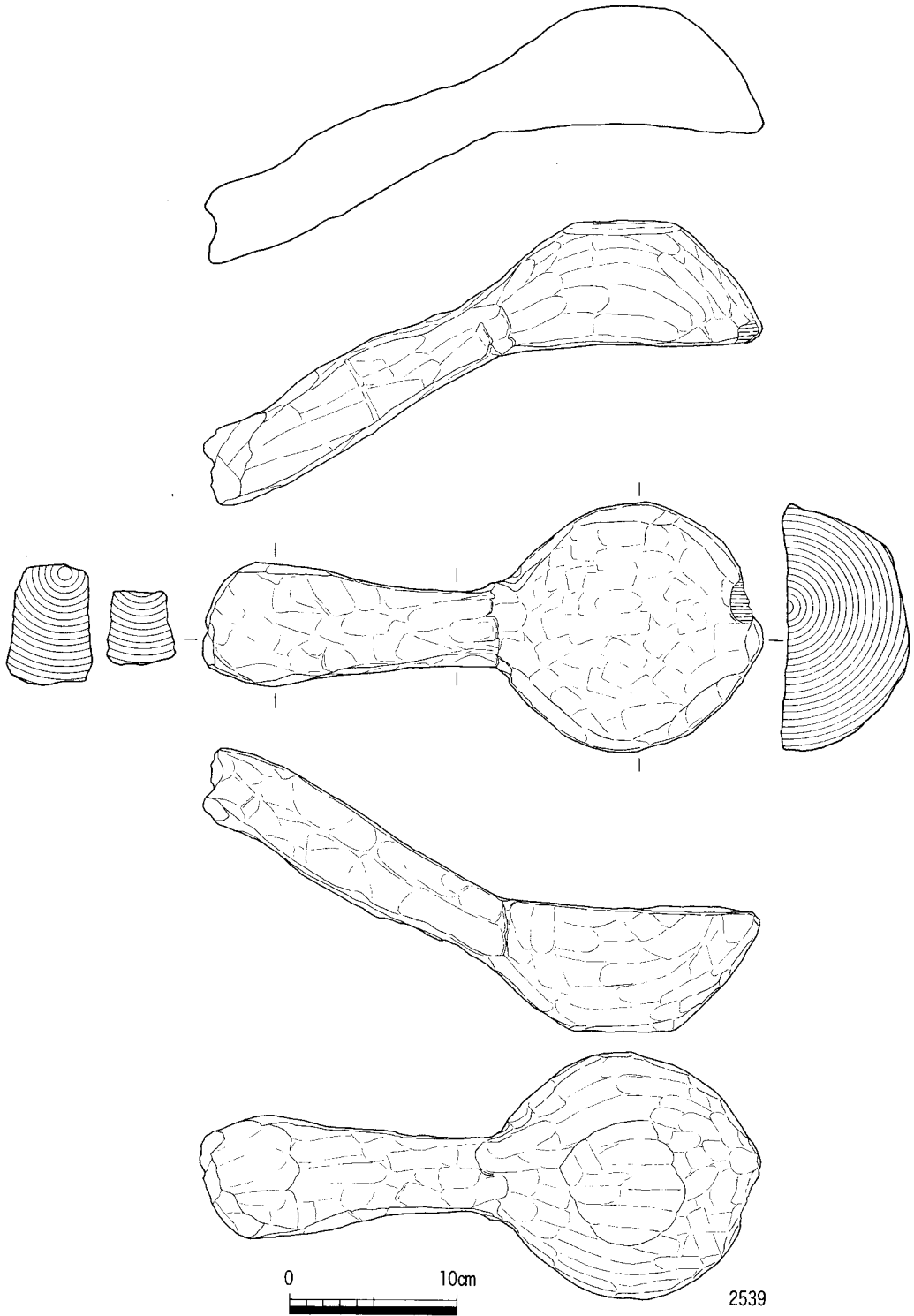


2537

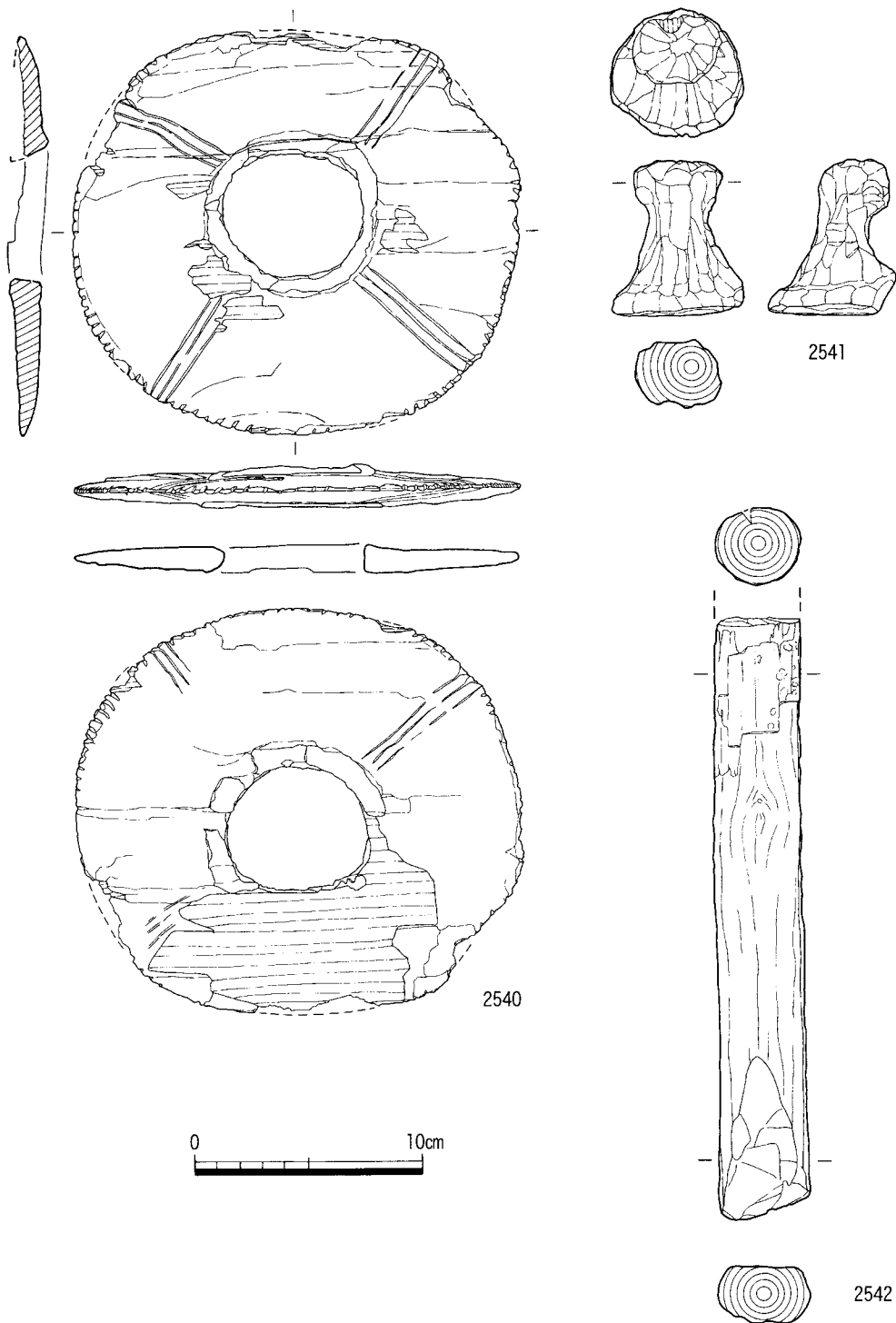
第581図 S D 01出土木製品36 (1/3)



第582図 S D01出土木製品37 (1/3)

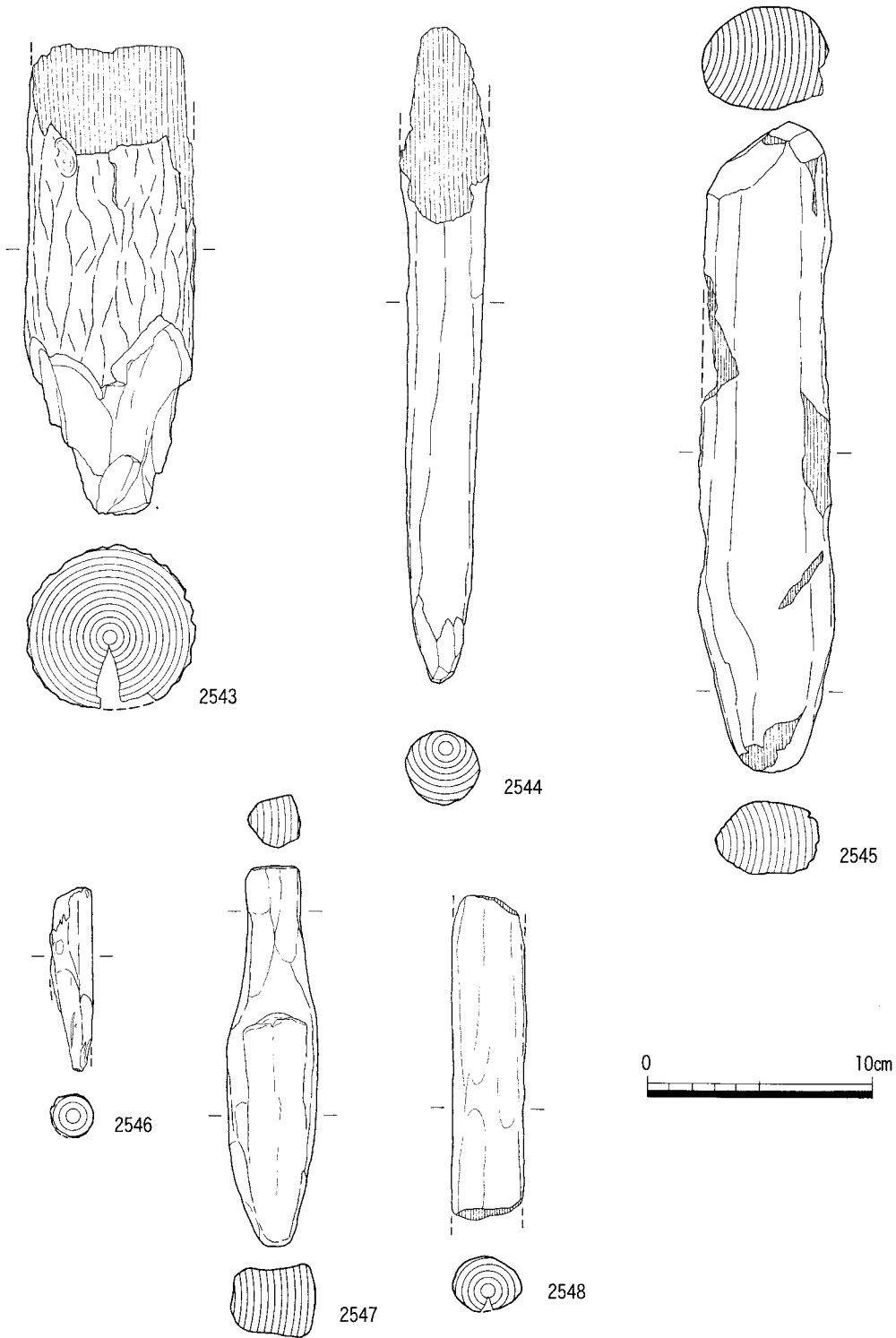


第583図 S D01出土木製品38 (1/4)

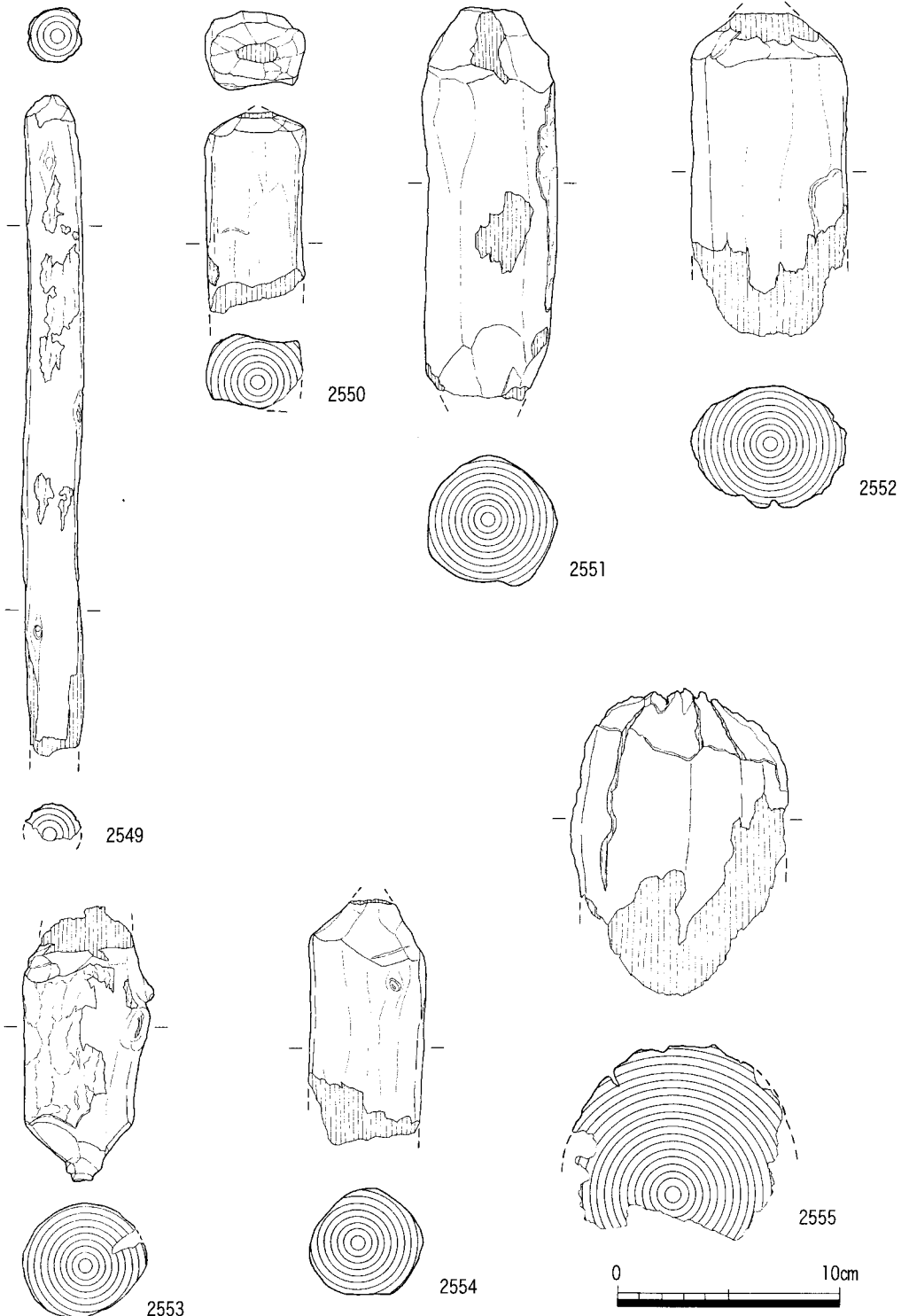


第584図 S D01出土木製品39 (1/3)

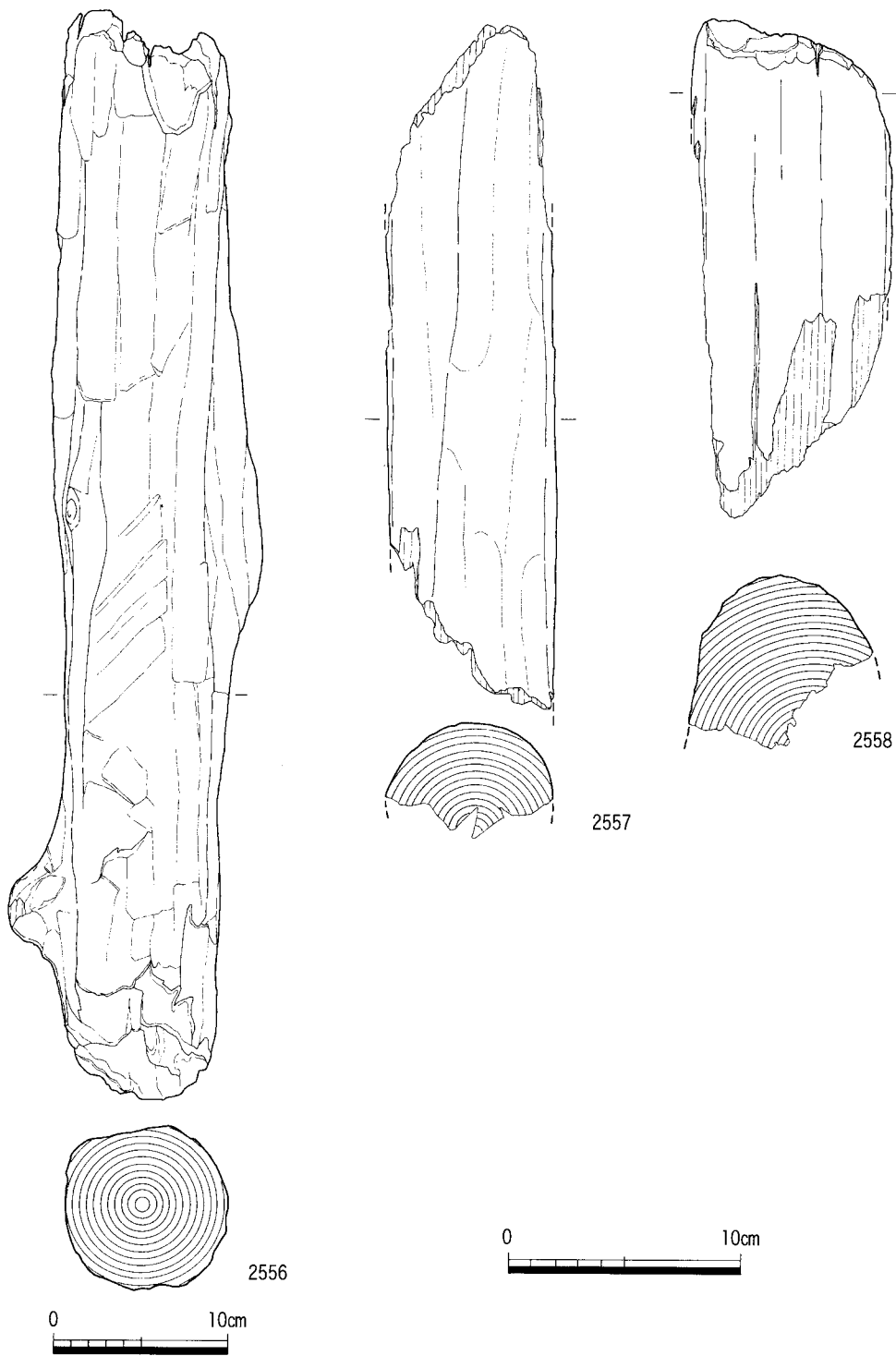




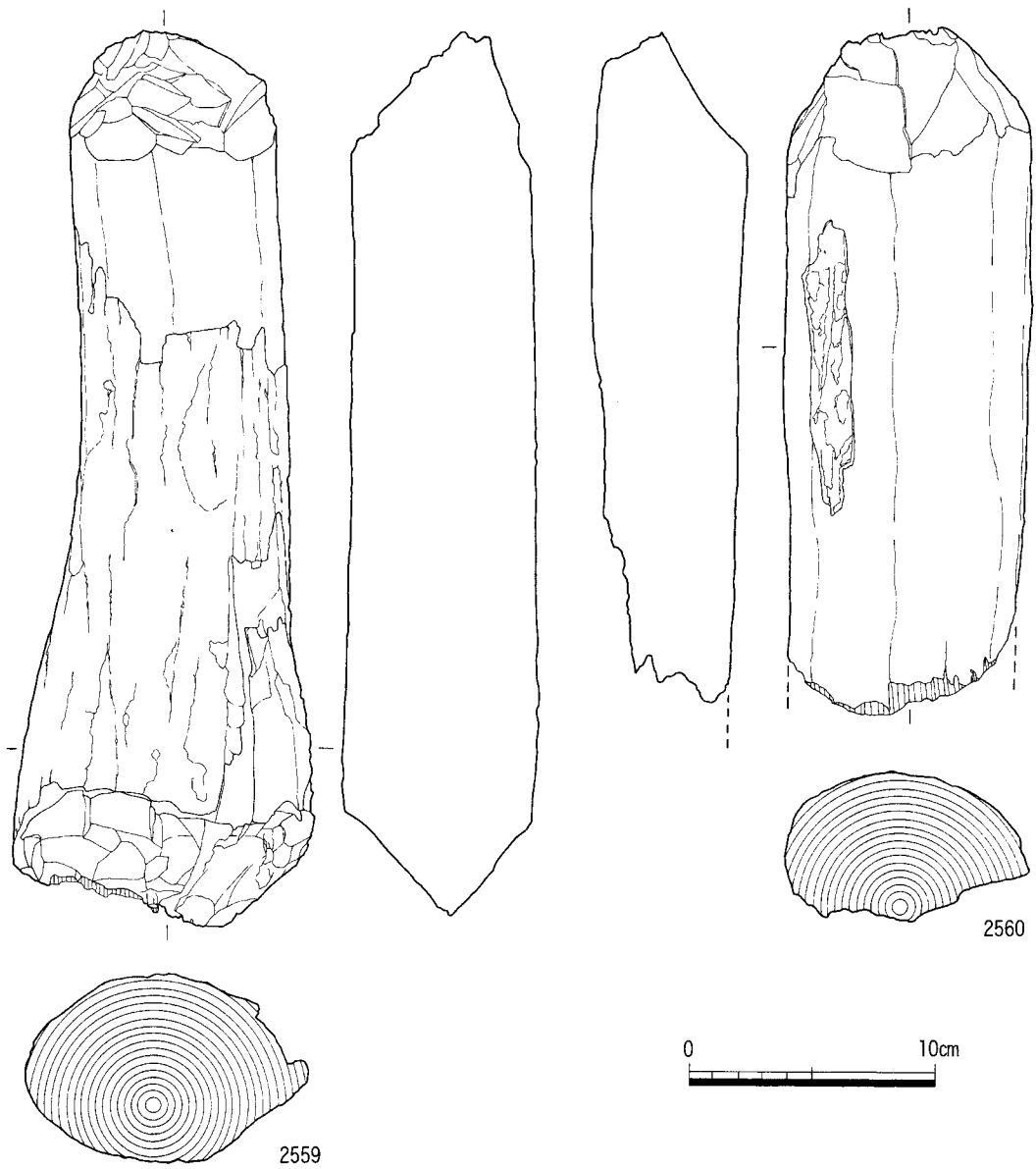
第585図 S D01出土木製品40 (1 / 3)



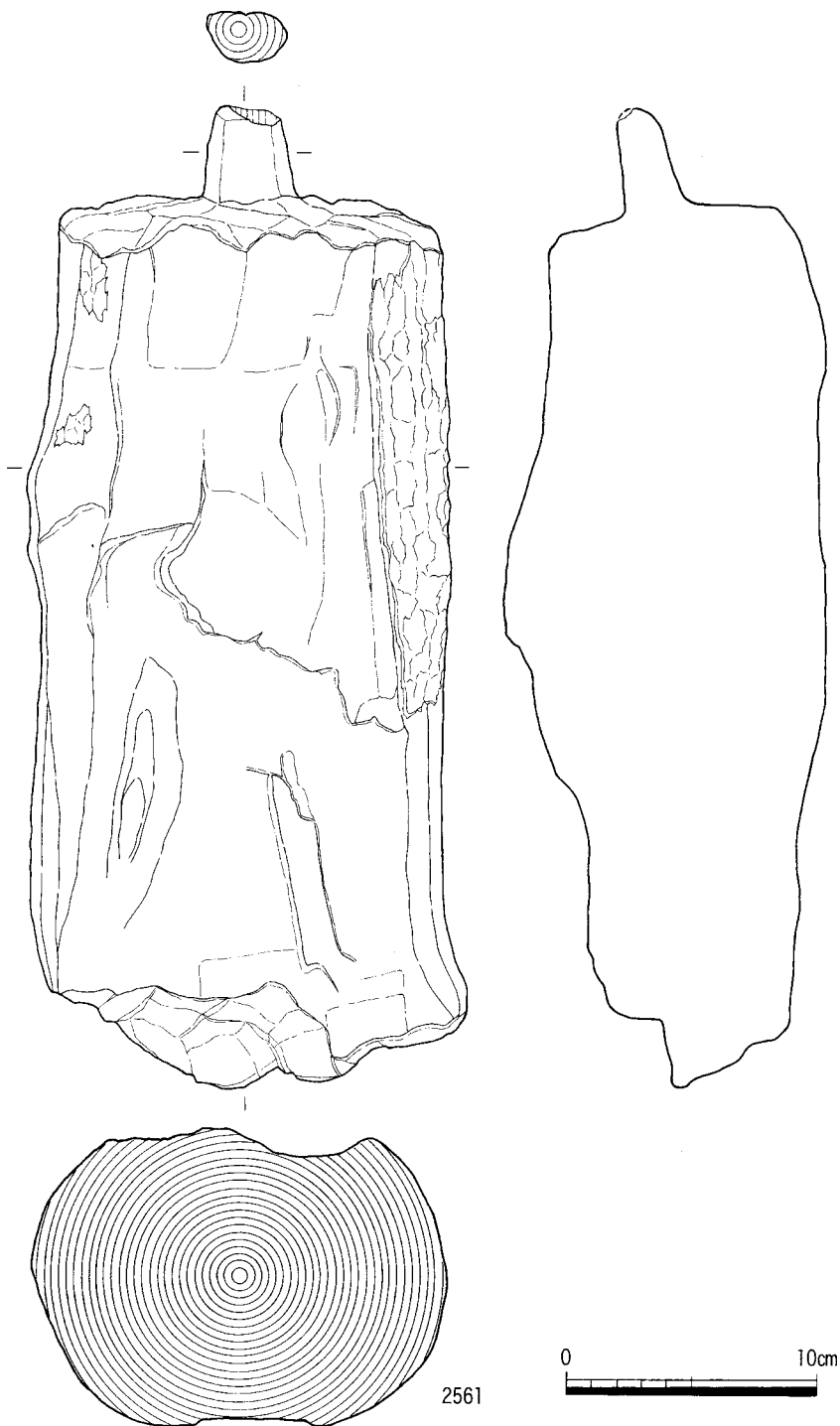
第586図 S D01出土木製品41 (1/3)



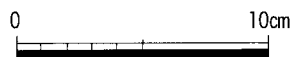
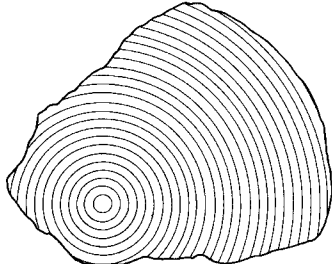
第587図 S D01出土木製品42 (1/3, 1/4)



第588図 S D01出土木製品43 (1/3)

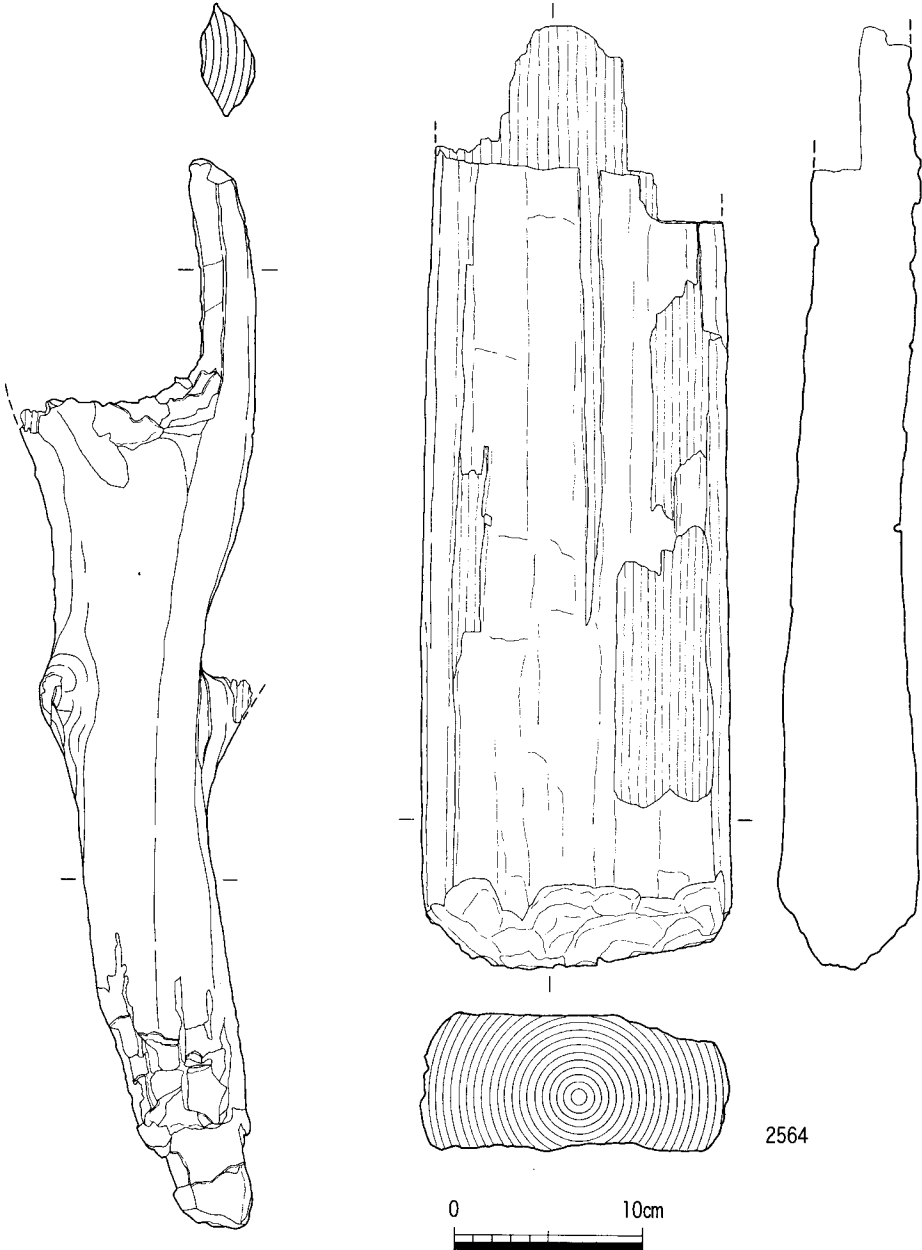


第589図 S D01出土木製品44 (1/3)

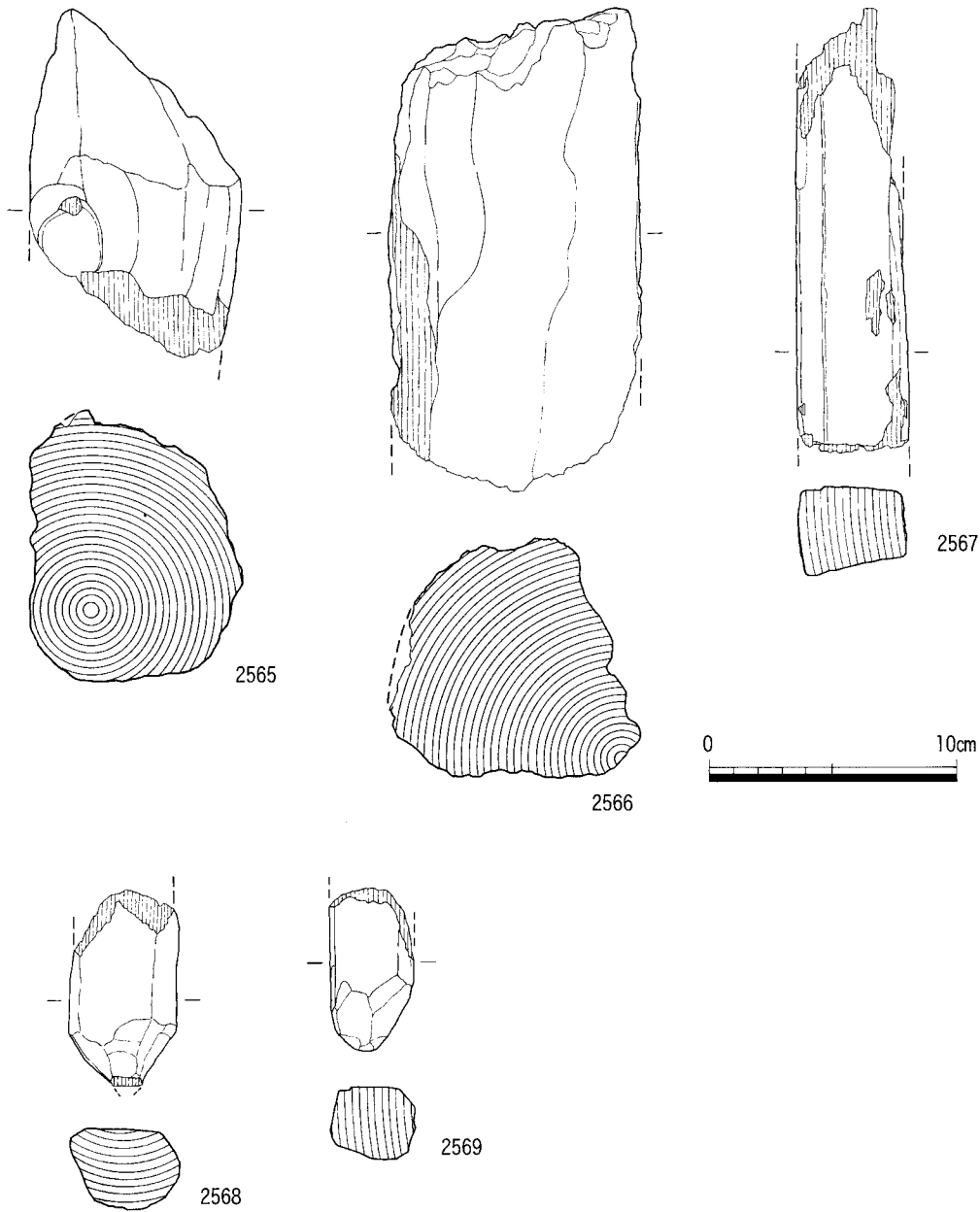


2562

第590図 S D01出土木製品45 (1 / 3)

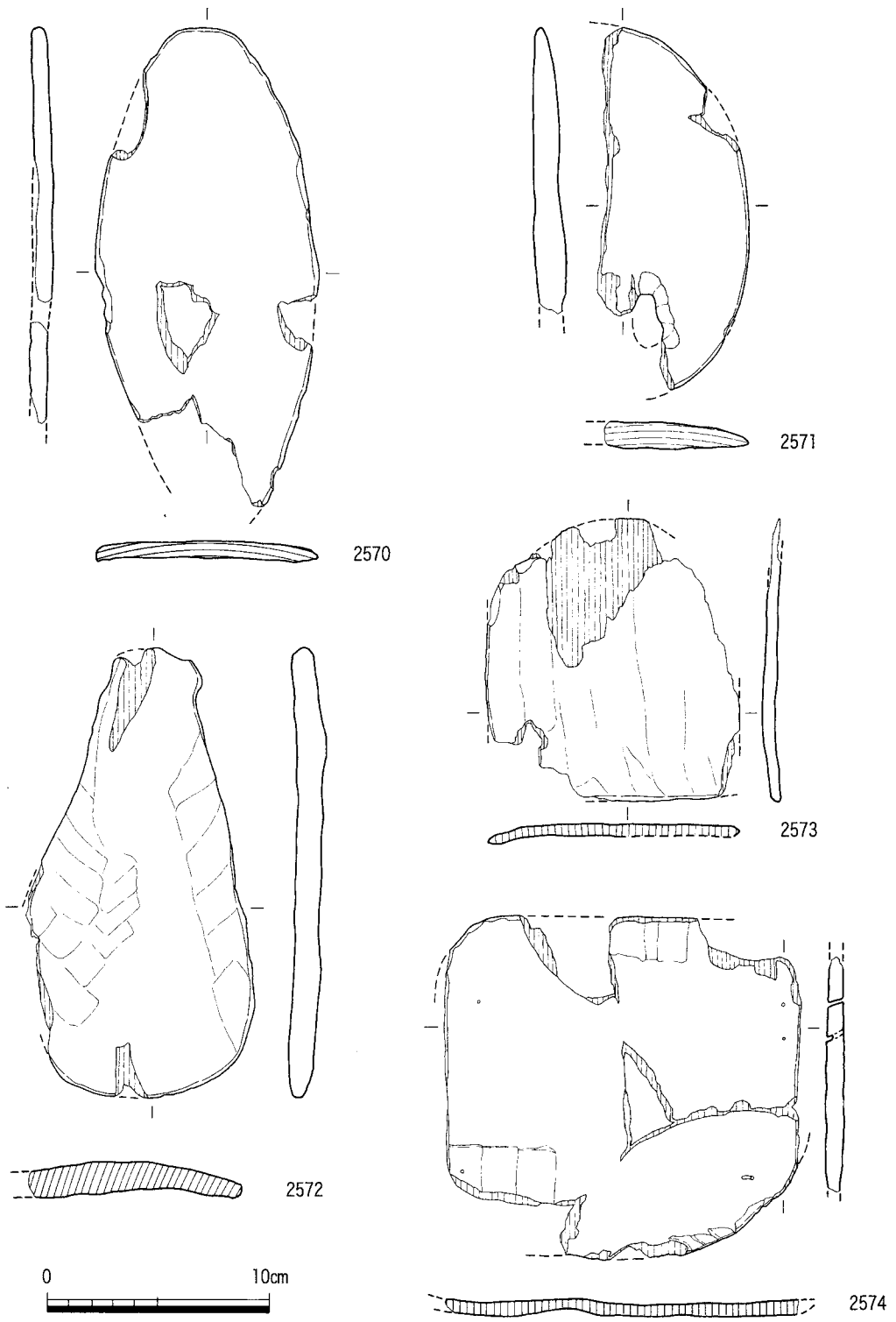


第591図 S D01出土木製品46 (1/3, 1/4)

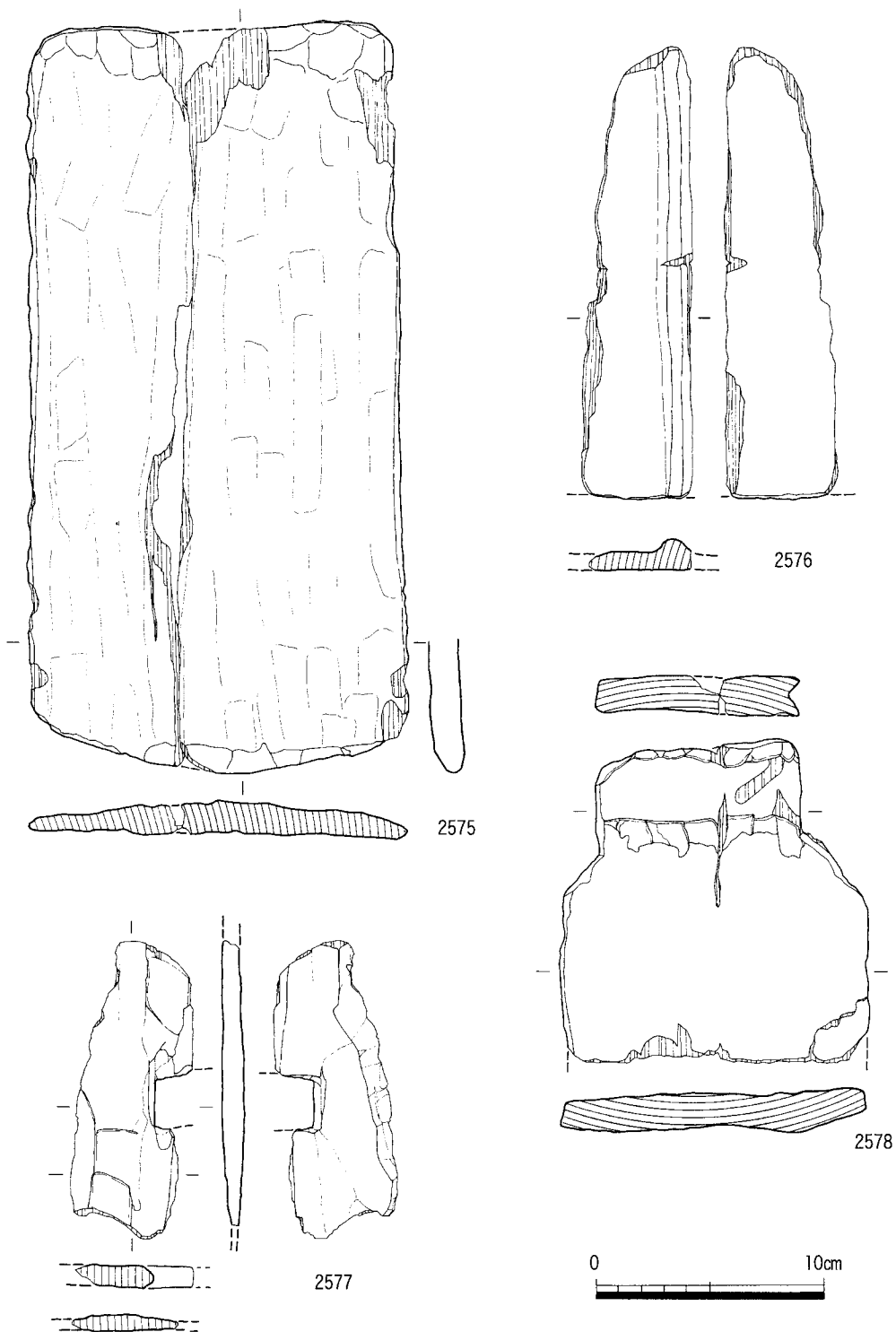


第592図 S D01出土木製品47 (1 / 3)

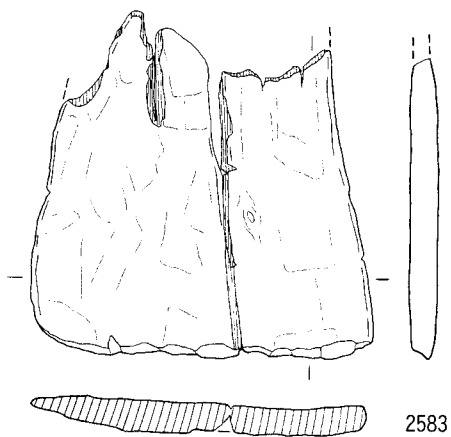
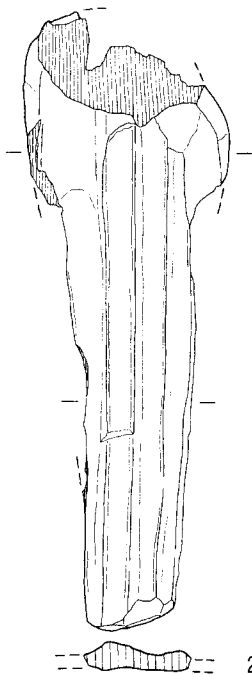
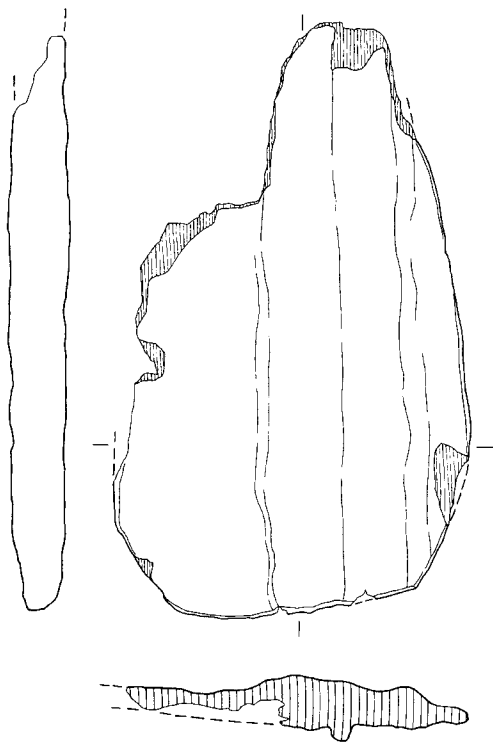
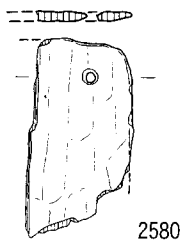
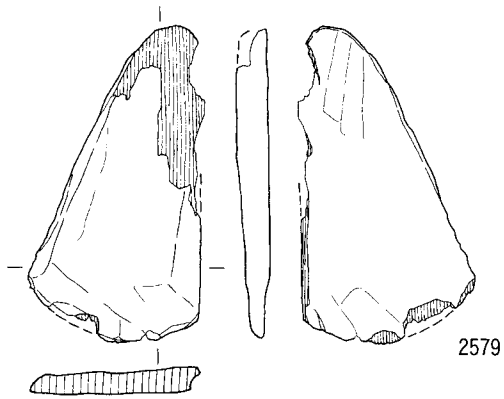




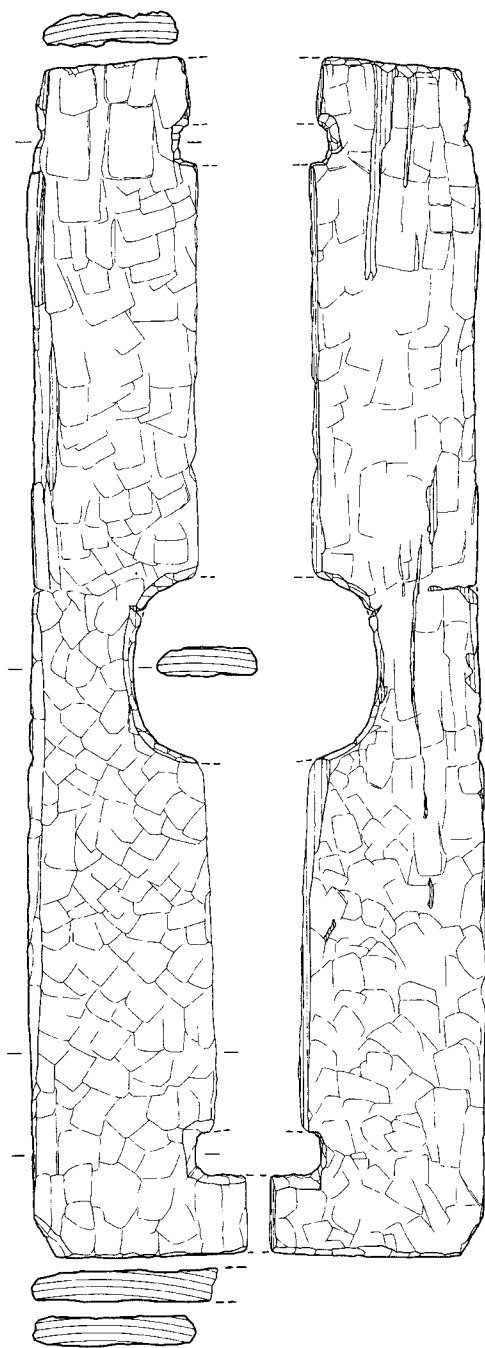
第593図 S D01出土木製品48 (1/3)



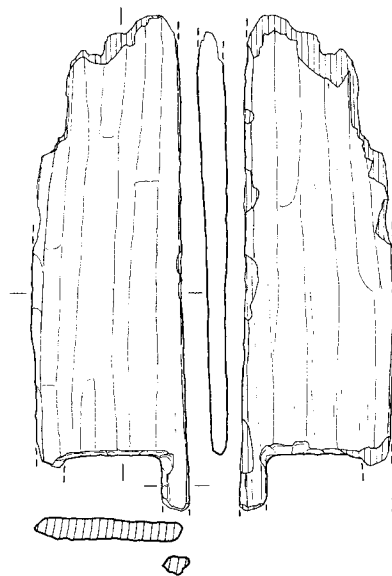
第594図 S D01出土木製品49 (1/3)



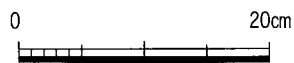
第595図 S D 01出土木製品50 (1/3)



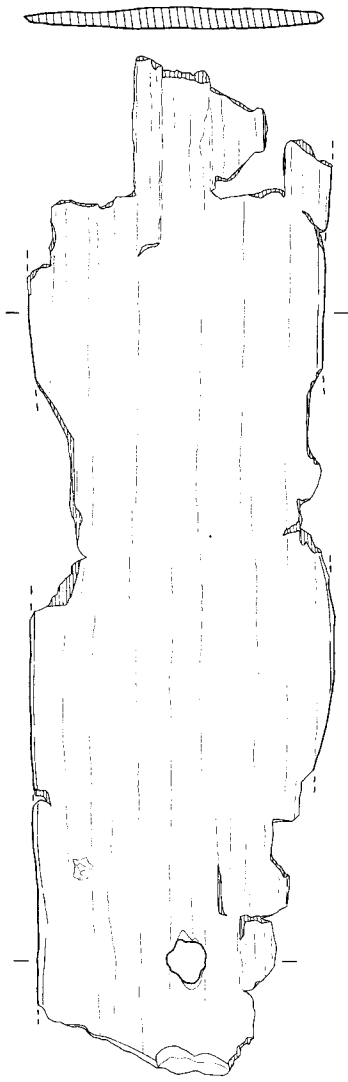
2584



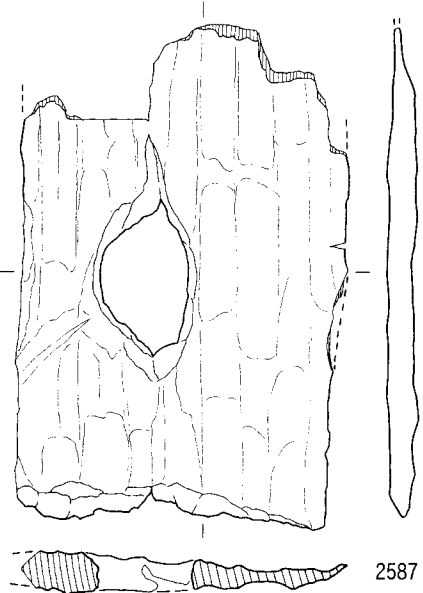
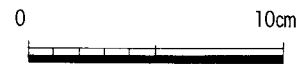
2585



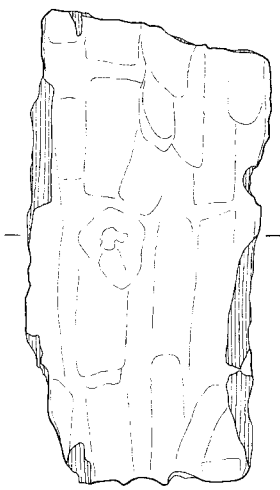
第596図 S D01出土木製品51 (1/6)



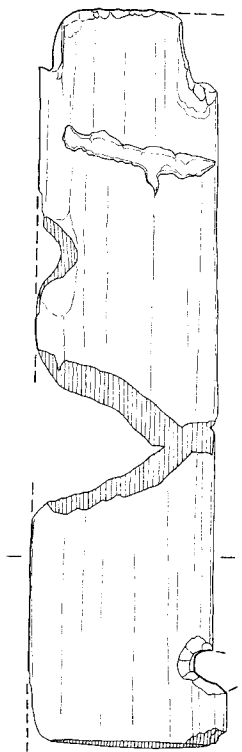
2586



2587

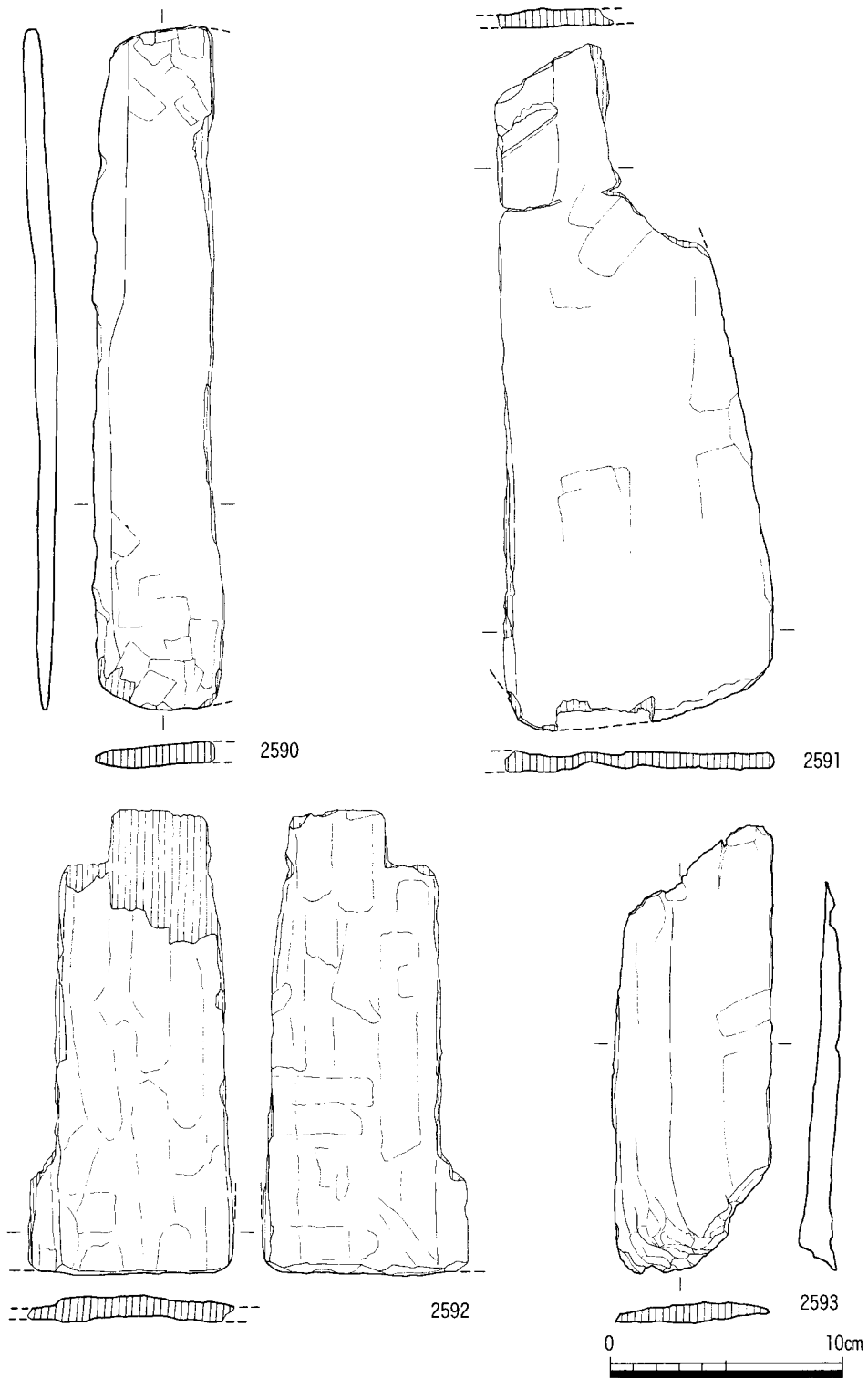


2588

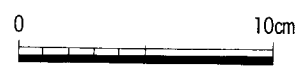
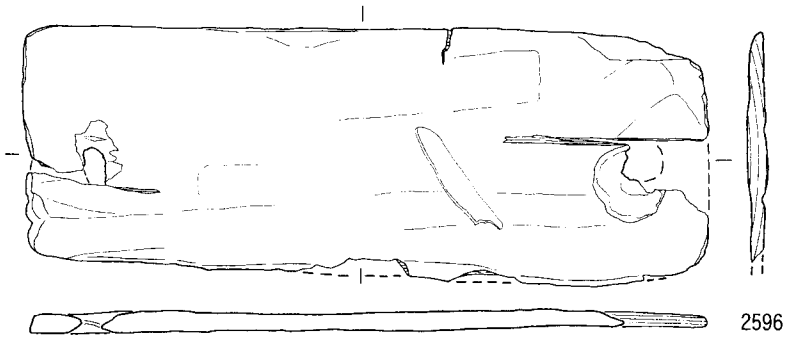


2589

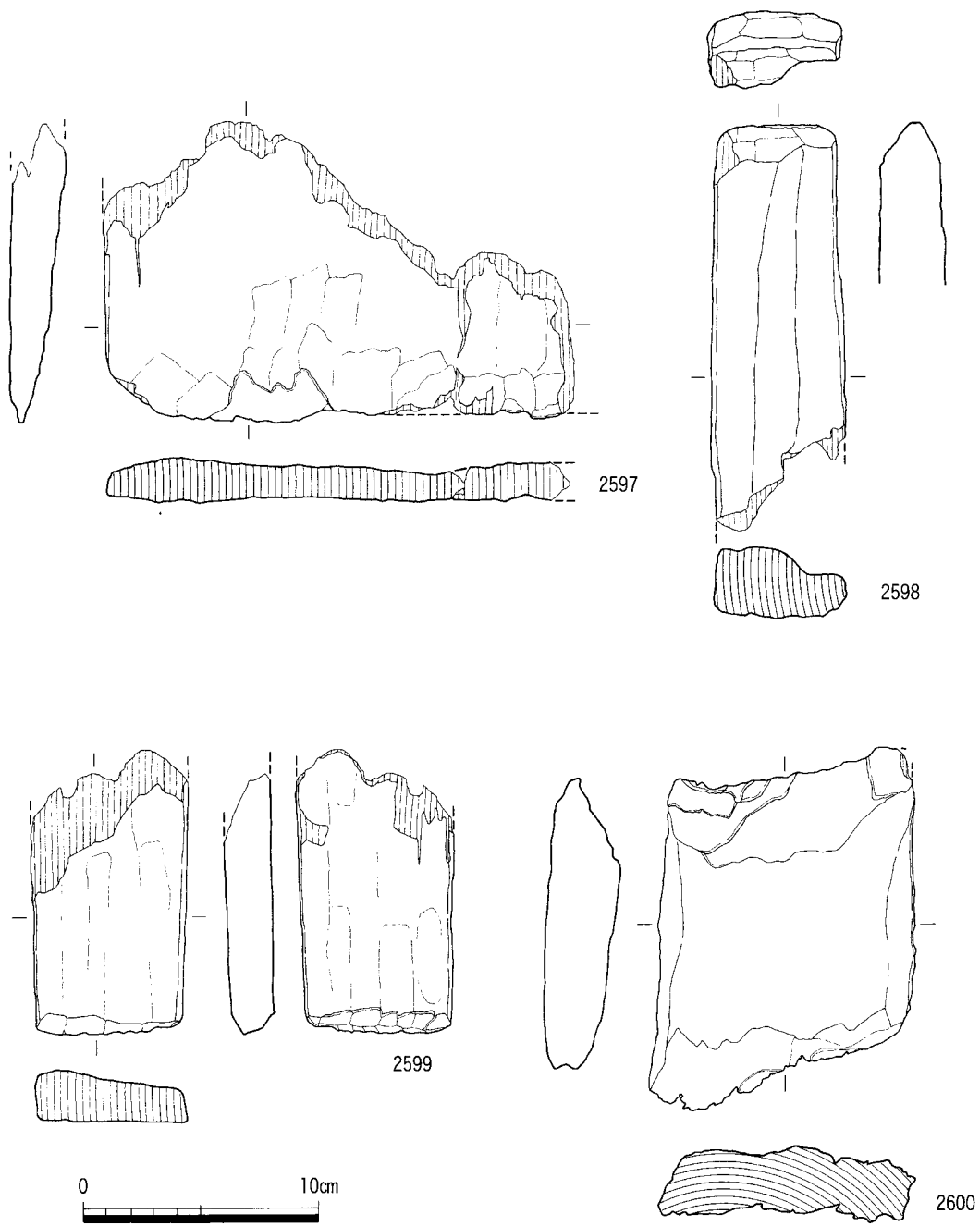
第597図 S D01出土木製品52 (1/3)



第598図 S D01出土木製品53 (1/3)

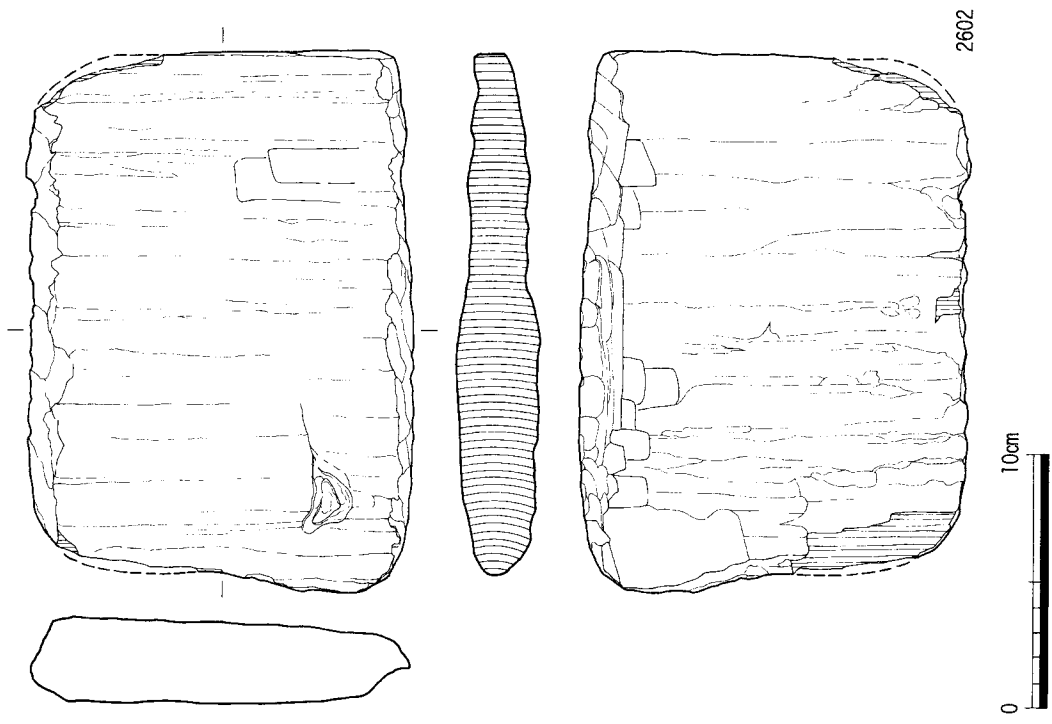
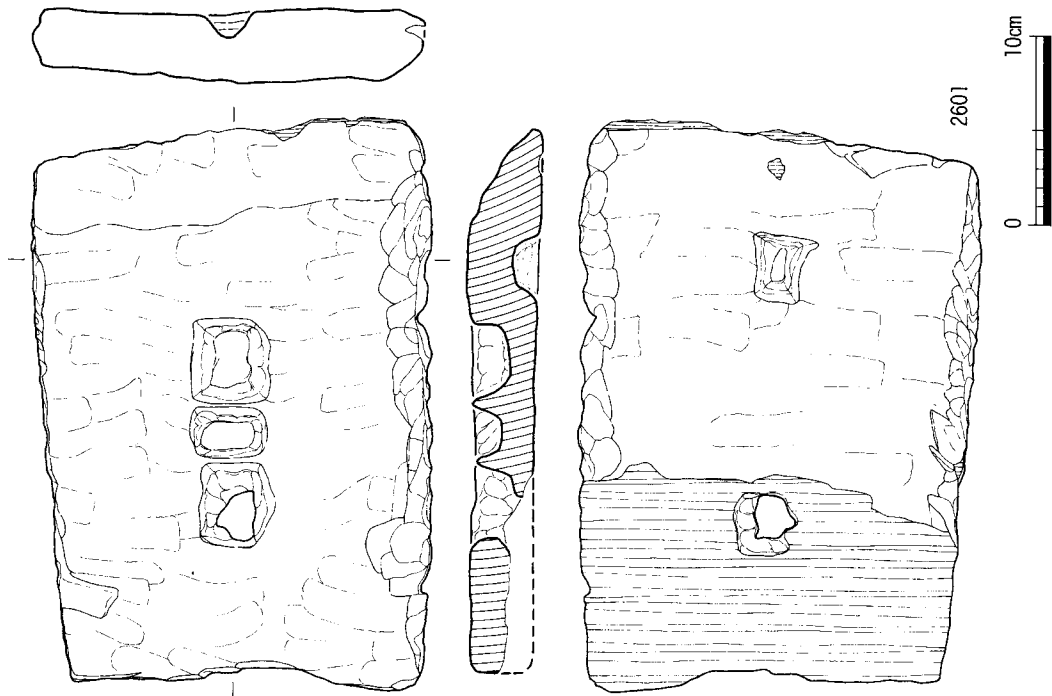


第599図 S D01出土木製品54 (1/3)

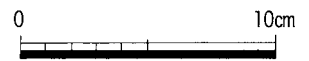
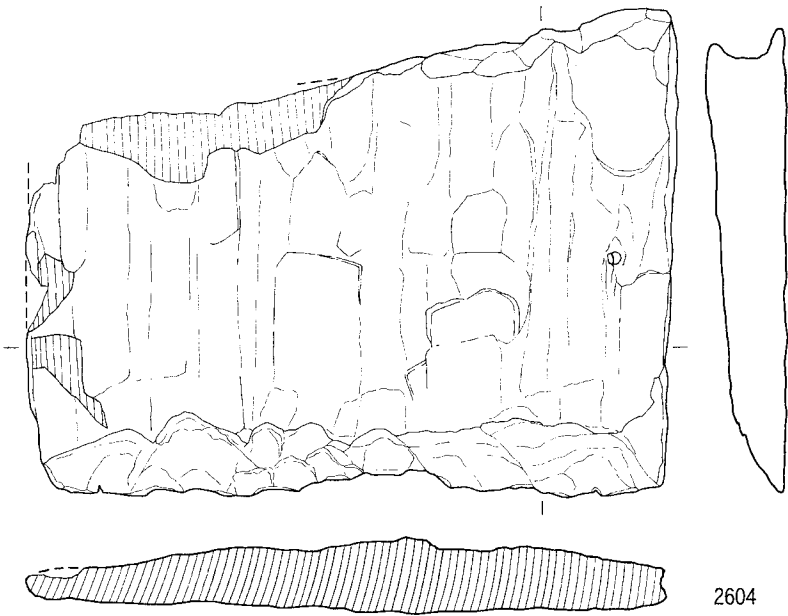
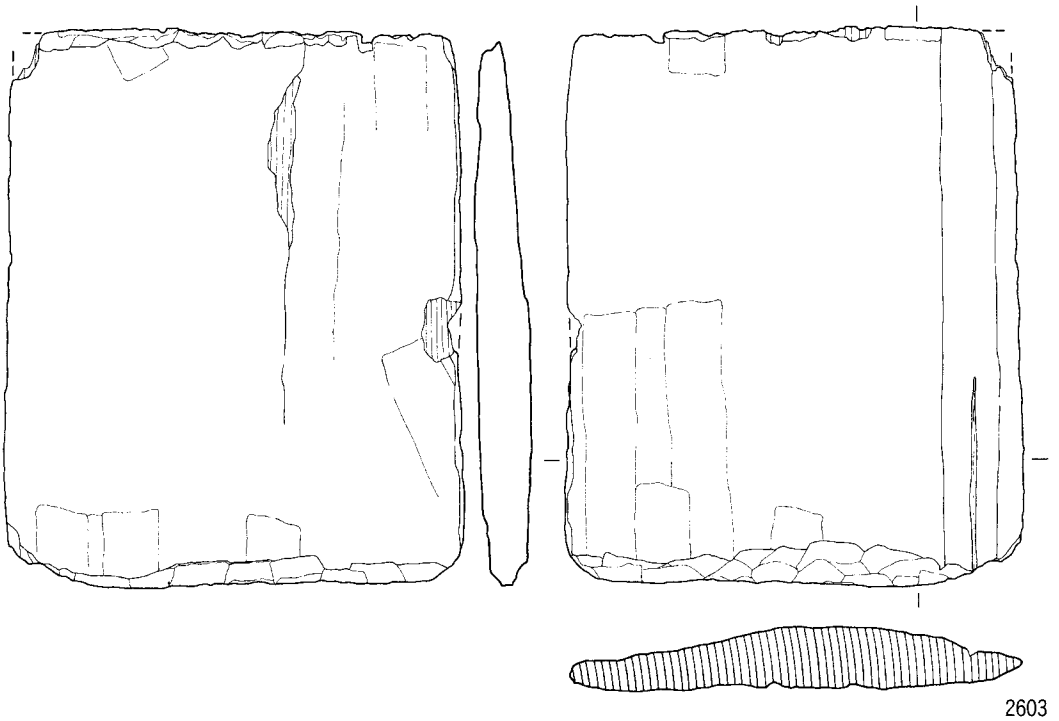


第600図 S D01出土木製品55 (1/3)

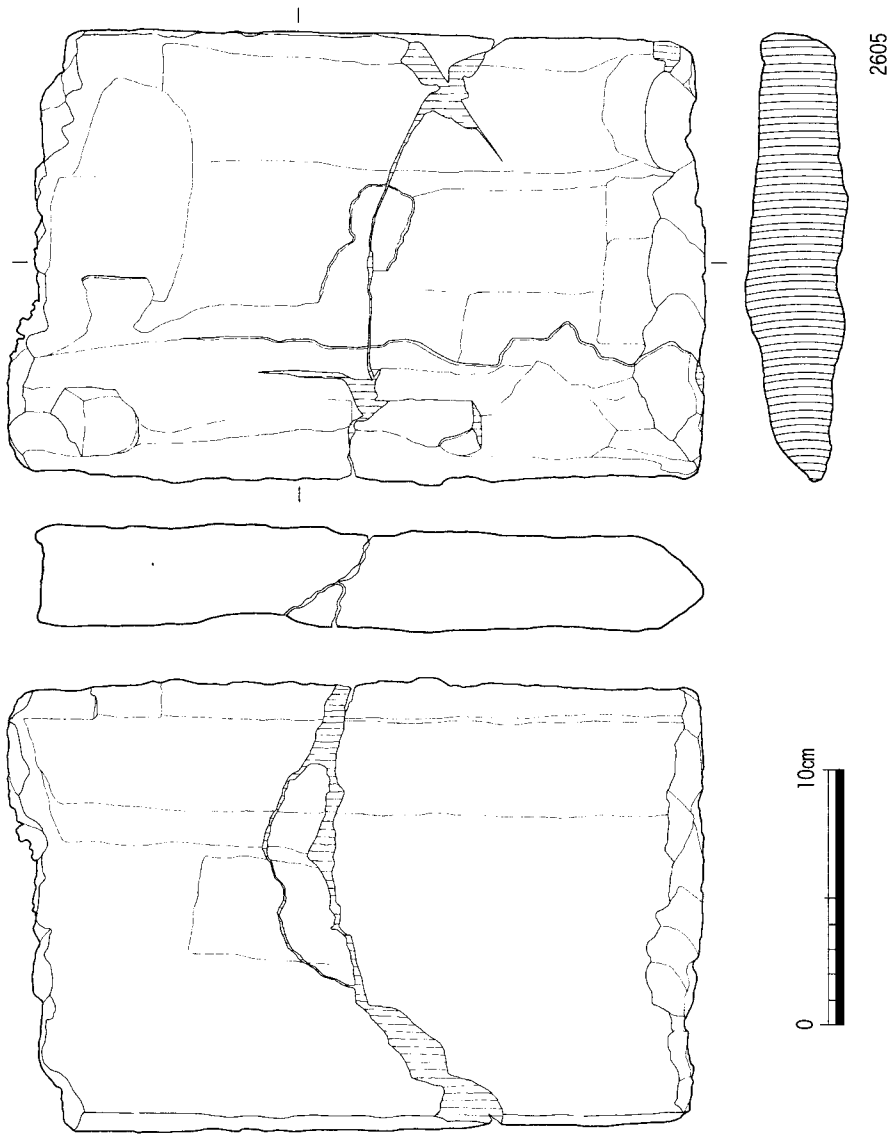




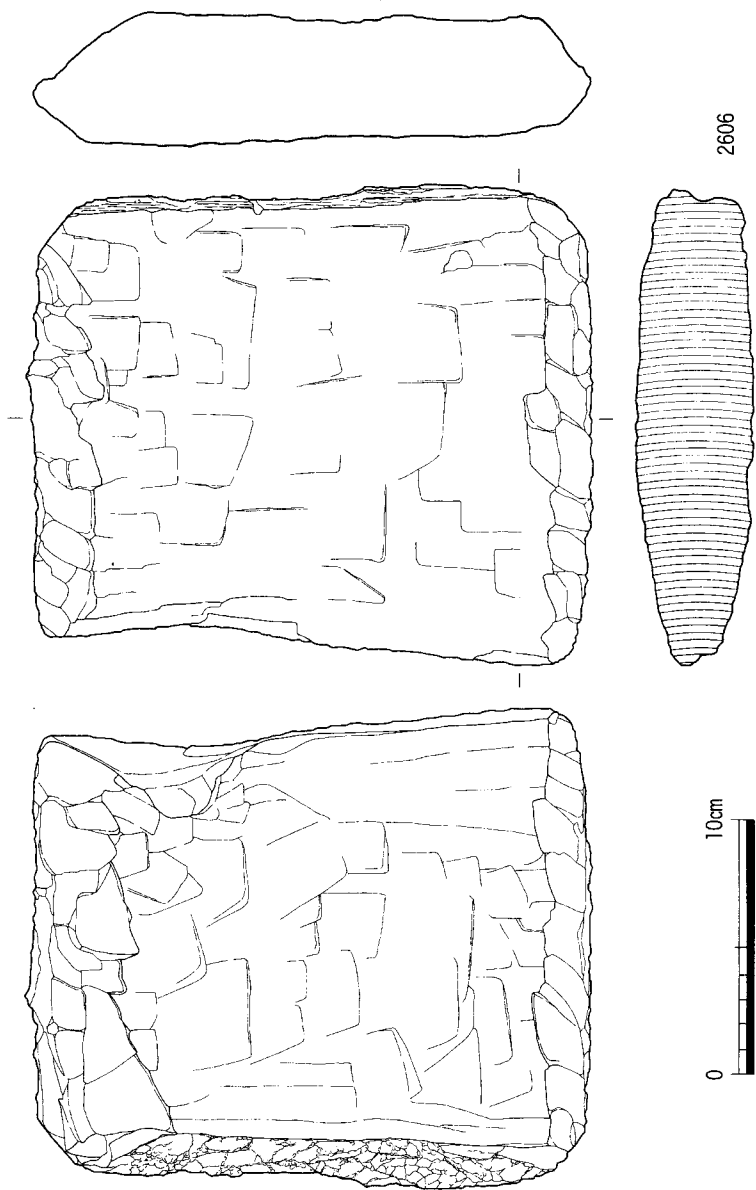
第601図 S D01出土木製品56 (1/3, 1/4)



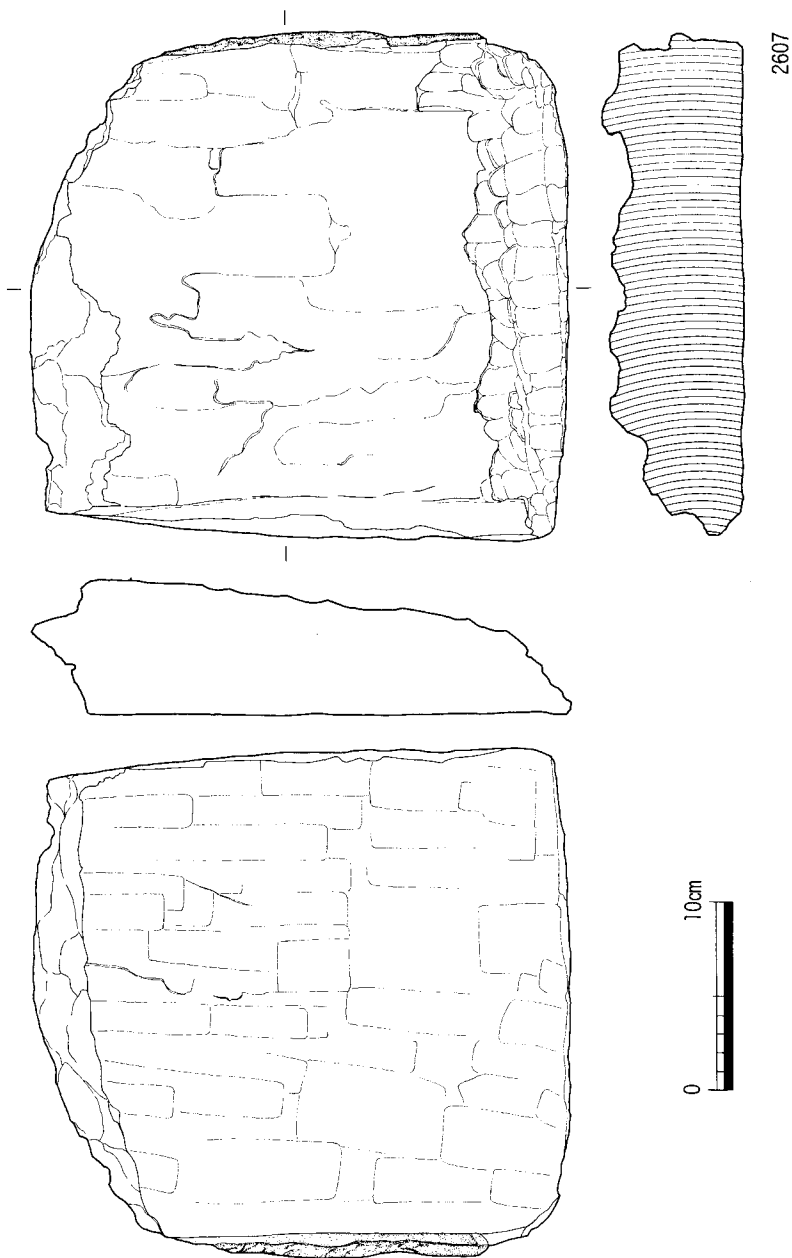
第602図 S D01出土木製品57 (1/3)



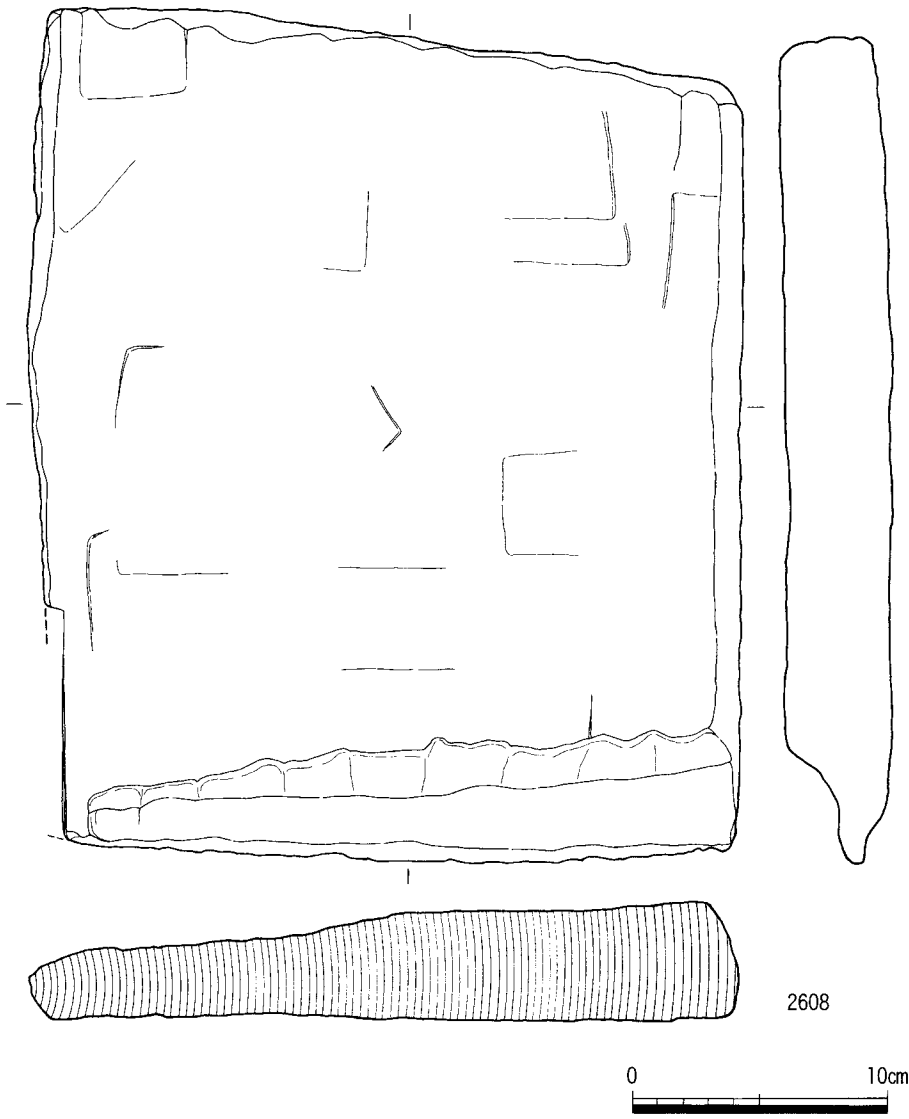
第603図 S D01出土木製品58 (1/3)



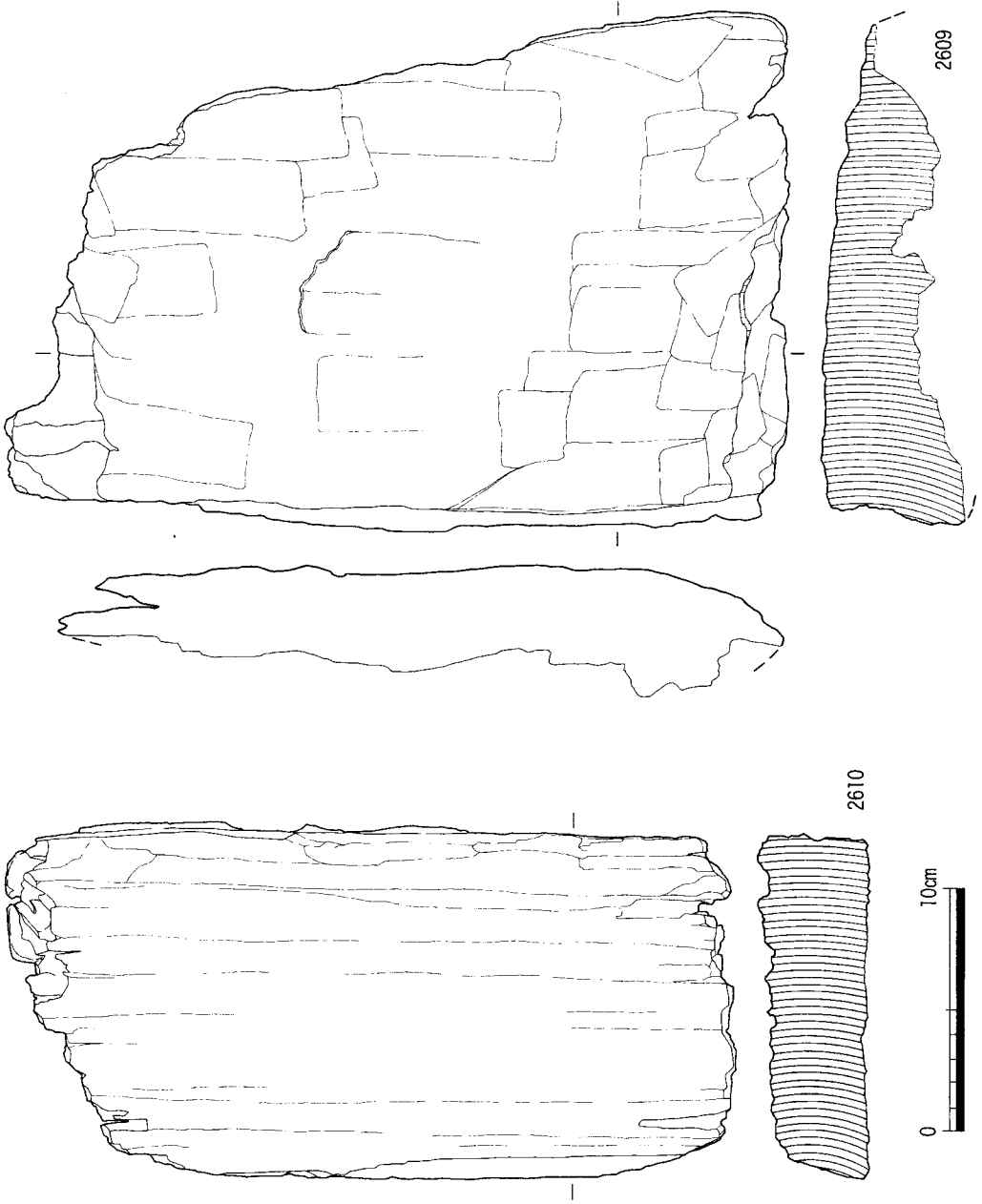
第604図 S D01出土木製品59 (1/3)



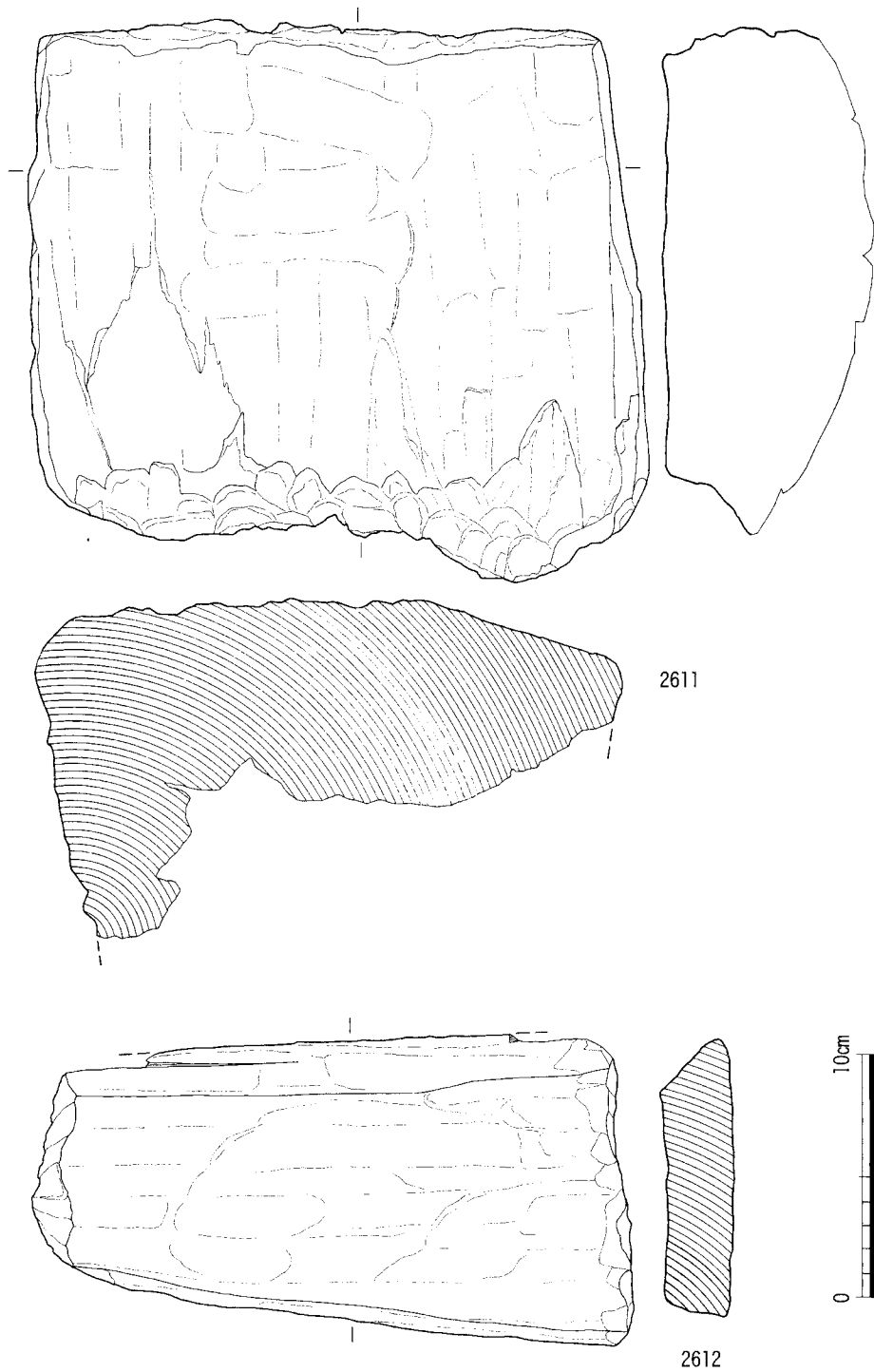
第605図 S D01出土木製品60 (1/4)



第606図 S D01出土木製品61 (1/3)

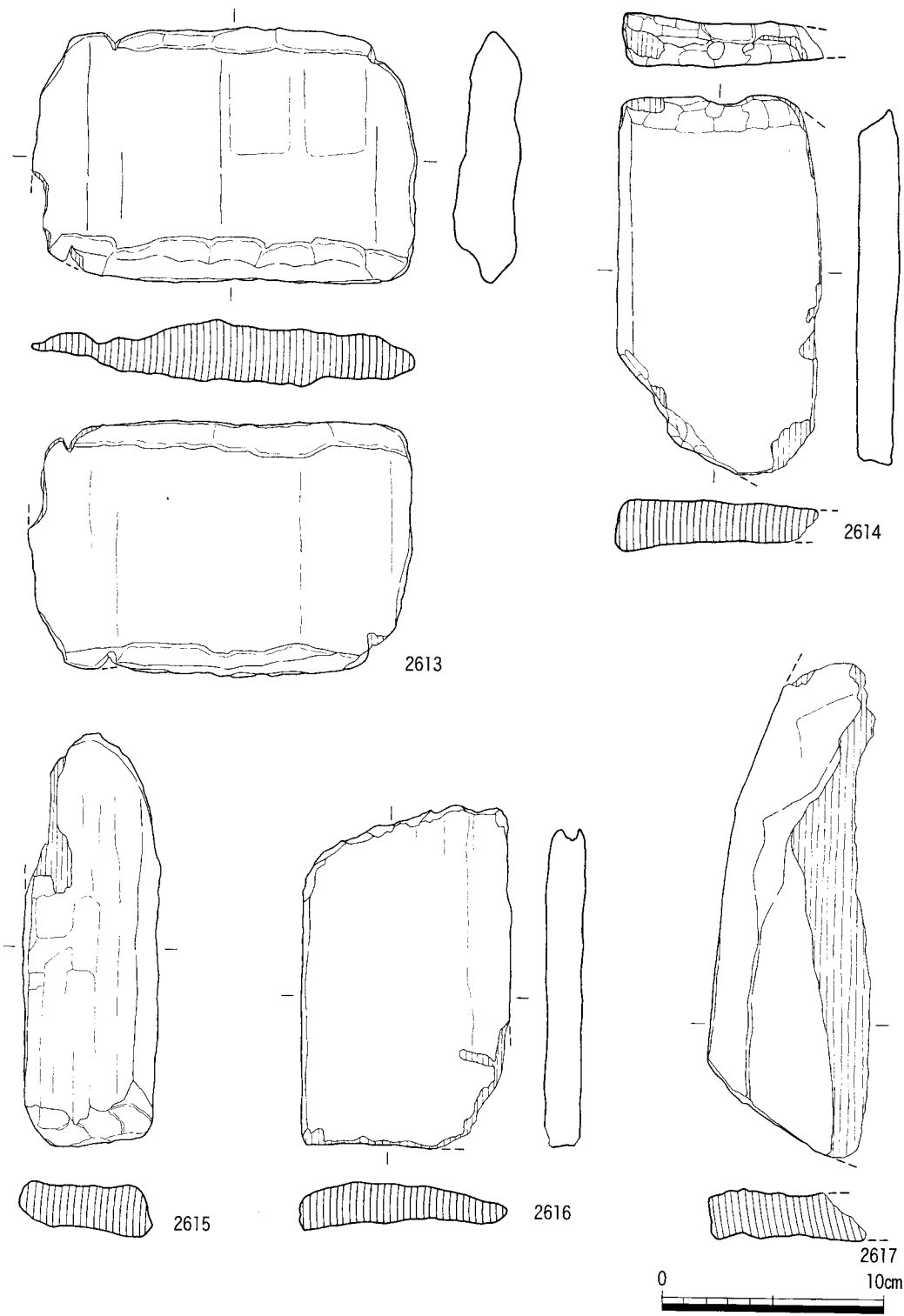


第607図 S D01出土木製品62 (1/3)

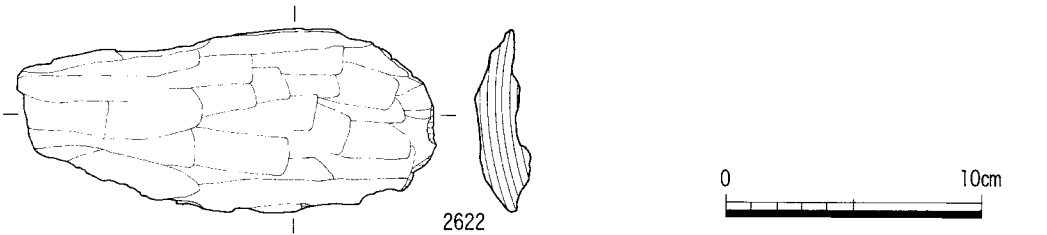
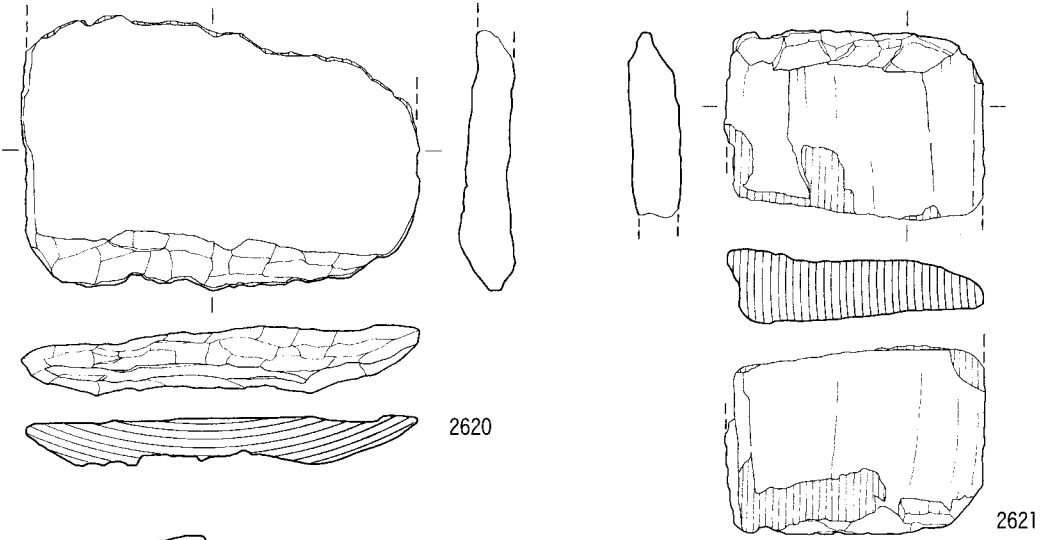
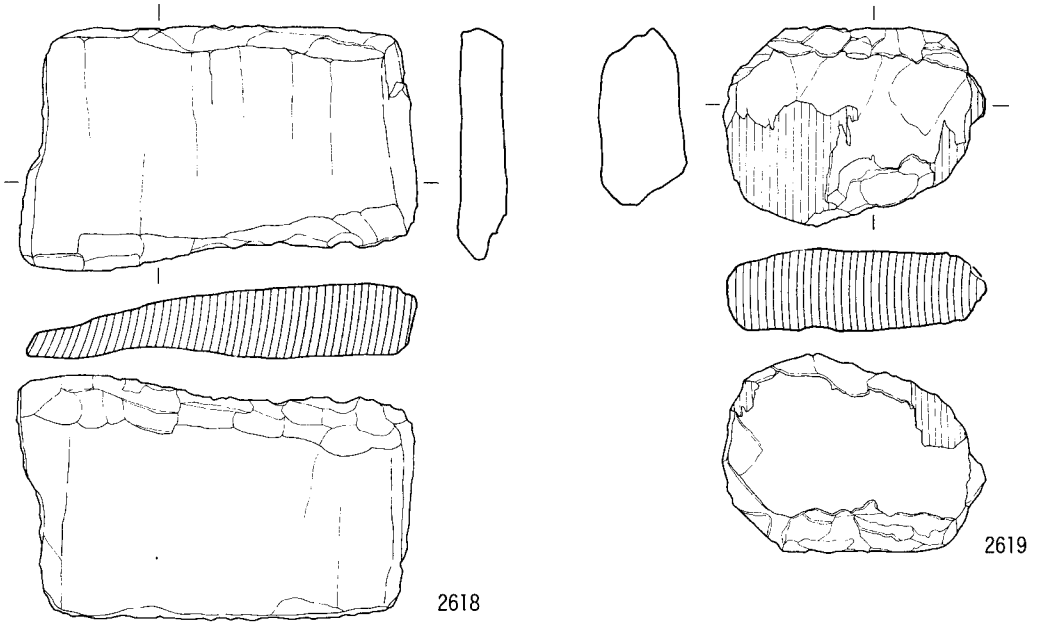


第608図 S D01出土木製品63 (1/3)

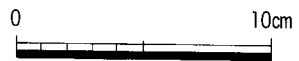
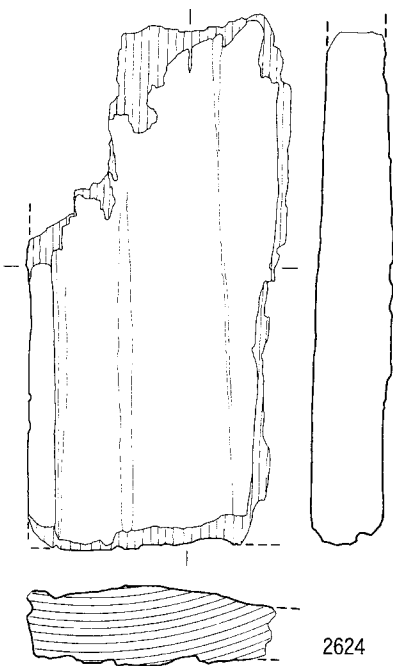
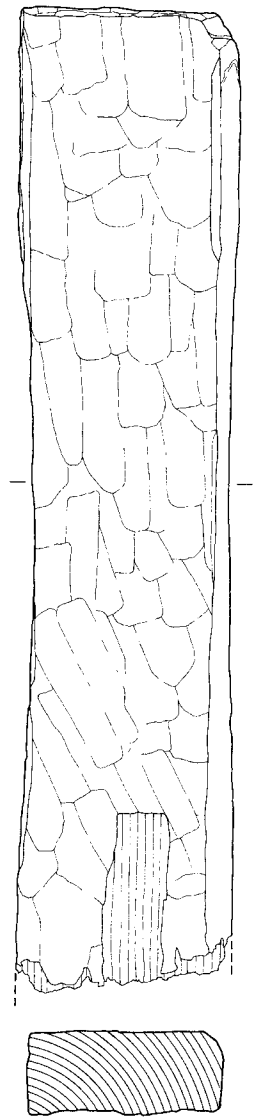
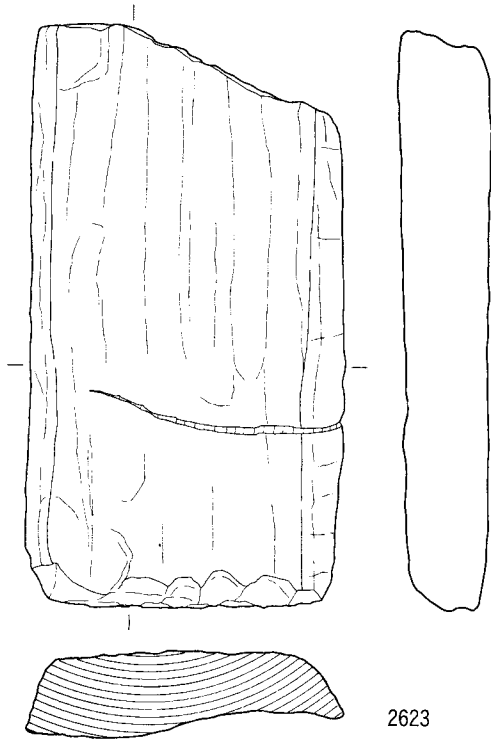




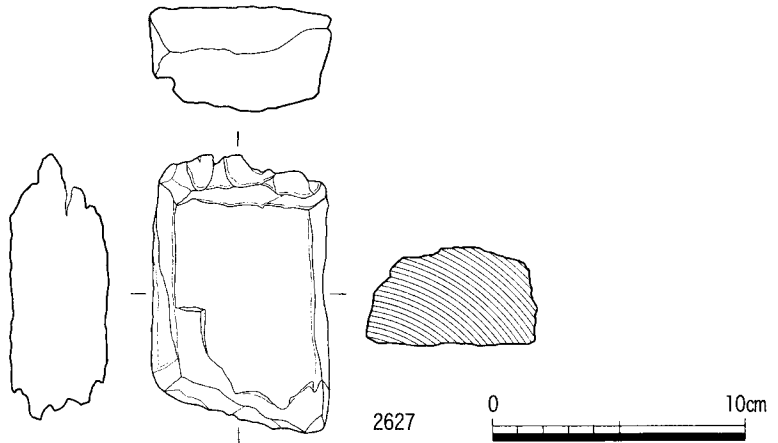
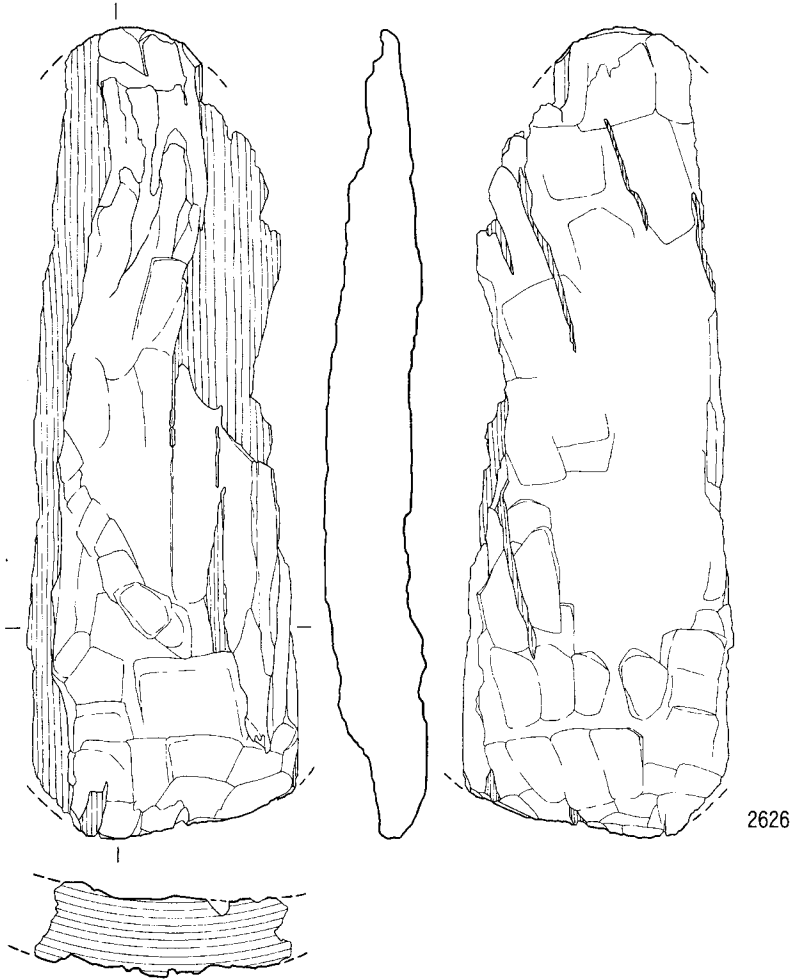
第609図 S D01出土木製品64 (1/3)



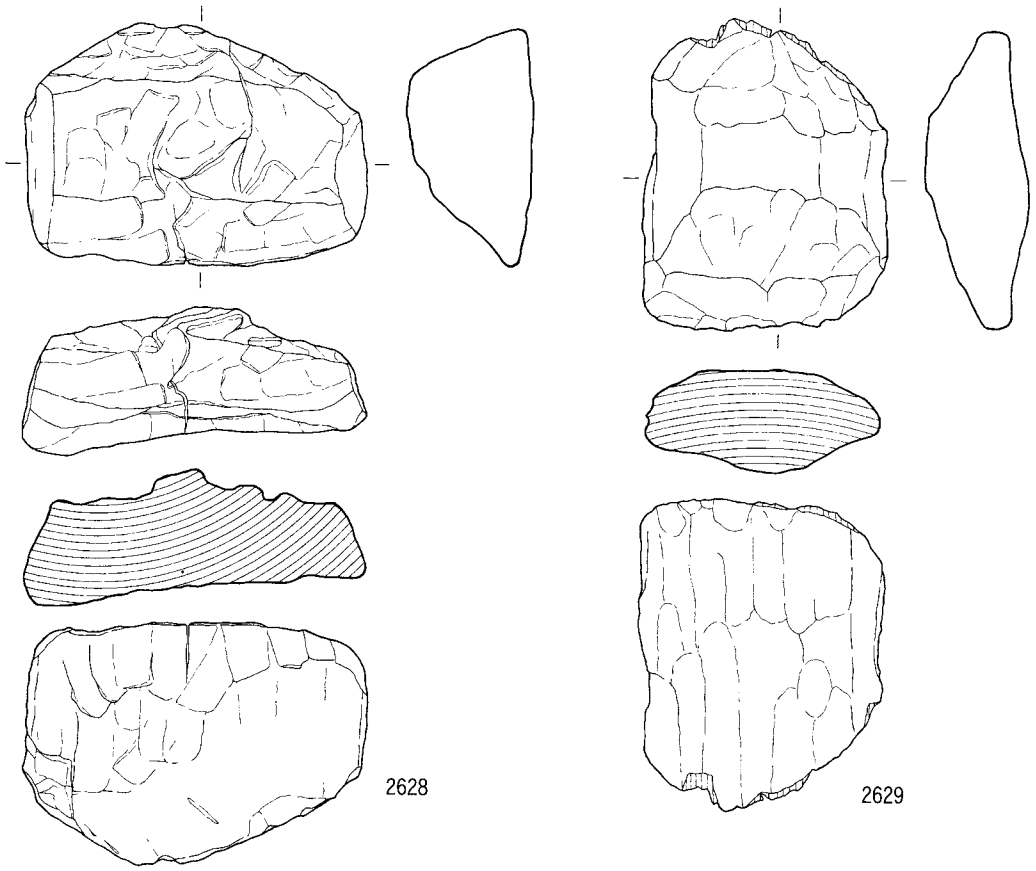
第610図 S D01出土木製品65 (1 / 3)



第611図 S D01出土木製品66 (1/3)

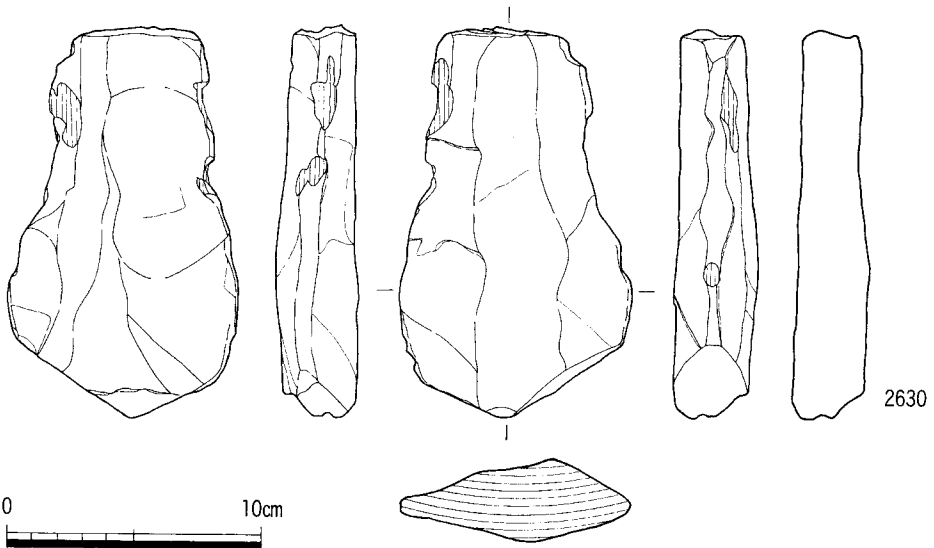


第612図 S D01出土木製品67 (1/3)



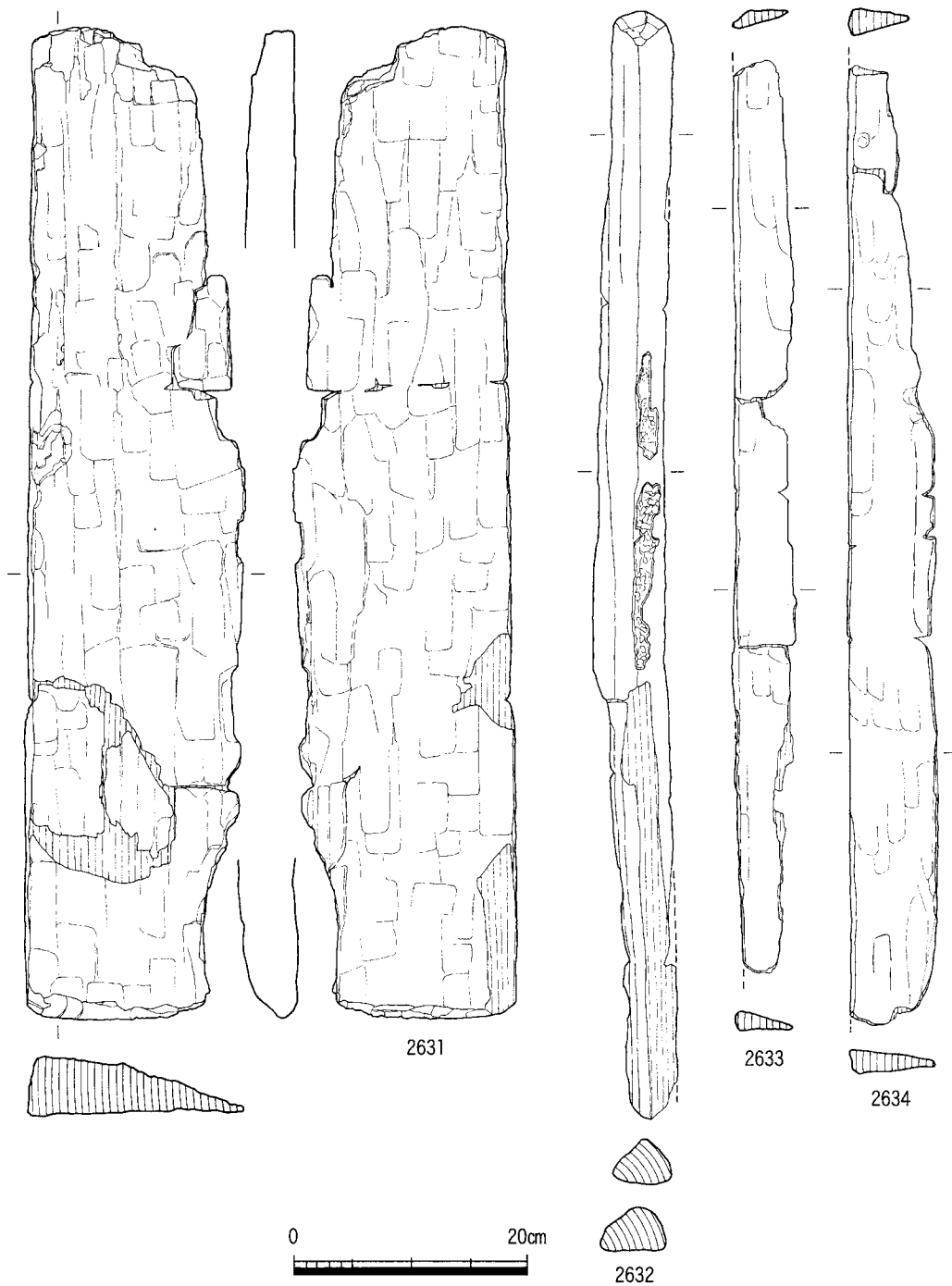
2628

2629

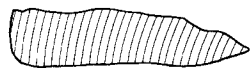
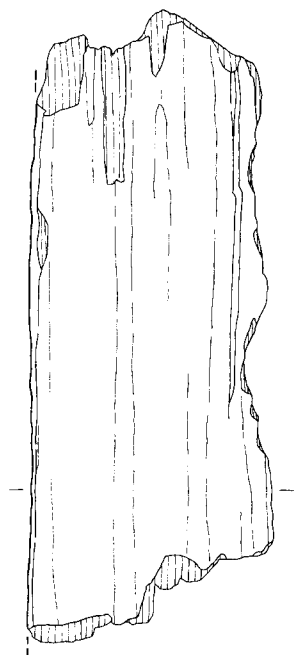
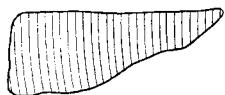
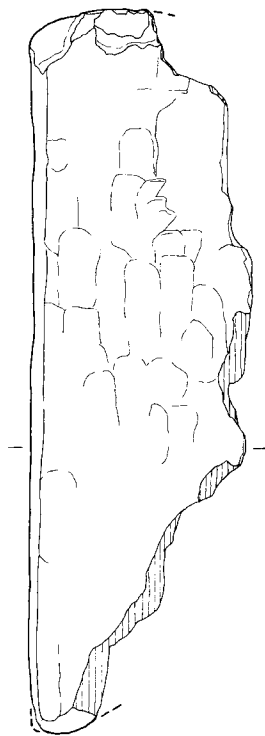
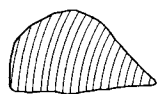
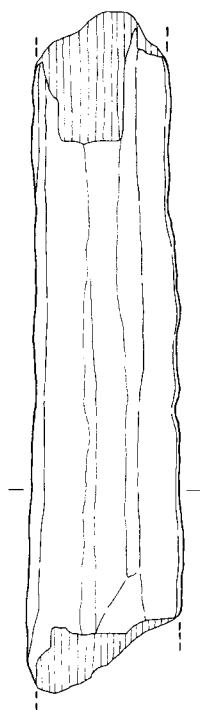
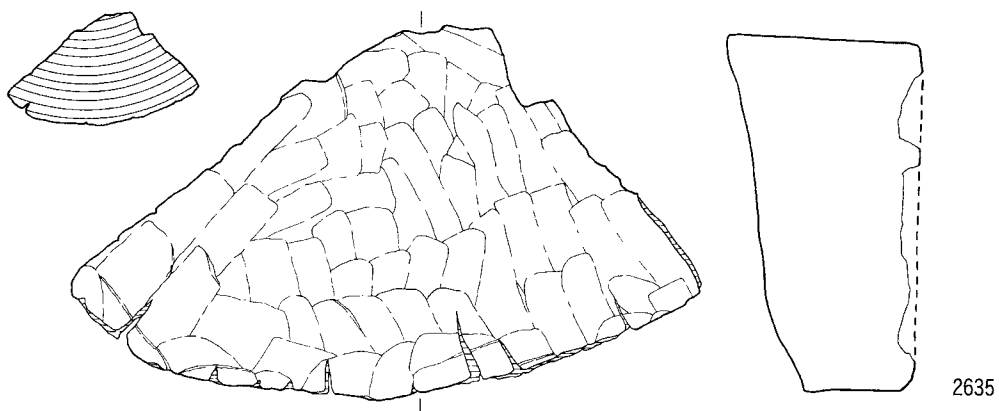


2630

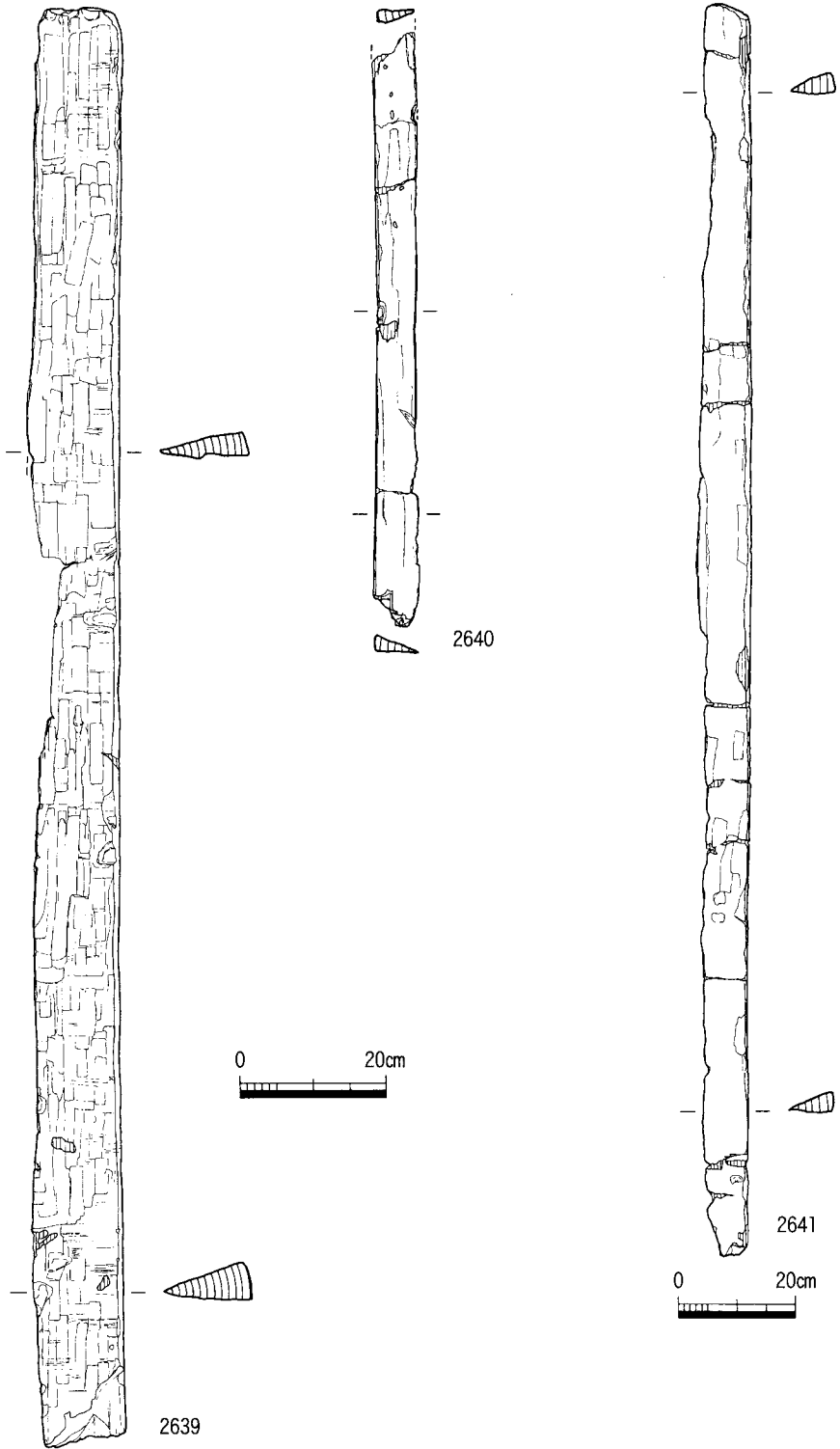
第613図 S D01出土木製品68 (1/3)



第614図 S D01出土木製品69 (1/6)

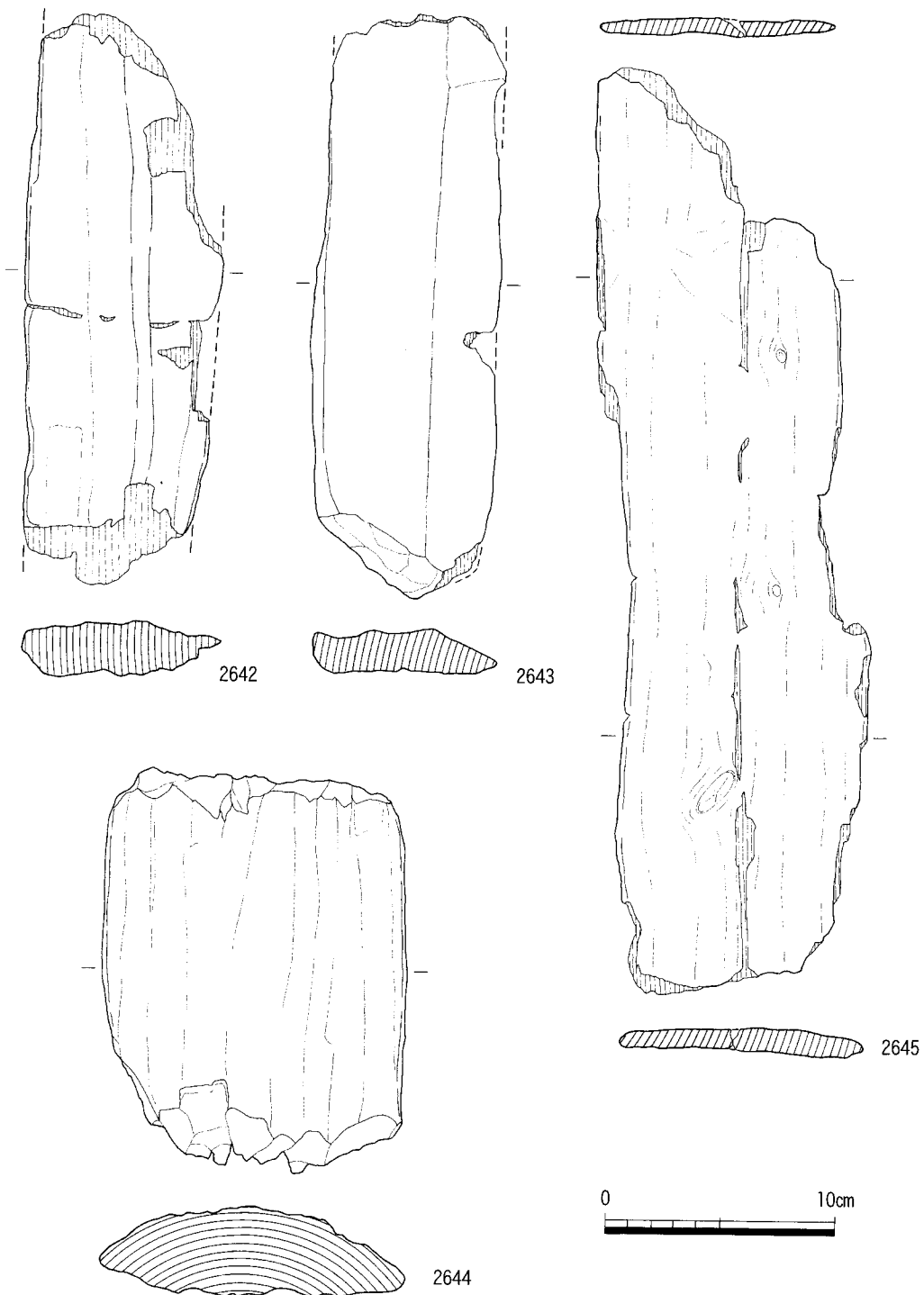


第615図 S D01出土木製品70 (1/3)

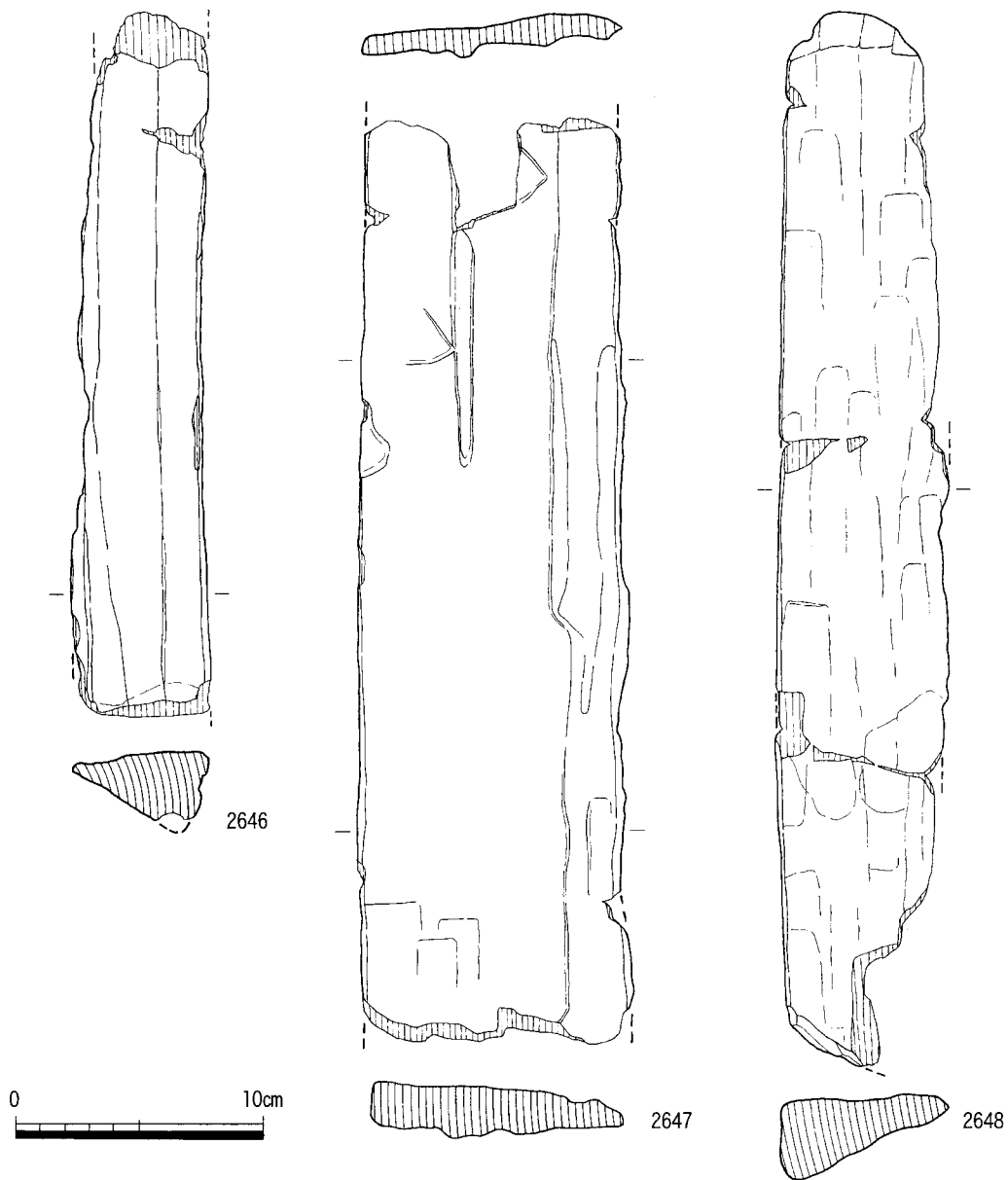


第616図 S D01出土木製品71 (1/10, 1/12)

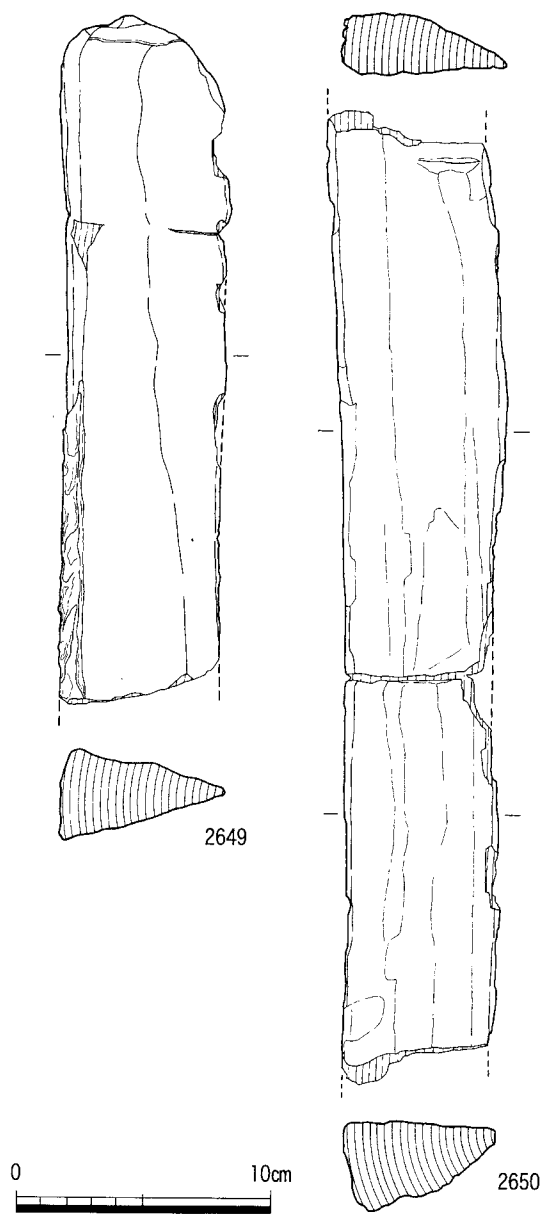




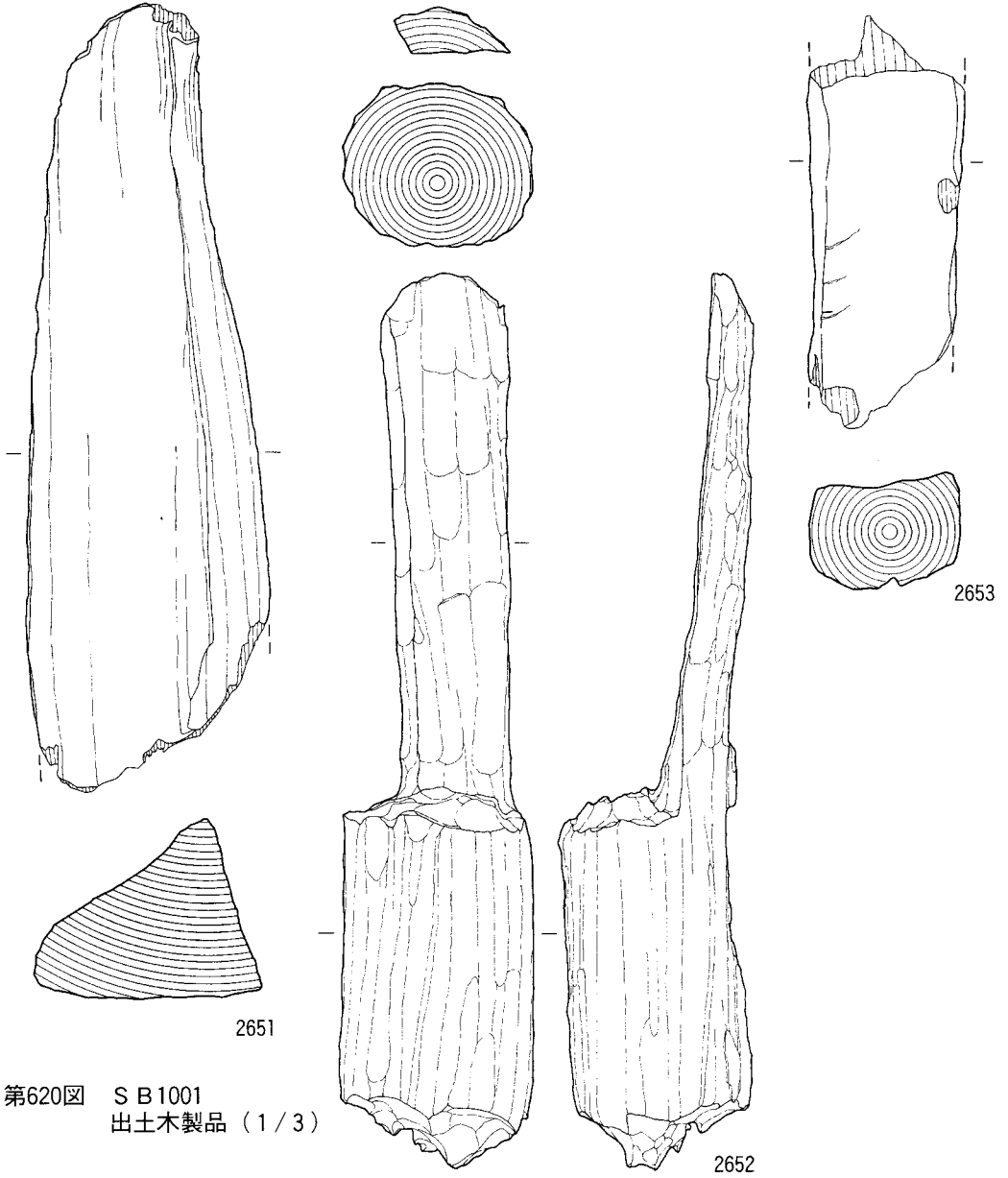
第617図 S D01出土木製品72 (1/3)



第618図 S D01出土木製品73 (1/3)

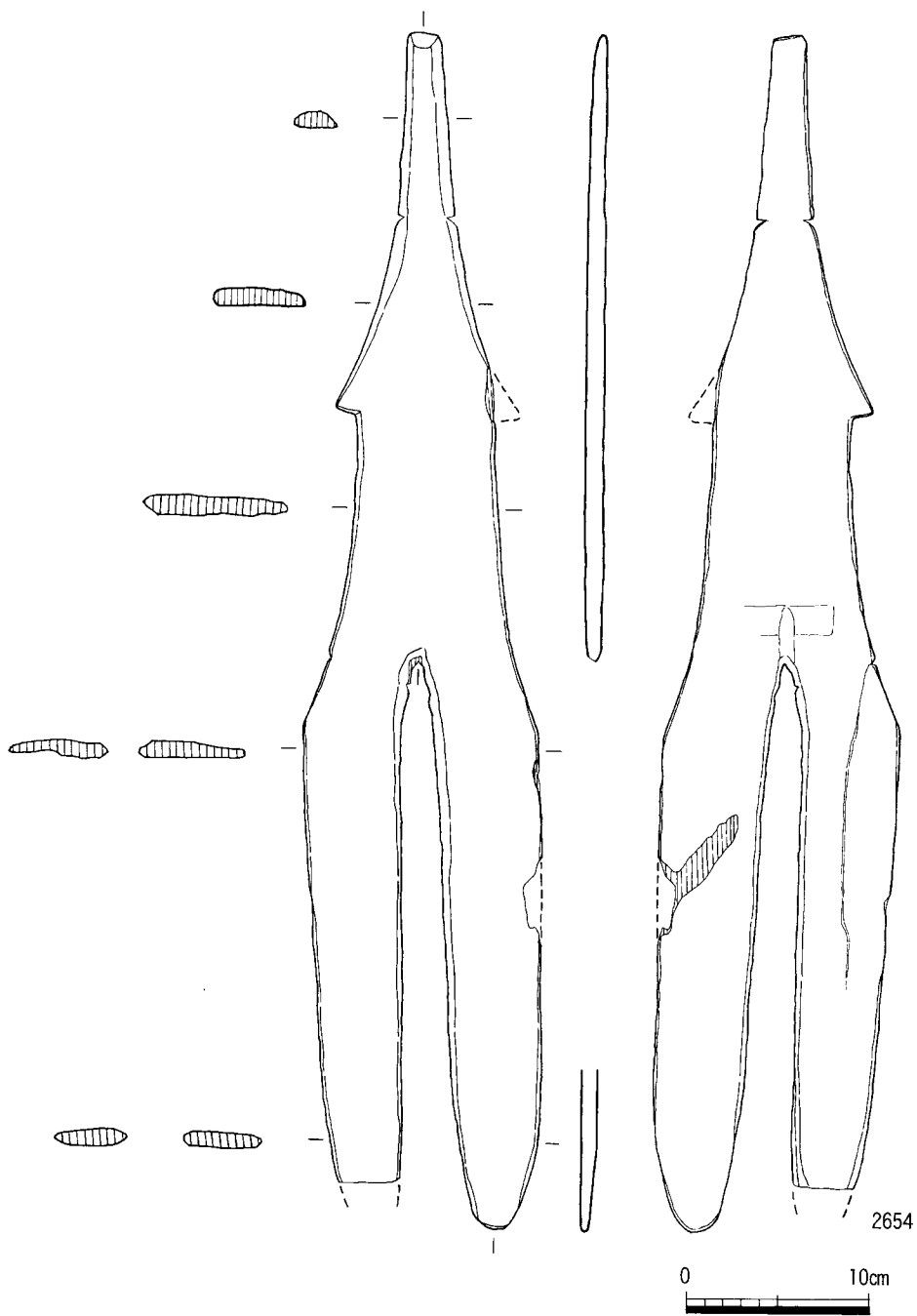


第619図 S D01出土木製品74 (1/3)

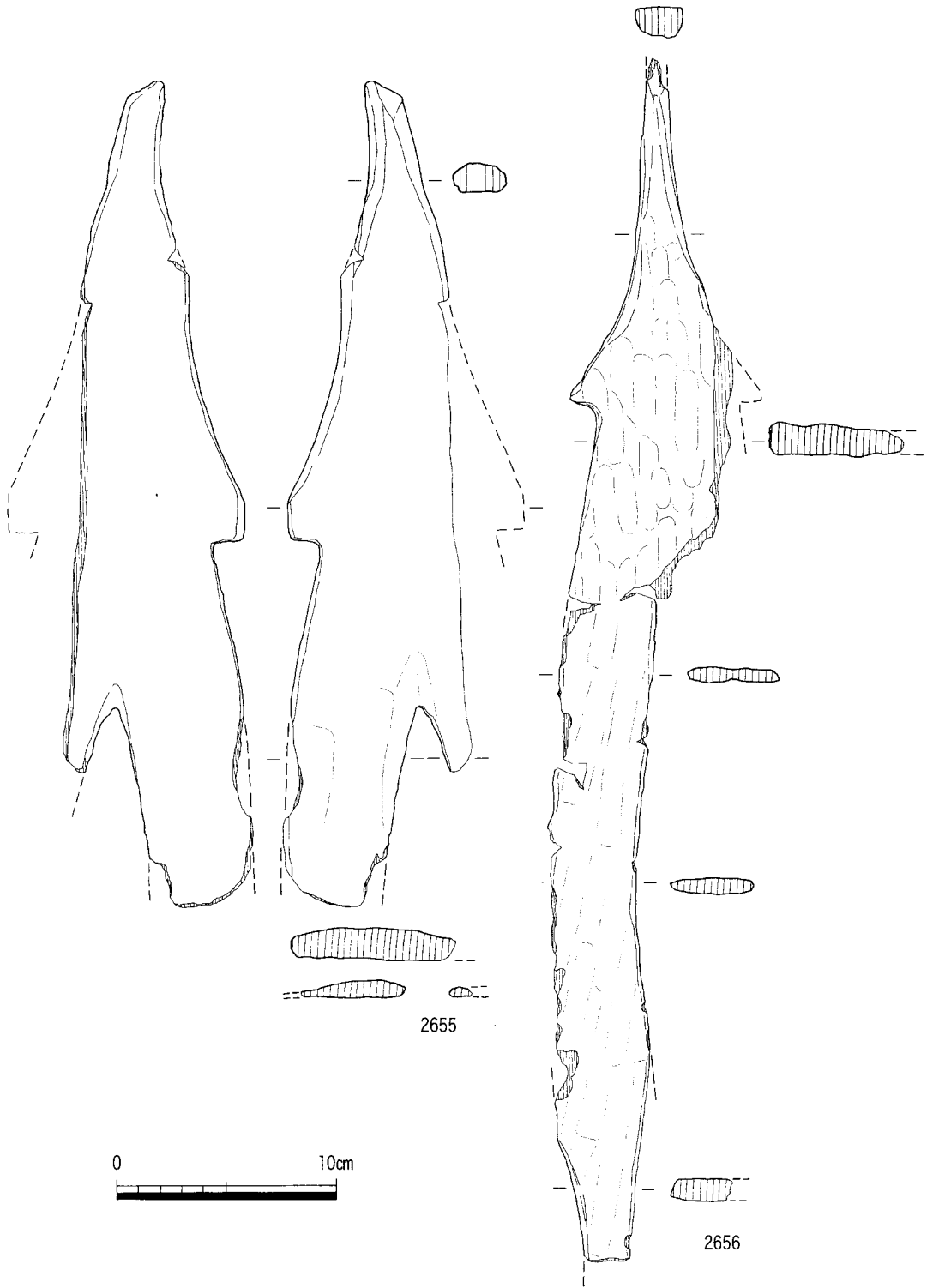


第620図 S B1001  
出土木製品 (1/3)

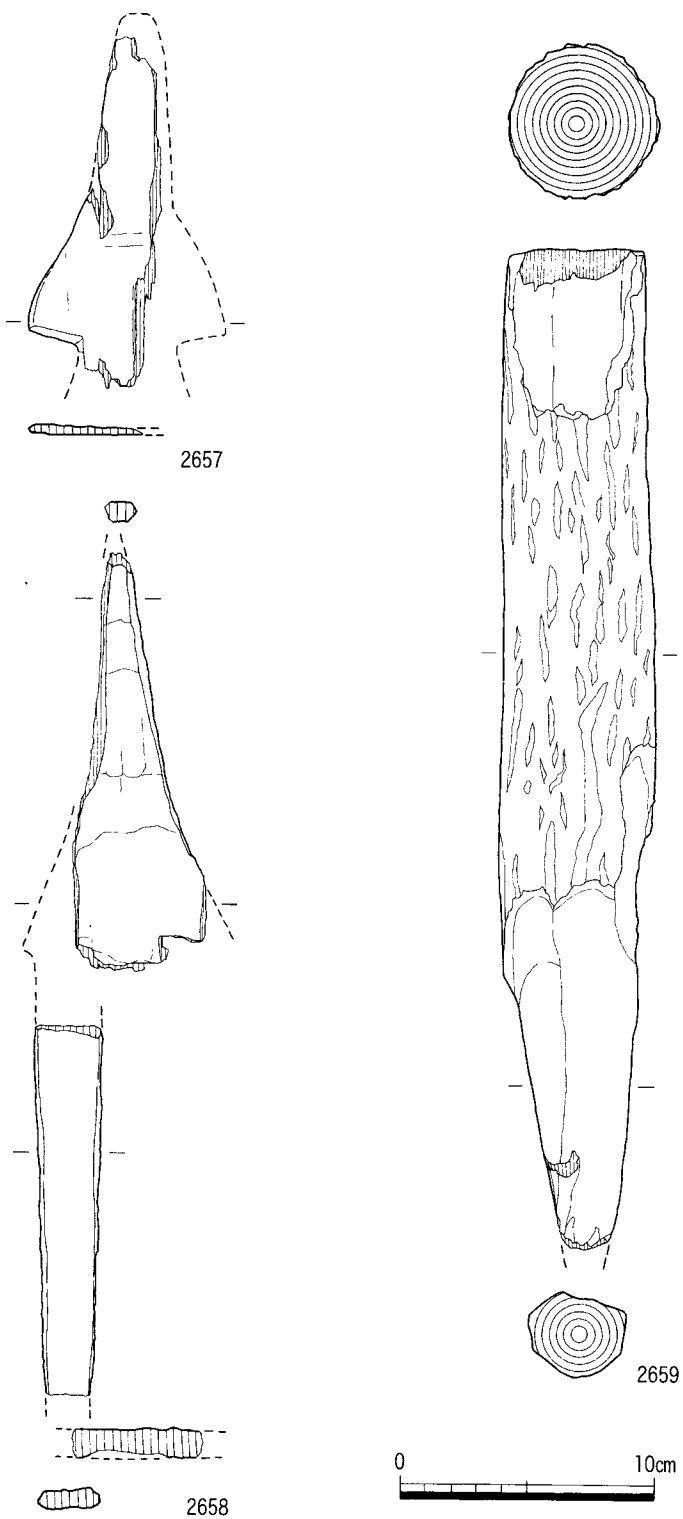
第621図 S X1055出土木製品 (1/3)



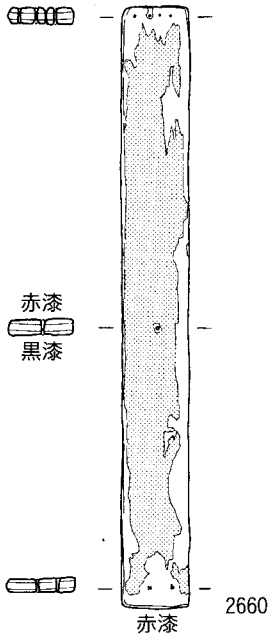
第622図 S X 1056出土木製品 1 (1/4)



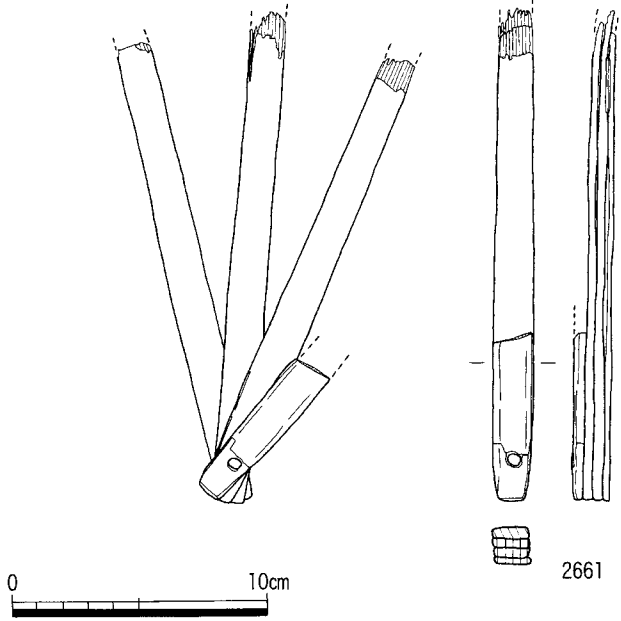
第623図 S X 1056出土木製品 2 ( 1 / 3 )



第624図 S X 1056出土木製品 3 (1/3)



第625図 S E 1001  
出土木製品 (1/3)



第626図 S D 1069出土木製品 (1/3)



高松東道路建設に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告  
第9冊

鴨部・川田遺跡Ⅱ  
(第1分冊)

平成12年10月31日発行

編 集 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター  
香川県坂出市府中町字南谷5001番地の4  
電話 (0877) 48-2191 (代表)

発 行 香川県教育委員会  
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター  
建設省四国地方建設局

印 刷 株式会社 美巧社



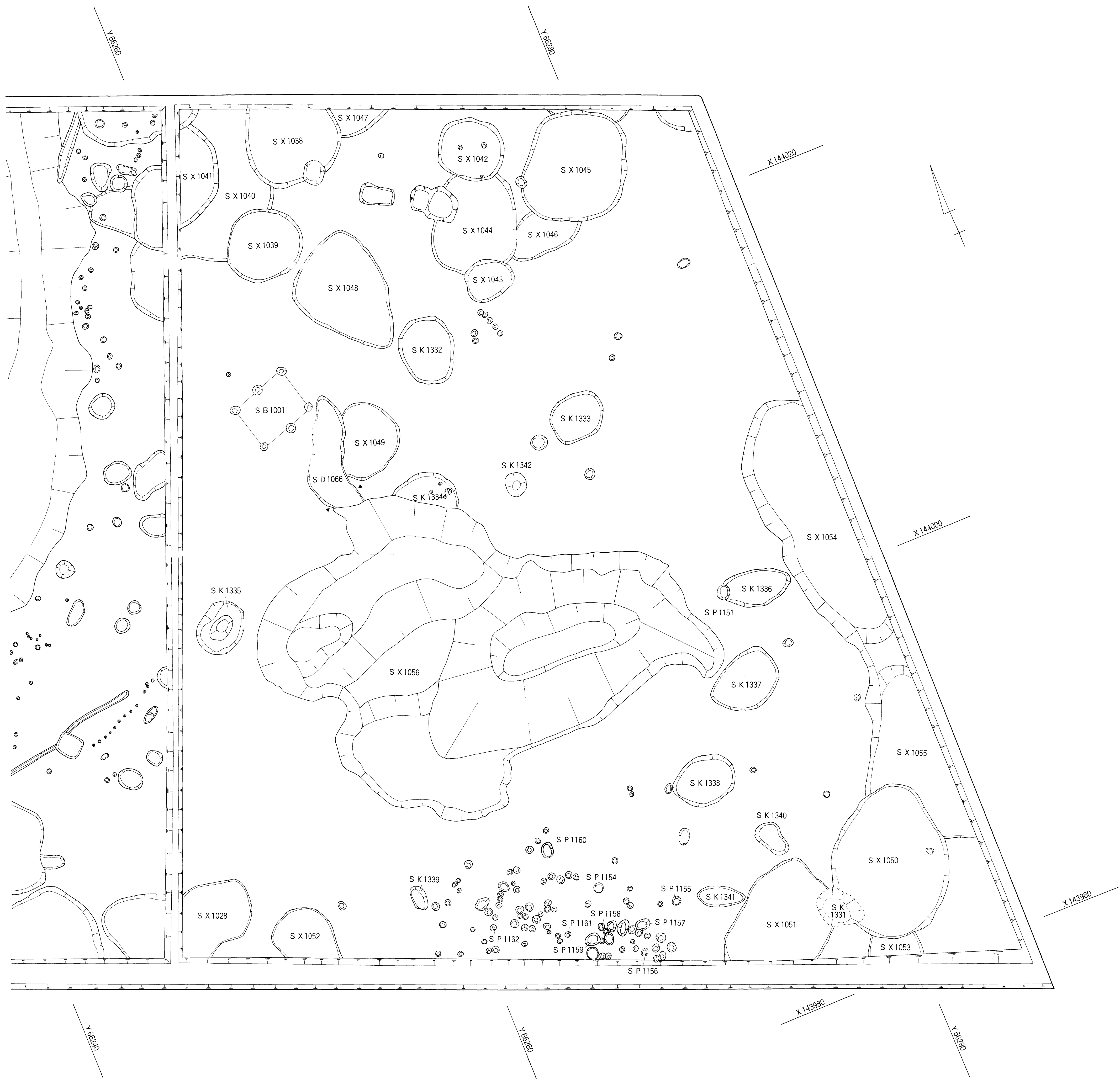
付図1 鴨部・川田遺跡1区遺構配置図





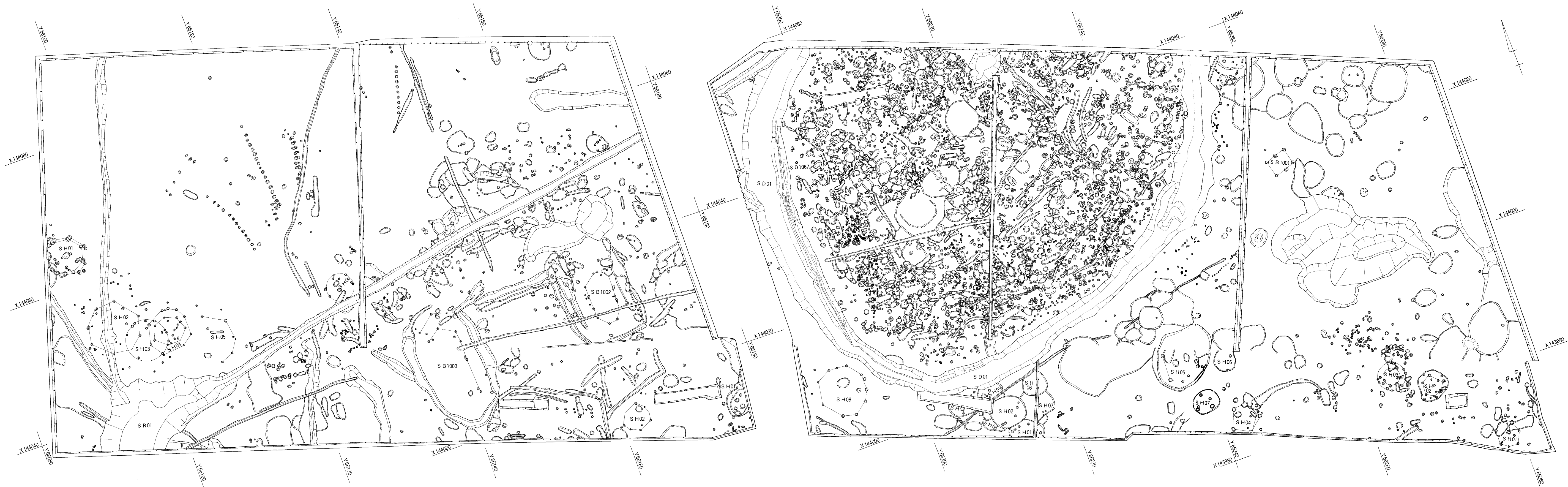
付図2 鴨部・川田遺跡2・3区遺構配置図(1/100)





付図3 鴨部・川田遺跡4区遺構配置図





付図4 鴨部・川田遺跡遺構全体図(1/300)